

## C区第14号溝状遺構

遺構番号 調査番号	遺物種類 遺構	出土層位 溝 存在	埋 没 (m)	構成・色調・粘土 (石灰分は項目値)	形状・技法等の特徴	備 考
10-00056	土師器 土師 坪	溝上内 破片	口13.0	灰・黒・黄・浅黄緑・黒色胎物粒子・ 白色胎物粒子	器作り。口縁部は線彫で施す。口縁部直下に彫溝を残す。	黒毛皮
10-00057	土師器 土師 溝か	溝上内 破片	底12.0	灰・黒・黄・浅黄緑・白色胎物粒子・ 黒色胎物粒子	器作り。外面位は磨削り。内面は模位の微で整形。面出し の痕がある。底面は管筒。	黒毛皮

## C区第15号溝状遺構

遺構番号 調査番号	遺物種類 遺構	出土層位 溝 存在	埋 没 (m)	構成・色調・粘土 (石灰分は項目値)	形状・技法等の特徴	備 考
10-00058	灰土器 土師 溝	溝上内 破片	基部7.4	灰・黒・黄・灰・外面白・内面黒・黒 色胎物粒子・白色胎物粒子	線彫成形器石臼形。高台は付け高台。内面は焼成時の腫れ。	漆田家の製品
40-00068	鉄器 刀子	C15溝壁 内 破片	残長4.9 幅1.1 厚さ0.9		第 7号身の半分を欠損する。割れ曲がった状態であり、溝壁 洗掘で露けられていたことが判別する。	

## C区第16号溝状遺構

遺構番号 調査番号	遺物種類 遺構	出土層位 溝 存在	埋 没 (m)	構成・色調・粘土 (石灰分は項目値)	形状・技法等の特徴	備 考
10-00059	土師器 土師 坪	溝上内 破片	厚0.7	灰・黒・黄・明黄緑・赤褐色胎子・ 黒色胎物粒子	内面を赤色塗料で。口縁部は線彫で施す。口縁直下は線 位の磨削りを施す。	黒毛皮
10-00060	土師器 土師 坪	溝上内 破片	底56.4	灰・黒・黄・黄緑・黒色胎物粒子	外面は線位の磨削りを施す。内面は凹線彫で施す。底面 に磨削り付着する。	黒毛皮
10-00061	灰土器 土師 坪	溝上内 破片	口14.5	灰・黒・黄・黄緑・赤褐色胎子・ 褐色胎物粒子	線彫成形器石臼形。器厚はやや厚めになっている。	黒毛皮
10-00062	灰土器 土師 坪	溝上内 破片	口19.4 底5.3 高1.4	灰・黒・黄・黄緑・黒色胎物粒子・ 赤褐色胎物	線彫成形器石臼形。底面の切り難は不評。	黒毛皮
10-00063 52	灰土器 土師 坪	溝上内 破片	口7.7 底4.5 高1.8	灰・黒・黄・黄緑・白色胎物粒子・黒 色胎物粒子	線彫成形器石臼形。立ち上がりから強い傾斜を押し口縁部があ まり立ち上がる。	黒毛皮
10-00064	土師器 土師 坪	溝上内 破片	口15.4 底7.4	灰・黒・黄・浅黄緑・白色胎子・黒 色胎物粒子	線彫成形器石臼形。底面は凹線彫。真鍮的に立ち上がり、 口唇部は短く反らす。内面に凹線彫の線彫形跡。	黒毛皮
10-00065	灰土器 土師 坪	溝上内 破片	底16.8	灰・黒・黄・黄緑・褐色・夾物胎物 量多	線彫成形器石臼形。底面は凹線彫。内面は凹線彫で焼成時 の赤色物跡の痕跡が認められる。	黒毛皮
10-00066	灰土器 土師 坪	溝上内 破片	底16.6	灰・黒・黄・黄・黄緑・褐色胎物粒子・ 黒色胎物粒子	線彫成形器石臼形。高台は付け高台。粘土はシト質欠乏。	漆田家の製品 の
10-00067	灰土器 土師 坪	溝上内 破片	底18.4	灰・黒・黄・黄緑・黒色胎物粒子・ 赤褐色胎子	線彫成形器石臼形。高台は付け高台。大身の端で高台は長尺。	黒毛皮
10-00068	灰土器 土師 坪	溝上内 破片	底18.0	灰・黒・黄・黄緑・黒色胎物粒子・ 褐色胎物粒子	線彫成形器石臼形。高台は付け高台。立ち立する高台から器脚 が立ち上がる。器形は大き。	黒毛皮
10-00069	土師器 土師 坪	溝上内 破片	底10.8	灰・黒・黄・灰白・黒色胎物粒子多量 ・	線彫成形器石臼形。高台は付け高台。大身の端で高台は長尺。	黒毛皮
10-00070	土師器 土師 坪	溝上内 破片	底12.0	灰・黒・黄・黄緑・黒色胎物粒子・ 石灰質	器作り。外面は線彫・斜位の磨削り。内面は模位の磨削り で施す。	黒毛皮
10-00071	土師器 土師 坪	溝上内 破片	口22.0 底14.2	灰・黒・黄・灰白・白色胎物粒子・薄 明胎物粒子	線彫成形器石臼形。器は厚く付け後成形跡。	黒毛皮
10-00072	土師器 土師 坪	溝上内 破片	厚0.9	灰・黒・黄・灰白・白色胎物粒子・黒 色胎子	器作り後叩き整形。器脚不評。	黒毛皮
10-00073	土師器 土師 坪	溝上内 破片	底12.0	灰・黒・黄・白灰・黒色胎子・夾物 胎物量	器作り後線彫石臼成形跡形。高台は付け高台。粘土中に小孔 が立立つ。	黒毛皮
10-00074	土師器 土師 坪	溝上内 破片	底18.0	灰・黒・黄・外面灰・白色胎子・ 夾物胎物量	器作り後線彫石臼成形跡形。高台は付け高台と考えられる。 焼跡より強く、内面は凹線直下で自然磨削り付着する。	黒毛皮
10-00075	土師器 土師 坪	溝上内 破片	厚1.1	灰・黒・黄・明黄・石灰・シト質	器作り後線彫石臼成形跡形。高台は付け高台。粘土中に小孔 が立立つ。	黒毛皮
10-00076	土師器 土師 坪	溝上内 破片	底7.3	灰・黒・黄・白灰 胎物→胎物部分はない。	線彫成形器石臼形。胎物部分が認められない。見込みが不明 である。	不明
10-00077	土師器 土師 坪	溝上内 破片	底7.0	灰・黒・黄・灰 胎物→胎物の一部認められる。	線彫成形器石臼形。胎物部分が認められない。見込みが不明 である。	不明
10-00078	土師器 土師 坪	溝上内 破片	厚0.3	灰・黒・黄・灰 胎物→胎物部分はない。	線彫成形器石臼形。胎物部分はない。	不明
10-00079	土師器 土師 坪	溝上内 破片	厚0.3	灰・黒・黄・灰 胎物→胎物部分はない。	線彫成形器石臼形。胎物部分はない。	不明
10-00080	土師器 土師 坪	溝上内 破片	口17.0	灰・黒・黄・灰白 胎物→胎物全体に近い。	線彫成形器石臼形。胎物部分はない。	不明
10-00081	土師器 土師 坪	溝上内 破片	底7.2	灰・黒・黄・白灰 胎物→胎物には胎物がない。	線彫成形器石臼形。胎物部分はない。	不明
10-00082	土師器 土師 坪	溝上内 破片	底5.4	灰・黒・黄・灰 胎物→胎物→くすん厚い。	器作り後線彫石臼成形跡形。胎物厚く色はくすんしている。	不明
10-00083	土師器 土師 坪	溝上内 破片	底16.0 口11.2	灰・黒・黄・灰 胎物→胎物→くすん厚い。	器作り後線彫石臼成形跡形。胎物厚く色はくすんしている。	不明
10-00084	土師器 土師 坪	溝上内 破片	口14.0 底7.4	灰・黒・黄・灰 胎物→胎物→くすん厚い。	線彫成形器石臼形。高台は付け高台。胎物厚く色はくすんしている。	不明
10-00085	土師器 土師 坪	溝上内 破片	底5.4	灰・黒・黄・灰 胎物→胎物→くすん厚い。	線彫成形器石臼形。高台は付け高台。胎物厚く色はくすんしている。	不明
10-00086	土師器 土師 坪	溝上内 破片	口10.2	灰・黒・黄・灰 胎物→胎物→くすん厚い。	線彫成形器石臼形。高台は付け高台。胎物厚く色はくすんしている。	不明
10-00087	土師器 土師 坪	溝上内 破片	厚0.3	灰・黒・黄・灰 胎物→胎物→くすん厚い。	線彫成形器石臼形。高台は付け高台。胎物厚く色はくすんしている。	不明
10-00019	土師器 土師 坪	溝上内 破片	残長6.4 幅2.9 厚2.4 重61.0g		手形。上面の前後が使い減りにより山形に成っている。	
10-00020	土師器 土師 坪	溝上内 破片	残長11.3 幅0.8 厚2.2 重317.2g		石臼の形。上面に石臼の目跡が1条残る。底面は4面磨 かれた。皿上に長く置いた。	
40-00020	土師器 土師 坪	溝上内 破片	残長12.7 幅0.6 厚0.6 重4.8		底面のすり面がほとんど消え、磨削り以前に磨削り付着が 行われたものと思われる。	

C区第17号溝状遺構

遺構番号 図面番号	遺物種類	出土層位 層 存在	位置 目 (cm)	構成・色調・胎土 (石質材は皮目積)	形状・技法等の特徴	調査
10-0008	土師器 甕	層土内 破片	層0.6	赤・黒・赤・黄褐色・黒色胎土・ 黒色胎土胎子 (長石系)	胴部の下位片。斜位気味に裏面を施す。	黒毛産

C区第18号溝状遺構

遺構番号 図面番号	遺物種類	出土層位 層 存在	位置 目 (cm)	構成・色調・胎土 (石質材は皮目積)	形状・技法等の特徴	調査
10-0009	土師器 杯	層土内 破片	層0.3	赤・黒・赤・黄褐色・黒色胎土・ 白色胎土	外縁の強い口縁部。胴内外面は黄白の顔で整形を施す。	黒毛産

B区第19号溝状遺構(1)

遺構番号 図面番号	遺物種類	出土層位 層 存在	位置 目 (cm)	構成・色調・胎土 (石質材は皮目積)	形状・技法等の特徴	調査
10-0009	軟骨陶器 丸壺	層土内 破片	層0.9	赤・黒・赤・黄褐色・微粒質母	頸作り後輪軸成型形石回転。裏面に唇目を観察に残す。	黒毛産
10-0001	軟骨陶器 丸壺 頸部	層土内 破片	層0.8	赤・黒・赤・黄褐色・微粒質母	輪軸成型形石回転。頸目には残存しない。	黒毛産
10-0002	軟骨陶器 丸壺	層土内 破片	層1.0-1.8	赤・黒・赤・黄褐色・微粒質母・白 色胎土胎子	裏面には唇目は観察に残る。胴部・胴部は総作り後輪軸石回 転成型形。外面は唇目の唇目上にある。	黒毛産
10-0003	軟骨陶器 丸壺	層土内 破片	層0.9	赤・黒・赤・黄褐色・微粒質母・白 色胎土胎子	見込みは平面的な整形。裏面は唇目を観察に残す。	黒毛産
10-0004	軟骨陶器 丸壺	層土内 破片	層0.5	赤・黒・赤・黄褐色・微粒質母	輪軸で円筒に成形後、筒内面に押しつぶし成形している。胴 部には、この際の痕跡が認められる。	黒毛産
10-0005	軟骨陶器 丸壺	層土内 破片	層0.4	赤・黒・赤・黄褐色・微粒質母	輪軸で円筒に成形後、筒内面に押しつぶし成形している。胴 部には、この際の痕跡が認められる。	黒毛産
10-0006	軟骨陶器 丸壺	層土内 破片	層1.0-1.8	赤・黒・赤・黄褐色・微粒質母	輪軸成型形石回転。高台は唇目有り。口部は肥厚し内傾す る。	黒毛産
10-0007	軟骨陶器 丸壺	層土内 破片	層1.0-1.8	赤・黒・赤・黄褐色・微粒質母	輪軸成型形石回転。外面は唇目に輪軸で整形。唇ははや 唇目で置かれる。	黒毛産
10-0008	軟骨陶器 丸壺	層土内 破片	層1.0-1.8	赤・黒・赤・黄褐色・微粒質母	輪軸成型形石回転。外面は唇目に輪軸で整形。	黒毛産
10-0009	軟骨陶器 丸壺	層土内 破片	層1.5	赤・黒・赤・黄褐色・微粒質母	大舟部に輪軸(7)で草を施す。透明物を施す。非常に 焼きまっただけで磨き上げられている。	黒毛産
10-0010	軟骨陶器 丸壺	層土内 破片	層0.8	赤・黒・赤・黄褐色・微粒質母	輪軸成型形石回転。鉄粒の混入は不明。	黒毛産
10-0011	軟骨陶器 丸壺	層土内 破片	層0.9	赤・黒・赤・黄褐色・微粒質母	輪軸成型形石回転。外面は唇目に輪軸で整形。高台は 唇目無し。	黒毛産
10-0012	軟骨陶器 丸壺	層土内 破片	層1.0-1.8	赤・黒・赤・黄褐色・微粒質母	輪軸成型形石回転。高台は唇目無し。内面より上がり内傾 した口部が認められる。	黒毛産
10-0013	軟骨陶器 丸壺	層土内 破片	層1.0-1.8	赤・黒・赤・黄褐色・微粒質母	輪軸成型形石回転。見込みは唇目に輪軸で整形。裏面は 唇目を観察する。	黒毛産
10-0014	軟骨陶器 丸壺	層土内 破片	層1.0-1.8	赤・黒・赤・黄褐色・微粒質母	鉄粒の混入は観察される。高台は唇目に輪軸で整形。内面 には唇目無し。	黒毛産
10-0015	軟骨陶器 丸壺	層土内 破片	層1.0-1.8	赤・黒・赤・黄褐色・微粒質母	鉄粒の混入は観察される。高台は唇目に輪軸で整形。内面 には唇目無し。	黒毛産
10-0016	軟骨陶器 丸壺	層土内 破片	層1.0-1.8	赤・黒・赤・黄褐色・微粒質母	鉄粒の混入は観察される。高台は唇目に輪軸で整形。内面 には唇目無し。	黒毛産
10-0017	軟骨陶器 丸壺	層土内 破片	層1.0-1.8	赤・黒・赤・黄褐色・微粒質母	鉄粒の混入は観察される。高台は唇目に輪軸で整形。内面 には唇目無し。	黒毛産
10-0018	軟骨陶器 丸壺	層土内 破片	層1.0-1.8	赤・黒・赤・黄褐色・微粒質母	鉄粒の混入は観察される。高台は唇目に輪軸で整形。内面 には唇目無し。	黒毛産
10-0019	軟骨陶器 丸壺	層土内 破片	層1.0-1.8	赤・黒・赤・黄褐色・微粒質母	鉄粒の混入は観察される。高台は唇目に輪軸で整形。内面 には唇目無し。	黒毛産
10-0020	軟骨陶器 丸壺	層土内 破片	層1.0-1.8	赤・黒・赤・黄褐色・微粒質母	鉄粒の混入は観察される。高台は唇目に輪軸で整形。内面 には唇目無し。	黒毛産
10-0021	軟骨陶器 丸壺	層土内 破片	層1.0-1.8	赤・黒・赤・黄褐色・微粒質母	鉄粒の混入は観察される。高台は唇目に輪軸で整形。内面 には唇目無し。	黒毛産
10-0022	軟骨陶器 丸壺	層土内 破片	層1.0-1.8	赤・黒・赤・黄褐色・微粒質母	鉄粒の混入は観察される。高台は唇目に輪軸で整形。内面 には唇目無し。	黒毛産
10-0023	軟骨陶器 丸壺	層土内 破片	層1.0-1.8	赤・黒・赤・黄褐色・微粒質母	鉄粒の混入は観察される。高台は唇目に輪軸で整形。内面 には唇目無し。	黒毛産

## B区第19号溝状遺構(2)

遺物番号 図号番号	遺物種 目	出土層位 層 号	厚 度 目 (cm)	厚 度 目 (g)	構成・色調・胎土 (石素材は厚目録)	形状・技法等の特徴	備 考
19-00124	焼附陶器 大甕	甕土内 破片	厚9.9		灰・黄・緑・内部暗赤/外面・新築面 灰・白色胎物粒	組作り後焼成石臼状成形跡。	底不詳
19-00125	土製品 漆器類土	甕土内 1/2破 片	径9.0 高7.2 厚9.4.0		灰・黄・緑・灰・夾雑物少	輪轆成形器石臼転。上面部は灰石等の指折ガラス化が認められる。	底不詳
19-00126	焼附陶器 大甕	甕土内 破片	厚9.9		灰・黄・緑・暗灰・暗赤・透明物 粒・石灰	組作り後焼成石臼状成形跡。組合口縁部の器外面側が欠損する。	底不詳
19-00127	焼附陶器 大甕	甕土内 破片	厚1.0		灰・黄・緑・灰・夾雑物少・自然物 灰トリーブ	組作り後甲形整形。外縁は叩き不詳。尙具は未定。	底不詳
19-00128	焼附陶器 大甕	甕土内 破片	厚1.0		灰・黄・緑・暗灰・暗赤・白色胎物 粒	組作り後甲形整形。外縁は叩き不詳。尙具は未定。	底不詳
19-00129	瓦 本瓦 瓦片	甕土内 破片	厚2.3		灰・黄・緑・石灰・シルト質・黒色 胎物粒	表面は1/4寸仕上げ。表面・側面は敷瓦で仕上げ。一枚作りか。本地土は粘土化したローム土。	底不詳
40-00001	ガラス製品 小瓶	甕土内 口唇部欠損	(11.2) 高(6.2) 径(2.5) 厚1.15		色調・灰・青緑/重・13.03	袋状を見る。側面部位に型合わせ目が見られる。口縁部・肩部に型目が見える。気泡の内包量は多い。	
40-00002	ガラス製品 小瓶	甕土内 完整	(11.45) 高(1.3) 径(2.0) 厚1.1		色調・コバルトブルー/重20.04	器形の横断面は8角形を見る。器面に「神楽」・裏面に「南無生蓮」の彫刻が認められる。気泡の内包量は多い。	
40-00003	ガラス製品 小瓶	甕土内 完整	径(2.1) 下径(0.6)		色調・薄黄/重15.06	器面に「龍白目」裏面に「ZENNKOONEN」の彫刻が認められる。上下面は欠損する。気泡の内包量は多い。	
40-00004	ガラス製品 小瓶	甕土内 完整	(13.3) 径(5.6) 径(3.0) 厚3.6		色調・黄/重35.70 重26.8cc	短い筒型を見る。重止めの縦筋は3段が観察される。気泡の内包量は多い。	
40-00005	ガラス製品 小瓶	甕土内 破片	(13.7) 径(4.8) 径(3.0) 厚5.1		色調・ミルクホワイト/重(47)	瓶部両口は外側へ折り出し、体部・頸部は直線的に立ち上がる。口縁部はスクラッチを設ける。気泡の内包量は多い。	
40-00006	ガラス製品 小瓶	甕土内 破片	(12.0) 径(5.0) 径(4.7) 厚3.9		色調・茶/重130.15/重120ml	瓶部の胴部から欠損部は灰を帯び立ち上がる。外面に口縁りと型合わせ目が見られる。気泡の内包量は多い。	
20-00021	石製品 破石	甕土内 破片	径長7.5 幅(1.7) 厚1.6 重30.99		炭紋岩	使い回りが顕著。未使用1面あり。手持磨。	
20-00022	石製品 破石	甕土内 破片	径長5.0 幅(2.7) 厚1.2 重46.24		炭紋岩	使い回りが顕著。表面に彫刻が観察される。面磨。	
20-00023	石製品 破石	甕土内 完整	径長10.5 幅(2.9) 厚1.2 重55.90		炭紋岩	横断面が台形状に加工されている。4面を使用している。手持磨。	
40-00010	鉄器 釘	甕土内 部分欠損	径長5.7 幅(0.4) 厚(0.4) 重4.9			断面正方形を見る。錆化が顕著。	
40-00011	鉄器 不明	甕土内 部分欠損	径(3.9) 幅(4.3) 厚(1.3) 重16			隅丸三角形を見る。断面は成層を見る。三角に釘が残存するが先端は欠損する。	
40-00012	鉄片 不詳	甕土内 破片	径(5.1) 幅(4.1) 厚(0.3) 重(8.3)			板状の鉄片。詳細不詳。	
40-00013	鉄器 鉄平	甕土内 部分欠損	径(4.6) 幅(7.7) 厚(1.25) 重51			和置型鉄平。錆化が顕著。断面形状を見る。	
40-00014	鉄器 瓦葺	甕土内 部分欠損	径長(11.5) 幅(11.4) 厚(6.5) 重149			表面の両側に筋を施し内面に釘穴を設けている。釘穴は断面正方形の釘が残存している。片側(2)が破損。	
40-00015	銅製品 釧首	甕土内 部分欠損	径長(5.0) 幅(1.2) 厚(1.0) 重8.7			釧首を欠損する。釧首の基込部分が押しつぶされている。側面に細くウレ合部分が見られる。	
40-00016	銅製品 釧首	甕土内 完整	径(2.2) 幅(1.4) 厚(0.25) 重1.7			釧首の先端を欠損する。釧首の基込部分が押しつぶされている。側面に細くウレ。	
40-00017	銅製品 釧首	甕土内 4/5欠損	径長(4.8) 幅(1.2) 厚(0.7) 重(8.2)			二つの部分からなる。釧首と釧口部は押しつぶされている。3箇所とちと細くウレ合部分が見られる。	
40-00018	貨幣 銅貨	甕土内 完整	径(1.85) 厚(0.1) 重1.9			大正5年製5厘銅貨。	
40-00019	貨幣 銅貨	甕土内 完整	径(2.2) 厚(0.1) 重1.1			寛永通寶。背面は無紋。錆化が進んでいる。	
40-00020	貨幣 銅貨	甕土内 完整	径(2.3) 厚(0.1) 重1.1			寛永通寶。背面は無紋。錆化は少なからず残存良好である。	
40-00021	貨幣 銅貨	甕土内 完整	径(2.3) 厚(0.1) 重1.7			寛永通寶。背面は無紋。やや錆化がやや進んでいる。	
40-00022	漆製品 漆片	甕土内 完整	径(5.9) 幅(5.6) 厚(1.2) 重44			漆の削り上。ノロ状の炭酸鈣が付着する。	

## C区第16号溝状遺構

遺物番号 図号番号	遺物種 目	出土層位 層 号	厚 度 目 (cm)	厚 度 目 (g)	構成・色調・胎土 (石素材は厚目録)	形状・技法等の特徴	備 考
40-00023	鉄片 鉄片	甕土内 破片	径(5.9) 幅(6.4) 径(3.9) 厚(2.60)			輪轆成形跡している。表面がせり出ている。全体に若干の力(耐力5)を呼ぶ。	
40-00024	鉄片 鉄片	甕土内 破片	径(6.9) 幅(7.5) 径(4.0) 厚(2.69)			全体に大きい気孔が多い。全体に若干の力(耐力5)を呼ぶ。	

## B区第20号溝状遺構

遺物番号 図号番号	遺物種 目	出土層位 層 号	厚 度 目 (cm)	厚 度 目 (g)	構成・色調・胎土 (石素材は厚目録)	形状・技法等の特徴	備 考
19-00130	漆器類 漆片	甕土内 破片	厚(0.3)		灰・中・軟・黄・灰・夾雑物少	輪轆成形器石臼転。口唇部に焼成後の粘土小粒が付着する。	底不詳

## B区第22号溝状遺構

遺物番号 図号番号	遺物種 目	出土層位 層 号	厚 度 目 (cm)	厚 度 目 (g)	構成・色調・胎土 (石素材は厚目録)	形状・技法等の特徴	備 考
19-00131	新築器 環の破	甕土内 破片	(112.8)		灰・黄・軟・灰・白・灰・白色胎石・ 黒色胎物粒	輪轆成形器石臼転。厚縁は厚目録。	底不詳
20-00024	石製品 破石	甕土内 破片	径(10.1) 幅(7.4) 厚(3.3) 重(14.45)		粗粒輝石安山岩	縁の扁平面が観察される。小口・縁部は削りに伴う割割が認められるが、削り叩きを交互に繰り返している。	底不詳

## B区第23号溝状遺構

遺物番号 図説番号	遺物種 類	出土層位 遺存層	深 さ 目 (cm) (g)	構成・色調・胎土 (石素材は厚目録)	形状・技法等の特徴	備 考
19-00132	軟質陶器 埴輪	層土内 破片	厚1.1	赤・黒・黄・赤黄褐色・黒色胎物粒子	気部は厚作り。体部・口縁部は紐作り後輪転右回転成形。底面は	赤毛皮
19-00133	軟質陶器 埴輪	層土内 破片	厚1.0	赤・中・赤・赤黄褐色・内面灰黄・胎物状赤褐色胎物	気部は厚作り。体部・口縁部は紐作り後輪転右回転成形。底面は	赤毛皮
19-00134	高輪陶器 鉄胎 漆	層土内 破片	13(25.6)	赤・黒・緑・黄鉄・赤褐色胎物	輪転成形形右回転。漆の付着も認められる。	
19-00135	高輪陶器 鉄胎 灰白漆	層土内 破片	13(6.8) 最大径9.8	赤・黒・緑・黄鉄・赤褐色胎物	輪転成形形右回転。体部は別製成形。器内面に鉄粉を塗る。	
19-00136	高輪陶器 鉄胎 漆	層土内 破片	底(12.6)	赤・黒・緑・黄鉄・赤褐色胎物	輪転成形形右回転。器目は1単位23本。	
19-00137	磁器色絵付 鉄胎	層土内 破片	割線13.6	赤・黒・緑・乳白胎物・ゴミは少ない	外面文様は、呉須で横(?)を下絵に黒。中央部に横で彩色している。	
19-00138	鉄胎 染付 漆	層土内 破片	13(14.6) 底(8.6)	赤・黒・緑・乳白胎物・ゴミは少ない	外面に唐草を施す。内面に意匠不明の草花を施す。呉須は磨製灰。	
29-00025	石製品 石製磨鉢	層土内 破片	13(12.2) 底(13.0)	粗粒輝石安山岩	作りは右回りで上によるものと考えられる。外面は楕圓形、内面は楕圓状でよく磨かれた状態。	
29-00026	石製品 五輪磨鉢輪	層土内 上半断面	1径35.5 残高29	高見河原状岩	外面に鑿の加工痕が残る。側面は磨き仕上げになっている。	

## B区第24号溝状遺構

遺物番号 図説番号	遺物種 類	出土層位 遺存層	深 さ 目 (cm) (g)	構成・色調・胎土 (石素材は厚目録)	形状・技法等の特徴	備 考
19-00139	軟質陶器 埴輪	層土内 破片	厚0.3	赤・黒・赤・黄褐色・黒色胎物粒子・透明胎物粒子	気部片。非常に薄い作り。底面は厚目が顕著に残る。内面は輪転目を残している。	赤毛皮
19-00140	磁器 染付 漆	層土内 破片	底(3.2)	赤・黒・緑・乳白胎物・ゴミは少ない	見込みに手摺りのフコニツク柄を施す。外面磨鉢は破片のため詳細不明。	赤不詳
29-00027	石製品 五輪磨鉢輪	層土内 部分断面	1径30.5	高見河原状岩	2片に割れた状態。裏面は乳白で成形した。側面は磨き仕上げ。穴は磨製で施された可能性がある。	

## B区第26号溝状遺構

遺物番号 図説番号	遺物種 類	出土層位 遺存層	深 さ 目 (cm) (g)	構成・色調・胎土 (石素材は厚目録)	形状・技法等の特徴	備 考
19-00141	高輪陶器 埴輪	層土内 破片	底(7.4)	赤・黒・赤・黄褐色・黒・白色胎物粒子・黒色胎物粒子	輪転成形形右回転。底面は別製小切。作りが厚い。	赤毛皮磨鉢 磨りか
19-00142	高輪陶器 鉄胎 漆	層土内 破片	底(14.6)	赤・黒・緑・黄鉄・赤褐色胎物	輪転成形形右回転。底面は別製整形。胎物は全体に薄く施している。	赤不詳
19-00143	高輪陶器 鉄胎 漆	層土内 破片	底(14.6)	赤・黒・緑・黄鉄・赤褐色胎物	輪転成形形右回転。輪の断面より判別困難。厚し130mm単位。	赤不詳
29-00028	石製品 砥石 子手破片	層土内 破片	残長7.1 幅2.1 厚2.4 重68.46	磁石目	両端を欠損する。中央に寄り高輪色に施されている。2面には水使用で、断面近台形状を呈する。使い回りは少ない。	
29-00029	石製品 砥石 子手破片	層土内 破片	残長11.2 幅3.65 厚1.6 重116.06	磁石目	両端を欠損する。中央に寄り高輪色に施されている。3面には水使用で、断面近台形状を呈している。	

## C区第27号溝状遺構

遺物番号 図説番号	遺物種 類	出土層位 遺存層	深 さ 目 (cm) (g)	構成・色調・胎土 (石素材は厚目録)	形状・技法等の特徴	備 考
19-00144	土器 磨鉢	層土内 破片	厚0.5	赤・黒・赤・黄褐色・胎物状石英	外面は厚作り。内面は輪転成形を施している。破片のため詳細不明。	赤毛皮

## B区第28号溝状遺構

遺物番号 図説番号	遺物種 類	出土層位 遺存層	深 さ 目 (cm) (g)	構成・色調・胎土 (石素材は厚目録)	形状・技法等の特徴	備 考
19-00145	土器 埴輪	層土内 破片	13(12.6) 底(8.4)	赤・黒・赤・黄褐色・透明胎物粒子・黒色胎物粒子	厚作り。口縁部は磨製を施す。口縁部底下に磨製を残す。	赤毛皮
19-00146	土器 埴輪	層土内 破片	13(13.6) 底(10.3)	赤・黒・赤・黄褐色・赤黄褐色・黒色胎物粒子	厚作り。口縁部は磨製を施す。口縁部底下に磨製を残す。	赤毛皮
19-00147	土器 磨鉢	層土内 破片	13(22.6) 底(20.6)	赤・黒・赤・黄褐色・黒色胎物粒子・赤褐色胎物	「フ」の字状に横。断面に胎土粒の接合痕跡を留める。外面は厚作り。内面は磨製成形。	赤毛皮
19-00148	土器 埴輪	層土内 破片	厚0.3	赤・黒・赤・黄褐色・透明胎物粒子・赤褐色胎物	底面片。外面は厚作りを施し、内面は磨製成形している。また、内面に底面に判別不能の磨製が認められる。	赤毛皮磨鉢 磨りか
19-00149	高輪陶器 鉄胎	層土内 破片	13(12.6) 底(7.6)	赤・黒・赤・黄鉄・赤褐色・白色胎物	輪転成形形右回転。底面は別製小切。断面は厚作り口縁部は別製に立ち上がる。胎物は磨製。	赤毛皮伊勢 磨鉢
19-00150	高輪陶器 鉄胎	層土内 破片	13(12.4)	赤・黒・緑・黄鉄・赤褐色・白色胎物	輪転成形形右回転。立ち上がりは別製。口縁部は磨製成形。	赤毛皮
19-00151	高輪陶器 鉄胎	層土内 破片	底(8.0)	赤・黒・緑・黄鉄・赤褐色胎物	輪転成形形右回転。高白の付け高白。高白は立ち上がり部に設けている。	赤毛皮
19-00152	高輪陶器 鉄胎	層土内 破片	底(7.6)	赤・黒・赤・黄鉄・赤褐色胎物・胎物状石英	輪転成形形右回転。高白の付け高白。高白は胎物の角部に設けている。	赤毛皮
19-00153	高輪陶器 鉄胎	層土内 破片	厚0.8	赤・黒・赤・黄鉄・赤褐色胎物	断面に磨製を施す。断面に2本の磨製を施し、下位に磨製の痕跡を残す。	磨製磨鉢
19-00154	高輪陶器 鉄胎	層土内 破片	厚0.7	赤・黒・赤・黄鉄・赤褐色胎物・白色胎物・白色胎物粒子	紐作り後輪転右回転成形。胎土は磨りか。	太田産か 磨鉢
19-00155	高輪陶器 鉄胎	層土内 破片	厚(25.6) 割(22.6)	赤・黒・赤・黄鉄・赤褐色胎物	紐作り後輪転右回転成形。磨は磨りか。	
19-00156	高輪陶器 大甕	層土内 破片	13(45.4)	赤・黒・赤・黄鉄・赤褐色胎物(胎物状石英)	紐作り後輪転右回転成形。底面の構成により、器目が小粒状に発達している。	太田産か
40-00025	鉄器 磨鉢	層土内 破片	残長5.0 残高4.9 残長4.7 残高203		表面面に孔状の凹みが目立つ。全体に磁力(磁力5)を帯びず。	

## B区第28号溝状遺構

遺構番号 図面番号	遺物種 類	出土層位 遺存 層	厚 目 (cm)	構成・色調・粘土 (石灰材は黒目録)	形状・技法等の特徴	備 考
49-0025	鉄押	覆土内 破片	残長9.8 残幅7.6 残厚6.8 残重493			表面は磨解した磨らな面に小さい凹凸が全体に及ぶ。底面には突起が付き、磁力(磁力)をやや帯びる。

## B区第29号溝状遺構

遺構番号 図面番号	遺物種 類	出土層位 遺存 層	厚 目 (cm)	構成・色調・粘土 (石灰材は黒目録)	形状・技法等の特徴	備 考
19-00157	土師器 杯	覆土内 破片	口(12.8) 底(19.3)	灰・黒・黄・鈍黄・黒色磁物粒子	製作。口縁部は縁線で施す。口縁部直下に筋線を残す。底面は覆面すり。	
19-00158	土師器 杯	覆土内 破片	口(11.8) 底(7.4)	灰・黒・黄・鈍黄・黒色磁物粒子・ 透明磁物粒子	製作。口縁部は縁線で施す。口縁部直下に筋線を残す。底面は覆面すり。	
19-00159	土師器 杯	覆土内 破片	口(19.0) 頸(17.0)	灰・黒・黄・鈍黄・透明磁物粒子・ 黒色磁物粒子・白色磁物粒子	「コ」の字状口縁。内外面は縁で成形。	窯心産
19-00160	須恵器 杯	覆土内 破片	口(12.0) 底(6.4) 高3.2	黄・黒・黄・灰・白色磁物粒子	縁線成形形器。底面は凹凸不明。口縁部は立ち上がり部を有しやや丸縁を帯びた口縁部が立ち上がる。	窯心産か北 田産
19-00161	須恵器 鉢縁か 杯縁	覆土内 破片	高(2.6)	灰・黒・黄・鈍黄・石灰多・黒色 磁物粒子・透明磁物粒子	見込み中央が盛り上がる。立ち上がり周辺は磨解が認められない。	窯心産
19-00162	須恵器 杯	覆土内 破片	口(21.0) 頸部(25.2) 側縁(25.8)	灰・黒・黄・鈍黄・石灰多・黒色 磁物粒子	縁作り。口縁部に寛の口の幅で縁が認められる(即ち状の縁線)。頸部下方は縁位の縁線で成形。	窯心産
19-00163	須恵器 杯	覆土内 破片	口(19.6) 頸(7.4) 底(8.6)	黄・黒・黄・緑・オリーブ黒・黒磁物石 灰	縁作り後縁線石目縁成形。口縁部内外面及び見込みが自然縁の縁が認められる。	窯心産か東 田産
19-00164	須恵器 鉢	覆土内 破片	口(21.0)	灰・黒・黄・灰・白色磁物粒子・黒色 磁物粒子	縁作り後縁線石目縁成形。外縁する口縁部から受け口状に口縁部が立ち上がる。	窯心産か大 田産
19-00165	須恵器 片	覆土内 破片	口(18.0)	黄・黒・黄・緑・白灰 磁物・オリーブ灰で全体に均質	縁線成形形器。内外面に施す。縁線は厚く押し付け。	窯心産
19-00166	須恵器 片	覆土内 破片	口(16.0)	黄・黒・黄・白灰 磁物・黄・透明	縁線成形形器。縁線は厚く押し。	窯心産
19-00167	須恵器 鉢	覆土内 破片	口(14.0) 底(7.4) 高3.8	灰・黒・黄・鈍黄 磁物・灰・オリーブ灰	縁線成形形器。高台は押しけ。内外面に筋線の筋線が認められる。	窯心産
19-00168	土師器 平盤	覆土内 破片	口(3.2) 底(2.7) 高2.9	灰・黒・黄・鈍黄・黒色磁物粒子	上縁部は、内面に凹凸の押しつけおしが見られる。内外表面は縁で成形している。	窯心産
19-00169	土師器 鉢縁	覆土内 破片	上縁(6.5) 下縁(4.4) 高1.5	灰・黒・黄・鈍黄・石灰多・黒色磁物 粒子	上面は筋線で、下面は縁線で施すが、縁ではやや乾縁がやや濃く、状態のため、面は質薄状の増す。	
20-0030	土師器 鉢縁	覆土内 破片	上縁(5.3) 下縁(3.2) 高1.8	灰	小断面の欠損が多い。断面は金属層による割れが明確に認められる。	
20-0031	須恵器 片	覆土内 破片	残長13.6 幅6.1 厚2.9 重582.20	理質黄灰質	扁平面の両面に磨解する。小口口縁部部に割線が認められる。縁面は縁線が付きする。	
20-0032	須恵器 片	覆土内 破片	長12.2 幅6.1 厚4.2 重357.98	輝粒輝石質山岩	全体に砥打痕が顕著で、表面は砥打痕の磨解が認められる。	

## B区第30号溝状遺構

遺構番号 図面番号	遺物種 類	出土層位 遺存 層	厚 目 (cm)	構成・色調・粘土 (石灰材は黒目録)	形状・技法等の特徴	備 考
19-00170	須恵器 杯	覆土内 破片	口(12.8)	黄・黒・黄・灰・白色磁物粒子・ 黒色磁物粒子	縁線成形形器。縁部が厚く、口縁部は短く外反する。	大田産か北 田産
49-0027	鉄押 不詳	30溝覆土 破片	残長2.9 幅2.1 厚5.5 重6		板状の破片。段中上面が凹凸ややめれ状の盛り上がりが見られる。板状の板状。	

## B区第34号溝状遺構

遺構番号 図面番号	遺物種 類	出土層位 遺存 層	厚 目 (cm)	構成・色調・粘土 (石灰材は黒目録)	形状・技法等の特徴	備 考
19-00171	土師器 杯	覆土内 破片	底(6.4)	灰・黒・黄・鈍黄・黒色磁物粒子・ 白色磁物粒子	底面には覆面すりを施す。内面は縁線で施している。	窯心産 西田産
19-00172	土師器 杯	覆土内 破片	厚0.7	灰・黒・黄・鈍黄・黒色磁物粒子・ 赤褐色磁物粒子・白色磁物粒子	外面は斜位の覆面すり。内面は縁位の縁で成形している。	
19-00173	須恵器 片	覆土内 破片	厚0.5	灰・黒・黄・灰 磁物・オリーブ灰	縁作り後縁線石目縁成形。内外面の縁線は縁線だが、縁線が厚い。	窯心産

## B区第38号溝状遺構

遺構番号 図面番号	遺物種 類	出土層位 遺存 層	厚 目 (cm)	構成・色調・粘土 (石灰材は黒目録)	形状・技法等の特徴	備 考
19-00174	須恵器 杯	覆土内 破片	厚0.3	灰・黒・黄・白灰・黒磁物石灰多量	縁線成形形器。口縁部は薄く短く外反する。	窯心産
19-00175	須恵器 片	覆土内 破片	厚0.3	灰・黒・黄・灰 磁物・灰・オリーブ灰	縁線成形形器。縁線は厚く、二次焼成により縁が質薄している。	窯心産

## B区第1号道跡遺構

遺構番号 図面番号	遺物種 類	出土層位 遺存 層	厚 目 (cm)	構成・色調・粘土 (石灰材は黒目録)	形状・技法等の特徴	備 考
19-00176	須恵器 片	覆土内 破片	底(8.0)	灰・黒・黄・鈍黄・黒色磁物粒子	縁線成形形器。高台は押しけ。高台は底面の内外面に縁で成形している。	

C区第1号住居跡

遺物番号 図説番号	遺物種 名	出土層位 番号	遺 目 [cm]	厚 目 [g]	構成・色調・胎土 (石素材は任意)	形状・技法等の特徴	備 考
10-00177 52	土師器 土師 碗	貯蔵穴下層 破片	L79.3 破5.9		灰・黄・赤・黒・β石英・白色粒子	紐作り。口縁部は丁寧な磨製で施す。胴部から頸部にかけては、小単位に磨製で施している。	赤褐色
10-00178 52	土師器 小形碗	貯蔵穴下層 破片	割縁11.5 破1.1		黄・赤・黒・赤褐色・白色粒子 微量・黒色鉱物粒子(見込込)	胴部は短く外唇が立ち上がり、唇口は内側へ傾きを施す。外唇は磨製で施している。	赤褐色
10-00179 52	土師器 小形碗	貯蔵穴下層 破片	L107.7 割7.7 破縁(11.5)		黄・赤・黒・鈍黄・黒色鉱物粒子・ 白色粒子	紐作り後磨製。口縁部は直立気配に立ち上がる。外唇はやや平直な。外唇は風化により磨製で覆われている。	赤褐色
10-00180 52	土師器 壺	甕内 破片	破5.6		黄・赤・黒・浅黄褐色・細粒状β石英・ 黒色鉱物粒子	紐作り。外面は縦位の磨製より同方向で磨製が施されている。	
40-00028	鉄器 漆田	床面直上層 漆田	破長4.3 破幅2.6			有蓋平盤三角形鉄板状のみ、錆色により身の部分が隠れている。	
20-00033	雑器 礫石	甕内下層 部分欠損	破長6.3 破幅5.5	重201	二ツ角礫石	平坦気配の面に磨製が認められる。	

C区第2号住居跡

遺物番号 図説番号	遺物種 名	出土層位 番号	遺 目 [cm]	厚 目 [g]	構成・色調・胎土 (石素材は任意)	形状・技法等の特徴	備 考
10-00181 52	土師器 土師 碗	貯蔵穴下層 破片	L13.0 破5.3		黄・赤・黒・浅黄褐色・黒色鉱物粒子 多量・石英	内唇口縁。紐作り。口縁部直下に磨製を施す。体部・底部は磨製で小単位に施し、内面に磨文を施している。	赤褐色
10-00182 52	土師器 土師 碗	貯蔵穴下層 破片	L13.0 破5.3		黄・赤・黒・黄・黄緑・シロト	内唇口縁。紐作り。口縁部直下に磨製を施す。体部・底部は磨製で小単位に施し、内面に磨文を施している。	赤褐色
10-00183 52	土師器 土師 碗	貯蔵穴下層 破片	L13.0 破5.3		黄・赤・黒・鈍黄・黒色鉱物粒子・ 白色粒子	内唇口縁。紐作り。口縁部直下に磨製を施す。体部・底部は磨製で小単位に施し、内面に磨文を施している。	赤褐色A
10-00184 52	土師器 土師 碗	貯蔵穴下層 破片	L14.1 破5.7		黄・赤・黒・明赤黄・β石英・黒色 鉱物粒子・赤褐色胎土	内唇口縁。紐作り。口縁部直下に磨製を施す。体部・底部は磨製で小単位に施し、内面に磨文を施している。	赤褐色
10-00185 52	土師器 土師 碗	甕内直上層 破片	L13.0 破5.6		黄・赤・黒・鈍黄・黒色鉱物粒子・ 白色粒子	内唇口縁。紐作り。口縁部直下に磨製を施す。体部・底部は磨製で小単位に施し、内面に磨文を施している。	赤褐色A
10-00186 52	土師器 土師 碗	貯蔵穴下層 破片	L11.7 破5.6		黄・赤・黒・赤・浅黄褐色・黒色鉱物 粒子・β石英・黄緑胎土	紐作り。口縁部直下に磨製を施す。体部・底部は磨製で小単位に施し、内面に磨文を施している。	赤褐色
10-00187 52	土師器 土師 碗	貯蔵穴下層 破片	L11.7 破5.3		黄・赤・黒・赤・浅黄褐色・白色胎土・ β石英・黒色鉱物粒子	作りは平唇。体部・底部は磨製で施している。表面全体に黒色の認められる。生地には磨文が施されている。	赤褐色A
10-00188 52	土師器 破片	破片	L12.9 破5.5		黄・赤・黒・赤・β石英・黒色胎土 胎土	外縁は磨製で小単位に施す。紐作り。口縁部直下に磨製を施す。体部・底部は磨製で小単位に施し、内面に磨文を施している。	赤褐色
10-00189 52	土師器 土師 碗	貯蔵穴下層 破片	L13.0 破5.3		黄・赤・黒・暗赤・白色胎土・黒色 胎土	紐作り。口縁部直下に磨製を施す。体部・底部は磨製で小単位に施し、内面に磨文を施している。	赤褐色
10-00190 52	土師器 土師 碗	甕内 破片	L13.0 破縁(13.4)		黄・赤・黒・鈍黄・黒色胎土・黒色 胎土	口縁部は短く外唇が立ち上がる。胴部は丸味を帯び、甕部直下は磨製で施す。胴部直上は磨製で施す。下半は磨製で施す。	赤褐色A
10-00191 52	土師器 土師 碗	甕内 破片	L10.0 破縁(13.4)		黄・赤・黒・鈍黄・白色胎土・黒色 胎土	口縁部は直する。内外面は磨製で小単位に施している。全体に作りは磨製。	赤褐色A
10-00192 52	土師器 土師 碗	貯蔵穴下層 破片	L10.0 破縁(15.6)		黄・赤・黒・黄・黄・β石英・黒色胎土 胎土	口縁部は「く」の字状に立ち上がる。外面は磨製より。内面は磨製で施す。	赤褐色
10-00193 52	土師器 土師 碗	甕内 破片	破5.6		黄・赤・黒・浅黄褐色・白色胎土・ 白色胎土	紐作り。外面は片方向性の磨製で施す。内面は磨製で施す。	赤褐色
10-00194 52	土師器 土師 碗	貯蔵穴下層 破片	破5.7		黄・赤・黒・鈍黄・黒色胎土・白色 胎土	紐作り。外面は縦位の磨製より。内面は磨製で磨製。	
10-00195 52	土師器 土師 碗	貯蔵穴下層 破片	L17.7 割4.6 破5.0 破縁28.1		黄・赤・黒・暗黄褐色・β石英・石英多 量・細粒状β石英・白色胎土	口縁部は「く」の字状に立ち上がる。外面は強い磨文を押し付ける無磨製。内面は磨文を施す。	赤褐色
10-00196 52	土師器 土師 碗	甕内 破片	L11.6 割13.0 破縁27.6		黄・赤・黒・暗黄褐色・β石英・石英多 量・細粒状β石英・白色胎土	口縁部は丸味を帯び、甕部直下は磨製で施す。胴部直上は磨製で施す。下半は磨製で施す。外唇は丁寧な磨製で施す。内面は磨製で施す。風化が顕著。	赤褐色
40-00029	鉄器 漆田	C2柱床直上層 破片	破長4.8 破幅4.5	重4.5		楕円の先端が短く、錆色が顕著。	

C区第1号井戸跡

遺物番号 図説番号	遺物種 名	出土層位 番号	遺 目 [cm]	厚 目 [g]	構成・色調・胎土 (石素材は任意)	形状・技法等の特徴	備 考
10-00197	土師器土師 土師 碗	甕内 破片	破5.5		黄・赤・黒・明黄褐色・黒色胎土・ 白色胎土	縦軸成形型に成形。底部は凹形平底。	赤褐色
10-00198	土師器土師 土師 碗	甕内 破片	破5.8		黄・赤・黒・暗赤・黒色胎土・ 白色胎土	紐作り後磨製。口縁部は直立気配に立ち上がる。外唇は強く磨文を押し付ける。外唇は強く磨文を押し付ける。外唇は強く磨文を押し付ける。	赤褐色
40-00030 -31	鉄器 漆田	甕内 破片	破長3.0 破幅2.9	重12.2		同一の鉄板が複数枚発見されている。破片は強く磨文を押し付ける。破片は強く磨文を押し付ける。破片は強く磨文を押し付ける。	赤褐色
20-00034	雑器 礫石	甕内下層 破片	破長10.6 破幅9.9		粗粒礫石(安山岩)	扁平面が顕著に磨製し、磨文が認められる。縦位の磨製が認められる。	

C区第2号井戸跡

遺物番号 図説番号	遺物種 名	出土層位 番号	遺 目 [cm]	厚 目 [g]	構成・色調・胎土 (石素材は任意)	形状・技法等の特徴	備 考
10-00199	土師器土師 土師 碗	甕内 破片	L16.4 破5.5 破5.5		黄・赤・黒・赤・赤褐色胎土・石英	縦軸成形型に成形。底部は凹形平底。	赤褐色
10-00200 52	土師器土師 土師 碗	甕内 破片	L11.3 破6.3		黄・赤・黒・浅黄褐色・黒色胎土	縦軸成形型に成形。底部は凹形平底。	赤褐色
20-00035	石製品 下臼	甕内下層 破片	径126.3 高10.5		粗粒礫石(安山岩)	扁平化しているが、8分割の目と考えられる。輪郭の欠け、及び磨文の突起込みが認められる。	
20-00036 54	石製品 下臼	甕内下層 破片	径14.2 高11.3 高20.0 重19.300		粗粒礫石(安山岩)	外唇は凹形を呈するが、見込みは長方形を呈する。外面は粗いハツリ面は認められる。口縁部は磨文が施されている。	
20-00037 52	石製品 下臼	甕内下層 破片	径19.6 破縁7.8 高12.0		粗粒礫石(安山岩)	ハツリ面が顕著に磨製し、上臼面・直面を部分的に磨製する。上臼面は8分割の目と磨文が施された状態。8分割。	

## C区第4号井戸跡

遺物番号 回収番号	遺物種 部 類	出土層位 通 存 度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石室材は度目値)	形状・技法等の特徴	備 考
20-00038	埴輪 埴石	覆土内 破片	高11.0 幅11.0 厚4.0 重2830.4	焼成輝石安山岩		肩平縁が顕著に準減し、磨面も認められる。

## C区第5号井戸跡

遺物番号 回収番号	遺物種 部 類	出土層位 通 存 度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石室材は度目値)	形状・技法等の特徴	備 考
10-00201	教育陶器 内耳瓶	覆土内 1/2残	口128.63 底122.6 底18.63	灰・胎・茶・鈍焼・赤褐色粒子・黒色鉱物粒子・夾層物微量	縁作り後輪縁左回転成形。外面に薄い塗層状に灰化物が付着する。	赤毛皮
20-00039	石造品 破片	覆土内 1/2残	残長49.3 幅23.5 厚3.2	緑色片岩	縁作りキリキリと灰化層を帯り込む。表面は磨き仕上げ、裏面は縁状磨の突き込みが横方向に顕著に残る。	

## C区第6号井戸跡

遺物番号 回収番号	遺物種 部 類	出土層位 通 存 度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石室材は度目値)	形状・技法等の特徴	備 考
10-00202	教育陶器 内耳瓶	覆土内 破片	厚9.9	灰・胎・赤・鈍焼・黒色鉱物粒子・夾層物	裏面・立ち上がりは横位の回転成形で面している。輪縁成形は回転製。	赤毛皮
10-00203	転用品 内耳瓶	覆土内 破片	厚7.5	灰・胎・赤・鈍焼・黒色鉱物粒子・白色鉱物粒子	土器質土器面の底面片を加工し内側に転用している。輪縁成形は左回転。底部は回転製。	赤毛皮

## B区第7号井戸跡

遺物番号 回収番号	遺物種 部 類	出土層位 通 存 度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石室材は度目値)	形状・技法等の特徴	備 考
10-00204	土師器 罎	覆土内 破片	厚9.4	灰・胎・赤・明黄焼・黒色鉱物粒子・透明鉱物粒子・微粒状石灰	外面は横位・斜位の置割り。内面は横位の置割で成形。	赤毛皮

## B区第8号井戸跡

遺物番号 回収番号	遺物種 部 類	出土層位 通 存 度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石室材は度目値)	形状・技法等の特徴	備 考
10-00205	土師器 罎	覆土内 破片	厚9.3	灰・胎・赤・鈍焼・黒色鉱物粒子・夾層物	口縁部外面・内面は横位の敷で成形。外面は横位の置割りを実施している。	
10-00206	黄赤系 大甕	覆土内 破片	厚1.2	灰・胎・赤・鈍焼・白色鉱物粒子・石灰片岩 (粗粒)	縁作り後厚み成形。外面は粗目できか、内面は裏文。	赤毛皮か

## C区第1号土坑

遺物番号 回収番号	遺物種 部 類	出土層位 通 存 度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石室材は度目値)	形状・技法等の特徴	備 考
10-00207	土師器 罎	覆土内 1/2残	口112.63 底6.8 高4.1	灰・胎・赤・鈍焼・黒焼・黒色鉱物粒子・白色粒子	兼作り。口縁部は横縁で成形。口縁部直下軽い指環で成形を施し、部分的に塗層を残す。底面に磨面跡。	赤毛皮

## C区第2号土坑

遺物番号 回収番号	遺物種 部 類	出土層位 通 存 度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石室材は度目値)	形状・技法等の特徴	備 考
10-00208	土師器 罎	覆土内 破片	厚9.5	灰・胎・赤・鈍焼・白色粒子・黒色鉱物粒子	体部両面の破片。外面は置割り。内面は敷で成形。	赤毛皮
10-00209	土師器 罎	覆土内 破片	厚9.5	灰・胎・赤・鈍焼・透明鉱物粒子・夾層物微量	底部両面の破片。外面は斜位の置割り。敷で成形。	赤毛皮

## C区第5号土坑

遺物番号 回収番号	遺物種 部 類	出土層位 通 存 度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石室材は度目値)	形状・技法等の特徴	備 考
10-00210	黄赤系 坏小甕	覆土内 破片	口115.4)	灰・胎・赤・赤焼・明黄焼・粗粒状チャート	輪縁成形右回転。磨面の風化が顕著。第二次焼成か。	赤毛皮

## C区第6号土坑

遺物番号 回収番号	遺物種 部 類	出土層位 通 存 度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石室材は度目値)	形状・技法等の特徴	備 考
10-00211	土師質土器 文形	覆土内 破片	口34.4 底5.2 高2.1	灰・胎・赤・鈍焼・透明鉱物粒子多量	輪縁成形右回転。口縁部が保っている。	赤毛皮
10-00212	黄赤系 罎	覆土内 破片	厚9.7	灰・胎・赤・灰・黒色鉱物粒子・透明鉱物粒子	輪縁成形右回転。天井部は回転置割り。	赤毛皮
10-00213	教育陶器 内耳瓶	覆土内 破片	厚9.5	灰・胎・赤・鈍焼・透明鉱物粒子多量・黒色鉱物粒子・灰片	底面は置目。内面は輪縁成形。	赤毛皮
20-00040	瓦身具 勾玉	覆土内 破片	残長2.2 幅1.0 厚1.0 重2.75	石灰	縁部6欠損する。割れ口は新割 (調査時の欠損か)。	

## C区第7号土坑

遺物番号 回収番号	遺物種 部 類	出土層位 通 存 度	度 目 (cm) 量 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石室材は度目値)	形状・技法等の特徴	備 考
10-00214	黄赤系 罎	覆土内 破片	高台基部(6.8)	灰・胎・赤・灰・透明鉱物粒子・鈍状粘土	輪縁成形右回転。高台は付け高台。	赤毛皮
10-00215	輪縁陶器 輪 罎	覆土内 破片	厚9.3	赤・胎・赤・白灰 胎面・透明で均質	輪縁成形右回転。底面は置割りか。	

## C区第10号土坑

遺物番号 採取番号	遺物種 類	出土層位 層 存 度	深 度 目 (cm) 量 (g)	焼成・色調・胎土 (石灰材は量目録)	形状・技法等の特徴	備 考
19-00216	須恵系 磁か	甕土内 破片	厚0.5	灰・黒・灰・黄褐色・透明磁物粒子・ 夾雑物微量	横縫成整形石形磁。高台は付け高台。	黒色産

## C区第12号土坑

遺物番号 採取番号	遺物種 類	出土層位 層 存 度	深 度 目 (cm) 量 (g)	焼成・色調・胎土 (石灰材は量目録)	形状・技法等の特徴	備 考
19-00217	須恵系 磁	甕土内 破片	高16.2	灰・赤・灰・黄褐色・灰・黄褐色少・ 透明磁物粒子	横縫成整形石形磁。高台は付け高台。	黒色産

## C区第14号土坑

遺物番号 採取番号	遺物種 類	出土層位 層 存 度	深 度 目 (cm) 量 (g)	焼成・色調・胎土 (石灰材は量目録)	形状・技法等の特徴	備 考
19-00218	土師系 磁	甕土内 破片	厚0.3	灰・黒・灰・黄褐色・黒色磁物粒子	外面は横縫成整形・横位の異端で整形。内面は横位の側で整形。	黒色産

## C区第15号土坑

遺物番号 採取番号	遺物種 類	出土層位 層 存 度	深 度 目 (cm) 量 (g)	焼成・色調・胎土 (石灰材は量目録)	形状・技法等の特徴	備 考
19-00219	土師系 磁か	甕土内 破片	厚0.8	灰・黒・灰・黄褐色・透明磁物粒子・ 夾雑物少	外面は横位の異端より横位の側・異端で整形。内面は横位の 異端で整形。	黒色産

## C区第21号土坑

遺物番号 採取番号	遺物種 類	出土層位 層 存 度	深 度 目 (cm) 量 (g)	焼成・色調・胎土 (石灰材は量目録)	形状・技法等の特徴	備 考
19-00220	土師系 磁	甕土内 破片	厚0.6	灰・黒・灰・黄褐色・黒色磁物粒子・ 透明磁物粒子	外面は横位の異端より。内面は横位の異端で整形。	黒色産

## C区第22号土坑

遺物番号 採取番号	遺物種 類	出土層位 層 存 度	深 度 目 (cm) 量 (g)	焼成・色調・胎土 (石灰材は量目録)	形状・技法等の特徴	備 考
19-00221	土師系 磁か	甕土内 破片	厚0.6	灰・黒・灰・黄褐色・黒色磁物粒子	底面に塵れ砂。器縁は曇・羽黒も考慮される。	黒色産

## C区第26号土坑

遺物番号 採取番号	遺物種 類	出土層位 層 存 度	深 度 目 (cm) 量 (g)	焼成・色調・胎土 (石灰材は量目録)	形状・技法等の特徴	備 考
19-00222	土師系 磁	甕土内 破片	厚0.4	灰・黒・灰・黄褐色・黒色磁物粒子	外面は横位の異端より。内面は横位の異端で整形。	黒色産

## C区第31号土坑

遺物番号 採取番号	遺物種 類	出土層位 層 存 度	深 度 目 (cm) 量 (g)	焼成・色調・胎土 (石灰材は量目録)	形状・技法等の特徴	備 考
19-00223	土師系 磁	甕土内 破片	厚0.6	灰・黒・灰・黄褐色・黒色磁物粒子	外面は横位の異端より。内面は横位の異端で整形。	黒色産

## C区第34号土坑

遺物番号 採取番号	遺物種 類	出土層位 層 存 度	深 度 目 (cm) 量 (g)	焼成・色調・胎土 (石灰材は量目録)	形状・技法等の特徴	備 考
19-00224	土師系 磁	甕土内 破片	厚0.3	灰・黒・灰・黄褐色・黒色磁物粒子・ 透明磁物粒子	外面は横位の異端より。内面は横位の異端で整形。	黒色産

## C区第35号土坑

遺物番号 採取番号	遺物種 類	出土層位 層 存 度	深 度 目 (cm) 量 (g)	焼成・色調・胎土 (石灰材は量目録)	形状・技法等の特徴	備 考
19-00225	須恵系 磁	甕土内 破片	口14.40	灰・赤・灰・黄褐色・透明磁物粒子・黒 色粒子	横縫成整形石形磁。	黒色産

## C区第36号土坑

遺物番号 採取番号	遺物種 類	出土層位 層 存 度	深 度 目 (cm) 量 (g)	焼成・色調・胎土 (石灰材は量目録)	形状・技法等の特徴	備 考
19-00226	土師系土師 系	一部欠損	138.0 高4.7 高2.45	灰・赤・灰・黄褐色・外面黄褐色・ 白色磁物粒子・白色磁物粒子	横縫成整形石形磁。器底は回転糸切。	黒色産

## C区第39号土坑

遺物番号 採取番号	遺物種 類	出土層位 層 存 度	深 度 目 (cm) 量 (g)	焼成・色調・胎土 (石灰材は量目録)	形状・技法等の特徴	備 考
19-00227	須恵系 磁	甕土内 破片	厚0.5	灰・赤・灰・黄褐色・透明磁物粒子多 量	横縫成整形石形磁。破片のため詳細不詳。	黒色産

## C区第61号土坑

遺物番号 採取番号	遺物種 類	出土層位 層 存 度	深 度 目 (cm) 量 (g)	焼成・色調・胎土 (石灰材は量目録)	形状・技法等の特徴	備 考
19-00228	土師系 磁	甕土内 破片	厚0.8	灰・黒・灰・黄褐色・磁物・磁粉砂・黒色 磁物粒子	「く」の字上に開く口縁片。外面は異端での横縫成整形。	黒色産



## 富田漆田遺跡南側調査区遺構還元

## B区第63号土坑

遺物番号 図説番号	遺物種類	出土層位 保存状態	長さ 目 (cm) 重量 目 (g)	構成・色調・胎土 (石素材は灰目録)	形状・技法等の特徴	調査
10-00229	煎茶碗 蓋	覆土内 破片	厚0.8	灰・黒・茶・緑灰・白色胎粒子・白色胎物粒子	紐作り浅叩き整形。外面は灰目叩き、内面は素文。	漆田遺構還元

## B区第64号土坑

遺物番号 図説番号	遺物種類	出土層位 保存状態	長さ 目 (cm) 重量 目 (g)	構成・色調・胎土 (石素材は灰目録)	形状・技法等の特徴	調査
10-00230	土師器 破片	覆土内 破片	厚0.8~0.3	灰・黒・茶・黄緑・透明胎物粒子・夾層物少	外面は横位の裏割り、内面は横位の裏割で整形。	漆田遺構還元
10-00231	煎茶碗 蓋	覆土内 破片	口(13.2)	灰・黒・茶・灰・夾層物微量	紐作り浅輪縁白回転成型。	漆田遺構還元

## C区第68号土坑

遺物番号 図説番号	遺物種類	出土層位 保存状態	長さ 目 (cm) 重量 目 (g)	構成・色調・胎土 (石素材は灰目録)	形状・技法等の特徴	調査
10-00232	煎茶碗 杯	覆土内 破片	厚0.3	灰・黒・茶・灰・白色胎子・白色胎粒子	輪縁成型形右回転。破片の詳細不詳。	漆田遺構還元

## C区第70号土坑

遺物番号 図説番号	遺物種類	出土層位 保存状態	長さ 目 (cm) 重量 目 (g)	構成・色調・胎土 (石素材は灰目録)	形状・技法等の特徴	調査
10-00233	土師器 破片	覆土内 破片	厚0.6	灰・黒・茶・黄緑・黒色胎物粒子・透明胎物粒子	外面は縦位・斜位の裏割り、内面は横位の裏割で整形。	漆田遺構還元

## C区第71号土坑

遺物番号 図説番号	遺物種類	出土層位 保存状態	長さ 目 (cm) 重量 目 (g)	構成・色調・胎土 (石素材は灰目録)	形状・技法等の特徴	調査
10-00234	土師器 破片	覆土内 破片	厚0.9	灰・黒・茶・黄緑・白色胎物粒子・石灰	底面に磨れ砂。明差と裏の判別が出来ない。	漆田遺構還元

## C区第72号土坑

遺物番号 図説番号	遺物種類	出土層位 保存状態	長さ 目 (cm) 重量 目 (g)	構成・色調・胎土 (石素材は灰目録)	形状・技法等の特徴	調査
10-00235	土師器 破片	覆土内 破片	厚0.7	灰・黒・茶・黄緑・黒色胎物粒子・透明胎物粒子	外面は斜位の裏割り、内面は横位の裏割で整形。	漆田遺構還元

## C区第74号土坑

遺物番号 図説番号	遺物種類	出土層位 保存状態	長さ 目 (cm) 重量 目 (g)	構成・色調・胎土 (石素材は灰目録)	形状・技法等の特徴	調査
10-00236	煎茶碗 杯	覆土内 破片	口(12.6)	灰・黒・茶・黄緑・黒色胎物粒子・夾層物少	体部直下は裏割り、口縁部・内面は横位の裏割で整形。体部は底面の風化により観察不能。	漆田遺構還元

## B区水田跡

遺物番号 図説番号	遺物種類	出土層位 保存状態	長さ 目 (cm) 重量 目 (g)	構成・色調・胎土 (石素材は灰目録)	形状・技法等の特徴	調査
40-00032	鉄器 776	B下木田面 破片	残長2.7 残幅16.0 残厚0.7 残重32.3		観察以前に錆の除去作業が行われたため詳細不詳。平作りで形作られている。	
40-00033	鉄器 水打石	B下木田面 部分欠損	残長2.7 残幅9.3 厚0.322 重22.7		観察以前に錆の除去作業が行われたため詳細不詳。使用面のスケレも観察不能。	

## 遺構外出土遺物(1)-1

遺物番号 図説番号	遺物種類	出土層位 保存状態	長さ 目 (cm) 重量 目 (g)	構成・色調・胎土 (石素材は灰目録)	形状・技法等の特徴	調査
10-00237	軟骨陶器 覆土内 破片	C区4溝跡 破片	口(28.2)	灰・黒・茶・裏面白灰・外面黒・白色胎粒子・夾層物少量	内縁しながら直縁的に立ち上がる。紐作り浅輪縁白回転成型。	漆田遺構還元
10-00238	磁器陶器 鉄鉢 破片	C区1木田面 破片	口(28.0)	黒・黒・緑・黒灰・白色胎物粒子	紐作り浅輪縁白回転成型。内外面に鉄粉を施す。厚目(口)本 $\times$ 1単位。	不詳
10-00239	土師器土師器 55	C区3号柱 1/3残	口(7.4) 底(4.3) 高1.7	灰・黒・茶・黄緑・黒色胎物粒子・白色胎子・赤褐色粒子	輪縁成型形左回転。底面は回転成形。	
10-00240	土師器土師器 破片	C区内 破片	口(7.6) 底(2.8) 高1.9	灰・黒・茶・黄緑・赤褐色胎子・白色胎子	輪縁成型形左回転。	漆田遺構還元
10-00241	土師器土師器 破片	C区表土層 破片	口(8.4) 底(5.2) 高1.9	灰・黒・茶・黄緑・白色胎物粒子・白色胎子	輪縁成型形左回転。	漆田遺構還元
10-00242	土師器土師器 破片	C区表土層 破片	口(8.8) 底(6.5) 高2.2	灰・黒・茶・黄緑・赤褐色胎子・黒色胎物粒子・磨粒砂	輪縁成型形左回転。	漆田遺構還元
10-00243	土師器土師器 55	I7-P-1 (C区)破片	口(9.0) 底(5.0) 高2.4	灰・黒・茶・黄緑・白色胎物粒子・砂質	輪縁成型形左回転。	漆田遺構還元
10-00244	土師器土師器 破片	C区2溝 破片	底(6.4)	灰・黒・茶・黄緑・白色胎物粒子・赤褐色胎子・磨粒砂	輪縁成型形左回転。	漆田遺構還元
10-00245	軟骨陶器 内耳輪 破片	C区表土層 破片	口(28.0)	灰・黒・茶・黄緑・白色胎物粒子・夾層物少量	輪縁成型形左回転。	漆田遺構還元
10-00246	軟骨陶器 内耳輪 破片	C区内 破片	口(28.0)	黒・中・茶・緑灰・黒色胎物粒子・夾層物少量	輪縁成型形左回転。	漆田遺構還元
10-00247	軟骨陶器 内耳輪破片	B区表土層 破片	口(34.0) 底(27.0) 高6.0	灰・黒・茶・外面黒・内面灰黒・白色胎子・白色胎物粒子	輪縁成型形左回転。	漆田遺構還元
10-00248	軟骨陶器 内耳輪破片	B区表土層 破片	口(28.0)	黒・中・茶・灰黄・黒色胎物粒子・	輪縁成型形左回転。生地上は粘土化したローマ土。	漆田遺構還元

## 富田漆田遺跡 請元

## 遺構外出土遺物(1)ー2

遺物番号 図面番号	遺物種類 名称	出土部位 遺存 位置	埋 入 目 (cm) 目 (g)	構成・色調・粘土 (古素材は毎日録)	形状・技法等の特徴	備 考
10-00249	軟質陶器 内口縁	C区4層 破片	底(25.4)	黒・黄・赤・緑・黒色粘土・白色 粘土・緑い	底部は変形す。体は此方角縁輪転式成形。底面は平ら。内面に黒い文を印刷する。	赤毛皮
10-00250	軟質陶器 香炉	C区4層 破片	厚9.8	黄・赤・黒・白灰・黄褐色物少し・ 緑い	組作り縁輪転式成形。口唇部は平ら。体部に黒い文を印刷する。	
10-00251	高輪陶器 天目碗	C区表土層 破片	厚9.6	黒・黄・緑・灰・黒色粘土	縁輪転式成形。釉は厚くやや中目を帯びる。	黒戸灰
10-00252	焼酎陶器 大甕	C区内 破片	厚9.8	黒・黄・緑・赤・黒・白色粘土	組作り縁輪転式成形。内面に自然釉が付着する。	黄褐色
10-00253	焼酎陶器 大甕	C区表土層 破片	厚1.3	黒・黄・緑・赤・黒・白色粘土	組作り縁輪転式成形。内面に自然釉が付着する。底面により造りこぼす。	黄褐色
10-00254	焼酎陶器 壺	C区表土層 破片	厚1.4	黒・黄・緑・赤・黒・白色粘土	組作り縁輪転式成形。内面に自然釉が付着する。底面には磨かれたり。	不詳
10-00255	青磁 轆轤 蓮弁文碗	C区表土層 破片	口(18.0)	黒・黄・緑・灰 釉調=オリーブグリーン	内面に模様の遺跡は不詳。	
10-00256	青磁 轆轤 蓮弁文碗	B区2層 破片	厚9.5	黒・黄・緑・灰 釉調=オリーブグリーン	蓮弁は認められないが模様が認められる。	
10-00257	青磁 轆轤 蓮弁文碗	B区2層 破片	厚9.6	黒・黄・緑・白灰 釉調=オリーブグリーン	外面に開弁の轆轤と蓮弁が認められる。	
10-00258	青磁 轆轤 蓮弁文碗	C区表土層 破片	厚9.7	黒・黄・緑・白灰 釉調=厚いオリーブ	内面に片葉蓮の模様が認められる。	

## 遺構外出土遺物(2)

遺物番号 図面番号	遺物種類 名称	出土部位 遺存 位置	埋 入 目 (cm) 目 (g)	構成・色調・粘土 (古素材は毎日録)	形状・技法等の特徴	備 考
60-00007	瓦片 オノキ	B区表土層 破片	高径4.7 厚径4.5 厚9.9 重13.8		平坦な面に縦けたガラスを置き、上方から、二つ巴の型を押し、二つ巴文を捺印する。	
20-00041	石製品 砥石	B区表土層 破片	径13.2 幅3.0 厚2.1 重12.1	磁質石	側面・裏面にノコ目が残る。手持痕。幅は1寸。	
20-00042	石製品 砥石	C区表土層 部分欠損	径19.1+φ 幅3.0 厚2.3 重11.1	磁質石	小口の片側欠損する。側面・裏面にノコ目が残る。手持痕。幅は1寸。	
20-00043	石製品 砥石	C区表土層 破片	径15.5+φ 幅3.0 厚9.5 重15.0	流質粘板岩	片側欠損する。顕著な使用痕は認められない。手持痕。	
20-00044	輝石 磨石	A区内 破片	径9.4 幅1.7 厚5.1 重169.4	輝石	球状の輝石を平削し、平削面が導溝する。	
40-00034	鉄器 平洋	17-G-15 グリッド内	残長10.3 残幅1.4 残厚0.4 残重10.1		鍍り痕が、鋳造以前に鋼の除去作業が行われたため詳細不詳。	
40-00035	鉄器 釘	17-P-2/4 破片	残長5.3 幅0.5 厚9.4 重4		錆化が顕著。両端共に鋳造設備には欠損している。断面長方形を示す。	
40-00036	鉄器 光輝	B区表土層 破片	径12.6 幅1.3 厚2.9 重17.0		表面の高部に溝を掘り内面に凹穴を開けている。凹穴は断面長方形の形が残存している。	
40-00037	陶器 壺口	C区内 部分欠損	残長3.0 幅1.2 厚7.7 重3.5		壺口が欠損する。壺口縁・胴縁は口唇合されている。	
40-00038	貨幣 銅銭	C区内 文形	径2.3 厚0.1 重2.7		「開元通寶」。背面は無い。弘治銭の可能性も考慮される。	
40-00039	貨幣 銅銭	C区2面 文形	径2.4 厚0.15 重2.5		「開元通寶」。銅化は少なく残存良好である。	
40-00040	貨幣 銅銭	C区内 文形	径2.35 厚0.125 重2.9		「聖元通寶」。背面は無い。	
40-00041	貨幣 銅銭	17-S-16 グリッド内	径2.4 厚0.15 重2.8		寛永通寶。背面は無い。やや銅化がやや進んでいる。	
40-00042	貨幣 銅銭	B区2面 部分欠損	径2.3 厚0.075 重1.5		寛永通寶。全体に銅化が顕著で、文字がややと判読できる状態。	
40-00043	貨幣 銅銭	B区2面 文形	径2.4 厚0.1 重1.5		寛永通寶。背面は無い。銅化が進んでいる。	
40-00044	貨幣 銅銭	17-S-16 グリッド内	径2.9 厚0.9 重5.5		3枚が積層している。銅化が顕著。	
10-00259	土師器 C区2号溝 戸 破片	C区2号溝 戸 破片	口(17.0)	黒・黄・赤・緑・黒・高品質黒・黒色 粘土物少量	高濃縮による(輪転か)成形。外周には縦位の細かな溝を施している。胴部工人の製作が想定される。	
10-00260	土師器 土形器	C区16溝 破片	厚11.0	黒・黄・赤・黒・高品質・緑石・白色 粘土	組作り。器内外面は横位の溝を施している。つくりは中程度。	
10-00261	土師器 土形器	C区表土層 破片	口(11.8)	黒・黄・赤・緑・黒色粘土・黒色 粘土物少量	成形不詳。器内外面に横位・縦位の溝を施している。器内外面に横位の溝を施している。土師土は粘土化したローム土。	
10-00262	土師器 土形器	C区16溝 破片	厚12.0 幅(9.0)	黒・黄・赤・黄灰・細砂	器内外面に横位の溝を施し、上半は横位の溝で、内面は横位の溝で成形を施している。	
10-00263	土師器 土形器	C区16溝 破片	口(8.2) 厚(11.0)	黒・黄・赤・黄褐色・白色粘土・ 高品質	粘土層の巻き上げ成形。内外面に縦位の溝を留める。外周は斜位の溝を施している。内面は横位の溝を施している。	
10-00264	土師器 土形器	A区1号溝 破片	口(1.4) 厚(1.8)	黒・黄・赤・黄褐色・緑石白色 粘土・砂	成形不詳。器内外面に横位の溝を施し、器内外面に横位の溝を施す。器内外面に横位の溝を施す。器内外面に横位の溝を施す。	

## 遺構外出土遺物(3)

遺物番号 (調査番号)	遺物種 類	出土層位 遺存 号	量 目 (cm) (g)	構成・色調・胎土 (石炭灰は着目)	形状・技法等の特徴	備 考
10-02065	土師器 高坏	C区16層 厚土破片	脚(13.0)	黒・赤・黄・浅黄緑・白色粒子・赤 褐色粒子・高品位赤(少量)	基部に下部の接合部が残る。高台は中位まで縦位の細い溝で覆 われている。胴部は、器内面は磨物を施している。	
10-02066	土師器 高坏	C区16層 厚土破片	脚(13.6) 基(3.4)	黒・赤・黄・浅黄緑・白色粒子・高 品位赤(少量)	高台は折りながら器内面を磨物で覆っている。内面は縦位の 溝状で、器底は磨物で覆われている。	
10-02067	土師器 高坏	C区16層 厚土破片	基(3.4)	黒・赤・黄・浅黄緑・高品位赤・灰緑 物少量・第二次焼成	胴部は縦位の溝物で覆われ、高台は上中に磨物を施している。 器内面は横位の溝物で、器底はヘソを付している。	
10-02068	土師器 高坏	C区16層 厚土破片	基(3.4)	黒・赤・黄・浅黄緑・白色粒子・黒色 灰緑物少量	基部に下部の接合部が残る。高台は中位まで縦位の細い溝物 で覆われている。器底は、高台の形の子線により縦位の溝が残る。	
10-02069	土師器 高坏	C区17層 厚土破片	脚0.5	黒・赤・黄・浅黄緑・白色粒子・黒色 灰緑物少量	見込みに「E」文字が認められるが、磨物の厚薄が質 白に異なるし、用途も文字が異なるもの。造文字。	
10-02070	須恵器 小形煎茶 碗	C区表土層 破片	底(4.4)	黒・赤・黄・白色粒子・白色 灰緑物少量	高台は磨物の磨で磨られ、高台は生土を施したローム土か。	
10-02071	須恵器 高坏	B区2層 破片	底(12.4) 高(6.4)	黒・赤・黄・灰・白色微粒子	縦線成形石臼鉢。底部は回転糸切後縁部を回転度調整。	惣堀か太田 産
10-02072	須恵器 高坏	B区2層 破片	底(7.2)	黒・赤・黄・灰・灰緑物少量	縦線成形石臼鉢。底部は回転糸切後縁部を回転度調整。	太田産
10-02073	須恵器 高坏	B区3層 破片	高(8.2)	黒・赤・黄・灰・黒色粒子・灰緑物 少量	縦線成形石臼鉢。底部は回転糸切し。	太田産
10-02074	須恵器 高坏	B区2層 破片	高(7.9)	黒・赤・黄・灰・白色微粒子・灰緑 物少量	縦線成形石臼鉢。底部は回転糸切後縁部を回転度調整。 器底が強く残る状態。	惣堀産
10-02075	須恵器 高坏	B区2層 破片	底(6.4)	黒・赤・黄・灰・黒色粒子・白色 灰緑物少量・灰緑物少量	縦線成形石臼鉢。底部は回転糸切後縁部を回転度調整。 片線は磨物により磨物で覆った状態になっている。	東毛産
10-02076	須恵器 高坏	C区2層 部分欠損	131.3 高6.0 底4.1	黒・赤・黄・灰・黒色微粒子・器内 面片状赤・赤	縦線成形石臼鉢。底部は回転糸切。口縁部から器底に横成 りの溝が認められる。物地な縦線磨物。	吉井産か

## 遺構外出土遺物(4)

遺物番号 (調査番号)	遺物種 類	出土層位 遺存 号	量 目 (cm) (g)	構成・色調・胎土 (石炭灰は着目)	形状・技法等の特徴	備 考
10-02077	須恵器 高坏	B区2層 破片	131.0	黒・赤・黄・灰・白色微粒子 (石炭 灰)	縦線成形石臼鉢。器底が強く残る状態。	惣堀二道産か
10-02078	須恵器 高坏	17-T-1 1/3残	底(6.2)	黒・赤・黄・灰・灰緑物少量・ 灰緑物少量	縦線成形石臼鉢。高台は付け高台。器内面は磨物で覆 われている。生土は粘土化したローム土か。	東毛産
10-02079	須恵器 高坏	B区2層 破片	底7.8	黒・赤・黄・灰・白色微粒子・白色 灰緑物少量	紐作り後縦線石臼鉢成形。高台はすり付け。	惣堀産
10-02080	須恵器 高坏	B区2層 破片	底(8.4)	黒・赤・黄・灰・白色微粒子・灰緑物 少量	縦線成形石臼鉢。高台はすり付け高台。高台は長めで器底に沈 線状の溝のみを全周させている。器底は磨物で覆われている。	惣堀産
10-02081	須恵器 双耳付罐 破片	B区2層 破片	脚0.6	黒・赤・黄・灰・白色微粒子・灰緑 物少量	台形状に磨した粘土土製。器底を磨き出しすり付けている。	太田産
10-02082	須恵器 高坏	B区式2層 破片	底(8.0)	黒・赤・黄・灰・高品位赤・白色 微粒子	縦線成形石臼鉢。高台はすり付け高台。器内面は磨物で覆 われている。	惣堀産
10-02083	須恵器 内耳付 高坏	17-C-8 破片	底(7.0)	黒・赤・黄・灰・白色微粒子・黒色 微粒子	縦線成形石臼鉢。器底は磨物。器内面に磨物を施し磨 した状態。生土は粘土化したローム土か。	高木産(惣 堀か)
10-02084	須恵器 内耳付 高坏	B区2層 破片	高(7.4)	黒・赤・黄・浅黄緑 (灰色がかる)・ 灰緑物少量	縦線成形石臼鉢。底部は回転糸切。器内面は磨物の磨物で覆 われた状態。	東毛産
10-02085	須恵器 内耳付 高坏	B区2層 破片	底(8.4)	黒・赤・黄・浅黄緑・赤茶色に汚れ た高品位赤・黒色微粒子	縦線成形石臼鉢。高台はすり付け高台。器内面は縦位の溝物 を施し横成りを施している。	太田産
10-02086	須恵器 高坏	不明 1/3残	131.8 高5.7 底3.5	黒・赤・黄・灰・白色微粒子・白 色微粒子	縦線成形石臼鉢。高台はすり付け高台。高台は器底を磨き再 磨物を施している。	東毛産
10-02087	須恵器 高坏	B区2層 破片	底(12.2)	黒・赤・黄・灰白・黒色微粒子若干	縦線成形石臼鉢。高台はすり付け高台。器底は厚い。高台は粘 土臼鉢の切り履し部分に施している。	秋田産

## 遺構外出土遺物(5)

遺物番号 (調査番号)	遺物種 類	出土層位 遺存 号	量 目 (cm) (g)	構成・色調・胎土 (石炭灰は着目)	形状・技法等の特徴	備 考
10-02088	須恵器 高坏	B区2層 破片	高(7.4)	黒・赤・黄・灰・黒色微粒子・白色 微粒子	天井部は縦線石臼鉢磨物で磨物で覆われている。胴部は円状に 成形している。器口は磨かれている。	秋田産
10-02089	須恵器 高坏	B区式2層 破片	131(10.2)	黒・赤・黄・白灰・灰緑物少量	口縁部が広く立ち上がる。紐作り後縦線石臼鉢成形。口縁 部は磨物で覆われている。	
10-02090	須恵器 長頸瓶	C区表土層 破片	脚0.5	黒・赤・黄・灰・黒色微粒子・白色 微粒子・白色微粒子	紐作り後縦線石臼鉢成形。口縁部は磨物で磨かれた状態の磨 物で覆われている。	太田産
10-02091	須恵器 長頸瓶	B区式2層 破片	脚4.0	黒・赤・黄・灰・灰緑物少量	紐作り後縦線石臼鉢成形。縦線の凹凸が顕著。	東毛産か
10-02092	須恵器 小形煎茶 碗	B区2層 破片	脚(24.2)	黒・赤・黄・灰・白色微粒子・黒色 微粒子	紐作り後縦線石臼鉢成形。高台はすり付け高台。高台は生土を 施し、更に底状文(8本一環状)を施す。	太田産吉井 産か
10-02093	須恵器 長頸瓶	B区2層 破片	底(8.2)	黒・赤・黄・灰・白色微粒子	紐作り後縦線石臼鉢成形。高台はすり付け。	東毛産
10-02094	須恵器 長頸瓶	C区表土層 破片	底(10.2)	黒・赤・黄・白色微粒子・黒色微 粒子	紐作り後縦線石臼鉢成形。高台はすり付け。見込みに自然 磨物で覆われている。	惣堀産
10-02095	須恵器 小形煎茶 碗	B区式2層 破片	脚(11.0)	黒・赤・黄・灰・灰緑物少量	紐作り後縦線石臼鉢成形。器底は磨物のみが磨物で再磨 物を施している。	東毛産か
10-02096	須恵器 高坏	C区表土層 破片	杯部脚0.7	黒・赤・黄・灰・白色微粒子	器底は磨物。器内面に磨物の磨が認められる。器と器底は すり付け。	惣堀産
10-02097	須恵器 高坏	C区表土層 破片	脚0.6	黒・赤・黄・灰・黒色微粒子	紐作り後縦線石臼鉢成形。	
10-02098	須恵器 高坏	B区2層 破片	底(14.0)	黒・赤・黄・灰・白色微粒子・白 色微粒子	紐作り後縦線石臼鉢成形。器底の中央を径約1.6cmで円形に 穿孔し、立ち上がり部に2箇所を穿す。	惣堀産
10-02099	須恵器 高坏	C区内 破片	底(13.0)	黒・赤・黄・灰・白色微粒子・白 色微粒子少量	紐作り後縦線石臼鉢成形。器底は磨物で再磨物。内面は磨 物で覆われている。	惣堀産

富田漆田遺跡 諸元

遺構外出土遺物(6)

遺物番号 図面番号	遺物種類	出土層位 遺存層	数量 目 (g)	構成・色調・粘土 (石灰質は度目値)	形状・技法等の特徴	調査
10-00300	須恵系 須恵系 須恵系	B区2層 破片	厚(7.0)	黒・赤・灰・白色微粒子	細作り後繼續石臼転成整形。背は盛り付け。繼續の回転は遅い。	栗駒産
10-00301	須恵系 須恵系	B区2層 破片	厚(7.7)	黒・赤・灰・白色微粒子少量	細作り後繼續石臼転成整形。凸部は性格不詳。特徴の厚縁等は認められる。	栗駒産
10-00302	須恵系 須恵系	C区2層 破片	口(18.4) 厚(21.8)	黒・赤・灰・黄褐色・白色微粒子・赤褐色微粒子・夾雜物少量	細作り後繼續石臼転成整形。割面に最大径を有する。外面は鼠位の黄褐色で装嵌位に施している。内面は繼續整形痕。	栗毛産
10-00303	須恵系 須恵系	C区16層 覆土破片	厚(7.7)	黒・中・赤・内面黄緑・外面灰・白色微粒子・黄鉄石少量	細作り後繼續石臼転成整形。背は盛り付け。	栗毛産
10-00304	須恵系 須恵系	C区表土層 破片	底(1.8)	黒・赤・灰・黄褐色・高品位灰・夾雜物少量	気部は磨砕が残る。立ち上がりは磨削りを施している。内面は高品位陶土の軟で整形。生地は粘土化したローム土か。	
10-00305	須恵系 須恵系	B区19層 覆土破片	底(5.4)	黒・赤・灰・黄褐色・黒色微粒子・夾雜物少量	気部は磨砕が残る。立ち上がりは磨削りを施している。内面は高品位陶土の軟で整形。生地は粘土化したローム土か。	
10-00306	須恵系 須恵系	C区表土層 破片	底(5.4)	黒・赤・灰・黄褐色・角粒砂・黒色微粒子	気部は磨砕が残る。立ち上がりは磨削りを施している。内面は高品位陶土の軟で整形。生地は粘土化したローム土か。	
10-00307	須恵系 須恵系	C区表土層 破片	底(5.0)	黒・赤・灰・黄褐色・白色微粒子・砂粒少量	気部は磨砕が残る。立ち上がりは磨削りを施している。内面は高品位陶土の軟で整形。生地は粘土化したローム土か。	
10-00308	須恵系 須恵系	B区2層 破片	底(12.4)	黒・赤・灰・黄褐色・黄鉄石・白色微粒子・角粒砂・夾雜物少量	気部は磨砕が残る。立ち上がりは磨削りを施している。内面は高品位陶土の軟で整形。生地は粘土化したローム土か。	
10-00309	須恵系 須恵系	C区2層 破片	口(23.8)	黒・赤・緑・灰・白色微粒子	細作り後繼續石臼転成整形。口縁部は複合状に肥厚する。	栗駒産
10-00310	須恵系 須恵系	C区表土層 破片	厚(1.3)	黒・赤・緑・灰・黒色微粒子・夾雜物少量	細作り後繼續石臼転成整形。割位に6×6mm単位の網を施して、平打ちする厚縁を施している。	栗駒産
10-00311	須恵系 須恵系	B区2層 破片	厚(8.8)	黒・赤・緑・灰・石灰質母片の・白色微粒子	細作り後繼續石臼転成整形。外面に4本一単位の鼠位網を施して、平打ちする厚縁を施している。	吉井産
10-00312	須恵系 須恵系	B区19層 覆土破片	厚(1.1)	黒・赤・緑・硝灰・白色微粒子	細作り後繼續石臼転成整形。外反しながら立ち上がる。外面に7×6mm単位の鼠位網を施している。	太田産
10-00313	須恵系 須恵系	C区4層 覆土破片	厚(1.0)	黒・赤・灰・灰白・白色微粒子・高品位石灰	細作り後繼續石臼転成整形。「く」に外反する。	栗毛産

遺構外出土遺物(7)

遺物番号 図面番号	遺物種類	出土層位 遺存層	数量 目 (g)	構成・色調・粘土 (石灰質は度目値)	形状・技法等の特徴	調査
10-00314	須恵系 須恵系	C区表土層 破片	厚(1.4)	黒・赤・灰・灰・夾雜物少量	細作り後繼續石臼転成整形。割位は複合状で欠損する。	栗駒産
10-00315	須恵系 須恵系	C区内 破片	厚(9.9)	黒・赤・灰・硝灰・白色微粒子・石灰質母片	細作り後印形整形。外面は印形素文。内面は素文か。外面は印形素文か。外面は印形素文か。外面は印形素文か。	栗駒産
10-00316	須恵系 須恵系	C区表土層 破片	厚(1.3)	黒・赤・灰・硝灰・白色微粒子・赤褐色微粒子	細作り後印形整形。外面は印形素文。内面は素文か。外面は印形素文か。外面は印形素文か。	吉井・栗駒産
10-00317	須恵系 須恵系	C区6層 大層	厚(1.3)	黒・赤・緑・硝灰・白色微粒子	細作り後印形整形。外面は印形素文。内面は素文か。外面は印形素文か。外面は印形素文か。	栗駒産
10-00318	須恵系 須恵系	C区内 破片	厚(1.1)	黒・赤・緑・硝灰・白色微粒子	細作り後印形整形。外面は印形素文。内面は素文か。外面は印形素文か。外面は印形素文か。	栗駒産
10-00319	須恵系 須恵系	B区北2層 破片	厚(8.8~1.2)	黒・赤・緑・灰・黒色微粒子	細作り後印形整形。外面は印形素文。内面は素文か。外面は印形素文か。外面は印形素文か。	秋田産
10-00320	須恵系 須恵系	C区内 破片	厚(1.2)	黒・赤・緑・硝灰・石灰質母片・石灰質母片・白色微粒子	細作り後印形整形。外面は印形素文。内面は素文か。外面は印形素文か。外面は印形素文か。	吉井産
10-00321	須恵系 須恵系	B区北2層 破片	厚(1.1)	黒・赤・緑・硝灰・夾雜物少量	粘土板成形か。詳細不詳。内面は素文か。	栗駒産
10-00322	須恵系 須恵系	B区2層 破片	厚(0.7)	黒・赤・緑・硝灰・白色微粒子	大層片の転用。隅丸形状に成形し、小口は小単位に整形している。外面は印形。内面は素文か。	栗駒産
10-00323	須恵系 須恵系	B区北2層 破片	径6.0 厚1.3 重55.3	黒・赤・緑・硝灰・白色微粒子・白色微粒子	大層片の転用。外面は平打ち。内面は素文か。	吉井・栗駒産
10-00324	須恵系 須恵系	B区2層 破片	径4.8 穴径0.5 厚1.5 重42.7	黒・赤・灰・灰白・白色微粒子・黒色微粒子	大層片の転用。外面は平打ち。内面は素文か。	秋田産
10-00325	瓦 瓦	C区2層 破片	厚(1.5)	黒・赤・緑・灰白・黄色微粒子	作りは不詳。本日は細かく、内面全体に網を施している。外面は鼠位の網で整形。転用に転用。	栗毛産

遺構外出土遺物(8)-1

遺物番号 図面番号	遺物種類	出土層位 遺存層	数量 目 (cm)	構成・色調・粘土 (石灰質は度目値)	形状・技法等の特徴	調査
10-00326	須恵系 須恵系	B区2層 破片	口(14.0)	黒・赤・緑・灰 物調=印形・ロープ灰	繼續成形石臼転。陶物方法は不詳。	
10-00327	須恵系 須恵系	B区2層 破片	口(15.4)	黒・赤・緑・灰 物調=透明	繼續成形石臼転。陶物方法は不詳。	
10-00328	須恵系 須恵系	B区2層 破片	口(16.2)	黒・赤・緑・灰 物調=ロープ灰	繼續成形石臼転。陶物は没損。	
10-00329	須恵系 須恵系	B区2層 破片	口(14.0) 底(7.2) 高5.6	黒・赤・緑・灰 物調=ロープ灰	繼續成形石臼転。胴部は凹面磨削りを施している。陶物は没損。投形は硝色磨りかすり出来なし。	
10-00330	須恵系 須恵系	B区2層 破片	口(12.0)	黒・赤・緑・硝灰 (石灰質母片) 物調=全中層位のあるロープ灰	繼續成形石臼転。陶物は硝色磨り。	特
10-00331	須恵系 須恵系	B区2層 破片	厚(0.3)	黒・赤・緑・灰 物調=透明	繼續成形石臼転。陶物は没損。	
10-00332	須恵系 須恵系	B区2層 破片	厚(0.3)	黒・赤・緑・灰 物調=ロープ灰	繼續成形石臼転。陶物方法は不詳。	
10-00333	須恵系 須恵系	B区北2層 破片	厚(0.4)	黒・赤・緑・灰 物調=ロープ灰	繼續成形石臼転。陶物方法は不詳。	
10-00334	須恵系 須恵系	調査区内 破片	厚(0.5)	黒・赤・緑・灰 物調=透明	繼續成形石臼転。陶物方法は不詳。	

遺構外出土遺物(8) - 2

遺物番号 採取番号	遺物種 式類	出土層位 遺存層	量目 (cm) (g)	焼色・色調・粘土 (石炭灰は黒目録)	形状・技法等の特徴	調査
10-00335	地輪陶器 灰輪 Ⅲ	C区内 破片	厚0.5	密・濃・緑・灰 胎調=透明	楕圓成形形右回転。施釉方法は不詳。	
10-00336	地輪陶器 灰輪 Ⅲ	B区2面 破片	厚0.3	密・濃・緑・灰 胎調=透明	楕圓成形形右回転。施釉方法は不詳。	
10-00337	地輪陶器 灰輪 Ⅲ	C区6層 破片	厚0.6	密・濃・緑・灰 胎調=透明	楕圓成形形右回転。施釉方法は不詳。	
10-00338	地輪陶器 灰輪 Ⅲ	A区7A本 土跡 破片	厚0.4	密・濃・緑・灰 胎調=透明	楕圓成形形右回転。施釉方法は不詳。	
10-00339	地輪陶器 灰輪 Ⅲ	B区2面 破片	厚0.35	密・濃・緑・灰 胎調=透明	楕圓成形形右回転。施釉方法は不詳。	
10-00340	地輪陶器 灰輪 Ⅲ	B区2面 破片	厚0.4	密・濃・緑・灰 胎調=厚いオリーブ灰	楕圓成形形右回転。施釉方法は不詳。	
10-00341	地輪陶器 灰輪 Ⅲ	B区2面 破片	厚0.4	密・濃・緑・灰 胎調=厚い灰緑	楕圓成形形右回転。施釉は刷毛塗り。	
10-00342	地輪陶器 灰輪 Ⅲ	A区7A本 土跡 破片	厚0.3	密・濃・緑・灰 胎調=透明	楕圓成形形右回転。施釉方法は不詳。	
10-00343	地輪陶器 灰輪 Ⅲ	B区2面 破片	厚0.25	密・濃・緑・灰 胎調=オリーブ灰	楕圓成形形右回転。施釉方法は不詳。	
10-00344	地輪陶器 灰輪 Ⅲ	C区2溝 破片	底(6.4)	密・濃・緑・灰 胎調は残存しない。	楕圓成形形右回転。施釉は刷毛塗り。	
10-00345	地輪陶器 灰輪 Ⅲ	C区16溝 破片	底(7.8)	密・濃・緑・灰 胎調=厚味の濃い灰緑	楕圓成形形右回転。施釉は刷毛塗り。	
10-00346	地輪陶器 灰輪 Ⅲ	B区北2面 破片	底(7.2)	密・濃・緑・灰 胎調=オリーブ灰	楕圓成形形右回転。施釉は刷毛塗り。	
10-00347	地輪陶器 灰輪 Ⅲ	B区2面 破片	底(6.8)	密・濃・緑・灰 胎調=厚味の濃いオリーブ灰	楕圓成形形右回転。施釉は刷毛塗り。	
10-00348	地輪陶器 灰輪 Ⅲ	B区2面 破片	底(7.2)	密・濃・緑・灰 胎調=オリーブ灰	楕圓成形形右回転。施釉方法は不詳。	
10-00349	地輪陶器 灰輪 Ⅲ	B区2面 破片	底(7.2)	密・濃・緑・灰 胎調=オリーブ灰	楕圓成形形右回転。施釉は段掛け。	
10-00350	地輪陶器 灰輪 Ⅲ	B区2面 破片	底(6.4)	密・濃・緑・灰 胎調=オリーブ灰	楕圓成形形右回転。施釉は段掛け。	
10-00351	地輪陶器 灰輪 Ⅲ	C区6層 破片	底(8.4)	密・濃・緑・灰 胎調は残存しない。	楕圓成形形右回転。施釉は刷毛塗り。	
10-00352	地輪陶器 灰輪 Ⅲ	B区10下水 土跡 破片	底(6.8)	密・濃・緑・灰 胎調は残存しない。	楕圓成形形右回転。施釉は刷毛塗り。	
10-00353	地輪陶器 灰輪 Ⅲ	B区2面 破片	底(6.4)	密・濃・緑・灰 胎調=白濁	楕圓成形形右回転。施釉方法は不詳。	

遺構外出土遺物(9) - 1

遺物番号 採取番号	遺物種 式類	出土層位 遺存層	量目 (cm) (g)	焼色・色調・粘土 (石炭灰は黒目録)	形状・技法等の特徴	調査
10-00354	地輪陶器 灰輪 Ⅲ	A区7A本 土跡 破片	底(7.0)	密・濃・緑・灰 胎調=オリーブ灰	楕圓成形形右回転。施釉は刷毛塗り。	
10-00355	地輪陶器 灰輪 Ⅲ	C区2溝 破片	底(6.0)	密・濃・緑・灰 胎調=厚味の薄いオリーブ灰	楕圓成形形右回転。施釉は刷毛塗り。	
10-00356	地輪陶器 灰輪 Ⅲ	C区2溝 破片	底(6.4)	密・濃・緑・灰 胎調は残存しない。	楕圓成形形右回転。施釉は刷毛塗り。	
10-00357	地輪陶器 灰輪 Ⅲ	B区19溝 土 破片	厚0.7 底(9.0+a)	密・濃・緑・灰 胎調は認められない。	楕圓成形形右回転。施釉は刷毛塗り。見こみに黒褐色文を 加している。	
10-00358	地輪陶器 灰輪 Ⅲ	C区6層 破片	厚0.3	密・濃・緑・灰 胎調=白濁	楕圓成形形右回転。施釉は刷毛塗り。焼成前の黒褐色文字 が残っているが判読不能。	
10-00359	地輪陶器 灰輪 Ⅲ	B区4溝 破片	厚0.4	密・濃・緑・灰 胎調=やや厚味のあるオリーブ灰	楕圓成形形右回転。施釉は刷毛塗り。	
10-00360	地輪陶器 灰輪 Ⅲ	B区2面 破片	厚0.4	密・濃・緑・灰 胎調=オリーブ灰	楕圓成形形右回転。施釉は刷毛塗り。	
10-00361	地輪陶器 灰輪 Ⅲ	B区2面 破片	厚0.5	密・濃・緑・灰 胎調=やや厚味のあるオリーブ灰	楕圓成形形右回転。施釉は刷毛塗り。	
10-00362	地輪陶器 灰輪 Ⅲ	B区北2面 破片	口(14.8) 底(7.2) 底(2.3)	密・濃・緑・灰 胎調=厚味のある灰緑	楕圓成形形右回転。施釉は刷毛塗り。	
10-00363	地輪陶器 灰輪 Ⅲ	B区2面 破片	口(16.2)	密・濃・緑・灰 胎調=厚味の濃いオリーブ灰	楕圓成形形右回転。施釉は刷毛塗り。	
10-00364	地輪陶器 灰輪 Ⅲ	B区2面 破片	底(7.0)	密・濃・緑・灰 胎調=厚味のある灰緑	楕圓成形形右回転。施釉は刷毛塗り。	
10-00365	地輪陶器 灰輪 Ⅲ	B区2面 破片	底(7.0)	密・濃・緑・灰 胎調=厚味のある灰緑	楕圓成形形右回転。施釉は刷毛塗り。	
10-00366	地輪陶器 灰輪 Ⅲ	A区表土層 破片	底(6.2)	密・濃・緑・灰 胎調=白濁	楕圓成形形右回転。施釉は刷毛塗り。	
10-00367	地輪陶器 灰輪 Ⅲ	C区表土層 破片	底(6.0)	密・濃・緑・灰 胎調=オリーブ灰	楕圓成形形右回転。施釉は刷毛塗り。	
10-00368	地輪陶器 灰輪 Ⅲ	B区2面 破片	底(7.8)	密・濃・緑・灰 胎調=厚いオリーブ灰	楕圓成形形右回転。高台は付け高台。	
10-00369	地輪陶器 灰輪 Ⅲ	B区2面 破片	口(12.6) 底(6.0) 底(2.1)	密・濃・緑・灰 胎調は残存しない。	楕圓成形形右回転。施釉方法は不詳。	
10-00370	地輪陶器 灰輪 Ⅲ	B区2面+ 表土層 破片	厚0.7	密・濃・緑・灰 胎調=見込み厚目のオリーブ灰	楕圓成形形右回転。施釉は刷毛塗り。	
10-00371	地輪陶器 灰輪 Ⅲ	C区内 破片	厚0.5	密・濃・緑・灰 胎調=厚い灰緑	楕圓成形形右回転。施釉は刷毛塗り。	
10-00372	地輪陶器 灰輪 Ⅲ	B区2面 破片	底(11.4) 底(8.2) 底(4.4)	密・濃・緑・灰 胎調=厚い灰緑	楕圓成形形右回転。施釉は刷毛塗り。	

## 富田塚田遺跡 諸元

## 遺構外出土遺物(9) - 2

遺物番号 図版番号	遺物類 遺物名	出土層位 遺存層	度量 目(cm) 目(g)	構成・色調・胎土 (石資料は厚目録)	形状・技法等の特徴	調査
10-00372	陶輪筒形 灰釉 瓦片	C区6層下 2面 破片	長(9.6) 短(7.0) 底(4.6)	密・黄・緑・灰白 胎土=オリーブ灰	縦軸成形形右回転。胎土は網毛塗り。	
10-00374	陶輪筒形 灰釉 瓦片	B区2面 破片	口(13.0)	密・黄・緑・灰白 胎土=オリーブ灰	縦軸成形形右回転。胎土は網毛塗り。	
10-00375	陶輪筒形 灰釉 変形瓦片	C区2面 破片	口(12.0) 縦径(33.0)	密・黄・緑・灰白/ 胎土=器内面上半は厚いオリーブ灰	継作り後横軸右回転成形。下半部は回転製陶。破片の図上復元。	

## 遺構外出土遺物(10)

遺物番号 図版番号	遺物類 遺物名	出土層位 遺存層	度量 目(cm) 目(g)	構成・色調・胎土 (石資料は厚目録)	形状・技法等の特徴	調査
10-00376	陶輪筒形 灰釉 瓦片	調査区内 破片	口(13.3)	密・黄・緑・灰白 胎土=オリーブ灰	縦軸成形形右回転。胎土は網毛塗り。	
10-00377	陶輪筒形 灰釉長形瓦片	B区23面 破片	口(8.8)	密・黄・緑・灰白 胎土=オリーブ灰	縦軸成形形右回転。胎土方法は不詳。	
10-00378	陶輪筒形 灰釉長形瓦片	B区2面 破片	口(12.0)	密・黄・緑・灰白 胎土=内面厚いオリーブ灰	縦軸成形形右回転。胎土は網毛塗り。	
10-00379	陶輪筒形 灰釉長形瓦片	B区2面 破片	口(11.3)	密・黄・緑・灰 胎土=濃い灰緑	縦軸成形形右回転。胎土は網毛塗り。	
10-00380	陶輪筒形 灰釉長形瓦片	B区2面 破片	口(11.30)	密・黄・緑・灰白 胎土=器内厚いオリーブ灰	縦軸成形形右回転。胎土は網毛塗り。	
10-00381	陶輪筒形 灰釉長形瓦片	調査区内 破片	厚(0.3)	密・黄・緑・灰 胎土は不詳	縦軸成形形右回転。胎土部分が認められない。器底面の可能性もある。不形器類。	
10-00382	陶輪筒形 灰釉長形瓦片	C区表土層 破片	厚(6.4)	密・黄・緑・灰 胎土は不詳	縦軸成形形右回転。胎土は表面面に施物されている。施物方法は不詳。	
10-00383	陶輪筒形 灰釉長形瓦片	C区内 破片	厚(0.5)	密・黄・緑・灰 胎土=器内面厚い灰緑	縦軸成形形右回転。胎土は網毛塗り。	
10-00384	陶輪筒形 灰釉長形瓦片	C区表土層 破片	厚(0.6)	密・黄・緑・灰 胎土=厚くくすんだオリーブ灰	縦軸成形形右回転。胎土は網毛塗り。	
10-00385	陶輪筒形 灰釉長形瓦片	B区2面 破片	厚(6.0)	密・黄・緑・灰白 胎土=厚いオリーブ灰	縦軸成形形右回転。胎土は浸漬け。	
10-00386	陶輪筒形 灰釉長形瓦片	B区23面 破片	厚(0.5)	密・黄・緑・灰 胎土=オリーブ灰	縦軸成形形右回転。胎土は浸漬け。	
10-00387	陶輪筒形 灰釉長形瓦片	A区内 破片	底(9.0)	密・黄・緑・灰白 胎土=オリーブ灰	縦軸成形形右回転。胎土は浸漬け。	
10-00388	陶輪筒形 灰釉長形瓦片	B区2面 破片	底(10.0)	密・黄・緑・灰 胎土=オリーブ灰	縦軸成形形右回転。胎土は浸漬け。	
10-00389	陶輪筒形 灰釉長形瓦片	B区2面 破片	底(14.0)	密・黄・緑・灰 胎土=オリーブ灰	縦軸成形形右回転。高台は付け付。施物は浸漬け。	
10-00390	陶輪筒形 灰釉長形瓦片	C区表土層 破片	厚(0.5)	密・黄・緑・灰 胎土=胎土は認められない。	縦軸成形形右回転。胎土方法は不詳。	
10-00391	陶輪筒形 灰釉 鉢	C区6層 破片	厚(0.7)	密・黄・緑・灰白 胎土=オリーブ灰	縦軸成形形右回転。胎土は網毛塗り。器形は大きく、表面面に施物する。	
10-00392	陶輪筒形 灰釉 壺	B区2面 破片	厚(0.6)	密・黄・緑・灰 胎土=器内厚いオリーブ灰	縦軸成形形右回転。胎土は網毛塗り。	
10-00393	陶輪筒形 灰釉 小壺	B区23面 破片	厚(0.5)	密・黄・緑・灰 胎土=オリーブ灰	縦軸成形形右回転。胎土方法は不詳。破片から図上復元。	
10-00394	陶輪筒形 灰釉長形瓦片	B区2面 破片	厚(0.6)	密・黄・緑・灰白 胎土=厚いオリーブ灰	縦軸成形形右回転。胎土は浸漬け。	
10-00395	陶輪筒形 緑釉 甕	C区6層 破片	厚(0.7)	粗・黄・緑・明黄緑・灰緑物少量	酸化焼成時の胎土色調が透けて見える。グミ状の黄色い部分も認められる。	
10-00396	陶輪筒形 緑釉 甕	B区2面 破片	厚(16.4)	粗・黄・緑・明黄緑 胎土=胎土は黄・緑黄色	酸化焼成時の胎土色調が透けて見える。縦軸成形形右回転。凡口・体部に研削を施し施物。	
10-00397	陶輪筒形 丹雘形	C区2面 破片	厚(14.0) (図22.0)	密・黄・緑・灰白 胎土=高麗石炭	口縁両面は、器は断面四角形状を呈する。明毛は13+α本を一部に、器内面は網毛で施す。今非施物点もみられる。	
10-00398	陶輪筒形 丹雘形	B区23面 破片	厚(1.9)	密・黄・緑・明黄緑・高麗石炭・汚れた胎土高麗石炭	11+α本一単位の縦位断面で施している。生地上は比較的滑んでいる。	
10-00399	陶輪筒形 丹雘形	C区2面 破片	厚(1.6) (図13.0)	中黄緑・黄・赤(粉)・明黄緑・シトロン・赤褐色胎土・白色胎土	12+α本一単位の縦位断面で施している。生地上はややシトロンで覆装見られる。	

## 遺構外出土遺物(1) - 1

遺物番号 図版番号	遺物類 遺物名	出土層位 遺存層	度量 目(cm) 目(g)	構成・色調・胎土 (石資料は厚目録)	形状・技法等の特徴	調査
10-00400 55	陶輪筒形 瓦片	C区表土層 破片	厚(1.7) (図18.0)	中黄緑・黄・赤(粉)・明黄緑・シトロン・赤褐色胎土少量	13+α本一単位の縦位断面で施している。前者とは赤褐色胎土を含むが若干特徴的相違点。	
10-00401 55	陶輪筒形 丹雘形	C区2面 破片	厚(1.4) (図16.0)	密・黄・緑(粉)・明黄緑・白色胎土	9+α本一単位の縦位断面で施している。器は四角形だが断面三角形状に近い。器(口)を概の頂上に穿つ。	
10-00402 55	陶輪筒形 丹雘形	17-5-18 破片	厚(1.4) (図15.0)	密・黄・緑(粉)・明黄緑・チャート内層・高麗石炭	14+α本一単位の縦位断面で施している。器は断面三角形状を呈する。	
10-00403 55	陶輪筒形 丹雘形	B区19面 破片	厚(1.4) (図16.0)	密・黄・赤・明黄緑・高麗石炭・白色胎土	11+α本一単位の縦位断面で施している。器は四角形。	
10-00404 55	陶輪筒形 丹雘形	B区64号土 破片	厚(1.1) (図20.0)	密・黄・赤・明黄緑・高麗石炭・高麗石炭	11+α本一単位の縦位断面で施している。器は断面四角形状を呈する。器の直下2.5角内を施す。	
10-00405 55	陶輪筒形 丹雘形	B区19面 破片	厚(1.5) (図20.0)	密・黄・赤(粉)・浅黄緑・黒色胎土・白色胎土	6+α本一単位の縦位断面で施している。器は断面四角形状を呈する。生地上は粘土化したローム土か。	
10-00406 55	陶輪筒形 丹雘形	C区表土層 破片	厚(1.1) (図20.0)	密・黄・赤・明黄緑・高麗石炭・白色胎土	6+α本一単位の縦位断面で施している。器は断面四角形状を呈する。器の直下2.5角内を施す。	
10-00407 55	陶輪筒形 形像小	C区19面 破片	厚(1.2) (図15.0)	密・黄・緑(粉)・灰白・白色胎土・白色胎土胎土	13+α本一単位の縦位断面で施している。器は断面四角形状を呈する。器直下に器(口)を穿つ。	
10-00408 55	陶輪筒形 丹雘形	C区2面 破片	厚(1.5) (図16.0)	密・黄・緑(粉)・明黄緑・白色胎土・高麗石炭	12+α本一単位の縦位断面で施している。器は概い断面四角形状を呈する。	

遺構外出土遺物①-2

遺物番号 図面番号	遺物種 器種	出土層位 層位・用途	量 目 (g)	構成・色調・胎土 (石炭灰は厚目)	形状・技法等の特徴	調査
10-0049 55	須輪 埴土 破片	C区7層 瓦葺	厚径1.9 径18.00	黒・紫・鉄・白・褐色・白色微粒子	21 $\times$ 5本一単位位の縦筋刷毛で施している。断面はクワガが凹ついている。	
10-00410 55	須輪 埴土 破片	C区16層 瓦葺	厚径1.8 (径18.90)	黒・紫・鉄・白・褐色・白色微粒子・高嶺石	22 $\times$ 5本一単位位の縦筋刷毛で施している。断面は三角形状を呈する。生地は粘土化したローム土。	
10-00411 55	須輪 埴土 破片	C区16層 瓦葺	厚径1.4 (径18.00)	黒・紫・鉄・黄・風化した高嶺石 高嶺石	17 $\times$ 5本一単位位の縦筋刷毛で施している。断面は扇形内形状を呈する。生地は粘土化したローム土。	
10-00412 55	須輪 埴土 破片	C区16層 瓦葺	厚径2.0 (径14.40)	黒 (紫・黄)・鉄・赤・褐色・風化した石灰・高嶺石	6 $\times$ 5本一単位位の縦筋刷毛で施している。胎土に行実質片が混入する。	吉井産
10-00413 55	須輪 埴土 破片	C区16層 瓦葺	厚径1.6 (径14.40)	黒 (紫・黄)・鉄・赤・褐色・風化した石灰・高嶺石	6 $\times$ 5本一単位位の縦筋刷毛で施している。断面は三角形状を呈する。胎土に行実質片が混入する。	吉井産
10-00414 55	須輪 埴土 破片	C区16層 瓦葺	厚径1.6 (径16.00)	黒 (紫・黄)・鉄・赤・褐色・風化した石灰・高嶺石	7 $\times$ 5本一単位位の縦筋刷毛で施している。断面は三角形状を呈する。胎土に行実質片が混入する。	吉井産

遺構外出土遺物②

遺物番号 図面番号	遺物種 器種	出土層位 層位・用途	量 目 (g)	構成・色調・胎土 (石炭灰は厚目)	形状・技法等の特徴	調査
10-00415 56	須輪 埴土 破片	C区3層 瓦葺	厚径1.3 (径14.00)	黒・紫・赤・黄褐色・黒色炭粉微粒子・石灰・粘石状白色粒子	16 $\times$ 5本一単位位の縦筋刷毛で施している。断面内は斜位の刷毛で施し、生地は粘土化したローム土。	
10-00416 56	須輪 埴土 破片	C区3層 瓦葺	厚径1.4 (径17.00)	黒・紫・鉄・褐色・石灰	20 $\times$ 5本一単位位の縦筋刷毛で施している。断面は三角形状を呈し、蓋の蓋下に内窪を穿つ。	
10-00417 56	須輪 埴土 破片	C区16層 瓦葺	厚径1.5 (径19.00)	黒・紫・赤・白・褐色微粒子・高嶺石	扇形の風化が著しい。断面は整形し認められない。断面は三角形状を呈し、蓋の蓋下に内窪を穿つ。	類例産
10-00418 56	須輪 埴土 破片	C区7層 瓦葺	厚径1.0 (径16.40)	黒・紫・赤・黄褐色・白色炭粉微粒子・高嶺石	9 $\times$ 5本一単位位の縦筋刷毛で施している。断面は三角形状を呈する。断面内は斜位の刷毛で施す。	
10-00419 56	須輪 埴土 破片	C区16層 瓦葺	厚径1.6 (径9.50)	黒・紫・赤・黄褐色・高嶺石・白色炭粉微粒子・白石灰	10 $\times$ 5本一単位位の縦筋刷毛で施している。断面内は斜位の刷毛で施す。	
10-00420 56	須輪 埴土 空形	C区4層 瓦葺	厚径1.3 (径14.60)	黒・紫・赤・黄褐色・赤褐色微粒子・高嶺石	14 $\times$ 5本一単位位の縦筋刷毛で施している。断面内は斜位の刷毛で施す。	
10-00421 56	須輪 埴土 破片	C区16層 瓦葺	厚径1.7 (径13.60)	黒・紫・赤・黄褐色・石灰・白色微粒子	刷毛の単位は短い。5 $\times$ 5本一単位位の縦筋刷毛で施している。断面内は斜位の刷毛で施す。	
10-00422 56	須輪 埴土 破片	B区19層 瓦葺	厚径2.4 (径18.00)	黒・紫・赤・黄褐色・白色粒子・黒色炭粉微粒子	刷毛の単位は短い。9 $\times$ 5本一単位位の縦筋刷毛で施している。生地は粘土化したローム土。	
10-00423 56	須輪 埴土 破片	C区5層 瓦葺	厚径1.6 (径10.80)	黒・紫・赤・黄褐色・白色粒子・黒色炭粉微粒子・石灰	18 $\times$ 5本一単位位の縦筋刷毛で施している。断面に施すに注意する。断面は基部と考える。	
10-00424 56	土製品 瓦葺土	C区2層 瓦葺	上径0.9 前径7.5 孔径0.9 高1.0	黒・黄・緑・白・白色微粒子・封じ炭粉	縦溝成形品と思われる。厚く成形されている。断面は厚く成形品。瓦葺の粗視上の可能性もある。	埼玉産か
10-00425 56	土製品 土	C区7層 瓦葺	高1.0 幅1.9 孔径0.5 高0.6	黒・紫・赤・黄褐色・黒色炭粉微粒子・高嶺石	柱状形を呈する。生地は粘土化したローム土。	埼玉産
10-00426 56	土製品 土	B区2層 瓦葺	高1.3 幅1.7 孔径0.3 高1.4	黒・紫・赤・黄褐色・黒色炭粉微粒子・高嶺石	柱状形を呈する。生地は粘土化したローム土。	埼玉産
10-00427 56	土製品 土	B区4層 瓦葺	高1.5 幅1.4 孔径0.5 高1.3	黒・紫・赤・黄褐色・黒色炭粉微粒子・高嶺石	柱状形を呈する。生地は粘土化したローム土。	埼玉産
10-00428 56	土製品 土	B区2層 瓦葺	高1.4 幅1.3 孔径0.4 高1.0	黒・紫・赤・黄褐色・黒色炭粉微粒子・高嶺石	内筒形を呈する。生地は粘土化したローム土。	埼玉産
10-00429 56	土製品 土	C区2層 瓦葺	高1.7 $\times$ 幅1.2 孔径0.3 高1.5	黒・紫・赤・黄褐色・黒色炭粉微粒子・高嶺石	柱状形を呈する。生地は粘土化したローム土。	埼玉産
10-00430 56	土製品 土	B区2層 瓦葺	高1.4 幅1.4 孔径0.3 高1.8	黒・紫・赤・黄褐色・黒色炭粉微粒子・高嶺石	柱状形を呈する。生地は粘土化したローム土。	埼玉産
10-00431 56	土製品 土	C区2層 瓦葺	上径1.0 前径3.3 孔径0.35 高1.1	緑石 (Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub> -Ca-F <sub>2</sub> -F <sub>2</sub> に伴う緑石)	緑石材質のため認め、筋線溝の磨損を懸念する。または、筋線溝とは異なる遺物か。	
10-00432 56	石製漆器品 刷毛	C区5層 瓦葺	高0.505 幅0.34 厚1.2 重5.37	滑石	筋溝。材質が破損のため、全体に厚薄する。孔部分は孔口の欠損か。	
10-00433 56	土製漆器品 刷毛	C区5層 瓦葺	高0.33 幅0.15 厚1.7 重1.35	滑石	平直。土質が硬く、縦溝成形が認められ、孔の位置からも丸筒形の可能性もある。	

遺構外出土遺物③-1

遺物番号 図面番号	遺物種 器種	出土層位 層位・用途	量 目 (g)	構成・色調・胎土 (石炭灰は厚目)	形状・技法等の特徴	調査
40-00042 鉄片	鉄片	C区6層 破片	残径3.1 幅7.7 厚0.7 重10		錆化が認め、凹状部が認められ、黒錆を呈する。且質の素材と考えられる。	
40-00043 鉄片	鉄片	C区6層 破片	残径2.8 幅8.5 厚0.5 重4		錆化が認め、断面は正方形を呈する。下縁は急激な角には欠損している。	
40-00044 鉄片	鉄片	C区16層 瓦葺	残径19.5 幅9.6 厚0.5		断面が有角になっている。縦筋面に筋の除去作業が行われたため断面不平。	
40-00045 鉄片	鉄片	C6層 瓦葺	残径3.4 幅6.0 残径2.0 幅2.0		断面は正方形になっている。縦筋面に筋の除去作業が行われたため断面不平。	
10-00434 土製品	土製品	C区8層 瓦葺	厚4.4 筒状 内径1.0 (5.6)	黒・紫・赤・鉄・粉・粒状状白色炭粉微粒子・白色微粒子・黒色炭粉微粒子	断面部に酸化ガラス質の付着が認められる。断面は還元が顕著。生地は粘土化したローム土。	
10-00435 土製品	土製品	C区6層 瓦葺	厚3.6 筒状 内径1.0 (9)	黒・紫・赤・鉄・粉・粒状状白色炭粉微粒子・白色微粒子・黒色炭粉微粒子	断面部に酸化ガラス質の付着が認められる。断面は酸化が顕著。生地は粘土化したローム土。	
10-00436 土製品	土製品	C区16層 瓦葺	厚1.3 筒状 内径1.0 (9)	黒・紫・赤・鉄・粉・粒状状白色炭粉微粒子・白色微粒子・黒色炭粉微粒子	断面部に酸化ガラス質の付着が認められる。断面は酸化が顕著。生地は粘土化したローム土。	
40-00049 鉄片	鉄片	B27層 瓦葺	高3.6 幅3.8 厚1.9 重16.4		小孔多く認め、磁力認められない。	
40-00050 鉄片	鉄片	B27層 瓦葺	高3.3 幅4.1 厚1.8 重16.8		小孔多く認め、磁力認められない。	
40-00051 鉄片	鉄片	B区3層 瓦葺	高5.9 幅4.9 厚1.1 重26.9		上面は長い下下面是比較的細かく凹凸。断面中に覆れて落下し、凹形状に広がったものと思われる。	
40-00052 鉄片	鉄片	C区16層 瓦葺	残径3.9 幅4.5 厚1.8 重17		凹中に断面が広がる比較的小孔 (幅1.3) を持つ。	

## 遺構外出土遺物①-1

遺物番号 図面番号	遺物類 名称	出土層位 ・ 存在	厚 目 (cm)	重量 目 (g)	構成・色調・胎土 (石質材質は付録)	形状・技法等の特徴	備 考
49-00053	鉄滓	C区4層 破片	厚4.9	長幅4.5 厚1.7 重42		國中裏面側が比較的脆力(脆力3)を呼ぶ。	
10-0434	縄文土器 土灰琺瑯鉢	C区4層 破片	厚0.8		黒・黄・赤・黄褐色・高嶺石黒・黒色 炭化物粒子・チャート片	口唇部は肥厚する。器内面は縁・肩位の敷で整形、外面は 縁位の敷で整形。器外面縁rを敷転する。	
10-0435	縄文土器 土灰琺瑯鉢	1溝覆土 破片	厚0.7		黒・黄・赤・黄褐色・高嶺石黒・黒色 炭化物粒子・粒石状白色粒子	口唇部は肥厚するが扁平状。器内面は縁・肩位の敷で整形。外面は 縁位の敷で整形。器外面縁rを敷転する。	
10-0436	縄文土器 土灰琺瑯鉢	27-O-1 破片	厚0.9		黒・黄・赤・黄褐色・中粒砂・粒石 状白色粒子	口唇部は肥厚する。器内面は縁・肩位の敷で整形。外面は 縁位の敷で整形。器外面縁rを敷転する。	
10-0437	縄文土器 土灰琺瑯鉢	C区1溝 覆土・破片	厚0.6		黒・黄・赤・黄褐色・細粒砂	器厚は薄い器内面は縁位の敷で、器外面は縁位の敷で整形し、 単軸rを敷転する。	
10-0438	縄文土器 土灰琺瑯鉢	4溝覆土 破片	厚0.6		黒・黄・赤・黄褐色・中密母アイソ ト・雲母	器厚は薄い器内面は縁位の敷で、器外面は縁位の敷で整形し、 単軸rを敷転する。	新阿見か
10-0439	縄文土器 土灰琺瑯鉢	C区 破片	厚0.7		黒・黄・赤・黄褐色・細粒砂	器厚は薄い器内面は縁位の敷で、器外面は縁位の敷で整形し、 単軸rを敷転する。	
10-0440	縄文土器 土灰琺瑯鉢	B区2面 破片	厚0.6		黒・黄・赤・黄褐色・細粒砂	器厚は薄い器内面は縁位の敷で、器外面は縁位の敷で整形し、 単軸rを敷転する。	
10-0441	縄文土器 土灰琺瑯鉢	B区2面 覆土・破片	厚0.6		黒・黄・赤・黄褐色・炭化物類(真 珠)	器厚は薄い器内面は縁位の敷で、器外面は縁位の敷で整形し、 単軸rを敷転する。	
10-0442	縄文土器 土灰琺瑯鉢	13号佐 覆土・破片	厚0.8		黒・黄・赤・黒色炭化物粒子・高嶺石 黒・含炭素(鉄状岩片)	口唇部は肥厚し、縄文乃至弥生時代の正体か認められる。外面 には薄い赤黄土、器内面には縁位に赤黄土を施す。	

## 遺構外出土遺物④

遺物番号 図面番号	遺物類 名称	出土層位 ・ 存在	厚 目 (cm)	重量 目 (g)	構成・色調・胎土 (石質材質は付録)	形状・技法等の特徴	備 考
10-0443	縄文土器 深鉢	B区北2面 破片	厚0.7		黒・黄・赤・黄褐色・形砂・白色粒子	口唇部は内反する。R-1器体の横転施文。	
10-0444	縄文土器 深鉢	27-O-16 破片	厚0.8		黒・黄・赤・黄褐色・含炭素・細粒 砂	口唇部は内反し、口唇部は尖る。外面は多軸L-r器体の横転 施文。11Hと同一一体。	
10-0445	縄文土器 深鉢	C区2溝覆 土破片	厚0.1.0		黒・黄・赤・黄褐色・白色炭粒子・石 黒・含炭素	外縁する口唇部の唇部が平坦。器外面はR-1器体の横転施 文。器内面は縁位の敷で。	
10-0446	縄文土器 深鉢	27-O-16 破片	厚0.9		黒・黄・赤・黄褐色・細粒砂・含炭 素	口唇部は内反し、口唇部は尖る。外面は多軸R-1器体の横転 施文。器内面は縁位の敷で施している。	
10-0447	縄文土器 深鉢	27-Q-7 破片	厚0.6		黒・黄・赤・黄褐色・含炭素・細粒 砂	口唇部は内反し、口唇部は尖る。外面は多軸L-r器体の横転 施文。器内面は縁位の敷で施している。	
10-0448	縄文土器 深鉢	3個立ビツ ト5破片	厚0.9		黒・黄・赤・黄褐色・粒石状白色粒子・ 含炭素	口唇部は内反し、口唇部は尖る。外面は多軸L-r器体の横転 施文。器内面は縁位の敷で施している。	
10-0449	縄文土器 深鉢	C区表土 破片	厚0.8		黒・黄・赤・赤褐色・白色粒子・含 炭素	L-r器体の類似形状。器内面は縁位の敷で整形。	
10-0450	縄文土器 深鉢	C区5溝 覆土・破片	厚0.8		黒・黄・赤・黄褐色・白色粒子・含 炭素	示状縄文を施文する。器内面は縁位の敷で整形している。	
10-0451	縄文土器 深鉢	49号佐 覆土・破片	厚0.1		黒・黄・赤・黄褐色・黒色炭化物粒子・ 白色粒子・含炭素	L-r器体の類似形状。器内面は縁位の敷で整形。	
10-0452	縄文土器 深鉢	27-Q-7 破片	厚0.7		黒・黄・赤・黄褐色・細粒砂	丸味を強く帯びて立ち上がる底部の割部には、R-1器体の横 転施文する。割部上から口唇部文様の境には、縁位に連続 的施文を施し、区画を認識している。口唇部文様は4単位 の断面図及び断面図に、縁位の半割部による区画境に竹 葉新施文を施し、胎文を施している。口唇部底下には連続 的施文を施している。	5点の同一 一体。
10-0453	縄文土器 深鉢	B区2面 破片	厚0.1		黒・黄・赤・黄褐色・含炭素・炭質物少 量	無施の縁部施文rの横転施文。器内面は縁位の敷で整形。	
10-0454	縄文土器 深鉢	B区2面 破片	厚0.1		黒・黄・赤・黄褐色・含炭素・白色 粒子・炭質物少	無施の器体rの横転施文。器内面は縁位の敷で整形。	
10-0455	縄文土器 深鉢	C区4溝 覆土・破片	厚0.1.2		黒・黄・赤・黄褐色・含炭素・炭質 物少量	多軸器体の横転施文を施文する。器内面は縁位の敷で施 している。	
10-0456	縄文土器 深鉢	B区2面 破片	厚0.1.2		黒・黄・赤・黄褐色・含炭素・白色 粒子・黒色炭化物粒子	無施の器体rの横転施文。器内面は縁位の敷で整形。	
10-0457	縄文土器 深鉢	B区3面 破片	厚0.1.1		黒・黄・赤・黄褐色・含炭素・炭質 物少量	単軸輪体器体rの横転施文。器内面は縁位の敷で整形。	437と同一 一体。
10-0458	縄文土器 深鉢	B区2面 破片	厚0.1.1		黒・黄・赤・黄褐色・含炭素・炭質 物少量	単軸輪体器体rの横転施文。器内面は縁位の敷で整形。	437と同一 一体。
10-0459	縄文土器 深鉢	表土層 破片	厚0.1		黒・黄・赤・黄褐色・形砂・高嶺 石黒	半割部管による縁位の突起施文を施し、縦線に「ハ」の字 状の連続施文。	
10-0460	縄文土器 深鉢	27-P-1 破片	厚0.9		黒・黄・赤・黄褐色・黒色炭化物粒子・ 白色炭粒子	口唇部は尖る。口唇部に平行して2本の連続的施文を施し、 下位は、斜位に帯び施文を施している。	
10-0461	縄文土器 深鉢	27-Q-7 破片	厚0.6		黒・黄・赤・黄褐色・細粒砂・赤褐色 粒子	4単位の波状口縁。口唇部は約2本の連続的施文を施し、 器内面から連続的施文と竹葉新施文を施す。	
10-0462	縄文土器 深鉢	27-Q-7 破片	厚0.7		黒・黄・赤・黄褐色・砂粒少量	4単位の波状口縁。口唇部は約3本の連続的施文を施し、 下位に胎文(?)を施す。	
10-0463	縄文土器 深鉢	27-Q-7 破片	厚0.7		黒・黄・赤・黄褐色・細粒砂	4単位の波状口縁。口唇部は約3本の連続的施文を施し、 下位に胎文を施す。	
10-0464	縄文土器 深鉢	27-P-6 破片	厚0.7		黒・黄・赤・黄褐色・細粒砂少量	R-1器体の横転施文。器内面は縁位の敷で整形。	
10-0465	縄文土器 深鉢	27-P-6 破片	厚0.7		黒・黄・赤・黄褐色・細粒砂	R-1器体の横転施文。器内面は縁位の敷で整形。	
10-0470	縄文土器 深鉢	27-Q-7 破片	厚0.7		黒・黄・赤・黄褐色・細粒砂・風化石 黒	R-1器体の横転施文。器内面は縁位の敷で整形。	吉井山土
10-0471	縄文土器 深鉢	B区2面 破片	厚0.6		黒・黄・赤・黄褐色・炭質物少量	「く」の字に類似する斜位帯の破片。縁位の波線の上にランパ ス文。口唇部に向かい山形状に区画区画を施す。	



## 遺構外出土遺物 (15)

遺物番号 調査番号	遺物種 類 名称	出土層位 遺 存 度	厚 度 目 (cm)	重量 目 (g)	構成・色調・胎土 (石漆材は塗目録)	形状・技法等の特徴	備 考
10-00472 ~00476	縄文土器 土器 破片	27-Q-7 破片	厚径0.7~0.8		灰・黒・灰・黄褐色・粗粒砂	丸味を強く帯びて立ち上がる底部から胴部は、R-1原体の横断断面とする。胴部上半から1/3部は縦文の境には、横文に連続した形文を施し、区画を強調している。口縁部文様は4単位に1段の厚み及び波状部等に、最位の半量竹管による浅彫文に竹管製文文を施し、胎骨文を施している。口部部下には連続した形文を施し、口部部には小単位に形文を施している。	5点の同一 個体
10-00477	縄文土器 土器 破片	2区表土層 破片	厚径0.8		灰・黒・灰・黄褐色・粗粒砂少量	地文にL-1原体を同軸施し、L-1原体を横断断面とする。器内面は横断断面とする。	
10-00478	縄文土器 土器 破片	B区2面 破片	厚径0.9		灰・黒・灰・黄褐色・砂粒・石瓦	連続形文を施文する。器内面は横断断面の態で施す。	
10-00479	縄文土器 土器 破片	27-O-4 破片	厚径0.7		灰・黒・灰・黄褐色・粗粒砂	地文の施文は認められない。器帯を横断断面に施す。	
10-00480	縄文土器 土器 破片	27-P-6 破片	厚径0.7		灰・黒・灰・黄褐色・粗粒砂・高石 器	地文にL-1原体を同軸施し、L-1原体を横断断面とする。	
10-00481	縄文土器 土器 破片	27-N-8 破片	厚径0.7		灰・黒・灰・黄褐色・粗粒砂	地文にR-1原体を同軸施し、L-1原体を横断断面とする。	
10-00482	縄文土器 土器 破片	27-P-7(10) 破片	厚径1.0		灰・黒・灰・黄褐色・ダイヤイト・粗 粒状白色胎子	器脚1原体を横断断面とし、L-1原体を横断断面とする。	
10-00483	縄文土器 土器 破片	27-N-8 破片	厚径0.8		灰・黒・灰・黄褐色・粗粒砂	地文にR-1原体を同軸施し、L-1原体を横断断面とする。	
10-00484	縄文土器 土器 破片	C区表土層 破片	厚径0.9		灰・黒・灰・黄褐色・粗粒砂	地文にR-1原体を同軸施し、L-1原体を横断断面とする。器 内の底文が認められる。	
10-00485	縄文土器 土器 破片	C区2面 破片	厚径0.7		灰・黒・灰・黄褐色・砂粒・白色胎 子	L-1原体の横断断面。	
10-00486	縄文土器 土器 破片	27-R-6 破片	厚径0.8		灰・黒・灰・黄褐色・高石瓦・白色胎 子	R-1原体の横断断面とし、竹管製文を縦断断面とする。	
10-00487	縄文土器 土器 破片	C区表土層 破片	厚径0.9		灰・黒・灰・黄褐色・砂粒・白色胎 子	地文にR-1原体を同軸施し、L-1原体を横断断面とする。器 内の底文が認められる。	
10-00488	縄文土器 土器 破片	27-R-6 破片	厚径1.0		灰・黒・灰・黄褐色・粗粒砂・粗粒 胎子	化粧による形文、化粧施に貝殻製縁文が認められる。器内 面は横断断面の態で施す。	器外 胎子
10-00489	縄文土器 土器 破片	C区16面 破片	厚径0.7		灰・黒・灰・黄褐色・金雲母	外側する口縁部の竹管製文が強く外反する。器内面は横断 断面の態で施す。	
10-00490	縄文土器 土器 破片	表土層 破片	厚径0.9		灰・黒・灰・黄褐色・白色胎子	口縁部は内側する。波状口縁の底部から胴部による横断断面 を施す。区画内にL-1原体をランダムに施文施す。	
10-00491	縄文土器 土器 破片	C区2面 破片	厚径1.2		灰・黒・灰・黄褐色・砂粒少量	口縁部は内側する。器帯部を施文施す。	
10-00492	縄文土器 土器 破片	C区4面 破片	厚径1.1		灰・黒・灰・黄褐色・砂粒少量	器帯を横断断面に施文し、R-1原体を横断断面とする。	

## 遺構外出土遺物②

遺物番号 調査番号	遺物種 類 名称	出土層位 遺 存 度	厚 度 目 (cm)	重量 目 (g)	構成・色調・胎土 (石漆材は塗目録)	形状・技法等の特徴	備 考
10-00493	縄文土器 土器 破片	B区2面 破片	厚径1.0		灰・黒・灰・黄褐色・砂粒・ダイヤ イト少量	器帯を横断断面に施文し、L-1原体を横断断面とする。	
10-00494	縄文土器 土器 破片	C区1面 破片	厚径1.0		灰・黒・灰・黄褐色・粗粒砂	器帯を横断断面に施文し、R-1原体を横断断面とする。	
10-00495	縄文土器 土器 破片	B区2面 破片	厚径1.2		灰・黒・灰・黄褐色・粗粒砂少量	横断断面を施文する。	器内 底
10-00496	縄文土器 土器 破片	C区3面 破片	厚径1.2		灰・黒・灰・黄褐色・ダイヤイト・石 瓦	斜紋に集合化粧を施す。器内面は横断断面の態で施す。	
10-00497	縄文土器 土器 破片	C区1面 破片	厚径1.2		灰・黒・灰・黄褐色・砂粒	内側部は口縁部に横断断面を施文し、下にL-1原体を横断断 面とする。器内面は横断断面の態で施す。	
10-00498	縄文土器 土器 破片	7-1-8 破片	厚径0.7		灰・黒・灰・黄褐色・粗粒砂	内側部は口縁部に形文を施す。地文にL-1原体を横断断 面とする。器内面は横断断面の態で施す。	
10-00499	縄文土器 土器 破片	B区2面 破片	厚径0.8		灰・黒・灰・黄褐色・夾雑物少量	胴部中にくびれを有する。縦位の横断断面内にL-1原 体を横断断面とする。器内面は横断断面の態で施す。	
10-00500	縄文土器 土器 破片	C区1面 破片	厚径0.9		灰・黒・灰・黄褐色・砂粒・石瓦	胴部中にくびれを有する。縦位の横断断面内にL-1原 体を横断断面とする。器内面は横断断面の態で施す。	
10-00501	縄文土器 土器 破片	B区2面 破片	厚径0.8		灰・黒・灰・黄褐色・粗粒砂・夾雑 物少量	胴部中にくびれを有する。縦位の横断断面内にL-1原 体を横断断面とする。器内面は横断断面の態で施す。	
10-00502	縄文土器 土器 破片	17-R-7 破片	厚径0.8		灰・黒・灰・黄褐色・粗粒砂・石瓦	内側の化粧区画にL-1原体の横断断面を施す。器内面は横断 断面の態で施す。	
10-00503	縄文土器 土器 破片	27-Q-8 破片	厚径0.6		灰・黒・灰・黄褐色・黄褐色紅石瓦 (出石)	三角形構成の強い浅彫文を施す。器内面は横断断面の態 で施す。	
10-00504	縄文土器 土器 破片	27-Q-6 破片	径11.4 厚径1.3 厚径1.5		灰・黒・灰・黄褐色・白色胎子少量・ 白色胎子少量	底面は直線的に立ち上がる。器内面は横断断面の態で施す。 器内面は横断断面とする。	
10-00505	縄文土器 土器 破片	C区1面 破片	径6.4 厚径1.8 厚径0.9		灰・黒・灰・黄褐色・白色胎子・ 高石瓦	内反直線に立ち上がる。器内面は横断断面の態で施す。	
10-00506	縄文土器 土器 破片	C区1面 破片	径(6.4)		灰・黒・灰・黄褐色・砂粒・石瓦・白色 胎子	底は厚い。文様の施文は認められない。	

## 遺構外出土遺物①

遺物番号 図面番号	遺物種類 器 形	出土層位 通 存 区	度 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は推定値)	形状・技法等の特徴	備 考
20-00048	打製石器 鏃	27-S-7 定形	残長2.5 幅1.0 厚0.0 重12.0	黒色安山岩	銅片製鋸面が表裏面に認められる。	
20-00049	打製石器 鏃	C区16編 部分欠損	残長2.5 幅1.8 厚0.3 重20.3	黒色安山岩	平鋭三角形短銃式。鏃状の片側・縁を欠損する。鏃状は磨理を面的に加工する「磨形鏃」である。	
20-00050	打製石器 鏃	C区表土層 定形	残長2.8 幅1.3 厚0.3 重1.17	チャート	角葉長平鋭三角形短銃式。銅片製鋸面が認められないが、二次加工の鋸鋸面の一部が認められる。	
20-00051	打製石器 鏃	C区1面 部分欠損	残長3.5 幅1.7 厚0.5 重18.9	黒色安山岩	有茎長平鋭三角形短銃式。銅片製鋸面の一部が表面に認められる。	
20-00052	打製石器 鏃	15号位置土 部分欠損	残長2.1 幅1.8 厚0.35 重1.01	黒色安山岩	角葉平鋭三角形短銃式。銅片製鋸面が表面に認められる。	
20-00053	打製石器 鏃	C区内 部分欠損	残長1.9 幅1.45 厚0.3 重0.88	チャート	角葉平鋭三角形短銃式。先端を欠損する。銅片製鋸面が表面に認められる。	
20-00054	打製石器 鏃	B区2面 部分欠損	残長2.1 幅1.7 厚0.35 重1.33	黒色頁岩	有茎平鋭三角形短銃式。欠損が2箇所認められ、欠損調整後再度欠損している。	
20-00055	打製石器 鏃	27-S-6 定形	残長2.7 幅2.5 厚0.8 重13.0	黒色頁岩	銅片製鋸面を用い、バルブ側を面部加工している。基部は銅片の磨理に準じ、延長の先に仕上げている。	
20-00056	打製石器 刮削	27-R-6 定形	残長7.7 幅2.2 厚1.0 重1.60	黒色頁岩	縦長の銅片素材の縁沿いを成形加工し、長辺側縁部に面部加工を施す。銅片製鋸面が表面に認められる。	
20-00057	打製石器 刮削	27-R-6 定形	残長7.7 幅2.2 厚1.0 重23.0	黒色頁岩	銅片素材を鋸に用いている。バルブ側を成形し、鋸鋸面の端部に面部加工している。磨理面を基部加工している。	
20-00058	打製石器 刮削	27-Q-7 定形	残長4.0 幅6.4 厚0.6 重13.9	黒色頁岩	銅片のバルブ側を基部にし、全体を磨理加工し成形している。銅片製鋸面が表面に認められる。	
20-00059	打製石器 刮削	27区内 定形	残長4.0 幅4.2 厚1.1 重15.0	珪化燧石	銅片製鋸素材の縁沿いに加えて、銅片製鋸面が表面面に認められる。	
20-00060	打製石器 刮削	27-R-7 定形	残長3.6 幅1.6 厚1.4 重26.0	黒色頁岩	バルブ側に基部にし、横長に加工している。銅片製鋸面が表面面に認められる。	

## 遺構外出土遺物②

遺物番号 図面番号	遺物種類 器 形	出土層位 通 存 区	度 目 (cm) 目 (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は推定値)	形状・技法等の特徴	備 考
20-00061	打製石器 刮削	27-S-7 定形	残長2.7 幅2.3 厚0.8 重17.9	黒色頁岩	縦長の銅片素材の縁沿いを成形加工し、長辺側縁部に面部加工を施す。銅片製鋸面が表面面に認められる。	
20-00062	打製石器 刮削	27-S-6 定形	残長3.0 幅6.3 厚0.6 重13.0	チャート	バルブ側に基部を構え、銅片製鋸面に面部加工を施す。銅片製鋸面の一部が表面面に認められる。	
20-00063	打製石器 刮削	27-R-6 定形	残長5.9 幅2.7 厚1.1 重47.0	黒色頁岩	全体に磨理加工を施す。銅片製鋸面の一部が表面面に認められる。	
20-00064	打製石器 刮削	27-S-6 定形	残長3.7 幅1.6 厚0.9 重5.0	黒色頁岩	銅片の両端部を加工し、銅片端部に面部加工を施す。面部加工は磨理加工を施す。銅片製鋸面が表面面に認められる。	
20-00065	打製石器 刮削	27-R-1 定形	残長4.0 幅2.9 厚1.3 重36.0	黒色頁岩	縦長片の端部に面部加工を施す。片側縁に及んでいる。銅片製鋸面の一部が表面面に認められる。	
20-00066	打製石器 刮削	27-S-6 定形	残長3.5 幅2.5 厚1.0 重11.0	黒色頁岩	両側縁に加工している。表面には一部、磨理は全面、銅片製鋸面が認められる。	
20-00067	打製石器 刮削	27-O-6 定形	残長5.7 幅1.9 厚0.9 重37.0	黒色頁岩	銅片製鋸面が表面面に認められる。表面には一部、磨理は全面、銅片製鋸面が認められる。	
20-00068	打製石器 刮削	27-R-9 部分欠損	残長5.4 幅1.6 厚0.7 重23.9	黒色頁岩	表面面での銅片製鋸面の方向が異なる。表面打点部に面部加工を施す。	
20-00069	打製石器 刮削	27-R-6 部分欠損	残長4.6 幅1.6 厚1.0 重31.0	黒色頁岩	銅片の縁沿いに面部加工を施す。表面に磨理を施し、表面に銅片製鋸面を施す。	
20-00070	打製石器 刮削	B区2面 部分欠損	残長4.5 幅1.6 厚1.5 重39.0	黒色頁岩	銅片端部側に面部加工を施す。表面に磨理を施し、表面に銅片製鋸面を施す。	
20-00071	打製石器 刮削	C区表面層 定形	残長7.3 幅2.0 厚1.1 重39.0	黒色頁岩	縦長片の縁沿いを加工し、表面に磨理、裏面に銅片製鋸面を施している。	
20-00072	打製石器 刮削	27-S-7 定形	残長5.6 幅1.6 厚0.9 重33.0	黒色頁岩	銅片製鋸面が表面面に認められる。銅片製鋸面に面部加工が認められる。銅片製鋸面の一部が表面面に認められる。	
20-00073	打製石器 刮削	27-S-6 定形	残長2.8 幅1.9 厚0.2 重145.0	黒色頁岩	銅片製鋸の端部側に面部加工を施す。表面は磨理、裏面に銅片製鋸面を施す。	
20-00074	打製石器 刮削	B区2面 定形	残長3.3 幅1.3 厚1.3 重32.0	黒色頁岩	銅片製鋸の端部側に面部加工が認められる。表面は磨理、裏面に銅片製鋸面を施す。	
20-00075	打製石器 刮削	27-S-6 部分欠損	残長0.7 幅1.5 厚0.5 重24.0	黒色頁岩	銅片製鋸面に面部加工を施す。先端を欠損する。	
20-00076	打製石器 刮削	27-R-2 定形	残長4.8 幅1.8 厚1.5 重39.0	黒色頁岩	銅片製鋸の端部側に一部に磨理が認められる。	
20-00077	打製石器 鏃	C区16編 鏃土 定形	残長4.0 幅1.3 厚1.5 重114.6	黒色頁岩	銅片製鋸面が表面面に認められる。銅片端部に面部加工を施している。磨理には面部構成が認められる。	
20-00078	打製石器 鏃	C区表土層 定形	残長4.8 幅1.5 厚1.5 重31.0	黒色頁岩	銅片製鋸の打点部に面部加工が認められる。表面は磨理、裏面に銅片製鋸面を施す。	
20-00079	打製石器 鏃	27-Q-6・ P,定形	残長4.8 幅1.5 厚1.1 重34.0	黒色頁岩	銅片製鋸の端部側に面部加工が認められる。表面は磨理、裏面に銅片製鋸面を施す。	
20-00080	打製石器 刮削	42区表土層 定形	残長4.0 幅1.7 厚2.4 重172.31	黒色頁岩	表面は磨理・銅片製鋸面を施すが、面部加工は認められないが、裏面はバルブ側に加工が施されている。	

## 遺構外出土遺物①

遺物番号 図説番号	遺物種類 器種	出土層位 遺存層	発見 目 (m) 目 (g)	構成・色調・胎土 (石素材は産地別)	形状・技法等の特徴	調査
20-00081	打製石器 ヘラ状石刃	31号住 覆土・完形	長1.4 幅3.4 厚2.2 重34.9	黒色安山岩	鎌形を獲す。三角形状に側縁加工を施している。摩滅・風化は認められない。	
20-00082	打製石器 ヘラ状石刃	36号住 覆土・完形	長1.7 幅4.1 厚1.7 重44.2	黒色頁岩	表面は礫面。裏面に割片剥離面を獲す。周縁に小単位に加工を施している。摩滅・風化は認められない。	
20-00083	打製石器 ヘラ状石刃	27-Q-7 完形	長3.3 幅5.1 厚2.4 重163.8	黒色頁岩	表面は礫面。裏面に割片剥離面を獲す。周縁加工は無い。摩滅・風化は認められない。	
20-00084	打製石器 ヘラ状石刃	57号住 覆土・完形	長3.8 幅5.2 厚2.9 重144.0	黒色頁岩	表面は礫面。裏面に割片剥離面を獲す。周縁に加工を施している。摩滅・風化は認められない。	
20-00085	打製石器 ヘラ状石刃	27-P-9 完形	長3.8 幅4.4 厚2.2 重79.1	黒色頁岩	磨形に加工し、表面面に割片剥離面を獲す。側縁・端部に加工を施す。摩滅・風化は認められない。	
20-00086	打製石器 ヘラ状石刃	27-S-6 完形	長9.2 幅6.3 厚1.8 重86.7	黒色頁岩	磨形に加工し、表面面に礫面、裏面に割片剥離面を獲す。側縁・端部に加工を施す。摩滅・風化は認められない。	
20-00087	打製石器 ヘラ状石刃	27-Q-7 完形	長3.8 幅6.6 厚2.3 重97.2	黒色頁岩	磨形に加工し、表面面に礫面、裏面に割片剥離面を獲す。側縁・端部に加工を施す。摩滅・風化は認められない。	
20-00088	打製石器 ヘラ状石刃	27-S-6 完形	長10.1 幅6.2 厚1.3 重89.4	黒色頁岩	磨形に加工し、表面面に割片剥離面を獲す。側縁・端部に加工を施す。摩滅・風化は認められない。	
20-00089	打製石器 ヘラ状石刃	27-P-8 完形	長11.3 幅5.4 厚2.4 重159.4	黒色頁岩	磨形に加工し、表面面に礫面、裏面に割片剥離面を獲す。側縁・端部に加工を施す。摩滅・風化は認められない。	
20-00090	打製石器 ヘラ状石刃	A区表土層 完形	長11.1 幅6.2 厚2.7 重173.0	黒色頁岩	磨形に加工し、表面面に礫面、裏面に割片剥離面を獲す。側縁・端部に加工を施す。摩滅・風化は認められない。	
20-00091	打製石器 ヘラ状石刃	27-S-6 完形	長10.3 幅6.0 厚2.8 重201.4	黒色頁岩	表面は礫面。裏面に割片剥離面を獲す。側縁の割削は磨形のみ認められる。摩滅・風化は認められない。	
20-00092	打製石器 ヘラ状石刃	27-Q-7 完形	長9.1 幅6.4 厚2.9 重119.3	黒色頁岩	同様に加工が認められる。打製石片状の加工であるが、側部の加工は重く、基部の厚手とは異なる。	

## 遺構外出土遺物 (20)

遺物番号 図説番号	遺物種類 器種	出土層位 遺存層	発見 目 (m) 目 (g)	構成・色調・胎土 (石素材は産地別)	形状・技法等の特徴	調査
20-00093	打製石器 ヘラ状石刃	27-Q-7 完形	長11.6 幅5.8 厚3.1 重229.8	黒色頁岩	表面は礫面を獲す。1次割削は無い。摩滅・風化は認められない。	
20-00094	打製石器 ヘラ状石刃	A区表土層 完形	長11.8 幅6.2 厚2.4 重200.0	黒色頁岩	表面は礫面。裏面に割片剥離面を獲す。裏面の周縁に加工を施している。摩滅・風化は認められない。	
20-00095	打製石器 ヘラ状石刃	A区表土層 完形	長13.1 幅6.5 厚1.6 重259.0	黒色頁岩	割片剥離面が表面面に認められる。1次くりは深く鋭かな割削加工は認められない。	
20-00096	打製石器 ヘラ状石刃	27-S-6 完形	長12.0 幅6.9 厚2.8 重197.8	黒色頁岩	表面は礫面。裏面に割片剥離面を獲す。裏面に片剥離面に加工が認められる。摩滅・風化は認められない。	
20-00097	打製石器 ヘラ状石刃	C区16層 覆土・完形	長1.6 幅6.6 厚1.8 重260	黒色頁岩	表面は礫面。裏面に割片剥離面を獲す。周縁は鋭い割削を施している。摩滅・風化は認められない。	
20-00098	打製石器 ヘラ状石刃	35号住 覆土・完形	長1.4 幅5.3 厚1.1 重31.5	黒色頁岩	表面は礫面。裏面に割片剥離面を獲す。全体は尖り作り。摩滅・風化は認められない。	
20-00099	打製石器 ヘラ状石刃	31号住 覆土・完形	長1.4 幅5.7 厚3.0 重306.9	黒色頁岩	表面は礫面。裏面に割片剥離面を獲す。全体は鋭い割削により構成されている。	
20-00100	打製石器 ヘラ状石刃	31号住 覆土・完形	長1.7 幅7.1 厚3.3 重247.7	黒色頁岩	表面は礫面。裏面に割片剥離面を獲す。側縁・下部は鈍外に割削加工を施している。摩滅・風化は認められない。	

## 遺構外出土遺物②

遺物番号 図説番号	遺物種類 器種	出土層位 遺存層	発見 目 (m) 目 (g)	構成・色調・胎土 (石素材は産地別)	形状・技法等の特徴	調査
20-00101	打製石器 ヘラ状石刃	27-P-7 完形	長1.9 幅7.5 厚2.4 重313.0	黒色頁岩	表面は礫面。裏面に割片剥離面を獲す。周縁加工は無い。摩滅・風化は認められない。	
20-00102	打製石器 ヘラ状石刃	38号住 覆土・完形	長19.7 幅7.1 厚3.1 重229.3	黒色頁岩	表面は礫面。裏面に割片剥離面を獲す。裏面に片剥離面に加工が認められる。摩滅・風化は認められない。	
20-00103	打製石器 ヘラ状石刃	C区表土層 完形	長5.4 幅6.0 厚2.4 重211.1	黒色頁岩	表面は礫面。裏面に割片剥離面を獲す。周縁は鋭い割削を施している。摩滅・風化は認められない。	
20-00104	打製石器 ヘラ状石刃	27-Q-6 完形	長9.6 幅5.4 厚2.1 重136.3	黒色頁岩	割片剥離面が表面面に認められる。側縁加工は比較的好い。摩滅・風化は認められない。	
20-00105	打製石器 ヘラ状石刃	27区内 完形	長1.9 幅5.2 厚2.9 重97.0	黒色頁岩	表面は礫面を獲す。比較のつくりは丁寧。摩滅・風化は認められない。	
20-00106	打製石器 ヘラ状石刃	27-L-6 部分欠損	長8.3 幅5.8 厚2.0 重114.2	黒色頁岩	表面は礫面。裏面に割片剥離面を獲す。周縁加工は中や平角、白石技法に施り磨削されていると考えられる。	
20-00107	打製石器 解離片	48区表土層 完形	長9.0 幅7.2 厚1.9 重138.1	黒色頁岩	割片剥離面が表面面に認められる。刃部加工は無い。摩滅・風化は認められない。	
20-00108	打製石器 ヘラ状石刃	42区表土層 完形	長13.1 幅6.3 厚3.2 重338.1	黒色頁岩	表面は礫面。裏面に割片剥離面を獲す。裏面の周縁に加工を施している。摩滅・風化は認められない。	

## 遺構外出土遺物②-1

遺物番号 図説番号	遺物種類 器種	出土層位 遺存層	発見 目 (m) 目 (g)	構成・色調・胎土 (石素材は産地別)	形状・技法等の特徴	調査
20-00109	短冊形打製石片	C区2区 覆土・完形	長12.3 幅7.7 厚1.6 重105.9	黒色頁岩	表面は礫面。裏面に割片剥離面を獲す。割片剥離面に側部の加工が認められる。形製上の可能性もある。	
20-00110	短冊形打製石片	D区30層 覆土・完形	長13.4 幅8.6 厚1.6 重125.6	輝緑岩(茨城県産)	表面は礫面。裏面に割片剥離面を獲す。裏面の加工部には油膜が認められる。注意喚起は要す。	
20-00111	磨形打製石片	A区内 完形	長11.8 幅4.7 厚1.2 重74.1	黒色頁岩	割片剥離面が表面面に認められる。側縁の加工は小単位で丁寧に仕上げられている。	
20-00112	磨形打製石片	B区2区 完形	長13.0 幅5.0 厚2.2 重148.8	黒色頁岩	刃部には礫面が認められる。摩滅部分の部分的に加工されている。	
20-00113	磨形打製石片	C区4区 覆土・完形	長14.1 幅8.3 厚2.6 重232.3	黒色頁岩	表面は礫面。裏面に割片剥離面を獲す。側部の摩滅が認められる。	
20-00114	磨形打製石片	47号住 覆土・完形	長12.9 幅4.9 厚2.6 重161.6	黒色頁岩	刃部に摩滅が認められ、表面面に再磨削1次剥離面が多い。側部の磨削は小単位で丁寧。	

## 遺構外出土遺物の①-2

遺物番号 図版番号	遺物種 類	出土層位 遺存層	寸法 目(cm) 量目(g)	構成・色調・胎土 (石製材は厚目録)	形状・技法等の特徴	備 考
20-00115	磨製打製石斧	C区4号井戸 完形	長11.4 幅6.2 厚1.8 重130.6	黒色頁岩	表裏面の割片剥離面には摩滅が認められる。全体の加工は摩滅後の再調整である。	
20-00116	打製石斧 ヘラ状石斧	27-P-5 完形	長13.3 幅5.4 厚1.7 重143.6	黒色頁岩	側面に加工し表面は礫面、裏面に割片剥離面を残す。側面・端部に加工を施す。厚縁・風化は認められない。	
20-00117	打製石斧末 製品 完形	C区表土層 完形	長13.2 幅5.2 厚1.8 重207.2	黒色頁岩	台石技法による割製後、両側面の台石技法による割製が認められる。刃部等は無い。未製品のまま棄置されている。	
20-00118	打製石斧	C区内 完形	長6.6 幅4.9 厚1.1 重38.9	黒色頁岩	全体が摩滅するが、厚縁より新しい割製(後部)も認められる。割製の状況から打製石斧とは見えない。	
20-00119	打製石斧 片断	27-P-8 完形	長17.2 幅4.8 厚1.2 重54.6	黒色頁岩	表面は礫面、裏面に割片剥離面が認められる。両側面に刃部加工を施す。下縁は当時の割製状態。	
20-00120	磨製打製石斧	B1区表土層 完形	長11.1 幅5.4 厚1.3 重142.4	黒色頁岩	表裏面の割片剥離面には摩滅が認められる。全体の加工は摩滅後の再調整である。	

## 遺構外出土遺物の②

遺物番号 図版番号	遺物種 類	出土層位 遺存層	寸法 目(cm) 量目(g)	構成・色調・胎土 (石製材は厚目録)	形状・技法等の特徴	備 考
20-00121	分製打製石斧	B区2面 完形	長6.7 幅7.1 厚1.8 重209.3	黒色頁岩	表面は礫面、裏面に割片剥離面を残す。2次加工の成形は丁寧である。厚縁は認められない。	
20-00122	分製打製石斧	外C区1号 埋護土	長10.8 幅7.0 厚2.8 重233.4	粗粒輝石状山岩	表面を残す。基部の割込みは割製でない。端部に小単位での打製が認められる。全体に作りは粗い。	
20-00123	分製打製石斧	A区内 部分欠損	残長9.5 幅7.8 厚2.4 重209.3	粗粒輝石状山岩	風化が顕著で、細部調整等は不明。表面は礫面、裏面に割片剥離面を残す。	
20-00124	分製打製石斧	A区内 完形	長12.3 幅7.1 厚1.9 重278.9	黒色頁岩	台石技法も、表面は礫面、裏面に割片剥離面を残す。基部の加工の明り目は1次割製の痕形が残る。	
20-00125	分製打製石斧	B区2面 完形	長9.4 幅7.8 厚1.7 重112.2	黒色頁岩	刃部に再加工の痕跡が認められるが、仕上げられた痕跡は少ない。基部残りからは始端の寸法が推定される。	
20-00126	分製打製石斧	C区5号 井戸 完形	長23.4 幅12.1 厚4.0 重1,431.3	実質安山岩	扁平な片断が素材。表面面に礫面を残す。1次加工は粗い。細部加工は粗粒程度。刃部を一様欠損する。	

## 遺構外出土遺物の③

遺物番号 図版番号	遺物種 類	出土層位 遺存層	寸法 目(cm) 量目(g)	構成・色調・胎土 (石製材は厚目録)	形状・技法等の特徴	備 考
20-00127	打製石斧 ヘラ状石斧	C区表土層 破片	残長6.7 残幅4.4 厚4.1 重124.7	黒色頁岩	側面をプラットフォームにし、両側面を広く割製している。裏面の割製端部の部分を小単位に加工している。	
20-00128	磨製 スチ ンク彫石斧	C区16号 埋土 破片	長10.1 幅7.4 厚4.5 重479.7	輝緑岩	片断を截断し、刃の部分は片断成形し、両取りを施している。上部は扁平打伐で欠損する。表面面に礫面を残す。	
20-00129	打製石斧 ヘラ状石斧	27-Q-6 完形	長10.4 幅6.8 厚3.8 重345.1	黒色頁岩	表面は礫面、裏面に割片剥離面を残す。台石技法による割製により、端部磨潰れた状態。未製品の。	
20-00130	磨製石斧 石斧	C区16号 埋土 破片	長13.9 幅5.2 厚2.6 重242.1	実質玄武岩	表面は礫面からの一部による割製も、全体に再調整の工程が疑い。集中打伐成形を施している。	
20-00131	石斧	12号位 1/2欠	残長7.8 幅4.0 厚2.4	実質玄武岩	側面に再調整の痕打痕形が認められる。	
20-00132	磨製石斧 石剣か石斧	B区2面 破片	残長10.2 幅4.1 厚1.5 重37.0	実質玄武岩	比較的扁平で幅にも変化が認められない。石剣の可能性が高い。	
20-00133	磨製石斧 石斧	B区1面 破片	残長8.5 幅5.1 厚2.5 重143.4	実質輝緑岩	片断状磨製石斧。刃部は鋭角。側面に成形時の集中打伐が残る。断面は一様に欠損。	
20-00134	石斧 磨製 石斧末製品	埋土内 破片	残長15.9 幅8.1 厚3.6 重336.30	実質玄武岩	素材を粗く成形し、端打成形を施している。	

## 遺構外出土遺物の④

遺物番号 図版番号	遺物種 類	出土層位 遺存層	寸法 目(cm) 量目(g)	構成・色調・胎土 (石製材は厚目録)	形状・技法等の特徴	備 考
20-00135	磨製 磨石	27-P-8 完形	長9.2 幅5.5 厚2.2 重204.5	実質安山岩	片断の平面面が摩滅する。磨打痕は認められない。	
20-00136	磨製 磨石	27-Q-6 完形	長9.9 幅5.3 厚2.9 重140.3	黒色頁岩	片断の平面面が摩滅し、端部に磨打痕が認められる。	
20-00137	磨製 磨石	C区 完形	長9.5 幅6.1 厚1.9 重140.0	粗粒輝石状山岩	片断の平面面が摩滅し、縁辺等に磨打痕が認められる。	
20-00138	磨製 磨石	C区表土層 完形	長12.8 幅10.6 厚3.7 重813.1	石英閃緑岩	片断の両面に磨製が施され、縁辺には集中打伐痕が認められる。	
20-00139	磨製 磨石	27-R-7 完形	長11.1 幅5.5 厚3.5 重583.0	片岩	片断の両面に磨製が施され、縁辺には集中打伐痕が認められない。	
20-00140	磨製 磨石	27-Q-6 完形	長13.4 幅7.1 厚3.7 重766.8	粗粒輝石状山岩	片断の平面面が摩滅し、側面・端部に磨打痕が認められる。	
20-00141	磨製 磨石	27-R-7 完形	長10.9 幅6.3 厚3.5 重372.8	粗粒輝石状山岩	平面面が摩滅し集中打伐痕・磨滅した凹欠が2箇所認められる。縁縁にも集中打伐痕が認められる。	
20-00142	磨製 磨石	27-R-6 完形	長15.9 幅7.5 厚4.5 重821.3	粗粒輝石状山岩	片断の側面中央部に集中打伐痕が認められる。上部に縁欠な磨打痕が認められる。厚縁・風化は認められない。	

## 遺構外出土遺物(函)

遺物番号 図版番号	遺物種 目	出土層位 存在層	長さ 目 (cm)	重量 目 (g)	焼成・色調・粘土 (石炭灰は黒目筋)	形状・技法等の特徴	備 考
10-00507	土師器 C区I内 破片	厚0.5			黒・紫・赤・黄褐色・黒色炭物粒子・ 白色粘土	内外面に黒書が認められるが文字の判読は不能。生地上は粘土化したローム土か。	遺構-7・8
10-00508	土師器 C区表土層 破片	厚0.5			紫・黒・赤・黄褐色・黒色炭物粒子・ 白色粘土	外面に黒書が認められるが文字の判読は不能。生地上は粘土化したローム土か。	遺構-9
10-00509	土師器 C区I内 破片	厚0.5			紫・黒・赤・黄褐色・黒色炭物粒子・ 白色粘土	外面に黒書が認められる。文字は「口」か。生地上は粘土化したローム土か。	遺構-10
10-00510	土師器 B区I内 破片	厚0.4			紫・黒・赤・黄褐色・黒色炭物粒子・ 白色粘土・黄褐色	外面に黒書が認められるが文字の判読は不能。生地上は粘土化したローム土か。	遺構-11
10-00511	土師器 B区I内 破片	厚0.6			紫・黒・赤・黄褐色・黒色炭物粒子・ 白色粘土	内面に黒書が認められるが文字の判読は不能。黒灰か。生地上は粘土化したローム土か。	遺構-12
10-00512	土師器 B区I内 破片	厚0.5			紫・黒・赤・黄褐色・黒色炭物粒子・ 白色粘土	外面に黒書が認められるが文字の判読は不能。生地上は粘土化したローム土か。	遺構-13
10-00513	土師器 B区I内 破片	口(12.2) 底(5.6) 高(4.4)			紫・黒・赤・黄褐色・黒色炭物粒子・ 白色粘土	外面に黒書が認められるが文字の判読は不能。内面には黒書二文字「取」が認められるが判読不能。	遺構-14・15
10-00514	土師器 B区I内 破片	厚0.7			紫・黒・赤・黄褐色・白色炭物粒子・ 黒色炭物粒子	縦線成形形石臼鉢。内外面に黒書が認められるが文字の判読は不能。	遺構-16 東米蔵
10-00515	土師器 C区I内 破片	口(13.2)			紫・黒・赤・灰白・黒色炭物粒子・ 透明	縦線成形形石臼鉢。外面に黒書が認められるが文字の判読は不能。	遺構-17 秋野産
10-00516	土師器 C区I内 破片	厚0.4			紫・黒・赤・黄褐色・黒色炭物粒子・ 白色粘土	内面に黒書が認められる。筆跡は勢いが認められるが文字の判読は不能。生地上は粘土化したローム土か。	遺構-18
10-00517	須恵器 B区I内 破片	底(5.6)			紫・黒・赤・灰白・黄褐色	縦線成形形石臼鉢。外面に黒書が認められるが文字の判読は不能。内面に横線(罫)が付着する。	遺構-19
10-00518	須恵器 B区I内 破片	底(5.2)			紫・黒・赤・灰白・黒色炭物粒子・ 少量・黒毛	縦線成形形石臼鉢。外面に黒書が認められるが文字の判読は不能。	遺構-20 東米蔵
10-00519	須恵器 C区I内 破片	厚0.5			紫・黒・赤・黄褐色・白色粘土・白 色炭物粒子	縦線成形形石臼鉢。内外面に黒書が認められるが文字の判読は不能。	遺構-21
10-00520	須恵器 B区I内 破片	厚0.5			紫・黒・赤・灰・縦線状白色炭物粒子・ 黒色炭物粒子	縦線成形形石臼鉢。内外面に黒書が認められるが文字の判読は不能。黒毛	遺構-22・23
10-00521	土師器 C区I内 破片	底(6.6)			紫・黒・赤・黄褐色・黒色炭物粒子・ 白色粘土	内面に黒書が認められる。文字は「田」かこれに類する文字。生地上は粘土化したローム土か。	遺構-24
10-00522	須恵器 B区I内 破片	底(6.6)			紫・黒・赤・灰・黒色炭物粒子・白色 粘土・炭物少量	縦線成形形石臼鉢。外面に黒書が認められるが文字の判読は不能。	遺構-25 東米蔵
10-00523	須恵器 B区I内 破片	底(7.6)			紫・黒・赤・灰・黒色炭物少量	縦線成形形石臼鉢。内外面に黒書が認められるが文字の判読は不能。	遺構-26・27
10-00524	須恵器 B区I内 破片	厚0.4			紫・黒・赤・灰白・黄褐色	縦線成形形石臼鉢。外面に黒書が認められるが文字の判読は不能。	遺構-28 東米蔵
10-00525	須恵器 C区I内 破片	厚0.7			紫・黒・赤・外周黒・内面灰白・黒 色炭物粒子・白色粘土	縦線成形形石臼鉢。内面に黒書が認められるが文字の判読は不能。	遺構-29
10-00526	土師器 B区I内 破片	厚0.6			紫・黒・赤・黄褐色・黒色炭物粒子・ 白色粘土	外面に黒書が認められるが文字の判読は不能。生地上は粘土化したローム土か。	遺構-30
10-00527	土師器 C区I内 破片	厚0.4			紫・黒・赤・黄褐色・黒色炭物粒子・ 白色粘土	外面に黒書が認められるが文字の判読は不能。吉片・藤岡産の土層部か。	遺構-31
10-00528	土師器 C区I内 破片	厚0.9			紫・黒・赤・黄褐色・黒色炭物粒子・ 白色粘土	外面に黒書が認められるが文字の判読は不能。生地上は粘土化したローム土か。	遺構-32
10-00529	須恵器 B区I内 破片	厚0.8			紫・黒・赤・黄褐色・白色炭物粒子・ 黒色炭物粒子	縦線成形形石臼鉢。内面に黒書が認められるが文字の判読は不能。	遺構-33 東米蔵
10-00530	須恵器 B区I内 破片	厚0.7			紫・黒・赤・灰白・白色炭物粒子・黒 色炭物粒子	縦線成形形石臼鉢。外面に黒書が認められるが文字の判読は不能。黒灰の可能性あり。	遺構-34 東米蔵
10-00531	須恵器 C区表土層 破片	厚0.5			紫・黒・赤・灰白・黒色炭物粒子・黒 色炭物少量	縦線成形形石臼鉢。外面に黒書が認められるが文字の判読は不能。	遺構-35 東米蔵
10-00532	土師器 B区I内 破片	底(7.6)			紫・黒・赤・黄褐色・白色粘土・黒 色炭物粒子	厚付け。底面黒。高台は黒い。内面に横線(罫)が付着する。	東米蔵
10-00533	須恵器 B区I内 破片	厚0.5			紫・黒・赤・外周黒・内面灰白・白 色炭物粒子・炭物少量	縦線成形形石臼鉢。外面に黒書が認められるが文字の判読は不能。	遺構-36 東米蔵

## 遺構外出土遺物(函)

遺物番号 図版番号	遺物種 目	出土層位 存在層	長さ 目 (cm)	重量 目 (g)	焼成・色調・粘土 (石炭灰は黒目筋)	形状・技法等の特徴	備 考
10-00534	須恵器 B区I内 破片	底(7.6)			紫・黒・赤・黄褐色・白色炭物粒子・ 黒色炭物粒子・白色粘土	縦線成形形石臼鉢。高台は黒い。見込みは黒書が認められるが文字の判読は不能。外周に横線が認められる。	遺構-37・38
10-00535	須恵器 B区I内 破片	底(5.6)			紫・黒・赤・黄褐色・白色粘土・炭 物少量	縦線成形形石臼鉢。高台は黒い。外面に黒書が認められるが文字の判読は不能。	遺構-39 東米蔵
10-00536	須恵器 B区I内 破片	底(6.4)			紫・黒・赤・灰白・白色粘土・白 色炭物粒子	縦線成形形石臼鉢。高台は黒い。外面に黒書が認められるが文字の判読は不能。生地上は粘土化したローム土か。	遺構-40 藤田産
10-00537	須恵器 B区I内 破片	底(6.2)			紫・黒・赤・黒・黒色炭物粒子多量・ 白色粘土	縦線成形形石臼鉢。高台は黒い。外周に黒書が認められるが文字の判読は不能。S39と同産地作り。丁部作作り。	遺構-41 東米蔵
10-00538	須恵器 B区I内 破片	底(7.2)			紫・黒・赤・黒・黒色炭物粒子多量・ 白色粘土	縦線成形形石臼鉢。高台は黒い。見込みは黒書が認められるが文字の判読は不能。S37と同産地作り。	遺構-42 東米蔵
10-00539	須恵器 B区I内 破片	底(6.2)			紫・黒・赤・黒・黒色炭物粒子多量・ 白色粘土	縦線成形形石臼鉢。高台は黒い。見込みは黒書が認められるが文字の判読は不能。S37と同産地作り。	遺構-43 東米蔵
10-00540	須恵器 C区I内 破片	厚0.6			紫・黒・赤・灰白・白色粘土・炭 物少量	縦線成形形石臼鉢。外面に黒書が認められるが文字の判読は不能。	遺構-44 東米蔵
10-00541	須恵器 B区I内 破片	底(7.8)			紫・黒・赤・灰 白・内面に横線(罫)が付着する	縦線成形形石臼鉢。高台は黒い。底面に黒書。文字は未判読。	遺構-45

## 富田漆田遺跡北側調査区遺構諸元

### 溝状遺構

#### 第12号溝状遺構

- 層序：(基準線標高値105.80m・106.40m)  
1. 黒色土：粒状C軽石含有・粒状ローム少量。

所見：当溝状遺構は、調査区の東斜面で横断する状態で、13号溝を切る状態で発見されている。当溝状遺構の底面は非常によく硬化していたので道跡と考えられる。時期は覆土の状態、出土遺物から9世紀から10世紀頃と判断できる。

#### 第13号溝状遺構

- 層序：(基準線標高値106.20m・106.30m)  
黒色土：粗粒状C軽石含有・粒状C軽石多量・炭化物少量。

所見：当溝状遺構は、調査区の東斜面で台地に平行する状態で12号溝を切られる状態で発見されている。当該溝状遺構に平行して、5世紀末頃の住居跡が2基発見されている。そして、覆土の状態は、5世紀の住居跡の覆土に類似し粗粒状C軽石を多く含む。また出土遺物では住居跡と同時期の遺物が出土している。このことから、当該の溝状遺構は住居跡と並存していたことが推定される。この並存の意義は、斜面立地の住居跡を雨水から保護する目的で構築されたものと推定される。

#### 第18号溝状遺構

- 層序：(基準線標高値103.20m・103.40m・104.20m)  
1. 黒色土：As-B多量・粗粒状ローム少量。 2. 黒色土：As-B多量・塊状ローム少量・粗粒状ローム少量。  
3. 黒色土：As-B多量・粗粒状ローム微量。 4. 黒色土：As-B多量・粗粒状ローム多量・粒状ローム多量。  
5. 黒色土：As-B多量・粒状ローム含有。 6. 黒色土：As-B多量・粗粒状ローム含有・粒状ローム混入。  
7. 黒色土：As-B多量・塊状ローム混入・粗粒状ローム多量。 8. 1近質。 9. 黒灰色土：As-B多量・粗粒状ローム若干。  
10. 黒灰色土：As-B多量・塊状褐色土若干。 11. 黒色土：As-B多量・塊状ローム混入・粗粒状ローム混入。  
12. 黒色土：As-B多量・塊状ローム微量。 13. 塊状ローム主体(壁の崩壊土か)。 14. 黒灰色土：As-B多量・地山礫層土含有。  
15. 黒色土：As-B多量・塊状ローム含有。 16~18. 地山土の崩落土。 19. 黒色土：As-B多量・砂含有。  
20. 灰褐色土：塊状ローム少量・砂主体。 21. 黒色土：As-B多量・鉄分含有・灰色砂含有。  
22. 黒色土：As-B多量・塊状灰色地山土混入。 23. 灰色砂層。 24. 灰褐色シルト質土。 25. 黒色土：As-B多量・砂粒混入。  
26. 灰黄褐色シルト質土。 27. 灰褐色土砂層。 28. 黒色土：As-B多量・赤褐色・橙色地山土多量。  
29. 黒色シルト質土：As-B微量。 30. 砂礫層。

所見：当溝状遺構は、台地の斜面直下から掘り込まれている。走行方向は大泉坊川の流路に向かい直行方向で調査区外域へ延びている。

この低地部分の県道南側部分では同規模乃至より大規模なC・B4号溝が発見されている。この溝状遺構も台地の縁辺部から発しており、低地部内で方向を90度転換して北側に向かう状態で走行している。この南北走する部分に当該溝状遺構が合流するか、方向を南北走に転換して県道南側の4号溝と同一遺構として構築された可能性も考えられる。

時期は、As-Bの混入状態と黒色土の状態から中世後半頃と推定される。

#### 第19号溝状遺構

所見：当溝状遺構は、低地部で発見されている。発見規模が短いため詳細不詳である。時期は覆土が砂質黒褐

色土であったことから、近世から近代と考えられる。後述の20・21号溝と同時期と考えられる。

#### 第20号溝状遺構

所見：当溝状遺構は、低地部で21号溝と併走する状態で発見されている。性格は、平面形状が地形とは逆の状態であらうことから、水路とは考え難い。耕地の区画とも思われるが不分明である。時期は覆土の砂質黒褐色土の状態から、近世から近代の頃と推定される。また、21号溝は同時存続していた可能性が考えられる。

#### 第21号溝状遺構

所見：当溝状遺構は、低地部で20号溝と併走する状態で発見されているが、20号溝同様に性格に就いては不分明である。時期はほぼ変わらないか、同時存続していた可能性が考えられる。

### 住居跡

#### 第1号住居跡

位置：5地区-28-O-20/38-O-1グリッド。形状：矩形か。規模：2.94m×3.25m。主軸方位：北-124度→東。構築基準辺：不詳。電規模：全長1.02m×袖部幅1.12m×燃焼部幅0.57m。

層序：(基準線標高値107.00m)

13. 黒褐色土：粒状C軽石含有。 14. 黒褐色土：粒状C軽石少量。 15. 黒褐色土：粒状C軽石含有・焼土粒少量。  
16. 黒褐色土：粒状C軽石少量・焼土粒少量・被熱ロームブロック少量。 17. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状焼土少量・焼土粒含有。  
18. 赤褐色土：ロームブロック・塊状暗褐色土塊状混入。

所見：当住居跡は54・55号住に切られている。確認時には当該住居跡の電のみが確認され、54・55号住の電は確認出来なかった。このことから当初は1軒の住居跡と見て調査着手したが、調査の進行に伴い54住居跡との切りあい、続いて55住居跡との切りあい関係が認められた。電は外側に突出する状態のP<sub>1</sub>に接している。この状況は、電の位置による制約が外側に突出せざるを得ない状況であったことが推定される。このことは、構築当初段階では、P<sub>1</sub>の構築は考慮されていなかったことが類推される。また、この南隅部の突出状態を除外すれば、住居跡の形状は比較的均整の取れた状態になり、電は隅部に接する状態で構築意思が決定していることが推定される。

出土遺物は少量のみで細片化した状態であった。これらの遺物から当該住居跡の時期を推定するのは困難でもあるが、概ね9世紀後半までの時期が推測される。また、10-00575は上位住居跡に当たる55住居跡に伴う遺物と考えられる。住居跡の形状は傍電坑も認められるものの、調査を通じて、傍電坑を伴う住居跡の在り方を観察したが、明瞭な分類基準になる要件として結論出来なかった。此の事を踏まえ、出土遺物からの9世紀後半という時期に就いても推定の域を出ない。

#### 第2号住居跡

位置：5地区-28-N-O-19・20グリッド。形状：横長方形。規模：3.38m×4.12+α m。主軸方位：北-119度→東。構築基準辺：西壁か。電規模：全長1.00m×袖部幅1.10+α m×燃焼部幅0.40m。

層序：(基準線標高値107.20m)

9. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状褐色土含有。 10. 黒褐色土：粒状C軽石少量。  
11. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状褐色土含有。 12. 黒褐色土：粒状C軽石少量・粒状ローム混入。  
13. 黒褐色土：粒状C軽石含有・焼土粒混入・ロームブロック少量・粗粒状炭化物少量・粗粒状焼土含有。  
14. 黒褐色土：粒状C軽石少量・ロームブロック含有・粒状ローム多量。

15. 黒褐色土：塊状灰黄褐色粘土混入・焼土粒混入・塊状焼土含有・粗粒状炭化物混入。  
 16. 黒褐色土：粒状C軽石微量・ロームブロック少量・粒状ローム少量。 17. 被熱土。 18. 黒褐色土・塊状焼土・灰の混土。  
 19. 黒褐色土：粒状C軽石含有・焼土粒微量。 20. 塊状焼土。  
 21. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状焼土含有・焼土粒混入・ロームブロック少量。 22. 黄褐色粘土。 23. 黒褐色土：硬質粘質土。  
 24. 黒褐色土：焼土粒混入・塊状黄褐色粘土少量・粗粒状炭化物含有。  
 25. 黒褐色土：粒状C軽石含有無・粒状ローム少量・粒状黄褐色粘土少量。 26. 塊状灰褐色土。  
 27. 塊状灰褐色土・粗粒状ローム含有・粗粒焼土含有。 28. 黒褐色土：微粒状C軽石微量・粗粒状ローム含有・ロームブロック少量。  
 29. 焼土黒褐色土：粒状C軽石少量・ロームブロック混入・塊状黄褐色粘土含有。

所見：当住居跡は53号住に切られる。確認段階は1号住の電の煙道が北隅部で切りあう以外には、ほぼ単独住居跡と考えられたが、調査中に調査区界の壁面を精査した結果、竈と考えられる竈・被熱層・焼土粒等を確認した。この竈と考えられる部分と、2号住の覆土上層の単一層を以って53号住と認定した。

当住居跡は顕著な掘方は認められなかった。掘方とするのはP<sub>1</sub>の土坑状の掘り込みのみと電の掘方のみであった。竈は、壁材に地山礫を多用し、右燃焼部壁で3段2列、左壁では1段2列。煙道天井部にやはり礫を用いており、この礫を架けるための礫を門柱上に奥壁部分に立ち上げている。燃焼部の両壁は被熱による赤色変化が顕著であった。煙道部は、土師器臺が入れ子状態で掘え、出土した窠は4個体を数える。燃焼部の両壁は被熱による赤色変化が顕著であった。また掘方では、焚口部の直下に改築時掘り込みの痕跡が土層断面で確認されている。

出土遺物では、当遺跡生産と考えられる10-00585・10-00586が上述土師器臺と相伴している。最も古い時期での相伴関係が成立している。この土師器臺は、「コ」の字状口縁を呈し、9世紀中頃を中心盛期として捉えることが出来る遺物であることから、当該住居跡の時期をこの9世紀中頃と考えられる。また、当遺跡生産の2点の須恵器坏は、量産段階の胎土と異なる閑窯段階の胎土の製品である。

### 第3号住居跡

位置：5地区—38—N—20/38—L・N—1グリッド。 形状：横長方形。 規模：3.76m×4.22m。 主軸方位：北—115度→東。 構築基準辺：不詳。 第1竈規模：全長1.26m×袖部幅0.75m×燃焼部幅0.60m。 第2竈規模：全長1.30m×袖部幅0.64m×燃焼部幅0.6m。

層序：(基準線高値107.10m)

1. 黒褐色土：粗粒状C軽石含有粒状ローム少量。 2. 黒褐色土：粒状C軽石少量。 3. 黒褐色土：細粒状C軽石微量。  
 4. 黒褐色土：粒状C軽石少量・粒状焼土混入・ロームブロック少量。  
 5. 黒褐色土：細粒状C軽石少量・粒状焼土混入・塊状焼土少量・ロームブロック含有。 6. 黒褐色土：細粒状C軽石少量・攪乱多。  
 7. 黒褐色土：細粒状C軽石少量・塊状焼土混入・ロームブロック変状混。 8. 黒褐色土・塊状焼土・ロームブロックの混土。  
 9. 粘床（ロームブロック主体）。 10. 黒褐色土：粒状C軽石微量・ロームブロック変状少量。  
 11. 黒褐色土：粒状C軽石少量・ロームブロック変状少量。

所見：当該住居跡は、耕作等の攪乱により西壁側を失っている→東壁隅部周辺では壁溝様の落ち込みが認められている。竈は東壁・南東隅部での2箇所で見られている。この二者の竈は、北寄りの東壁に構築された電（第1竈）は埋め戻されていた。南東隅部の電（第2竈）は住居の廃棄段階まで使用されている。この事からも、東電から南東隅部電への電構築位置の変遷が窺える。この電の位置の形態では9世紀末～10世紀初頭であろうが、出土遺物の時期が異なっている。

出土遺物では、口縁整形に「コ」の字状口縁の特徴である口縁下部の強い整形が窺える10-00596があり、9世紀でも初め頃の技法特徴が認められる。須恵器では、埴10-00600の高台取り付けが坏部の底部内面側に付けており、実際より底径の小さい心象を受ける。また、10-00603が破片化していることから、廃棄段階は10-00599・00600が示す、9世紀前半と考えられる。



住居跡形態と遺物の時期差がこれ程に隔絶しているのは当住居のみである。ここでは、遺物の年代観で当住居の年代としておきたい。

#### 第4号住居跡

位置：5地区-28-N・O-19・20グリッド。形状：横長方形。規模：(3.65m)×5.30m。主軸方位：北-108度→東。構築基準辺：不詳。電規模：全長0.56m×袖部幅1.10m×燃焼部幅0.45m。

層序：(基準線標高値107.40m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石混入・表土層混入。
2. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状焼土多量。
3. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状焼土混入・粒状焼土多量。
4. 塊状焼土主体。
5. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状焼土混入・粒状焼土多量。
6. 黒褐色土：粒状C軽石少量・粗粒状ローム。
7. 黒褐色土：粒状C軽石少量・粒状ローム混入・発色は茶褐色。

所見：当住居跡は切りあい関係の認められない単独住居跡であるが、耕作等の攪乱により西壁側を失い残存状態は悪い。しかし、出土遺物は豊富で、電周辺を含め多数の遺物が出土し完形個体も多い。特に注目されるのは、P<sub>1</sub>内出土の個体と電掘方内出土の破片が接合している。竈は、燃焼部中央に燃焼部を塞ぐ形で大きい隙を据え、この隙の手前には支脚と考えられる礎が設置されている。これは、燃焼部での熱効率が礎を設置しなければならぬ状態であった事を示している。則ち、電の最終改築が失敗していたか、器設に掛ける主体物(土器)に変化があった事を示唆している。また、左右両袖は燃焼部礎の部分まで礎を多用した造りになっている。

出土遺物では、須恵器環・埴類が非常に豊富で、当遺跡生産の物が主体を占めており、羽釜の共伴も特徴である。上述の電の構造変質は此の羽釜に起因する可能性も推測させている。住居跡の時期はやはり9世紀末～10世紀初頭と考えられる。

#### 第5号住居跡

位置：5地区-28-K・L-19・20グリッド。形状：矩形。規模：2.67m×3.14m。主軸方位：北-120度→東。構築基準辺：不詳。電規模：全長0.70m×袖部幅1.10m×燃焼部幅0.50m。

層序：(基準線標高値107.90m)

1. 黒褐色土：細粒状C軽石少量・ロームブロック含有。

所見：当住居跡は西側斜面で6号住が近接するが、切り合い関係の認められない単独住居跡である。しかし、後世の攪乱に因り殆どが失われていた。このため、実測図は掘方面での状態である。図中の断面ポイントBの位置で突出する状態の土坑状の掘り込みは、電の掘方で北東隅に寄った電を構築する以前の電と思われる。住居の掘方では、土坑状の掘り込みが認められるが、P<sub>2</sub>は貯蔵穴等の住居施設の一つと思われる。

出土遺物も、住居跡の遺存が不良であったことから非常に少なかった。図示出来たのは土器「コ」の字状口縁裏2点である。10-00639は「コ」の字表出に口縁中段に棒状の工具を用いているのが特徴である。時期の確定は困難であるが、遺物からの年代は概ね9世紀代であろうことは推定されるが、住居跡形態では、9世紀末～10世紀初頭頃と思われる。

#### 第6号住居跡

位置：5地区-38-L-1グリッド。形状：横長方形。規模：3.00+ $\alpha$ m×4.48m。主軸方位：北-116度→東。構築基準辺：不詳。電規模：全長0.90m×袖部幅1.00m×燃焼部幅0.46m。

層序：(基準線標高値108.00m)

1. 黒褐色土：細粒状C軽石少量。粒状ローム含有。

所見：当住居跡は5号住に近接する。切り合い関係の認められない単独住居跡である。当住居も5号住同様に遺存は非常に悪い。住居は比較的均整の取れた形状をしているものの、西側を失っているため詳細不詳である。

出土遺物は住居跡の遺存が悪かったものの、10-00641・00642・00643は電覆土下層・床面直上・床面直上層で出土している。また、破損している鎌40-00056の基部が出土している。この欠損状態は40-00055も同様で、大身の反りの強い鎌という特徴が共通点である。住居跡の時期は土師器坏から9世紀前半と推定される。

#### 第7号住居跡

位置：5地区-38-K・L-5・6グリッド。形状：不詳（矩形か）。規模：3.48+ $\alpha$ m×3.70m。主軸方位：北-108度→東。構築基準辺：不詳。竈：未発見。

層序：（基準線標高106.70m）

1. 黒褐色土：ロームブロックの混土・塊状焼土若干。

所見：当若住居跡は西斜面で土取りによる擾乱により、遺存状態は甚だ悪い。確認段階では、床面が確認面に露呈しており、竈も失われ、調査実施出来たのは掘方だけであった。掘方は土坑状の掘り込みが多いのが特徴で、P<sub>4</sub>は底面と壁面下半に塊状黄褐色粘土を厚さ1～3cm程が貼られてあった。

出土遺物は住居跡の遺存が非常に悪かったことから自ずと少なく、図示可能な個体すべてを掲載した。時期は出土遺物からは9世紀後半～10世紀初頭頃と思われる。

#### 第8号住居跡

位置：5地区-38-J-7グリッド。形状：不詳。規模：2.02+ $\alpha$ m×2.80m。主軸方位：北-124度→東。構築基準辺：不詳。竈規模：全長0.90m×袖部幅0.64m×燃焼部幅0.34m。

層序：（基準線標高107.10m）

1. 黒褐色土：細粒状C軽石少量・粒状焼土多量・粗粒状炭化物混入。
2. 黒褐色土：微粒状C軽石若干。
3. 黒褐色土：粒状C軽石含有。
4. 黒褐色土：細粒状C軽石微量・塊状焼土混入。
5. 黒褐色土：微粒状C軽石微量・粒状焼土若干。
6. 5回貫。
7. 黒褐色土：細粒状C軽石若干・塊状焼土含有・粒状焼土混入・粗粒状炭化物含有。
8. 黒褐色土：細粒状C軽石微量・粒状ローム若干。

所見：当住居跡は西側斜面に構築されており、後世の擾乱により？を失っている。住居は床面直上に於いて多量の塊状焼土・炭化材が出土していることから、火災住居跡と判断される。

出土遺物は残存不良な住居跡にも拘わらず比較的豊富である。また、その出土状態も良好であり、遺物は住居跡内の床面の東側に集中している。竈内では土師器壺10-00650・羽釜10-00655がある。土師器壺は既に「コ」の字状口縁ではなく緩やかに外反して立ち上がる口縁を呈している。頸部直下は横位の笥削り、胴部下半は縦位の笥削りを施している。この寛整形は4号住居跡10-00629に代表される、羽釜に認められる寛整形技法で、須恵工人が轆轤を制止させて行う整形技法である。羽釜10-00655は38号住居跡出土10-00933等と同一工人の製作であろう事が推定される。坏・埴類は北東隅部にやや偏る状況で出土している。消失直前での配置状態を示していると考えられ、屋内空間、とりわけ床面の利用状況が窺える好例でもある。これらの出土遺物から住居跡の時期は9世紀末～10世紀初頭頃と考えられる。

#### 第9号住居跡

位置：5地区-38-I・J-7・8グリッド。形状：不詳。規模：1.7+ $\alpha$ m×2.76m。主軸方位：北-123

度→東。構築基準辺：不詳。 竈規模：全長0.64m×袖部幅0.14m×燃焼部幅0.38m。

層序：(基準線標高値107.40m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石混入。
2. 黒褐色土：細粒状C軽石少量・粒状焼土含有。
3. 黒褐色土：粒状C軽石混入・粒状焼土少量。
4. 灰。
5. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状焼土多量。
6. 黒褐色土：細粒状C軽石少量。

所見：当住居跡は8号住の至近に位置している。そして、8号住同様に西壁を失っている。南隅部のP<sub>2</sub>は生活上では浅く皿状の窪み状態であったが、掘方を露呈させた状態では、床面下—20cm程で底面が確認されている。掘方全体では、P<sub>2</sub>が発見された以外比較的平坦な底面が発見されている。

出土遺物は土師器環・土師器甕・須恵器環・須恵器境がある。数量は多くないもののセット内容は充実しているとして良いと考える。この中で、土師器環10-00657・00658の底部には型膚が中央に残っている。型成形段階で器厚調整が手慣れていた事が窺える。土師器甕10-00659は肩部から頸部にかけての高さが比較的低く、肩部から急激に頸部にかけて窄んだ様な「怒肩」の器形を呈している。類似器形は他の住居跡からも比較的多く出土例があり、この「怒り肩」と逆に「無肩」の器形の土師器甕も多い。当遺跡では、此の両者が認められる。須恵器環では、体部が直線的に立ち上がる環10-00661、口縁直下で丸みを帯び短く外反する環10-00660の2形態が認められる。西毛地区では夫々秋間窯跡群・吉井窯跡群で生産された器形特徴を備えている。これらの出土遺物から当住居跡の時期は9世紀中頃と考えられる。

#### 第10号住居跡

位置：5地区—38—E—10・11グリッド。 形状：横長方形。 規模：(2.66m)×(3.56m)。 主軸方位：北—115度→東。 構築基準辺：不詳。 竈規模：全長2.0m×袖部幅1.5m×燃焼部幅0.36m。

層序：(基準線標高値108.50m)

1. 黒褐色土：ロームブロック多量(下面は炭化物が認められた)。
2. 塊状焼土層。
3. ロームブロック・塊状焼土の混入。
4. 黒褐色土：粒状焼土多量・被熱ローム多量。

所見：当住居跡は西斜面で13号住に近接している。当該住居跡は11号溝と攪乱により大半の部分を破壊されているため、遺存は甚だ悪い。

図示したのは掘方面の状況である。生活面での平面図も作図したが、甕も地山の削り出しによるため、改めての掘方は認められなかった。このため、図示は掘方面の一面にした。掘方では、土坑状の掘り込みが多いが、攪乱により判然としない部分もある。甕は、全長2.0mの長大な規模で、地山を削り抜き構築している。特に、左右のそでは大きく、右袖はズングリとした感じを受けるが、右袖は細長く対照的な構造になっている。底面は、煙道下端まで平坦で壁は60度程で立ち上がる。この甕内では、ローム土が被熱した焼土ブロックが多量に出土している。燃焼部部分の天井部が崩落した状態と考えられる。この構造の甕は当該住居跡のみでしか認められなかった。

出土遺物は非常に少なかった。土師器境10-00663・00664は内面に研磨を施しているものの燻し処理が施されていない。燻しを施せば土師器内黒境になる整形である。住居跡の時期は、この少数の出土遺物を見る限りには、9世紀後半頃と思われる。

#### 第11号住居跡

位置：5地区—36—T・S—3・4グリッド。 形状：矩形か。 規模：3.0m×3.85m。 主軸方位：北—115度→東。 構築基準辺：不詳。 竈規模：全長0.8m×袖部幅1.30m×燃焼部幅0.35m。

層序：(基準線標高値109.50m)

1. 黒褐色土：細粒状C軽石若干・塊状焼土・焼土粒主体。
2. 塊状焼土・焼土粒主体・黒褐色土若干(全体が被熱している)。
3. 黒褐色土：細粒状C軽石若干・焼土粒少量・塊状焼土含有。

**所見**：当住居跡は台地の頂部でやや東側に寄った部分で発見されている。住居の遺存は浅く確認面下15cm程で、西接する公道の攪乱により西側壁は失っており全体的には遺存は悪い。竈は東壁側中央よりやや南東隅部寄りに付設されている。竈の燃焼部・焚口部は被熱酸化に全体が赤色に変色していた。これ程の被熱変色は滅多に見られる状況ではなく、被熱処理を伴う施設とも考えられる。床面では、南壁西側部分に白色粘土が数mmの厚さで分布が認められた。また、中央よりやや西壁に寄った位置で発見されたP<sub>1</sub>は、二重構造のビットで、竈・白色粘土の分布・屋外至近位置での窯跡の存在等から、窯跡に關係する工房の轆轤ビットと推定され、諸状況から当住居は須恵器工房と考えられる。この白色粘土は、隣接の窯跡から出土している多くの須恵器の胎土とは異なり陶土質の緻密な粘土であった。この陶土質の粘土を含め、陶土質を生地土とする胎土を遺物観察表では「A生地土」と記載した。

出土遺物は須恵器環・埴類は、隣接の窯跡で焼造された製品である。また、10-00680・00681は轆轤整形の甕で、2号窯跡出土の10-01244と同體である。秋間型甕と同様な背景の元での限られた生産と考えられる。羽釜10-00682は当遺跡で生産された須恵器環・埴を多く出土する住居跡で伴件する羽釜と同一技法により生産されており、当遺跡での焼造も考慮される。しかし、これらの羽釜の胎土は、須恵器環・埴類の胎土に類似するが同定出来なかった。これらの出土遺物から当住居跡の時期は窯跡と密接しており、「コ」の字状口縁土師器甕が認められないことから、9世紀末～10世紀初頭頃と推定しておきたい。

#### 第12号住居跡

**位置**：5地区38-E-11グリッド。 **形状**：不詳。 **規模**：1.2αm×2.6m。 **主軸方位**：北-114度→東。 **構築基準辺**：不詳。 **竈規模**：全長0.75m×袖部幅1.14m×燃焼部幅0.37m。

層序：(基準線標高値108.40m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石少量・粒状ローム少量・攪乱顯著。
2. 黒褐色土：粒状C軽石含有。
3. 黒褐色土：粒状C軽石少量・焼土粒少量。
4. 黒褐色土：粒状C軽石若干・塊状焼土含有。
5. 塊状焼土主体。
6. 黒褐色土：粒状C軽石若干・焼土粒含有・炭化物含有。
7. 黒褐色土・塊状ロームの混土。

**所見**：当住居は西斜面中位に位置するため、西側が攪乱により失われており、残存部自体も攪乱が著しく遺存が悪かった。竈の横断面では、改築以前の崩壊した壁体をそのまま埋め戻し、新たに上位に掘方を構築し竈を改築している。

出土遺物は住居跡の遺存が非常に不良であったことから自ずと少なかった。図化出来たのは羽釜4個体であった。10-00684・00685は当遺跡の窯跡の製品を伴う時期と考えられる。前出11号住居跡と同時期の住居跡と推定される。

#### 第13号住居跡

**位置**：5地区38-D-E-9・10グリッド。 **形状**：横長方形。 **規模**：3.16m×3.9m。 **主軸方位**：北-110度→東。 **構築基準辺**：北壁。 **竈規模**：全長0.72m×袖部幅1.35m×燃焼部幅0.54m。

層序：(基準線標高値108.70m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石混入・粒状ローム少量。
2. 黒褐色土：粒状C軽石含有・焼土粒少量・粒状ローム少量。
3. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状ローム混入・粒状ローム含有。
4. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状ローム少量。
5. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状ローム混入・粒状ローム少量。
6. 5近質。

7. 黒褐色土：粒状C軽石含有・焼土粒混入・塊状焼土少量。 8. 黒褐色土：粒状C軽石若干・塊状焼土混入・焼土粒少量。  
9. 黒褐色土・塊状ローム混入・塊状焼土少量。

所見：当住居は西側斜面の中位に位置し、10・12～14号住居跡が群在する状態で発見されている。住居は、横長方形を基調とするが、南側が窄む状態で正確には梯形上を呈するが、横長方形基調とした。竈部分は周辺に攪乱が認められたため、トレンチを設定して平面確認を実施して調査を実施した。掘方は南側半分で土坑状の掘り込みが顕著で、9基程の土坑掘り込みが認められる。

出土遺物は少なく土師器壺類4個体しか図示できなかった。土師器壺の口縁部個体は「コ」の字状口縁を呈する個体で、小型台付壺(10-00688)・壺(10-00691)は「怒り肩」を呈している。特に後者は器厚が薄く寛削りも比重に手慣れた熟達した工人による製作と考えられる。住居跡の時期は出土遺物から9世紀中頃と推定される。

#### 第14号住居跡

位置：5地区38-D・E-10・11グリッド。形状：不詳。規模： $2.05 + \alpha \text{ m} \times 1.41 + \alpha \text{ m}$ 。主軸方位：北-110度→東。構築基準辺：不詳。竈：未発見。

層序：(基準線標高値108.70m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石少量・粒状ローム含有。

所見：当住居は調査区内西側斜面で10・12・13号住居跡に囲まれる位置：関係である。攪乱を非常に激しく受けており部分的な残存状態でしか露呈出来なかった。このため詳細に就いては不分明である。

出土遺物は殆ど皆無に近い状態であったが、唯一図示出来たのは10-00692土師器坏であった。時期は9世紀中頃なのであろうか。

#### 第15号住居跡

位置：5地区38-G・H-5・6グリッド。形状：不詳。規模： $2.5 + \alpha \text{ m} \times 2.81 + \alpha \text{ m}$ 。主軸方位：北-28度→東。構築基準辺：不詳。竈規模：全長0.5m×袖部幅 $0.9 + \alpha \text{ m}$ ×燃焼部幅0.28m。

層序：(基準線標高値108.20m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石含有。 2. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状焼土少量。 3. 浅赤褐色土：細粒状C軽石少量(全体に被熱)。  
4. 褐色土・黒褐色土の混入(電磁力)。

所見：当住居は調査区西側斜面に位置する。住居跡は11号溝・耕作・土取りの攪乱により遺存が悪い。竈は2箇所で見られている。第1竈(住居構築段階)は北側に、第2竈は東側に構築している。第1竈は大きな改修が認められ、燃焼部奥壁よりの補強壁は改修前に据えられている障である。また、焚口部の左右袖先端の障は改築後に付設されている。第2竈は、11号溝に切られているため詳細は不分明である。

出土遺物は住居跡の遺存が悪かったため少量しか出土しなかった。図示出来た遺物は全て破片である。傾向としては9世紀後半頃の土器と考えられる。此の出土遺物の中10-00698土師器壺は、口縁部から肩部の寛削りが横位、肩部から胴部が垂直下方への寛削りを施している。この技法は「秋間型壺」に見られる特徴で、寛削り整形段階で回転台か轆轤上で土器を回転させながら行った査証である。同様な技法が当遺跡出土の羽釜で顕著に認められ、当該土師器壺は「須恵器工人」が拘わった可能性が濃厚である。

### 第16号住居跡

位置：5地区38-G-5・6グリッド。形状：横長方形。規模：2.14m×2.08+ $\alpha$ m。主軸方位：北-117度→東。構築基準辺：不詳。竈：未発見。

層序：(基準線標高値108.50m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状焼土少量。

所見：当住居は調査区内西側斜面に位置する。住居跡の南側・竈は土取りの攪乱により失われている。掘方では土坑状の掘り込みが二箇所で見られている(P<sub>2</sub>・P<sub>3</sub>)。

出土遺物は、遺存が不良ながらも内容は比較的良好である。当遺跡生産の坏、羽釜の共存関係が認められる。この内容から9世紀末～10世紀初頭頃の年代が得られる。

### 第17号住居跡

位置：5地区38-F-G-5・6グリッド。形状：横長方形。規模：2.80m×4.30m。主軸方位：北-102度→東。構築基準辺：西壁。竈規模：全長1.23m×袖部幅1.08m×燃焼部幅0.68m。

層序：(基準線標高値108.80m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石混入。
2. 黒褐色土：細粒状As-C少量・含有・粒状ローム含有。
3. 黒褐色土：粒状C軽石少量。
4. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状ローム少量・粒状ローム混入。
5. 黒褐色土：細粒状C軽石微量・塊状軽石混入・小塊状焼土含有・炭化物含有。
6. 茶褐色土：塊状焼土混入・焼土粒含有・塊状ローム含有。

所見：当住居は調査区内西側斜面に位置している。住居跡はほぼ水平なローム土の床を備える、掘方の認められない床面であった。竈は、東壁の中央よりやや南東隅部に寄り、袖部他の構造は全て屋外に突出する状態で構築されている。燃焼部では、中央に並列支脚が2本設置されており並架構造であったことが判断出来る。煙道部の立ち上がりは、燃焼部奥壁隅部に礎を脚にして、扁平な礎を架け煙道部の開口とし火道を確保されている。煙道部の奥側底面には、軸に直行する方向で2個の礎を据えている。この煙道部の立ち上がる部分では、羽釜(0152)が出土している。この羽釜は焚口部・燃焼部出土の破片と接合しているが、孰れも煙道部方向から落ち込む状態で出土していることから、この羽釜は、煙道部の構造上の補強材か、煙道部の立ち上がり部分にも器設を設けていた可能性も考慮される。

出土遺物は、10-00706の皿形傾向の小型化した須恵器坏が認められ、土師器壺も10-0012?00714の所謂土釜段階の「コ」の字状口縁の次の段階の変が多い。10-00712は口縁部の整形に棒状工具に類する状態の整形紐が認められ、浅い沈線の条痕が3条認められる。この棒状工具の整形痕は「コ」の字状口縁以降の土師器壺に認められる事が多く、条数に若干の違いは認められるものの生産地を限定させるための分類基準の一つに上げられる特徴とも言える。また、10-00715羽釜は、吉井型甲類に類似は認められる製品であるが、口径に比較して器高が低いズングリとした器形である。吉井型の模倣とも思われるが、まだ、羽釜事象の実態が不明な事が多い段階では明確な事は述べられない。時期としては小型化皿形傾向の認められる須恵器坏・土師器壺などから10世紀後半と考えられる。

### 第18号住居跡

位置：5地区38-E-F-4・5グリッド。形状：矩形か。規模：2.60m×2.40+ $\alpha$ m。主軸方位：北-123度→東。構築基準辺：北壁。竈：部分的な発見であった。

層序：(基準線標高値108.50m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石含有・粒状ローム混入・塊状ローム含有・攪乱多量。

**所見**：当住居は調査区の西側斜面に位置する。住居跡の南側は土取りの攪乱により失われているが、掲載図中の右下部分には、隅部とも思われる弱い立ち上がりが認められた。この部分を隅部とした場合、当住居の形状は正方形乃至矩形状が推定される。しかしこの場合、竈の左袖部分の造りが異なるとも考えられ、調査状況からは不明の域は脱し得ない。

出土遺物は破片類しか得られていない。10-00718・00719の異なる塊の出土状況もあるが、年代は9世紀末～10世紀初頭頃が当該住居跡の時期と思われる。

### 第19号住居跡

**位置**：5地区38-E-8グリッド。 **形状**：矩形。 **規模**：2.4m×3.22m。 **主軸方位**：北-113度→東。 **構築基準辺**：南・西壁。 **竈規模**：全長1.00m×袖部幅0.97m×燃焼部幅0.35m。

**層序**：(基準線標高値109.00m)

1. 黒褐色土：粗粒状C軽石混入。
2. 黒褐色土：細粒状C軽石含有。
3. 黒褐色土：細粒状C軽石少量。
4. 黒褐色土：細粒状C軽石含有・焼土粒微量・塊状ローム含有・粒状ローム混入。
5. 黒褐色土：細粒状C軽石少量・塊状黒色土含有・塊状ローム少量。
6. 黒褐色土：細粒状C軽石少量・焼土粒褐色土・塊状焼土少量。
7. 黒褐色土：粒状C軽石若干・塊状ローム混入・粒状ローム含有。

**所見**：当住居は調査区内西側斜面の中位に位置している。住居跡は北側で耕作に伴う攪乱により部分的な破壊が認められる。竈は袖部から燃焼部にかけて礫により部分的な補強がされているが、左右で対をなす形は行われていない。竈の掘方では、燃焼部直下の左側底面には、被熱により酸化で焼土化している部分が認められた。この焼土化した部分は、掘方を解釈する上で重要と考えられ、おそらく、掘方とは構築当初の底面として使用され、その後の改築により埋設される部分を呼称していると考えられる。住居跡の掘方は南壁直下の部分で、壁に沿って土坑状の掘り込みが認められ、北西壁隅部でも土坑状の掘り込みが認められる。構築基準辺としての結果であったと考えられる。

出土遺物は少なく、口径の大型化の認められる10-00723・00724土師器壺、縦篋使いの10-00725土師器甕があり、特筆される遺物として10-00726吉井型甲類羽釜が認められる。この中の前二者土師器壺の外傾口縁には、「コ」の字状口縁成・整形の特徴が看取され、前出10-00712と同様な棒状工具による整形痕が認められる。これらの遺物から、当該住居跡は9世紀末～10世紀初頭頃に推定される。

### 第20号住居跡

**位置**：5地区38-F-G-7・8グリッド。 **形状**：横長方形。 **規模**：2.70m×3.91m。 **主軸方位**：北-122度→東。 **構築基準辺**：西壁か。 **竈規模**：全長0.59m×袖部幅1.10m×燃焼部幅不詳。

**層序**：(基準線標高値108.30m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石混入。
2. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状ローム含有。
3. 黒褐色土：粒状C軽石少量。
4. 黒褐色土：細粒状C軽石微量・塊状黒色土(IV層土)斑状混・粒状ローム混入・塊状ローム砂粒。
5. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状ローム斑状混・粒状ローム多量。
7. 黒褐色土：細粒状C軽石少量・粒状ローム含有・塊状ローム少量。
8. 塊状焼土主体。
9. 黒褐色土：粒状C軽石微量・焼土粒含有。
10. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状ローム含有(硬質)。
11. 黒褐色土と塊状ロームの混土(塊状焼土若干)。
12. 黒褐色土と塊状焼土の混土。
13. 黒褐色土：細粒状C軽石少量・塊状焼土多量・焼土粒混入・塊状ローム含有・粒状ローム含有。

**所見**：当住居は調査区内西側斜面の中位に位置している。住居跡の東壁側は溝状の攪乱により破壊されている。均整の取れた壁溝を伴う住居跡である。竈は袖・燃焼部等は認められず、改築の意図で崩した後改築途中で住

居跡を廃棄したと考えられる。また、竈掘方では奥壁側にトンネル状に掘られた状態が露呈された。この状況は燃焼部から煙道部にかけてトンネル状に掘削して構築したことが推測される。

出土遺物は、10-00727小形鉢乃至甕、00277類似形状でやや大きい00278、10-00279土師器甕、轆轤使用の10-00731小形広口瓶が特徴的な遺物である。また、20-00152有孔の砥石は半分ほどに破損した後に穿孔されており、破損後の使用痕も認められないことから、破損後に下げ砥としたとは考え難いことから、砥石転用の鉢と考えられる。

住居跡の時期は10世紀中頃～後半頃が推定される。

#### 第21号住居跡

位置：5地区38-C-D-3・4グリッド。形状：不詳。規模：2.4m×1.26+ $\alpha$ m。主軸方位：北-113度→東。構築基準辺：不詳。竈：未発見。

層序：(基準線標高値109.50m)

所見：当住居は土取りによる擾乱により大半を失っている。残存状況から構築時の指向方向は北壁に従えば凡そ113度である。この他に就いては不分明である。

出土遺物は、住居跡の遺存が悪いためやはり非常に少なく状態も悪い。当遺跡の10-00734坏乃至埴・10-00736土師器坏で判断せざるを得ないが、上限として10-00734の出土遺物等を勘案して9世紀後半～10世紀初頭と推定しておきたい。

#### 第22号住居跡

位置：5地区-38-C-4・5グリッド。形状：横長方形か。規模：2.4m×4.5m。主軸方位：北-約115度→東。構築基準辺：不詳。竈：未発見。

層序：(基準線標高値109.50m)

6. 黒褐色土：粒状C軽石含有。 7. 黒褐色土：粒状C軽石少量。 8. 黒褐色土：細粒状C軽石少量・ロームブロック含有。  
9. 黒褐色土：細粒状C軽石微量・ロームブロック混入。

所見：耕作の擾乱が著しい。竈の痕跡を探るため東壁側にトレンチを設定して確認面から掘り下げたが攪乱の深厚が顕著で痕跡すら確認出来なかった。また、確認段階では南北方向に長い横長方形の形状が確認されているが、掘方では、壁溝と思われる浅い掘り込みが確認されている。この部分を22号住と認定した場合、当初確認した北壁側は23号住の北東部分の壁の崩落としか解釈されない。調査段階では、擾乱が顕著過ぎたため、明確な状況は得られなかった。新旧関係では23号住が22号住を切る事は判明したが、この23号住も擾乱により竈を失っていたため明確な所見は得られなかった。

出土遺物は、須恵器坏・埴があり当遺跡産のものが目立ち羽釜の出土も多い。羽釜は短い口縁部に胴部は寛削りを多用する特徴があり、この須恵器坏・埴と羽釜の組成は当遺跡での特徴の一つである。時期はやはり9世紀末?10世紀初頭と考えられる。

#### 第23号住居跡

位置：5地区-38-C-4・5グリッド。形状：矩形か。規模：2.9+ $\alpha$ m×3.30m。主軸方位：北-約110度→東。構築基準辺：西壁か。竈：未発見。

層序：(基準線標高値109.50m)



1. 黒褐色土：粒状C軽石混入・攪乱顕著。
2. 黒褐色土：粒状C軽石少量・粗粒状ローム含有。
3. 黄褐色土：ローム土の風化した様な状態。
4. 黒褐色土：細粒状C軽石微量・ロームブロック混入。
5. 黒褐色土：微粒状C軽石微量・ロームブロック多量。

**所見**：当住居跡は22号住を切り構築している。確認段階は竈が耕作の攪乱により確認出来ず新田確認も困難であった。攪乱顕著なため竈が未確認であったため、住居覆土を掘り下げる前に→東壁側に竈を確認するためトレンチを設定して確認を試みたが、攪乱深厚が著しく痕跡すら確認出来なかった。22号住でも記したが、当初確認した22号住の北壁部分は、当該住居跡の崩落に原因する可能性が考えられる。また掘方のP<sub>1</sub>～P<sub>4</sub>は当該住居跡に伴うか、22号住に伴うかは調査所見が得られなかった。床面で発見されているピットは、覆土が表土層に類似していたことから、近世以降の時期と判断した。

出土遺物は、図示した2点のほかには細片の土師器・須恵器が若干出土した程度である。時期の特定には困難があるが、出土遺物では9世紀前半頃であろうか。

#### 第24号住居跡

**位置**：5地区38-B-5・6グリッド。 **形状**：不詳。 **規模**：2.2+α m×2.72m。 **主軸方位**：北-124度→東。 **構築基準辺**：不詳。 **竈**：未発見。

**層序**：(基準線標高値109.60m)

**所見**：当住居は台地の稜線近くの平坦部に位置する。住居跡は著しい攪乱により多くを失っている。確認段階で攪乱が広範囲にわたることから、攪乱範囲の確認面下での遺構の存否を確認するためにトレンチを設定して調査した。この結果、攪乱は竈側の部分を破壊していることが判明した。このことから詳細に就いては不詳である。

当該住居跡の遺存が不良であったため出土遺物も少なかった。10-00760土師器坏は底面に離砂が認められる。時期は10-00732が認められることから、やはり9世紀後半～10世紀初頭頃と考えられる。

#### 第25号住居跡

**位置**：5地区38-B-7・8グリッド。 **形状**：横長方形。 **規模**：2.82m×3.46m。 **主軸方位**：北-110度→東。 **構築基準辺**：北・西壁。 **竈規模**：全長1.22m×袖部幅1.22m×燃烧部幅≈0.3m。

**層序**：(基準線標高値109.70m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石少量・粒状ローム混入。
2. 黒褐色土：粒状C軽石少量・粗粒状ローム含有。
3. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状黒色土砂粒・塊状ローム含有。
4. 黒褐色土：細粒状C軽石微量・粒状ローム多量。
5. 2同質。
6. 4同質。
7. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状ローム少量・粗粒状ローム含有・焼土粒含有。
8. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状焼土含有・焼土粒含有・炭化物含有。
9. 黒褐色土：焼土粒混入・塊状焼土若干・粗粒状ローム混入。
10. 黒褐色土：細粒状C軽石少量・焼土粒混入・炭化物含有。

**所見**：当住居は台地稜線のやや西斜面側に位置する。住居跡は屋内中央部に皿状に窪まれた、小規模な炉跡と近接して台石が発見され、周囲からは極少量ながらも鍛造薄片が出土している。これらのことから、当住居は小鍛冶を伴う竪穴住居跡と判断される。

竈では、土師器甕が奥壁側から燃烧部側に倒れ込んだ状態で、設置され押し潰れた状態で出土している。また、この甕が設置してあったと推定される部分は、燃烧部底面より一段高くなり、燃烧部奥壁・煙道口にも当たり、補強の礎20cm程の間隔で据えられている。此の状況は、この部分が蓋設部と推定される。電掘方では、19号住居跡同様に、掘方底面で被熱による酸化部分が認められた。この掘方底面が構築当初の燃烧部底面であった可能性は高い。

出土遺物は土師器甕・須恵器坏・須恵器碗の良好な共存関係の遺物が出土している。10-00763土師器甕は底

部から肩部は縦位の篋削り、肩部から頸部までは横位の篋削りを施し、底面には離砂が認められる。また底部側には、小指の先端程度の小さな窪みが認められる。この窪みは、38号住出土10-00915でも同様部分に多く認められる。篋削りの特徴は軸輻上での整形であることを推定させる。須恵器坏には小型化・内湾傾向、須恵器坏には足高傾向が認められることから、時期は10世紀後半と推定される。

#### 第26号住居跡

**位置：**5地区38-A・B-7グリッド。 **形状：**矩形。 **規模：**3.18m×3.75m。 **主軸方位：**北-115度→東。  
**構築基準辺：**不詳（西壁か）。 **竈：**未発見。

**層序：**（基準線標高値109.80m）

1. 黒褐色土：粒状C軽石含有・粒状ローム含有・焼土粒混入・粒状ローム混入。
2. 黒褐色土：粒状C軽石含有・粒状ローム含有・粗粒状ローム少量。
3. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状ローム多量。
4. 黒褐色土：粒状C軽石混入・塊状ローム多量。
5. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状ローム少量・粒状ローム混入。
6. 黒褐色土：細粒状As-C少量・少量・塊状ローム含有。

**所見：**当住居は台地綾線寄りの西側斜面に位置する。住居跡は25号住・擾乱に切られている。また、耕作による擾乱が顕著である。竈は土坑に切られた状態に見えるが、調査所見としては竈の掘え変え時の掘り込みと考えた。掘え変え時に掘り込みを大きく掘りすぎた結果再構築に不向きであった結果と判断している。これは、掘り込みが余りにも電設置位置に重複しすぎた事と、覆土を切り込む状況（土層断面等）が認められなかった事である。土坑に因る切り込みという考え方も出来るが、この考えを否定出来る要件は確実な意味での所見は土層断面の判断でしかない。

出土物は、10-00774・00776の当遺跡跡の須恵器坏・耳皿の2点を含んでいる。耳皿は第1号窯跡から出土があり確実な資料である。住居跡の時期はやはり9世紀末～10世紀初頭頃と考えられる。

#### 第27号住居跡

**位置：**5地区27-S・T-18・19グリッド。 **形状：**矩形。 **規模：**3.54m×4.00m。 **主軸方位：**北-114度→東。 **構築基準辺：**北壁。 **竈規模：**全長1.04m×袖部幅1.24m×燃焼部幅0.52m。

**層序：**（基準線標高値108.70m）

1. 黄褐色土：塊状ローム主体。
2. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状ローム極多量・粗粒状ローム多量。
3. 黒褐色土：粒状C軽石混入。
4. 黒褐色土：粒状C軽石若干・粗粒状ローム多量。
5. 黒褐色土：粒状C軽石若干。
6. 黒褐色土：粒状C軽石微量・ローム土の混在により全体にローム質の土層。
7. 黒褐色土：粒状C軽石若干・塊状ローム多量塊状混入。
8. 7同質。
9. 小塊状灰褐色粘質土と塊状焼土の混入。
10. 9同質（塊状焼土の混入が9より多い）。
11. 灰土体・粗粒状焼土含有。
12. 黒褐色土：細粒状C軽石若干・塊状ローム含有・焼土粒混入・炭化物混入。
13. 塊状焼土主体。
14. 黒褐色土・塊状ローム混入。

**所見：**当住居は東斜面の中位程に位置する。住居跡は28号住を切り構築しているが、間接的には8軒の切り合い関係がある。確認時には詳細な切り合い関係は把握出来ず、図示した28・41号住を一括調査した。新旧関係は同確認用の補助セクションベルトを設定し確認した均整の取れた平面形状を有する住居跡でP<sub>1</sub>の形状も含め古様を呈するも、竈構造は新様を呈しており基準的形状に設定出来る構造である。

出土物は、住居跡の重複状態から確実性に乏しい実態がある10-00785は床面直上層からの出土であるが、覆土内からは10-00782・00783（10世紀後半）が出土しており、00781・00785（9世紀中頃）の遺存がまだ良好な資料と好対照な状態である。だが、この00781・00785が出土させる住居跡としては土師器類の出土が乏しい点が上げられる。時期は00781・00785から9世紀後半頃と考えられる。

## 第28号住居跡

位置：5地区27-T-18・19グリッド。形状：横長方形。規模：3.2m×4.80m。主軸方位：北-109度→東。構築基準辺：北壁か。竈：未発見。

層序：(基準線標高値108.70m)

15. 黒褐色土：粒状C軽石微量・粒状ローム混入。 16. 黒褐色土：粒状C軽石微量・粒状ローム混入・塊状ローム含有。  
 17. 黒褐色土：粒状C軽石含有。 18, 15同頁。 19, 16同頁。 20. 黒褐色土：粒状C軽石微量・粒状ローム含有。  
 21. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状ローム混入。

所見：当住居は前出27号住に切られ、41号住を切り構築している。住居跡の大半は27号住の破壊により失われている。このため、詳細不明である。

出土遺物は、破片が主体であるため時期の推定には困難が有る。この中で40-00062鏝は完形で、大身の作りでやや反り(柄に装着した状態で、耳基部から鏝の頂点から耳基部からの水平線への垂直距離)が強い。総体的には9世紀前半頃であろうか。

## 第29号住居跡

位置：5地区27-S-20/37-S-1グリッド。形状：正方形。規模：3.40m×3.52m。主軸方位：北-121度→東。構築基準辺：西・南壁か。竈規模：全長0.91m×袖部幅0.92m×燃烧部幅≒0.5m。

層序：(基準線標高値108.90m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石混入。 2. 黒褐色土：粒状C軽石含有・粒状ローム混入。  
 3. 黒褐色土：粒状C軽石含有・細粒状ローム混入。 4. 黒褐色土：粒状C軽石少量・粒状ローム混入。  
 5. 黒褐色土：粒状C軽石少量・細粒状ローム多量。 6. 黒褐色土：粒状C軽石若干・細粒状ローム混入・焼土粒含有。

所見：当住居は東側斜面に位置する。住居跡は東隅部側が調査区外に延びたため同部は露呈出来なかったが、形状は正方形と推測される。この形状は後出の34号住を含め2軒のみである。また、住居の構築時の指向方向は概ね121度を指し、他の住居とは異なっている。

出土遺物は破片類しか得られていない。この破片類は9世紀前半頃が主体と思われるが、10-00817須恵器壺が唯一10世紀中頃に推定される。住居跡の形状も竈が南隅部に近接して構築されている。この形状と10-00817が示す年代観をして当該住居跡の時期と考え、10世紀前半と推定しておきたい。

## 第30号住居跡

位置：5地区37-R・S-1グリッド。形状：不詳。規模：2.84m×2.88+αm。主軸方位：北-114度→東。構築基準辺：西・南壁か。竈：未発見。

層序：(基準線標高値109.10m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石混入。 2. 黒褐色土：粒状C軽石含有・粒状ローム少量。  
 3. 黒褐色土：粒状C軽石若干・粒状ローム少量。 4. 黒褐色土：粒状C軽石含有・焼土粒少量・粒状ローム微量。  
 5. 黒褐色土：粒状C軽石少量・焼土粒含有・塊状焼土含有。 6. 黒褐色土：粒状C軽石微量・粒状ローム混入・塊状ローム含有。  
 7. 黒褐色土：粒状C軽石若干・塊状ローム少量。 8. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状ローム含有・粒状ローム混入。

所見：当住居は東側斜面に位置する。住居の東側半分は調査区外に延びたため同部は露呈出来なかった。住居跡の西・南壁は直線的に延びていることから、構築基準辺であった可能性が高い。このことは、前述30住居跡でも同様である。また、調査区北西壁際の掘り方面からは、他の住居跡の存在を示すと思われる状況が看取されたが分明には成し得なかった。

出土遺物は、当遺跡産の10-00819須恵器壺が認められ、大形破片の10-00820土師器壺の他がある。土師器壺は「コ」の字状口縁の退化した状態で、口縁部直下は横位の窪削り、胴部は縦位の窪削りを伴うもので、須恵

器工人の手法が用いられている。破片類は孰も9世紀以前の須恵器である。当該住居跡は10-00819-00820等から、住居跡の時期は9世紀後半頃と考えられる。

### 第31号住居跡

位置：5地区37-R-S-1グリッド。形状：梯形。規模：3.42m×2.96m。主軸方位：北-91度→東。構築基準辺：南北壁（西壁・北-111度→東）。電規模：全長0.2m×袖部幅0.75m×燃烧部幅計測不能。

層序：（基準線標高値109.10m）

1. 黒褐色土：粒状C軽石多量・粒状ローム含有・炭化物少量。
2. 黒褐色土：粒状C軽石混入・粗粒状ローム少量。
3. 黒褐色土：粒状C軽石少量・粒状ローム含有。
4. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状ローム斑状混。
5. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状ローム斑状多量。

所見：当住居は調査区東側斜面に占地する。住居跡30住居跡に切られ、32住居跡を切り構築している。全体に歪んだ住居跡であるが、南北双方の壁は平行叩きする状態である。しかし、この方向での住居跡の指向方向は他例からは異なる方向性を指しており、歪んだ状態に認められる西壁の方向は他例に近く、当初の構築に当たったの志向方向はこの西壁の方向であった可能性が考えられる。

出土遺物は比較的豊富であるが破片類が目立っている。土師器坏では10-00826・00827・00830の遺存が良好で、10-00833土師器壺も大形破片、当遺跡産10-00840・00841須恵器坏。吉井型甲類羽釜10-00854がある。土師器壺は「コ」の字状口縁がやや退化した状態の口縁部でやや小形である。これらの遺物の年代観から、住居跡の時期はやはり9世紀後半頃と考えられる。また黒書土器の破片が多い点が注意される。

### 第32号住居跡

位置：5地区27-S-20/37-S-1グリッド。形状：横長方形。規模：2.73m×3.22m。主軸方位：北-113度→東。構築基準辺：西・南壁。電規模：全長1.01m×袖部幅0.78m×燃烧部幅0.42m。

層序：（基準線標高値109.10m）

7. 黒褐色土：粒状C軽石含有・粒状ローム少量。
8. 黒褐色土：粒状C軽石若干・粒状ローム含有。
9. 黒褐色土：粒状C軽石若干・粒状ローム含有。
10. 黒褐色土：粒状C軽石若干・塊状ローム斑状混。
11. 黒褐色土：粒状C軽石少量・粒状ローム含有・塊状ローム少量・塊状ローム斑状混。
12. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状ローム含有・粗粒状塊土褐色土・炭化物含有。

所見：当住居は調査区東側斜面に占地する。住居跡は31住居跡に切られている。当住居も比較的整った形状を呈しており、西・南壁が構築構築基準辺と考えられる。電は攪乱により不明である。

出土遺物は少ない。大形破片10-00855土師器壺は、器厚もやや厚く「コ」の字状口縁も退化した個体である。他の遺物は10-00857須恵器坏がある。また、10-00858は黒書が認められ、「几」に「寺」とも判読出来る。出土遺物からは9世紀末頃の年代観が考えられる。一方、出土遺物に当遺跡産の須恵器坏・境が伴っていないのは、開窯直前に廃棄されていた可能性も考慮される。このことから、時期は9世紀末～10世紀初頭頃としておきたい。

### 第33号住居跡

位置：5地区37-S-T-1グリッド。形状：正方形。規模：2.75m×2.84m。主軸方位：北-114度→東。構築基準辺：北壁か。電：未発見。

層序：（基準線標高値109.20m）

1. 黒褐色土：粒状C軽石含有。

**所見：**当住居は調査区東側斜面に占地する。住居跡は34号住に切られている。竈は未発見であり、遺構種として住居跡の認定も困難であるが調査時の呼称を用いた。34号住との重複部分を考慮しても竈を付設する遺構ではなかったことが窺え、当該遺構は窪穴状遺構として認定される。床面等の硬化も認められなかったが、覆土の土質は住居跡の覆土と同質であることから、他の住居跡との時期差は無いと判断されるものの、性格は不明である。

出土遺物は破片だけであった。34号住に切られる事から9世紀中頃以前の時期が推定される。

### 第34号住居跡

**位置：**5地区37-T-1-2グリッド。 **形状：**正方形。 **規模：**4.11m×4.18m。 **主軸方位：**北-100度→東。 **構築基準辺：**北壁。 **竈規模：**全長0.80m×袖部幅1.20m×燃焼部幅0.88m位か。

**層序：**(基準線標高109.30m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石多量。
2. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状ローム混入・粒状炭化物多量 (101号土坑) (1号竈被覆土と同質)。
3. 黒褐色土：粒状C軽石若干・粗粒状ローム含有。
4. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状ローム含有・粒状ローム混入 (ローム質)。
5. 4同質。
6. 黒褐色土：粒状C軽石混入・焼土粒少量。
7. 黒褐色土：粒状C軽石含有・焼土粒微量・小塊状ローム少量。
8. 黒褐色土：粒状C軽石混入・焼土粒含有。
9. 黒褐色土：粒状C軽石若干・焼土粒若干・塊状ローム混入。
10. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状焼土含有・焼土粒混入。
11. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状焼土含有・炭化物少量。
12. 黒褐色土：粒状C軽石含有・焼土粒少量・塊状焼土少量・塊状ローム含有。
13. 塊状ローム主体。

**所見：**当住居は調査区東側斜面に占地する。住居跡は1・2号竈と101号土坑に切られている。101号土坑は1号竈の被覆土同様な覆土であることから、竈体の失われた竈跡の前庭部の可能性も考えられる。住居跡の施設では「コ」の字の壁溝が北壁を中心にして出土している。正方形を呈する住居跡は当住居跡を含め29号住が発見されている。掘方では西壁側で壁溝の跡と考えられる掘り込みが発見されている。恐らくは、当該住居跡は拡張された事を示唆している。また、P<sub>1</sub>・P<sub>2</sub>は対になる掘り込みの深い柱穴であることから、入り口施設と考えられる。竈は、廃棄段階の形状は確りした形状の出土は出来なかった。恐らく改築の意図の下に破壊し、再構築を行わなかったことによると考えられる。電掘方の鶏卵上の掘り込みは住居の拡張前の段階での所産に因るものと思われる。

出土遺物は、10-00865?00867土師器坏3点が当該住居跡の時期を推定させる。また、10-0073は1号竈乃至2号竈の製品と考えられるが、調査段階で竈乃至住居跡出土の分別が出来ていなかったため、当該住居跡扱いにしている。両竈跡に伴う可能性が高い。遺物の時期は9世紀中頃と考えられる。が周辺状況からは、9世紀末~10世紀初頭と考えられる。

### 第35号住居跡

**位置：**5地区27-Q-R-19・20グリッド。 **形状：**不詳。 **規模：**3.04m×4.46m。 **主軸方位：**北-93度→東。 **構築基準辺：**不詳 (西壁か)。 **竈：**未発見。

**層序：**(基準線標高108.70m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石多量。
2. 黒褐色土：粒状C軽石混入・塊状ローム含有。
3. 黒褐色土：粒状C軽石若干・塊状ローム少量。
4. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状褐色土混入。
5. 黒褐色土・塊状ロームの混入。

**所見：**当住居は調査区東側斜面に占地する。破片の北東半分は調査区外に延びているため、前面露呈出来なかった。しかし、西壁の壁線が整っていることから横長方形が推定されるが、形状は明定できない。

出土遺物は破片類しか出土していない。この中で、10-00876土師器器が大型破片であり他は細片化している。時期は9世紀末~10世紀初頭頃と考えられる。

### 第36号住居跡

位置：5地区28-B・C-18・19グリッド。形状：横長方形(矩形)。規模：3.46m×4.12m。主軸方位：北-116度→東。構築基準辺：北壁。電規模：全長0.9m×袖部幅1.2m位か×燃焼部幅0.45m位か。

層序：[基準線標高109.10m]

1. 黒褐色土：粒状C軽石若干・塊状ローム極少量混入・塊状VII層土少量・粗粒状焼土少量。
2. 黒褐色土：粒状C軽石若干・粗粒状ローム混入。
3. 黒褐色土：粒状C軽石若干・塊状ローム少量。
4. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状ローム少量・粗粒状ローム少量。
5. 黒褐色土：細粒状C軽石少量・塊状焼土混入・ローム質土混入。
6. 黒褐色土：細粒状C軽石少量・塊状焼土主体・ローム質土混入。
7. 黒褐色土：細粒状C軽石少量・焼土粒含有・ローム質土混入。
8. 黒褐色土：細粒状C軽石少量・小塊状ローム混入・粒状ローム混入・ローム質土混入。
9. 黒褐色土：細粒状C軽石少量・焼土粒若干・粒状ローム含有・ローム質土混入。
10. 黒褐色土：細粒状C軽石少量・焼土粒少量・粗粒状ローム少量・塊状ローム少量・ローム質土混入。
11. 黒褐色土：細粒状C軽石少量・焼土粒少量(8近質)。
12. 黒褐色土：細粒状C軽石若干・塊状ローム少量・焼土粒含有・塊状焼土少量・ローム質土含有。
13. 黒褐色土と塊状ロームの混入。

所見：当住居は台地稜線上に位置する。重複関係は認められない。住居跡の北側半分が均整の良く取れており、北壁に構築構築基準辺が推定される。電は、調査段階で過度に掘り過ぎている。原因は、電覆土全体に焼土が広がり、顕著な、壁・底面が確認できなかったが、土層断面では、立ち上がりと思われる分層線が看取できている。一方で全体が改築過程での状況とも考えられる。状況はこの様に難解な覆土であった。

出土遺物は土師器製が目立っている。10-00888は最も良好である。他の破片も大形破片である。これらの土師器壺の内、前二者は口縁部が長い、後三者は口縁部が短い。特に、00888は器形も通有の「コ」の字状口縁の壺より丸みを帯びた様な作りである事から、新しい要素が認められる。また、10-00882は外面に粗い刷毛撫でを施す丸底の小形壺で県内でも希少な資料である。胎土の生地土も県内産の生地土と異なっている。県外(中部地方)からの搬入品と考えられる。

鉄器では、40-00065は大身の刀子で研滅も顕著である。00066は刃閉も相当研滅している。00067は釘と推定されるが、頭部は叩き延ばされた状態のままである。未使用の可能性が高い。

出土物からは、当該住居跡は9世紀中頃と推定される。

### 第37号住居跡

位置：5地区28-A・B-16・17グリッド。形状：横長方形。規模：3.36m×4.12m。主軸方位：北-109度→東。構築基準辺：北・西壁。電規模：全長0.70m×袖部幅1.20m×燃焼部幅0.44m。

層序：[基準線標高108.50m]

1. 黒褐色土：粒状C軽石若干・塊状ローム含有・粗粒状ローム混入(ローム質土)。
2. 黒褐色土：粒状C軽石若干・粗粒状ローム含有(粗粒状ローム)。
3. 黒褐色土：粒状C軽石若干・塊状ローム混入。
4. 黒褐色土：粒状C軽石若干(粗粒状ローム)。
5. 黒褐色土：粒状C軽石若干・粗粒状ローム含有・塊状ローム含有(粗粒状ローム)。
6. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状ローム含有・焼土粒混入。
7. 被熱層。
8. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状焼土含有・塊状ローム含有。
9. 塊状ローム主体。

所見：当住居は調査区東側斜面に占地する。住居跡は基調を長方形に採るが電部分割が萎縮した状態に認められる。この形状は、構築段階から意識されていたことが掘方から看取される。これは、北・西壁側は規模に応じた掘り込みが認められるのに対して、南壁側は予め西壁側部から東壁南隅部の距離を決めて構築している点である。そして、電先端を囲む外郭はほぼシメトリな長方形になることから、上層構造は対辺長が等しい構造であったことが推定される。

出土遺物では、10-00896-00897土師器「コ」の字状口縁壺が大形破片である。10-00903灰釉陶器平瓶の高台は平たく所謂「K-14様式」に比定される。土師器製の年代観では9世紀中頃であるが、住居跡形應の年代観で

は9世紀末～10世紀初頭頃である。また、比企産の須恵器坏が出土している。

### 第38号住居跡

位置：5地区27-T-17・18/28-A-17・18グリッド。形状：横長方形。規模：4.36m×3.46m。主軸方位：北-103度→東。構築基準辺：北・西壁か。竈規模：全長1.60m×袖部幅1.00m×燃焼部幅0.46m。

層序：(基準線標高値108.60m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石多量。
2. 黒褐色土：粒状C軽石混入。
3. 黒褐色土：粒状C軽石混入・粗粒状炭化物含有。
4. 黒褐色土：粒状C軽石含有・粗粒状炭化物少量。
5. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状ローム多量。
6. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状ローム混入・粒状ローム多量。
7. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状ローム・塊状粘土更状混。
8. 塊状ローム。
9. 黒褐色土：粒状C軽石微量・焼土粒含有・塊状焼土含有。
10. 塊状焼土。
11. 黒褐色土：粒状C軽石少量・粗粒状C軽石含有・粗粒状焼土含有。
12. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状焼土少量・焼土粒含有。
13. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状焼土多量。

所見：当住居は調査区東側斜面に占地する。住居跡は39～41号住を切り構築している。竈は新旧大きく二回の改築が施され、構築当初中央寄りであったのが、最終段階では南東隅部に寄る位置になっている。廃棄時の竈は、燃焼部での使用状況が良好に保存されていた。器設部には羽釜が並架された状態で出土し、羽釜を周囲から支え目地詰する土器片、焚口部天井架の礎、並架用の支脚等詳細な状況が窺知し得る。竈に羽釜を並架した状態での出土例は県内では初例と考えられる。

出土遺物は、竈・竈周辺から良好な遺物が出土している。特に良好な10-00905土師器坏・10-00906土師器坏・10-00915土師器甕・10-00920?00922須恵器坏・10-00925・00928・00929須恵器坏・10-00933・00934土師器羽釜・10-00935土師器片口鉢がある。土師器甕10-00916の内面には篋の小口(刷毛状)出の撫で整形が施されている。同様に羽釜10-00933・00934も篋の小口による撫で整形が顕著である。00934は器形も丸みを帯びる器形で00916と類似する特徴を備えている。そして、同様な胎土として観察される。また、00916の胴部下半には底部に残る離砂と同様の砂が多く付着する部分が認められる。胴部上半には、小指の先程度の窪みが多く認められ、窪みの内部は未整形である。

これらのセット内容は標識に足りる内容である。これらのセットは全て酸化焰焼成であり、当遺跡産の製品を含まないこと、小形化の傾向が認められないことから、時期は10世紀前半に推定出来る。

### 第39号住居跡

位置：5地区27-T-9・10/28-A-9グリッド。形状：矩形。規模：3.30m×3.90m。主軸方位：北-114度→東。構築基準辺：西壁か。竈規模：全長1.30m×袖部幅1.54m×燃焼部幅0.56m。

層序：(基準線標高値108.50m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石若干・粗粒状焼土・塊状焼土含有。
2. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状ローム若干・焼土粒少量。
3. 黒褐色土：粒状C軽石若干・塊状ローム少量・焼土粒少量。
4. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状ローム含有・焼土粒若干。
5. 黒褐色土：粒状C軽石少量・焼土粒少量。
6. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状ローム少量。
7. 礫品。
8. 黒褐色土：粒状C軽石微量・被熱黒褐色土主体・焼土粒混入。
9. 黒褐色土：粒状C軽石微量・被熱黒褐色土主体・塊状焼土含有。
10. 8近置。
11. 黒褐色土：粒状C軽石微量・灰混入。
12. 塊状焼土主体。
13. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状焼土少量・焼土粒含有・炭化物少量。
14. 黒褐色土：粒状C軽石若干・塊状ローム混入。
15. 黒褐色土・塊状ローム混土。

所見：当住居は調査区東側斜面に占地する。住居跡は38号住に切られ、40号住を切っている。住居の北壁は、壁溝が入れ違い状態になっており、構築時に東西別の方向から掘削した状況が推測される。形状は比較的整いだ様のものも古い。竈は被熱黒褐色土が多量に埋没していたことから、構築被覆に黒褐色土を主体にした事が推

定される。そして、被熱状態が顕著な焼土化ではないことから、改築後短期間のうちに廃棄された可能性も考えられる。

出土遺物は、大形破片の10-00945土師器甕が床面直上層と覆土から出土している。須恵器埴10-00947は体部・口縁部を大きく欠損する覆土内からの出土である。他は破片である。金属器では40-00070がある。瓶等の蓋と思われる製品で、銅製の薄い板状の中央に舌状の紐が付いている。出土層位は、覆土の最上層から出土している。当該住居跡で直接的に使用されていたものとは思われない。住居跡の時期は、9世紀中頃と思われる。

#### 第40号住居跡

位置：5地区27-T-16・17/28-A-16・17グリッド。形状：縦長方形か。規模：5.30m×3.15+ $\alpha$ m。

主軸方位：北-108度→東。構築基準辺：不分明。竈規模：全長0.80m×袖部幅1.40m×燃焼部幅0.60m。

層序：(基準線標高値108.30m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状ローム主体。
2. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状ローム少量・塊状焼土少量・焼土粒含有(粘土質灰味)
3. 黒褐色土：粒状C軽石微量・炭化物多量層状・塊状焼土含有。 4. 2近置。
5. 黒褐色土：粒状C軽石微量・粗粒状焼土含有。 6. 黒褐色土：粒状C軽石微量・焼土粒・被熱土の混入。
7. 被熱土+塊状焼土。 8. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状ローム混入・炭化物東毛産か太田産・灰混入。

所見：当住居は調査区東側斜面に占地する。住居跡は38・39号住に切られ、59号住を切り構築している。当遺跡でもっとも軸方向に長い縦長方形の形状をていしているが、59号住以外の別な住居跡との切り合いも考慮される。だが、確認面は攪乱が多いことから、平面精査では3基の切り合いの確認は出来なかった。竈の右傍らの棚上の構造は、硬く締められた平坦な面で床面から6cm程度上位に当たっている。掘方面で出土した土坑類は40・59号住の帰属が問題になるが、土層断面で確認できたのはP<sub>7</sub>しかなく、またP<sub>13</sub>・P<sub>14</sub>のごとく形状から重複関係が認められるものの、新旧関係を含め帰属が明確に成し得なかった。

出土遺物は破片しか出土していない。39号住に切られていることから、破片類を加味しても9世紀初頭～中頃の住居跡と思われる。

#### 第41号住居跡

位置：5地区27-T-18・19グリッド。形状：不分明。規模：1.3+ $\alpha$ m×3.58m。主軸方位：北-99度

→東。構築基準辺：不分明。竈：未発見。

層序：(基準線標高値107.80m)

22. 黒褐色土：粒状C軽石混入・粒状ローム少量。 23. 黒褐色土：粒状C軽石少量(攪乱が多い)。
24. 黒褐色土：粒状C軽石少量・粒状ローム少量(攪乱が多い)。 25. 黒褐色土：粒状C軽石混入。粒状ローム含有・粗粒状ローム少量。
26. 黒褐色土：粒状C軽石若干・細粒状ローム少量。 27. 黒褐色土：粒状C軽石若干・塊状黒色少量・塊状ローム少量。
28. 黒褐色土：粒状C軽石微量・粒状ローム少量・粗粒状ローム混入。 29. 黒褐色土：粒状C軽石微量・粒状ローム含有。
30. 黒褐色土：粒状C軽石若干・塊状ローム混入。

所見：当住居は東斜面中位程に位置している。住居跡は27号住に大半を切られ詳細は不分明である。

出土遺物は、破片類しか出土していない。重複する27・28号住はそれぞれ9世紀前半?9世紀中頃に推定されることと、出土破片類からは当該住居跡は8世紀末～9世紀初頭頃と思われる。

#### 第42号住居跡

位置：5地区27-T-17～19/28-A-17～19グリッド。形状：正方形。規模：8.50m×8.20m。主軸方位：北-68度→東。構築基準辺：四壁。炉規模：全長0.67m×幅0.46m。

層序：(基準線標高値108.90m)



1. 黒色土：粒状C軽石混入。 2. 黒色土：粒状C軽石含有。 3. 黒色土：粒状C軽石少量。  
 4. 黒色土：粒状C軽石微量・塊状ローム含有。 5. 褐色土：細粒状軽石微量・塊状ローム褐色土・粒状ローム多量。 6. 5同質。  
 7. 褐色土：細粒状軽石含有・粒状ローム多量。 8. 塊状ローム主体・黒褐色土斑状混。

42号住 pit 深度一覧表

	P <sub>1</sub>	P <sub>2</sub>	P <sub>3</sub>	P <sub>4</sub>	P <sub>5</sub>	P <sub>6</sub>	P <sub>7</sub>	P <sub>8</sub>	P <sub>9</sub>	P <sub>10</sub>	P <sub>11</sub>
床面標高値	108.30	108.27	108.27	108.34	108.24	108.24	108.31	108.30	108.30	108.30	108.28
底面標高値	108.07	107.99	107.99	108.15	108.07	108.01	107.82	108.14	108.21	108.21	108.10
深度(一般)	27	28	28	19	17	23	49	16	9	9	18
摘 要							北西隅				
	P <sub>12</sub>	P <sub>13</sub>	P <sub>14</sub>	P <sub>15</sub>	P <sub>16</sub>	P <sub>17</sub>	P <sub>18</sub>	P <sub>19</sub>	P <sub>20</sub>	P <sub>21</sub>	P <sub>22</sub>
床面標高値	108.24	108.07	108.09	108.06	108.06	108.30	108.27	108.19	108.24	108.24	108.24
底面標高値	108.05	107.66	107.83	107.83	107.94	108.09	107.91	108.04	108.13	108.12	108.01
深度(一般)	19	40	26	23	12	21	36	15	11	12	23
摘 要						掘方面	掘方面	掘方面	掘方面	掘方面	掘方面
	P <sub>23</sub>	P <sub>24</sub>	P <sub>25</sub>	P <sub>26</sub>	P <sub>27</sub>	P <sub>28</sub>	P <sub>29</sub>	P <sub>30</sub>	P <sub>31</sub>	P <sub>32</sub>	P <sub>33</sub>
床面標高値	108.22	108.21	(108.15)	(108.15)	108.31	108.30	108.30	108.30	108.26	108.29	108.25
底面標高値	107.92	107.99	107.44	107.82	108.12	108.09	108.14	108.09	108.00	107.95	108.15
深度(一般)	30	22	71	33	19	21	16	21	26	25	10
摘 要	掘方面	掘方面	掘方面 南西隅	掘方面	掘方面	掘方面	掘方面	掘方面	掘方面	掘方面	掘方面
	P <sub>34</sub>	P <sub>35</sub>	P <sub>36</sub>	P <sub>37</sub>	P <sub>38</sub>	P <sub>39</sub>	P <sub>40</sub>	P <sub>41</sub>	P <sub>42</sub>	P <sub>43</sub>	
床面標高値	108.24	108.28	108.21	108.23	108.10	108.10	108.06	108.09	108.08	108.32	
底面標高値	108.11	108.12	108.05	107.93	107.92	107.86	107.82	107.82	107.64	108.14	
深度(一般)	13	16	16	30	18	24	22	21	42	17	
摘 要	掘方面	掘方面	掘方面	掘方面	掘方面	掘方面	掘方面	掘方面	掘方面 南東隅	掘方面	

所見：当住居は調査区東側斜面に占地する。住居跡は27・28・38・39・41号住に切られているため全体に遺存状況は良好ではない。住居跡の構造は床面中央よりやや北東側に炉を備え、やや西側小規模な炉を備えている。この炉の北東壁側床面には、広範囲に灰が広がっていた。柱穴はやや多く発見されているが、主柱穴と考えられる柱穴は隅部に寄った位置で発見されたP<sub>7</sub>・P<sub>11</sub>・P<sub>13</sub>の3本が想定されるが、位置的に極度に隅部側に寄っている事に疑問もある。掘方では、壁沿いで発見された、壁に直行する方向に掘り込まれた5の溝状の掘り込みが認められた。この掘り込みは床面上では確認できず、掘方面の調査段階で、ほぼローム土だけで充填され黒褐色土等の土は一切認められなかった。住居跡全体像が不明な状態のため詳細はなお不明であるが、当該住居跡の場合は、床面上に施設として設置された状況とは異なると考えられる。

出土遺物は、北壁の北隅に寄った部分からと、東壁の直下の部分にやや多く出土している。前者は床面から遊離しているが、後者は床面直上が多い。時期は5世紀中頃と考えられる。

#### 第43号住居跡

位置：5地区27-T-15・16/28-A-15・28グリッド。形状：横長方形か。規模：不分明。主軸方位：不分明。構築基準：不分明。遺規模：不分明。

所見：当住居は調査区東側斜面に占地する。が、確認段階でも深耕の擾乱により殆ど痕跡しか留めていなかった。また、床面の相当する面も擾乱により判定不能な状態であった。この諸条件により当該住居跡の作因が由来できなかった。

出土遺物は、電部分で10-00986が出土しているが、5世紀後半の土師器窠であり住居跡の形状とは隔たりが大きい。恐らく、10世紀前半以前頃の住居跡と考えられる。

#### 第44号住居跡

位置：5地区27-O-13・14グリッド。形状：不詳。規模： $2.6+\alpha\text{m}\times 1.4+\alpha\text{m}$ 。主軸方位：北-93度位→東。構築基準辺：不詳。電：未発見。

層序：(基準線標高値105.10m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状ローム少量。

所見：当住居は調査区東側斜面に占地する。58号住に切られ、後世の攪乱等により大半を失っており遺存状態は不良である。詳細不詳である。

出土遺物は、住居跡も遺存が不良なため遺物の状態も不良であった。この中で10-00987土師器環は比較的遺存が良い大形破片である。時期はこの土師器環から9世紀前半頃と考えられる。

#### 第45号住居跡

位置：5地区27-R-S-16・17グリッド。形状：横長方形。規模： $4.08\text{m}\times 4.90\text{m}$ 。主軸方位：北-93度→東。構築基準辺：南壁。竈規模：全長1.50m×袖部幅1.80m×燃焼部幅(0.72m)。

層序：(基準線標高値108.00m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石混入・塊状ローム多量層状混入・炭化物含有・焼土粒混入。
2. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状ローム含有。
3. 1同質。
4. 黒褐色土：粒状C軽石少量・焼土粒多量。
5. 2同質。
6. 4同質。
7. 黒褐色土：粒状C軽石若干・粗粒状ローム混入・塊状ローム含有。
8. 黒褐色土：細粒状C軽石微量・粗塊状焼土多量。
9. 灰層。
10. 灰+塊状焼土層。
11. 黒褐色土：黒褐色土・粒状C軽石若干・粗粒状ローム含有・粗塊状ローム若干。
12. 黒褐色土：粒状C軽石少量・粗粒状ローム混入・塊状ローム含有。

所見：当住居は調査区東側斜面に占地する。47号住と重複し当跡が新しい。当該住居跡を含め47号住も攪乱を顕著に受けている。特に調査上竈部分の攪乱には、状況判断に混乱を起こさせている。攪乱は、近年の土地改良・土地改良以前の開墾・前代の三者に分別出来る。

住居跡は、均整の取れた平面形状を呈し、65号住(後述)に次ぐ均整さを誇る。均整は、四隅・四壁の中でも南東部を構成する南壁・東壁は、直線走行する壁ほぼ直角に交わる状態であるが、他の2壁・3隅はややこの状況とは異なり甘さが窺知されることから、この2壁が構築基準にされていると考えられる。また、床面での住居規模を上面上で計測すると $3.70\text{m}\times 4.50\text{m}$ で、この数値を $0.30\text{m}$ (唐尺・天平尺の1尺相当)で除すると概12(尺)×15(尺)になり15坪の面積換算も出来き、平面構成比では4:5になる。

掘方では、住居跡ない東側に集中する傾向が認められる。これは、構築基準面に起因するのと、南東方向に傾斜する地形にも要因が考えられる。即、南東側に水平位で軟弱な土層が深くなる傾向に因るまた、 $P_1$ ・ $P_2$ は床面での使用が確認されている。他の土坑状の掘り込みは掘方面での確認である。

出土遺物は、豊富で土師器環の出土が目立っているが土師器環が少なかった。土師器環には体部に丸みを帯びるものが多い。須恵器環・埴類では栃木三義と考えられる10-01016が特筆される。また、須恵器埴類の破片が目立つ。鉄器では、20-00074は大刀鐔で貴重な資料である。住居跡はこれら遺物から9世紀初頭～前半頃と考えられる。

#### 第46号住居跡

位置：5地区27-P-Q-12・13グリッド。形状：不詳。規模： $4.2+\alpha\text{m}\times 3.24+\alpha\text{m}$ 。主軸方位：北-85度→東位か。構築基準辺：西壁か。電：未発見。

層序：(基準線標高値105.00m)

1. 黒色土：粒状C軽石混入。
2. 黒色土：粒状C軽石含有。
3. 黒色土：粒状C軽石少量。
4. 黒色土：細粒状C軽石微量。
5. 黒色土：細粒状C軽石若干。
6. 黒色土と塊状ロームの混入。

**所見**：当住居は調査区東側斜面に占地する。が、法面の崩壊等により南東半分が失われている。また、50号住居を切り構築している。

構造の不詳が多いが、残存部での床面上では特徴的な施設等は認められなかった。掘方では、壁溝状の掘り込み、ピット状の掘り込みがやや多く発見されている。

出土遺物は、北西隅部で10-01031土師器甕が圧壊した状態で出土している。口縁下半がやや長めで「コ」の字状口縁に類する状態になっている。土師器坏は破片であるが内湾気味の個体。須恵器は高台付の浅い坏が出土している。時期は8世紀後半頃と思われる。

#### 第47号住居跡

**位置**：5地区27-R-S-16・17グリッド。 **形状**：正方形。 **規模**：4.04m×(4.22m)。 **主軸方位**：北-111度→東。 **構築基準辺**：南壁。 **竈規模**：全長1.02m×袖部幅1.20m×燃焼部幅0.60m。

**層序**：(基準線標高値108.00m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石混入・粗粒状ローム少量。
2. 黒褐色土：粒状C軽石若干・粗粒状ローム混入・塊状ローム含有。
3. 黒褐色土：粒状C軽石微量・焼土粒含有。
4. 黒褐色土：粒状C軽石住居跡・焼土粒多量。
5. 灰層。
6. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状ローム含有・焼土粒含有。
7. 黒褐色土：粒状C軽石微量・粗粒状ローム含有・粗粒状ローム若干。

**所見**：当住居は調査区東側斜面に位置し、45号住居に切られ重複している。住居跡の規模は45号住居下の断面で確認されている。この規模から当住居は矩形状の平面形状が推定される。竈部分は深耕擾乱により遺存不良な状態である。掘方では、当住居跡も45号住居同様に南東側での掘り込みが顕著である。

出土遺物は、破片類が多い。土師器坏類は作りの薄い平底化した形態である。10-01045土師器甕は口縁部下半は「コ」の字状口縁の意識が認められる。10-01047須恵器坏は底部が非常に荒れているが完形個体である。比較的薄い作りで直線的に立ち上がる口縁部が特徴である。住居跡の時期は9世紀前半と考えられる。

#### 第48号住居跡

**位置**：5地区27-Q-R-14・15グリッド。 **形状**：横長方形。 **規模**：4.96m×3.82m。 **主軸方位**：北-84度→東。 **構築基準辺**：西壁。 **竈規模**：全長1.73m×袖部幅1.64m×燃焼部幅0.6m。

**層序**：(基準線標高値106.40m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石混入。
2. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状ローム少量。
3. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状ローム混入。
4. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状褐色土混入。
5. 黒褐色土：粒状C軽石微量・粗大塊状ローム主体。
6. 黒褐色土：粒状C軽石若干・塊状ローム多量・粗粒状ローム含有。
7. 黒褐色土：粒状C軽石若干・粒状ローム含有。
8. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状ローム含有。
9. 黒褐色土：粒状C軽石微量・粗粒状ローム混入。
10. 塊状ローム・塊状黒褐色土の混入。
11. 黒褐色土：細粒状C軽石微量・暗茶灰褐色塊状シルト斑状。
12. 塊状焼土主体(被熱暗茶灰褐色塊状シルト)。
13. 黒褐色土：粒状C軽石若干・粗粒状焼土含有。
14. 塊状焼土(燃焼部天井部の崩落)。
15. 黒褐色土：微粒状C軽石若干・粗粒状焼土少量・灰多量。
16. 灰層。
17. 黒褐色土：微粒状C軽石微量・暗茶灰褐色塊状シルト混入・灰混入・焼土粒混入。
18. シルト質。
19. 褐色土：雑層土近質。

**所見**：当住居は調査区東側斜面に占地する。南東隅部で67号土坑に切られているが、調査は新旧の判定が困難だったので、当住居を先行調査させてしまい、このため土坑の3分の1を失っている。住居跡は比較的均整の取れた形状を呈している。竈は、住居廃棄後竈内部が半ば埋没した段階で天井部が棚落ち状に崩壊している。このため、旧状を窺知するための好例である。図中の燃焼部の一点鎖線は、天井部崩落の塊状焼土が認められた範囲を示している。則、この部分が焚口の天井部乃至器設部の天井部の位置を示していると考えられる。但

し、焚口天井部の補強等が未確認であることから、当該部分が焚口部天井前縁に当たり、器設は別な方法を用いた他の部分に設置されていた可能性も考慮のうちにである。甕、煙道部の煙孔の部分が該当する可能性も考えられる。

出土遺物は、土師器環類には平底化認められ、10-01063土師器台付小形甕は「コ」の字状口縁化が認められる。10-01066須恵器環は回転鋳切りの底部に墨書が施している。10-0169盤は口縁部に欠損しているが当遺跡では希少な遺物である。住居跡の時期は9世紀中頃と考えられる。

#### 第49号住居跡

位置：5地区27-P・Q-14/27-P~Q-15グリッド。 形状：正方形。 規模：4.50m×4.30m。 主軸方位：北-112度→東。 構築基準辺：北壁・南壁。 竈規模：第1竈全長1.70m×袖幅1.50m×燃焼部幅0.51m/第2竈全長1.12m×袖幅1.28m×燃焼部幅0.60m。

層序：(基準線標高値106.80m)

1. 黒色土：粒状C軽石多量・IV層土の二次堆積。 2. 黒色土：粒状C軽石混入。 3. 黒褐色土：粒状C軽石若干。
4. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状IV層土灰・粗粒状ローム混入・粒状ローム含有。
5. 黒褐色土：粒状C軽石含有・粗粒状ローム含有・塊状IV層土含有。 6. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状IV層土多量。
7. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状ローム混入・粗粒状ローム含有。 8. 黒褐色土：粒状C軽石微量・粒状ローム含有。
9. 黒褐色土：粒状C軽石若干・粗粒状ローム多量。 10. 黒褐色土：粒状C軽石若干・粒状ローム含有。
11. 黒褐色土：粒状C軽石多量・塊状ローム含有。 12. 黒褐色土：粒状C軽石多量・塊状ローム多量。
14. 黒褐色土：塊状ローム少量・塊状黒紫色粘質土混入・塊状暗紫粘質土混入・粗粒状ローム含有。
14. 塊状暗紫赤色粘質土・塊状焼土の混土(天井部崩壊土)。 15. 灰・炭化物。
16. 黒褐色土：塊状ローム多量・塊状焼土少量・焼土粒多量・炭化物含有。 17. 11同質。
18. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状暗紫粘質土含有。 19. 塊状暗紫粘質土。
20. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状暗紫粘質土多量。 21. 塊状暗紫赤色粘質土・塊状焼土の混土(天井部崩壊土)。
22. 灰・炭化物。 23. 黒褐色土・塊状ローム混土。 24. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状ローム含有・粒状ローム混入。

所見：当住居は調査区東側斜面に占地する。住居跡の東側部分が12号溝に切られ、南側では13号溝・136号土坑を切っている。住居の形状は均整の取れた正方形を呈している。床面上での規模：は3.90m×3.93mが図上で計測出来、0.30m(唐尺・天平尺の1尺相当)で除すると13尺・13尺の数値が得られる。また、当住居は今回の発見住居跡の中で最も残存深度が深く、良好な状態で発見されている。竈は西壁で2基発見されている。北側が古く(第1竈)南側が廃棄時の竈(第2竈)である。第1竈の奥壁部では、煙道孔被熱と思われる塊状焼土が認められているが、この塊状焼土は旧状から大きく移動していることも無く、ほぼ旧状を知る手掛かりになると考えられたことから、調査段階では残したまま写真撮影を行った。

出土遺物は、住居跡遺存の良さに比較すれば少なさを感じる。土師器環類は丸底が主体である。10-01073は焼成後の落書(田か)が認められる。10-01081・01802須恵器環・蓋はセット関係で、伝世品と考えられる。住居跡の時期は8世紀後半頃と推定される。古墳時代以降の住居跡では最も古い住居跡である。

#### 第50号住居跡

位置：5地区27-P・Q-12/27-P~R-13/27-P・Q-15グリッド。 形状：正方形。 規模：(6.20)m×6.74m。 主軸方位：北-37度→西。 構築基準辺：四壁。 炉規模：径0.8m。

層序：(基準線標高値105.70m)

1. 黒色土：粒状C軽石混入。 2. 黒色土：細粒状C軽石微量。 3. 黒色土：細粒状C軽石微量・塊状ローム含有・粒状ローム含有。
4. 黒色土：粒状C軽石含有・塊状ローム少量。 5. 3同質。 6. 黒色土：焼土粒混入・炭化物含有。
7. 黒色土・塊状ローム混土。

所見：当住居は調査区東側斜面に占地する。南西隅部側は土地改良事業に拠る擾乱が顕著で、南東隅部側で46

号住りが切り、斜面部の下端側に占地することから、住居跡の遺存は不良である。残存部分は北西壁側の半分程度であるが、 $P_3 \cdot P_7 \cdot P_4 \cdot P_9$ が遺存していたことから住居跡の形状・規模が推定出来た。遺物は北西壁下で壁沿いの床面上から出土している。壁に重複する $P_{11} \cdot P_{13} \cdot P_{14}$ は、B-B'の断面に於いては( $P_{12}$ )当住居より古い、壁に設けられる柱材のピットと思われる。また $P_{15}$ も当住居に伴うと思われる。

出土遺物は、北西壁下および $P_1$ 際の床面直上から出土している。時期は5世紀中頃と思われる。

#### 第51号住居跡

位置：5地区27-O-13・14グリッド。形状：正方形か。規模： $3.20 + \alpha \text{ m} \times 3.73 + \alpha \text{ m}$ 。主軸方位：北-62度→東。構築基準辺：不詳。竈：未発見。

層序：(基準線標高値105.80m)

1. 黒色土：粒状C軽石混入。
2. 黒色土：粒状C軽石少量。
3. 黒色土：粒状C軽石含有。
4. 黒色土：粒状C軽石含有・塊状ローム少量。
5. 黒色土：細粒状C軽石若干・塊状焼土含有。
6. 黒色土：細粒状C軽石微量・粒状ローム含有・塊状ローム若干。
7. 赤褐色土：地味砂の被熱層。

所見：当住居は調査区東側斜面に占地する。が、住居跡の北東側は調査区外に延び、南東側は44・58号住の重複も在るが後世の攪乱等により失っている。出土遺物・炉跡・ $P_1$ の存在から50号住とほぼ同時期の住居跡と考えられる。炉の位置からは当該住居跡の規模を復元すると、1辺8mほどの規模が想定出来る。だが、詳細不詳である。

出土遺物は、破片類しか得られなかった。要素的には50号住と同様である事から5世紀中頃と推定される。

#### 第52号住居跡

位置：5地区27-S-T-11・12グリッド。形状：不詳。規模： $4.00 \text{ m} \times 3.39 + \alpha \text{ m}$ 。主軸方位：北-93度位→東。構築基準辺：西壁か。竈：未発見。

層序：(基準線標高値105.30m)

1. 黒色土：細粒状C軽石多量。
2. 黒色土：細粒状C軽石多量・塊状灰多量・塊状焼土含有。
3. 黒色土：細粒状C軽石若干・塊状ローム含有。
4. 黒色土：細粒状C軽石若干。
5. 黒色土・塊状ローム混入。

所見：当住居は調査区東側斜面に占地する。住居跡の南東半分は斜面の法面にあたり失われている。このため詳細不詳である。恐らく、竈を具備する住居であったと考えられる。掘方では南西隅部周辺には、ピット状の掘り込みがやや多く集中する傾向が認められた。

出土遺物は破片類しかない。10-01101土師器「コ」の字状口縁甕は大形破片である。須恵器環類も破片であるが、出土遺物の時期的組成には矛盾がないと思われる。時期は9世紀中頃と思われる。

#### 第53号住居跡

位置：5地区-28-N-O-19・20グリッド。形状：不詳。規模： $(2.1 + \alpha \text{ m}) \times (2.2 + \alpha \text{ m})$ 。主軸方位：詳細不詳。構築基準辺：不詳。竈規模：袖部幅0.78mか。

層序：(基準線標高値107.20m)

1. 塊状焼土。
2. 黒褐色土：細粒状C軽石若干。塊状焼土微量・粒状焼土含有。
3. 黒褐色土：粒状C軽石含有・粒状ローム少量。
4. 黒褐色土：粒状C軽石混入・粒状焼土若干。
5. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状褐色土含有。
6. 塊状焼土。
7. 黒褐色土：粒状C軽石微量。
8. 黒褐色土：粒状C軽石含有・粒状ローム少量。

所見：当住居跡は、2号住調査段階の調査区界を精査した段階で確認された住居跡である。このため、断面での露呈にしかならなかった。53・54号住の調査を含め、調査段階の不手際と共に反省している。

上記のとおり、断面のみの露呈であったため、詳細等に就いては不明である。だが、電の発見位置からすれば、南側に電を備える構造であろう事が推定される。

出土遺物は、2号住に含んでいる10-00585・00586と判断できる。この2点共に漆田産の須恵器環である。時期はやはり9世紀末～10世紀初頭と考えられる。

#### 第54号住居跡

位置：5地区-28-O・P-20・38-O・P-1グリッド。形状：横長方形。規模：1.80m×(2.79+ $\alpha$ )m。主軸方位：北-約110度→東。構築基準辺：不詳。竈規模：全長0.6m×袖部幅0.95m×燃焼部幅0.56m

層序：(基準線標高値107.00m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石含有。
2. 黒褐色土：粒状C軽石混入・粒状ローム混入。
3. 黒褐色土：粒状C軽石含有・粗粒状炭化物含有。
4. 黒褐色土：粒状C軽石少量とロームブロックの混土。
5. 黒褐色土・塊状焼土・粗粒状炭化物・灰の混土。
6. 塊状焼土主体。
7. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状焼土含有・焼土粒混入。
8. 黒褐色土：粒状C軽石少量・ロームブロック混入。

所見：当住居跡は55・1号住を切り構築している。確認状態は、1号住の床面露呈段階に至り1号住とは別な住居跡であることを確認した。住居跡の形状・規模は重複関係にある1・2号土坑による攪乱により殆どが残存していない。

出土遺物は、電に前代の横瓶10-00576が壁の補強に用いられていた。床面から出土しているのは10-00577・578灰釉塊である。漆田産10-00572?00574須恵器環・塊は覆土内からの出土であるが、住居跡の遺存が浅いことから床面直上層部分に相当する。時期はやはり9世紀後半～10世紀初頭と考えられる。

#### 第55号住居跡

位置：5地区-38-O-20グリッド。形状：不詳。規模：0.65+ $\alpha$ m×1.5+ $\alpha$ m。主軸方位：北-約120度→東。構築基準辺：不詳。竈規模：全長0.6+ $\alpha$ m×袖部幅0.25+ $\alpha$ m×燃焼部幅0.25+ $\alpha$ m。

層序：(基準線標高値107.00m)

9. 黒褐色土：粒状C軽石多・焼土粒少量。
10. 黒褐色土：粒状C軽石混入。
11. 黒褐色土：粒状C軽石少量。
12. 赤褐色土：焼土。

所見：当住居は調査区界壁の断面で確認された住居跡であり、確認されたのは電の一部のみである。1号住を切ることで、54号住に切られている事は確認できているが他の詳細に就いては不明である。

出土遺物は認められなかった。時期に就いては54号住を下限に考えるしかなく、恐らく9世紀後半～10世紀前半頃と思われる。

#### 第56号住居跡

位置：5地区37-R-5・6グリッド。形状：横長方形。規模：3.24m×4.48m。主軸方位：北-102度→東。構築基準辺：西壁。竈規模：全長0.82m×袖部幅1.16m×燃焼部幅0.48m。

層序：(基準線標高値109.60m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石含有。
2. 黒褐色土：粒状C軽石混入・小塊状ローム含有。
3. 黒褐色土：粒状C軽石若干・塊状ローム含有。
4. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状ローム混入・粗大塊状ローム含有。
5. 黒褐色土：粒状C軽石混入・粗粒状炭化物含有・粒状ローム混入。
6. 黒褐色土(粒状C軽石微量)と塊状ロームの混土。
7. 黒褐色土：粒状C軽石混入・炭化物少量。
8. ローム土主体・炭化物少量・焼土粒少量。
9. 塊状焼土主体。
10. 灰層。
11. 塊状ローム・塊状焼土の混土。
12. 黒褐色土：粒状C軽石少量・粒状ローム含有。
13. 黒褐色土・塊状ローム混土。

所見：当住居は調査区の中央部、台地の鞍部に占地する。住居跡の北東隅部は調査区外に延びている。住居跡

は未調査部分も残すが、比較的整った横長方形を呈すると考えられる。竈は全体に崩落の進んだ状態とも思われたが、覆土には塊状焼土主体層があり、押し潰れた状態であったと思われる。

出土遺物では、当遺跡の生産須恵器類を多く出土しているが、やや摩滅の進んだ状態や破片固体も多いが、窯の操業段階よりやや新しい時期に推定される。時期は9世紀末～10世紀前半頃と考えられる。

#### 第57号住居跡

位置：5地区37-S-4・5グリッド。形状：矩形。規模：3.39m×3.81m。主軸方位：北-116度→東。

構築基準辺：西壁。竈規模：全長1.41m×袖部幅1.46m×燃焼部幅0.62m。

層序：(基準線標高値109.60m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石混入・粗粒状ローム少量・塊状褐色土混入。
2. 黒褐色土：粒状C軽石混入・粗粒状ローム混入・焼土粒含有・塊状褐色土多量。
3. 黒褐色土：粘黒褐色土：粒状C軽石少量・焼土粒少量・粗粒状ローム少量。
4. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状褐色土含有。
5. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状褐色土多量。
6. 黒褐色土：粒状C軽石微量・粗粒状ローム混入・小塊状ローム含有。
7. 黒褐色土・塊状ローム混入。
8. 黒褐色土：・粒状C軽石少量・焼土粒含有。
9. 黒褐色土：粒状C軽石少量・焼土粒少量・塊状ローム少量。
10. 塊状ローム・塊状焼土混入。
11. 黒褐色土：粗塊状焼土多量・塊状ローム混入。
12. 黒褐色土：粒状C軽石若干・焼土粒含有・塊状ローム含有・粒状ローム少量。
13. 10同質。
14. 黒褐色土・塊状褐色土・塊状ローム混入。
15. 7同質。

所見：当住居は調査区の中央部、台地の鞍部に占地する。南壁側で108号土坑を切る。住居跡の形状は比較的整っている。壁溝は四壁下で発見されているが、南西隅部は、床下の掘方により壁溝の在り方は分明に成し得なかった。掘方では、南壁下でピット状の掘り込みが目立つ。入り口施設に伴うピットも含まれる可能性がある。

出土遺物は少なかった。10-01138土師器甕は撫川の口縁部下半が長い大形破片で、作りは非常に熟達した工人の製作であることが感じられる。C類の生地土を使用している。恐らく、陶土質粘土の得られる地帯での生産と考えられる。時期は他の破片類を含めても9世紀中頃～10世紀初頭と推定される。

#### 第58号住居跡

位置：5地区27-O-13・14グリッド。形状：不詳。規模：0.93+ $\alpha$ m×2.44+ $\alpha$ m。主軸方位：北-56度位→東。構築基準辺：不詳。竈：未発見。

層序：(基準線標高値105.10m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石少量。

所見：当住居は調査区東側斜面に占地する。44・51号住を切り構築するが、住居跡の大半が後世の擾乱により失われており詳細不詳である。

出土遺物は皆無であった。44号住を切り構築していることから、9世紀中頃以降の住居跡と考えられる。

#### 第59号住居跡

位置：5地区27-T-16・17/28-A-16・17グリッド。形状：横長方形か。規模：2.78+ $\alpha$ m×3.92+ $\alpha$ m。主軸方位：北-約90度→東位か。構築基準辺：不分明。竈：未発見。

層序：(基準線標高値108.30m)

9. 黒褐色土：粒状C軽石微量・粒状ローム混入・塊状ローム含有。
10. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状ローム少量・焼土粒含有。

所見：当住居は調査区東側斜面に占地する。住居跡は40号住に切られているが他の住居跡にも切られている可能性も考慮される。詳細に就いては不分明であるが、軸方向は45号住等に類似する。

出土遺物10-00965須恵器皿は、40号住との境目部分から出土しているため、厳格には当該住居跡に確実視できない

状況が有る。時期は状況から9世紀中頃と思われる。

#### 第60号住居跡

位置：5地区37-S・T-7グリッド。形状：横長方形か。規模：2.61+ $\alpha$ m×3.14m。主軸方位：北-97度→東。構築基準辺：西壁か。竈：未発見。

所見：当住居は調査区の中央部、台地の鞍部に占地する。住居は東半分が公道下に存するため完掘出来ず、露呈は約半分程度に止まった。当住居は61号住と南西隅部が重複するが、極部分的な重複なため双方の新旧関係直接的には確認し得なかった。掘方は認められなかった。詳細は不詳な部分が多い。

出土遺物は、10-01144土師器甕は器厚も厚く短い外傾口縁部を特徴とすることと、10-01143須恵器坏は体部下半が丸みを帯びる特徴が認められることから、時期は10世紀中頃と考えられる。

#### 第61号住居跡

位置：5地区37-T-6・7グリッド。形状：横長方形か。規模：3.10m×2.78m。主軸方位：北-112度→東。構築基準辺：不詳。竈：未発見。

層序：(基準線標高109.80m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石混入・焼土粒少量。
2. 黒褐色土：粒状C軽石含有。
3. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状黒色土含有。
4. 黒褐色土：粒状C軽石微量・粒状ローム含有。
5. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状ローム少量・焼土粒少量。
6. 黒褐色土：粒状C軽石微量・粒状ローム含有。
7. 黒褐色土・塊状ローム混土。

所見：当住居は調査区の中央部、台地の鞍部に占地する。竈周辺部分は公道下に位置することにより調査不能であったが、床面上で顕著な焼土分布認められていることから同部の東端周辺に焚口部の推定が可能である。また、当住居は60号住と北東隅部が重複するが、極部分的な重複なため双方の新旧関係直接的には確認し得なかった。掘方は浅いが顕著で、西側半分と南東隅部分に認められた。西壁下では、壁溝の痕跡が認められたが、床面上では確認出来なかった。

出土遺物は極僅かしかなかった。10-0146須恵器坏は底面に墨書「石」を記した内黒である。他は細片で図示出来得た遺物を掲載してある。時期は10世紀中頃と考えられる。

#### 第62号住居跡

位置：5地区27-R・S-10グリッド。形状：不詳。規模：1.85+ $\alpha$ m×3.13m。主軸方位：北-58乃至148度→東。構築基準辺：西壁か。竈：未発見。

層序：(基準線標高104.20m)

1. 黒色土：粗粒状C軽石褐色土・粒状C軽石含有。
2. 粒状C軽石少量・塊状ローム多量。
3. 塊状ローム・黒色土の混土。

所見：当住居は調査区東側斜面に位置する。住居跡の南東半分は後世の擾乱により失っている。住居跡は残存が悪いものの、壁下で壁溝が発見され、均整の取れた住居であることが窺知される。掘方では床面下10cm程で底面が確認され浅い土坑状の掘り込みも発見されている。

出土遺物で図化出来得たのは10-01149一点のみである。住居形状は均整が取れ壁溝を巡らすことと、覆土の体積土壌から5世紀代かと思われる。

#### 第63号住居跡

位置：5地区38-E-10グリッド。形状：不詳。炉規模：0.68m×0.66m。主軸方位：不詳。



所見：当住居は倒木跡内の暗褐色中で発見された石囲炉跡である。このため発見時は水平状態ではなく、倒木の転倒による下位層が約90度程の角度で倒置された様な状態であった。炉石周辺での床面は明らかに出来なかった。再度・再々度倒木跡の遺構確認面の平面精査を実施したが落ち込み（当該住居跡に伴う諸施設）等は確認されなかった。

出土遺物は炉周辺と、確認面周辺出土の遺物を掲載した。時期は縄文時代中期、加曾利E3式の時期と考えられる。

#### 第64号住居跡

位置：5地区27-T-19・20グリッド。形状：縦長方形。規模：2.88m×2.42m。主軸方位：北-104度→東。構築基準辺：西・南壁か。竈規模：全長0.91m×袖部幅1.06m×燃焼部幅0.50m。

層序：(基準線値109.00m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石少量・粒状ローム含有。
2. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状ローム含有。
3. 塊状ローム・塊状焼土・塊状塊状褐色土。

所見：当住居は調査区の中央部、台地の鞍部に占地する。切り合い関係は認められなかった。住居跡は土地改良事業による削平、部分的な耕作に伴う攪乱もあり全体的には遺存不良であった。竈の右袖は掘り過ぎにより失っている。掘方も際立ったものは認められず、南東隅部周辺が全体に掘り込みが認められただけに止まっている。

出土遺物は住居跡の残存が不良であったため少なかった。しかし、少ないながらも10-01156・01157土師器環、10-01159須恵器耳皿が出土している。須恵器耳皿は漆田産である。時期は10世紀前半頃と思われる。

#### 第65号住居跡

位置：5地区27-Q・R-16・17グリッド。形状：矩形。規模：4.18m×4.66m。主軸方位：北-114度→東。構築基準辺：西壁。竈規模：全長0.75m×袖部幅1.18m×燃焼部幅0.60m。

層序：(基準線値108.60m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状ローム多量塵状・炭化物少量。
2. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状ローム混入。
3. 黒褐色土：塊状ローム少量・粒状ローム含有。
4. 塊状ローム主体・炭化物少量。
5. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状ローム含有・粒状ローム含有。
6. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状ローム少量・炭化物微量・塊状焼土少量。
7. 黒褐色土：粒状C軽石若干・粒状ローム微量。
8. 塊状ローム主体。
9. ローム質(粗粒状ローム混入・粒状ローム多量)。
10. 黒褐色土：粒状C軽石少量・粗粒状ローム含有。
11. 暗褐色土：塊状ローム多量。
12. 暗褐色土：粗粒状ローム少量・土粒微量。
13. 黒褐色土・塊状ローム混入。

所見：当住居は調査区東側斜面に占地する。住居跡は攪乱に被覆された状態で確認された。調査段階では南壁部分で66号住居を切る住居跡として確認調査したが、整理段階の出土遺物の検討結果は発掘調査の逆で66号住居の遺物様相が当該住居跡より新しい。調査段階後半では、ロームブロックを多量に含む覆土が住居跡中央部まで認められていたこと、66号住居がロームブロックのみで埋設された状態であったことから、当該住居跡は66号住居に切られる可能性が濃厚である。

一方、当住居は発掘された住居跡の中で最も整った状態で南壁と西壁・西壁と北壁・北壁と東壁が接する各隅部は、ほぼ直角に結合する状態で、過去において筆者が発掘調査した当該期の住居跡(約1500軒)の中で、壁同士の掘り込み状態がこれまでに整っていた住居跡は唯一であり、最高の状態である。掘方は電部分で認められただけで、地山ローム土を丁寧に掘削し住居を構築したことが窺われる。

出土遺物は、土師器環・壺、須恵器環・埴とやや纏まっている。10-01161土師器環は口縁部外面に墨書「良」

を記している。須恵器環10-01170は埼玉産の製品に思える。時期は9世紀中頃と考えられる。

#### 第66号住居跡

位置：5地区27-Q-R-16グリッド。形状：不詳。規模：3.22m×1.28+αm。主軸方位：北-107度  
→東。構築基準辺：不詳。竈：未発見。

層序：(基準線標高値108.49m)

1. 塊状ローム主体。
2. 塊状ローム主体・塊状焼土含有。
3. 黒褐色土・塊状ローム混土。

所見：当住居は調査区東側斜面に占地する。当該住居跡は65号住に切られているとの確認時の所見から調査を実施した。65号住の所見でも記述したが、当該住居跡の覆土は塊状ロームを主体にすることが特徴的である。この塊状ロームは床面直上から堆積が認められ、65号住の中央部までこの状況が達していた。このことから、新旧関係を逆転させて調査した可能性が濃厚である。しかし、当該住居跡の竈が認められなかったことから、調査段階では確認当初の所見を優先させていた。この竈未発見は攪乱が著しかった事に原因するとも思われる。また、覆土に見られた大量のロームブロックは、至近の住居構築に伴って埋設されている可能性もあるものの、その住居跡の特定は無理である。また、67号住を切り構築している。このため詳細については不明である。

出土遺物は、P<sub>1</sub>内から10-01174土師器台付小形壺・01175須恵器境が出土している。須恵器境は漆田産である。時期はやはり9世紀末?10世紀初頭と考えられる。

#### 第67号住居跡

位置：5地区27-R-S-16・17グリッド。形状：正方形か。規模：4.70m×4.33m。主軸方位：北-101度  
→東。構築基準辺：西壁か。竈：未発見。

層序：(基準線標高値108.30m)

1. 黒褐色土：細粒状C軽石住居跡・炭化物混入・塊状ローム含有・粗粒状ローム混入・焼土多量。
2. 覆土層内塊状ローム。
3. (66号住1・2層) 塊状ローム主体。
4. (66号住3層) 黒褐色土・塊状ローム混土。

所見：当住居は調査区の中央部、台地の鞍部に占地する。北側は66号住に切れ、住居跡全体に攪乱が非常に顕著であったことから、1次確認面では平面形状すら把握出来ず、部分的に確認面を掘り下げ確認を実施して調査を行った。図中に掘立柱建物跡と思われるビットを3箇所で見出したが、掘立柱建物跡とは確定出来なかった。ビットの埋土は表土層に近いことから近世以降と考えられる

出土遺物は住居跡の遺存が攪乱により非常に悪かったことから少なく破片のみであった。図化した土師器類全てはC類生地土を使用する陶土質の製品である。そして、10-01178土師器壺の作りには熟達工人によるものである。肩は撫肩で口縁部下半が長く直立している。須恵器類も作り丁寧である。時期は9世紀中頃と考えられる。

#### 第68号住居跡

位置：5地区27-O-P-9・10グリッド。形状：正方形。規模：4.60m×4.70m。主軸方位：北-68度  
→東。構築基準辺：西南壁か。竈規模：全長1.14m×袖部幅0.97m×燃烧部幅0.54m。

層序：(基準線標高値103.30m)

1. 黒色土：粒状炭化物混入。
2. 黒色土：粒状C軽石含有。
3. 黒色土：粒状C軽石少量・塊状焼土含有。
4. 黒褐色土：粒状C軽石少量・シルト含有・焼土少量。
5. 塊状白黄灰褐色粘土。
6. 塊状焼土。
7. 被熱白黄灰褐色粘土・塊状焼土の混土。
8. 5同質。
9. 白黄灰褐色粘土(袖)。

**所見：**当住居は調査段階では低地部分であったが、当時は斜面部の裾に当たる部分であったと考えられ、床面はもはやローム土を使用出来ない部分での占地である。住居跡は後世の削平と18号溝による重複により遺存は悪かった。この遺存状態の中出土遺物は豊富で、床面直上から床面直上層中で出土している。また、床面上で確認されているピットの中で支柱穴を想定して調査した $P_2 \sim P_4$ は、床面下10cm程で地山面達してしまい、ピットとしての性格自体に疑念も生ずる。

出土遺物は非常に多かった。何れも床面直上乃至床面直上層からの出土である。この中で、須恵器環の模倣10-01193土師器環は、器厚が非常に薄く整形も非常に丁寧に仕上げられてる。胎土も良質な生地土を用いている。今回の調査で出土している幾多の遺物の中では、最も秀作に上げられる逸品である。時期は5世紀末～6世紀初頭頃と考えられる。

### 第69号住居跡

**位置：**5地区27-O-P-8・9グリッド。 **形状：**横長方形。 **規模：**2.05m×2.45m。 **主軸方位：**北-120度→東。 **構築基準辺：**西壁か。 **竈規模：**全長1.05m×袖部幅0.9m×燃焼部幅0.6m。

層序：(基準線標高値103.30m)

1. 黒色土：粗粒状C軽石微量・焼土粒若干。

**所見：**当住居は調査段階では低地部分であったが、当時は斜面部の裾に当たる部分であったと考えられ、床面はもはやローム土を使用出来ない部分での占地である。当遺跡で最も標高の低い部分で発見されている。住居跡は遺存が悪く南側は失われていた。このため、詳細については不分明である。

出土遺物は殆ど無かった。辛うじて作図可能な程度であった。10-01209は然程大きくない破片であるが、C類生地土である。時期は出土遺物では9世紀前半としか言えないが、住居跡形態からは、9世紀後半頃であろうか。

## 掘立柱建物跡

### 第1号掘立柱建物跡

**位置：**5地区27-O-P-7・8グリッド。 **形状：**南北棟か(詳細不詳)。 **柱間・規模：**(桁×梁)：6尺・5尺・ $\alpha$ か(3.3m)×7尺・2間(4.2m)。 **主軸方位：**北-5度→東。

層序：(基準線標高値103.30m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石含有。
2. 粒状C軽石少量。
3. 粒状C軽石混入・焼土粒含有。

**所見：**当掘立柱建物跡は低地部分で発見されている。当時は、緩やかな緩斜面部での占地と考えられる。この紙面占地であったことにより、南西側の遺存が悪く柱穴が半分以上失われていると考えられる。桁側の遺存する柱間から(6尺・5尺)、もう一間の延長が推定され、3間(6尺・5尺・6尺)×2間(7尺・7尺)での規模が推定出来る。出土遺物は無かったが、 $P_3$ の軸方向を45度程傾ける在り方から9世紀中頃の建物であったと思われる。

## 窯跡

### 第1号窯跡

**位置：**28-T-1・2グリッド。 **形状：**甕形か。 **規模：**残存長2.57m×窯体長 $0.72 + \alpha$ m×窯体幅 $1.12 + \alpha$ m×前庭長 $1.61 + \alpha$ m×前庭幅 $1.10 + \alpha$ m×窯底と前庭底面比高差0.10m。 **主軸方位：**北-121度→東。

**所見：**当竈跡は調査区の中央部、台地の鞍部に占地する。須恵器工房と判断される11号住の南側9m程に位置している。当該竈跡は34号住の調査中に発見された。34号住の平面確認段階で全体に炭化物を含む黒くくすんだ黒褐色土広がる状態で、明確な形状としては確認できなかった。このため、先ず断面確認を行い、状況により調査方法を再考する考えであった。これにより、調査はこの34号住着手にこの黒褐色土域を通る土層断面位置を設定して掘り下げた。この結果、黒褐色土が住居跡の床面上まで広がる点と、下層では炭化物の量が増加することが明らかになった。このことから、何らかの遺構が重複することが明確になった。しかし、この段階では、壁等は殆ど掘り尽くしてしまっており、結果的に34号住の床面上精査段階で竈跡を認定した。このため、当該竈跡は34号住の床面上に残存した状態でしか記録に出来なかった。このため、詳細な状況を不明にしてしまった。

出土遺物は、竈底面直上層で出土した個体は比較的良好な固体であったが、34号住の調査段階で出土した遺物は破片類であった。

竈跡の構造は2基の土坑を接続させた状態で、瓢形状の平面形状を呈すると考えられる。露呈出来た状態が不良なため詳細不詳である。

出土遺物では須恵器坏・埵・皿・耳皿・瓶類が認められたが、瓶は口縁部片一点(10-01221)のみで、3号竈跡で出土している1点(10-01249)を含め2点のみの出土しかない。出土須恵器坏・埵には、やや緻密な胎土と、やや粗めの二者の胎土が認められる。このうちの前者は、11号住床面上で出土した白色粘土(陶土質粘土)が素地土と考えられ、後者は、低地部の粘土化したローム土が生地土と考えられる。遺物観察表中では、この粘土化したローム土を生地土にして製作された胎土を「A生地土」として記述した。但し、当遺跡での製作を限定するのではなく、広域に賦存するであろう粘土化ロームを指している。一方、陶土質の生地土に就いては「C生地土」として記述している。

その他では、坏・埵の内外面及び断面には「黒斑」が残る物が多い。この「黒斑」は、焼成段階で土器側が吸炭した結果に因るものであり、焼成方法に原因していると考えられる。

## 第2号竈跡

**位置：**28-T-1・2/29-A-1・2グリッド。 **形状：**瓢形基調。 **規模：**全長2.88m×竈体長1.59m×竈体幅2.1m×前庭長1.38m×前庭幅1.42m×竈底と前庭底面比高差0.8m。 **主軸方位：**北-272度-東。

**層序：**(基準線標高値109.30m)

1. 茶褐色土：黒褐色土とローム土の混土。
2. 茶褐色土：黒褐色土とローム土の混土(塊状ローム含有)。
3. 暗褐色土：粒状C軽石含有・ローム土含有。
4. 茶褐色土：黒褐色土・ローム土の混土(1よりローム土の含有が少ない)。
5. 4近質・粒状C軽石含有。
6. 1近質。
7. 黒褐色土：粒状C軽石含有・炭化物多量・やや硬質。
8. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状ローム含有・炭化物混入・硬質。
9. 黒褐色土：粒状C軽石少量・炭化物多量・粗粒状ローム少量。

**所見：**当竈跡は調査区の中央部、台地の鞍部に占地する。須恵器工房と判断される11号住の南側9m程に位置している。当竈跡は土層断面E-E'の観察及び平面での状況から、改築乃至重複していることが判断される。土層断面では、最低4時期での操業が認められる。平面では、炭化物を残す範囲と酸化被熱範囲の円形状の部分と、長方形の焼成部、この双方を囲む状態のやや大きい円形状基調の部分の3者の状態が看取され、さらに、長方形部分では内外に二重になっている状態にも思われる。また、前庭部も土層断面9層と8層の部分により2者の状況が認められる。特にこの前庭部の状況は、改築に因る状況なのか、廃棄後に改めて切られて構築されている状況なのか判断が難しい点がある。しかし、9層土は前庭部の上位側まで埋没している状況として解釈するならば、新旧関係による所産と判断できる。一方、5号竈跡では、焼成部の構造がやはり新旧の状

況が看取され、円形基調から長方形状へと改修されている。焼成部の構造が円形から長方形状への変遷が認められることから、単純に改修としても理解される。ここでは、9層土の堆積状況から、2基による切り合いと推定しておき、8層より上位段階+長方形状焼成部を2a号、円形基調焼成部+9層の構造を2b号としておく。

出土遺物では、坏・坏蓋・埴・皿・甕の5器種が出土している。この5器種の中で坏・埴が主体生産され、次いで皿が生産されている。坏蓋・甕は夫々1個体ずつである。しかし、後者は当該窟跡で確実に生産されたとするには明確さを欠いている。上述の新旧関係での2b号に伴う遺物は、前庭部で出土している一群(10-01223・01233・01235・01240・01241)である。この一群と他者を比較しても形状・技法には差異は認められない。また他の窟跡出土の遺物と比較しても生地上の相違以外は認められない。

### 第3号窟跡

**位置:** 28-A-1。 **形状:** 瓢形。 **規模:** 全長2.37m×竈体長1.02m×竈体幅1.59m×前庭長1.35m×前庭幅1.14m×竈底と前庭底面比高差0.09m。 **主軸方位:** 北-265度-東。

**層序:** (基準線標高値109.30m)

1. 黒色土: 細粒状C軽石少量・焼土粒若干・炭化物若干・襦袢状ローム少量。
2. 黒色土: 細粒状C軽石若干・粗粒状炭化物混入・粗粒状ローム少量・焼土粒若干。
3. 黒色土: 細粒状C軽石微量・ローム主体。
4. 黒色土: 細粒状C軽石含有・焼土粒若干・炭化物含有・褐色土態状・塊状ローム混入。
5. 黒色土: 細粒状C軽石含有・塊状ローム少量・粗粒状炭化物含有。
6. 黒色土: 細粒状C軽石少量・塊状ローム少量・粗粒状ローム含有・粗粒状炭化物含有。
7. ローム貫土。
8. 黒色土: 細粒状C軽石含有・粗粒状炭化物多量・粗大炭化物含有。
9. 黒色土: 細粒状C軽石含有・塊状ローム混入・粗粒状炭化物多量焼土粒混入。
10. 黒色土: 細粒状C軽石若干・炭化物多量・塊状焼土含有・焼土粒混入。
11. 10近質。
12. 黒色土: 細粒状C軽石微量・塊状ローム含有・焼土粒混入・炭化物含有。

**所見:** 当窟跡は調査区の中央部、台地の鞍部に占地する。須惠器工房と判断される11号住の南側10m程に位置している。

窟跡の燃焼部奥壁側は、道路工事の際に部分的に破壊されている。

焼成部の構造は隅丸長方形と丸味の強い楕円形状の2者が認められ、当窟跡も改修が行われた事を物語っている。この双方の形状の内前者が廃棄段階の形状であり、構築当初は丸味の強い楕円形状を呈している。また、双方の底面の比高差は8cm程ある。そして、前庭部では中央ほどのところに土坑状に窪んだ部分が認められ、同部の底面と前庭の手前側底面との比高差は11cmに及んでいる。恐らく操業の経過の中で窪んだか、作爲的に掘り下げたものと考えられるものの、結論付けるには及べない。だが、構築当初は、前庭部手前側の底面が構築段階の底面にほぼ近いと考えられる。ここで、この構築段階の形状を推定すれば、前庭部と焼成部では前庭部側が低く、焼成部側の底面が4cm程の比高差を有して立ち上がっていたと推定される。そして、廃棄段階の形状は5号窟と類似するが、前庭部と焼成部の比高差が逆転している。

出土遺物は少なかった。この中で図上復元可能な個体はすべて掲載した。出土した器種は、埴・皿・甕の3器種に限られている。この中で10-01247皿のみが他の窟跡出土の遺物と対比されるが、特徴等に異なる点は認められなかった。

### 第4号窟跡

**位置:** 27-R-15グリッド。 **形状:** 密室構造。 **規模:** 全長0.75m×竈体幅0.78m×深さ0.64m。 **主軸方位:** 北-13度-西。

**所見**：当窯跡は東斜面の中位で、48号住に切れ部分的に残存した状態で発見されている。この48号住との重複関係は、当初住居跡に伴う古期竈と想定していたが、床面20cmも上位の部分以底面を備えるのと、奥壁より上位の構造が袋状でさらに地表面側に向かい漏斗上に立ち上がる構造から竈とは異なると判断した。そして、この構造に類似する遺構として窯であることを判断した。覆土は、底面から8cm程には2cm程を最大とする木炭を多量含み、塊状の焼土・粗粒状の焼土・細粒の焼土と黒褐色土が混土となった状態であった。この上位は焼土粒を含む黒褐色土が堆積していた。被熱の状態は底面では認められず、袋状の壁面部分で強く酸化により橙～赤橙色に変色部分が認められた。

出土遺物は土師器製の胴部が細片化したものが数点出土しただけであった。

当窯跡は袋状の燃焼空間から、上部の漏斗状の構造部分に熱を給源する構造であり、土師の焼成室はこの漏斗状より上位の位置に考えられる。当該遺跡以外では、土師器（坏・甕等）の胴部や体部に、円形または不整形の熱受けにより暗い赤橙色に変色部分があり、この色調変色部が受熱の火道と考えられることから、この条件を満たす構造として当該の窯が推定される。

土師器類には、被二次焼成個体以外では、時折焼成時の円形・楕円形・不整形の、焼成時に受けたと考えられる赤橙～暗赤褐色に変色する部分が認められる。この部分は焼成時に局部的に高温を受けた部分と判断され、焼成時の状況を示していると考えられる。状況的には焼成遺構の構造に因ることが推定出来、恐らくは、密構造の燃焼空間から焼成室に熱を送る部分「送熱部」の痕跡と推定される。

このことから、当該跡は密構造の残存と判断され、恐らく土師器の焼成竈であると考えられる。

## 第5号窯跡

**位置**：37-S・T-3グリッド。 **形状**：圓形基調。 **規模**：全長2.28m×窯体長1.68m×窯体幅1.71m×前庭長0.71m×前庭幅1.03m×窯底と前庭底面比高差0.15m。 **主軸方位**：北-32度-西。

**層序**：(基準線標高値103.30m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石微量・炭化物含有。
2. 茶褐色土：粒状C軽石微量・炭化物少量。
3. 黒色土：塊状ローム含有・炭化物多量。
4. 茶褐色土：粒状C軽石微量・炭化物含有・焼土粒含有。

**所見**：当窯跡は調査区の中央部、台地の鞍部に占地する。須恵器工房と判断される11号住の南側5m程に位置している。当窯跡の構造は、焼成部が長方形を呈している。しかし、詳細に観察すると、前庭部との連接構造からは、改修された結果によることが窺知出来る。廃棄段階窯体は横長方形であるが、北東・南東壁側から前庭部との間には円形状の部分的な壁が認められ、この円形状を切り横長方形の窯体が掘り込まれた状態であり、双方の窯体（焼成室）底面には、横長方形の窯体が後行して掘り込まれた痕跡を示す比高差が認められる。この推定される改修以前の円形状窯体（焼成室）構造は、第2・3号窯跡でも認められている。また、窯底直上の奥壁際で出土した木炭は、燃焼材料の炭化と考えられる。この燃料材が炭化した状態は3号窯でも認められている。

## 土坑

### 第1号土坑

**層序**：(基準線標高値106.80m) 1. 濃褐色土：粒状C軽石混入。

## 第2号土坑

層序：(基準線標高値106.80m) 1. 濁褐色土：粒状C軽石混入。

## 第3号土坑

層序：(基準線標高値107.10m) 1. 黒褐色土：粒状C軽石含有。

## 第4号土坑

層序：(基準線標高値107.10m) 1. 黒褐色土：粒状C軽石含有。

## 第13号土坑

層序：(基準線標高値106.60m) 1. 黒色土：粒状C軽石混入。 2. 黒褐色土：粒状C軽石少量含有。

## 第14号土坑

層序：(基準線標高値106.60m)

1. 黒色土：粒状C軽石少量。
2. 黒色土：粒状C軽石細粒状少量・塊状ローム少量。
3. 黒色土：粒状焼土少量・粒状C軽石少量。

## 第15号a土坑

層序：(基準線標高値106.60m)

1. 黒色土：粒状C軽石少量。
2. 黒色土：微粒状C軽石微量。
3. 黒色土：微粒状C軽石微量・塊状ローム含有。

## 第15号b土坑

層序：(基準線標高値106.60m) 1. 黒色土：粒状C軽石少量・塊状ローム含有。

## 第16号土坑

層序：(基準線標高値106.60m) 1. 黒色土：粒状C軽石含有。

## 第26号土坑

層序：(基準線標高値109.10m) 1. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状ローム少量。

## 第27号土坑

層序：(基準線標高値109.10m) 1. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状ローム混。

## 第32号土坑

層序：(基準線標高値109.00m) 1. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状ローム。

## 第33号土坑

層序：(基準線標高値109.00m) 1. 黒褐色土：粒状C軽石少量・粒状ローム含有・塊状ローム少量。

第34号土坑

層序：(基準線標高値109.00m) 1. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状ローム混入。

第36号土坑

層序：(基準線標高値109.00m) 1. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状ローム混。

第37号土坑

層序：(基準線標高値109.10m) 1. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状ローム多量。

第38号土坑

層序：(基準線標高値109.10m) 1. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状ローム。

第39号土坑

層序：(基準線標高値109.00m) 1. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状ローム混。

第40号土坑

層序：(基準線標高値109.20m) 1. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状ローム含有。

第41号土坑

層序：(基準線標高値109.20m) 1. 黒褐色土：粒状C軽石少量。

第43号土坑

層序：(基準線標高値109.30m) 1. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状ローム混。

第68号土坑

層序：(基準線標高値109.20m) 1. 茶褐色粒状C軽石微量・カーボン少量。 2. 茶褐色カーボン含有。

第69号土坑

層序：(基準線標高値109.20m) 1. 茶褐色カーボン含有。

第73号土坑

層序：(基準線標高値109.20m) 1. 塊状ローム主。

第74号土坑

層序：(基準線標高値109.20m) 1. 黒褐色土：粗粒状ローム多量。 2. 粒状ローム含有。

第76号土坑

層序：(基準線標高値106.30m) 1. 黒褐色土：粒状C軽石含有。



## 第81号土坑

層序：(基準線標高値105.50m) 1. 黒褐色土と塊状ロームの混土。

## 第83号土坑

層序：(基準線標高値105.50m) 1. 黒褐色土：粒状C軽石含有。

## 第84号土坑

層序：(基準線標高値105.50m)

1. 粒状ローム多量・粒状C軽石少量。
2. ローム。
3. 粒状ローム少量。
4. 塊状ローム。
5. 粒状ローム含有。
6. 粒状ローム微量。
7. 粒状ローム多量。
8. 粒状ロームない。
9. 粒状ローム少量。
10. 粒状ロームない。
11. 粒状ローム含有。
12. 黄色褐色気味・粒状ローム多量。
13. 粒状ローム含有。
14. 粒状ローム混入。
15. 塊状ローム少量・粒状ローム少量
16. 塊状ローム微量。

## 第103号土坑

層序：(基準線標高値109.80m) 1. 暗褐色土：粒状ローム少量。 2. 茶褐色土：塊状ローム少量。

## 第104号土坑

層序：(基準線標高値109.80m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石含有。
2. 暗褐色土：白色パミス少量。
3. 暗茶褐色土：白色パミス微粒。

## 第105号土坑

層序：(基準線標高値109.80m)

1. 暗褐色土：白色パミス含有。
2. 暗褐色土：白色パミス少量。
3. 暗茶褐色土：暗褐色塊状含有。
4. 暗茶褐色土：暗褐色塊状少量。
5. 薄褐色土：暗褐色塊状少量・ブラウンパミス含有。
6. 薄褐色土：暗褐色塊状少量・塊状ローム多量。
7. 暗褐色土：白色パミス少量。
8. 塊状ローム。
9. 薄褐色土：暗褐色土塊状少量。

## 第110号土坑

層序：(基準線標高値109.00m) 1. 黒褐色土：粒状C軽石混入・ローム土含有。 2. 黒褐色土：塊状ローム含有。

## 第111号土坑

層序：(基準線標高値109.00m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石多量・ローム土含有。
2. 黒褐色土：粒状C軽石少量。
3. 黒褐色土：pp若干・粒状ローム少量。
4. 黒褐色土：粒状C軽石混入・塊状ローム少量。
5. 黒褐色土：粒状C軽石混入・塊状ローム少量。

## 第112号土坑

層序：(基準線標高値109.00m) 1. 黒褐色土：粒状C軽石混入・ローム土含有。 2. 黒褐色土：粒状C軽石混入。

## 第113号土坑

層序：(基準線標高値109.00m) 1. 黒褐色土：塊状ローム混入。

## 第115号土坑

層序：(基準線標高値109.00m) 1. 黒褐色土：粒状C軽石混入・粒状ローム少量。

第116号土坑

層序：(基準線標高値109.00m) 1. 黒褐色土：粒状C軽石混入・塊状ローム少量。

第117号土坑

層序：(基準線標高値109.00m) 1. 黒褐色土：粒状C軽石微量・粒状ローム少量。

第118号土坑

層序：(基準線標高値109.00m) 1. 黒褐色土：粒状C軽石含有。

第119号土坑

層序：(基準線標高値109.00m) 1. 黒褐色土：粒状C軽石混入・カーボン少量。 2. 黒褐色土：粒状ローム混入。

第127号土坑

層序：(基準線標高値104.00m) 1. 暗褐色土：白色パミス少量・粒状ローム含有。

第128号土坑

層序：(基準線標高値104.00m) 1. 黒色土：粒状C軽石含有。 2. 黒色土：塊状ローム多量。

第129号土坑

層序：(基準線標高値104.00m) 1. 暗褐色土：塊状ローム少量。 2. 暗褐色土：塊状ローム含有。

第130号土坑

層序：(基準線標高値104.00m) 1. 暗褐色土：白色パミス微量。

第138号土坑

層序：(基準線標高値106.00m) 1. 濁茶褐色土：塊状ローム多量斑状。

第140号土坑

層序：(基準線標高値108.70m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石含有。
2. 黒褐色土：粒状C軽石少量・粒状ローム含有。
3. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状ローム少量。

第141号土坑

層序：(基準線標高値108.70m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石多量。
2. 黒褐色土：粒状C軽石少量。
3. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状ローム含有。
4. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状ローム多量。

第142号土坑

層序：(基準線標高値108.70m) 1. 黒褐色土：粒状C軽石含有。

## 第145号土坑

層序：(基準線標高値109.20m) 1. 黒褐色土：粒状C軽石混入・塊状ローム含有。

## 第151号土坑

層序：(基準線標高値104.00m) 1. 暗褐色土。

## 第152号土坑

層序：(基準線標高値104.00m) 1. 暗褐色土。

## 第153号土坑

層序：(基準線標高値104.00m) 1. 暗褐色土。

## 第154号土坑

層序：(基準線標高値104.00m) 1. 暗褐色土。

## 第155号土坑

層序：(基準線標高値104.00m) 1. 黒褐色土。

## 第156号土坑

層序：(基準線標高値104.00m) 1. 黒褐色土：細粒状白色粒子含有。

## 第169号土坑

層序：(基準線標高値103.20m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石多量・粗粒炭化物微量。 2. 黒褐色土：粒状C軽石含有・炭化物、炭はない。  
3. 焼土：濁った発色の橙。 4. 焼土：明るい発色・橙～橙黄。

## 第172号土坑

層序：(基準線標高値103.50m) 1. 黒色土：粒状C軽石含有・粗粒状焼土多量・灰少量。

## 第173号土坑

層序：(基準線標高値103.50m) 1. 黒色土：粒状C軽石含有・細粒状少量・塊状灰白褐色地山土含有。

## 第174号土坑

層序：(基準線標高値103.20m)

1. 黒色土：粒状C軽石粗粒・粒状細粒微量。 2. 黒色土：粒状C軽石少量・粒状細粒混入・カーボン含有。  
3. 黒色土：粒状C軽石少量・粒状細粒若干。 4. 黒色土：粒状C軽石微量・粒状細粒少量。

## 第170号土坑

層序：(基準線標高値103.20m)

1. 主・焼土。 2. 塊状焼土混入。 3. 粒状細粒含有。 4. 主・灰。 5. 塊状焼土含有・粒状細粒混入。

富田塚田遺跡 諸元

6. 塊状焼土少量・粒状細粒少量 7. 6近質。 8. 塊状焼土混入。

## 倒木

### 第1倒木

層序：(基準線標高値105.50m)

1. 暗褐色土。 2. 暗黄褐色土。 3. ブラウンバスマ含有。 4. ローム土。 5. ローム土。 6. ローム土。  
7. ローム土。 8. 少量褐色土：塊状ローム。 9. 塊状ローム主・暗褐色土極少。 10. 暗褐色土：少量塊状ローム。  
11. 暗褐色土：塊状ローム。

### 第2倒木

層序：(基準線標高値105.50m) 1. ソフトローム。 2. 黒褐色土。 3. 暗褐色土。

富田漆田遺跡北側調査区土坑一覽表(1)

土坑番号	位置		主軸方位	形状	規模			調査
	地区	グリッド			長	幅	深さ	
1号土坑	5	38-O-1	北-50°-東	円形	0.67+α	0.69	0.18	9~10世紀
2号土坑	5	38-O-1	北-52°-西	円形	1.70	1.46	0.27	9~10世紀
3号土坑	5	28-N-20	北-48°-西	楕円形	1.10	0.78	0.31	9~10世紀
4号土坑	5	28-N-20	0	円形	0.37	0.34	0.18	9~10世紀
5号土坑	5	28-N-19	0	円形	0.27	0.27	0.14	9~10世紀
6号土坑	5	28-M-20						擾乱
7号土坑	5	28-M-20						擾乱
8号土坑	5	38-L-2	北-48°-西	円形	0.28	0.23	0.11	9~10世紀
9号土坑	5	38-K-2	北-44°-西	円形	0.27	0.25	0.09	9~10世紀
10号土坑	5	38-K-1	北-28°-東	楕円形	0.38	0.26	0.22	9~10世紀
11号土坑	5	38-J-2	北-51°-西	円形	0.27	0.24	0.17	9~10世紀
12号土坑	5	38-J-2	北-62°-西	不整形	0.32	0.25	0.22	9~10世紀
13号土坑	5	38-K-7	北-120°-東	不整形	1.30	1.00	0.51	9~10世紀
14号土坑	5	38-K-7	北-24°-東	不整形	2.07	0.77	0.27	9~10世紀
15a号土坑	5	38-K-7	北-33°-東	不整形	1.27	0.80	0.26	9~10世紀
15b号土坑	5	38-K-7	北-42°-東	不整形	0.60	0.61	0.23	9~10世紀
16号土坑	5	38-K-7	北-106°-東	円形	0.76	0.63	0.21	9~10世紀
17号土坑	5	38-F-6	北-68°-西	楕円形	1.38	0.88	0.24	9~10世紀
18号土坑	5	38-F-7	北-60°-西	楕円形	1.50	0.92	0.27	9~10世紀
19号土坑	5	38-F-7	北-16°-東	楕円形	0.98	0.58	0.35	9~10世紀
20号土坑	5	38-F-6	0	円形	0.17	0.16	0.13	
21号土坑	5	38-F-5						擾乱
22号土坑	5	38-E-11	0	円形	0.21	0.19	0.20	9~10世紀
23号土坑	5	38-E-11	北-15°-東	楕円形	0.44	0.36	0.20	9~10世紀
24号土坑	5	38-D-11	北-34°-西	楕円形	0.98	0.74	0.24	9~10世紀
25号土坑	5	38-E-9	北-38°-西	円形	0.92	0.86	0.22	9~10世紀
26号土坑	5	38-E-8	不詳	不整形	1.58	0.97	0.23	9~10世紀
27号土坑	5	38-D-8	北-11°-東	不整形	1.83	1.24	0.23	9~10世紀
28号土坑	5	38-E-9	北-22°-東	不整形	0.87	0.65	0.18	9~10世紀
29号土坑	5	38-E-9	北-92°-東	不整形	0.72	0.43	0.17	9~10世紀
30号土坑	5	38-E-9	北-49°-東	不整形	0.58	0.52	0.19	9~10世紀
31号土坑	5	38-E-9	北-0°	円形	0.19	0.18	0.04	9~10世紀
32号土坑	5	38-D-8	北-97°-東	楕円形	0.64	0.49	0.22	9~10世紀
33号土坑	5	38-D-8	北-20°-西	円形	0.66+α	0.58	0.25	9~10世紀
34号土坑	5	38-D-8	北-0°	円形	0.70	0.68	0.24	9~10世紀
35号土坑	5	38-D-8	北-10°-西	円形	0.30	0.21	0.20	9~10世紀
36号土坑	5	38-D-8	北-51°-東	円形	0.80	0.70	0.16	9~10世紀
37号土坑	5	38-D-9	北-50°-東	楕円形	0.93	0.73	0.05	9~10世紀
38号土坑	5	38-D-8	北-9°-西	円形	0.74	0.60	0.05	9~10世紀
39号土坑	5	38-D-8	北-45°-東	楕円形	0.82	0.46	0.18	9~10世紀
40号土坑	5	38-D-8	0	円形	0.42	0.38	0.18	9~10世紀
41号土坑	5	38-D-8	0	円形	0.8	0.78	0.16	9~10世紀
42号土坑	5	38-D-8	北-72°-西	円形	0.27	0.23	0.09	9~10世紀
43号土坑	5	38-D-8	北-41°-西	円形	0.49	0.43	0.11	9~10世紀
44号土坑	5	38-C-7	北-41°-西	楕円形	0.90	0.61	0.30	9~10世紀
45号土坑	5	38-C-8	北-31°-西	円形	0.58	0.48	0.22	9~10世紀
46号土坑	5	38-D-7	北-35°-西	円形	0.48	0.44	0.50	9~10世紀
47号土坑	5	38-D-7	北-45°-西	円形	0.74	0.61	0.19	9~10世紀
48号土坑	5	38-D-7	北-50°-東	不整形	0.61	0.61	0.49	9~10世紀
49号土坑	5	38-C-6	北-46°-東	円形	0.69	0.58	0.33	9~10世紀
50号土坑	5	38-E-6	北-30°-東	楕円形	0.65	0.46	0.35	9~10世紀
51号土坑	5	38-D-6	北-43°-西	円形	0.24	0.22	0.31	9~10世紀
52号土坑	5	38-D-6	北-44°-西	楕円形	0.43	0.24	0.27	9~10世紀
53号土坑	5	38-D-5	北-20°-東	円形	0.37	0.22	0.32	9~10世紀
54号土坑	5	38-D-5	北-31°-東	円形	0.28	0.24	0.07	9~10世紀
55号土坑	5	38-D-5	北-83°-西	円形	0.47	0.29	0.36	9~10世紀
56号土坑	5	38-D-5	0	円形	0.34	0.32	0.46	9~10世紀
57号土坑	5	38-D-5	北-3°-東	円形	0.26	0.22	0.10	9~10世紀
58号土坑	5	38-D-4	北-55°-西	円形	0.26	0.22	0.07	9~10世紀

富田漆田遺跡北側調査区土坑一覧表(2)

土坑番号	位置		主軸方位	形状	規模			摘要
	地区	グリッド			長	幅	深さ	
59号土坑	5	38-D-5	北-22°-東	円形	0.20	0.15	0.07	9~10世紀
60号土坑	5	38-D-5						攪乱
61号土坑	5	38-D-5	北-50°-東	円形	0.30	0.23	0.19	9~10世紀
62号土坑	5	38-B-5						攪乱
63号土坑	5	38-B-5						攪乱
64号土坑	5	38-B-6						攪乱
65号土坑	5	38-A-7	北-35°-西	楕円形	0.46	0.40	0.40	9~10世紀
66号土坑	5	38-A-7		円形	0.35	0.35	0.18	9~10世紀
67号土坑	5	37-S-2						攪乱
68号土坑	5	37-S-2	北-7°-東	楕円形	1.72	0.80	0.44	9~10世紀
69号土坑	5	37-S-2	北-16°-西	円形	0.48	0.38	0.43	9~10世紀
70号土坑	5	37-S-2		円形	0.29	0.27	0.21	9~10世紀
71号土坑	5	37-S-2		円形	0.26	0.25	0.17	9~10世紀
72号土坑	5	37-S-2	北-15°-西	円形	0.67	0.58	0.15	9~10世紀
73号土坑	5	37-S-2	北-4°-東	不整楕円方形	1.18	0.76	0.21	9~10世紀
74号土坑	5	37-S-1		円形	1.01	0.98	0.25	9~10世紀
75号土坑	5	37-S-1		円形か	1.08+ $\alpha$	0.67+ $\alpha$	0.37	9~10世紀
76号土坑	5	27-R-14	北-40°-東	円形か	1.19	0.76	0.09	9~10世紀
77号土坑	5	27-R-13	0	円形	0.41	0.39	0.26	9~10世紀
78号土坑	5	27-R-12	北-1°-東	方形	0.39	0.30	0.64	中世後半
79号土坑	5	27-R-12	0	方形	0.33	0.29	0.41	中世後半
80号土坑	5	27-R-12	0	方形	0.22	0.21	0.24	中世後半
81号土坑	5	27-S-13	0	円形	0.86	0.76	0.10	9~10世紀
82号土坑	5	27-S-13	0	方形	0.23	0.23	0.22	中世後半
83号土坑	5	27-R-12	北-18°-東	円形	0.70	0.58	0.14	9~10世紀
84号土坑	5	27-S-12	北-56°-東	楕円形	1.91	1.57	0.80	9~10世紀
85号土坑	5	27-S-12	0	方形	0.30	0.28	0.39	9~10世紀
86号土坑	5	27-S-12	北-4°-西	方形	0.36	0.30	0.30	中世後半
87号土坑	5	27-S-12	北-2°-東	不整方形	0.35	0.33	0.28	中世後半
88号土坑	5	27-S-12	北-1°-東	不整方形	0.56	0.48	0.36	中世後半
89号土坑	5	27-S-12	北-43°-西	円形	0.30	0.30	0.20	9~10世紀
90号土坑	5	27-S-12	0	方形	0.23	0.20	0.24	9~10世紀
91号土坑	5	27-S-12	0	隅丸方形	0.38	0.37	0.55	9~10世紀
92号土坑	5	27-S-12	北-45°-西	隅丸方形	0.35	0.29	0.41	9~10世紀
93号土坑	5	27-S-12	北-10°-東	隅丸方形	0.34	0.33	0.36	9~10世紀
94号土坑	5	27-S-12	北-45°-西	隅丸方形	0.40	0.39	0.42	9~10世紀
95号土坑	5	27-S-12	北-46°-西	方形	0.30	0.29	0.21	9~10世紀
96号土坑	5	27-S-12						攪乱
97号土坑	5	27-S-12	北-53°-西	円形	0.28	0.27	0.69	9~10世紀
98号土坑	5	27-S-12	北-72°-西	円形	0.36	0.26	0.68	中世後半
99号土坑	5	27-S-12	北-37°-東	隅丸方形	0.40	0.33	0.30	9~10世紀
100号土坑	5	27-T-12						攪乱
101号土坑	5	37-T-7	北-0°	円形か	0.98+ $\alpha$	0.52+ $\alpha$	0.28	9~10世紀
102号土坑	5	37-T-7	北-0°	円形か	0.77+ $\alpha$	0.49+ $\alpha$	0.17	9~10世紀
103号土坑	5	37-T-7	北-169°-南	楕円形	0.98	0.62	0.29	縄文時代中期
104号土坑	5	37-T-7	不詳	楕円形	1.30+ $\alpha$	1.22	0.41	縄文時代中期
105号土坑	5	37-T-7	北-108°-南	不整楕円形	2.60	1.56	1.29	縄文時代中期
106号土坑	5	37-R-5						攪乱
107号土坑	5	37-R-5						攪乱
108号土坑	5	37-S-4	北-28°-東	円形か	0.8+ $\alpha$	1.01	0.36	9~10世紀
109号土坑	5	37-S-4						攪乱
110号土坑	5	28-B-19	北-4°-東	隅丸長方形	0.95	0.41	0.26	9~10世紀
111号土坑	5	28-B-19	北-58°-東	隅丸長方形	0.97	0.50	0.50	9~10世紀
112号土坑	5	28-B-19	北-0°	円形	0.38	0.37	0.37	9~10世紀
113号土坑	5	28-B-19	北-0°	不整円形	0.37	0.32	0.13	9~10世紀
114号土坑	5	28-A-19	北-19°-東	不整円形	0.90	0.71	0.29	9~10世紀
115号土坑	5	27-T-20	北-100°-東	楕円形	0.81	0.58	0.28	9~10世紀
116号土坑	5	27-T-20	北-0°	円形	0.63	0.57	0.20	9~10世紀
117号土坑	5	27-S-20	北-0°	円形	0.41	0.36	0.34	9~10世紀

富田漆田道跡北側調査区土坑一覧表(3)

土坑番号	位置		主軸方位	形状	規模			調査
	地区	グリッド			長	幅	深さ	
118号土坑	5	28-A-19	0	円形	0.48	0.41	0.04	9～10世紀
119号土坑	5	27-T-19	0	不整円形	0.40	0.38	0.75	9～10世紀、独立ビットか。
120号土坑	5	27-T-19	0	不整円形	0.38	0.38	0.25	9～10世紀
121号土坑	5	27-T-19	0	円形	1.00	0.95	0.16	9～10世紀
122号土坑	5							覆乱
123号土坑	5	27-S-15	0	不整円形	1.01	0.95	0.55	9～10世紀
124号土坑	5	27-R-14	0	円形	0.39	0.39		9～10世紀
125号土坑	5	27-R-13	0	円形	0.54	0.54	0.61	9～10世紀
126号土坑	5	27-Q-13	0	円形	0.39	0.35	0.49	9～10世紀
127号土坑	5	27-S-9	0	円形	0.50	0.48	0.17	縄文時代(前期か)
128号土坑	5	27-T-9	北-49°東	円形	0.57	0.48	0.26	9～10世紀
129号土坑	5	27-T-8	北-51°東	円形	0.80	0.78	0.36	縄文時代(前期か)
130号土坑	5	27-T-9	北-77°西	円形	0.43	0.37	0.08	縄文時代(前期か)
131号土坑	5	27-T-7	北-20°西	楕円形	0.46	0.28	0.37	縄文時代(前期か)
132号土坑	5	28-A-8	北-6°東	楕円形	0.75	0.52	0.78	縄文時代(前期か)
133号土坑	5	28-A-10	0	円形	0.35	0.35	0.28	9～10世紀
134号土坑	5	27-T-11	0	円形	0.28	0.24	0.31	9～10世紀
135号土坑	5	27-T-11	0	円形	0.29	0.28	0.18	9～10世紀
136号土坑	5	27-Q-14		円形	1.90	1.45+α	0.29	9～10世紀
137号土坑	5	28-A-12	北-71°西	不整楕円形	0.52	0.39	0.33	9～10世紀
138号土坑	5	27-T-13	北-33°西	長方形	1.96	0.58	0.24	現代
139号土坑	5	27-R-13	0	円形	0.44	0.44	0.12	9～10世紀
140号土坑	5	28-B-16	0	円形	0.55	0.54	0.68	9～10世紀、独立ビットか。
141号土坑	5	28-B-17	0	不整方形	0.79	0.77	0.83	9～10世紀、独立ビットか。
142号土坑	5	28-B-17	北-72°西	楕円形	0.64	0.48	0.35	9～10世紀
143号土坑	5	27-S-20	北-7°西	不整楕円形	0.64	0.50	0.19	9～10世紀
144号土坑	5	27-S-19	北-26°東	不整方形	0.55	0.52	0.42	9～10世紀
145号土坑	5	37-S-1	0	円形	0.38	0.36	0.30	9～10世紀
146号土坑	5	27-R-20	0	円形	0.41	0.40	0.27	9～10世紀
147号土坑	5	27-R-19	北-26°東	不整方形	0.43	0.41	0.18	9～10世紀
148号土坑	5	27-O-14	0	円形	0.33	0.33	0.29	9～10世紀
149号土坑	5	27-O-14	0	円形	0.33	0.32	0.19	9～10世紀
150号土坑								欠番
151号土坑	5	27-S-9	0	円形	0.28	0.28	0.20	縄文時代(前期か)
152号土坑	5	27-S-9	0	円形	0.26+α	0.26	0.25	縄文時代(前期か)
153号土坑	5	27-S-9	0	円形	0.40	0.38	0.20	縄文時代(前期か)
154号土坑	5	27-S-9	0	円形	0.38	0.34	0.15	縄文時代(前期か)
155号土坑	5	27-S-8	北-36°東	円形	0.47	0.43	0.16	縄文時代(前期か)
156号土坑	5	27-S-8	北-35°西	不整円形	0.44	0.37+α	0.09	縄文時代(前期か)
157号土坑	5	28-A-8						覆乱
158号土坑	5	27-T-11	北-44°西	円形	0.4	0.35	0.43	9～10世紀
159号土坑	5	38-E-11	北-12°東	円形	0.25	0.23	0.38	9～10世紀
160号土坑	5	38-D-11	北-60°西	円形	0.31	0.25	0.30	9～10世紀
161号土坑	5	38-D-11	北-18°東	楕円形	0.24	0.17	0.12	9～10世紀
162号土坑	5	38-E-11	0	円形	0.13	0.12	0.12	9～10世紀
163号土坑	5	38-D-11	北-29°東	円形	0.48	0.42	0.13	9～10世紀
164号土坑	5	38-D-10	北-38°西	円形	0.90	0.82	0.34	9～10世紀
165号土坑	5	38-D-10	北-65°西	楕円形	0.55	0.37	0.26	9～10世紀
166号土坑	5	38-E-10						倒木跡
167号土坑	5	38-K-2	北-43°東	不整円形	0.35	0.28	0.15	9～10世紀
168号土坑	5	38-K-2	北-21°東	円形	0.29	0.28	0.22	9～10世紀
169号土坑	5	27-P-7	北-33°西	円形	0.93	0.85	0.15	9～10世紀
170号土坑	5	27-S-5	北-45°西	不整形	1.10	0.93	0.20	9～10世紀
171号土坑	5	27-P-9	北-19°東	円形	0.74	0.72	0.18	9～10世紀
172号土坑	5	27-S-5	北-54°東	不整形	0.70	0.66	0.18	9～10世紀
173号土坑	5	27-T-5	0	不整形	1.36	0.54+α	0.29	9～10世紀
174号土坑	5	27-P-7	北-30°西	円形	0.84	0.55	0.23	9～10世紀

## 富田漆田遺跡北側調査区出土遺物観察表

## 溝状遺構出土遺物

遺物番号 採取番号	遺物種類 遺構	出土層位 層 序	位置 目 注 (m) (g)	構成・色調・胎土 (石製物は厚目録)	形状・技法等の特徴	備 考
10-00542	縄文土器 深鉢	5 溝状土内 破片	層1.1	泥・黒・赤・黄褐色・黒色黏土 胎土	胎土層を破れ残文する。	
10-00543	須恵系土 器	7 溝状土内 破片	層1.6	泥・黒・赤・灰・黒色粘土・シムト 質・器外自然胎付着。	継作り後引手整形。器外面は平行印子。器内面は付具は兼 文。自然胎付着。	鉄製土
10-00544	須恵系土 器	7 溝状土内 破片	層1.1	泥・黒・赤・白色黏土胎土	内外面無胎成形。	
20-00143	打製石器 用部	8 溝状土内 破片		珪質頁岩	片割縁に加工を施す。	
10-00545	土師器 壺	10 溝状土内 破片	層1.0	泥・黒・赤・黄褐色・黒色黏土胎土 (角 粒状)・白色粘土	継作り。口縁部中央は肥厚する。器外面は無胎成形。	粘土北ローム
10-00546	土師器 壺	10 溝状土内 破片	層1.6	泥・黒・赤・黄褐色・黒色黏土胎土 (角 粒状)・白色粘土	継作り。器外面は無胎成形。器内面は 刷毛目。	粘土北ローム
10-00547	須恵系土 器	10 溝状土内 破片	層1.3	泥・黒・赤・灰・灰褐色胎土少量	輪轆成形器石回転。器面は刷毛目。	東毛産
10-00548	須恵系土 器	10 溝状土内 破片	層1.3	泥・黒・赤・灰 胎土=オリーブ灰	少量の碎部片。胎土は薄い。輪轆成形器石回転。	鉄製土
10-00549	土師器 壺	11 溝状土内 破片	層16 (6.0)	泥・黒・赤・黄褐色・黒色黏土胎土 (角粒状)・白色粘土	継作り。器外面・器底は無胎。器内面は無胎成形。	粘土北ローム
10-00550	土師器 壺	11 溝状土内 破片	層17 (7.0)	泥・黒・赤・黄褐色・黒色黏土胎土 (角粒状)・白色粘土	継作り。器外面は無胎。器底は上記角粒状で、刷毛目 の仕立が認められる。器内面は刷毛目。	粘土北ローム
10-00551	須恵系土 器	11 溝状土内 破片	層1.7	泥・黒・赤・白灰 胎土=オリーブ灰	継作り後輪轆石回転成形。	
10-00552	土師器 壺	12 溝状土内 破片	層13 (3.6)	泥・黒・赤・黄褐色・黒色黏土胎土 (黒 色黏土胎土)	継作り。器外面は刷毛目の無胎で後継作りの無胎成形。器内 面は刷毛目。杯の胎合痕が認められる。	粘土北ローム
10-00553	土師器 壺	12 溝状土内 破片	層1.8	泥・黒・赤・白灰	文部時代の口縁部。口唇部には肥厚する。器底に 刷毛目。	
49-00014	須恵系土 器	12 溝状土内 破片	層14 (4.9)	層103	溝状土の断片。破片。	
10-00554	土師器 壺	13 溝状土内 破片	層1.1	泥・黒・赤・灰・白色粘土	継作り後引手整形。器外面は平行印子。器内面は青褐色文。器 内面に青く自然胎付着。	東毛産
10-00555	土師器 壺	13 溝状土内 破片	層13 (13.2)	泥・黒・赤・黄褐色・黒色黏土胎土 (シム ト質)	継作り。口縁部は無胎で無胎。口縁部直下は肥厚部による 外縁を表す。器底に刷毛目。器底は無胎。	東毛産
10-00556	土師器 小形壺か	13 溝状土内 破片	層11 (11.6)	泥・黒・赤・黄褐色・黒色黏土胎土 (角 粒状)・白色粘土	継作り。器底部外面小形に刷毛目整形。口縁部外面無 胎で後継作りの無胎成形。器内面は刷毛目。	粘土北ローム
10-00557	土師器 壺	13 溝状土内 破片	層14 (14.0)	泥・黒・赤・黄褐色・黒色黏土胎土 (角 粒状)・白色粘土	継作り。器外面は刷毛目の無胎で、口縁部は刷毛目の無胎。器内面は 2等一単位に自然胎付着。	粘土北ローム
10-00558	土師器 壺	13 溝状土内 破片	層13 (13.2)	泥・黒・赤・黄褐色・黒色黏土胎土 (角 粒状)・白色粘土	継作り。器外面は刷毛目の無胎で、口縁部は刷毛目の無胎。器内面は 口唇部直下は無胎で刷毛目。器底は刷毛目。	粘土北ローム
10-00559	須恵系土 器	13 溝状土内 破片	層1.5	泥・黒・赤・灰・灰褐色胎土少量	輪轆成形器石回転。口唇部は兼文付着する。	東毛産 雲山山
10-00560	土師器 壺	14 溝状土内 破片	層1.6	泥・黒・赤・黄褐色・黒色黏土胎土 (角 粒状)	粘土胎の単位は認められないが、粘土の引き上げ痕が認め られる。	粘土北ローム
10-00561	須恵系土 器	14 溝状土内 破片	天井部 (3.6)	泥・黒・赤・白灰・灰褐色胎土少量	輪轆成形器石回転。器底は刷毛目より作られてない。天井部 は刷毛目。	東毛産 雲山山
10-00562	須恵系土 器	14 溝状土内 破片	層1.6-0.7	泥・黒・赤・灰・灰褐色胎土少量	黄の胎土。輪轆成形器石回転。器底に刷毛目による輪轆回 転による兼文が認められる。	東毛産 雲山山
10-00563	須恵系土 器	14 溝状土内 破片	層15 (15.2)	泥・黒・赤・白灰・白色黏土胎土	継作り後輪轆石回転成形。器底に刷毛目の仕立が認めら れる。	吉井産小
10-00564	須恵系土 器	14 溝状土内 破片	層1.2	泥・黒・赤・灰・灰褐色胎土少量	須恵系土。器底に自然胎付着。胎土は兼文の刷毛目か オリーブ灰を思っている。	東毛産 雲山山
10-00565	須恵系土 器	14 溝状土内 破片	層1.9	泥・黒・赤・白灰・白色黏土胎土少量	継作り後引手整形。器外面は平行印子。器内面は付具は兼 文。器外面自然胎付着。	大田産
10-00566	須恵系土 器	14 溝状土内 破片	層13 (13.6)	泥・黒・赤・白灰 胎土=オリーブ灰	輪轆成形器石回転。胎土は内面にのみ付着。	

## 第1号住居跡

遺物番号 採取番号	遺物種類 遺構	出土層位 層 序	位置 目 注 (m) (g)	構成・色調・胎土 (石製物は厚目録)	形状・技法等の特徴	備 考
10-00567	土師器 壺	15 溝状土内 破片	層12 (12.6)	泥・黒・赤・黄褐色・黒色黏土胎土 (可 能胎土)	継作り。口縁部は無胎で無胎。器底に刷毛目。器底は 刷毛目。	吉井・藤原産 小
10-00568	土師器 壺	15 溝状土内 破片	層1.5	泥・黒・赤・黄褐色・黒色黏土胎土 (角 粒状)・白色粘土	「コ」字状に胎合と認められる。器内面無胎で無胎成形。器 外面に「コ」字状に胎合と認められるが、文字の判別は不能。	東毛産 雲山山-45
10-00569	須恵系土 器	15 溝状土内 破片	層13 (13.6)	泥・黒・赤・灰・灰褐色胎土少量	輪轆成形器石回転。器面は刷毛目。	東毛産
10-00570	須恵系土 器	15 溝状土内 破片	層17 (7.2)	泥・黒・赤・黄褐色・黒色黏土胎土 (角 粒状)・白色粘土	輪轆成形器石回転。高台は付け高台。	東毛産
10-00571	須恵系土 器	15 溝状土内 破片	層17 (7.0)	泥・黒・赤・白灰 胎土=オリーブ灰	輪轆成形器石回転。高台は付け高台。胎土は不詳。	東毛産



## 第54号住居跡

遺物番号 図号番号	遺物種類	出土層位 遺存層	量目 (cm) 目 (g)	構成・色調・粘土 (石室材は別目録)	形状・技法等の特徴	調査
10-00572	須恵器 土師 灰土内 破片	17(13.0)		黒・中・軟・明黄褐・黒色鉱物粒子 (角状状)・白色粒子	輪軸成形型石臼製。器厚はやや厚目で口唇部面はやや厚厚する。当遺跡での生産製品と推定される。	須田茂徳
10-00573	須恵器 土師 灰土内 破片	底(5.4)		黒・中・軟・灰白・チャーン・黒色 鉱物粒子 (角状状)	輪軸成形型石臼製。器厚は同層あり。当遺跡か近隣の生 産製品と推定される。	
10-00574	須恵器 須恵 灰土内 破片	底(8.8)		黒・中・軟・黄灰・黒色鉱物粒子 (角 状状)・白色粒子	輪軸成形型石臼製。高台は付け付高台。当遺跡での生産産品と 推定される。	緑田直彦
10-00575	須恵器 須恵 灰土内 破片	17(124.0) 附(2.60)		黒・黒・軟・純緑・緑片・β石黒	紐作り後輪軸成形か成形。当遺跡の近隣の生産製品と 推定される。	
10-00576	須恵器 須恵 電線地内 破片	厚1.2~2.0		黒・中・軟・明黄褐・黒色鉱物粒子 (角状状)・白色粒子・石黒・β石黒	紐作り後整形。外面は平打ち。内面は器底の周化に よる平打。	東毛産
10-00577	須恵器 須恵 灰土内 破片	底(7.6)		黒・黒・軟・純緑・緑片・β石黒 輪軸=オリーブ灰	輪軸成形型石臼製。器物は設け。輪軸は厚目。	
10-00578	須恵器 須恵 灰土内 破片	17(14.0) 底(7.2) 高(4.4)		黒・黒・軟・純緑・緑片 輪軸=オリーブ灰	輪軸成形型石臼製。器物は設け。輪軸は厚目。	
40-00005	灰土内 破片	残長2.8 幅3.6 厚2.0 底25			同中層面上半部が比較的確力(磁力)を有す。	

## 第2号住居跡

遺物番号 図号番号	遺物種類	出土層位 遺存層	量目 (cm) 目 (g)	構成・色調・粘土 (石室材は別目録)	形状・技法等の特徴	調査
10-01327	土師器 須恵 灰土内 破片	電1 3/4	17(9.6) 幅(6.2)	黒・黄・軟・明黄褐・灰黒物少量・ C生土黒	作り詳細は不明。器厚は厚。内面は内層気味立ち上がり、 立ち上りきつ。裏面りはシャープ。作りは上す。	東毛産
10-00579	土師器 須恵 灰土内 破片	電1 1/2	17(20.0) 幅(17.1) 底(3.0)	黒・中・軟・明黄・黒色鉱物粒子 (角 状状)・白色粒子	作り詳細は不明。口縁部は強い傾度の輪軸2段。コノ 口すは傾軸成型。全体は器厚で整形の器。	東毛産
10-00580	土師器 須恵 灰土内 破片	電1 1/2	17(20.0) 幅(17.4) 底(23.0)	黒・黄・軟・明黄・細砂・細粒状 (灰黒)・黒色鉱物粒子 (角状状)	作り詳細は不明。器厚は厚い傾斜に削り上げ。器底直下 で傾軸に転換する。	東毛産
10-00581	土師器 須恵 灰土内 破片	電1(器底) 3/4	17(20.0) 幅(18.0) 底(21.5)	黒・黄・軟・明黄・β石黒・ 灰黒物少量	作り詳細は不明。器厚は厚い傾斜に削り上げ。器底直下 で傾軸に転換する。作りは非常に再。	東毛産
10-00582	土師器 須恵 灰土内 破片	電1 1/2	17(21.2) 幅(19.7) 底(23.2)	黒・黄・軟・明黄・黒色鉱物粒子 (角 状状)・細粒砂	口縁部直下で器底を削り。器厚は厚い傾斜に削り上げ。器 底直下で傾軸に転換する。傾軸の傾度が多い。	東毛産
10-00583	土師器 須恵 灰土内 破片	電1 1/4	底(4.3)	黒・黄・軟・明黄・黒色鉱物粒子 (角 状状)・β石黒	器作り。器底の裏面りや水平に施す。	東毛産
10-00584	須恵器 須恵 灰土内 破片	17(12.7) 底(5.8)		黒・黄・軟・明黄・白色鉱物粒子・黒 色粒子	輪軸成形型石臼製。器底は同層あり。器厚は厚い作り。	東毛産
10-00585	須恵器 須恵 灰土内 破片	17(12.0) 底(6.3)		黒・黄・軟・灰白・黒色鉱物粒子 (角 状状)・黒色粒子・β石黒	輪軸成形型石臼製。器底は同層あり。器厚は厚く口縁部は 傾く。器内外面傾軸成型の器と認められる。	東毛産
10-00586	須恵器 須恵 灰土内 破片	17(16.1) 底(6.3)		黒・黄・軟・灰白・黒色鉱物粒子 (角 状状)・灰黒粒	輪軸成形型石臼製。器底は同層あり。器底一段に引き上げ られぬ。	緑田直彦
10-00586	須恵器 須恵 灰土内 破片	残長5.6 幅(4.3)			縁の骨格部分の残存。反りが強い。器底に傾軸が認めら れる。	
10-00587	須恵器 須恵 灰土内 破片	残長9.6 幅(2.7) 厚2.1 重87		磁石	平軸製。器底に向かい強い磁りか面。	
10-00587	土師器 須恵 灰土内 破片	厚(3)		黒・黄・軟・明黄・黒色鉱物粒子	器底内面に傾軸が認められる。器厚の可視性も有る。	東毛産 器厚-16
10-00588	須恵器 須恵 灰土内 破片	厚(7.4)		黒・黄・軟・明黄・白色鉱物粒子・β石 黒	輪軸成形型石臼製。傾軸目が多い。高台は欠損(付け高台)。	東毛産

## 第53号住居跡

遺物番号 図号番号	遺物種類	出土層位 遺存層	量目 (cm) 目 (g)	構成・色調・粘土 (石室材は別目録)	形状・技法等の特徴	調査
10-00589	須恵器 須恵 灰土内 破片	17(17.2) 底(9.2)		黒・黄・軟・明黄・ 輪軸=オリーブ灰	輪軸成形型石臼製。器底は同層あり。高台は付け付高台。 器物は厚目。	東毛産
10-00590	須恵器 須恵 灰土内 破片	底(7.3)		黒・黄・軟・明黄・ 輪軸=オリーブ灰	輪軸成形型石臼製。器底は同層あり。高台は付け付高台。 器物は設け。	東毛産

## 第3号住居跡(1)

遺物番号 図号番号	遺物種類	出土層位 遺存層	量目 (cm) 目 (g)	構成・色調・粘土 (石室材は別目録)	形状・技法等の特徴	調査
10-00591	土師器 須恵 灰土内 破片	電1 高(1.7)	17(2.2) 幅(6.0)	黒・黄・軟・明黄・シルト質・灰黒物 少量	作り。口縁部は傾度で、器底は傾斜の傾度より。口縁部に 傾度を生じ、器外縁に粘土状の骨格が残り。	東毛産
10-00592	土師器 須恵 灰土内 破片	電1 高(8.6)		黒・黄・軟・明黄・白色粒子・黒色 鉱物粒子 (角状状)	作り。口縁部上の傾斜による立ち上がり外縁による傾軸。 器底で、器厚は傾軸の傾度で、器底に傾軸が付け替る。	東毛産
10-00593	土師器 須恵 灰土内 破片	厚(3)		黒・黄・軟・明黄・黒色鉱物粒子 (角 状状)・β石黒	底面に器底を残す。内面は傾度で整形。	東毛産
10-00594	土師器 須恵 灰土内 破片	17(18.0) 幅(15.0)		黒・黄・軟・明黄・黒色鉱物粒子 (角 状状)・白色粒子	最大開口部を傾度で整形。器底直下は傾度の傾度より。 口縁部は上へ上へ傾度で整形。	東毛産
10-00595	土師器 須恵 灰土内 破片	17(24.0) 幅(22.0)		黒・黄・軟・明黄・黒色鉱物粒子 (角 状状)・白色粒子	器底直下は傾度の傾度より。器底直下は傾度の傾度より。 器底直下は傾度の傾度で、器底直下は傾度の傾度で整形。	東毛産
10-00596	土師器 須恵 灰土内 破片	17(18.0) 幅(14.2) 底(20.7)		黒・黄・軟・明黄・黒色鉱物粒子 (角 状状)・白色粒子	器底直下は傾度の傾度より。器底直下は傾度の傾度で整形。 器底直下は傾度の傾度で整形。	東毛産
10-00597	土師器 須恵 灰土内 破片	底(4.8)		黒・黄・軟・明黄・黒色鉱物粒子 (角 状状)・β石黒・白色粒子	作り。器底直下は傾度の傾度で整形。内面は傾度の傾 度で傾。斜上方向への傾度で整形を施す。	東毛産
10-00598	土師器 須恵 灰土内 破片	底(4.8)		黒・黄・軟・明黄・白色粒子・黒色 鉱物粒子 (角状状)・β石黒	傾度直下から上方向に傾度より。器底直下は傾度の傾度 で傾。傾度直下は傾度の傾度で整形を施す。	東毛産
10-00599	須恵器 須恵 灰土内 破片	17(2.0) 幅(3.0) 高(4.1)		黒・中・軟・明黄・黒色鉱物粒子 (角 状状)・白色粒子	輪軸成形型石臼製。器底直下は傾度・灰黒によるため傾軸 からの切り離し技法は本層。	東毛産
10-00600	須恵器 須恵 灰土内 破片	17(14.0) 底(7.0) 高(6.0)		黒・黄・軟・明黄・黒色鉱物粒子 (角 状状)・磁石	輪軸成形型石臼製。高台は付け付高台。器内面は傾度なき 器。	東毛産
10-00601	須恵器 須恵 灰土内 破片	17(12.2)		黒・黄・軟・明黄・黒色鉱物粒子 (角 状状)・白色粒子	輪軸成形型石臼製。輪軸の裏面は多い。	東毛産

## 第3号住居跡(2)

遺物番号 採取番号	遺物種 類	出土層位 存在層	量 目(cm) 目(g)	構成・色調・粘土 (石臼材は量目注)	形状・技法等の特徴	備 考
10-00602	須恵器 煎餅	敷土内 破片	口(12.2)	茶・黒・赤・黄褐色・黒色鉱物粒子 (角状状)・白色粒状	輪軸成型形石臼形。黄土器形は1線部が強く残存。元々の 色に別れてはいるが、口縁部は内側で短くやや外反する。	黄土器
10-00603	須恵器 内皿	床直上 1/2	底(7.3)	茶・黒・赤・黄褐色・黒色鉱物粒子 (角状状)・白色粒状・夾雑物少量	輪軸成型形石臼形。高台は付け高台。器内面は薄層により、 納鈔の単位は認められない。	黄土器
10-00604	須恵器 大口煎餅	敷土下層 破片	底(16.6)	茶・黒・赤・黄褐色・黒色鉱物粒子 (角状状)・白色粒状	紐作り。器内面は強く磨滅。輪軸成型形が見られない。	古土・黄土器
10-00605	須恵器 大塚形 白陶磁器	床直上層	底6.1 口径8.8-9.9	茶・黒・赤・黄・白色鉱物粒子(圓 形品)	紐状破片を転写している。縁口は縁取りを施し内面に濃 く着色。	黄土器
10-00145	須恵器 箸土内 破片	第1土層 第1.6 底7.7	底5.4 底7.2	黒粒状石臼山石	紐作り。器内面は強く磨滅。上下は縁取りを施している。 縁口は縁取りを施している。縁口は縁取りを施し内面に濃 く着色。	黄土器
10-00146	須恵器 石臼	敷土内土 破片	底18.2 底15.4 底5.7 底7.6	黒石臼	紐作り。器内面は強く磨滅。上下は縁取りを施している。 縁口は縁取りを施している。縁口は縁取りを施し内面に濃 く着色。	黄土器
10-00147	須恵器 石臼	敷土内土 破片	底18.1 底17.8 底9.8 底5.6	黒粒状石臼山石	紐作り。器内面は強く磨滅。上下は縁取りを施している。 縁口は縁取りを施している。縁口は縁取りを施し内面に濃 く着色。	黄土器
10-00148	須恵器 石臼	敷土内土 破片	底27.7 底18.6 底7.2 底5.188	石臼山石	紐作り。器内面は強く磨滅。上下は縁取りを施している。 縁口は縁取りを施している。縁口は縁取りを施し内面に濃 く着色。	黄土器

## 第4号住居跡(1)

遺物番号 採取番号	遺物種 類	出土層位 存在層	量 目(cm) 目(g)	構成・色調・粘土 (石臼材は量目注)	形状・技法等の特徴	備 考
10-00606	須恵器 土師煎餅	P・内 破片	口(18.2)	茶・黒・赤・黄褐色・黒色鉱物粒子 (角状状)・白色粒状	紐作り後輪軸成型形。器内面は1線部が強く残存。元々の 色に別れてはいるが、口縁部は内側で短くやや外反する。	黄土器
10-00607	須恵器 煎餅	床直上 口部欠	口(11.1) 底6.0	茶・中・赤・黄褐色・黒色鉱物粒子(角 状状)・g石臼	輪軸成型形石臼形。器内面は強く磨滅。器内面は強く磨滅。 器内面は強く磨滅。器内面は強く磨滅。	黄土器
10-00608	須恵器 煎餅	床直上層 部分欠層	口(11.2) 底6.3	茶・中・赤・黄褐色・黒色鉱物粒子(角 状状)・g石臼	輪軸成型形石臼形。器内面は強く磨滅。器内面は強く磨滅。 器内面は強く磨滅。器内面は強く磨滅。	黄土器
10-00609	須恵器 煎餅	床直上層 1/4	口(11.0) 底(5.4)	茶・中・赤・黄褐色・黒色鉱物粒子(角 状状)	輪軸成型形石臼形。器内面は強く磨滅。器内面は強く磨滅。 器内面は強く磨滅。器内面は強く磨滅。	黄土器
10-00610	須恵器 煎餅	床直上層 煎餅部欠	口(11.2) 底(7.4)	茶・中・赤・黄褐色・黒色鉱物粒子(角 状状)・g石臼	輪軸成型形石臼形。器内面は強く磨滅。器内面は強く磨滅。 器内面は強く磨滅。器内面は強く磨滅。	黄土器
10-00611	須恵器 煎餅	敷土内 1/3	口(11.2) 底(7.4)	茶・中・赤・黄褐色・黒色鉱物粒子(角 状状)・g石臼	輪軸成型形石臼形。器内面は強く磨滅。器内面は強く磨滅。 器内面は強く磨滅。器内面は強く磨滅。	黄土器
10-00612	須恵器 煎餅	敷土内 破片	口(11.2) 底(6.4)	茶・黒・赤・黄褐色・黒色鉱物粒子 (角状状)・g石臼	輪軸成型形石臼形。器内面は強く磨滅。器内面は強く磨滅。 器内面は強く磨滅。器内面は強く磨滅。	黄土器
10-00613	須恵器 煎餅	床直上層 欠層	口(11.2) 底(6.7)	茶・黒・赤・黄褐色・黒色鉱物粒子(角 状状)・g石臼	輪軸成型形石臼形。器内面は強く磨滅。器内面は強く磨滅。 器内面は強く磨滅。器内面は強く磨滅。	黄土器
10-00614	須恵器 煎餅	床直上層 破片	口(11.2) 底(6.8)	茶・黒・赤・黄褐色・黒色鉱物粒子(角 状状)・g石臼	輪軸成型形石臼形。器内面は強く磨滅。器内面は強く磨滅。 器内面は強く磨滅。器内面は強く磨滅。	黄土器
10-00615	須恵器 煎餅	床直上層 部分欠層	口(11.2) 底(6.8)	茶・黒・赤・黄褐色・黒色鉱物粒子(角 状状)・g石臼	輪軸成型形石臼形。器内面は強く磨滅。器内面は強く磨滅。 器内面は強く磨滅。器内面は強く磨滅。	黄土器
10-00616	須恵器 煎餅	床直上層 破片	口(11.2) 底(6.9)	茶・中・赤・黄褐色・黒色鉱物粒子(角 状状)・g石臼	輪軸成型形石臼形。器内面は強く磨滅。器内面は強く磨滅。 器内面は強く磨滅。器内面は強く磨滅。	黄土器
10-00617	須恵器 煎餅	敷土内 破片	口(11.2) 底(6.2)	茶・黒・赤・黄褐色・黒色鉱物粒子(角 状状)・g石臼	輪軸成型形石臼形。器内面は強く磨滅。器内面は強く磨滅。 器内面は強く磨滅。器内面は強く磨滅。	黄土器
10-00618	須恵器 煎餅	床直上層 欠層	口(11.1) 底(7.1)	茶・中・赤・黄褐色・黒色鉱物粒子(角 状状)・g石臼	輪軸成型形石臼形。器内面は強く磨滅。器内面は強く磨滅。 器内面は強く磨滅。器内面は強く磨滅。	黄土器
10-00619	須恵器 煎餅	床直上層 欠層	口(11.1) 底(7.0)	茶・中・赤・黄褐色・黒色鉱物粒子(角 状状)・g石臼	輪軸成型形石臼形。器内面は強く磨滅。器内面は強く磨滅。 器内面は強く磨滅。器内面は強く磨滅。	黄土器
10-00620	須恵器 煎餅	敷土内土 1/2	口(11.2) 底(7.9)	茶・中・赤・黄褐色・黒色鉱物粒子(角 状状)・g石臼	輪軸成型形石臼形。器内面は強く磨滅。器内面は強く磨滅。 器内面は強く磨滅。器内面は強く磨滅。	黄土器
10-00621	須恵器 煎餅	床直上層 破片	口(11.2) 底(7.4)	茶・黒・赤・黄褐色・黒色鉱物粒子(角 状状)・g石臼	輪軸成型形石臼形。器内面は強く磨滅。器内面は強く磨滅。 器内面は強く磨滅。器内面は強く磨滅。	黄土器
10-00622	須恵器 煎餅	敷土内土 破片	口(11.2) 底(7.7)	茶・黒・赤・黄褐色・黒色鉱物粒子(角 状状)・白色粒状	輪軸成型形石臼形。器内面は強く磨滅。器内面は強く磨滅。 器内面は強く磨滅。器内面は強く磨滅。	黄土器
10-00623	須恵器 煎餅	床直上層 2/3	口(11.9) 底(6.9)	茶・黒・赤・黄褐色・黒色鉱物粒子(角 状状)・白色粒状	輪軸成型形石臼形。器内面は強く磨滅。器内面は強く磨滅。 器内面は強く磨滅。器内面は強く磨滅。	黄土器
10-00624	須恵器 煎餅	床直上層 欠層	口(11.4) 底(6.8)	茶・黒・赤・黄褐色・黒色鉱物粒子(角 状状)・g石臼	輪軸成型形石臼形。器内面は強く磨滅。器内面は強く磨滅。 器内面は強く磨滅。器内面は強く磨滅。	黄土器
10-00625	須恵器 煎餅	床直上層 1/3	口(11.5) 底(6.1)	茶・黒・赤・黄褐色・黒色鉱物粒子 (角状状)・g石臼	輪軸成型形石臼形。器内面は強く磨滅。器内面は強く磨滅。 器内面は強く磨滅。器内面は強く磨滅。	黄土器
10-00626	須恵器 煎餅	床直上層 2/3	口(11.6) 底(7.8)	茶・黒・赤・黄褐色・黒色鉱物粒子 (角状状)・白色粒状	輪軸成型形石臼形。器内面は強く磨滅。器内面は強く磨滅。 器内面は強く磨滅。器内面は強く磨滅。	黄土器
10-00627	須恵器 煎餅	敷土内土 破片	底(7.6)	茶・黒・赤・黄褐色・黒色鉱物粒子 (角状状)・白色粒状	輪軸成型形石臼形。器内面は強く磨滅。器内面は強く磨滅。 器内面は強く磨滅。器内面は強く磨滅。	黄土器
10-00628	須恵器 煎餅	床直上層 破片	口(17.4)	茶・黒・赤・黄褐色・黒色鉱物粒子 (角状状)・g石臼	紐作り後輪軸成型形。器内面は強く磨滅。器内面は強く磨滅。 器内面は強く磨滅。器内面は強く磨滅。	黄土器
10-00629	須恵器 煎餅	敷土内土 1/2	口(17.4) 底(21.4)	茶・黒・赤・黄褐色・黒色鉱物粒子 (角状状)・g石臼	紐作り後輪軸成型形。器内面は強く磨滅。器内面は強く磨滅。 器内面は強く磨滅。器内面は強く磨滅。	黄土器
10-00630	須恵器 煎餅	敷土内土 1/4	口(17.4) 底(20.8)	茶・黒・赤・黄褐色・黒色鉱物粒子 (角状状)・g石臼	紐作り後輪軸成型形。器内面は強く磨滅。器内面は強く磨滅。 器内面は強く磨滅。器内面は強く磨滅。	黄土器
10-00631	須恵器 煎餅	敷土内土 破片	底(4.6)	茶・黒・赤・黄褐色・黒色鉱物粒子 (角状状)・g石臼	紐作り後輪軸成型形。器内面は強く磨滅。器内面は強く磨滅。 器内面は強く磨滅。器内面は強く磨滅。	黄土器
10-00632	須恵器 煎餅	敷土内土 破片	底(6.4)	茶・黒・赤・黄褐色・黒色鉱物粒子 (角状状)・g石臼	紐作り後輪軸成型形。器内面は強く磨滅。器内面は強く磨滅。 器内面は強く磨滅。器内面は強く磨滅。	黄土器
10-00633	須恵器 煎餅	敷土内土 破片	底(6.6)	茶・黒・赤・黄褐色・黒色鉱物粒子 (角状状)・白色粒状	紐作り後輪軸成型形。器内面は強く磨滅。器内面は強く磨滅。 器内面は強く磨滅。器内面は強く磨滅。	黄土器
10-00634	須恵器 煎餅	敷土内土 破片	底(6.4)	茶・黒・赤・黄褐色・黒色鉱物粒子 (角状状)・白色粒状	紐作り後輪軸成型形。器内面は強く磨滅。器内面は強く磨滅。 器内面は強く磨滅。器内面は強く磨滅。	黄土器
10-00635	須恵器 煎餅	敷土内土 破片	口(12.6)	茶・中・赤・黄褐色・黒色鉱物粒子 (角状状)・g石臼	紐作り後輪軸成型形。器内面は強く磨滅。器内面は強く磨滅。 器内面は強く磨滅。器内面は強く磨滅。	黄土器

## 第4号住居跡(2)

遺物番号 採取番号	遺物種 目	出土層位 層 番号	発見 位置	量 目 (cm) 目 (g)	構成・色調・胎土 (石表材は度目積)	形状・技法等の特徴	備 考
10-00636 58	須磨器 長柄飯 椀片	床面層	高さ10.4		灰・黒・赤・緑・透明凝結粒子・ 白色顔料粒子	細作り後縁部左右に成形筋。器内面に有機質が付着する。	東北産か
10-00637 59	土師器 五口 鉢片	甕内内 壁片	径46.0		灰・黒・赤・明赤帯・白色顔料粒子・ 黒色顔料粒子 (角粒状) 若干	竹を編み絞りにした土物で色き込んでいる。重い。	東北産
20-00149	埴器 定形	甕内内 底片	径29.7 高さ2 厚12.4 重12.300		凝結輝石火山岩	片面に大きな門形凹部に認められる。表面は平滑。底面 部を仕切る状態を出している。	

## 第5号住居跡

遺物番号 採取番号	遺物種 目	出土層位 層 番号	発見 位置	量 目 (cm) 目 (g)	構成・色調・胎土 (石表材は度目積)	形状・技法等の特徴	備 考
10-00639	土師器 壺	床面層	径118.2 高116.6		灰・黒・赤・赤帯・黒色顔料粒子 (内 角粒状)・黒色顔料粒子・p石灰	「コ」の字状に開口。頸部は直線に立ち上がり。上弁は短く外 傾して立ち上がる。	東北産
10-00640	土師器 壺	甕土内 壁片	径121.6 高119.4		灰・黒・赤・黄褐色・黒色顔料粒子 (角粒状)・p石灰	狭長「コ」の字状に開口。胴部から頸部に立ち上がり、口縁 部は直線から後縁状に過す。上弁は短く立ち上がる。	東北産

## 第6号住居跡

遺物番号 採取番号	遺物種 目	出土層位 層 番号	発見 位置	量 目 (cm) 目 (g)	構成・色調・胎土 (石表材は度目積)	形状・技法等の特徴	備 考
10-00641 58	土師器 土師 壺	甕内内 底片	径111.6 高さ7 高さ4.4		灰・黒・赤・黄褐色・p石灰・黒色顔 料粒子	筒作り。口縁部は横線状を施す。口縁部直下に頸部を残す。 表面は直線より過す。	東北産
10-00642 58	土師器 土師 壺	床面	径111.2 高17.0 高さ3.5		灰・黒・赤・赤・黒色顔料粒子 (内 角粒状)・白色粒子・夾雑物少量	筒作り。口縁部は横線状を施す。口縁部直下に頸部を残す。 器外面に黄褐色「上」及び黒色の可能性がある。	東北産 番号50
10-00643	土師器 土師 壺	甕内内 壁片	径112.6 高19.4		灰・黒・赤・黄褐色・黒色顔料粒子 (角粒状)・透明顔料粒子	筒作り。口縁部は横線状を施す。口縁部直下に頸部を残す。 器外面に黄褐色が認められる。	東北産 番号51
40-00077 58	須磨器 土師 壺	6号住居7 壁片	径107.1 高さ9 厚10.25 重55		凝結火山岩	筒状に成形。頸部等は凝結面を全かき。耳は先細形 がやや平たく。変換点が斜め裏面部を穿つ。	東北産

## 第7号住居跡

遺物番号 採取番号	遺物種 目	出土層位 層 番号	発見 位置	量 目 (cm) 目 (g)	構成・色調・胎土 (石表材は度目積)	形状・技法等の特徴	備 考
10-00644	土師器 土師 壺	甕内内 壁片	径112.6 高15.4 高さ4.4		灰・黒・赤・黄褐色・黒色顔料粒子 (角粒状) 少量・赤褐色粒子	筒作り。口縁部は横線状を施す。口縁部直下に頸部を残す。 表面は直線より過す。	東北産
10-00645	土師器 土師 壺	甕内内 壁片	径117.2 高115.6 高さ11.0		灰・黒・赤・黄褐色・赤・黄褐色・黒 色顔料粒子 (角粒状)・p石灰	「コ」の字状に開口。筒作り。口縁部は横線状を施す。肩部は 横線の直線より過す。器内面に横線状を施す。	笠原か大田原か
10-00646	須磨器 土師 壺	甕内内 壁片	径113.8		灰・黒・赤・黄褐色・黒色顔料粒子 (角粒状) 少量・p石灰	凝結成形の器。直線は直線より過す。	東北産
20-00150	埴器 土師 壺	甕土内 底片	径16.2 高さ7 厚10.25 重1361		凝結輝石火山岩	平皿状の表面が特徴的。表面部に浅い線状を施す。口縁部 の直線がやや低く横線状。	

## 第8号住居跡

遺物番号 採取番号	遺物種 目	出土層位 層 番号	発見 位置	量 目 (cm) 目 (g)	構成・色調・胎土 (石表材は度目積)	形状・技法等の特徴	備 考
10-00647	土師器 土師 壺	甕内内 壁片	径112.6 高11.2		灰・黒・赤・赤・黒色顔料粒子 (内 角粒状) 少量・赤褐色粒子	筒作り。口縁部は直線状に「く」の字状に外反。器一円部 にかけては頸部を残す。胴部直下に立ち上がるが直線的 に直線より過す。	東北産
10-00648	土師器 土師 壺	甕内内 壁片	径112.6 高12.0		灰・黒・赤・黄褐色・黒色顔料粒子 (角粒状)・p石灰・白色顔料粒子	細作り後縁部左右に成形筋。土器の中心を軸として高直 径状に成形している。	東北産
10-00649	土師器 土師 壺	甕内内 壁片	径112.6 高120.8		灰・黒・赤・明赤帯・赤・黒色顔料 粒子 (角粒状)・軽石・赤褐色粒子	筒作り。口縁部は横線状を施す。胴部より下位は横線の直 線より過す。口縁部は土器中心を軸として高直径状に成形 している。	東北産
10-00650 58	土師器 土師 壺	甕内内 壁片	径120.8 高19.4 高さ13.6		灰・黒・赤・黄褐色・灰黄・金帯付 ・白色粒子・黒色顔料粒子	筒作り。口縁部は横線状で、頸部より下位は横線。頸部は直線 の直線より過す。口縁部は土器中心を軸として高直径状に成形 している。	東北産
10-00651 58	須磨器 土師 壺	甕内内 底片	径11.4 高さ6.0		灰・黒・赤・赤褐色・白色顔料粒子 (角粒状)・白色顔料粒子	凝結成形の器。直線は直線より過す。横線は直線より過す。	東北産
10-00652 58	須磨器 土師 壺	甕内内 底片	径111.1 高さ7 高さ3.4		灰・黒・赤・白・赤・黒色顔料粒子 (内 角粒状)・p石灰・黄褐色少量	筒作り。口縁部は直線状。高直径に付く。体部は丸みを帯び立 上がり。口縁部は短く外反している。	東北産
10-00653 58	須磨器 土師 壺	甕内内 底片	径112.6 高さ6.9 高さ4.9		凝結成形の器。高直径に付く。体部は丸みを帯び立 上がり。口縁部は直線状の直線より過す。	東北産	
10-00654 58	須磨器 土師 壺	甕内内 底片	径112.6 高さ9.9		凝結成形の器。高直径に付く。体部は丸みを帯び立 上がり。口縁部は直線状の直線より過す。	東北産	
10-00655	須磨器 土師 壺	甕内内 底片	径120.6 高さ22.0 高さ21.6		灰・黒・赤・赤褐色・黒色顔料粒子 (内 角粒状)・石灰	細作り後縁部は斜形。器内面に横線の斜線状で成形。頸部 は直線的に直線より過す。器面の大半が横線状に直線より過す。	東北産
10-00656	須磨器 土師 壺	甕内内 底片	径112.6		灰・黒・赤・赤・灰 地調=オーリーブ灰	細作り後縁部左右に成形筋。器外周に横線状に凝結火山 岩。	東北産
20-00151	埴器 土師 壺	甕内内 底片	径11.0 高さ12.5 高さ4.8 重843		凝結輝石火山岩	縁部直線に集中打筋が認められる。	

## 第9号住居跡(1)

遺物番号 採取番号	遺物種 目	出土層位 層 番号	発見 位置	量 目 (cm) 目 (g)	構成・色調・胎土 (石表材は度目積)	形状・技法等の特徴	備 考
10-00657 58	土師器 土師 壺	甕内内 底片	径112.9 高さ17.4 高さ4.1		灰・黒・赤・黄褐色・黒色顔料粒子 (角粒状)・p石灰	筒作り。口縁部は横線状を施す。口縁部直下に頸部を残す。 表面にも頸部を残す。口縁部は直線状の直線より過す。	東北産
10-00658 58	土師器 土師 壺	甕内内 底片	径112.5 高さ18.1 高さ3.9		灰・黒・赤・黄褐色・黒色顔料粒子 (角粒状)・p石灰	筒作り。口縁部は横線状を施す。口縁部直下に頸部を残す。 表面にも頸部を残す。口縁部は直線状の直線より過す。	東北産
10-00659 58	土師器 土師 壺	甕内内 底片	径120.6 高さ17.2 高さ11.3		灰・黒・赤・赤褐色・黒色顔料粒子・ 軽石	筒作り。口縁部は横線状。胴部直下に立ち上がるが直線的 に直線より過す。器内面に横線状を施す。	東北産
10-00660 58	須磨器 土師 壺	甕土下層 底片	径13.3 高さ2 高さ3.4		灰・黒・赤・灰黄・p石灰 (凝結) 夾雑物少量	凝結成形の器。直線は直線より過す。体部は丸みを帯び、 口縁部は短く外反している。器面の大半が横線状に直線より過す。	東北産
10-00661 58	須磨器 土師 壺	甕内内 底片	径113.2 高さ7 高さ3.4		灰・黒・赤・灰黄・白色粒子・夾雑 物少量	凝結成形の器。直線は直線より過す。体部は丸みを帯び、 口縁部は直線的に立ち上がる。	東北産

第9号住居跡②

遺物番号 図説番号	遺物種 類	出土層位 或 存 存 層	発 見 目 (cm)	焼成・色調・胎土 (石炭灰は黒目)	形状・技法等の特徴	備 考
10-00662 59	須恵器 甕	床直部 部分欠損	口(11.3) 高7.8 底5.1	灰・赤・灰黄・白色胎子・軽石	輪軸成形右回転。高台は付け高台。器内面には布巻きのため、輪軸目は粗線状。	実毛皮

第10号住居跡

遺物番号 図説番号	遺物種 類	出土層位 或 存 存 層	発 見 目 (cm)	焼成・色調・胎土 (石炭灰は黒目)	形状・技法等の特徴	備 考
10-00663	土師器 内黒焼か	甕土内 上半欠損	高6.5	灰・赤・赤・明黄焼・黒色胎子 (角粒状)・β石英・チャート	高台は付け高台。体部は丸筒形を施す。口縁は織物を施す。横し織成は認められない。	実毛皮
10-00664	土師器 内黒焼か	甕方 破片	口(14.0)	灰・赤・赤・黄赤・黒色胎子 (角粒状)・β石英	拵作り。口縁部は織物を施す。口縁部直下に布巻を残す。内面は野織を施す。横し織成の布巻きが認められる。	実毛皮
10-00665	土師器 内黒焼か	甕土内 破片	口(13.0) 高(7.4) 底1.4	灰・赤・赤・黄赤・黒色胎子 (角粒状)・β石英	拵作り。口縁部は織物を施す。口縁部直下に布巻を残す。器内面は丸筒形を施す。横し織成の布巻きが認められる。	実毛皮 遺跡-55, 54
10-00666	土師器 内黒焼か	甕土内 破片	口(17.0)	灰・赤・赤・黄赤・黒色胎子 (角粒状)・β石英	拵作り。口縁部は織物を施す。口縁部直下に布巻を残す。器内面は丸筒形を施す。横し織成の布巻きが認められる。	実毛皮
10-00667	土師器 内黒焼か	甕甕上内 破片	口(19.0) 高(17.2) 底(20.2)	灰・赤・赤・黄赤・β石英・白色胎子 ・軽石	「コ」の字状口縁。甕甕上縁の内面は筒形により「コ」の字を表出させている。	実毛皮
10-00668	土師器 内黒焼か	甕甕方 破片	口(17.0)	灰・赤・赤・黄赤・β石英・白色胎子 ・軽石・黒色胎子 (角粒状)	「コ」の字状口縁。甕甕上縁の内面は筒形により胎土を表面に10-00669と同一体形を表現している。	実毛皮
10-00669	土師器 内黒焼か	甕甕方 破片	厚(0.6)	灰・赤・赤・黄赤・黒色胎子 (角粒状)・β石英・白色胎子	「コ」の字状口縁。甕甕上縁の内面は筒形により胎土を表面に10-00668と同一体形を表現している。	実毛皮

第11号住居跡

遺物番号 図説番号	遺物種 類	出土層位 或 存 存 層	発 見 目 (cm)	焼成・色調・胎土 (石炭灰は黒目)	形状・技法等の特徴	備 考
10-00670 59	須恵器 杯	床直部 1/3	口(12.1) 高(6.7)	灰・赤・赤・黄赤・β石英・黒色胎子 ・白色胎子	輪軸成形右回転。高台は回転赤胎。体部は直筒状に立ち上がり、口縁部は外反する。甕厚は薄い。	漆田窯跡
10-00671 59	須恵器 杯	甕甕方 破片	口(12.2) 高(5.8) 底(6.9)	灰・赤・赤・黄赤・黒色胎子 ・白色胎子	輪軸成形右回転。高台は回転赤胎。体部は丸筒形を施す。口縁部は短く外反する。内面は布巻を施す。横し織成は認められない。	漆田窯跡
10-00672 59	須恵器 杯	床直部 欠損	口(12.5) 高(6.4) 底(4.2)	灰・赤・赤・明黄焼・黒色胎子 (角粒状)・β石英・赤褐色胎子	輪軸成形右回転。高台は回転赤胎。体部は直筒状に立ち上がり、口縁部は短く外反する。外面に黒漆を「内」に塗布している。	漆田窯跡 遺跡-55
10-00673 59	須恵器 甕	床直部 1/2	口(11.4) 高(7.6) 底(4.5)	灰・赤・赤・黄赤・シルト赤・黒色胎子	輪軸成形右回転。高台は短く外反する。器内面は丸筒形を施す。横し織成の布巻きが認められる。	漆田窯跡
10-00674 59	須恵器 甕	床直部上 一部欠損	口(12.1) 高(6.5) 底(4.4)	灰・赤・赤・白灰・黒色胎子 (角粒状)・β石英	輪軸成形右回転。高台は付け高台。甕厚は薄い。体部は短く丸筒形を施す。	漆田窯跡
10-00675 59	須恵器 甕	甕土内 破片	口(12.6) 高(7.2) 底(4.4)	灰・赤・赤・黄赤・黒色胎子 (角粒状)・β石英	輪軸成形右回転。高台は付け高台。甕厚は薄い。輪軸目は粗く4段。内面には布巻きが認められる。	実毛皮
10-00676	須恵器 甕	床直部上 1/4	口(13.3) 高(7.2) 底(4.6)	灰・赤・赤・黄赤・黒色胎子 (角粒状)・β石英・赤褐色胎子	輪軸成形右回転。高台は付け高台。甕厚は薄い。輪軸目は粗く4段。内面には布巻きが認められる。	実毛皮
10-00677	須恵器 甕	甕甕方 破片	高(6.6)	灰・赤・赤・黄赤・黒色胎子 (角粒状)・β石英	輪軸成形右回転。高台は付け高台。器内面には内黒焼の布巻きが認められる。	漆田窯跡
10-00678 59	須恵器 甕	床直部上 1/4	口(12.0)	灰・赤・赤・黄赤・黒色胎子 (角粒状)・β石英	輪軸成形右回転。高台は付け高台。甕厚は薄い。器内外面に織物の布巻きが認められる。	漆田窯跡
10-00679 59	須恵器 甕	床直部上 1/2	口(12.2) 高(7.3) 底(5.4)	灰・赤・赤・黄赤・黒色胎子 (角粒状)・β石英	輪軸成形右回転。高台は付け高台。甕厚は薄い。器内外面に織物の布巻きが認められる。	漆田窯跡
10-00680	須恵器 小杯甕	甕甕方 破片	口(15.4) 高(14.4) 脚部(16.8)	灰・赤・赤・黄赤・黒色胎子 (角粒状)・β石英	拵作り後輪軸右回転(正位)成形。器面の黒化が顕著。	実毛皮か漆田窯跡
10-00681	須恵器 甕	甕土内 破片	口(19.0) 高(17.4)	灰・赤・赤・黄赤・黒色胎子 (角粒状)	拵作り後輪軸右回転(正位)成形。制輪は製等の工具によると考えられる。	実毛皮
10-00682	須恵器 甕	床直部上 1/2	口(19.0) 高(21.8) 脚部(22.8)	灰・赤・赤・黄赤・黒色胎子 (角粒状) 実毛皮	拵作り後輪軸右回転(正位)成形。制輪は製等の工具によると考えられる。	実毛皮か漆田窯跡

第12号住居跡

遺物番号 図説番号	遺物種 類	出土層位 或 存 存 層	発 見 目 (cm)	焼成・色調・胎土 (石炭灰は黒目)	形状・技法等の特徴	備 考
10-00683	須恵器 甕	甕土内 破片	口(13.2) 高(6.2) 底(4.7)	灰・赤・赤・白灰・白色胎子・β石英	輪軸成形右回転。高台は欠け(付け高台)。高台の割縁面には、杯部の立ち上がり面がある。	実毛皮
10-00684	須恵器 甕	甕土内 破片	口(21.4) 高(24.4) 脚部(23.2)	灰・赤・赤・明黄焼・黒色胎子 (角粒状)・β石英	拵作り後輪軸右回転成形。制輪は割縁で下位からの摺りりをする。	実毛皮
10-00685	須恵器 甕	甕土内 破片	口(21.4) 高(24.4) 脚部(23.2)	灰・赤・赤・黄赤・黒色胎子 (角粒状)・β石英・白色胎子	拵作り後輪軸右回転成形。制輪は割縁で下位からの摺りりをする。	実毛皮
10-00686	須恵器 甕	甕土内 破片	高(5.8)	灰・赤・赤・黄赤・黒色胎子 (角粒状)・β石英・白色胎子	拵作り後輪軸右回転成形。制輪は割縁の摺りりをする。表面には回転赤胎。内面は黄・白色の摺りりをする。	実毛皮
10-00687	須恵器 甕	甕土内 破片	高(5.0)	灰・赤・赤・黄赤・黒色胎子 (角粒状)・β石英・白色胎子	拵作り後輪軸右回転成形。制輪は割縁の摺りりをする。表面には回転赤胎。内面は黄・白色の摺りりをする。	実毛皮

第13号住居跡

遺物番号 図説番号	遺物種 類	出土層位 或 存 存 層	発 見 目 (cm)	焼成・色調・胎土 (石炭灰は黒目)	形状・技法等の特徴	備 考
10-00688	土師器 白付甕	甕方・甕内 破片	口(11.2) 高(19.3) 底(4.0)	灰・赤・赤・黄赤・黒色胎子・微粒 黒石	拵作り。口縁部は織物を施す。口縁部直下に布巻を残す。器内面には白付土が多い。	太田窯か
10-00689	土師器 甕	甕内 破片	高(3.2)	灰・赤・赤・黄赤・黒色胎子・微粒 黒石	拵作りはシャープ。45度角で立ち上がり下部は筒状の筒形。	太田窯か
10-00690	土師器 甕	F・内 破片	高(4.0)	灰・赤・赤・黄赤・黒色胎子 ・軽石	摺りりはシャープを欠く。立ち上がりは55度角で急まる筒形。	実毛皮
10-00691	土師器 甕	甕方 破片	口(15.8) 高(14.2)	灰・赤・赤・黄赤・黒色胎子・微粒 黒石	「コ」の字状口縁。甕甕上縁の内面は筒形に立ち上がり、器内には布巻を残す。作りは非直線的。	太田窯か

## 第14号住居跡

遺構番号 図面番号	遺物種 形態	出土層位 遺存位置	深目 [cm]	幅目 [g]	構成・色調・粘土 (石素材は厚目録)	形状・技法等の特徴	備考
10-0082	土師器 土師片	覆土内 破片	深(0.4)		紫・黄・黒・緑・黒色鉱物粒子(内 殻状)・β石瓦	筒作り。口唇部周りは横位の側で整形。腹での直下に頸溝を施す。	東毛産

## 第15号住居跡

遺構番号 図面番号	遺物種 形態	出土層位 遺存位置	深目 [cm]	幅目 [g]	構成・色調・粘土 (石素材は厚目録)	形状・技法等の特徴	備考
10-0090	土師器 土師片	覆土内 破片	口(13.0) 底(8.0)		紫・黄・赤・緑・赤褐色粒子・白色 粒子・黒色鉱物粒子・夾雑物少量	筒作り。口唇部は横溝で施す。口縁部直下に頸溝を施す。 器厚は薄い。	東毛産
10-0094	土師器 土師片	覆土内 破片	口(14.4)		紫・黄・赤・明黄褐色・黒色鉱物粒子・ 赤褐色粒子	筒作り。口唇部は横溝で施す。口縁部直下に頸溝を施す。 器形は開く。	東毛産
10-0095	須恵系 土師器	覆土内 破片	口(12.6) 底(5.6)		紫・中・黄・黄灰・黒色鉱物粒子・ 白色粒子・緑泥	縦輪成型形石師製。表面は凹凸あり。器内外面に施成時の 痕り認められる。	東毛産
10-0096	土師器 土師片	床直積 面(19.0) 側 面(21.8)			紫・黄・赤・明黄褐色・赤褐色粒子・ 黒色鉱物粒子	「コ」の字状に施。口縁部は直造整形。器底に上下は横位の 溝溝りを施し、下半部は直造の筒作りを施す。	東毛産
10-0097	土師器 土師片	覆土内 破片	口(20.6) 底(19.0)		紫・黄・赤・黄緑・赤褐色・白色 粒子・黒色鉱物(角状)・β石瓦	筒作り。「コ」の字状に口縁。口唇部は厚形し。器内外面に 施成時の痕り認められる。	東毛産
10-0098	土師器 土師片	覆土内 破片	口(21.8) 底(19.4)		紫・黄・赤・黄・白色粒子・夾雑物 少量	筒作り。「コ」の字状に口縁。口唇部の作りは01200同様。肩 部は横位の溝溝り。胴部は直造の筒作りを施す。	東毛産

## 第16号住居跡

遺構番号 図面番号	遺物種 形態	出土層位 遺存位置	深目 [cm]	幅目 [g]	構成・色調・粘土 (石素材は厚目録)	形状・技法等の特徴	備考
10-0099	須恵系 土師器	側方 1/4	口(12.0) 底(6.0)		紫・黄・赤・黄褐色・黒色鉱物粒子 (角状)・白色粒子・β石瓦	縦輪成型形石師製。器底は凹凸あり。器厚は厚し。口縁部 が緩やかに外反する。内外面に施成時の痕り認められる。	埴田産
10-0100	須恵系 土師器	床直積上 1/4	口(12.0) 底(5.9)		紫・黄・赤・黒・黒色鉱物粒子・白 色粒子・黒色粒子	縦輪成型形石師製。器底は凹凸あり。器厚は厚し。口縁部 が外反する。	埴田産
10-0101	須恵系 土師器	床直積 面(12.6) 底(5.2)			紫・中・黄・灰・黄褐色・黒色鉱物 (角状)・β石瓦・白色粒子	縦輪成型形石師製。器底は凹凸あり。器厚は厚し。口縁部 が外反する。器内外面に施成時の痕り認められる。	埴田産
10-0102	須恵系 土師器	床直積上 部分欠損	口(13.1) 底(6.6)		紫・黄・赤・灰・黒色粒子・白色 粒子・夾雑物少量	縦輪成型形石師製。器底は凹凸あり。口唇部は直造の筒 作りを施す。器厚目立っている。	東毛産
10-0103	須恵系 土師器	床直積上 全周	深(11.7)		紫・中・黄・黄灰・黒色鉱物粒子(内 殻状)・β石瓦	組作り縦輪成型石師製成形。器底の磨部と考えられる。	埴田産
10-0104	須恵系 土師器	床直積上 1/4	口(18.8) 側部(21.0)		紫・黄・赤・明黄褐色・白色粒子・黒 色鉱物粒子(角状)・β石瓦	組作り縦輪成型石師製成形。器底直下は横位。胴部は縦 位の溝溝りを施す。器内外面に凹凸あり。	東毛産 直積上 23.8
10-0105	須恵系 土師器	床直積上 1/4	口(16.8) 底(6.9)		紫・黄・赤・灰・黒色 粘土・白濁	縦輪成型形石師製。器底は凹凸あり。器厚は厚形し。体部は 直造の筒作りを施す(注)。器底の場合は凹凸あり。	東毛産
20-0152	土師器 土師片	覆土内 破片	径4.4 厚(1.9)		紫・黄・赤・黒・赤褐色	素材は直平で薄い。	

## 第17号住居跡

遺構番号 図面番号	遺物種 形態	出土層位 遺存位置	深目 [cm]	幅目 [g]	構成・色調・粘土 (石素材は厚目録)	形状・技法等の特徴	備考
10-0106	須恵系 土師器	床直積上 部分欠損	口(16.7) 底(5.0)		紫・黄・赤・明黄褐色・黒色鉱物粒子 (角状)・白色粒子	縦輪成型形石師製。器底は凹凸あり。立ち上がりは丸味を 強く帯びる。口唇部は直造の筒作りを施す。	東毛産
10-0107	須恵系 土師器	床直積上 1/2	口(13.1) 底(5.4)		紫・中・黄・黄褐色・赤褐色・黒色 鉱物粒子(角状)・白色粒子	縦輪成型形石師製。器底は凹凸あり。体部は丸味を強く帯 びる。口唇部は直造の筒作りを施す。	東毛産
10-0108	須恵系 土師器	床直積上 部分欠損	口(11.4) 底(7.2)		紫・中・黄・灰・黒褐色・黒色鉱物粒 子(角状)・白色粒子	縦輪成型形石師製。高台は付け高台。器内外面に施成時の 痕りが顕著に認められる。	東毛産
10-0109	須恵系 土師器	覆土内 破片	口(13.2)		紫・黄・赤・黄灰・黒色鉱物粒子(内 殻状)・緑石・白色粒子	縦輪成型形石師製。高台は欠損(付け高台)。内面は横位に 丁字状の溝溝りを施す。器内外面に施成。	東毛産
10-0110	須恵系 土師器	床直積上 1/3	口(14.6) 底(7.6)		紫・黄・赤・灰・赤褐色・黒色鉱物粒 子(角状)・白色粒子	縦輪成型形石師製。高台は付け高台。体部は丸味を帯びる が、口唇部は直造の筒作りを施す。	東毛産
10-0111	須恵系 土師器	床直積上 1/3	口(14.8) 底(7.8)		紫・黄・赤・黄褐色・黒色鉱物粒子(内 殻状)・白色粒子	縦輪成型形石師製。高台は欠損(付け高台)。大欠損を再整形 している。体部は丸味を強く、口唇部は直造の筒作りを施す。	東毛産
40-00054	土師器 土師片	17号住居11 区	径6.0 幅(7.4)			直造の部分が認められる。横かな磁力(磁力5)を呼ぶ。	
10-0112	土師器 土師片	覆土内 1/2	口(21.2) 側(19.4)		紫・黄・赤・黄褐色・黒色鉱物粒子 (角状)・緑石・白色粒子	組作り直造の筒作りで成形。内面は横位の溝溝りで整形を施す。 口唇部は直造の筒作りを施す。口唇部は直造の筒作りを施す。	東毛産
10-0113	須恵系 土師器	覆土内 破片	口(24.7) 側(22.6)		紫・黄・赤・黄褐色・黒色鉱物粒子(内 殻状)・β石瓦・緑石・緑泥	組作り直造の筒作りで成形。内面は横位の溝溝りで整形を施す。 器厚は厚い。口唇部は直造の筒作りを施す。	東毛産
10-0114	土師器 土師片	覆土内 破片	口(23.2) 側(22.2)		紫・黄・赤・黄・黒色鉱物粒子(内 殻状)・β石瓦・白色粒子	組作り直造の筒作りで成形。内面は横位の溝溝りで整形を施す。 器内外面に施成時の痕り認められる。	東毛産
10-0115	須恵系 土師器	覆土内 1/2	口(24.6) 側部(27.7)		紫・黄・赤・黄褐色・黒色鉱物粒子(内 殻状)・黒色粒子	組作り直造の筒作りで成形。器底は直造の筒作りを施す。 器底は直造の筒作りを施す。	東毛産
10-0116	土師器 土師片	覆土内 破片	径4.5 厚(1.8)		紫・黄・赤・黄褐色・黒色鉱物粒子(内 殻状)・β石瓦	全体に作りは厚い。縦位の溝溝り。器底は直造の筒作りを施す。	東毛産
10-0117	須恵系 土師器	覆土内 破片	口(27.2)		紫・黄・赤・黄灰・黒色鉱物粒子(内 殻状)・β石瓦	組作り直造の筒作りで成形。口唇部は直造の筒作りを施す。 器底は直造の筒作りを施す。	東毛産

## 第18号住居跡

遺構番号 図面番号	遺物種 形態	出土層位 遺存位置	深目 [cm]	幅目 [g]	構成・色調・粘土 (石素材は厚目録)	形状・技法等の特徴	備考
10-0118	須恵系 土師器	覆土内 1/2	口(12.4) 底(5.6)		紫・黄・赤・赤褐色・外周赤・内周黒褐色・白 色粒子・白色粒子	縦輪成型形石師製。高台は付け高台。器厚は厚形し。口唇部 は緩やかに外反する。	東毛産
10-0119	須恵系 土師器	床直積上 破片	口(13.6) 底(7.1)		紫・黄・赤・黄褐色・黒色粒子・黒 色鉱物粒子(角状)・夾雑物少量	縦輪成型形石師製。高台は付け高台。器厚は厚形し。体部は 丸味を帯びる。口唇部は直造の筒作りを施す。	東毛産
10-0120	須恵系 土師器	覆土内 破片	径(5.5)		紫・黄・赤・灰・白・白色粒子・ 黒色粒子	縦輪成型形石師製。高台は付け高台。高台は中々厚目厚 い作り。	東毛産

第19号住居跡

遺物番号 図版番号	遺物種 類	出土層位 表 存 層	長 径 [mm]	幅 径 [mm]	焼成・色調・胎土 (右裏材は厚目録)	形状・技法等の特徴	備 考
19-00721	須恵器 鉢	竈内 破片	底(7.6)		黄・赤・黄・明黄褐・黒色胎粒子 (内胎状)・夾雑物少量	輪軸成型形右回転。底径が口・大さな影響。胎土は赤黄に よく焼きられている。層土とは考えられない。	東毛産
19-00722	土師器 小形壺	竈内 破片	口(14.9)	胴部(15.6)	黄・赤・黄・明黄・白色胎子・ 黒色胎粒子(角状状)	組作り。外胎は緑色の無施で、内面は緑色の無施で、外面 には粗作りが認められる。	東毛産
19-00723	土師器 甕	竈内 破片	口(22.6)	胴(19.6)	黄・赤・黄・明黄・黒色胎粒子(角 状状)・白色胎子	組作り。外胎は下部に緑工1段の緑施成型跡、口部 には肥厚させている。胴部は緑色の無施を施す。	東毛産
19-00724	土師器 甕	竈内土師 破片	口(22.3)	胴(20.2)	黄・赤・黄・白灰・黄褐・黒色胎 粒子(角状状)・赤・白・白色胎子	組作り。外胎は緑工4段の緑施成型跡、口部には肥 厚させている。胴部は緑色の無施を施す。	東毛産
19-00725	土師器 甕	竈内 破片	胴部(8.4)	厚1.3	黄・赤・黄・明黄・白色胎子・黒色 胎粒子(角状状)	組作り。外胎は緑施で無施を施す。内面は緑色に無施で 塗布する。	東毛産
19-00726	須恵器 引蓋	竈内土師 破片	口(21.2)	胴部(14.9)	黄・赤・黄・明黄・白色胎粒子・ 黒色胎粒子・石片	組作り後輪軸右回転成型跡。胴部は緑付け後輪軸成型跡、 胴部にも赤の注線。吉井型引蓋中略型類。	吉井産

第20号住居跡

遺物番号 図版番号	遺物種 類	出土層位 表 存 層	長 径 [mm]	幅 径 [mm]	焼成・色調・胎土 (右裏材は厚目録)	形状・技法等の特徴	備 考
20-00727	土師器 小形壺	竈内土師 破片	口(10.6)	胴(9.4)	黄・赤・黄・明黄・白色胎子・黒色 胎粒子(角状状)	組作り。口部には外施を。外面に緑部直下は緑色の無施の 無施り。胴部は緑色の無施り。内面は緑色の無施で、 下には緑色の無施りをする。	東毛産
20-00728	土師器 小形壺	竈内土師 破片	口(16.2)	胴(16.6)	黄・赤・黄・明黄・黒色胎子・白色 胎子(角状状)	組作り。口部には外施をする。外面は緑部直下は緑色の無施で、 下には緑色の無施りをする。	東毛産
20-00729	土師器 甕	竈内土師 破片	口(22.8)	胴(19.6)	黄・赤・黄・明黄・白色胎子・黒色 胎粒子(角状状)・夾雑物少量	組作り。口部には外施をする。外面は緑色の無施りをする。 内面は緑色の無施を施す。	東毛産
20-00730	須恵器 鉢	竈内土師 破片	口(17.6)	底(8.0)	黄・赤・黄・明黄・シロ・黄・黒色 胎粒子(角状状)・夾雑物少量	輪軸成型形右回転。底径は内径より狭い。口部には厚い。東毛 産に認められる。	東毛産
20-00731	土師器 小形壺	竈内土師 破片	口(11.4)	胴(19.1)	黄・赤・黄・明黄・赤褐色胎子・黒色 胎粒子(角状状)	組作り。胴部より上部は緑施成型跡と見られる。胴部は 同様に粗作りされる。	東毛産
20-00732	須恵器 砂鉢	竈内土師 破片	胴部(10.1)	底(15.0)	黄・赤・黄・明黄・白色胎子・白色 胎子	組作り後輪軸右回転成型跡。胴部3本の線施跡。	東毛産
20-00733	土師器 砂鉢	竈内土師 破片	口径5.8	底径3.6	黒穴石	研滅った黒石を手直し、中央穴の溝を削った部分に孔を 穿っている。下げ磁石。	

第21号住居跡

遺物番号 図版番号	遺物種 類	出土層位 表 存 層	長 径 [mm]	幅 径 [mm]	焼成・色調・胎土 (右裏材は厚目録)	形状・技法等の特徴	備 考
21-00734	土師器 付付壺	竈内土師 破片	底(8.6)	底(4.3)	黄・赤・黄・明黄・細粒白色胎粒子(角 状状)	組作り後輪軸右回転成型跡。高直回転による胎土の引き 上げ(断面)が認められる。	東毛産 (文庫山)
21-00735	須恵器 鉢	竈内土師 破片	口(11.8)		黄・赤・黄・白灰・黒色胎粒子少量	輪軸成型形右回転。器内には赤褐色の無施を施す。 胎土は緑。	津田産
21-00736	須恵器 破片	竈内土師 破片	厚(8.8)		黄・赤・黄・明黄・白色胎粒子少量	組作り後粗作り型。外面は平行平直。底径は青黄褐色か。	津田産

第22号住居跡(1)

遺物番号 図版番号	遺物種 類	出土層位 表 存 層	長 径 [mm]	幅 径 [mm]	焼成・色調・胎土 (右裏材は厚目録)	形状・技法等の特徴	備 考
22-00737	土師器 小形壺	竈内土師 破片	口(11.2)	胴(10.2)	黄・赤・黄・明黄・白色胎粒子・ 白色胎粒子・夾雑物少量	組作り。口部には外施を。外面に緑部直下は緑色の無施を 無施り。胴部は緑色の無施り。内面は緑色の無施で、 下には緑色の無施りをする。	東毛産
22-00738	土師器 小形壺	竈内土師 破片	口(14.4)	胴(13.2)	黄・赤・黄・明黄・白色胎粒子・ 黒色胎粒子(角状状)・夾雑物少量	組作り。口部には外施を。外面に緑部直下は緑色の無施を 無施り。胴部は緑色の無施り。内面は緑色の無施で、 下には緑色の無施りをする。	津田産か ローマ系
22-00739	土師器 甕	竈内土師 破片	口(20.6)	胴(18.4)	黄・赤・黄・明黄・白色胎子・黒色 胎粒子(角状状)・石片	組作り。口部には外施を。外面に緑部直下は緑色の無施を 無施り。胴部は緑色の無施り。内面は緑色の無施で、 下には緑色の無施りをする。	東毛産 陶土系
22-00740	須恵器 鉢	竈内土師 破片	口(13.3)	底(8.2)	黄・赤・黄・明黄・白灰・黒色胎 粒子	輪軸成型形右回転。底径は内径より狭い。口部には厚い。東毛 産に認められる。	津田産
22-00741	須恵器 鉢	竈内土師 破片	口(11.5)	底(5.8)	黄・赤・黄・明黄・黒色胎粒子・ 白色胎粒子	輪軸成型形右回転。底径は内径より狭い。口部には厚い。東毛 産に認められる。	東毛産 赤土系-56
22-00742	須恵器 鉢	竈内土師 破片	口(13.1)	底(6.2)	黄・赤・黄・明黄・黒色胎粒子・ 白色胎粒子	輪軸成型形右回転。底径は内径より狭い。口部には厚い。東毛 産に認められる。	津田産か
22-00743	須恵器 鉢	竈内土師 破片	口(11.6)		黄・赤・黄・明黄・黒色胎粒子(角 状状)・白色胎子	輪軸成型形右回転。輪軸は口径が狭く、小形の製品である。 胎土は緑。	東毛産
22-00744	須恵器 鉢	竈内土師 破片	口(13.2)		黄・赤・黄・明黄・黒色胎粒子・ 赤褐色胎子	輪軸成型形右回転。輪軸は口径が狭く、小形の製品である。 胎土は緑。	津田産
22-00745	須恵器 鉢	竈内土師 破片	口(13.1)	底(6.5)	黄・赤・黄・明黄・黒色胎粒子・ 赤褐色胎子	輪軸成型形右回転。輪軸は口径が狭く、小形の製品である。 胎土は緑。	津田産
22-00746	須恵器 鉢	竈内土師 破片	口(13.2)	底(7.0)	黄・赤・黄・明黄・黒色胎粒子・ 赤褐色胎子	輪軸成型形右回転。輪軸は口径が狭く、小形の製品である。 胎土は緑。	津田産
22-00747	須恵器 鉢	竈内土師 破片	口(13.2)	底(6.4)	黄・赤・黄・明黄・黒色胎粒子・ 赤褐色胎子	輪軸成型形右回転。輪軸は口径が狭く、小形の製品である。 胎土は緑。	津田産
22-00748	須恵器 鉢	竈内土師 破片	口(13.2)	底(6.6)	黄・赤・黄・明黄・黒色胎粒子・ 赤褐色胎子	輪軸成型形右回転。輪軸は口径が狭く、小形の製品である。 胎土は緑。	津田産
22-00749	須恵器 鉢	竈内土師 破片	口(13.2)	底(6.7)	黄・赤・黄・明黄・黒色胎粒子・ 赤褐色胎子	輪軸成型形右回転。輪軸は口径が狭く、小形の製品である。 胎土は緑。	津田産
22-00750	土師器 甕	竈内土師 破片	口(17.2)	胴部(20.2)	黄・赤・黄・明黄・白色胎子・黒色 胎粒子(角状状)	組作り後輪軸右回転成型跡。胴部は緑付け高直。口部には 粗作りされる。	津田産か
22-00751	土師器 甕	竈内土師 破片	口(17.2)	胴部(20.2)	黄・赤・黄・明黄・白色胎子・黒色 胎粒子(角状状)	組作り後輪軸右回転成型跡。胴部は緑付け高直。口部には 粗作りされる。	東毛産 ローマ系
22-00752	土師器 甕	竈内土師 破片	口(17.6)	胴部(21.6)	黄・赤・黄・明黄・白色胎子・黒色 胎粒子(角状状)	組作り後輪軸右回転成型跡。胴部は緑付け高直。口部には 粗作りされる。	津田産か
22-00753	土師器 甕	竈内土師 破片	口(20.8)	胴部(23.2)	黄・赤・黄・明黄・白色胎子・黒色 胎粒子(角状状)	組作り後輪軸右回転成型跡。胴部は緑付け高直。口部には 粗作りされる。	津田産か

## 第22号住居跡②

遺物番号 図説番号	遺物種 類	出土層位 保存度	径 目 (cm)	焼成・色調・胎土 (石室材は厚目録)	形状・技法等の特徴	備 考
10-00754	土師器 須恵	底面 破片	口(11.2) 胴部(24.4) 底(12.4) 底	赤・黒・黄・赤褐色胎土・透 明胎物粒子・白色胎物粒子	縦作り後断面直下は傾位の異なる。胴部は傾作り。口縁部 が外縁面から膨らみ、器内面は胴部は傾位の異なる。底面は傾 作りの外縁面直下は傾位の異なる。胴部は傾作り。口 縁部は外縁面から膨らみ、器内面は傾位異なる。	漆田遺小
10-00755	土師器 須恵	厚土内 破片	口(11.4) 胴部(24.5) 底(12.4) 底	赤・黒・黄・赤褐色胎土・黒色胎物粒子・ 透明胎物粒子	縦作りの外縁面直下は傾位の異なる。胴部は傾作り。口 縁部は外縁面から膨らみ、器内面は傾位異なる。	漆田遺小
10-00756	土師器 須恵	厚土内 破片	底(5.8) 底	赤・黒・赤・黄・赤褐色胎土・白色胎物 粒子	縦作り。器内面は傾位・斜上方向からの傾作り。器内面は 傾位異なる。	漆田遺小
10-00757	高輪陶器 灰物 甕	厚土内 破片	口(13.0) 底	赤・黒・赤・黄・赤褐色胎土・透明胎物 粒子	縦輪成型形石臼転。胎土は不均。	豊入島

## 第23号住居跡

遺物番号 図説番号	遺物種 類	出土層位 保存度	径 目 (cm)	焼成・色調・胎土 (石室材は厚目録)	形状・技法等の特徴	備 考
10-00758	土師器 須恵	厚土内 破片	口(12.0) 底	赤・黒・赤・黄・赤褐色胎土・透明胎物 粒子	縦作り。口縁部は傾位を呈す。口縁部直下に傾位を残し、 底面は傾作りを呈す。	東毛産
10-00759	須恵器内 厚土内 破片	厚0.4	底	赤・黒・赤・黄・赤褐色胎土・透明胎物 粒子	縦輪成型形。傾位方向は不均。	東毛産

## 第24号住居跡

遺物番号 図説番号	遺物種 類	出土層位 保存度	径 目 (cm)	焼成・色調・胎土 (石室材は厚目録)	形状・技法等の特徴	備 考
10-00760	土師器 須恵	底面直下 1/2破 破片	口(12.2) 底(5.4) 底(4.4) 底	赤・黒・赤・黄・赤褐色胎土・黒色胎物 粒子多量・透明胎物粒子多量	縦作り。口縁部は傾位を呈す。口縁部直下に傾位を残す。 器内面は傾位異なる。	東毛産 東毛産-58
10-00761	土師器 須恵	厚土内 破片	底(6.0) 底	赤・黒・赤・黄・赤褐色胎土多量・透 明胎物粒子多量	縦作り。底面に傾位の異なる。器内面は傾作り。 器内面は傾位異なる。口縁部は傾作り。	東毛産
10-00762	高輪陶器 灰物 甕	厚土内 破片	口(11.4) 底	赤・黒・赤・黄・赤褐色胎土・透明胎物 粒子	縦輪成型形石臼転。口縁部は傾作りを呈す。	漆田遺

## 第25号住居跡

遺物番号 図説番号	遺物種 類	出土層位 保存度	径 目 (cm)	焼成・色調・胎土 (石室材は厚目録)	形状・技法等の特徴	備 考
10-00763	土師器 須恵	部分欠損	口(21.0) 胴(19.0) 底(12.4) 底(6.5)	赤・黒・赤・黄・赤褐色胎土・黒色胎物 粒子多量・透明胎物粒子多量	下半部は傾作り。上半部は不均。口縁部は傾作りを呈す。器内 面は傾位異なる。胴部は傾作りを呈す。器内面は傾位異なる。 器内面は傾位異なる。口縁部は傾作りを呈す。	東毛産
10-00764	土師器 須恵	厚土内 破片	口(18.4) 底(15.8) 底(19.2) 底	赤・黒・赤・黄・赤褐色胎土・黒色胎物 粒子多量・白色胎物粒子少	縦作り。口縁部は傾作りを呈す。器内面は傾作りを呈す。 器内面は傾位異なる。口縁部は傾作りを呈す。	東毛産
10-00765	土師器 須恵	厚土内 破片	口(18.4) 底(17.2) 底(23.6) 底	赤・黒・赤・黄・赤褐色胎土・黒色胎物 粒子	縦作り。口縁部は傾作りを呈す。器内面は傾作りを呈す。 器内面は傾位異なる。口縁部は傾作りを呈す。	東毛産
10-00766	土師器 須恵	厚土内 破片	口(20.0) 底(18.0) 底(21.6) 底	赤・黒・赤・黄・赤褐色胎土・黒色胎物 粒子・赤石・白色胎物	縦作り。口縁部は傾作りを呈す。器内面は傾作りを呈す。 器内面は傾位異なる。口縁部は傾作りを呈す。	東毛産
10-00767	土師器 須恵	厚土内 破片	底(7.6) 底	赤・黒・赤・黄・赤褐色胎土・黒色胎物 粒子	縦作り。口縁部は傾作りを呈す。器内面は傾作りを呈す。 器内面は傾位異なる。口縁部は傾作りを呈す。	東毛産
10-00768	高輪陶器 灰物 甕	厚土内 破片	底(5.8) 底	赤・黒・赤・黄・赤褐色胎土・透明胎物 粒子	縦輪成型形石臼転。器内面に傾位乃至赤褐色胎土が認められる。	東毛産 東毛産-59
10-00769	高輪陶器 灰物 甕	厚土内 破片	口(10.2) 底(2.8) 底(3.5) 底	赤・黒・赤・黄・赤褐色胎土・透明胎物 粒子	縦輪成型形石臼転。器内面に傾位を呈す。口縁部は傾作りを 呈す。	東毛産
10-00770	高輪陶器 灰物 甕	厚土内 破片	口(13.2) 底(6.6) 底(7.7) 底	赤・黒・赤・黄・赤褐色胎土・透明胎物 粒子	縦輪成型形石臼転。器内面に傾位を呈す。口縁部は傾作りを 呈す。	東毛産
10-00771	高輪陶器 灰物 甕	厚土内 破片	口(11.2) 底(8.2) 底(10.5) 底	赤・黒・赤・黄・赤褐色胎土・透明胎物 粒子	縦輪成型形石臼転。器内面に傾位を呈す。口縁部は傾作りを 呈す。	東毛産
10-00772	高輪陶器 灰物 甕	厚土内 破片	口(13.2) 底(8.2) 底(10.5) 底	赤・黒・赤・黄・赤褐色胎土・透明胎物 粒子	縦輪成型形石臼転。器内面に傾位を呈す。口縁部は傾作りを 呈す。	東毛産
10-00773	高輪陶器 灰物 甕	厚土内 破片	口(14.0) 底(6.9) 底(7.7) 底	赤・黒・赤・黄・赤褐色胎土・透明胎物 粒子・赤石・白色胎物	縦輪成型形石臼転。器内面に傾位を呈す。口縁部は傾作りを 呈す。	東毛産
10-00058	高輪陶器 灰物 甕	厚土内 破片	口(13.7) 底(9.9) 底(12.5) 底	赤・黒・赤・黄・赤褐色胎土・透明胎物 粒子	縦輪成型形石臼転。器内面に傾位を呈す。口縁部は傾作りを 呈す。	東毛産

## 第26号住居跡

遺物番号 図説番号	遺物種 類	出土層位 保存度	径 目 (cm)	焼成・色調・胎土 (石室材は厚目録)	形状・技法等の特徴	備 考
10-00774	土師器 須恵	厚土内 破片	口(13.1) 底(6.3) 底(7.2) 底	赤・黒・赤・黄・赤褐色胎土・透明胎物 粒子	縦輪成型形石臼転。器内面に傾位を呈す。口縁部は傾作りを 呈す。	漆田遺
10-00775	土師器 須恵	厚土内 破片	口(20.4) 底(18.6) 底(21.6) 底	赤・黒・赤・黄・赤褐色胎土・透明胎物 粒子	縦作り。器内面は傾作りを呈す。口縁部は傾作りを呈す。 器内面は傾位異なる。口縁部は傾作りを呈す。	東毛産
10-00776	須恵器 41	厚土内 破片	口(12.0) 底(5.4) 底(5.9) 底	赤・黒・赤・黄・赤褐色胎土・透明胎物 粒子	縦輪成型形石臼転。器内面に傾位を呈す。口縁部は傾作りを 呈す。	東毛産
10-00777	須恵器 41	厚土内 破片	口(16.8) 底(5.5) 底(8.9) 底	赤・黒・赤・黄・赤褐色胎土・透明胎物 粒子	縦輪成型形石臼転。器内面に傾位を呈す。口縁部は傾作りを 呈す。	漆田遺
10-00060	灰物 61	厚土内 部分欠損	口(13.5) 底(9.9) 底(10.9) 底	赤・黒・赤・黄・赤褐色胎土・透明胎物 粒子	二重に積み重なった状態。器内面に傾位を呈す。口縁部は傾作りを 呈す。	東毛産
10-00778	高輪陶器 灰物 甕	厚土内 破片	厚0.3	赤・黒・赤・黄・赤褐色胎土・透明胎物 粒子	縦輪成型形石臼転。器内面に傾位を呈す。口縁部は傾作りを 呈す。	東毛産
10-00779	高輪陶器 灰物 甕	厚土内 破片	厚0.4	赤・黒・赤・黄・赤褐色胎土・透明胎物 粒子	縦輪成型形石臼転。器内面に傾位を呈す。口縁部は傾作りを 呈す。	東毛産
10-00154	高輪陶器 灰物 甕	厚土内 破片	口(18.5) 底(7.5) 底(8.9) 底	赤・黒・赤・黄・赤褐色胎土・透明胎物 粒子	縦輪成型形石臼転。器内面に傾位を呈す。口縁部は傾作りを 呈す。	東毛産

## 第27号住居跡

遺物番号 図説番号	遺物種類	出土層位 遺存層	位置 目 (cm)	構成・色調・粘土 (石灰材は目録)	形状・技法等の特徴	調査
10-00780	土器類 土器 底	Ⅲ内 破片	□112.0 底(9.2)	黄・赤・黒・黄褐色・黒色鉱物粒子 多量・白色鉱物粒子少量・C生地上	筒作り、口縁部は無縁で垂下。口縁部直下は型溝を残す 凹い型で成形。	太・笠・甕 形 底
10-00781	土器類 土器 底	Ⅲ内 破片	□112.2 底(9.2)	黄・赤・黒・黄褐色・黒色鉱物粒子・ 赤褐色鉄粒子・C生地上	筒作り、口縁部は無縁で垂下。口縁部直下は型溝を残す 凹い型で成形。	底
10-00782	土器類 土器 底	Ⅲ内 破片	□119.5 底(6.6)	黄・赤・黒・黄褐色・黒色鉱物粒子・ 赤褐色鉄粒子・C生地上	輪軸成形形右回転。底面は回転糸切後縁に回転痕跡を残す 凹い型で成形。	底
10-00783	土器類 土器 底	Ⅲ内 破片	□116.0 底(5.0)	黄・赤・黒・黄褐色・黒色鉱物粒子・ 赤褐色鉄粒子・C生地上	輪軸成形形右回転。底面は回転糸切。縁部は張り出し、口 縁部は直縁の立ち上がり。	底
10-00784	土器類 土器 底	Ⅲ内 破片	□112.0 底(6.0)	黄・赤・黒・黄褐色・赤褐色鉄 粒子・黒色粘土 (黄褐色鉄粒子 多量)	輪軸成形形右回転。底面は回転糸切。縁部は張り出し、口 縁部は直縁の立ち上がり、口縁部は直縁。	底
10-00785	土器類 土器 底	Ⅲ内 破片	□14.3 底(0.7)	黄・赤・黒・黄褐色・黄褐色鉄 粒子	輪軸成形形右回転。高台は付け高台。縁部は高く縁高も 厚い。縁部直下に似る生土。	高台部分 底
10-00786	土器類 土器 底	Ⅲ内 破片	□114.6 底(7.0)	黄・赤・黒・黄褐色・黒色鉱物粒子・ 黄褐色鉄粒子	輪軸成形形右回転。高台は付け高台。縁部は高く縁高も 厚い。内面赤色。外内面に焼成跡の残る。	高台部分 底
10-00787	土器類 土器 底	Ⅲ内 破片	□112.0	黄・赤・黒・黄褐色・黄褐色鉄 粒子・赤褐色鉄粒子	輪軸成形形右回転。底面は丸みを帯び立ち上がる。口縁部 は外縁に張り出す。	高台部分 底
10-00788	土器類 土器 底	Ⅲ内 破片	底面径5.8	黄・赤・黒・黄褐色・黒色鉱物粒子・ 白色粘土	筒作り。高台が縁部の直縁とつながる。外面は縁部の直 縁より。内面は縁部の直縁とつながる。	底
10-00789	土器類 土器 底	Ⅲ内 破片	厚0.8	黄・赤・黒・黄褐色・黒色鉱物粒子 (焼 成跡)	筒作り後縁部は回転糸切。外縁部直下まで自然釉の付 着が認められる。	底
10-00661	土器類 土器 底	Ⅲ内 破片	底径5.0 幅0.4 厚0.6	黄・赤・黒・黄褐色・黒色鉱物粒子 少量	口縁部がクランク状に曲がる。断面正方形を呈する。	底
10-00662	土器類 土器 底	Ⅲ内 破片	底径5.0 幅0.3 厚0.4・重0.8	黄・赤・黒・黄褐色・黒色鉱物粒子 少量	全体を赤色色包む。部分的な縦溝・彫刻と考えると、口状 の構造は異なる。	底
10-00155	土器類 土器 底	Ⅲ内 破片	底径10.3 幅11.3 厚5.8・重702	黄・赤・黒・黄褐色・黒色鉱物粒子 少量	縁部の平坦面に厚縁が認められる。	底

## 第28号住居跡

遺物番号 図説番号	遺物種類	出土層位 遺存層	位置 目 (cm)	構成・色調・粘土 (石灰材は目録)	形状・技法等の特徴	調査
10-00790	土器類 土器 底	Ⅲ内 破片	□120.0 底(19.0)	黄・赤・黒・黄褐色・黒色鉱物粒子・ C生地上	筒作りより上は口縁部まで一帯で組み上げ、黄・口縁部は後 上げられる。口縁部は外縁に後上げられる。	太・笠・甕 形 底
10-00791	土器類 土器 底	Ⅲ内 破片	底(7.6)	黄・赤・黒・黄褐色・黒色鉱物粒子少量・ 白色粘土少量	輪軸成形形右回転。底面は回転糸切後縁部に回転痕跡を残す 凹い型で成形。	底
10-00792	土器類 土器 底	Ⅲ内 破片	底(7.6)	黄・赤・黒・黄褐色・黒色鉱物粒子少量	輪軸成形形右回転。底面は回転糸切後縁部に回転痕跡を残す 凹い型で成形。	底
10-00793	土器類 土器 底	Ⅲ内 破片	厚0.5	黄・赤・黒・黄褐色・黒色鉱物粒子少量・ C生地上	筒作り。内外面に「武」の異体字「」を書する。	底
10-00794	土器類 土器 底	Ⅲ内 破片	底(7.6)	黄・赤・黒・黄褐色・黒色鉱物粒子少量・ C生地上	輪軸成形形右回転。高台は付け高台。縁部は高く縁高も 厚い。縁部直下に似る生土。	高台部分 底
10-00795	土器類 土器 底	Ⅲ内 破片	□111.6	黄・赤・黒・黄褐色・黒色粘土	輪軸成形形右回転。底面は張り出す。非常に硬く生土で 入れ込み。	底
10-00796	土器類 土器 底	Ⅲ内 破片	厚0.5	黄・赤・黒・黄褐色・黒色粘土	輪軸成形形右回転。縁部は張り出す。外内面に薄く緑色の 自然釉が付着する。	底
10-00797	土器類 土器 底	Ⅲ内 破片	□14.5 底3.4 幅3.9	黄・赤・黒・黄褐色・黒色粘土	輪軸成形形右回転。底面は回転糸切後縁部で内面回転痕跡とし、 外面は輪軸成形の直縁で成形。	底
10-00798	土器類 土器 底	Ⅲ内 破片	厚0.9	黄・赤・黒・黄褐色・黒色粘土	筒作り後縁部は直縁。外面は平行円形。内面は縁部で具は背 縁状。下平らに焼成跡の残る。	底
10-00799	土器類 土器 底	Ⅲ内 破片	厚0.7	黄・赤・黒・黄褐色・黒色粘土	筒作り後縁部は直縁。外面は平行円形。内面は縁部で具は背 縁状。	底
10-00800	土器類 土器 底	Ⅲ内 破片	厚0.4	黄・赤・黒・黄褐色・黒色粘土	輪軸成形形右回転。底面は回転糸切。縁部は直縁。縁部は直 縁より。	底
10-00801	土器類 土器 底	Ⅲ内 破片	底径21.8 幅2.2~4.6 厚0.2 重128	黄・赤・黒・黄褐色・黒色粘土 少量	筒作りより上は縁部まで一帯で組み上げ、黄・口縁部は後 上げられる。口縁部は外縁に後上げられる。	底
10-00156	土器類 土器 底	Ⅲ内 破片	底径11.8 幅5.2 厚5.0 重432	黄・赤・黒・黄褐色・黒色粘土 少量	口縁部の平坦面に厚縁が認められる。扁平面の1面が厚縁して いる。他の一部には集中打痕が認められる。	底

## 第41号住居跡(1)

遺物番号 図説番号	遺物種類	出土層位 遺存層	位置 目 (cm)	構成・色調・粘土 (石灰材は目録)	形状・技法等の特徴	調査
10-00801	土器類 土器 底	Ⅲ内 破片	□112.0 底(16.2)	黄・赤・黒・黄褐色・黒色鉱物粒子・ C生地上	筒作り。内外面及び口縁部は無縁で垂下。口縁部直下は 型溝を残す凹い型で成形。底面は直縁の立ち上がり。	太・笠・甕 形 底
10-00802	土器類 土器 底	Ⅲ内 破片	□112.2 底(11.6)	黄・赤・黒・黄褐色・黒色鉱物粒子少量・ C生地上	筒作り。内外面及び口縁部は無縁で垂下。口縁部直下は 型溝を残す凹い型で成形。底面は直縁の立ち上がり。	太・笠・甕 形 底
10-00803	土器類 土器 底	Ⅲ内 破片	□112.2 底(7.4)	黄・赤・黒・黄褐色・黒色鉱物粒子・ 赤褐色鉄粒子・C生地上	筒作り。内外面及び口縁部は無縁で垂下。口縁部直下は 型溝を残す凹い型で成形。底面は直縁の立ち上がり。	底
10-00804	土器類 土器 底	Ⅲ内 破片	厚0.8	黄・赤・黒・黄褐色・黒色粘土	外面に薄く直縁が2箇所認められる。	太・笠・甕 形 底
10-00805	土器類 土器 底	Ⅲ内 破片	□120.6 底(18.0)	黄・赤・黒・黄褐色・黒色粘土 少量	口縁部は直縁・縁部により「く」の字状口縁に成形する。	太・笠・甕 形 底
10-00806	土器類 土器 底	Ⅲ内 破片	底(8.4)	黄・赤・黒・黄褐色・黒色粘土	輪軸成形形右回転。底面は回転糸切。縁部は張り出す。外 縁部は直縁の立ち上がり。	底
10-00807	土器類 土器 底	Ⅲ内 破片	□112.4 底(7.0)	黄・赤・黒・黄褐色・黒色粘土	輪軸成形形右回転。底面は回転糸切。縁部は張り出す。外 縁部は直縁の立ち上がり。	底
10-00808	土器類 土器 底	Ⅲ内 破片	底(6.6)	黄・赤・黒・黄褐色・黒色粘土	輪軸成形形右回転。底面は回転糸切。縁部は張り出す。外 縁部は直縁の立ち上がり。	底
10-00809	土器類 土器 底	Ⅲ内 破片	□117.0 底(7.0)	黄・赤・黒・黄褐色・黒色粘土	輪軸成形形右回転。高台は付け高台。口縁部直下は外縁。 口縁部は直縁の立ち上がり。	底
10-00011	土器類 土器 底	Ⅲ内 破片	底(7.2)	黄・赤・黒・黄褐色・黒色粘土	輪軸成形形右回転。高台は付け高台。縁部は縁部直縁部 で成形。外縁は直縁。	底



## 第41号住居跡(2)

遺物番号 図面番号	遺物種 等	出土層位 遺存層	厚 目 (cm)	構成・色調・粘土 (石類材は目録)	形状・技法等の特徴	備 考
10-00811	煎茶碗	覆土内 破片	厚0.5	密・黄・赤・灰・白色微粒子	輪縁成形形石臼製。口縁は大きい。器厚は薄い。	笠原産
10-00812	煎茶碗 大甕	覆土内 破片	厚1.3	密・黄・緑・灰・硝灰・白色微物 粒子	紐作り後印成形。外面は数目(線目か)等。焼具は青 海波文。	吉野・東阿蘇

## 第29号住居跡

遺物番号 図面番号	遺物種 等	出土層位 遺存層	厚 目 (cm)	構成・色調・粘土 (石類材は目録)	形状・技法等の特徴	備 考
10-00813	土師器 杯	覆土内 破片	厚0.5	密・黄・赤・灰・黒色粒子(暗褐色 微物粒子)・C生地上	製作。表面は覆層りを施す。外面に黒層があるが判断不 明。「裏面」の可能性も考えられる。	富田遺跡か3田 原遺跡 45.63
10-00814 61	土師器 杯	覆土内 破片	口(11.6) 底(9.4) 高さ2.8	密・黄・赤・灰・微粒状石灰微塵・ C生地上	製作。口縁部は横溝で施す。口縁部直下は黒層を残す 甘い層で飾る。底部は覆層りを施す。	富田遺跡か大田 原遺跡
10-00815	土師器 内 破片	覆土内 破片	口(21.4) 頸(18.0)	密・黄・赤・灰・微粒状石灰多量・ C生地上	紐作り。外反口縁。内外面は横溝で飾る。	東毛産
10-00816	煎茶碗 土師大甕	覆土下層 口縁大甕	底7.6	密・黄・緑・灰・微塵微塵	輪縁成形形石臼製。底部は凹み成形。	覆入品か
10-00817	煎茶碗 杯	覆土内 破片	口(12.2) 底(5.6)	密・黄・赤・灰・白色微粒子	輪縁成形形石臼製。器厚は薄い。体部は丸みを帯び、器底は 低い。	東毛産部か寺 原遺跡
10-00818	煎茶碗 大甕	覆土内 破片	厚0.6	密・黄・赤・灰・灰類物類し	輪縁成形形石臼製。	覆入品
40-00864 61	鉄片	覆土内 部分大甕	長4.9幅 0.7.8 厚2.1 重0.3		全体に能力を呼ぶ。箇中上下部には比較的確(能力を呼び 能力3)。中央部(能力4)・左端部(能力5)である。	

## 第30号住居跡

遺物番号 図面番号	遺物種 等	出土層位 遺存層	厚 目 (cm)	構成・色調・粘土 (石類材は目録)	形状・技法等の特徴	備 考
10-00819	煎茶碗 杯	覆土内 破片	口(13.0) 底(6.4)	密・中・赤・黄・黒色微物粒子	輪縁成形形石臼製。底部は凹み成形。輪縁口は強い。箇内 面は飾る。	塚田産
10-00820	土師器 杯	覆土内 破片	口(20.0) 底(18.4) 頸(22.4)	密・黄・赤・黄褐色・黒色微物粒子・ 微粒状石炭	下半は紐作り。胴部は大部分に尖形彫(縦位の窪のア リ)による。粘土を敷き上げながら外縁ききつける。	東毛産
10-00821	煎茶碗 大甕	床直 覆土内 破片	口(12.0) 底(7.2) 高さ3.3	密・黄・赤・硝灰・黒色微物粒子(内 反状)・β石炭	輪縁成形形石臼製。高台は付け高台。胴部は凹み彫りが 認められる。輪縁口は横溝で強く口縁部は強く外反する。	東毛産部か北 田原遺跡
10-00822	煎茶碗 杯	覆土内 破片	口(15.0)	密・黄・赤・灰・白色微粒子	輪縁成形形石臼製。底部は凹み反す。器厚は薄い。	笠原産か大田 原遺跡
10-00823	煎茶碗 杯	覆土内 破片	底(9.0)	密・黄・赤・硝灰・赤色輝石炭	紐作り輪縁成形石臼製成形。高台は付け高台。外面黒い自然 釉が施す。	大田原
10-00824	煎茶碗 大甕	覆土内 破片	厚1.0	密・黄・赤・灰・白色微粒子	紐作り。内面は横位の無で飾る。外面は細いか一単位 の波状文の平行彫り。	太・笠・富田 原遺跡
10-00825	煎茶碗 大甕	覆土内 破片	厚0.8	密・黄・赤・灰・白色微粒子	紐作り後印成形。外面は平行平反。焼具は青海波文。外 面の等しいは認めない。	杖田産
10-01328	土師器 杯	覆土内 破片	厚0.5	密・黄・赤・明黄緑・赤褐色粒子・ 黒色微物粒子	紐作り。内面は横溝で施す。口縁部直下は覆層り。外 面に黒層。輪縁口縁(線目)あり。	東毛産

## 第31号住居跡(1)

遺物番号 図面番号	遺物種 等	出土層位 遺存層	厚 目 (cm)	構成・色調・粘土 (石類材は目録)	形状・技法等の特徴	備 考
10-00826	土師器 杯	覆土内 破片	口(12.6)	密・黄・赤・明黄緑・黒色微物粒子 (角状状)・β石炭・1種生地上	製作。箇内面及び口縁部は横溝で飾る。口縁部直下は 黒層を残す甘い層で飾る。横位の覆層りを施す。	東毛産
10-00827	土師器 杯	覆土内 破片	口(12.4) 底(5.4) 高さ2.9	密・黄・赤・明黄緑・黒色微物粒子 (角状状)・β石炭・1種生地上	製作。箇内面及び口縁部は横溝で飾る。口縁部直下は 黒層を残す甘い層で飾る。横位の覆層りを施す。	東毛産
10-00828	土師器 杯	覆土内 破片	口(13.2)	密・黄・赤・明黄緑・黒色微物粒子 (角状状)・C生地上	製作。箇内面及び口縁部は横溝で飾る。口縁部直下は 黒層を残す甘い層で飾る。横位の覆層りを施す。	東毛産
10-00829	土師器 杯	覆土内 破片	口(14.6)	密・黄・赤・明黄緑・黒色微物粒子・ 黒色微物粒子・1種生地上	製作。箇内面及び口縁部は横溝で飾る。口縁部直下は黒層を 残す甘い層で飾る。体部は凹み彫り。口縁部は強い(横溝 で成形)。	東毛産 寺原遺跡 64
10-00830 61	土師器 部分大甕	覆土内 破片	口(13.7) 頸6.0 高さ4.2	密・黄・赤・硝灰・硝灰・黒色微 物粒子(暗褐色微物粒子)	製作。内面及び口縁部は横溝で飾る。口縁部直下は黒層を 残す甘い層で飾る。縦位の波状文。縦縁は二次焼成。 「フ」字状口縁。器部は中や外縁状況。口縁部は強い(横溝 で成形)。	東毛産C生 地上
10-00831	土師器 杯	覆土内 破片	厚0.6	密・黄・赤・灰・灰類物類	輪縁成形形石臼製。	覆層品か
10-00832	土師器 土師大甕	覆土内 破片	口(12.2) 頸(11.6)	密・黄・赤・明黄緑・黄褐色・黒色微 物粒子少量・C生地上	紐作り。口縁部は直位の立ち上がる。器部は凹層り。外 面は横位の覆層り。器内面は横位の覆層りを施す。	太・笠・富田 原遺跡
10-00833 61・138	土師器 土師大甕	覆土内 破片	口(16.6) 底(14.0) 頸(19.6)	密・中・黄・赤・灰・白・黄褐色・黒色 微物粒子微量・灰類物類	紐作り。箇内面及び口縁部は横溝で飾る。口縁部直下は黒層を 残す甘い層で飾る。器部は凹層り等が認められる。文字の一部の可能性は 判断できない。	塚田産
10-00834	土師器 杯	覆土内 破片	口(21.4) 底(18.4)	密・黄・赤・硝灰・灰類物類・C 生地上	輪縁成形形石臼製。器部は凹み彫り。器部は凹層り厚く、 口縁部は強い。箇内外面に横溝の横溝で飾る。	覆層品か
10-00835	土師器 杯	覆土内 破片	口(18.0)	密・黄・赤・明黄緑・灰類物類	「く」字状口縁。口縁部直下に凹み彫り。口縁部は強い(横溝 で成形)。	塚田産
10-00836	土師器 杯	覆土内 破片	口(18.0)	密・黄・赤・明黄緑・灰類物類	「く」字状口縁。口縁部直下に凹み彫り。口縁部は強い(横溝 で成形)。	塚田産
10-00837	土師器 杯	覆土内 破片	厚(0.3)~(0.5)	密・黄・赤・明黄緑・黒色微物粒子	縦位の覆層りが持ち替えにより方向を変えている。	塚田産
10-00838	土師器 杯	覆土内 破片	厚0.3~0.8	密・黄・赤・明黄緑・内面黒・黄 褐色	縦位の覆層りが持ち替えにより方向を変えている。	塚田産
10-00839	土師器 杯	覆土内 破片	厚0.3	密・黄・赤・黒色微物粒子・赤 褐色粒子	縦位の覆層りが持ち替えにより方向を変えている。文字の一部の可能性は 判断できない。	東毛産 笠原遺跡 45
10-00840 61	煎茶碗 杯	F内 一部欠損	口(11.7) 底5.6 高さ3.6	密・中・赤・明黄緑・灰・黒色微 物粒子少量・白色粒子	輪縁成形形石臼製。器部は凹み彫り。器部は凹層り厚く、 口縁部は強い。箇内外面に横溝の横溝で飾る。	覆層品か
10-00841 61	煎茶碗 杯	F内 欠損	口(12.4) 底5.4 高さ3.9	密・黄・赤・灰・黒色微粒子(硝 灰微物粒子)	輪縁成形形石臼製。器部は凹み彫り。器部は凹層り厚く、 口縁部は強い。箇内外面に横溝の横溝で飾る。	塚田産
10-00842	煎茶碗 杯	覆土内 破片	口(11.3) 底(7.0)	密・黄・赤・外白自然/内面灰/外白 灰黒色微粒子・白色微物粒子	輪縁成形形石臼製。器部は凹み彫り。器部は凹層り厚く、 口縁部は強い。箇内外面に横溝の横溝で飾る。	杖田産

富田漆田遺跡 跡元

第31号住居跡(2)

遺物番号 図版番号	遺物種類 遺存度	出土層位	位置 目 (m)	構成・色調・胎土 (石割材は後日録)	形状・技法等の特徴	調査
10-0043	瓦葺部 土心礎	Ⅱ内 破片	□(12.0)	赤・黒・灰・黒色粘土 (暗褐色 配物粒子)	輪軸成形形石割材。断面は丸みを帯び立ち上がり。口縁部 は厚く「反」して立ち上がる。内外面は滑らか。	長田成か
10-0044	土師器 土師器	Ⅱ土内 破片	□(12.0) 底(6.4)	赤・黒・黄・黒褐色・黒色配物粒子 (内 胎状)・β石莖・2種生地上	製作より。器内面及び口縁部は焼物で施す。口縁部直下は 磨物を残す甘い態で施す。外面は磨物残不詳。	青毛産 磨物 66
10-0045	土師器 土師器	Ⅱ土内 破片	□(13.2)	赤・黒・赤・黄褐色・赤褐色粘土・黒 色配物粒子・白色粘土	製作より。器内面及び口縁部は焼物で施す。口縁部直下 は磨物を残す甘い態で施す。外面は磨物残不詳。	青毛産 磨物 67
10-0046	土師器 土師器	Ⅱ土内 破片	□(13.4)	赤・黒・赤・黄褐色・黒色配物粒子 若干・2種生地上	製作より。器内面及び口縁部は焼物で施す。口縁部直下は 磨物を残す甘い態で施す。外面は磨物「滑」み。	太・笠・富岡 辺成か 68
10-0047	土師器 土師器	Ⅱ土内 破片	跡9.3	赤・黒・赤・黄・黄褐色・赤褐色粘土・C 生地上	製作より。器内面及び口縁部は焼物で施す。器内面は滑 らかな態で施す。外面は磨物若干を施す。	青毛産 磨物 69
10-0048	土師器 土師器	Ⅱ土内 破片	跡9.4	赤・黒・赤・黄褐色・黒色配物粒子 (内 胎状)・β石莖・2種生地上	製作より。器内面及び口縁部は焼物で施す。口縁部4分の 一は滑り。	青毛産 磨物 70
10-0049	須恵器 土師器	Ⅱ土内 破片	底(8.9)	赤・黒・赤・灰・石莖多量片状	輪軸成形形石割材。断面は反転成形。断面が非常に鋭く 形状を呈する。	太・笠・富岡 辺成か 71
10-0050	土師器 土師器	Ⅱ土内 破片	□(13.2) 底(6.4)	赤・黒・赤・黄褐色・黄褐色粘土・C 生地上	製作より。内面及び口縁部は焼物で、口縁部直下は磨物を残 す甘い態で施す。外面は磨物若干を施す。	太・笠・富岡 辺成か 72
10-0051	須恵器 土師器	Ⅱ土内 破片	□(14.0) 底(6.4)	赤・黒・赤・黄褐色・黒色粘土 (軟弱 配物粒子)・白色配物粒子	輪軸成形形石割材。高さが片打付高。断面は「体」に緩やかに 立ち上がる。	青毛産
10-0052	土師器 土師器	Ⅱ土内 破片	跡9.4	赤・黒・赤・黄褐色・黄褐色粘土	製作より。内面及び口縁部は焼物で、口縁部直下は磨物を残 す甘い態で施す。器内面は焼物で施す。	青毛産
10-0053	土師器 土師器	Ⅱ土内 破片	底(5.4)	赤・黒・赤・黄褐色・黄褐色粘土	製作より。断面は磨物残認められる。	太・笠・富岡 辺成か
10-0054	須恵器 土師器	Ⅱ土内 破片	□(20.6) 跡部(24.6)	赤・黒・赤・黄褐色・黒褐色・内面黄 石莖多量・長石・黒色配物粒子	製作より輪軸成形石割材。断面は片打付。口縁部の内面 は鋭く磨物残認められる。古井部前後半1種片取。	青井部

第32号住居跡

遺物番号 図版番号	遺物種類 遺存度	出土層位	位置 目 (m)	構成・色調・胎土 (石割材は後日録)	形状・技法等の特徴	調査
10-0055	土師器 土師器	Ⅱ土内 破片	□(17.4) 跡(15.8)	赤・黒・赤・黄・黄褐色・黒色配物粒子・2 種生地上	製作より。断面は片打付。口縁部は「体」に 立ち上がる。口縁部直下は磨物を残す甘い態で施す。外面は磨物若干を施す。	青毛産
10-0056	須恵器 土師器	Ⅱ土内 破片	□(11.2) 底(5.4)	赤・黒・赤・黄褐色・黒褐色・黄褐色粘土・C 生地上	製作より。器内面及び口縁部は焼物で施す。口縁部直下は磨物 を残す甘い態で施す。外面は磨物若干を施す。	不詳
10-0057	須恵器 土師器	Ⅱ土内 破片	□(12.4) 底(5.4)	赤・黒・赤・黄褐色・黒褐色・黄褐色粘土・C 生地上	輪軸成形形石割材。断面は反転成形。断面は「体」に緩やかに 立ち上がる。口縁部直下は磨物を残す甘い態で施す。外面は磨物若干を施す。	太・笠・富岡 辺成か 73
10-0058	須恵器 土師器	Ⅱ土内 破片	跡9.8	赤・黒・赤・灰・黒色配物粒子・C 生地上	輪軸成形形石割材。断面は反転成形。断面は「体」に緩やかに 立ち上がる。口縁部直下は磨物を残す甘い態で施す。外面は磨物若干を施す。	青毛産 磨物 73
10-0059	須恵器 土師器	Ⅱ土内 破片	□(13.6)	赤・黒・赤・灰・黒色粘土 (暗褐色 配物粒子)・黄褐色粘土・C生地上	輪軸成形形石割材。断面は反転成形。断面は「体」に緩やかに 立ち上がる。口縁部直下は磨物を残す甘い態で施す。外面は磨物若干を施す。	不詳

第33号住居跡

遺物番号 図版番号	遺物種類 遺存度	出土層位	位置 目 (m)	構成・色調・胎土 (石割材は後日録)	形状・技法等の特徴	調査
10-0060	土師器 土師器	Ⅱ土内 破片	□(13.6)	赤・黒・赤・黄・黒褐色・黒色配物粒子・2 種生地上	製作より。器内面及び口縁部は焼物で施す。口縁部直下は磨物 を残す甘い態で施す。外面は磨物若干を施す。	青毛産
10-0061	土師器 土師器	Ⅱ土内 破片	□(20.8) 跡(18.8)	赤・黒・赤・黄・黒褐色・黒褐色粘土・若干 ・黒色配物粒子少量・C生地上	製作より。器内面及び口縁部は焼物で施す。口縁部直下は磨物 を残す甘い態で施す。外面は磨物若干を施す。	太・笠・富岡 辺成か
10-0062	須恵器 土師器	Ⅱ土内 破片	□(13.6)	赤・黒・赤・白灰・黒色配物粒子・ 白色粘土	輪軸成形形石割材。内面は片打付。	跡田成

第34号住居跡

遺物番号 図版番号	遺物種類 遺存度	出土層位	位置 目 (m)	構成・色調・胎土 (石割材は後日録)	形状・技法等の特徴	調査
10-0063	土師器 土師器	Ⅱ土内 破片	□(11.4) 底(7.9)	赤・黒・赤・黄褐色・黄褐色粘土・C生 地上	製作より。器内面及び口縁部は焼物で施す。口縁部直下は磨物 を残す甘い態で施す。外面は磨物若干を施す。	太・笠・富岡 辺成か
10-0064	土師器 土師器	Ⅱ土内 破片	□(12.6)	赤・黒・赤・黄褐色・黄褐色粘土・C生 地上	製作より。器内面及び口縁部は焼物で施す。口縁部直下は磨物 を残す甘い態で施す。外面は磨物若干を施す。	太・笠・富岡 辺成か 74
10-0065	土師器 土師器	Ⅱ土内 破片	□(13.2) 底(10.0)	赤・黒・赤・黄褐色・赤褐色粘土・黒色 配物粒子・2種生地上	製作より。器内面及び口縁部は焼物で施す。口縁部直下は磨物 を残す甘い態で施す。外面は磨物若干を施す。	青毛産 磨物 75
10-0066	土師器 土師器	Ⅱ土内 破片	□(12.4) 底(6.5)	赤・黒・赤・黄褐色・黄褐色粘土・C生 地上	製作より。器内面及び口縁部は焼物で施す。口縁部直下は磨物 を残す甘い態で施す。外面は磨物若干を施す。	太・笠・富岡 辺成か
10-0067	土師器 土師器	Ⅱ土内 破片	□(12.0) 底(6.3)	赤・黒・赤・黄褐色・黒褐色粘土・C生 地上	製作より。器内面及び口縁部は焼物で施す。口縁部直下は磨物 を残す甘い態で施す。外面は磨物若干を施す。	太・笠・富岡 辺成か
10-0068	土師器 土師器	Ⅱ土内 破片	□(11.4) 底(11.0)	赤・黒・赤・黄・黄褐色・黒褐色粘土・C 生地上	断面は丸みを帯び、断面は「体」に緩やかに立ち上がる。口縁部 は厚く「反」して立ち上がる。外面は磨物残認められる。	太・笠・富岡 辺成か
10-0069	土師器 土師器	Ⅱ土内 破片	□(19.6) 跡(18.4)	赤・黒・赤・黄褐色・黒褐色粘土・黄褐色 粘土・C生地上	断面は丸みを帯び、断面は「体」に緩やかに立ち上がる。口縁部 は厚く「反」して立ち上がる。外面は磨物残認められる。	太・笠・富岡 辺成か
10-0070	須恵器 土師器	Ⅱ土内 破片	底(8.6)	赤・黒・赤・白灰・黄褐色少量	断面は丸みを帯び、断面は「体」に緩やかに立ち上がる。口縁部 は厚く「反」して立ち上がる。外面は磨物残認められる。	輪軸成
10-0071	須恵器 土師器	Ⅱ土内 破片	跡9.5	赤・黒・赤・黄褐色・白色配物粒子・C 生地上	輪軸成形形石割材。内面は磨物残認められる。断面は片打付高 で施す。断面は「体」に緩やかに立ち上がる。	青毛産 磨物 76
10-0072	須恵器 土師器	Ⅱ土内 破片	底(6.9)	赤・黒・赤・黄褐色・白色配物粒子・C 生地上	輪軸成形形石割材。断面は反転成形。断面は「体」に緩やかに 立ち上がる。口縁部直下は磨物を残す甘い態で施す。外面は磨物若干を施す。	加賀成か
10-0073	須恵器 土師器	Ⅱ土内 破片	□(11.4) 跡(10.4)	赤・黒・赤・黄・白・白色配物粒子・黒色 粘土・2種生地上	製作より輪軸成形石割材。断面は片打付。口縁部の内面は鋭く 磨物残認められる。	青毛成か
20-0015	石製石 石製石	Ⅱ土内 部分欠損	残長12.0 厚 4.7 重150	粗粒輝石安山岩	断面の縁辺に「中」や「外」の字が認められる。	
20-0015b	床敷板 破石	1/2以上	残長11.7 厚 3.0-1.2 重174	組石	断面の縁辺に「中」や「外」の字が認められる。硬質土は 本人の利刃(刀等)と思われる。	

## 第35号住居跡

遺物番号 図説番号	遺物種 出土地 遺存 遺	量 目 (cm)	構成・色調・粘土 (石炭灰は黒目録)	形状・技法等の特徴	調査	
10-00874	土師器 土師器 土師器	覆土内 層1 破片	口(10.4) 底(9.2) 口(10.6) 口(17.8) 底(16.8)	赤・黒・黄・黄緑・黒色粘物粒子・ 赤褐色粒子・2種赤土 赤・黒・黄・黄緑・黒色粘物粒子・ 黄褐色粒子・C生土	球形状の胴部から頸部は立ち上がり、口縁部は強く 外傾する。頸部は弱く肥厚する。 細作り。頸部は内傾し口縁部は外反して立ち上がる。しな やかな上縁。	赤毛土 太・笠・甕筒 辺か
10-00876	土師器 破片	覆土内 破片	口(16.6) 底(15.6) 口(20.0)	赤・黒・黄・黄緑・黒色粘物粒子 (内 殻状)・石炭灰・1種赤土	球形状の胴部から、頸部は内傾して立ち上がり、口縁部は 強く外傾し立ち上がる。頸部は厚い。	赤毛土
10-00877	須恵器 破片	覆土内 1/4	口(13.6) 底(6.0) 底(5.5)	赤・中・灰・黄灰・黒色粘物粒子 (内 殻状)・石炭灰・1種赤土	楕圓成形型石臼形。底部は倒れ込み。頸部が倒るり体部 と口縁部は直線的に立ち上がる。外面に判別不能な磨 り。	赤毛土 磨器 77
10-00878	須恵器 破片	覆土内 破片	口(13.8) 底(6.0) 底(7.2)	赤・黒・黄・黄緑・黄褐色粒子・C生 土	楕圓成形型石臼形。高台は付け高台で、坪部の断面内に嵌 り込む。	太・笠・甕筒 辺か
10-00879	須恵器 片心礎	破片	口(4.6)	赤・黒・黄・白灰・黒色粘物粒子 (内 殻状)・石炭灰・2種赤土	楕圓成形型石臼形。高台は中塗り気味。体部・口縁部は 直線的に立ち上がる。頸部は厚い。	赤毛土
10-00880	須恵器 小瓶	覆土内 破片	底(4.4)	赤・黒・黄・赤褐色粘物粒子・黄 褐色粒子・C生土	楕圓成形型石臼形。頸部は厚い。	根本か摩撫面
40-00905 61	鉄器 鉄器	35号住 居跡 覆土破片	残長5.3 幅0.75 厚0.5 重12		置材は断面長方形を示す。置器部分は不明瞭な点がある。 両端共に凹み。	

## 第36号住居跡

遺物番号 図説番号	遺物種 出土地 遺存 遺	量 目 (cm)	構成・色調・粘土 (石炭灰は黒目録)	形状・技法等の特徴	調査	
10-00881	土師器 破片	覆土内 破片	口(12.4) 底(8.4)	赤・黒・黄・黄緑・黒色粘物粒子・ 黒褐色粒子・C生土	細作り。内面及び口縁部は直線的で全縁。口縁部直下は 磨面を有する内傾した上縁。底面は直線的。	太・笠・甕筒 辺か
10-00882	土師器 破片	覆土内 破片	口(13.4) 口(13.0) 底(4.8)	赤・中・黄・灰黄・黒粘状内縁・チート 内傾	細作り。底面は直線的。胴部がやや歪んでいる。口縁部 は強く外反して立ち上がる。再彫削も確認できる。	掘込品
10-00883 位・138	土師器 破片	覆土内/部 破片	口(18.8) 底(17.4) 口(21.2)	赤・黒・黄・黄・微細白色粘物粒子 粘物・黄褐色粘物・C生土	下半部は細作り。上半部は細作りか。頸部は斜に外傾で整形 で頸目(7)を有する。口縁部は直線的である。	太・笠・甕筒 辺か
10-00884 位・137	土師器 破片	灰黄/部 破片	口(19.6) 底(18.0) 口(22.6) 底(12.0)	赤・黒・黄・黄緑・石炭灰・赤褐色粒 子・砂粒・C生土(0015同土)	下半部は細作り。上半部は細作りか。頸部は斜に直線的で整 形。口縁部は直線的に立ち上がる。外面に判別不能な磨 り。	太・笠・甕筒 辺か
10-00885 位・137	土師器 破片	電燈道/電 線/破片	口(20.6) 底(18.2) 口(22.6) 底(12.0)	赤・黒・黄・黄・微細白色粘物粒子・ 黒褐色粘物・C生土	上半部は細作り。下半部は直線的(細か)で整形。口縁部 は直線的でより二重になっている。	太・笠・甕筒 辺か
10-00886 位・137	土師器 破片	覆土内/部 破片	口(20.4) 底(19.4)	赤・黒・黄・黄・微細白色粘物粒子・ 黒褐色粘物・C生土	下半部は細作り。上半部は細作りか。頸部は斜に直線的で整形 で頸目(7)を有する。口縁部は直線的である。	太・笠・甕筒 辺か
10-00887	土師器 破片	灰黄/部 破片	口(20.6) 底(18.4)	赤・黒・黄・黄・微細白色粘物粒子・ 黒褐色粘物・C生土	下半部は細作り。上半部は細作りか。頸部は斜に直線的で整形 で頸目(7)を有する。口縁部は直線的である。	太・笠・甕筒 辺か
10-00888 位・137	土師器 破片	覆土内/部 破片	口(20.6) 底(19.0) 口(23.2)	赤・黒・黄・黄・微細白色粘物粒子・ 黒褐色粘物・C生土	下半部は細作り。上半部は細作りか。頸部は斜に直線的で整 形。口縁部は直線的でより二重になっている。	太・笠・甕筒 辺か
10-00889	土師器 破片	覆土内 破片	底(4.6)	赤・黒・黄・黄・微細白色粘物粒子・ 黒褐色粘物・C生土	細作り。底面に凹み。外面は斜に直線的。内面は直線的 の直線。	太・笠・甕筒 辺か
10-00890	土師器 破片	覆土内 破片	底(3.4)	赤・黒・黄・黄・微細白色粘物粒子・ 石炭灰・2種赤土	細作り。底面は直線的。外面は斜に直線的。内面は直線的 の直線。	根本
10-00891	須恵器 破片	覆土内 破片	底(17.6)	赤・黒・黄・灰・石灰片	楕圓成形型石臼形。頸部は厚い。底面は直線的に立ち上 がる。磨器目が深い。	埼玉北部か古 井遺
10-00892	須恵器 破片	灰黄道 1/3	口(14.6) 底(7.2)	赤・黒・黄・黄・石灰片・黄2.4	楕圓成形型石臼形。頸部は厚い。底面は直線的に立ち上 がる。	埼玉北部か
10-00893	須恵器 破片	灰黄道 破片	底(14.2)	赤・黒・黄・黄・石灰片・黄2.4 粘物・黒色粘物粒子	細作り直線型石臼形。高台は付け高台。外面は左右 に直線的で内傾。	伊勢崎か
10-00894	須恵器 破片	覆土内 破片	厚0.6	赤・黒・黄・灰・灰黄粘物	同様に直線的に立ち上 がる。	伊勢崎か
10-00905 62	須恵器 大甕	灰黄道 破片	厚0.5	赤・黒・黄・灰・白色粘物	細作り筒形甕形。外面は平打り。内面は直線的で内傾。内 面は直線的に磨り込まれている。	直線型か
10-00906 62	須恵器 刀子	覆土内 破片	残長16.8 身幅1.8 厚0.3 重約8.8 重29		磨削・磨削後の欠損が顕著。刃部がしっかりしているが、 全体には研削した面。	
10-00907 62	須恵器 破片	覆土内 破片	残長3.6 幅0.6 厚0.5 重19		上縁部は凹み。断面長方形を示す。詳細不明。	
10-00907 62	須恵器 破片	覆土内 破片	残長6.0 幅0.5 厚0.5 重10		尖頭は直線的な欠損。頸部は厚く磨り込まれた状態で、刃として の完成した状態ではない。	
10-00908 62	須恵器 刀子	覆土内 破片	残長7.0 身幅1.3 厚0.8 重約1.3 重13		深沢・刀身磨削後の欠損。磨削が顕著。裏面は直線的で やや内傾。	
10-00909 62	須恵器 刀子	覆土内 破片	残長1.7 幅1.0 厚0.2 重2		磨削が顕著。刀身部の破片。詳細不明。	
10-00910	須恵器 破片	覆土内 破片	厚0.8 重約7.0 厚0.8 重882	実質玄武岩	小口・白面側に葉中打痕。側部・平ら面側に磨削が認め られる。	
20-00160	須恵器 破片	覆土内 破片	残長1.0 幅0.5 厚0.5 重160	粗粒輝石玄武岩	表面部に使用痕が認められる。同表面の磨削が顕著。小口 に擦痕に磨削痕が認められる。	

## 第37号住居跡(1)

遺物番号 図説番号	遺物種 出土地 遺存 遺	量 目 (cm)	構成・色調・粘土 (石炭灰は黒目録)	形状・技法等の特徴	調査	
10-00906 62	土師器 破片	灰黄道 破片	口(18.8) 底(17.0)	赤・黒・黄・黄・微細白色粘物・ 黒褐色粘物・C生土	頸部は内傾気味に立ち上がり、口縁部は強く外傾して立ち 上がる。立ち上がり部は直線的に磨り込まれている。	太・笠・甕筒 辺か
10-00907 62	土師器 破片	灰黄道 破片	口(19.4) 底(17.4)	赤・黒・黄・黄・微細白色粘物・ 黒褐色粘物・C生土	頸部は内傾気味に立ち上がり、口縁部は強く外傾して立ち 上がる。立ち上がり部は直線的に磨り込まれている。	太・笠・甕筒 辺か
10-00909	土師器 破片	灰黄道 破片	厚0.5	赤・黒・黄・黄・微細白色粘物・ 黒褐色粘物・C生土	頸部は上半部まで直線的で立ち上がる。頸部は厚い。	太・笠・甕筒 辺か
10-00909	須恵器 破片	灰黄道 破片	底(7.6)	赤・黒・黄・灰・白色粘物	楕圓成形型石臼形。高台は付け高台。内面は直線的に磨り 込まれている。	埼玉北部
10-00909	須恵器 破片	覆土内 破片	底(9.2)	赤・黒・黄・灰・石灰片	楕圓成形型石臼形。高台は付け高台。内面は直線的に磨り 込まれている。	根本
10-00909	須恵器 破片	覆土内 破片	厚0.4	赤・黒・黄・灰・黄(高)・白色粘 物	楕圓成形型石臼形。高台は付け高台。赤面に磨り込ま れている。	根本・直線 型か

## 第37号住居跡(2)

遺物番号 図面番号	遺物類 名称	出土層位 遺存層	量 目 (cm) 目 (g)	構成・色調・粘土 (石灰灰は付着)	形状・技法等の特徴	備考
10-0092	丸軸陶器 灰物 壺	覆土内 破片	厚0.4	灰・赤・黄・緑・シルト質・赤褐色 粘土・黒色粘粉土・黒色粘粉土	楕圓成形石臼形。陶輪技法は不詳。	購入品
10-0093	丸軸陶器 壺 部分欠損	床土 破片	口(3.4) 高(7.3) 厚7.9	灰・赤・緑・灰 物質・オレンジ灰	楕圓成形石臼形。底部は凹形凸形。体部は凹形隆起でも 出た。粘土が欠損する。	購入品
10-0079	丸軸陶器 鉢	37号住居土 破片	径13.7 高1.5 厚0.3 破片		土層は凹欠。筒化が非常に顕著。土層は断面の付け残しと思 われる。	
10-0181	埴器 解石	床土層 部分欠損	径10.0 高4.2 厚5.6 重185	粗粒凝結石灰土	扁平片で構成する。断面形状が欠損。	

## 第38号住居跡(1)

遺物番号 図面番号	遺物類 名称	出土層位 遺存層	量 目 (cm) 目 (g)	構成・色調・粘土 (石灰灰は付着)	形状・技法等の特徴	備考
10-0094	土器 壺	覆土内 破片	厚0.8	灰・赤・黄・黄緑・シルト質・赤褐色 粘土・黒色粘粉土・黒色粘粉土	扁平片。内面に縦筋状文を施す。	藤岡氏蔵
10-0095	土器 壺	P内 破片	口(3.4) 高(6.3) 厚3.4	灰・赤・黄・黄緑・黒色粘粉土・ β石英・白色粘土・2種生粘土	扁平片。外面は小単位で横位の隆起で 整形。内面は縦位の隆起で整形。	東毛蔵
10-0096	土器 壺	P内 高台欠損	口(15.4) 坪高7.8 高4.7	灰・赤・黄・黄緑・黒色粘粉土(内 粘状)・β石英・2種生粘土	P内。断面形状を帯にしている可能性がある。外面隆起 で、内面縦位の隆起で整形。	東毛蔵
10-0097	土器 壺	覆土内 破片	厚1.1	灰・赤・黄・黄緑・黒色粘粉土・ 褐色粘粉土	扁平片。内外両面とも横位の隆起で整形。	東毛蔵
10-0098	土器 壺	覆土内 破片	口(11.4) 重(16.6)	灰・赤・黄・黄緑・黒色粘粉土(内 粘状)・β石英・2種生粘土	扁平片。作りは10-0095に同じ。断面に1条の沈線を通 らせる。筒化は顕著である。	東毛蔵
10-0099	土器 壺	覆土内 破片	口(15.4) 重(15.2) 厚17.9	灰・赤・黄・黄緑・黒色粘粉土(内 粘状)・β石英・2種生粘土	扁平片。断面下部に本體部部分を残し沈線を通らせる。口 縁部は短く反折する。	東毛蔵
10-0091	土器 壺	覆土内 破片	口(18.2) 重(16.4)	灰・赤・黄・黒色粘粉土(内粘状) β石英・2種生粘土	扁平片。作りは10-0095に同じ。断面に2条の沈線を通 らせる。口縁部は厚折する。	東毛蔵
10-0091	土器 壺	壺内・覆土 破片	口(20.0) 重(18.6)	灰・赤・黄・黄緑・黒色粘粉土 β石英・2種生粘土	扁平片。作りは10-0095に同じ。断面に2条の沈線を通 らせる。口縁部は厚折する。	東毛蔵
10-0092	土器 壺	壺内・覆土 破片	口(20.2) 重(18.2)	灰・赤・黄・黒色粘粉土(内粘状) β石英・2種生粘土	扁平片。作りは10-0095に同じ。断面に2条の沈線を通 らせる。口縁部は厚折する。	東毛蔵
10-0093	土器 壺	壺内・覆土 破片	口(21.2) 重(18.8)	灰・赤・黄・黒色粘粉土(内粘状) β石英・2種生粘土	扁平片。作りは10-0095に同じ。断面に2条の沈線を通 らせる。口縁部は厚折する。	東毛蔵
10-0094	土器 壺	壺内・覆土 破片	口(14.2) 重(23.0) 厚(24.8)	灰・赤・黄・黄緑・黒色粘粉土・ 褐色粘粉土・C生粘土	扁平片。断面は厚折に整形する。口縁部は立ち外折する。 外面は横位の隆起で、内面は縦位の隆起で整形。	大・笠・甕 岡蔵
10-0095	土器 壺	P内 破片	口(21.8) 高(20.3) 重 24.0 厚(4.9) 重(26.8)	灰・赤・黄・黒色粘粉土(内粘状) 粘土少量・石灰少量・2種生粘土	扁平片。断面下部に本體部部分を残し沈線を通らせる。口 縁部は短く反折する。断面に沈線2条を通らせる。	東毛蔵
10-0096	土器 壺	壺内 破片	高(7.0)	灰・赤・黄・黒色粘粉土(内粘状) β石英・2種生粘土	断面の厚折は深い。外面は縦位の隆起で、内面は横位の隆 起で整形(刷毛付)。外面は厚折である。	東毛蔵
10-0097	土器 壺	壺内・覆土 破片	厚(7.0)	灰・赤・黄・黄緑・白色粘土・ C生粘土	断面の厚折は深い。外面は縦位の隆起で、内面は横位の隆 起で整形(刷毛付)。断面は厚折である。	大・笠・甕 岡蔵
10-0098	土器 壺	壺内 破片	高(7.8)	灰・赤・黄・黒色粘粉土(内粘状) β石英・2種生粘土	断面は厚折に整形する。外面は斜位の隆起で、内面は横 位の隆起で整形(刷毛付)。外面は厚折である。	東毛蔵
10-0099	土器 壺	壺内 破片	高(8.6)	灰・赤・黄・黒色粘粉土(内粘状) β石英・2種生粘土	断面は厚折に整形する。外面は斜位の隆起で、内面は横 位の隆起で整形(刷毛付)。断面は厚折である。	東毛蔵
10-0090	埴器 解石	床土 破片	口(11.2) 高(6.0) 厚(2.2)	灰・赤・黄・黄緑・黒色粘粉土・ 内粘状石灰土・2種生粘土	楕圓成形石臼形。底部は凹形凸形。底部はやや丸みを 帯び上がる。断面は厚折にしている。	埼玉北部木野 蔵
10-0091	埴器 解石	床土 破片	口(11.2) 高(5.2) 厚(2.1)	灰・赤・黄・黄緑・石灰粘土少量	楕圓成形石臼形。断面は厚折である。	東毛蔵
10-0092	埴器 解石	床土 部分欠損	口(11.2) 高(5.8) 厚(2.1)	灰・赤・黄・黄緑・黒色粘粉土・ 2種生粘土	楕圓成形石臼形。断面は厚折である。断面は厚折である。 断面に丸みを帯び口縁部は短く反折。内面は厚折にしている。	東毛蔵
10-0093	埴器 解石	床土 破片	口(11.9) 高(5.3) 厚(2.1)	灰・赤・黄・黄緑・黒色粘粉土(内 粘状)・β石英・2種生粘土	楕圓成形石臼形。断面は厚折である。断面は厚折である。 断面に丸みを帯び口縁部は短く反折。内面は厚折にしている。	大・笠・甕 岡蔵
10-0094	埴器 解石	壺内 破片	厚(8.8)	灰・赤・黄・黄緑・黒色粘粉土・ 2種生粘土	楕圓成形石臼形。断面は厚折である。断面は厚折である。 断面に丸みを帯び口縁部は短く反折。内面は厚折にしている。	大・笠・甕 岡蔵
10-0095	埴器 解石	P内 破片	口(12.1) 高(7.0)	灰・赤・黄・黄緑・黒色粘粉土 少量・2種生粘土	楕圓成形石臼形。断面は厚折である。断面は厚折である。 断面に丸みを帯び口縁部は短く反折。内面は厚折にしている。	大・笠・甕 岡蔵
10-0096	埴器 解石	壺内 破片	口(11.6) 高(7.2) 厚(8.7)	灰・赤・黄・黄緑・黒色粘粉土(内 粘状)・β石英・2種生粘土	楕圓成形石臼形。断面は厚折である。断面は厚折である。 断面に丸みを帯び口縁部は短く反折。内面は厚折にしている。	東毛蔵
10-0097	埴器 解石	P内 破片	口(12.8)	灰・赤・黄・黄緑・黒色粘粉土・ 2種生粘土	楕圓成形石臼形。断面は厚折である。断面は厚折である。 断面に丸みを帯び口縁部は短く反折。内面は厚折にしている。	東毛蔵
10-0098	埴器 解石	壺内 破片	口(15.2) 坪高7.6 高7.6	灰・赤・黄・黄緑・黒色粘粉土 少量・2種生粘土	楕圓成形石臼形。断面は厚折である。断面は厚折である。 断面に丸みを帯び口縁部は短く反折。内面は厚折にしている。	東毛蔵
10-0099	埴器 解石	壺内 破片	口(15.9) 高(6.8) 厚(6.8)	灰・赤・黄・黄緑・黒色粘粉土(内 粘状)・β石英・2種生粘土	楕圓成形石臼形。断面は厚折である。断面は厚折である。 断面に丸みを帯び口縁部は短く反折。内面は厚折にしている。	東毛蔵
10-0090	埴器 解石	壺内 破片	厚(7.8)	灰・赤・黄・黄緑・黒色粘粉土・ 2種生粘土	楕圓成形石臼形。断面は厚折である。断面は厚折である。 断面に丸みを帯び口縁部は短く反折。内面は厚折にしている。	東毛蔵
10-0091	埴器 解石	壺内 破片	厚(8.2)	灰・赤・黄・黄緑・黒色粘粉土・ 2種生粘土	楕圓成形石臼形。断面は厚折である。断面は厚折である。 断面に丸みを帯び口縁部は短く反折。内面は厚折にしている。	東毛蔵
10-0092	埴器 解石	壺内 破片	口(15.2)	灰・赤・黄・黄緑・黒色粘粉土・ 2種生粘土	楕圓成形石臼形。断面は厚折である。断面は厚折である。 断面に丸みを帯び口縁部は短く反折。内面は厚折にしている。	東毛蔵
10-0093	土器 壺	壺内 破片	口(19.4) 高(23.8) 重 22.6 厚(2.7) 高(27.0)	灰・赤・黄・黄緑・黒色粘粉土(内 粘状)・β石英・2種生粘土	扁平片。断面は厚折に整形する。外面は縦位の隆起で、内面は横 位の隆起で整形(刷毛付)。断面は厚折である。	東毛蔵
10-0094	土器 壺	壺内 破片	口(19.1) 高(24.7) 重 23.7 厚(2.1) 高(26.8)	灰・赤・黄・黄緑・黒色粘粉土(内 粘状)・β石英・2種生粘土	扁平片。断面は厚折に整形する。外面は縦位の隆起で、内面は横 位の隆起で整形(刷毛付)。断面は厚折である。	東毛蔵
10-0095	土器 壺	壺内 破片	口(22.0) 高(11.8) 高(13.0)	灰・赤・黄・黄緑・黒色粘粉土・ β石英・2種生粘土	扁平片。断面は厚折に整形する。外面は縦位の隆起で、内面は横 位の隆起で整形(刷毛付)。断面は厚折である。	東毛蔵
10-0096	土器 壺	壺内 破片	厚(5.6)	灰・赤・黄・黄緑・シルト粘粉土	扁平片。断面は厚折に整形する。外面は縦位の隆起で、内面は横 位の隆起で整形(刷毛付)。断面は厚折である。	東毛蔵
10-0097	埴器 解石	壺内 破片	厚(19.4)	灰・赤・黄・黄緑・黒色粘土・C 生粘土	扁平片。断面は厚折に整形する。外面は縦位の隆起で、内面は横 位の隆起で整形(刷毛付)。断面は厚折である。	東毛蔵

## 第38号住居跡②

遺物番号 図説番号	遺物種 目	出土層位 遺存層	度量 目 (cm) (g)	構成・色調・粘土 (石素材は度目)	形状・技法等の特徴	調査
10-00938 64	高輪陶器 灰輪 皿	床底 一部穴層	口12.4 径6.6 高2.4	泥・黄・緑・白灰 物調一混・透目	輪縁成形形右回転。高台は付け高台。外面部には回転磨りが見られる。器内面は磨き残る。	輸入品
10-00939	高輪陶器 灰輪 皿	覆土内 破片	口(14.0)	泥・黄・緑・赤黄 物調一混・透目	輪縁成形形右回転。施釉は磨き残る。	輸入品
10-00940	高輪陶器 灰輪 皿	覆土内 破片	底(7.2)	泥・黄・緑・灰 物調一エロゾーフ・白濁	輪縁成形形右回転。高台は付け高台。下半部は回転磨きで生ずる。器内面は磨き残る。	輸入品
10-00941	高輪陶器 灰輪 皿	覆土内 破片	口(17.4)	泥・黄・緑・灰 物調一白濁	輪縁成形形右回転。施釉を施す。施釉は押し掛け。	輸入品
10-00942	高輪陶器 灰輪 皿	灰底 破片	径8.0	泥・黄・緑・灰 物調一エロゾーフ	輪縁成形形右回転。高台は付け高台。	輸入品
10-00943 64	高輪陶器 灰輪 皿	床底 1/2	口(16.6) 底(5.5) 高6.1	泥・黄・緑・灰 物調一白濁	輪縁成形形右回転。高台は付け高台。高台は三日月高台。施釉は押し掛け。	輸入品
10-0102	摩耶 磨石	覆土内 部分穴層	長25.0 幅7.1 厚5.1	粗粒輝石安山岩	全体の磨減し、小口に打撃による割傷が認められる。	
10-0103	摩耶 磨石	覆土内 部分穴層	径10.3 幅10.3 厚2.2	粗粒輝石安山岩	扁平の磨減が確認される。	
10-0104	石磨 磨石	覆土内 穴層	径12.9 幅8.1 厚7.5 重911	粗粒輝石安山岩	全体の穴層部分が多い。集中打撃が穴層部に認められる。	

## 第39号住居跡

遺物番号 図説番号	遺物種 目	出土層位 遺存層	度量 目 (cm) (g)	構成・色調・粘土 (石素材は度目)	形状・技法等の特徴	調査
10-00944	土師器 土師 破片	覆土内 破片	口(18.8) 径(16.0)	泥・黄・緑・黄赤・黒色磁物粒子(内 部状)・β石英・2種生粘土	紐作りか。口縁部には強い横溝で整形により、輪縁目状の整形痕が見られる。胴部直下は縦位の磨り。	東毛産
10-00945	土師器 土師 破片	床底 破片	口(19.6) 径(17.0) 幅(21.8)	泥・黄・緑・黄赤・黒色磁物粒子・微 粒砂状磁物粒子・C生粘土	紐作り。口縁部は縦位の磨り。外面部には縦位の磨きで生ずる。胴部には強い上打生磨り。	大・笠・常岡 沼か
10-00946	土師器 土師 破片	覆土内 破片	底(4.6)	泥・黄・赤・黄赤・黄赤・黒色磁物 粒子・C生粘土	紐作り。器内は磨り。外面は縦位の磨きとする磨り。内・外・面は丁寧な磨きで整形仕上げになっている。	笠原産か
10-00947 64	須恵器 須恵 破片	覆土内 破片	底(7.6)	泥・黄・緑・灰白・白色磁物粒子	輪縁成形形右回転。胴部は回転磨り。器内は磨り。器内は 大倉。	笠原産か
10-00948 64	須恵器 須恵 破片	覆土内 1/2	口(14.8) 底(7.8) 高5.5	泥・黄・赤・灰・黒色磁物粒子・ β石英・2種生粘土	輪縁成形形右回転。高台は付け高台。外部は長く器高が高い。内部・口縁部は直線的に立ち上がる。	東毛産
10-00949	須恵器 須恵 破片	覆土内 破片	口(13.8)	泥・黄・緑・灰・黒色磁物粒子	輪縁成形形右回転。天井部は回転磨り。	秋葉産
10-00950	須恵器 須恵 破片	覆土内 破片	厚0.7	泥・黄・赤・緑・灰・白色磁物粒子・ 白色磁物	紐作り後平整形。外面は丁寧な磨り。内面は縦位の磨り。外面に部分的に磨き。内面に縦縁目状が認められる。	東毛産
10-00951	高輪陶器 灰輪 皿	覆土内 破片	口(16.4)	泥・黄・緑・灰 物調一エロゾーフ	輪縁成形形右回転。高台の基部で残存する。施釉は押し 掛け。	輸入品
10-00952	須恵器 須恵 破片	床底 破片	径(0.8) 底6.8	泥・黄・赤・黄赤・黒色磁物 粒子	褐色土層の底部を転用する。打撃割削により形成する。	調査不詳
10-00105 64	石製品 石製品 破片	穴底 一部穴層	径(5.2) 厚0.85 径(0.8) 厚0.8	蛇紋岩	作りは磨り。表面には磨り仕上げで縦位の磨きが見られる。断面は多面体整形は認められない。 鎌造製法と考えられる。表面磨り。中央に把手を突出 している。	
10-00021 64	銅器 蓋か	覆土上層 部分穴層	横径長径(5.0 厚0.1 縦径長径(5.6			

## 第40号住居跡

遺物番号 図説番号	遺物種 目	出土層位 遺存層	度量 目 (cm) (g)	構成・色調・粘土 (石素材は度目)	形状・技法等の特徴	調査
10-00953	土師器 土師 破片	覆土内 破片	口(10.6) 底(8.4)	泥・黄・赤・黄・透明磁物粒子・A 乃至1種生粘土	紐作り。器内面及び口縁部は横溝で磨き。口縁部直下は 縦位の磨り。器内面は磨り。器内は磨り。	東毛産
10-00954	土師器 土師 破片	覆土内 破片	口(12.0) 底(9.8)	泥・黄・赤・黄赤・黒色磁物粒子・ 透明磁物粒子・C生粘土	紐作り。器内面及び口縁部は横溝で磨き。口縁部直下は 縦位の磨り。器内面は磨り。器内は磨り。	大・笠・常岡 沼か
10-00955	土師器 土師 破片	覆土内 破片	口(13.2) 底(9.4)	泥・黄・赤・黄赤・黒色磁物粒子・透 明磁物粒子・C生粘土	紐作り。器内面及び口縁部は横溝で磨き。口縁部直下は 縦位の磨り。器内面は磨り。器内は磨り。	東毛産
10-00956	須恵器 須恵 破片	覆土内 破片	厚(4.0)	泥・黄・赤・灰白・黄赤物調	輪縁成形形右回転。外面に大きな文字を磨きする。磨き の跡は不明。	笠原・ 東毛産
10-00957	須恵器 須恵 破片	穴底 1/4	口(12.0) 底(6.0) 高(5.5)	泥・黄・赤・外面黒黄・内面灰白・黒 色磁物粒子・白色磁物	輪縁成形形右回転。器内は回転磨り。輪縁目状が立つ。外部 は丸みを帯び、口縁部は縦位の磨り。器内は磨り。	東毛産
10-00958	須恵器 須恵 破片	覆土内 破片	底(6.0)	泥・黄・赤・灰・白色磁物粒子・黒 色磁物	輪縁成形形右回転。器内は回転磨り。器内は磨り。器内は 磨り。	笠原産か
10-00959	須恵器 須恵 破片	覆土内 破片	底(16.0)	泥・黄・赤・灰・白色磁物粒子・黒 色磁物	輪縁成形形右回転。器内は回転磨り。器内は磨り。器内は 磨り。	笠原産か
10-00960	須恵器 須恵 破片	覆土内 破片	底(7.2)	泥・黄・赤・内外外面黒黄・内面灰白・ 黄赤物調	輪縁成形形右回転。器内は回転磨り。内外は磨り。横溝に より、器内は磨り。器内は磨り。	秋葉産
10-00961	須恵器 須恵 破片	覆土内 破片	底(6.0)	泥・黄・赤・灰・白色磁物粒子・黒 色磁物	輪縁成形形右回転。器内は回転磨り。器内は磨り。器内は 磨り。	笠原産か
10-00962	須恵器 須恵 破片	覆土内 破片	底(7.8)	泥・黄・赤・灰・白色磁物粒子・黒 色磁物	輪縁成形形右回転。器内は回転磨り。器内は磨り。器内は 磨り。	笠原産か
10-00963	須恵器 須恵 破片	覆土内 破片	幅(4.0)	泥・黄・赤・黄赤・黒色磁物粒子・ 透明磁物粒子	輪縁成形形右回転。天井部は回転磨りを施す。	大・笠・常岡 沼か
10-00964	須恵器 須恵 破片	覆土内 破片	口(11.9) 径(11.4)	泥・黄・赤・黄赤・白色磁物粒子	紐作り後輪縁成形形。口唇部一部穴層。胴部 の磨り厚い。	大・笠・常岡 沼か

## 第59号住居跡

遺物番号 図説番号	遺物種 目	出土層位 遺存層	度量 目 (cm) (g)	構成・色調・粘土 (石素材は度目)	形状・技法等の特徴	調査
10-00965 64	須恵器 須恵 破片	覆土内 1/2	口(14.3) 底(19.4) 高2.6	泥・黄・赤・灰・黄赤・白色磁物 少量・褐色磁物	輪縁成形形右回転。高台は付け高台。作りは磨り。	東毛産

第42号住居跡

遺物番号 図説番号	遺物種 番	出土層位 遺存 号	深 度 目 (cm)	構成・色調・胎土 (右斜付は目録)	形状・技法等の特徴	備 考
10-00966 64	土器部 部分欠破	覆土内 部分欠破	①(14.0) 深(13.8) 深6.5	赤・黒・茶・黄褐色・黒色黏物粒子・ 透明黏物粒子・2種生土	拵作り。器内面及び口縁部は襷織りを施す。口縁部直下に 部目存在。外面は襷織り装飾を施す。	東毛産
10-00967 64	土器部 部分欠破	床面層 部分欠破	①(12.5) 深(3.3) 深3.3	赤・黒・茶・黒・黒色黏物粒子(内 粒状)・β石灰・2種生土	作りは不詳。外面は小単位位の襷織りを施す。口縁部内 外面は襷織り装飾を施す。	東毛産
10-00968 64	土器部 部分欠破	床面層 部分欠破	①(11.1) 深(10.8) 深11.1 深3.8	赤・黒・茶・赤・黒色黏物粒子(内 粒状)・β石灰・2種生土	作りは不詳。外面は全体で襷織り。小単位位の襷織り装飾を施す。 口縁部内外面は襷織り装飾を施す。	東毛産
10-00969 64	土器部 短冊蓋	床底 ①(10.0) 深(9.6) 深(9.6)	①(10.0) 深(9.6) 深(9.6)	赤・黒・茶・黄褐色・黒色黏物粒子・ 透明黏物粒子・2種生土	上半部は拵作り2段。口縁部は襷織り。外面は小単位位の 襷織りで、内面は粗い単位位の襷織りで装飾。	東毛産
10-00970 64	土器部 短冊蓋	覆土下層 一部欠破	①(9.3) 深(6.6) ①(14.0) 深(5.9)	赤・黒・茶・赤・黒色黏物粒子(内 粒状)・β石灰・2種生土	拵作り2段仕上げは拵作り。下半部は拵作り。外面は小単 位の襷織りで、内面は粗い単位位の襷織りで装飾。	東毛産
10-00971 64	土器部 短冊蓋	床底 破片	①(10.4) 深(9.8) 深(11.0)	赤・黒・茶・赤・黒色黏物粒子・ 2種生土	作りは不詳。外面は襷織りで小単位位の襷織り。内面は粗 い単位位の襷織りで装飾。	東毛産
10-00972 64	土器部 短冊蓋	覆土内 破片	①(7.0) 深(5.8)	赤・黒・茶・黄褐色・黒色黏物粒子・ 透明黏物粒子・2種生土	拵作り。口縁部は襷織りで外縁して立ち上がる。外面は襷織りで襷 織りの襷織り。内面は襷織りの時に襷織りで襷織り。	東毛産
10-00973 64	土器部 短冊蓋	覆土下層 破片	①(15.0) 深(16.8)	赤・黒・茶・黄褐色・黒色黏物粒子 (内粒状)・β石灰・2種生土	拵作り。口縁部は「丁」の下状に外縁して立ち上がる。外 面は襷織りで襷織りの襷織り。内面は襷織りで襷織り。	東毛産
10-00974 64	土器部 高坏	覆土内 破片	①(16.0)	赤・黒・茶・赤・黒色黏物粒子・細 粒状内縁・Aから1種生土	胴内面に襷織り装飾を施す。外縁に襷織り直下には丁字 襷織りを施す。口縁直下には襷織り装飾が認められる。	東毛産
10-00975 64	土器部 高坏	覆土内 破片	①(20.0)	赤・黒・茶・赤・黒色黏物粒子・黒 色黏物粒子・透明黏物粒子・2種生土	内外面に襷織りを施す。内面は襷織り装飾が認められる。外縁は 細粒状の襷織り装飾を施す。	東毛産
10-00976 65	土器部 付付短冊蓋	覆土内 部分欠破	①(13.8) 深(10.1) 深 13.9 深(9.9) 深(9.9)	赤・黒・茶・黄褐色・黒色黏物粒子 (内粒状)・β石灰・2種生土	胴上に襷織りを施す状態が拵作りしたものと考えられる。 口縁部は襷織り装飾を施す。内面は襷織り装飾を施す。	東毛産
10-00977 65	土器部 高坏	床底 環状欠破	深(13.6) 高(7.9)	赤・黒・茶・黄褐色・黒色黏物粒子(内 粒状)・2種生土	拵作り。口縁部は襷織りで襷織りが入り。その襷織りが残 る。襷織り装飾は目まで達していると考えられる。	東毛産
10-00978 65	土器部 高坏	床底 環状欠破	深(14.0) 高(7.9)	赤・黒・茶・黄褐色・黒色黏物粒子 (内粒状)・β石灰・2種生土	拵作り。6段認められる。外面は襷織りの襷織りを施す。基部 は襷織りの襷織り装飾を施す。	東毛産
10-00979 65	土器部 高坏	床底 完整	①(17.2) 深(13.6) 深(13.6)	赤・黒・茶・赤・黒色黏物粒子・ β石灰・2種生土(赤・黒・茶)	球部が全量存在。外面は襷織り・襷織りの襷織り直下に丁字 襷織りを施す。内面は襷織り装飾を施す。	東毛(赤黒山 中)
10-00980 65	土器部 高坏	床底 完整	①(17.2) 深(13.6) 高 22.2 深(4.6) 高(25.1)	赤・黒・茶・赤・黒色黏物粒子・ β石灰・2種生土	拵作り。「丁」の下状に襷織り装飾を施す。上半部は襷 織りで、下半部は襷織り装飾を施す。	東毛産
10-00981 65	土器部 高坏	床底 完整	①(20.0) 深(15.7) 深 23.2 深(15.7) 高(23.8)	赤・黒・茶・黄褐色・黒色黏物 粒子・細粒状内縁・β石灰・2種生土	拵作り。球部が全量存在。外面は襷織りの襷織り仕上げに なっているが、基部には、襷織りの襷織り装飾が認められる。	東毛産
10-00982 65	土器部 高坏	覆土下層 1/3	①(18.4) 深(15.0) 深 (23.0)	赤・黒・茶・黄褐色・黒色黏物粒子 (内粒状)・β石灰・2種生土	球部が全量存在。外面は襷織り装飾を施す。内面は襷織り。 襷織りの襷織り装飾を施す。	東毛産
10-00983 65	土器部 高坏	覆土下層 破片	①(21.2) 深(25.6)	赤・黒・茶・赤・黒色黏物粒子・ β石灰・2種生土	球部が全量存在。外面は襷織りの襷織りを施す。内面は襷織り 装飾を施す。	東毛(赤黒山 中)
10-00984 65	土器部 高坏	覆土下層 破片	深(4)	赤・黒・茶・黄褐色・黒色黏物 粒子	拵作りか。外面は襷織りの襷織りを施す。部分に襷織り装飾が 認められる。内面は襷織りの襷織りを施す。	東毛産
10-00985 65	土器部 高坏	覆土内 破片	深(2.2) 孔徑(1.4)	赤・黒・茶・赤・黒色黏物粒子・ 白粉粒子・透明黏物粒子	作りは不詳。外面は襷織りの襷織りを施す。内面は襷織り装飾で、 襷織りには6個の穴を穿ている。外面は襷織りの襷織りを施す。	東毛産 赤・黒
20-00166 66	石製品 小形環	覆土下層 完整	径(2.1) 厚(1.3) 厚(0.4)	軟石	表面襷織り装飾の仕上げ。及びが拵作り装飾の襷織り装飾を施す。 全体に襷織り装飾を施す。	東毛産
40-00972 66	石製品 刀子	覆土内 破片	長(5.6) 幅(6.3)	身重±0.3/基(約)8/基厚0.25/重(6)	襷織り装飾の欠破。	東毛産

第43号住居跡

遺物番号 図説番号	遺物種 番	出土層位 遺存 号	深 度 目 (cm)	構成・色調・胎土 (右斜付は目録)	形状・技法等の特徴	備 考
10-00986	土器部 短冊蓋	覆土内 破片	①(19.0) 深(14.4)	赤・黒・茶・黄褐色・黒色黏物粒子・ 赤褐色粒子・2種生土	拵作り。内面に襷織り装飾が3本認められる。外面は丁字 襷織り装飾を施す。	東毛産

第44号住居跡

遺物番号 図説番号	遺物種 番	出土層位 遺存 号	深 度 目 (cm)	構成・色調・胎土 (右斜付は目録)	形状・技法等の特徴	備 考
10-00987 66	土器部 短冊蓋	覆土内 1/2	①(12.4) 深(9.6) 深(3)	赤・黒・茶・黄褐色・黒色黏物粒子・ 赤褐色	拵作り。器内面及び口縁部は襷織りを施す。口縁部直下に 襷織り装飾を施す。	大・笠・重 筒
10-00988	須恵器 高坏	覆土内 破片	①(12.0)	赤・黒・茶・灰・白色黏物粒子	襷織り装飾を施す。外面は襷織りの襷織り装飾を施す。口縁部は襷織り。 襷織り装飾は襷織り装飾を施す。	襷織り装飾 の外縁
10-00989	須恵器 蓋+板蓋	覆土内 破片	厚(1)	赤・黒・茶・灰・実質物	拵作り装飾を施す。外面は平打り。死土は襷織り。外面に 自然物付着。	伏見館の東 側
10-00990	須恵器 蓋	覆土内 破片	①(26.6) 深(16.0)	赤・黒・茶・黒・黒色黏物粒子・ 黒色	拵作り装飾を施す。外面は平打り。死土は襷織り。外面に 自然物付着。	伏見館
40-00973 66	石製品 磨石	覆土内 部分欠破	径(3.7) 身幅(2.4)	黒色軟石/7.重(約)±0.3/重(2)	有蓋法調二形装飾付。襷織りの大平・基を大欠する。	東毛産
20-00167	石製品 破片	覆土内 破片	厚(4.0) 幅(2.9) 厚(11.0)	硬石	表面に襷織り装飾が残り存在。襷織り装飾の襷織り装飾が認められる。大き きから襷織り装飾は小さい部材か。	東毛産

第51号住居跡(1)

遺物番号 図説番号	遺物種 番	出土層位 遺存 号	深 度 目 (cm)	構成・色調・胎土 (右斜付は目録)	形状・技法等の特徴	備 考
10-00991	土器部 短冊蓋	覆土内 破片	①(14.6) 深(10.0)	赤・黒・茶・黄褐色・黒色黏物粒子(内 粒状)・β石灰・2種生土	拵作り。口縁部は襷織り装飾を施す。上半部は襷織り装飾を施す。 襷織り装飾を施す。	東毛産
10-00992	土器部 短冊蓋	覆土内 破片	厚(4)	赤・黒・茶・黄褐色・黒色黏物粒子(内 粒状)・β石灰・2種生土	襷織り装飾を施す。外面は襷織りの襷織り装飾を施す。口縁部は襷織り。 襷織り装飾を施す。	東毛産
10-00993	土器部 短冊蓋	覆土内 部分欠破	厚(3.7) 深(2.7)	赤・黒・茶・黄褐色・黒色黏物粒子・ 黒色・白・C生土	外面は「丁」に襷織り装飾が認められる。内面は襷織り装飾を施す。 襷織り装飾を施す。	東毛産
10-00994	土器部 高坏	歩道面 破片	①(13.6)	赤・黒・茶・黄褐色・白色粒子・赤褐色 色粒子・C生土	拵作りか。口縁部の襷織り装飾が襷織り装飾を施す。襷織り装飾は襷織り装飾を施す。 内外面に襷織り装飾を施す。	東毛産
10-00995	土器部 高坏	床底 破片	①(18.0)	赤・黒・茶・黄褐色・黒色黏物粒子 赤・黒色粒子・2種生土	拵作り。内外面襷織り装飾。	東毛産

## 第51号住居跡(2)

遺物番号 図記番号	遺物種 遺種	出土層位 遺存層	長さ    (cm)	幅    (g)	構成・色調・胎土 (石質材は図記番号)	形状・技法等の特徴	備考
10-0096	土師器 灰坪	覆土内 破片	□120.0		赤・黄・黒・黄緑・黒色磁物粒子・内 胎粒・β石英・2種生地上	組作り。外縁部は寛(明?)の小口で新灰状態で いる。器内面に若干の凹凸を施す。	灰毛産

## 第45号住居跡

遺物番号 図記番号	遺物種 遺種	出土層位 遺存層	長さ    (cm)	幅    (g)	構成・色調・胎土 (石質材は図記番号)	形状・技法等の特徴	備考
10-0097	土師器 66	覆土内下層 1/2	□111.0	縦(7.0)	赤・黄・黒・黄緑・黒色磁物粒子・ 透明磁物粒子・C生地上	単作り。口縁部は横溝で施す。体面は磨いた面。内 面は横溝で、表面は磨いた。14号土坑出土遺物と類似。	赤・黄・黒・黄 緑・黒
10-0098	土師器 66	床面 部分欠損	□112.0	縦(8.5)	赤・黄・黒・黄緑・黒色磁物粒子・ 透明磁物粒子・C生地上	単作り。器内面及び口縁部は横溝で施す。口縁部直下は 横溝を残す甘い面を施す。表面は磨いた。	赤・黄・黒・黄 緑・黒
10-0099	土師器 66	覆土内 破片	□112.0	縦(8.0)	赤・黄・黒・黄緑・黒色磁物粒子・ 透明磁物粒子・C生地上	単作り。器内面及び口縁部は横溝で施す。口縁部直下は 横溝を残す甘い面を施す。表面は磨いた。	赤・黄・黒・黄 緑・黒
10-0100	土師器 66	覆土内 破片	□113.0	縦(9.0)	赤・黄・黒・黄緑・黒色磁物粒子・ 透明磁物粒子・C生地上	単作り。器内面及び口縁部は横溝で施す。口縁部直下は 横溝を残す甘い面を施す。表面は磨いた。	赤・黄・黒・黄 緑・黒
10-0101	土師器 66	覆土内 破片	□112.0	縦(8.0)	赤・黄・黒・黄緑・黒色磁物粒子・ 透明磁物粒子・C生地上	単作り。器内面及び口縁部は横溝で施す。口縁部直下は 横溝を残す甘い面を施す。表面は磨いた。	赤・黄・黒・黄 緑・黒
10-0102	土師器 66	覆土内 破片	□112.2	縦(9.4)	赤・黄・黒・黄緑・黒色磁物粒子・ 透明磁物粒子・C生地上	単作り。器内面及び口縁部は横溝で施す。口縁部直下は 横溝を残す甘い面を施す。表面は磨いた。	赤・黄・黒・黄 緑・黒
10-0103	土師器 66	覆土内 破片	□113.4	縦(9.8)	赤・黄・黒・黄緑・黒色磁物粒子・ 透明磁物粒子・C生地上	単作り。器内面及び口縁部は横溝で施す。口縁部直下は 横溝を残す甘い面を施す。表面は磨いた。	赤・黄・黒・黄 緑・黒
10-0104	土師器 66	覆土内 破片	□112.3	縦(10.8)	赤・黄・黒・黄緑・黒色磁物粒子多量・ C生地上	単作り。器内面及び口縁部は横溝で施す。口縁部直下は 横溝を残す甘い面を施す。表面は磨いた。	赤・黄・黒・黄 緑・黒
10-0105	土師器 66	覆土内 破片	□112.0	縦(11.4)	赤・黄・黒・黄緑・黒色磁物粒子・ 透明磁物粒子・C生地上	単作り。器内面及び口縁部は横溝で施す。口縁部直下は 横溝を残す甘い面を施す。表面は磨いた。	赤・黄・黒・黄 緑・黒
10-0106	土師器 66	覆土内 破片	□111.0	縦(9.2)	赤・黄・黒・黄緑・黒色磁物粒子・ 透明磁物粒子・C生地上	単作り。器内面及び口縁部は横溝で施す。口縁部直下は 横溝を残す甘い面を施す。表面は磨いた。	赤・黄・黒・黄 緑・黒
10-0107	土師器 66	覆土内 破片	□111.6	縦(9.5)	赤・黄・黒・黄緑・黒色磁物粒子・ 透明磁物粒子・C生地上	単作り。器内面及び口縁部は横溝で施す。口縁部直下は 横溝を残す甘い面を施す。表面は磨いた。	赤・黄・黒・黄 緑・黒
10-0108	土師器 66	覆土内 破片	□112.0	縦(10.4)	赤・黄・黒・黄緑・黒色磁物粒子・ 透明磁物粒子・C生地上	単作り。器内面及び口縁部は横溝で施す。口縁部直下は 横溝を残す甘い面を施す。表面は磨いた。	赤・黄・黒・黄 緑・黒
10-0109	土師器 66	覆土内 破片	□124.0	縦(10.8)	赤・黄・黒・黄緑・黒色磁物粒子・ 透明磁物粒子・C生地上	単作り。器内面及び口縁部は横溝で施す。口縁部直下は 横溝を残す甘い面を施す。表面は磨いた。	赤・黄・黒・黄 緑・黒
10-0110	須恵器 66	床面直 下層	□112.2	縦(16.0)	赤・黄・黒・黄緑・黒色磁物粒子多量・ C生地上	輪軸成形器右回転。丸みを帯びた立ち上がり口縁部は短く外 反する。	赤・黄・黒・黄 緑・黒
10-0111	須恵器 66	覆土内 破片	□112.3	縦(5.0)	赤・黄・黒・黄緑・黒色磁物粒子多量・ C生地上	輪軸成形器右回転。器面が落ちた作りに近い。作りは丁寧。 表面は磨いた。	赤・黄・黒・黄 緑・黒
10-0112	須恵器 66	覆土内 破片	□112.0	縦(7.8)	赤・黄・黒・黄緑・黒色磁物粒子多量・ C生地上	輪軸成形器右回転。器面が落ちた作りに近い。体面・口縁 部は直溝状に立ち上がる。内面に自然釉を施す。	赤・黄・黒・黄 緑・黒
10-0113	須恵器 66	覆土内 破片	□112.7	縦(6.2)	赤・黄・黒・黄緑・黒色磁物粒子・ 黒色胎土	輪軸成形器右回転。器面が落ちた作りに近い。体面・口縁 部は直溝状に立ち上がる。	赤・黄・黒・黄 緑・黒
10-0114	須恵器 66	覆土内 破片	縦(5.0)		赤・黄・黒・黄緑・黒色磁物粒子・ 黒色胎土	輪軸成形器右回転。器面が落ちた作りに近い。器内面に赤色の胎 土を施す。	赤・黄・黒・黄 緑・黒
10-0115	須恵器 66	床面直 下層	縦(7.2)		赤・黄・黒・黄緑・黒色磁物粒子・ 白色胎土	輪軸成形器右回転。器面が落ちた作りに近い。器内面に赤色の胎 土を施す。	赤・黄・黒・黄 緑・黒
10-0116	須恵器 66	覆土内 破片	□111.0	縦(6.2)	赤・黄・黒・黄緑・黒色磁物粒子・ 白色胎土	輪軸成形器右回転。高台は付け高台。器面は角張り、体面・ 口縁部は直溝状に立ち上がる。	赤・黄・黒・黄 緑・黒
10-0117	須恵器 66	覆土内 破片	□114.2	縦(14.2)	赤・黄・黒・黄緑・黒色磁物粒子・ 白色胎土	輪軸成形器右回転。高台は付け高台。内面の側面は直溝 状に立てた作りで外縁部が磨いた。	赤・黄・黒・黄 緑・黒
10-0118	須恵器 66	覆土内 破片	縦(7.0)		赤・黄・黒・黄緑・黒色磁物粒子・ 透明磁物粒子・2種生地上	輪軸成形器右回転。高台は付け高台。器面は磨いた。	赤・黄・黒・黄 緑・黒
10-0119	須恵器 66	覆土内 破片	□113.2		赤・黄・黒・黄緑・黒色磁物粒子・ 透明磁物粒子	輪軸成形器右回転。天井部は口縁部直下。器面は横溝状に 磨いた。	赤・黄・黒・黄 緑・黒
10-0120	須恵器 66	覆土内 破片	□114.2		赤・黄・黒・黄緑・黒色磁物粒子・ 透明磁物粒子	輪軸成形器右回転。高台は付け高台。内面の側面は直溝 状に立てた作りで外縁部が磨いた。	赤・黄・黒・黄 緑・黒
10-0121	須恵器 66	床面直 下層	□122.1	縦(16.0)	赤・黄・黒・黄緑・黒色磁物粒子・ 透明磁物粒子	組作り後平打ち整形。外縁は平行打ち。肩目は青黄灰文。口縁 部は直溝状に立ち上がる。	赤・黄・黒・黄 緑・黒
10-0122	須恵器 66	覆土内 破片	厚1.0~1.3		赤・黄・黒・黄緑・黒色磁物粒子・ 透明磁物粒子	組作り後平打ち整形。外縁は平行打ち。肩目は青黄灰文。口縁 部は直溝状に立ち上がる。	赤・黄・黒・黄 緑・黒
10-0123	須恵器 66	覆土内 破片	厚0.8		赤・黄・黒・黄緑・黒色磁物粒子・ 透明磁物粒子	組作り後平打ち整形。外縁は平行打ち。肩目は青黄灰文。口縁 部は直溝状に立ち上がる。	赤・黄・黒・黄 緑・黒
10-0124	須恵器 66	覆土内 破片	厚0.8~1.0		赤・黄・黒・黄緑・黒色磁物粒子・ 透明磁物粒子	組作り後平打ち整形。外縁は平行打ち。肩目は青黄灰文。口縁 部は直溝状に立ち上がる。	赤・黄・黒・黄 緑・黒
10-0125	須恵器 66	覆土内 破片	厚0.8		赤・黄・黒・黄緑・黒色磁物粒子・ 透明磁物粒子	組作り後平打ち整形。外縁は平行打ち。肩目は青黄灰文。口縁 部は直溝状に立ち上がる。	赤・黄・黒・黄 緑・黒
10-0126	須恵器 66	覆土内 破片	厚0.6		赤・黄・黒・黄緑・黒色磁物粒子・ 透明磁物粒子	組作り後平打ち整形。外縁は平行打ち。肩目は青黄灰文。口縁 部は直溝状に立ち上がる。	赤・黄・黒・黄 緑・黒
10-0127	須恵器 66	覆土内 破片	厚0.8		赤・黄・黒・黄緑・黒色磁物粒子・ 透明磁物粒子	組作り後平打ち整形。外縁は平行打ち。肩目は青黄灰文。口縁 部は直溝状に立ち上がる。	赤・黄・黒・黄 緑・黒
20-0146	須恵器 66	床面直 下層	長12.0 幅6.4		石質陶器	磨いた面が磨いた。	赤・黄・黒・黄 緑・黒
10-0074	須恵器 66	床面直 下層	横長3.9 縦1.7		石質陶器	磨いた面が磨いた。	赤・黄・黒・黄 緑・黒
10-0075	須恵器 66	床面直 下層	横長5.8 縦1.9		石質陶器	磨いた面が磨いた。	赤・黄・黒・黄 緑・黒

## 第46号住居跡(1)

遺物番号 図記番号	遺物種 遺種	出土層位 遺存層	長さ    (cm)	幅    (g)	構成・色調・胎土 (石質材は図記番号)	形状・技法等の特徴	備考
10-0129	土師器 66	覆土内 破片	□113.2		赤・黄・黒・黄緑・黒色磁物粒子・ C生地上	単作り。器内面及び口縁部は横溝で施す。口縁部直下は 横溝を残す甘い面を施す。表面は磨いた。	赤・黄・黒・黄 緑・黒





富田漆田遺跡北側調査区遺構諸元

第48号住居跡(2)

遺物番号 図説番号	遺物群 遺物種	出土層位 層位	量目 (m) (g)	構成・色調・粘土 (石素材は量目)	形状・技法等の特徴	備考
10-01061 67	土師器 土師碗	覆土内 1/3	口12.2 底(9.8) 高3.5	紫・黒・黄・灰・透明磁物粒子・ 黒色磁物粒子少量・C生地上	作り手、器内面及び口縁部は横線で施す。口縁部直下は 常線を残す11線を施す。	大・笠・重周 辺か
10-01062 67	土師器 土師碗	覆土内 部分欠損	口12.4 底19.6 高3.6	紫・黒・黄・鈍黄粒・黒色磁物粒子・ クロ・透明磁物粒子・C生地上	作り手、器内面及び口縁部は横線で施す。口縁部直下は 常線を残す11線を施す。	大・笠・重周 辺か
10-01063 67	土師器 土師碗	覆土下層 1/2	口14.6 頸(12.9) 頸(15.4) 高2.8	紫・黒・黄・鈍黄粒・黒色磁物粒子・ 透明磁物粒子・クロ・C生地上	「1」の字に似通。作り手詳細は不明。外周面直下は横 線。頸部は縦線の横線を施す。内面は横線の横線。	大・笠・重周 辺か
10-01064	土師器 土師碗	覆土内 破片	口20.4 頸(18.5)	紫・黒・黄・赤・黒色磁物粒子少量・ 内輪砂・C生地上	頸「7」の字に似通。頸部は横線。黒色磁物粒子は横 線の直下で、口縁部は横線。内面は横線の横線。	大・笠・重周 辺か
10-01065	土師器 土師碗	覆土内 破片	高(4.8)	紫・黒・黄・鈍黄・黒色磁物粒子・ 内輪砂・C生地上	外周は横線の横線を施す。内面に横線状凸線を認められ る。頸部は横線。	大・笠・重周 辺か
10-01066 67	須恵器 須恵杯	覆土内 1/2	口12.0 高6.6 高1.9	紫・黒・緑・灰・黒色磁物粒子少量・ 内輪砂	横線成形器石臼形。底部は同形小切。体部がやや丸みを帯 び、口縁部は直線の立ち上がり。頸部は横線。	埼玉北部遺跡 -79
10-01067	須恵器 須恵杯	覆土内 1/3	口13.0 高(8.0) 高3.5	紫・黒・緑・灰/内面灰・黒色粒子	横線成形器石臼形。底部は同形小切。体部がやや丸みを帯 び、口縁部は直線の立ち上がり。頸部は横線。	埼玉北部遺跡 -79
10-01068	須恵器 須恵杯	覆土内 破片	口11.2	紫・黒・緑・灰・白色磁物粒子少量	横線成形器石臼形。天井部は横線直線作り。	秋岡遺跡か
10-01069	須恵器 須恵杯	覆土内 破片	高(17.8)	紫・黒・黄・灰・白色磁物粒子少量	横線成形器石臼形。高台は付け高台。高台の接合部には横 線は認められない。	富田山産
40-0077 67	鉄函 鉄函	覆土内 破片	横長5.3 縦4.4 厚0.4 重4		上海側は縦長の欠損。下側側は縦長の欠損。断面正方形 を呈する。	

第49号住居跡

遺物番号 図説番号	遺物群 遺物種	出土層位 層位	量目 (m) (g)	構成・色調・粘土 (石素材は量目)	形状・技法等の特徴	備考
10-01070	土師器 短頸瓶	覆土内 破片	口16.0 頸(18.2) 頸(9.6)	紫・黒・黄・黒色磁物粒子(内輪砂)・ 石灰土・C生地上	作り手の詳細は不明。口縁部はやや外周に立ち上がる。内 面はハバが特徴。	東毛産
10-01071	土師器 短頸瓶	床直 破片	口18.0 高3.2	紫・黒・黄・鈍黄・黒色磁物粒子(内 輪砂)・石灰土・2級生地上	粘土粒上に粘土を塗布しあがる。外周には横線。内面は 縦線が横線状に施され並文を施す。	東毛産
10-01072	土師器 短頸瓶	新方内 破片	口12.0 高(5.8)	紫・黒・黄・鈍黄粒・黒色磁物粒子 少量・C生地上	作り手、器内面及び口縁部は横線で施す。口縁部直下は 常線を残す11線を施す。	大・笠・重周 辺か
10-01073	土師器 短頸瓶	覆土内 破片	口12.5 高(11.6)	紫・黒・黄・鈍黄粒・透明磁物粒子 少量・C生地上	作り手、器内面及び口縁部は横線で施す。口縁部直下は 常線を残す11線を施す。内面に横線状凸線を「田」字 を施す。	大・笠・重周 辺か
10-01074	土師器 短頸瓶	覆土内 破片	口14.0 高(13.0)	紫・黒・黄・鈍黄粒・透明磁物粒子 少量・C生地上	作り手、器内面及び口縁部は横線で施す。口縁部直下は 常線を残す11線を施す。	大・笠・重周 辺か
10-01075 67	土師器 短頸瓶	横線成形 部分欠損	口12.0 高(10.5) 高3.1	紫・黒・黄・鈍黄粒・内輪砂(土師器製 の胎土と同じものがある)	作り手、器内面、口縁部は横線で、口縁部は「田」字 を施す。口縁部は横線の横線の横線。口縁部直下は横 線。口縁部は横線の横線の横線。口縁部直下は横 線。口縁部は横線の横線の横線。	大・笠・重周 辺か
10-01076	土師器 短頸瓶	覆土内 破片	口13.4 高(12.6)	紫・黒・黄・鈍黄粒・透明磁物粒子 少量・C生地上	作り手、器内面及び口縁部は横線で施す。口縁部直下は 常線を残す11線を施す。	大・笠・重周 辺か
10-01077	土師器 短頸瓶	覆土内 破片	口15.1 高(13.0)	紫・黒・黄・鈍黄粒・透明磁物・C 生地上	作り手、器内面及び口縁部は横線で施す。口縁部直下は 常線を残す11線を施す。	大・笠・重周 辺か
10-01078	土師器 短頸瓶	覆土内 破片	厚9.9	紫・黒・黄・鈍黄粒・火山ガラス・ 黒色磁物粒子・2級生地上	作り手の詳細は不明。口縁部は短く内反する。	埼玉北部 か
10-01079	土師器 短頸瓶	覆土内 破片	口22.6 頸(19.4)	紫・黒・黄・鈍黄・石炭質磁物粒子 少量・透明磁物粒子・黒色磁物粒子 少量・C生地上	作り手の詳細は不明。口縁部は厚く器内直下の形こみは厚 い。口縁部に粘土の接合部が認められる。	埼玉北部か吉 井産
10-01080	土師器 短頸瓶	覆土内 破片	口26.0 頸(22.6)	紫・黒・黄・鈍黄粒・透明磁物粒子・ 内輪砂	作り手の詳細は不明。口縁部は直線の作りで外縁に立ち 上がる。頸部は強い横線の横線で認められる。	埼玉北部か吉 井産
10-01081	須恵器 須恵杯	覆土下層 破片	口18.0	紫・黒・黄・灰白・白色磁物粒子・白 色磁物	胎土・焼土・色調は10-01080の器と同一のもの。刃方で 1対成す2層を施す。	産不詳
10-01082 67	須恵器 高台杯	床直 1/2	口17.5 高(14.0)	紫・黒・黄・灰白・白色磁物粒子・白 色磁物	横線成形器石臼形。高台は付け高台。高台の接合部には横 線は認められない。高台の作りはシャワー。	産不詳
10-01083	須恵器 短頸瓶	覆土内 破片	頸(11.8)	紫・黒・黄・鈍黄・白色磁物粒子少量	短作り後輪線石臼形成形器。頸部は2本の横線を施す。	富田山産か大 塚山産
40-00076 67	鉄函 刀身	床直 部分欠損	横長8.5 縦4.5 厚0.2	重4.0/25/重4.4/5/重輪0.6/重 0.2/重	刃先欠存する。刃身は研削が顕著。錆色が顕著。	
40-00079 67	鉄函 刀身	床直 部分欠損	横長5.5 縦4.2 重4.0/3.8 重1.4		刀背に大きな2回の研削が認められる。蓋は、刃部を 研ぎ出し、両側利用する。蓋の研削も顕著。	
40-00080 67	鉄函 鉄函	覆土内 破片	横長6.5 縦4.0 高 厚0.35 重7		裏面を欠損する。刃部は丸く欠けている。	
40-00081 67	鉄函 鉄函	床直 部分欠損	横長11.7 縦7.3 厚0.2	重32/32.0/17.0/6.0-1176	刃部は少ない(1.00)、研削の研削り度付け研削を両面研削を 併用している。	
40-00073 67	陶器 灰砂磚	床直 部分欠損	横長5.0 縦4.5 厚3.7 重28	粗粒砂石山石岩	磚の縦断面が準直する。	
20-00074	礎石 礎石	床直 部分欠損	横長10.5 縦7.0 厚4.4 重40	灰質山石岩	小口0一方が打撃による欠損が認められる。	

第50号住居跡(1)

遺物番号 図説番号	遺物群 遺物種	出土層位 層位	量目 (m) (g)	構成・色調・粘土 (石素材は量目)	形状・技法等の特徴	備考
10-01084 67	土師器 部分欠損	F内 部分欠損	口13.2 高7.6 高6.9	紫・黒・黄・赤・黒色磁物粒子(内 輪砂)・石灰土・2級生地上	作り手の詳細は不明。底部の器厚は厚い。外周には横線時 の赤褐色の横線が認められる。内面には横線が認められる。	東毛産
10-01085	土師器 部分欠損	覆土内 破片	口11.3	紫・黒・黄・鈍黄・白色磁物粒子・赤 褐色磁物粒子・2級生地上(赤土)	作り手、器内面及び口縁部は横線で施す。口縁部直下は 常線を残す11線を施す。体部は横線の横線。	東毛産
10-01086	土師器 部分欠損	F内 1/4	口13.6 頸(12.4) 高(5.6) 高7.1	紫・黒・黄・鈍黄粒・黒色磁物粒子(内 輪砂)・石灰土・2級生地上	作り手、器内面及び口縁部は横線で施す。口縁部直下は 常線を残す11線を施す。体部は横線の横線。	東毛産
10-01087	土師器 部分欠損	床直 部分欠損	口10.0 高(7.1) 頸7.0 高3.0 高11.5	紫・黒・黄・鈍黄・黒色磁物粒子(内 輪砂)・石灰土・2級生地上	底面以上は横線。底部は横線の横線で施す。頸部は横 線の横線。口縁部は横線の横線の横線。	東毛産
10-01088 67	土師器 部分欠損	床直 部分欠損	口13.8 高(12.1) 頸 15.0 高5.6 高13.6	紫・黒・黄・鈍黄粒・内赤褐色・内片 ・C生地上	口縁部は横線の横線。全体は研削は不明。外周面は横 線作り。頸部より上は横線が認められる。内面は横線の 横線。	産不詳
10-01089 47	土師器 部分欠損	床直 部分欠損	口17.2 高3.8 高(13.0) 高12.9	紫・黒・黄・鈍黄・黒色磁物粒子(内 輪砂)・石灰土・2級生地上	器内面には横線が認められる。杯部の接合部は長いハッ クを有している。器内面・杯部外周に横線を施す。	東毛産

## 第50号住居跡(2)

遺物番号 図面番号	遺物種類	出土層位 層位	位置 座標	数量 目 (g)	構成・色調・胎土 (土質別は付目録)	形状・技法等の特徴	備考
10-0190 57	土師器 高坪 鉢	床直 破片		117.4 高3.8	黒・紫・赤・黄褐色・黒色磁物粒子 (角粒状)・β石英・2種生土土	外面黒褐色土質、内面内面は鮮褐色で黄褐色で磨製。外面口縁は縁状の溝で装飾。口縁部は下位に凹みがある。	東毛産
10-0191 57	土師器 高坪 鉢	床直 破片		1320.0 高4.5	黒・紫・赤・黄・褐色・黒色磁物粒子 (角 粒状)・β石英・2種生土土	口縁部は内面側部。基部のへこは直。内外面黒褐色で後 磨製を施す。胎土。	東毛産
10-0192	土師器 高坪 鉢	床直 破片		1720.2 高5.3	黒・紫・赤・黄・褐色・黒色磁物粒子 (角 粒状)・β石英・2種生土土	口縁部は若干外反。口縁部は上下に上がり、内外面側で 磨製。外面基部周辺は磨り。内面は放射状。	東毛産
10-0193 58	土師器 高坪 鉢	床直 破片		118.8 高3.4	黒・紫・赤・黄・白・色磁物粒子・C生土土	内面基部付近に段が認められる。中央には段りと異なるシ ツ状の段が認められる。号道は短文を施す。	大・笠・富岡 産か
10-0194 58	土師器 高坪 鉢	床直 破片		115.6 高3.4	黒・紫・赤・黄・白・色磁物粒子・C生土土	内面は1段を有する磨製で磨製を施し下部は未磨製。基部部は 縁状の磨製を施す。	大・笠・富岡 産か
10-0195 58	土師器 高坪 鉢	床直 部分欠損		115.6 高3.4	黒・紫・赤・黄・白・色磁物粒子 (角 粒状)・β石英・2種生土土	号作り。内外面及び口縁部は磨製で放射状短文を施す。外 面に磨製を施す計3箇を施す。	東毛産
10-0196 58	土師器 高坪 鉢	床直 部分欠損		118.8 高3.7	黒・紫・赤・黄・褐色・黒色磁物粒子 (角 粒状)・β石英・2種生土土	内外面側で磨製。内面は放射状短文。外面には磨成時の 赤褐色が認められる。	東毛産
10-0197 58	土師器 高坪 鉢	床直 破片		123.0 高3.8	黒・紫・赤・黄・褐色・黒色磁物粒子 (角 粒状)・β石英・2種生土土	外面は磨製の磨で磨製。内面は磨製で磨製。	東毛産
10-0198 58	土師器 高坪 鉢	床直 口縁欠損		124.0 高3.7	黒・紫・赤・黄・褐色・黒色磁物粒子 (角 粒状)・β石英・2種生土土	胴部下半・底部は磨製で放射状短文を施す。胴部上半は鮮褐 色で磨製。内面は磨製で磨製。	東毛産
10-0175	土師器 高坪 鉢	床直 破片		115.6 高3.2	黒・紫・赤・黄・褐色・黒色磁物粒子 (角 粒状)・β石英・2種生土土	扁平面がやや中線する。開口も磨製している。	
10-0129	土師器 高坪 鉢	床直 破片		123.0 高3.8	黒・紫・赤・黄・褐色・黒色磁物粒子 (角 粒状)・β石英・2種生土土	号作り後磨製で磨製。磨製は磨・黄・褐色の3種の使 分けがある。	東毛産

## 第52号住居跡

遺物番号 図面番号	遺物種類	出土層位 層位	位置 座標	数量 目 (g)	構成・色調・胎土 (土質別は付目録)	形状・技法等の特徴	備考
10-0199	土師器 高坪 鉢	床直 破片		121.2 高3.2	黒・紫・赤・黄・褐色・黒色磁物粒子・ 透明磁物粒子・C生土土	号作り。内外面及び口縁部は磨製を施す。口縁部直下は 磨製を施す計3箇を施す。	大・笠・富岡 産か
10-0110	土師器 高坪 鉢	床直 破片		112.8 高3.6	黒・紫・赤・黄・褐色・黒色磁物粒子・C 生土土	号作り。内外面及び口縁部は磨製を施す。口縁部直下は 磨製を施す計3箇を施す。	大・笠・富岡 産か
10-0101	土師器 高坪 鉢	床直 破片		118.2 高3.7	黒・紫・赤・黄・褐色・黒色磁物粒子・ 透明磁物粒子・C生土土	号作り。内外面及び口縁部は磨製を施す。口縁部直下は 磨製を施す計3箇を施す。	大・笠・富岡 産か
10-0102 60	土師器 高坪 鉢	床直 破片		114.5	黒・紫・赤・黄・褐色・黒色磁物粒子・ 透明磁物粒子・C生土土	号作り。内外面及び口縁部は磨製を施す。口縁部直下は 磨製を施す計3箇を施す。	大・笠・富岡 産か
10-0103	土師器 高坪 鉢	床直 破片		113.3 高3.7	黒・紫・赤・黄・褐色・黒色磁物粒子	磨製で磨製。内面は放射状短文。基部が若干外反。口 縁部は直線的に立ち上がる。	大・笠・富岡 産か
10-0104	土師器 高坪 鉢	床直 破片		114.3	黒・紫・赤・黄・褐色・黒色磁物粒子	磨製で磨製。内面は放射状短文。基部が若干外反。口 縁部は直線的に立ち上がる。	笠原産か
10-0105 60	土師器 高坪 鉢	床直 破片		112.4 高3.6	黒・紫・赤・黄・褐色・黒色磁物粒子・ 透明磁物粒子	磨製で磨製。内面は放射状短文。基部が若干外反。口 縁部は直線的に立ち上がる。	富岡山崎・崎 北産
10-0106	土師器 高坪 鉢	床直 破片		116.6	黒・紫・赤・黄・褐色・黒色磁物粒子	磨製で磨製。内面は放射状短文。基部が若干外反。口 縁部は直線的に立ち上がる。	北毛産
10-0107	土師器 高坪 鉢	床直 破片		114.6	黒・紫・赤・黄・褐色・黒色磁物粒子・ 透明磁物粒子	号作り後磨製。外面は若干外反。内面は磨製。内面は 放射状短文を施す。内外面及び口縁部は磨製を施す。外 面に磨製を施す計3箇を施す。	東毛産
10-0108	土師器 高坪 鉢	床直 破片		116.6	黒・紫・赤・黄・褐色・黒色磁物粒子	号作り後磨製。外面は若干外反。内面は磨製。内面は 放射状短文を施す。内外面及び口縁部は磨製を施す。外 面に磨製を施す計3箇を施す。	東毛産
10-0109	土師器 高坪 鉢	床直 破片		112.4 高3.6	黒・紫・赤・黄・褐色・黒色磁物粒子	号作り後磨製。外面は若干外反。内面は磨製。内面は 放射状短文を施す。内外面及び口縁部は磨製を施す。外 面に磨製を施す計3箇を施す。	東毛産
20-0026	土師器 高坪 鉢	床直 破片		112.4 高3.6	黒・紫・赤・黄・褐色・黒色磁物粒子	号作り後磨製。外面は若干外反。内面は磨製。内面は 放射状短文を施す。内外面及び口縁部は磨製を施す。外 面に磨製を施す計3箇を施す。	東毛産

## 第56号住居跡(1)

遺物番号 図面番号	遺物種類	出土層位 層位	位置 座標	数量 目 (g)	構成・色調・胎土 (土質別は付目録)	形状・技法等の特徴	備考
10-0110 59	土師器 高坪 鉢	床直 破片		111.9 高3.0	黒・紫・赤・黄・褐色・黒色磁物粒子・ 透明磁物粒子・C生土土	号作り。内面・口縁部は磨製で磨製。口縁部直下は磨製を 施す計3箇を施す。	東毛産
10-0111	土師器 高坪 鉢	床直 破片		115.6 高3.6	黒・紫・赤・黄・褐色・黒色磁物粒子 (角 粒状)・β石英・2種生土土	号作り。内面・口縁部は磨製で磨製。口縁部直下は磨製を 施す計3箇を施す。高台は付付短文。外面は磨製。	東毛産 磨製 51
10-0112 59	土師器 高坪 鉢	床直 破片		112.4 高3.0	黒・紫・赤・黄・褐色・黒色磁物粒子・ 透明磁物粒子・C生土土	号作り。内面・口縁部は磨製で磨製。口縁部直下は磨製を 施す計3箇を施す。外面は磨製。	東毛産
10-0113	土師器 高坪 鉢	床直 破片		115.6 高3.0	黒・紫・赤・黄・褐色・黒色磁物粒子・ 透明磁物粒子・C生土土	外面は磨製で磨製。内面は磨製で磨製。内面は磨製で磨 製。外面は磨製で磨製。内面は磨製で磨製。	東毛産
10-0114	土師器 高坪 鉢	床直 破片		119.4	黒・紫・赤・黄・褐色・黒色磁物粒子・ 透明磁物粒子・C生土土	内面は磨製で磨製。外面は磨製で磨製。外面は磨製で磨 製。外面は磨製で磨製。	磨製 52
10-0115	土師器 高坪 鉢	床直 破片		119.4	黒・紫・赤・黄・褐色・黒色磁物粒子 (角 粒状)・β石英・2種生土土	外面は磨製で磨製を施す。外面に磨製。	東毛産 磨製 53
10-0116	土師器 高坪 鉢	床直 破片		117.2 高3.0	黒・紫・赤・黄・褐色・黒色磁物粒子・ 透明磁物粒子・C生土土	号作り。口縁部は「く」の字状。胴部直下は未磨製部分を 施す。内面は磨製で磨製。	窪田産か
10-0117	土師器 高坪 鉢	床直 破片		118.0 高3.7	黒・紫・赤・黄・褐色・黒色磁物粒子・ 透明磁物粒子・C生土土	「く」の字状短文。胴部は放射状短文。外面は磨製で磨 製。外面は磨製で磨製。	東毛産
10-0118 59	土師器 高坪 鉢	床直 破片		111.7 高3.6	黒・紫・赤・黄・褐色・黒色磁物粒子・ 透明磁物粒子・C生土土	磨製で磨製。内面は放射状短文。基部が若干外反。口 縁部は直線的に立ち上がる。	窪田産
10-0119 59	土師器 高坪 鉢	床直 破片		112.0 高3.0	黒・紫・赤・黄・褐色・黒色磁物粒子	磨製で磨製。内面は放射状短文。基部が若干外反。口 縁部は直線的に立ち上がる。	窪田産
10-0120 59	土師器 高坪 鉢	床直 破片		112.4 高3.4	黒・紫・赤・黄・褐色・黒色磁物粒子・ 透明磁物粒子・C生土土	磨製で磨製。内面は放射状短文。基部が若干外反。口 縁部は直線的に立ち上がる。	窪田産
10-0121	土師器 高坪 鉢	床直 破片		119.5	黒・紫・赤・黄・褐色・黒色磁物粒子	磨製で磨製。内面は放射状短文。基部が若干外反。口 縁部は直線的に立ち上がる。	窪田産 磨製 54
10-0122	土師器 高坪 鉢	床直 破片		116.0	黒・紫・赤・黄・褐色・黒色磁物粒子	磨製で磨製。内面は放射状短文。基部が若干外反。口 縁部は直線的に立ち上がる。	窪田産 磨製 55

## 第56号住居跡(2)

遺物番号 図説番号	遺物種 目	出土層位 と存在 層	横 径 目 (cm)	縦 径 目 (g)	構成・色調・粘土 (石炭屑は灰目付)	形状・技法等の特徴	備 考
19-01123 69	瓦葺部 破片	床底層 2/3	11(11.3)	高5.6 高3.7	黒・黄・赤・白灰・黒色炭粉混入・1 種生地上	縦横成形石瓦。表面は同転糸切。裏内面は布張り内装 形。外面の縦横目は強い。外面に判読不能書。	床内面 遺書 86
19-01124 69	瓦葺部 破片	床底層 1/2	高3.8		黒・黄・赤・白灰・白色粘土混入	縦横成形石瓦。高台は付け高台。裏内面は布張り内装 形。外面の縦横目は強い。	床内面 遺書 87
19-01125 69	瓦葺部 破片	P.内 口縁大面	高5.7		黒・黄・赤・灰/明焼・黄褐色少量	縦横成形石瓦。高台は付け高台。裏内面は布張り内装 形。外面の縦横目は強い。	床内面 遺書 87
19-01126 69	瓦葺部 破片	P.内 口縁大面	高7.0		黒・黄・赤・灰・白・黒色炭粉混入	縦横成形石瓦。高台は付け高台。裏内面は布張り内装 形。外面の縦横目は強い。	床内面 遺書 87
19-01127 69	土師器 内底	床底層 1/2	高(6.2)		黒・黄・赤・黄灰・黒色炭粉混入(内 底面)・黄灰・2種生地上	筒作り。器内面及び口縁部は横割で、内面に暗文。口縁部 直下は彫琢を施す1段の溝を有す。高台は付け高台。	素毛皮
19-01128 69	瓦葺部 破片	床底層 破片	高9.7		黒・黄・赤・灰/明焼・白色炭粉混入	組作り横割石瓦転転成形。吉井型型製中焼。	吉井型
19-01129 69	土師器 破片	床底層 破片	高(6.6)		黒・黄・赤・黒色炭粉混入・透明炭 粉混入・白色粘土・C生地上	外面は縦位の寛肩り・寛腹で整形。内面は縦位の寛肩り 無で整形。	土・黄・宮岡 跡か
19-01130 69	土師器 破片	P.内 破片	高(4.6)		黒・黄・赤・黄灰・黒色炭粉混入・ 白色粘土・2種生地上	作りの詳細は不詳。外面は縦位の寛肩り・寛腹で整形を施 す。内面は縦位を以て整形で整形。	素毛皮
19-01131 69	土師器 破片	床底層 破片	高7.0		黒・黄・赤・黄灰・黒色炭粉混入 (高灰粒)・黄灰・2種生地上	外面は縦位の寛肩り・寛腹で整形。内面は縦位の寛で整形。高面は 型目。	素毛皮
19-01132 69	瓦葺部 破片	床底層 破片	高(5.8) 高(16.4) 高(9.6)		黒・黄・赤・灰・黒色炭粉混入	組作り横割石瓦転転成形。高台は欠損(付け高台)。	富田山成
19-01133 69	瓦葺部 破片	床底層 破片	高9.9		黒・黄・赤・灰/黒褐色・白色炭粉混 入・黄灰・微粒状粘土	組作り横割石瓦転転成形。	藤岡遺か中 之
19-01134 69	瓦葺部 破片	床底層 破片	高(49.2)		黒・黄・赤・黄灰/黒灰・白色炭粉混 入	組作り横割石瓦。外面は平打り。底面は青褐色文。	吉井型か外 野
19-01135 69	瓦葺部 破片	床底層 破片	13(16.8)		黒・黄・赤・黒・透明炭粉混入 粘質・オレンジ色	縦横成形石瓦。底面は同転糸切。	素毛皮
19-01136 69	瓦葺部 破片	床底層 破片	高9.3		黒・黄・赤・灰・白・外面白濁	縦横成形石瓦。底面は不詳。	素毛皮
19-01137 69	瓦葺部 破片	床底層 破片	高5.7		黒・黄・赤・灰・黒色炭粉混入 粘質・内外面白濁	縦横成形石瓦。底面は同転糸切。裏内面に重割を 施す。底面は不詳。	素毛皮
09-00082 69	鉄釘 不明	層土内 破片	径4.8 高0.6 高11			錆化が顕著。断面正方形を呈する。両端部に鋼板後の穴。 底面は不詳。	
09-00083 69	鉄釘	層土内 破片	径4.6 高0.35 高9.3 高2			比較的小さい釘。断面は仰き差し。両端部の断面は長方形 で先端部は正方形を呈する。	
09-00084 69	鉄塊	層土内 破片	径3.2 高2.2 高2.8 高11			錆化が顕著。全体に磁力(磁力1)を強く持つ。錆化が特 に顕著な数箇所も考慮される。	

## 第57号住居跡

遺物番号 図説番号	遺物種 目	出土層位 と存在 層	横 径 目 (cm)	縦 径 目 (g)	構成・色調・粘土 (石炭屑は灰目付)	形状・技法等の特徴	備 考
19-01138 69	土師器 破片	床底層 破片	13(19.8)	高(17.0) 高(20.9)	黒・黄・赤・黄・白・白色炭粉・透明 炭粉混入・C生地上	作りの詳細は不詳。断面は薄く作りは上。外面は縦位。底 面は同転糸切。内面は縦位の寛腹で整形。	土・黄・宮岡 跡か
19-01139 69	土師器 破片	床底層 破片	13(19.8)	高(17.8)	黒・黄・赤・黄・黒色炭粉混入・透明炭 粉混入・C生地上	作りの詳細は不詳。断面は薄く作りは上。断面下部には 寛肩り時の段の先端部が残り連続する。	土・黄・宮岡 跡か
19-01140 69	瓦葺部 破片	床底層 破片	13(13.4)		黒・黄・赤・黄灰・透明炭粉混入 少量	縦横成形石瓦。底面は薄。	素毛皮
19-01141 69	瓦葺部 破片	床底層 破片	13(12.6)	高(19.3) 高4.2	黒・黄・赤・灰・白・白色炭粉	縦横成形石瓦。表面は同転糸切。	富田山成か
19-01142 69	瓦葺部 破片	床底層 破片	13(12.6)	高(6.2) 高4.2	黒・黄・赤・灰・黒色炭粉・白色炭 粉少量	縦横成形石瓦。表面は同転糸切。	富田山成か

## 第60号住居跡

遺物番号 図説番号	遺物種 目	出土層位 と存在 層	横 径 目 (cm)	縦 径 目 (g)	構成・色調・粘土 (石炭屑は灰目付)	形状・技法等の特徴	備 考
20-00177 69	石葺 破片	層土内 破片	径6.2 高2.9		黒色安山岩	平転三角形磨砕式。縁・上片縁の割れを欠損する。	
19-01143 69	瓦葺部 破片	床底層 破片	高(6.2)		黒・中・赤・黄・黄灰・白色炭粉混 入	縦横成形石瓦。表面は同転糸切。底面は縦位の寛腹に影入 り伏。断面も考慮される。	素毛皮 遺書 88
19-01144 69	土師器 破片	床底層 破片	13(21.7)	高(20.2)	黒・黄・赤・黄褐色・黒色炭粉混入 (角粒状)・黄灰・2種生地上	組作り。外面は縦位の寛肩り多量。内面は縦位の寛腹(小 口)で整形。	素毛皮
19-01145 69	土師器 破片	P.内 破片	高(6.6)		黒・黄・赤・黄・黒・白色炭粉・黒色 炭粉混入・アゲサイド・2種生地上	外面は縦位の寛腹で整形。内面は縦位の寛で整形。	素毛皮
09-00085 69	鉄釘	層土内 破片	径2.8 高3.8 高2.0 高29			同上中央から右側の上半部分が磁力(磁力2)を呼ぶ。	

## 第61号住居跡

遺物番号 図説番号	遺物種 目	出土層位 と存在 層	横 径 目 (cm)	縦 径 目 (g)	構成・色調・粘土 (石炭屑は灰目付)	形状・技法等の特徴	備 考
19-01146 69	瓦葺部 破片	層土内 破片	13(12.4)	高(4.3)	黒・黄・赤・黄褐色・赤褐色粘土質 土	縦横成形石瓦。表面は同転糸切。裏内面に縦位の暗文を 施す。底面は丸腹を呈び立ち上がり段。	素毛皮 遺書 89
19-01147 69	瓦葺部 破片	層土内/黄 土内	高(7.4)		黒・黄・赤・黄・黒・黒色炭粉混入	縦横成形石瓦。高台は付け高台。外面は布張り内装 の形が認められる。横位は縦位の寛で整形。	素毛皮
19-01148 69	瓦葺部 破片	層土内 破片	高9.3		黒・黄・赤・灰	縦横成形石瓦。底面は同転糸切。	素毛皮

富田漆田遺跡 諸元

第62住居跡

遺物番号 図説番号	遺物 品名	出土層位 遺存 区	発 見 日 (年)	構成・色調・胎土 (石素材は項目別)	形状・技法等の特徴	備 考
10-01109	土師器 甕	甕土内 破片	昭和7	赤・黒・黄・緑・黒色軟物粒子 (内 胎土)・ $\beta$ 石英・2種生土土	甕土は網毛織で成形を施し、赤色顔料を施す。内面は 上段が網毛の裏面成形、下段は網毛で成形。	甕土底

第63住居跡

遺物番号 図説番号	遺物 品名	出土層位 遺存 区	発 見 日 (年)	構成・色調・胎土 (石素材は項目別)	形状・技法等の特徴	備 考
10-01106	縄紋土器 深鉢	甕土内 破片	昭和2	赤・黒・黄・緑・黄緑・黒色軟物粒子・ 石英・ $\beta$ 石英・2種生土土	口縁部無紋直下で $\beta$ 石英の集積を施す。胎土下にLr 原体を模範成形。	甕土底
10-01111	縄紋土器 深鉢	甕土内 破片	昭和8	赤・黒・黄・緑・黒色軟物粒子・石 英・2種生土土	口唇部は無紋、外周はLr原体を模範成形、内周は模範 成形を施す。	甕土底
10-01102	縄紋土器 深鉢	甕土内 破片	昭和8		10-01105同一一体。	甕土底
10-01153	縄紋土器 深鉢	甕土内 破片	昭和9			甕土底
10-01154	縄紋土器 深鉢	甕土内 破片	昭和9			甕土底
10-01155	縄紋土器 深鉢	甕土内 破片	昭和9	赤・黒・黄・白色軟物粒子 (黒染石英)・ 透明軟物粒子	外面は縦位の裏面成形、内面は模範の無成形。	甕土底
20-00178	石製 煎餅	甕土内 破片	昭和4	昭和4 昭和4	表面は磨削。裏面の割片割縁部の縁辺に無数の刻痕が認め られる。	
20-00179	石製 押石	甕土内 破片	昭和2	昭和2 昭和5	小口に打撃による刻痕が認められる。	

第64号住居跡

遺物番号 図説番号	遺物 品名	出土層位 遺存 区	発 見 日 (年)	構成・色調・胎土 (石素材は項目別)	形状・技法等の特徴	備 考
10-01156	土師器 深鉢	甕土内 破片	昭和2	赤・黒・黄・黄緑・黒色軟物粒子 (無胎土)・ $\beta$ 石英・2種生土土	胎作り。胎内面及び口縁部は模範で施す。口縁部直下・ 体部に $\beta$ 石英を施す。裏面は磨削を施す。	甕土底
10-01157	土師器 深鉢	甕土内 破片	昭和2	赤・黒・黄・黄緑・黒色軟物粒子 (無胎土)・ $\beta$ 石英・2種生土土	胎作り。胎内面及び口縁部は模範で施す。口縁部直下・ 体部に $\beta$ 石英を施す。	甕土底
10-01158	土師器 深鉢	甕土内 破片	昭和2	赤・黒・黄・黄緑・白色軟物粒子・ 赤褐色軟物粒子・2種生土土	輪軸成形形形形。裏面は $\beta$ 石英・高台。胎部の上段が打 り成形。	甕土底
10-01159	土師器 深鉢	甕土内 破片	昭和2	赤・黒・黄・灰白・白色軟物粒子・黒 色軟物粒子・2種生土土	輪軸成形形形形。胎部は $\beta$ 石英・高台。胎部を $\beta$ 石英で 塗り潰す。	甕土底
40-00986	鉄片	甕土内 破片	昭和4	昭和4	縦又は横の線状。[下]字の下部の断面は長方形を呈し ている。3本の端部は無数の欠損。	
40-00987	鉄片	甕土内 破片	昭和3	昭和3	胎中の下字部が磁力を呈す(呼ぶ「磁力」?)。	

第65号住居跡(1)

遺物番号 図説番号	遺物 品名	出土層位 遺存 区	発 見 日 (年)	構成・色調・胎土 (石素材は項目別)	形状・技法等の特徴	備 考
10-01100	土師器 深鉢	甕土内 破片	昭和2	赤・黒・黄・赤・白色軟物粒子・C生 土土	胎作り。胎内面及び口縁部は模範で施す。口縁部直下は 磨削を施す $\beta$ 石英を施す。裏面は磨削。	甕土底
10-01101	土師器 深鉢	甕土内 破片	昭和2	赤・黒・黄・黄緑・黒色軟物粒子 (内 胎土)・ $\beta$ 石英・2種生土土	胎作り。胎内面及び口縁部は模範で施す。口縁部直下は 本磨削。胎部の $\beta$ 石英を施す。裏面は磨削を施す。	甕土底 胎部50
10-01102	土師器 深鉢	甕土内 破片	昭和2	赤・黒・黄・赤・白色軟物粒子・透 明軟物粒子・2種生土土 (赤・白)	胎作りの詳細は不明。短い[コ]の字状口縁。外面は黄 い磨削。内面は模範の裏面成形。	甕土底
10-01103	土師器 深鉢	甕土内 破片	昭和2	赤・黒・黄・赤・白色軟物粒子・透 明軟物粒子・C生土土	胎作りの詳細は不明。[コ]の字状口縁。外面は黄い磨削。 胎部に $\beta$ 石英の集積を施す。	去・笠・甕 胎部
10-01104	土師器 深鉢	甕土内 破片	昭和2	赤・黒・黄・黄緑・白色軟物粒子・黒 色軟物粒子・ $\beta$ 石英・2種生土土	胎作りの詳細は不明。裏面は $\beta$ 石英を施す。胎部は $\beta$ 石英 で成形して $\beta$ 石英が非常に多い。輪軸成形。	甕土底
10-01105	土師器 深鉢	甕土内 破片	昭和2	赤・黒・黄・黄緑・黒色軟物粒子・ 透明軟物粒子・C生土土	胎作り。胎内面及び口縁部は模範で施す。胎部は $\beta$ 石英 を施す。	去・笠・甕 胎部
10-01106	土師器 深鉢	甕土内 破片	昭和2	赤・黒・黄・赤・白色軟物粒子	輪軸成形形形形。胎部は $\beta$ 石英・高台。胎部を $\beta$ 石英で 塗り潰す。	甕土底
10-01107	土師器 深鉢	甕土内 破片	昭和2	赤・黒・黄・赤・白色軟物粒子	輪軸成形形形形。胎部は $\beta$ 石英・高台。胎部を $\beta$ 石英で 塗り潰す。	甕土底
10-01108	土師器 深鉢	甕土内 破片	昭和2	赤・黒・黄・赤・白色軟物粒子・黒 色軟物粒子	輪軸成形形形形。胎部は $\beta$ 石英・高台。胎部を $\beta$ 石英で 塗り潰す。	甕土底
10-01109	土師器 深鉢	甕土内 破片	昭和2	赤・黒・黄・赤・白色軟物粒子・黒 色軟物粒子	輪軸成形形形形。胎部は $\beta$ 石英・高台。胎部を $\beta$ 石英で 塗り潰す。	甕土底
10-01110	土師器 深鉢	甕土内 破片	昭和2	赤・黒・黄・赤・白色軟物粒子・黒 色軟物粒子	輪軸成形形形形。胎部は $\beta$ 石英・高台。胎部を $\beta$ 石英で 塗り潰す。	甕土底
10-01111	土師器 深鉢	甕土内 破片	昭和2	赤・黒・黄・赤・白色軟物粒子・黒 色軟物粒子	輪軸成形形形形。胎部は $\beta$ 石英・高台。胎部を $\beta$ 石英で 塗り潰す。	甕土底
10-01112	土師器 深鉢	甕土内 破片	昭和2	赤・黒・黄・赤・白色軟物粒子・黒 色軟物粒子	輪軸成形形形形。胎部は $\beta$ 石英・高台。胎部を $\beta$ 石英で 塗り潰す。	甕土底
40-00988	鉄片	甕土内 破片	昭和4	昭和4	全体に孔状の窪みが認められる。全体に僅かに磁力(磁力 5)を呼ぶ。	
40-00989	鉄片	甕土内 破片	昭和4	昭和4	胎部の内面を調査後に欠損している。胎部には輪軸成形 時の歪みが残る。磨削が顕著。	
10-01123	土師器 深鉢	甕土内 破片	昭和2	赤・黒・黄・赤・黄緑・黒色軟物粒子 胎部	胎作り。胎内面及び口縁部は模範成形を施す。胎部は $\beta$ 石英 を施す。	甕土底
20-00180	石製 煎餅	甕土内 破片	昭和4	昭和4	胎部の平面に磨削が認められる。小口・片縁部に打撃痕 が認められる。	
20-00181	石製 煎餅	甕土内 破片	昭和4	昭和4	胎部の平面に磨削が認められる。小口・片縁部に打撃痕 が認められる。	
20-00182	石製 煎餅	甕土内 破片	昭和4	昭和4	胎部の平面に磨削が認められる。小口・片縁部に打撃痕 が認められる。	

## 第65号住居跡(2)

遺構番号 記号番号	遺物種 群 種	出土層位 遺存 区	埋 没 目 (cm)	構成・色調・粘土 (石炭材は算目値)	形状・技法等の特徴	備 考
20-00183	竈 瓦具・か	覆土内 光面	長1.9 幅1.7 厚0.4 重2.64	焼結凝灰岩	使用痕等は認められない。	

## 第66号住居跡

遺構番号 記号番号	遺物種 群 種	出土層位 遺存 区	埋 没 目 (cm)	構成・色調・粘土 (石炭材は算目値)	形状・技法等の特徴	備 考
10-01174	土師器 土師器 土師器	P内 部分欠損	口12.3 頸11.1 幅14.3 重5.2	赤・黒・緑・黄褐色・灰色粘土質 赤褐色粘土・2種生土	作り詳細は不詳。外周は胴部下下まで階段の隆起あり。内 面は横長の長い・形が上子部と認められる。輪軸使用あり。	東毛産
10-01175	土師器 土師器	P内 部分欠損	口14.4 頸7.5 幅14.9 重3.82	赤・黒・黄・白灰・黒色粘土質 白色粘土質	輪軸成形形石製。高さは口径より高。器内面は布織り内装 形。	漆田産
40-00099	土師器 土師器	床直層 部分欠損	幅10.9 幅11.6 厚2.8 重2.82	赤・黒・緑・灰・赤褐色粘土・赤褐色粘土・ 赤褐色粘土・C生土	出土品群の中で最も大きな器類に属する。全体に若干粗 目(埋没目)を有す。	
20-00184	土師器 土師器	覆土内 光面	長4.5 幅4.2 厚2.4 重37.06	焼結凝灰岩山岩	器面全体に厚織り認められるが、断面は厚織りではない。	

## 第67号住居跡

遺構番号 記号番号	遺物種 群 種	出土層位 遺存 区	埋 没 目 (cm)	構成・色調・粘土 (石炭材は算目値)	形状・技法等の特徴	備 考
10-01176	土師器 土師器	覆土内 光面	口12.2 底(9.4) 幅10.0	赤・黒・緑・黄褐色・赤褐色粘土質 赤褐色粘土・C生土	繋作り。器内面及び口縁部は厚織りで、口縁直下は厚織り を有す。内面、底は厚織り。外部に補修粘土。	大・笠・甕周 辺か
10-01177	土師器 土師器	覆土内 破片	口12.0 頸(10.8)	赤・黒・黄・黄褐色・赤褐色粘土質 赤褐色粘土・C生土	繋作りあり。器中かへ外縁に立ち上がる。内外両面に丁 字状の厚織り。	大・笠・甕周 辺か
10-01178	土師器 土師器	覆土内 破片	口12.0 頸(12.2)	赤・黒・緑・黄褐色・赤褐色粘土質 赤褐色粘土・C生土	作り詳細は不詳。高さは口径より口径を受け口径。外面 の厚織りは認められずである。	大・笠・甕周 辺か
10-01179	土師器 土師器	覆土内 破片	口12.6 頸(14.8)	赤・黒・黄・黄褐色・白色粘土・赤褐色粘土・ 赤褐色粘土・C生土	作り詳細は不詳。口縁部の厚織りは認められず。輪軸 使用も考えられる。	大・笠・甕周 辺か
10-01180	土師器 土師器	覆土内 破片	口12.2 底(6.0) 幅7.2	赤・黒・黄・白・白色粘土	輪軸成形形石製。底部は回転形。胴部は落ちる作り。	富田山産か
10-01181	土師器 土師器	覆土内 破片	口12.6 底(7.6) 幅7.3	赤・黒・緑・灰・赤褐色粘土	輪軸成形形石製。底部は回転形。外部・口縁部は 直線の立ち上がる。	富田山産か
10-01182	土師器 土師器	覆土内 破片	口13.0 底(8.0) 幅7.3	赤・黒・緑・白灰・黒色粘土	輪軸成形形石製。底部は回転形。輪軸目は目立たない。 粘土の焼き上げが強い。	産不詳
10-01183	土師器 土師器	覆土内 破片	底(7.0)	赤・黒・緑・灰・赤褐色粘土・白色粘土	輪軸成形形石製。底部は回転形。	新木江産か
10-01184	土師器 土師器	覆土内 破片	口11.6)	赤・黒・黄・黄褐色・赤褐色粘土・赤褐色粘土・ 赤褐色粘土・C生土	輪軸成形形石製。胴部は落ちる作り。	東毛産
10-01185	土師器 土師器	覆土内 破片	口12.0)	赤・黒・黄・白・白色粘土	輪軸成形形石製。胴部は落ちる作り。	東毛産
10-01186	土師器 土師器	覆土内 破片	口12.2)	赤・黒・緑・黄褐色・赤褐色粘土・赤褐色粘土・ 赤褐色粘土・C生土	繋作り後輪軸石製成形。器内面に高さを有する。大形。 産不詳	産不詳
10-01187	土師器 土師器	覆土内 破片	厚9.8	赤・黒・緑・灰・赤褐色粘土・赤褐色粘土・ 赤褐色粘土・C生土	繋作り後輪軸石製成形。胴部2本の模様を施す。	富田山産か
10-01188	土師器 土師器	覆土内 破片	厚9.7	赤・黒・緑・白灰・黒色粘土	繋作り後厚織り。外部に正筒作り。底は厚織り。底 粘土の焼き上げが強い。	産不詳
40-00091	土師器 土師器	67号住居跡 刀子	幅10.7 幅10.5 厚1.2 厚1.3	黒褐色(2)・黄褐色(1)・赤褐色(6.8)	刀身平らと刃の一部を欠損する。刃部は調製が認められ る。磨化が顕著。	
20-00185	石製 石製	覆土内 光面	長3.3 幅1.1 厚1.3 厚1.22 孔徑0.6)	凝灰岩	高直り成形の筒状に仕上げ。表面面に彫刻状のもの認められ るが、文字とは認められない。	

## 第68号住居跡(1)

遺構番号 記号番号	遺物種 群 種	出土層位 遺存 区	埋 没 目 (cm)	構成・色調・粘土 (石炭材は算目値)	形状・技法等の特徴	備 考
10-01189	土師器 土師器	床直 光面	口11.9 幅11.1 幅12.1	赤・黒・緑・黄褐色・赤褐色粘土・赤褐色粘土・ 赤褐色粘土(角状)・石灰質	繋作り。器内面及び口縁部は厚織りで、口縁直下は 厚織りを有す。内面を施す。底面は厚織り。	東毛産
10-01190	土師器 土師器	床直 部分欠損	口12.5 幅11.5 幅11.1	赤・黒・黄・黄褐色・石灰質・赤褐色粘土・ 赤褐色粘土	繋作り。器内面及び口縁部は厚織りを施す。口縁直下は厚織りを有す。 底面は厚織り。	東毛産
10-01191	土師器 土師器	床直層 部分欠損	口13.5 幅12.1 幅13.5	赤・黒・緑・黄褐色・赤褐色粘土・赤褐色粘土・ 赤褐色粘土・C生土	繋作り。口縁部は短く外縁する。器内面は厚織りを施す。口 縁直下は厚織りを有す。底面は厚織り。底面は厚織り。	東毛産
10-01192	土師器 土師器	床直層 光面	口14.3 幅13.8 幅13.6	赤・黒・緑・黄褐色・赤褐色粘土・赤褐色粘土・ 赤褐色粘土・C生土	繋作り。内面は厚織りを施す。内面は厚織り。外縁 は厚織り。底面は厚織り。	東毛産
10-01193	土師器 土師器	床直層 部分欠損	口12.8 幅13.0 幅12.4	赤・黒・緑・黄褐色・赤褐色粘土・赤褐色粘土・ 赤褐色粘土・C生土	繋作り。器内面及び口縁部は厚織りを施す。外縁直下 に厚織りを施す。底面は厚織り。	大・笠・甕周 辺か
10-01194	土師器 土師器	床直層 部分欠損	口13.0 幅(11.8)	赤・黒・黄・黄褐色・赤褐色粘土・赤褐色粘土・ 赤褐色粘土(角状)・石灰質	上子部は繋作り。外面は厚織りの隆起あり。内面は厚織り を施す。口縁部は短く外縁する。	東毛産
10-01195	土師器 土師器	床直層 破片	口11.6 幅(9.4) 幅13.5)	赤・黒・黄・黄褐色・赤褐色粘土・赤褐色粘土・ 赤褐色粘土・C生土	繋作り。口縁部は短く外縁する。器内面は厚織りを施す。 上子部は厚織りを施す。底面は厚織り。	東毛産
10-01196	土師器 土師器	床直層 破片	口13.6 幅(11.6)	赤・黒・黄・黄褐色・赤褐色粘土・赤褐色粘土・ 赤褐色粘土・C生土	上子部は繋作り。口縁部は短く外縁する。器内面は厚織りを 施す。口縁部は短く外縁する。	東毛産
10-01197	土師器 土師器	床直層 部分欠損	口15.3 幅13.8 幅14.7 幅9.7	赤・黒・黄・黄褐色・石灰質・赤褐色粘土・赤褐色粘土・ 赤褐色粘土・C生土	器内面は厚織り。口縁部は短く外縁する。器内面は厚織りを 施す。口縁部は短く外縁する。	東毛産
10-01198	土師器 土師器	覆土内 破片	幅11.1 幅(8.8) 幅13.0 幅(5.0)	赤・黒・黄・黄褐色・赤褐色粘土・赤褐色粘土・ 赤褐色粘土・C生土	繋作り。器内面及び口縁部は厚織りを施す。上子部は厚織りを 施す。口縁部は短く外縁する。	東毛産
10-01199	土師器 土師器	床直 1/4	口13.0 幅(12.6) 幅13.0 幅(5.0)	赤・黒・黄・黄褐色・赤褐色粘土・赤褐色粘土・ 赤褐色粘土・C生土	器内面は厚織り。繋作り。口縁部は厚織りの隆起あり。内 外面は厚織り。	東毛産
10-01200	土師器 土師器	床直 1/4	口14.0 幅(12.4) 幅13.0 幅(5.0)	赤・黒・黄・黄褐色・赤褐色粘土・赤褐色粘土・ 赤褐色粘土・C生土	繋作り。器内面及び口縁部は厚織りを施す。口縁部は短く 外縁する。内外共に厚織り。	東毛産
10-01201	土師器 土師器	床直層 1/3	口13.0 底(4.4) 幅11.0 幅(2.7)	赤・黒・黄・黄褐色・赤褐色粘土(角 状)・石灰質・赤褐色粘土	繋作り。外面は厚織りの隆起あり。器内面は厚織りを施す。 口縁部は厚織り。	東毛産

第68号住居跡(2)

遺物番号 図説番号	遺物種類 遺存 遺	出土層位 遺存 遺	度量 [cm] 長さ [g]	焼成・色調・胎土 (石質材は注目)	形状・技法等の特徴	備考
10-01202 71	土師器 小砂埴	床直 1/3	口(13.0) 胴(11.0)	黒・赤・黄・灰・白色磁胎粒子 (内胎粒子・β石英・2種生粘土)	細作り。胴部に高さ1.1縁部は「」の字状に外縁する。外周は内周縁で浅凹で成形。胎成で成形。	東毛産
10-01203 小砂埴	床直 部分欠損	1715.0 幅13.0 胴 19.7 底5.5 高さ23.3		黒・赤・黄・灰・白色磁胎・黒色胎粒子 (内胎粒子・β石英・2種生粘土)	細作り。口縁は内縁に縁部は最大径。床直は下位からの寛狭で成形。胴は最低径の腹で成形。胎成の成形。	東毛産
10-01204 71	土師器 埴	床直 1/2	口(16.8) 胴(13.0)	黒・赤・黄・灰・白色胎子・ 黒色胎粒子・β石英・2種生粘土	超作り。口縁部は外縁に立ち上がる。内周は内周縁より整形が認められる。	東毛産
10-01205 71	土師器 埴	床直 2/3	口(27.2) 胴(14.0) 胴(27.6)	黒・赤・黄・灰・白色胎子・ (内胎粒子・β石英・2種生粘土)	超作り。口縁部は外縁に立ち上がる。内周は内周縁に寛狭で成形。	東毛産
10-01206 71	土師器 埴	壺内 破片	胴(9.2)	黒・赤・黄・灰・白色胎子・ 胎成	超作り。口縁部は外縁に立ち上がる。内周は内周縁に寛狭で成形。	東毛産
10-01207 71	土師器 埴	床直 1/4	胴(19.0) 底(7.3)	黒・赤・黄・灰・白色胎子・ 胎成	超作り。外周は縁部の腹で成形を施し、胴部最大径付近では胎成の成形を施す。	東毛産
10-01208 71	土師器 埴	床直 1/3	口(26.0) 胴(22.6) 胴(25.2)	黒・赤・黄・灰・白色胎子・ 胎成	超作り。厚縁は厚い。外周は縁部の腹で成形。胎成に寛狭で成形し、胎成の成形を施す。内周は胎成の腹で成形。	東毛産
10-0146 石製品	床直 部分欠損	塊径2.7 幅1.05 厚0.72 重1.12		滑石	「」の字状。胴部の孔の部分から欠損する。胴部内周縁部が平直。	
10-00187 石製品	床直 破片	塊径0.8 幅0.7 厚4.1 重306		炭酸岩	貫眼・手持提握用。貫眼は赤褐色の土質が認められる。底面は貫眼部の中央が使用が少い。	

第69号住居跡

遺物番号 図説番号	遺物種類 遺存 遺	出土層位 遺存 遺	度量 [cm] 長さ [g]	焼成・色調・胎土 (石質材は注目)	形状・技法等の特徴	備考
10-01209	土師器 埴	壺土内 破片	口(24.8) 胴(22.2)	黒・赤・黄・灰・白色胎子・ 胎成	超作り。口縁部は外縁に立ち上がる。内周は内周縁に寛狭で成形。	太・赤・黄用 近か
10-01210	土師器 埴	壺土内 破片	幅0.3	黒・赤・黄・灰・白色胎子・ 胎成	細作り。胎成の成形を施す。	東毛産
10-01211	土師器 埴	壺土内 破片	幅0.9	黒・赤・黄・灰・白色胎子・ 胎成	細作り。胎成の成形を施す。	東毛産

第1号窯

遺物番号 図説番号	遺物種類 遺存 遺	出土層位 遺存 遺	度量 [cm] 長さ [g]	焼成・色調・胎土 (石質材は注目)	形状・技法等の特徴	備考
10-01212 72	土師器 埴	前庭直 形	138.7 底5.2 高さ7-2.0	黒・赤・黄・灰・白色胎子・ 胎成	細作り。胎成の成形を施す。	東毛産
10-01213 61	土師器 埴	壺土内 破片	口(13.4) 底(6.4)	黒・赤・黄・灰・白色胎子・ 胎成	細作り。胎成の成形を施す。	東毛産
10-01214 72	土師器 埴	前庭直 形	171.2 底6.8 底5.1	黒・赤・黄・灰・白色胎子・ 胎成	細作り。胎成の成形を施す。	東毛産
10-01215 72	土師器 埴	壺土内 破片	口(14.1) 底(7.4) 底5.2	黒・赤・黄・灰・白色胎子・ 胎成	細作り。胎成の成形を施す。	東毛産
10-01216	土師器 埴	壺土内 破片	底(6.6)	黒・赤・黄・灰・白色胎子・ 胎成	細作り。胎成の成形を施す。	東毛産
10-01217	土師器 埴	壺土内 破片	底(6.7)	黒・赤・黄・灰・白色胎子・ 胎成	細作り。胎成の成形を施す。	東毛産
10-01218	土師器 埴	壺土内 破片	底(7.8)	黒・赤・黄・灰・白色胎子・ 胎成	細作り。胎成の成形を施す。	東毛産
10-01219	土師器 埴	壺土内 破片	計測不能	黒・赤・黄・灰・白色胎子・ 胎成	細作り。胎成の成形を施す。	東毛産
10-01220	土師器 埴	壺土内 破片	口(14.6)	黒・赤・黄・灰・白色胎子・ 胎成	細作り。胎成の成形を施す。	東毛産
10-01221	土師器 埴	壺土内 破片	底(8.6)	黒・赤・黄・灰・白色胎子・ 胎成	細作り。胎成の成形を施す。	東毛産

第2号窯(1)

遺物番号 図説番号	遺物種類 遺存 遺	出土層位 遺存 遺	度量 [cm] 長さ [g]	焼成・色調・胎土 (石質材は注目)	形状・技法等の特徴	備考
10-01222	土師器 埴	壺土内 破片	口(10.9) 底(6.2)	黒・赤・黄・灰・白色胎子・ 胎成	細作り。胎成の成形を施す。	東毛産
10-01223	土師器 埴	前庭直 形	口(11.2) 底(6.6)	黒・赤・黄・灰・白色胎子・ 胎成	細作り。胎成の成形を施す。	東毛産
10-01224	土師器 埴	壺土内 破片	口(11.6) 底(7.2) 底5.6	黒・赤・黄・灰・白色胎子・ 胎成	細作り。胎成の成形を施す。	東毛産
10-01225 72	土師器 埴	壺土内 破片	口(12.0) 底(7.1) 底5.9	黒・赤・黄・灰・白色胎子・ 胎成	細作り。胎成の成形を施す。	東毛産
10-01226	土師器 埴	壺土内 破片	口(12.0) 底(6.8) 底5.6	黒・赤・黄・灰・白色胎子・ 胎成	細作り。胎成の成形を施す。	東毛産
10-01227	土師器 埴	壺土内 破片	口(12.2) 底(6.4) 底5.6	黒・赤・黄・灰・白色胎子・ 胎成	細作り。胎成の成形を施す。	東毛産
10-01228	土師器 埴	壺土内 破片	口(12.6) 底(6.4) 底4.8	黒・赤・黄・灰・白色胎子・ 胎成	細作り。胎成の成形を施す。	東毛産
10-01229	土師器 埴	壺土内 破片	口(12.6) 底(6.7) 底4.4	黒・赤・黄・灰・白色胎子・ 胎成	細作り。胎成の成形を施す。	東毛産
10-01230	土師器 埴	壺土内 破片	口(13.4) 底(6.4) 底(4.5)	黒・赤・黄・灰・白色胎子・ 胎成	細作り。胎成の成形を施す。	東毛産
10-01231	土師器 埴	壺土内 破片	口(13.8) 底(7.2) 底(4.0)	黒・赤・黄・灰・白色胎子・ 胎成	細作り。胎成の成形を施す。	東毛産
10-01232 72	土師器 埴	壺土内 破片	口(12.1) 底(7.4) 底4.7	黒・赤・黄・灰・白色胎子・ 胎成	細作り。胎成の成形を施す。	東毛産

富田津田道路北側調査区遺構調査

第2号窯(1)

遺構番号 図面番号	遺構種類	出土層位 遺存層	位置 目 (cm)	構成・色調・粘土 (石質材は目録)	形状・技法等の特徴	調査
40-1233 72	須恵系 須恵土内 塊	Ⅰ(13.2)	底(7.2)	灰・中・軟・灰白・白色微粒子少量・ 褐色微粒子	縦横成形型右回転。高台は付け高台。器内面は布焼き再整形。内外面に成形時の横り痕が認められる。器形は直筒形。	須田産
40-1234	須恵系 須恵土内 破片	Ⅰ(13.2)		灰・中・軟・灰白・褐色微粒子・白色微粒子・ 褐色微粒子	縦横成形型右回転。高台は付高台。器内面は布焼き再整形。内外面に成形時の横り痕が認められる。器形は直筒形。	須田産
40-1235 72	須恵系 須恵土内 塊	Ⅰ(13.5) 底(7.3)		灰・中・硬・灰黄・白色微粒子・ 褐色微粒子	縦横成形型右回転。高台は付け高台。器内面は布焼き再整形。内外面に成形時の横り痕が認められる。器形は直筒形。	須田産
40-1236	須恵系 須恵土内 破片	Ⅰ(15.2)		灰・中・硬・灰・白色微粒子・ 褐色微粒子	縦横成形型右回転。高台は付け高台。器内面は布焼き再整形。内外面に成形時の横り痕が認められる。器形は直筒形。	須田産
40-1237	須恵系 須恵土内 破片	底(7.0)		灰・中・硬・灰・白色微粒子・ 褐色微粒子	縦横成形型右回転。高台は付け高台。器内面は布焼き再整形。内外面に成形時の横り痕が認められる。器形は直筒形。	須田産
40-1238	須恵系 須恵土内 破片	底(7.4)		灰・中・硬・灰白・白色微粒子・ 褐色微粒子	縦横成形型右回転。高台は付け高台。器内面は布焼き再整形。内外面に成形時の横り痕が認められる。器形は直筒形。	須田産
40-1239	須恵系 須恵土内 破片	底(7.6)		灰・中・粗・黄灰・白色微粒子・白色 微粒子・褐色微粒子	縦横成形型右回転。高台は付け高台。器内面は布焼き再整形。内外面に成形時の横り痕が認められる。器形は直筒形。	須田産
40-1240	須恵系 須恵土内 破片	Ⅰ(13.0) 底(7.5)		灰・中・硬・灰黄・白色微粒子・ 褐色微粒子	縦横成形型右回転。高台は付け高台。器内面は布焼き再整形。内外面に成形時の横り痕が認められる。器形は直筒形。	須田産
40-1241	須恵系 須恵土内 破片	Ⅰ(14.0)		灰・中・硬・灰黄・褐色・白色微粒子・ 褐色微粒子	縦横成形型右回転。器内面は布焼き再整形。縦横目は粗い。	須田産
40-1242	須恵系 須恵土内 破片	Ⅰ(17.6)		灰・中・軟・明黄褐色・褐色微粒子・ 透明微粒子・赤褐色微粒子	縦横成形型右回転。著しく外反する。高の可能性あり。器内面は布焼き再整形。粘土が異なる。器口は外反の製品か。	須田産か東毛産
40-1243	須恵系 須恵土内 破片	Ⅰ(8.0)		灰・中・軟・白灰・褐色微粒子少量・ 透明微粒子少量	縦横成形型右回転。天井部には凹痕認められる。器内面は布焼き再整形。器面に横り痕が認められる。	須田産
40-1244	須恵系 須恵土内 破片	Ⅰ(16.0)		灰・中・硬・灰・褐色・白色微粒子・ 褐色微粒子	縦横成形型右回転。器形は直筒形。器口は直筒形が「く」の字状に外側し立ち上がる。	須田産

第3号窯

遺構番号 図面番号	遺構種類	出土層位 遺存層	位置 目 (cm)	構成・色調・粘土 (石質材は目録)	形状・技法等の特徴	調査
40-1245 72	須恵系 須恵土内 破片	Ⅰ(12.4)		灰・中・軟・灰白・灰黄・褐色状褐色 微粒子	縦横成形型右回転。底部は欠損する。器内面が一次焼成による風化状態。器内面に成形時の横り痕が認められる。	須田産
40-1246	須恵系 須恵土内 破片	底(7.6)		灰・中・硬・灰・褐色微粒子・白色 微粒子	縦横成形型右回転。高台は付け高台。器内面は布焼き再整形。内外面に成形時の横り痕が認められる。	須田産
40-1247	須恵系 宮内遺上層 2/3	Ⅰ(14.0) 底(7.2)		灰・中・硬・灰黄・暗褐色・透明微粒子 ・褐色微粒子・白色微粒子	縦横成形型右回転。高台は付け高台。内外面に成形時の横り痕が認められるが、成形時かその後の二次焼成か不明。	須田産
40-1248	須恵系 須恵土内 破片	Ⅰ(13.0) 底(6.2)		灰・中・軟・灰・褐色微粒子・白色 微粒子	縦横成形型右回転。底部は凹痕あり。高台は製作段階から付けられていない。内外面に横り痕が認められる。	須田産
40-1249	須恵系 須恵土内 破片	Ⅰ(16.2) 底(9.8)		灰・中・軟・灰・白色微粒子・褐色 微粒子・赤褐色微粒子	縦横成形型右回転。器形は直筒形。器口は直筒形が「く」の字状に外側し立ち上がる。	須田産

第5号窯

遺構番号 図面番号	遺構種類	出土層位 遺存層	位置 目 (cm)	構成・色調・粘土 (石質材は目録)	形状・技法等の特徴	調査
40-1250	須恵系 須恵土内 破片	Ⅰ(12.8)		灰・中・硬・灰白・内黒褐色・白色微粒子・ 褐色微粒子	縦横成形型右回転。縦横目は粗い。	須田産
40-1251	須恵系 須恵土内 破片	Ⅰ(13.4)		灰・中・軟・白灰・黒褐色・白色微粒子・ 褐色微粒子・透明微粒子	縦横成形型右回転。縦横目は粗い。器内外面に成形時の横り痕が認められる。	須田産
40-1252	須恵系 須恵土内 破片	底(6.4)		灰・中・硬・白灰・黒褐色・白色微粒子・ 褐色微粒子	縦横成形型右回転。底部は凹痕あり。器内外面に成形時の横り痕が認められる。	須田産
40-1253	須恵系 須恵土内 破片	Ⅰ(14.0)		灰・中・硬・明黄褐色・褐色微粒子	縦横成形型右回転。縦横目は粗い。	須田産
40-1254	須恵系 須恵土内 破片	底(6.4)		灰・中・硬・白灰・黒褐色・白色微粒子・ 褐色微粒子	縦横成形型右回転。高台は付け高台。内外面に成形時の横り痕が認められる。	須田産
40-1255	須恵系 須恵土内 破片	Ⅰ(13.0)		灰・中・硬・黄褐色・褐色微粒子	縦横成形型右回転。器内面に研ぎを施し粗肌を施す。使用に伴う摩滅等が認められない。器口は直筒形。	須田産か東毛産
40-1256	須恵系 須恵土内 破片	Ⅰ(17.0)		灰・中・硬・黄灰・褐色・白色微粒子 少量	縦横成形型右回転。器形は直筒形。器口は直筒形が「く」の字状に外側し立ち上がる。	須田産

第1号埋土器

遺構番号 図面番号	遺構種類	出土層位 遺存層	位置 目 (cm)	構成・色調・粘土 (石質材は目録)	形状・技法等の特徴	調査
40-1257 72	須恵系 埋土内 破片	埋土内	埋土内	灰・中・硬・赤褐色・赤褐色・黄・赤・ 透明微粒子・C粘土か	器内に灰土層を横断的に、平面的な押し引き文を模写した。	土・灰・宮内 産か
40-1258	須恵系 埋土内 破片	埋土内	残存割断面(19.2)	灰・中・硬・赤褐色・C粘土多量・褐色 微粒子少量・赤褐色	器内に灰土層を横断的に、無彫刻の押し引き文を模写した。器口は直筒形が「く」の字状に外側し立ち上がる。	東毛産

第2号埋土器

遺構番号 図面番号	遺構種類	出土層位 遺存層	位置 目 (cm)	構成・色調・粘土 (石質材は目録)	形状・技法等の特徴	調査
40-1259 72	須恵系 埋土内 破片	埋土内	残存割断面(16.6)	灰・中・硬・赤褐色・赤褐色・黄・赤・ 透明微粒子・C粘土	器内に灰土層を横断的に、押し引き文を模写した。	土・灰・宮内 産か

第1号土坑

遺構番号 図面番号	遺構種類	出土層位 遺存層	位置 目 (cm)	構成・色調・粘土 (石質材は目録)	形状・技法等の特徴	調査
40-1260	須恵系 埋土内 破片	埋土内	底(5.4)	灰・中・硬・黄褐色・褐色・褐色微粒子 ・白色微粒子・透明微粒子	縦横成形型右回転。底部は凹痕あり。器内面は研ぎを施し粗肌を施す。横り目外周にも見られる。	須田産か

富田漆田遺跡 諸元

第2号土坑

遺物番号 採取番号	遺物種 類	出土層位 遺存 厚	深 度 目 (cm) (g)	焼成・色調・粘土 (石炭材は黒目録)	形状・技法等の特徴	備 考
10-01261	須恵器 土師 環	覆土内 破片	厚1.0	灰・黄・赤・灰白・褐色胎粒子・ 白色胎粒子・黒色胎粒子	輪轆成型形石右形。胎部は胎灰赤。胎内面は研磨を施し 張り処理を施す。	漆田遺 跡第2号
10-01262	須恵器 内丸輪	覆土内 破片	高(5.4)	灰・胎・赤・黄・褐色・黒色胎粒子 (角粒状)・黄・灰・2種生地上	輪轆成型形石右形。胎部は胎灰赤。胎内面は研磨を施し 張り処理を施す。	笠原遺跡の遺物
10-01263	須恵器 土師 環	覆土内 破片	厚0.8	灰・胎・赤・黄・灰・シト質・軽い C生地上	摺り付け輪轆形石右形成型形。胎部は胎灰赤。胎内面は研磨を施し 張り処理を施す。	漆田遺跡
10-01264	須恵器 土師 環	覆土内 破片	口(14.0)	胎・黄・赤・灰 胎部・灰・C生地上	輪轆成型形石右形。胎部は胎灰赤。	輸入品
10-01265	須恵器 土師 環	覆土内 破片	高7.2	胎・黄・赤・灰 胎部・灰・C生地上	輪轆成型形石右形。胎部は胎灰赤。胎内面は研磨を施し 張り処理を施す。	輸入品

第3号土坑

遺物番号 採取番号	遺物種 類	出土層位 遺存 厚	深 度 目 (cm) (g)	焼成・色調・粘土 (石炭材は黒目録)	形状・技法等の特徴	備 考
10-01266	須恵器 土師 環	覆土内 破片	高(6.0)	胎・赤・黄・黒・白色胎粒子	輪轆成型形石右形。胎部は胎灰赤。	漆田遺跡
10-01267	須恵器 土師 環	覆土内 破片	厚0.4	胎・黄・赤・灰 胎部・灰・C生地上	輪轆成型形石右形。胎部は胎灰赤。胎内面は研磨を施し 張り処理を施す。	輸入品

第6号土坑

遺物番号 採取番号	遺物種 類	出土層位 遺存 厚	深 度 目 (cm) (g)	焼成・色調・粘土 (石炭材は黒目録)	形状・技法等の特徴	備 考
10-01268	土師 環	覆土内 破片	厚0.4	胎・胎・赤・黄・褐色・黒色胎粒子 (角粒状)・黄・灰・2種生地上	摺り付け輪轆形石右形。胎部は胎灰赤。胎内面は研磨を施し 張り処理を施す。	漆田遺跡

第13号土坑

遺物番号 採取番号	遺物種 類	出土層位 遺存 厚	深 度 目 (cm) (g)	焼成・色調・粘土 (石炭材は黒目録)	形状・技法等の特徴	備 考
10-01269	土師 環	覆土内 破片	厚0.2~0.3	胎・胎・赤・黄・褐色・黒色胎粒子・ 褐色胎粒子・C生地上か	作り。胎内面及び胎縁には研磨を施す。胎縁直下は 滑面を施す。胎内面は研磨を施す。	漆田遺跡
10-01270	須恵器 土師 環	覆土内 破片	厚(19.0)	胎・胎・赤・黄・褐色・黒色胎粒子・ 褐色胎粒子・胎灰赤	作り。胎内面及び胎縁には研磨を施す。胎縁直下は 滑面を施す。胎内面は研磨を施す。	漆田遺跡

第14号土坑

遺物番号 採取番号	遺物種 類	出土層位 遺存 厚	深 度 目 (cm) (g)	焼成・色調・粘土 (石炭材は黒目録)	形状・技法等の特徴	備 考
10-01271 72	須恵器 土師 環	覆土下層 2/3	口(13.7) 底7.0 高5.4	胎・胎・赤・黄・褐色・黒色胎粒子多 量・石炭多量	輪轆成型形石右形。胎部は胎灰赤。胎内面は研磨を施し 張り処理を施す。	漆田遺跡

第36号土坑

遺物番号 採取番号	遺物種 類	出土層位 遺存 厚	深 度 目 (cm) (g)	焼成・色調・粘土 (石炭材は黒目録)	形状・技法等の特徴	備 考
10-01272	土師 環	覆土内 破片	厚0.4	胎・胎・赤・黄・褐色・黒色胎粒子 (内 胎状)・黄・灰・2種生地上	作り。胎内面及び胎縁には研磨を施す。胎縁直下は 滑面を施す。胎内面は研磨を施す。	漆田遺跡

第43号土坑

遺物番号 採取番号	遺物種 類	出土層位 遺存 厚	深 度 目 (cm) (g)	焼成・色調・粘土 (石炭材は黒目録)	形状・技法等の特徴	備 考
10-01273	須恵器 土師 環	覆土内 破片	厚0.4	胎・黄・赤・灰・黒色胎粒子	輪轆成型形石右形。	漆田遺跡

第69号土坑

遺物番号 採取番号	遺物種 類	出土層位 遺存 厚	深 度 目 (cm) (g)	焼成・色調・粘土 (石炭材は黒目録)	形状・技法等の特徴	備 考
10-01274	須恵器 土師 環	覆土内 破片	厚0.3	胎・黄・赤・灰・黒色胎粒子	輪轆成型形石右形。	漆田遺跡

第71号土坑

遺物番号 採取番号	遺物種 類	出土層位 遺存 厚	深 度 目 (cm) (g)	焼成・色調・粘土 (石炭材は黒目録)	形状・技法等の特徴	備 考
10-01275	須恵器 土師 環	覆土内 破片	(139.0) 笠原遺跡	胎・黄・赤・灰・白色胎粒子	輪轆成型形石右形。胎部は胎灰赤。	漆田遺跡

第72号土坑

遺物番号 採取番号	遺物種 類	出土層位 遺存 厚	深 度 目 (cm) (g)	焼成・色調・粘土 (石炭材は黒目録)	形状・技法等の特徴	備 考
10-01276	織文土師 土師 環	覆土内 破片	厚0.9	胎・胎・赤・黄・褐色・黒色胎粒子	R1 胎縁の磨面施す。	漆田遺跡
10-01277	須恵器 土師 環	覆土内 破片	厚0.7	胎・胎・赤・黄・褐色・黒色胎粒子 少量	輪轆成型形石右形。胎部は胎灰赤。	漆田遺跡

第74号土坑

遺物番号 採取番号	遺物種 類	出土層位 遺存 厚	深 度 目 (cm) (g)	焼成・色調・粘土 (石炭材は黒目録)	形状・技法等の特徴	備 考
10-01278	須恵器 土師 環	覆土内 破片	高(7.0)	胎・胎・赤・黄・褐色・黒色胎粒子 (角粒状)・黄・灰	輪轆成型形石右形。胎部は胎灰赤。胎内面は研磨を施し 張り処理を施す。	漆田遺跡



富田漆田遺跡北側調査区遺構諸元

第75号土坑

遺構番号 図説番号	遺物類 品名	出土部位 遺存度	深目 (cm) 深目 (g)	構成・色調・胎土 (石室材は厚目値)	形状・技法等の特徴	調査
10-01279	須磨器 瓶	甕土内 破片	厚0.8	灰・黒・緑・灰白/丹赤白灰・灰黒 物類	作り詳細は不明、底面の厚縁顯著	甕土山か

第76号土坑

遺構番号 図説番号	遺物類 品名	出土部位 遺存度	深目 (cm) 深目 (g)	構成・色調・胎土 (石室材は厚目値)	形状・技法等の特徴	調査
10-01281	土師器 杯	甕土内 破片	□(11.0) 高(9.7)	灰・緑・黒・黄・透明磁物粒子若干・ C生地上	筒作り。口縁部は横線で平直。口縁部直下に厚縁を残す。 裾部は裏面側。	赤毛皮 M1類
10-01282	土師器 壺	甕土内 破片	厚0.6	灰・黒・赤・黄・透明磁物粒子・黒 色磁物粒子	作り詳細は不明。口縁部は横線の丁寧な面が整形。	赤毛皮
10-01283	土師器 壺	甕土内 破片	□(18.0) 頸(14.6)	灰・黒・赤・黄・透明磁物粒子・ C生地上	作り詳細は不明。裾部は「コ」の字状口縁の傾斜が認め られる。	土・笠・甕土 山か
10-01284	土師器 壺	甕土内 破片	□(20.1) 頸(16.4)	灰・黒・赤・黄・透明磁物粒子・ C生地上	作り詳細は不明。裾部は「フ」の字状口縁の傾斜が認め られる。	土・笠・甕土 山か
10-01285	須磨器 杯	甕土内 破片	□(13.0)	灰・黒・緑・灰・白色磁物少量・ 粗い	縁縁成形が不明。縁縁は引い。	秋間山か
10-01286	須磨器 杯	甕土内 破片	□(13.2)	灰・黒・赤・黄・透明磁物粒子・白色磁 物粒子・白色粒子	縁縁成形が不明。裾部は落ちる作りになっている。	笠懸成
10-01287	須磨器 杯	甕土内 破片	高(6.6)	灰・黒・赤・灰白・白色磁物	縁縁成形が不明。裾部は同形。裾部は落ちる作りにな っている。	笠懸成

第83号土坑

遺構番号 図説番号	遺物類 品名	出土部位 遺存度	深目 (cm) 深目 (g)	構成・色調・胎土 (石室材は厚目値)	形状・技法等の特徴	調査
10-01288	須磨器 杯・心皿	甕土内 破片	□(12.0)	灰・黒・赤・黄・透明磁物粒子・ 透明磁物粒子・2種生地上	縁縁成形が不明。縁部・口縁部は丸みを帯び上り。上 部は裏面側。	赤毛皮
10-01289	土師器 壺	甕土内 破片	厚0.5	灰・黒・赤・黄・石灰・黒色磁物 粒子・2種生地上	筒作り。裾部は横線の厚縁で整形。肩部は横線の寛作り。	赤毛皮

第84号土坑

遺構番号 図説番号	遺物類 品名	出土部位 遺存度	深目 (cm) 深目 (g)	構成・色調・胎土 (石室材は厚目値)	形状・技法等の特徴	調査
10-01290	土師器 杯	甕土内 破片	厚0.4	灰・黒・赤・黄・黒色磁物少量・ 透明磁物粒子・C生地上	筒作り。口縁部は横線で平直。口縁部直下に厚縁を残す。 底面は裏面側。	大・笠・甕土 山か
10-01291	土師器 壺	甕土内 破片	□(19.4) 頸(17.6)	灰・黒・赤・黄・透明磁物粒子・ C生地上	作り詳細は不明。口縁部は丁寧な面が整形。	土・笠・甕土 山か
10-01292	須磨器 杯・心皿	甕土内 破片	□(12.0) 高(6.0) 高(4.2)	灰・黒・緑・灰・白色磁物	縁縁成形が不明。底面は同形。底面は薄い。	埼玉北部
10-01293	須磨器 杯	甕土内 破片	□(12.4)	灰・黒・赤・緑・灰・白色磁物	縁縁成形が不明。口縁部は尖り形。	埼玉山か多 摩

第93号土坑

遺構番号 図説番号	遺物類 品名	出土部位 遺存度	深目 (cm) 深目 (g)	構成・色調・胎土 (石室材は厚目値)	形状・技法等の特徴	調査
10-01294	須磨器 壺	甕土内 破片	底(5.0)	灰・黒・赤・黄・黒色磁物粒子 (角状粒)・石灰	縁縁成形が不明。高台は付け高台。底片のため詳細不明。	赤毛皮

第103号土坑

遺構番号 図説番号	遺物類 品名	出土部位 遺存度	深目 (cm) 深目 (g)	構成・色調・胎土 (石室材は厚目値)	形状・技法等の特徴	調査
10-01295	縄文土器 深鉢	甕土内 破片	□(43.6)	灰・黒・赤・黄・黒色磁物粒子・ グレイタ・チャート	内底面側の破片口縁の深縁。口唇部は四方つき気味で縁縁 で整形。直下に傾く縁部を流さる。直下には、角状の 粘土を成形した敷状の厚さ(断面に付ける)と思われる。 割部縁は、渡辺部の直下から無縁帯で「S」字状の 縁部を配し、縁部の内側に凹面縁を北東面とする。 表裏面には、無縁帯との縁縁部内に凹面縁を充填する。 する。	赤毛皮
10-01296			厚1.2			
10-01297			厚1.1			
10-01298	縄文土器 深鉢	甕土内 破片	□(16.6)	灰・黒・赤・黄・黒色磁物粒子・ 石灰・白色磁物・2種生地上	内底面側で4部位の破片口縁。口唇部は無縁で縁縁で、直 下には傾く縁部を流さる。直下にL型縁部を充填する。 分厚部乃至縁部の光潤面の破片と考えられる。上部部を欠 損する。	赤毛皮
10-01288	打製石斧 打製石斧	甕土内 1/2	残長5.8 幅7.5 厚2.2 重120.1	黒色頁岩		

第110号土坑

遺構番号 図説番号	遺物類 品名	出土部位 遺存度	深目 (cm) 深目 (g)	構成・色調・胎土 (石室材は厚目値)	形状・技法等の特徴	調査
10-01299	須磨器 杯	甕土内 破片	厚0.2	灰・黒・赤・灰・白色磁物	縁縁成形が不明。底面は傾い。	埼玉北部

第111号土坑

遺構番号 図説番号	遺物類 品名	出土部位 遺存度	深目 (cm) 深目 (g)	構成・色調・胎土 (石室材は厚目値)	形状・技法等の特徴	調査
10-01300	須磨器 壺	甕土内 破片	□(13.4)	灰・黒・赤・灰・黒色磁物	縁縁成形が不明。裾部は折り高。天井部は同形縁部 が引かれていない。	赤毛皮
10-01301	須磨器 杯	甕土内 破片	□(12.4) 高(7.0) 高4.7	灰・黒・赤・灰・黒色磁物少量	縁縁成形が不明。裾部は同形突起。縁縁は非常に 浅い。秋間山産の製品とも思われる。	甕土山か

富田藩田遺跡 請元

第112号土坑

遺物番号 図面番号	遺物種類	出土層位 保存状態	深さ 目 (cm)	構成・色調・胎土 (石室材は便宜目録)	形状・技法等の特徴	備考
10-01302	土師器 甕	覆土内 破片	深0.5	黒・濃・緑・内灰白・外黒褐・内 下位・赤色胎土・石灰質・2種生地上	外面は黒毛施で胎土被覆下の内面。上半部は焼成時の色 変が認められる。内面は黒毛施で認められる。	黒毛施

第114号土坑

遺物番号 図面番号	遺物種類	出土層位 保存状態	深さ 目 (cm)	構成・色調・胎土 (石室材は便宜目録)	形状・技法等の特徴	備考
10-01303	土師器 破片	覆土内 破片	13(11.0) 底存否	黒・濃・赤・黄褐色・赤色胎土・透 明胎土胎土・2種生地上	型作り。胎内面及び口縁部は襷歯状を施す。口縁部直下は 型跡を残す甘い胎土を施す。底面は黄褐色。	黒毛施
10-01304	煎茶器 破片	覆土内 破片	残存最大径(18.2)	黒・濃・緑・灰・赤色胎土胎土	型作り長軸楕圓形胎土成形。	黒毛施

第117号土坑

遺物番号 図面番号	遺物種類	出土層位 保存状態	深さ 目 (cm)	構成・色調・胎土 (石室材は便宜目録)	形状・技法等の特徴	備考
10-01305	煎茶器 杯	覆土内 破片	底(9.0)	黒・濃・赤・明黄褐色・石灰質・2種生 地上	楕圓成形形右回転。胎土は回転赤褐色。胎厚は厚い。	黒毛施

第118号土坑

遺物番号 図面番号	遺物種類	出土層位 保存状態	深さ 目 (cm)	構成・色調・胎土 (石室材は便宜目録)	形状・技法等の特徴	備考
10-01306	土師器 杯	覆土内 破片	深0.2	黒・濃・緑・赤・黄褐色胎土・C生 地上	型作り。胎内面及び口縁部は襷歯状を施す。口縁部直下は 型跡を残す甘い胎土を施す。	太・笠・雷岡 辺か
10-01307	煎茶器 杯	覆土内 破片	底(5.4)	黒・濃・緑・灰・白色胎土胎土	楕圓成形形右回転。胎土は回転赤褐色。胎厚は厚い。	太田底

第124号土坑

遺物番号 図面番号	遺物種類	出土層位 保存状態	深さ 目 (cm)	構成・色調・胎土 (石室材は便宜目録)	形状・技法等の特徴	備考
10-01280	煎茶器 杯	覆土内 破片	13(12.0) 底(18.2)	黒・濃・赤・黄・白色胎土・C生 地上	型作り。胎内面及び口縁部は襷歯状を施す。口縁部直下は 型跡を残す甘い胎土を施す。底面は黄褐色。	太・笠・雷岡 辺か

第128号土坑

遺物番号 図面番号	遺物種類	出土層位 保存状態	深さ 目 (cm)	構成・色調・胎土 (石室材は便宜目録)	形状・技法等の特徴	備考
10-01308	煎茶器 破片	覆土内 破片	底(8.0)	黒・濃・赤・内灰白/外黒褐・黄褐色 胎土	楕圓成形形右回転。胎土は回転赤褐色。外面は襷歯により黒 毛を施す。	太・笠・雷岡 辺か
10-01309	煎茶器 破片	覆土内 破片	底(6.4)	黒・濃・赤・灰・赤色胎土胎土・ 胎土	楕圓成形形右回転。胎土は回転赤褐色。胎厚は厚い。	漆田底

第140号土坑

遺物番号 図面番号	遺物種類	出土層位 保存状態	深さ 目 (cm)	構成・色調・胎土 (石室材は便宜目録)	形状・技法等の特徴	備考
10-01310	煎茶器 杯	覆土内 破片	底(6.4)	黒・濃・緑・内灰白/外黒褐・黄褐色 胎土	楕圓成形形右回転。胎土は回転赤褐色。	雷岡山底か

第141号土坑

遺物番号 図面番号	遺物種類	出土層位 保存状態	深さ 目 (cm)	構成・色調・胎土 (石室材は便宜目録)	形状・技法等の特徴	備考
10-01311	土師器 杯	覆土内 破片	13(12.0) 底(18.2)	黒・濃・赤・黄褐色・白色胎土・C生 地上	型作り。胎内面及び口縁部は襷歯状を施す。口縁部直下は 型跡を残す甘い胎土を施す。底面は黄褐色。	黒毛施
10-01312	土師器 杯	覆土内 破片	13(12.0) 底(18.2)	黒・濃・赤・黄・透明胎土胎土少量・ C生地上	型作り。胎内面及び口縁部は襷歯状を施す。口縁部直下は 型跡を残す甘い胎土を施す。底面は黄褐色。	黒毛施
10-01313	土師器 杯	覆土内 破片	13(13.0) 底(11.8)	黒・濃・赤・黄・透明胎土胎土・C 生地上	型作り。胎内面及び口縁部は襷歯状を施す。口縁部直下は 型跡を残す甘い胎土を施す。底面は黄褐色。	黒毛施
10-01314	煎茶器 破片	覆土内 破片	13(12.0) 底(7.2) 底4.7	黒・濃・緑・灰白・赤色胎土胎土	楕圓成形形右回転。胎土は回転赤褐色。胎厚は厚い。	黒毛施

第169号土坑

遺物番号 図面番号	遺物種類	出土層位 保存状態	深さ 目 (cm)	構成・色調・胎土 (石室材は便宜目録)	形状・技法等の特徴	備考
10-01317	土師器 甕	覆土内 破片	深0.5	赤・黄・赤・黄褐色・赤色胎土胎土 胎土・透明胎土胎土胎土・2種生地上	「コ」の字状口縁。胎内面直下は襷歯の襷歯。口縁部は襷歯 の襷歯成形。	黒毛施
10-01318	土師器 破片	覆土内 破片	深0.4	赤・黄・赤・黄褐色・赤色胎土胎土 胎土・透明胎土胎土胎土・2種生地上	10-01317と同一個体。胎土の襷歯成形。 なっている。	黒毛施
10-01319	煎茶器 杯	覆土内 破片	深0.6	黒・濃・赤・黄・赤色胎土胎土・ 白色胎土胎土胎土	楕圓成形形右回転。胎土は回転赤褐色。	黒毛施

第170号土坑(1)

遺物番号 図面番号	遺物種類	出土層位 保存状態	深さ 目 (cm)	構成・色調・胎土 (石室材は便宜目録)	形状・技法等の特徴	備考
10-01320	土師器 杯	覆土内 破片	深0.3	黒・濃・赤・黄褐色・透明胎土胎土 胎土・C生地上	型作り。胎内面及び口縁部は襷歯状を施す。口縁部直下は 型跡を残す甘い胎土を施す。	太・笠・雷岡 辺か
10-01321	土師器 破片	覆土内 破片	深0.4	黒・濃・赤・黄褐色・赤色胎土胎土・透 明胎土胎土・白色胎土胎土	「コ」の字状口縁。口唇部の襷歯成形がやや強く内面襷歯に なっている。	黒毛施
10-01322	土師器 破片	覆土内 破片	深0.4	黒・濃・赤・黄褐色・赤色胎土胎土・ 透明胎土胎土胎土・2種生地上	型作りか。胎土は胎土が非常に異なる襷歯成形に似て、作りは簡 単な筈がある。	黒毛施か漆田 底

## 第170号土坑(2)

遺物番号 採取番号	遺物種 品名	出土層位 遺存層	埋 没 目 (cm) (g)	構成・色調・粘土 (石灰材は埋没目)	形状・技法等の特徴	備 考
19-0134	土師器 白付壺	層土内 破片	基(3.2)	黒・黄・赤・鈍黄緑・黒色磁粉粒子 (角粒状)・p石灰・2種生地上	肩部は縦位の蓋張り。基部は横位の襷で整形。内面は丁寧な横位の施釉で整形。	東毛産

## 第174号土坑

遺物番号 採取番号	遺物種 品名	出土層位 遺存層	埋 没 目 (cm) (g)	構成・色調・粘土 (石灰材は埋没目)	形状・技法等の特徴	備 考
19-0135	須恵系 坪か	層土内 破片	13(13.4)	黒・黄・緑・灰・白色微粒子	輪縁成形右回転。雲により立ち上がりが覆っている。	笠懸産
19-0136	須恵系 埴	層土内 破片	134.8 高6.1	黒・黄・緑・灰白・黒色粒子・白色 微粒子	輪縁成形右回転。高台は付け高台。体部が長い。胴部が 立ちた作り。体部は直線的に立ち上がる。	東毛産
19-0137	土師器 壺	層土内 破片	11(11.4)	黒・黄・赤・外暗緑/黒赤相・黒色磁 粉粒子・透明磁粉粒子・2種生地上	紐作り。外面は横位の襷で・施釉で整形。また、胴部の刺 罫が多い。内面は縦位の襷で整形。	東毛産

## 富田漆田遺跡 諸元

漆田・度目値一覧表

資料番号	器種	計測値				度目値		度目値		概要
		口径	底径	壁厚	<坏高>	口径/器高	底径/器高	<口径/器高>	<底径/器高>	
10-00585	坏	12.9	(6.2)	3.2	—	4.031	1.937	—	—	2号住居
10-00586	坏	16.1	(6.3)	5.4	—	2.981	1.166	—	—	2号住居
10-00607	坏	11.5	6.0	3.9	—	2.948	1.538	—	—	4号住居
10-00609	坏	11.6	(5.6)	4.1	—	2.829	1.365	—	—	4号住居
10-00610	坏	12.1	(6.4)	3.8	—	3.184	1.684	—	—	4号住居
10-00611	坏	12.2	(7.6)	3.4	—	3.588	2.235	—	—	4号住居
10-00612	坏	12.4	6.4	3.8	—	3.283	1.684	—	—	4号住居
10-00613	坏	12.6	6.7	3.7	—	3.405	1.8108	—	—	4号住居
10-00614	坏	12.9	(6.8)	3.9	—	3.307	1.743	—	—	4号住居
10-00615	坏	13.0	(6.0)	3.3	—	3.94	1.820	—	—	4号住居
10-00616	埴	12.95	6.9	4.6	—	2.815	1.876	3.083	1.369	4号住居
10-00618	埴	13.1	7.1	4.8	—	2.729	1.479	3.333	1.641	4号住居
10-00619	埴	13.1	7.0	4.8	—	2.729	1.794	3.333	1.794	4号住居
10-00620	埴	13.2	7.0	4.9	—	2.693	1.428	3.069	1.441	4号住居
10-00621	埴	13.5	7.4	4.9	—	2.735	1.510	3.068	1.681	4号住居
10-00623	埴	13.9	6.9	5.5	4.9	2.527	2.014	2.836	1.305	4号住居
10-00625	埴	15.4	(8.1)	5.3	5.0	2.9066	1.528	3.800	1.360	4号住居
10-00670	坏	12.1	(6.7)	3.2	—	3.781	2.093	—	—	11号住居
10-00671	坏	12.2	5.8	3.6	—	3.388	1.611	—	—	11号住居
10-00672	坏	12.6	6.4	4.2	—	3.000	1.523	—	—	11号住居
10-00673	埴	11.4	(7.6)	4.5	4.0	2.533	1.688	2.850	1.750	11号住居
10-00674	埴	12.1	6.5	4.4	3.9	2.75	1.477	3.102	1.538	11号住居
10-00679	埴	12.2	7.3	3.4	—	3.588	2.147	2.370	4.518	11号住居
10-00699	坏	12.0	(6.0)	3.3	—	3.636	1.818	—	—	16号住居
10-00700	坏	12.0	(5.8)	3.9	—	3.676	1.487	—	—	16号住居
10-00701	坏	12.0	(5.2)	4.1	—	2.936	1.268	—	—	16号住居
10-00740	坏	13.3	5.8	4.2	—	3.166	1.380	—	—	22号住居
10-00742	坏	13.1	6.2	4.5	4.2	2.911	1.377	—	—	22号住居
10-00745	埴	13.1	6.5	4.9	4.0	2.673	1.326	3.192	1.476	22号住居
10-00746	埴	13.2	7.0	4.4	5.0	2.025	1.590	3.300	1.600	22号住居
10-00747	埴	14.2	(6.6)	5.7	—	2.491	1.157	2.840	1.240	22号住居
10-00774	坏	12.1	6.2	3.9	—	3.102	1.589	—	—	26号住居
10-00819	坏	13.0	(6.0)	4.3	—	3.023	1.385	—	—	30号住居
10-00840	坏	11.7	5.6	3.8	—	3.078	1.473	—	—	31号住居
10-00841	坏	12.4	5.4	3.9	—	3.179	1.384	—	—	31号住居
10-01118	坏	11.7	(5.6)	4.1	—	2.853	1.365	—	—	56号住居
10-01119	坏	12.0	5.6	3.3	—	2.142	1.696	—	—	56号住居
10-01120	坏	12.4	6.4	4.2	—	2.952	1.523	—	—	56号住居
10-01123	坏	11.9	5.6	3.7	—	3.216	1.513	—	—	56号住居
10-01168	埴	13.6	6.9	5.7	4.5	2.385	1.210	2.385	1.210	66号住居
10-01175	埴	14.4	7.5	4.9	4.3	2.838	1.530	3.348	1.627	66号住居
10-01214	埴	12.5	6.8	5.1	4.8	2.450	1.333	2.604	1.166	1号室
10-01213	坏	13.4	(6.4)	4.2	—	3.190	1.523	—	—	1号室
10-01215	埴	14.1	(7.4)	5.2	5.0	2.711	1.423	2.820	1.480	1号室
10-01222	坏	10.9	(6.2)	3.7	—	2.945	1.621	—	—	2号室
10-01224	坏	11.6	(7.2)	3.6	—	3.222	2.000	—	—	2号室
10-01225	坏	12.0	7.1	3.9	—	3.076	1.820	—	—	2号室
10-01228	坏	12.6	(6.4)	4.8	—	2.625	1.333	—	—	2号室
10-01223	坏	11.2	(6.0)	3.9	—	2.871	1.538	—	—	2号室
10-01226	坏	12.0	(6.0)	3.6	—	3.333	1.666	—	—	2号室
10-01227	坏	12.2	(6.4)	3.6	—	3.388	1.777	—	—	2号室
10-01229	坏	12.6	(7.0)	3.4	—	3.705	2.058	—	—	2号室

資料番号	器種	計測値				度目値		度目値		概要
		口径	底径	壁厚	<坏高>	口径/器高	底径/器高	<口径/器高>	<底径/器高>	
10-01230	埴	13.4	6.4	—	4.5	—	—	2.977	1.422	2号室
10-01233	埴	13.2	(7.2)	4.6	4.0	2.869	1.565	3.300	1.650	2号室
10-01232	埴	12.8	(7.4)	4.7	4.2	2.723	1.574	3.047	1.571	2号室
10-01235	埴	13.5	7.3	4.6	4.0	2.934	1.586	3.375	1.575	2号室
10-01231	坏	13.8	(7.2)	4.0	—	3.450	1.800	—	—	2号室
10-01240	埴	13.0	7.5	3.4	—	3.823	2.205	—	—	2号室
10-01247	埴	13.0	7.2	3.4	3.4	3.082	1.714	3.823	—	3号室
10-01248	坏	13.0	(6.2)	—	—	5.4166	2.5833	—	—	3号室

# 富田下大日遺跡遺構諸元





## 富田下大日遺跡遺構諸元

### 溝状遺構

#### 第1号溝状遺構

層序：(基準線標高値110.00m)

A-A'・B-B'

1. 黒色土：As-B 多量。
2. 黒色土：As-B 多量・塊状ローム少量。
3. 黒色土：As-B 混入・塊状ローム含有。

層序：(基準線標高値108.50m)

C-C'

1. 黒褐色土：粒状C軽石少量。
2. 黒褐色土：粒状C軽石含有。
3. 暗褐色土：粒状C軽石少量。
4. 暗褐色土：粒状C軽石無し。
5. 茶褐色土：粒状C軽石無し。

所見：当溝状遺構は台地の縁辺部を巡る位置で見られていることから、土地利用上の施設と考えられる。As-Bを多量に混入するII層土ベースであることから、時期は中世以降と考えられる。

#### 第2号溝状遺構

層序：(基準線標高値110.00m)

1. 黒色土：粒状C軽石少量。
2. 黒色土：粒状C軽石含有。
3. 暗褐色土：粒状C軽石少量。
4. 暗褐色土：粒状C軽石無し。
5. 茶褐色土：粒状C軽石無し。

所見：当溝状遺構は、富田漆田遺跡の12号溝と同様に台地の走行方向に対して直角に交わる状態で、台地縁辺で見られている。溝底面は硬化した部分が所々で認められている。この状況から当該の溝状遺構も遺跡ことが推定される。時期はAs-Bが覆土中に堆積が認められたことから、時期的にはこのAs-B降下直前までが下限として考えられる。

#### 第3号溝状遺構

層序：(基準線標高値m)

所見：当溝状遺構は、富田漆田遺跡と当遺跡間の低地部分で見られている。この低地部には現在悪水路が流走している。本来は小河川の流路に当たるが、現在はこの悪水路が存在するに過ぎない。低地部では古代の遺構面として、As-B降下した水田跡が発見されている。当該の溝状遺構はこの水田跡の下大日側を台地の縁辺をなぞり流下しており、平面状では蛇行状態である。溝状遺構の幅は大凡2m程で深さ60～40cm程である。溝底は砂礫が硬くしまった状態で、溝底から30cm程の堆積土中にAs-Bの降下が確認出来る。このAs-Bの堆積状態は所々で異なり、流路が蛇行する部分では、As-Bの二次堆積を含めて堆積量が多い。特に低地部中央の蛇行部分では、二次堆積のAs-Bがオーバーフローする状態であった。

当該の溝状遺構はAs-Bに掛け流す水路の役割も含んでいたと考えられ、As-B下水田跡はこの水路側から割付している状態にも看取される。

#### 第6～8号溝状遺構

層序：(基準線標高値110.00m)

1. 灰褐色土：田表土に酸化鉄分が混入。
2. 砂層。
3. 黄茶褐色粘質土。
4. 濃黒灰褐色土：攪拌を受けている。
5. 塊状ローム。
6. 黄茶褐色土：酸化鉄分による染色が顕著。
7. 濃黒褐色土。
8. 7同質。
9. 濃灰黒褐色土：旧表土層。
10. 6近質。
11. 10同質。
12. 濃暗茶褐色土：塊状ローム混入。
13. 暗褐色土：As-B混入。

14. 暗褐色土：溝状遺構か。 15. 7号溝：暗褐色土：As-B混入。 16. 6号溝：暗褐色土：As-B褐色土。  
17. 日層土。 18. As-B（上半は追分火砕灰）。 19. VI層土。 20. 暗褐色土：塊状ローム多量。

所見：当溝状遺構は、台地の西側斜面から低地部分にかかる状態で発見されている。

6号溝はAs-Bの降下により埋没が確認されている。低地部分の黒色土面にはやはりAs-Bが降下していた。調査段階では、As-B降下水田跡の存否を考慮したが、遺構の確認は出来なかった。

7・8号溝は土地改良により埋設以前されている。

## 住居跡

### 第1号住居跡

位置：60-B・C-20/70-B・C-1。 形状：矩形。 規模：3.90m×4.20m。 主軸方位：北-28度→南。

所見：当該住居跡は表土層除去直後にVII層土（茶褐色土層）中の平面精査を実施した段階で確認させた落ち込みである。覆土は暗褐色土の溝状に確認された。この溝状の内側は確認面同様の茶褐色土で、遺物を含む当の状況は看取されなかったが、周囲の遺物包含層の遺物出土状況等を勘案して住居跡認定をした。しかし、一冬の風雨・降雪・降霜により次年度に再度平面精査を実施した段階ではこれらが確認されなかった。図化掲載した図は、平面精査直後の概念図（1：100）から作成した。

### 第2号住居跡

位置：59-S・T-13・14。 形状：梯形。 規模：4.24m×2.5m×3.3m。 主軸方位：北-112度→南。

所見：第1号住居跡と同様。

### 第3号住居跡

位置：59-O・P-10。 形状：梯形。 規模：m×m。 主軸方位：北-1度→南。

所見：

### 第4号住居跡

位置：59-N・O-7。 形状：不詳。 確認範囲の規模：3.70m×2.98m。 主軸方位：北-59度→西。

所見：当住居跡は、表土層除去直後にIX層土の確認面で発見されている。遺構確認面は、あまたの攪乱・採土により、現地表面直下30cm程でIX層土面に達している。当住居跡は、この確認面に認められた住居跡の床面と考えられた範囲を以って遺構認定を行った。以下の経緯は第1号住居跡と同様である。

### 第5号住居跡

位置：38-N・O-20/48-N・O-1グリッド。 形状：矩形。 規模：3.92m×3.66m。 主軸方位：北-1度→南。 基準辺：北西壁・南西壁。 竈規模：全長1.90m×袖部幅1.30m×燃焼部幅0.40m。

層序：（基準線標高値109.60m）

1. 黒褐色土：粒状C軽石混。
2. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状IV層土含・塊状灰化物多量。
3. 黒褐色土：粒状C軽石微量。
4. 黒褐色土：粒状C軽石微量。
5. 3層似。
6. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状ローム含有。
7. 黒褐色土：粒状C軽石混入・塊状灰化物混入。
8. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状灰褐色粘質土多量。
9. 暗褐色土：塊状VI層土少量。
10. 黒褐色土：細粒状C軽石若干・塊状塊土混入・灰混入。
11. 暗褐色土：細粒状C軽石含有・粗粒状ローム含有・塊状土粒含有。
12. 黒褐色土：塊状V層土含有・塊状土粒含有。
13. 暗褐色土：塊状塊土微量。



所見：当住居跡は南側傾斜面部の東寄りに位置している。比較的整った矩形を呈し壁溝も認められている。電は東壁中央よりやや南東隅部よりでしっかりした左袖の基部は地山を削り出している。傍電坑はビット状である。掘方は住居跡中央部で不正形状の土坑状の掘り込みが認められるが、縄文時代の土坑の可能性も考慮される。埋土は暗褐色である。出土遺物は、住居跡の中央よりやや北壁に寄った部分から10-00026土師器甕が覆土内から、10-00027須恵器碗が南壁沿いの覆土内から出土している。時期は9世紀中頃と考えられる。

#### 第6号住居跡

位置：38-N・O-18・19。形状：横長方形。規模：3.20m×4.76m。主軸方位：北-118度→東。基準辺：北西壁。竈規模：全長1.90m×袖部幅1.80(約1.20)m×燃焼部幅0.80m。ビット1：-0.51m・ビット2：-0.20m・ビット3：-0.20m・ビット4：-0.08m・ビット5：-0.20m・ビット6：-0.21m・ビット7：-0.20m・ビット8：-0.29m。

層序：(基準線標高値108.90m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石混入。
2. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状IV層土量。
3. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状IV層土多量。
4. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状ローム多量・粗粒状ローム多量。
5. 黒褐色土：粒状C軽石少量・粗粒状ローム少量。
6. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状ローム混入・粗粒状ローム混入。
7. 黒褐色土：細粒状C軽石若干・塊状ローム多量。
8. 塊状ローム主体。
9. 黒褐色土：細粒状C軽石微量・焼土粒含有。
10. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状ローム少量・焼土粒微量。
11. 黒褐色土：微粒状C軽石若干・塊状ローム多量・塊状焼土少量・塊状褐色粘質土微量。
12. 黒褐色土：微量C軽石微量・塊状焼土混入・塊状炭化物混入・塊状褐色粘質土少量。
13. 暗褐色：粒状ローム混入・焼土粒少量。
14. 暗褐色：粒状ローム若干・焼土粒微量。

所見：当住居跡は5号住に近接し、7号住を切り構築している。形状は電周りがやや特殊である。南側隅部と電の間を大きく掘削し、電右袖が巨大化した如くの状態にしてある。このため、左袖は右袖に長さを合せているため、長い舌状で屋内に突出する形になっている。傍電坑は極めて小規模なビット状である。また、P<sub>2</sub>は床面で確認できたが、掘り方面では濁った褐色土を多く含む土で埋設された状態であった。P<sub>7</sub>は床面上では隙が部分的に出土していたが、大半の部分がこのビットに埋まった状態で、調査時は掘方に伴うビットとして調査実施した。時期は9世紀中頃と判断される。

#### 第7号住居跡

位置：38-N・O-18・19。形状：矩形か。規模：3.28+αm×3.60m。主軸方位：北-144度→東。基準辺：北東壁。竈規模：第6号住居跡により破壊消滅。

層序：(基準線標高値108.90m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石含有。
2. 黒褐色土：粒状C軽石若干・粗粒状ローム混入。
3. 黒褐色土：細粒状C軽石若干・塊状ローム含有・粒状ローム混入。

所見：当住居跡は電周りを6号住に切られ電を失っている。出土遺物も殆ど得られず、掘り方も認められなかった。このため住居跡の時期は不明である。

#### 第8号住居跡

位置：38-N-15・16。形状：横長方形。規模：2.62m×3.54m。主軸方位：北-131度→東。基準辺：北西壁。竈規模：全長0.44+αm×袖部幅1.02m×燃焼部幅0.50m。

層序：(基準線標高値108.40m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石混入。
2. 黒褐色土：粒状C軽石含有。
3. 黒褐色土：細粒状C軽石少量。
4. 黒褐色土：細粒状C軽石少量・塊状炭化物含有。
5. 黒褐色土：微粒状C軽石微量。
6. 暗褐色：微粒状C軽石微量。
7. 黒褐色土：微粒状C軽石微量・塊状ローム少量。
8. 黒褐色土：粒状C軽石少量・焼土粒少量。

9. 黒褐色土・微粒状C軽石微量・粒状焼土多量。 10. 黒褐色土：細粒状C軽石少量・焼土粒多量・塊状褐色土。  
11. 黒褐色土：細粒状C軽石少量・焼土粒含有。

**所見**：当住居跡は南暖斜面部の南端、地形もほぼ平坦になった部分に占地している。電の煙道調査区外に延びている。この煙道部分は調査区界を境に公道が通っていたため拡張は断念した。住居跡の構造は、傍電坑は認められず、西隅部にピットが発見されている。電は上述の如く全容は知れていないが、電掘方は認められなかった。両坑は地山を掘り残して小規模化している。出土遺物は、小形化した環10-00043・00044と器厚の厚い土師器壺10-00045・00046がある。時期は、傍電坑が失われ西隅部にピットを設けていることと、出土遺物から10世紀中頃と考えられる。

### 第9号住居跡

**位置**：38-O-15/38-P-14・15。 **形状**：横長方形。 **規模**：2.60m×3.98m。 **主軸方位**：北-129度→東。 **基準辺**：北西・北東壁。 **電規模**：全長1.18m×袖部幅0.75m×燃焼部幅0.40m。

**層序**：(基準線標高値108.40m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石混入。 2. 黒褐色土：粒状C軽石含有。 3. 黒褐色土：細粒状C軽石少量・塊状ローム少量。  
4. 細粒状C軽石微量・塊状褐色土。 5. 黒褐色土：粒状C軽石混入・焼土粒含有。  
6. 黒褐色土：微粒状C軽石微量・塊状褐色土多量。 7. 黒褐色土：細粒状C軽石若干・灰褐色粘質土含有。  
8. 暗褐色土：粒状C軽石少量・塊状褐色土含有。 9. 黒褐色土：微粒状C軽石微量・粒状ローム少量・塊状褐色土混入。  
10. 黒褐色土：細粒状C軽石若干・塊状ローム少量・塊状褐色土混入。 11. 灰褐色粘土層。 12. 塊状褐色土主体。  
13. 黒褐色土：細粒状C軽石若干・塊状ローム少量・塊状褐色土多量・灰褐色粘質土含有。  
14. 黄褐色粘質土・塊状ローム・塊状焼土の混入。 15. 暗褐色土：微粒状C軽石微量・焼土粒含有・粒状炭化物含有。  
16. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状ローム混入・粒状ローム混入。

**所見**：当住居跡も南暖斜面部の南端で、地形も平坦になった部分で23号住を切り占地している。このため、住居跡はローム層を掘り込んではいなかった。そして、調査段階は、覆土と地山土の識別が困難であったことから、南東壁側を大きく掘り過ぎたため南東壁を失っている。住居跡は電が南隅部寄りに構築され、傍電坑も形骸化した皿状の浅い構造で、西隅部にオーバーハングするピットを備えている。出土遺物は、内黒土師器壺10-00050と暗文土師器壺(内面未焼し)10-00051、須恵器埴壇10-00052～00055、土師器壺10-00056、獸脚付き鍋の足部10-00058～00060等が出土している。獸脚付き鍋の足部は、43号住10-00414が図上復元出来ている個体と同一胎土の個体で県外からの搬入品である。これらの出土遺物は当遺跡で最も新し要素を備える一群である。これらの点から、当住居の時期は10世紀前半と考えられる。

### 第10号住居跡

**位置**：39-A・B-16・17。 **形状**：矩形。 **規模**：3.22m×3.58m。 **主軸方位**：北-129度→東。 **基準辺**：北西壁。 **電規模**：全長0.8m×袖部幅1.14m×燃焼部幅0.40m。

**層序**：(基準線標高値108.90m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石混入。 2. 黒褐色土：粒状C軽石含有。 3. 黒褐色土：粒状C軽石少量。  
4. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状ローム少量。 5. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状ローム混入。  
6. 黒褐色土：粒状C軽石少量。 7. 黒褐色土：細粒状C軽石微量。  
8. 黒褐色土：細粒状C軽石微量・塊状ローム若干・粒状ローム含有。 9. 黒褐色土粒状C軽石混入・焼土粒含有。  
10. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状焼土主体。 11. 黒褐色土：細粒状C軽石微量・焼土粒少量。  
12. 黒褐色土：細粒状C軽石微量・粒状焼土含有。 13. 黒褐色土：粒状C軽石若干・焼土粒含有・塊状褐色土・粒状炭化物含有。  
14. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状ローム多量・粒状ローム混入。

**所見**：当住居跡は南側暖斜面部に占地する。確認段階は縦長形状の住居跡と判断していたため、セクション設定位置を縦長形状の想定で設定した。しかし、調査の進行に伴い、当住居跡は矩形を呈することが判明し

た。このためセクション。位置が北西壁側に偏った。位置になってしまっている。住居跡形状は、寛が南隅部に寄った。位置に設定され、電右袖は傍電坑に接続する。位置になっている。また、西隅部にもピットの掘り込みが認められる。出土遺物は少なかったが、漆田産須恵器境を含んでいる。時期は9世紀末～10世紀初頭と考えられる。

#### 第11号住居跡

位置：39-C-16。形状：横長方形。規模：2.66m×3.24m。主軸方位：北-131度→東。基準辺：北西壁-南西壁。竈規模：全長0.70m×袖部幅1.20m×燃焼部幅0.70m。

層序：(基準線標高値108.80m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石多量。
2. 黒褐色土：粒状C軽石混入。
3. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状ローム混入。
4. 黒褐色土：粒状C軽石少量。
5. 塊状ローム層。
6. 暗褐色：粒状C軽石少量・粒状ローム含有。
7. 黒褐色土：粒状C軽石混入・焼土粒少量。
8. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状焼土含有。
9. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状焼土混入・焼土粒含有。
10. 黒褐色土：細粒状C軽石微量・塊状焼土少量・焼土粒含有・粒状炭化物含有。
11. 黒褐色土：細粒状C軽石若干・塊状焼土少量・焼土粒若干・粒状炭化物含有。
12. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状ローム多量。

所見：当住居跡は南暖斜面部に占地している。住居跡はP<sub>1</sub>以外の掘方は電以外に認められなかった。電は小規模で南隅部寄りに構築している。また、掘方は外形線の内側(燃焼空間部分)で若干認められた程度で、底面でも掘方は認められなかった。傍電坑は小形ピット状である。また西・北隅部でもピットの施設を伴っている。出土遺物は、漆田産埴類が出土している。時期は9世紀後半～10世紀初頭頃と考えられる。

#### 第12号住居跡

位置：38-S・T-15・16。形状：横長方形。規模：2.92m×3.67m。主軸方位：北-143度→東。基準辺：北西壁-北東壁。竈規模：全長1.08m×袖部幅1.26m×燃焼部幅0.26m。

層序：(基準線標高値108.50m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石多量。
2. 黒褐色土：粒状C軽石混入・塊状ローム少量。
3. 黒褐色土：粒状C軽石含有。
4. 黒褐色土：粒状C軽石少量。
5. 黒褐色土：細粒状C軽石微量・塊状ローム多量。
6. 塊状黒褐色土・塊状ローム混入層。
7. 黒褐色土粒状C軽石含有・焼土粒若干。
8. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状灰褐色粘質土含有。
9. 黒褐色土：粒状C軽石少量・灰褐色粘質土混入。
10. 塊状焼土層。
11. 黒褐色土：微粒状C軽石微量・塊状焼土少量・粒状炭化物少量。
12. 黒褐色土：粒状C軽石若干・塊状焼土少量・粒状炭化物含有。
13. 灰褐色粘質土層。
14. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状焼土含有。
15. 黒褐色土：粒状C軽石少量住居跡・塊状ローム少量・焼土粒混入。

所見：当住居跡は南側暖斜面部に占地する。住居跡は床面に炉・台石を伴う事から小鍛冶の住居跡と推定される。住居跡の構造は、電がやや南隅部に寄っていることと、傍電坑の上端は住居上端と共有する状態で、さらに西隅部にもピットを伴っている。電の両袖は大きめで燃焼空間の幅は狭く奥行きがある。この燃焼部は大きく4カ所に掘られている礎により構成されている。この内側は概ね30cm程度の円筒を支える空間になっている。土師器壺の最大径は大体20～23cm、出土している10-00091の最大径は23cmである。この土師器壺をこの燃焼部に架けるにはやや広い。何らかの別な支えの必要性がある。

出土遺物は、退化段階の「コ」の字状口縁土師器壺や漆田産に擬せる須恵器境の出土もある。住居跡の時期は9世紀後半を含め10世紀前半頃と考えられる。

#### 第13号住居跡

位置：38-A-14・15/39-T-14・15。形状：横長方形基調。規模：2.99～2.60m×1.56m。主軸方位：

北-119度→東。 基準辺：北西壁。 電規模：全長1.10m×袖部幅1.19m×燃焼部幅0.37m。

層序：(A・A'・B・B' 基準線標高値108.40m) (電基準線標高値108.30m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石多量・粗粒状C軽石含有。
2. 黒褐色土：粒状C軽石混入・粒状ローム少量。
3. 黒褐色土：粒状C軽石少量。
4. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状ローム少量。
5. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状土含有。
6. 黒褐色土：粒状C軽石。
7. 粒状C軽石微量・塊状ローム混入。
8. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状ローム含有。
9. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状ローム混入。
10. 黒褐色土：塊状ローム・塊状褐色土混入。
11. 塊状焼土層。
12. 黒褐色土：粒状C軽石若干・塊状焼土混入・焼土粒多量・塊状ローム少量。
13. 塊状焼土主体層。
14. 黒褐色土：粒状C軽石混入・塊状ローム含・塊状焼土含有。
15. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状焼土含有・塊状ローム混入。
16. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状焼土含有・塊状ローム混入。
17. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状黒褐色土混入。塊状焼土含有。

所見：当住居跡は南側傾斜面部の地形がやや平坦になった部分に占地している。東側には12号住が近接し、東隅部側が15号住を切っている。また、同部分が歪んだ状態になっているが、これは掘り過ぎに原因するのではなく、既に住居跡廃棄段階での状況である。住居跡形状は、小形である事もあるが竈は傍電坑に寄っている。電は燃焼空間の短い形態で、数次にわたる改築が確認できる。傍電坑は上端が住居跡の南隅部の上端と重複する状態である。隅部のピットは西で小規模で北で傍電坑に匹敵する規模で設けている。出土遺物は、退化段階の「コ」の字状口縁土師器甕10-00110-00111、漆田産坯10-00112、同塊10-00113が出土している。また、傍電坑周辺の床面直上層から鉄槌40-00014が出土している。小鍛冶が隣接する12号住であり、小鍛冶ではない当住居跡から出土するのは不可解であるが、竈の形態を見る限りは当住居跡が12号住より新しい要素を備えている。このことから、当住居跡が12号住より新しいと考えられ、鉄槌は12号住廃棄後に当住居跡に持ち込まれた可能性が推定される。住居跡の時期は住居跡形態（電）・出土遺物から9世紀末～10世紀初頭と考えられる。

#### 第14号住居跡

位置：38-S-14・15/38-T-15。 形状：縦長方形。 規模：4.02m×2.82m。 主軸方位：北-141度→東。 基準辺：北西壁か。 電：未発見。

層序：(基準線標高値108.40m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石混入。
2. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状ローム混入・塊状焼土微量。
3. 黒褐色土：粒状C軽石少量。
4. 黒褐色土：粒状C軽石含有・粒状ローム含有。
5. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状ローム含有。
6. 黒褐色土：粒状C軽石微量。
7. 黒褐色土：細粒状C軽石含有・粒状ローム混入。

所見：当住居跡は電を備えないことから、遺構種として住居跡を冠せないが、調査進行段階での遺物収納等の問題もあり名称変更は行わなかった。新旧関係では15号住を切る事が平面積査により明らかになっている。電以外では、比較的床面がはつきりしていたことから、単なる土坑とも異なるかと判断できる。抽象的には縦穴状遺構である。出土遺物も少量が出土しただけである。出土遺物の中では10-00123土師器台付小形甕は10世紀中頃が推定され、須恵器坯10-00124は9世紀前半頃と推定される。前者を探れば10世紀中頃か時期の目安と考えられる。

#### 第276号土坑

位置：38-S-14。 形状：楕円形。 規模：1.48m×0.74m×0.40m。 主軸方位：北-28度→東。

層序：(基準線標高値)

1. 暗褐色土：白色軽石含有・塊状褐色土混入。
2. 暗褐色土：白色軽石含有・粒状ローム含有。

#### 第15号住居跡

位置：38-S-T-14・15/39-A-15。 形状：正方形。 規模：7.23m×7.21m。 主軸方位：北-83度→

東。基準辺：南・西壁。 竈規模：全長1.30m×袖部幅0.80m×燃焼部幅0.37m。

層序：(基準線標高値108.30m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石混入。
2. 暗褐色土：粒状C軽石少量。
3. 暗褐色土：粒状C軽石少量・塊状ローム混入。
4. 暗褐色土：粒状C軽石含有・塊状ローム含有。
5. 黒褐色土：粒状C軽石含有。
6. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状ローム含有。
7. 暗褐色土：粒状C軽石少量・塊状ローム含有・粗粒状ローム混入。
8. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状ローム含有。
9. 暗褐色土：粒状C軽石少量・塊状ローム少量・塊状褐色土含有。
10. 暗褐色土：塊状ローム主体。
11. 暗褐色土：塊状ローム含有。
12. 暗褐色土：塊状ローム混入・粒状ローム混入。
13. 暗褐色土：塊状ローム主体。
14. 暗褐色土：塊状ローム含有・粒状ローム混入。
15. 暗褐色土：塊状ローム含有・粒状ローム含有。
16. 塊状ローム・塊状暗褐色土の混入(塊状ローム主体)。
17. 暗褐色土：粒状C軽石少量・小塊状灰褐色粘質土含有。
18. 暗褐色土：粒状C軽石少量・灰褐色粘質土混入・焼土粒含有。
19. 暗褐色土：小塊状灰褐色粘質土混入・炭化物少量・焼土粒含有。
20. 灰層。
21. 灰褐色粘質土。
22. 暗褐色土と灰褐色粘質土の混入。
23. 粒状灰褐色粘質土。
24. 塊状焼土・塊状灰褐色粘質土主体・灰含有。
25. 暗褐色土・塊状ロームの混入・焼土粒含有。
26. 暗褐色土・灰褐色粘質土の混入・小塊状ローム含有。

所見：当住居跡は南側暖斜面部が平坦気味になる部分に占地する。重複関係では、12～14号住に切られ、この中で14号住は電部分で重複している。このため、電の遺存がやや不良になっている。住居跡は支柱穴4本と南東隅部に平面正方形基調の貯蔵穴を伴っている。電は左袖を僅かに地山を掘残し、煙道部を若干屋外側に掘り込んでいる。使用時はこれに灰褐色粘質土で被覆し器設部を設けたと思われる。袖は屋内側に長く伸び、先端部に土師器臺を倒立させ、焚口部天井にはやはり土師器臺を架けている。燃焼部の中央程には礫による支脚を据えている。掘方面では、この支脚の据え方ピットが発見されている。住居の掘方では、中央部と電部分周辺を平坦に掘残し南北西壁下の部分を深く掘り込んでいる。この様子は当時の地上面に4壁の辺を設定後、この地上面に引かれた線に従って掘り込んだ事が推定出来る。出土遺物は多く、電周辺に集中する傾向が認められた。住居跡の時期は、住居跡の平面形状と出土遺物から6世紀中頃と考えられる。

#### 第16号住居跡

位置：39-C・D-14・15。 形状：横長方形。 規模：3.24m×5.50m。 主軸方位：北-110度→東。 基準辺：北・東壁。 竈規模：全長0.86m×袖部幅1.30m×燃焼部幅1.00m。

層序：(基準線標高値108.50m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石含有。
2. 暗褐色土：粒状C軽石含有・塊状焼土・被熱シルトの混入(電陶材の投棄か)。
3. 黒褐色土：粒状C軽石含有・焼土粒少量。
4. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状ローム混入・塊状焼土混入。
5. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状褐色土混入。
6. 黒褐色土：粒状C軽石少量・焼土粒少量・塊状ローム混入。
7. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状褐色土混入。
8. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状褐色土混入。
9. 暗褐色土：粒状C軽石少量・塊状ローム少量。
10. 暗褐色土：粒状C軽石少量・塊状褐色土含有。
11. 黒褐色土・塊状ロームの混入。
12. 黒褐色土：粒状C軽石混入・焼土粒少量。
13. 黒褐色土：粒状C軽石混入・塊状褐色土混入・焼土粒少量。
14. 黒褐色土：粗粒状C軽石少量・塊状ローム少量。

所見：当住居は暖斜面部の西端で南隅部側が調査区外に延びている。形状は当遺跡で最も横長な長方形を呈している。竈は小形で、掘方も顕著ではなく右袖の基部部分が地山を掘り残している。使用面でも焼土等の使用痕跡が少なく、比較的短期間の使用とも思われる。掘方は電の前方部分で土坑状の掘り込みが発見され、同部分周辺での貼床状の造床土が認められただけである。また、北側隅部側に寄った部分では、確認面直下(覆土上層)で、同一面的に礫が集中して出土している。調査段階では、当該以外の新しい時期の住居跡の竈を想定し調査したが、被熱、掘方等の状況は未確認であった。この調査段階の所見では、廃棄された礫と判断した。出土遺物は破片類のみで詳細な時期を知る手掛かりには成らなかったが、住居跡形状等から概ね9世紀末～10世紀初頭頃と思われる。

### 第17号住居跡

位置：39-B・C-13・14。形状：横長方形。規模：2.95m×3.26m。主軸方位：北-114度→東。基準辺：北東壁か。竈規模：全長1.33m×袖部幅1.28m×燃焼部幅0.32m。

層序：(基準線標高値108.60m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石含有。
2. 黒褐色土：粒状C軽石少量・粒状炭化物多量・粗粒炭化物含有。
3. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状褐色土混入。
4. 暗褐色土：粒状C軽石若干・塊状褐色土含有。
5. 暗褐色土：微粒状C軽石微量・粒状炭化物若干。
6. 暗褐色土：粗粒状C軽石含有。
7. 塊状ローム。
8. 暗褐色土・塊状ロームの混土。
9. 塊状焼土・灰等の混土。
10. 黒褐色土・塊状焼土の混土。
11. 黒褐色土：焼土粒含有・塊状焼土若干。

所見：当住居跡は西側1/3程が調査区外に延びている。住居跡は27号住と重複している。住居跡は比較的小形が横長方形を呈すと考えられる。南隅部は調査区外に延びており、傍竈坑の存否に就いては未確認であった。竈周辺の状況では、少なくとも露呈された床面上では痕跡等の状況も認められない。更に調査区外に延びている可能性も考慮される。竈は、礫を多用し燃焼部壁の補強を行っている。また、底面では双脚の支脚が発見され、並架式の器設構造であることが窺知される。燃焼空間は奥壁までの奥行きが短い形で、煙道開口部には扁平な礫を据え、熱の遮断を意図したことが推測され、並架式の特長とも言える。富田漆田遺跡17号住と共に並架式の竈構造典型であろう。出土遺物は土師器壺10-00166が竈滝口付近の床面直上から床面直上層、10-00167・00168が燃焼部内で出土している。また、住居跡内全面の床面直上層には、ワラ状の炭化物を多量に含み、この床面直上層中から有袋鉄弁40-00020が出土しその周辺から鎖径20-00021や棒状の鉄器が出土している。鎖径は一つの鎖の長さが概ね3cmで、分銅部分も高さ3cmである。鎖は痕跡等から9連1分銅で復元長30.0cmである。この復元長は1尺に相当している。恐らく、水深を測る様なことに用いられたものと考えられる。住居跡の時期は出土から9世紀後半ころと推定される。

### 第18号住居跡

位置：39-A・B-13。形状：横長方形。規模：2.58m×3.33m。主軸方位：北-98度→東。基準辺：不詳。竈：表層の擾乱により殆どが消滅する。掘方の一部のみ残存。

層序：(基準線標高値108.20m)

1. 暗褐色土：細粒状C軽石含有・塊状焼土含有。
2. 暗褐色土：細粒状C軽石少量・塊状粘土多量。
3. 暗褐色土：細粒状C軽石微量・塊状ローム少量。

所見：当住居跡は25号住に切られている。そして、出土した住居跡自体非常に浅いことから遺存状態が非常に不良である。竈も僅かな痕跡程度ある。出土遺物も自ずと状況は悪く破片類しか出土していない。この点で時期は下限が25号住として、遺物からは9世紀中頃と思われる。

### 第19号住居跡

位置：39-B・C-12・13。形状：正方形か。規模：2.62+α(4.30mか)m×4.30m。主軸方位：北-50度→東。基準辺：四辺か。竈規模：全長1.22m×袖部幅0.95m×燃焼部幅0.56m。

層序：(基準線標高値108.00・108.60・108.60m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石混入・塊状褐色土混入。
2. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状褐色土含有。
3. 黒褐色土：粒状C軽石少量。
4. 黒土：粒状C軽石多量(IV層土近隣)。
5. 黒土：粒状C軽石少量・粒状ローム少量。
6. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状褐色土多量・粒状ローム少量。
7. 黒褐色土：粒状ローム多量・塊状褐色土多量。
8. 黒褐色土：細粒状C軽石微量・粒状ローム少量。
9. 塊状ローム主体・塊状黒褐色土少量。
10. 黒褐色土：粒状C軽石混入・塊状褐色土含有・塊状ローム少量・塊状焼土少量。
11. 黒褐色土：粒状C軽石少量・粒状ローム多量。
12. 焼土層。
13. 黒褐色土・塊状焼土の混土。
14. 黒褐色土・灰の混土。
15. 灰層。

16. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状ローム少量・塊状ローム多量・塊状褐色土微量・塊状焼土含有。 17. 灰褐色粘質土。  
18. 黒褐色土：小塊状ローム混入。 19. 9近質。

**所見**：当住居跡は西側半分が調査区外に延びている。住居跡は4本支柱・貯蔵穴を伴う構造と推定される。柱間は2m弱、36cm尺では6単位が推定される。規模・形状では20号住と同規模である。竈は壁際に煙道孔を設け、屋内側に主体部分を備える構造である。掘方は竈前縁側で不定形な雷電山産か上の掘り込みが多く、その意図は不明である。出土遺物は少量の土師器と須恵器類1点が出土している。時期は6世紀中頃と考えられる。

#### 第20号住居跡

**位置**：38-T-12・13/39-A-12・13。 **形状**：正方形。 **規模**：4.60m×4.70m。 **主軸方位**：北-69度50分→東。 **基準辺**：4壁。 **竈規模**：全長1.00m×袖部幅1.33m×燃焼部幅0.49m。

**層序**：(基準線標高値108.20m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状IV層土含有・塊状ローム含有・塊状褐色土混入・塊状灰褐色粘質土含有。
2. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状IV層土混入・塊状褐色土含有。 3. 黒褐色土：細粒状C軽石微量・塊状褐色土多量。
4. 塊状V層土・VI層土。 5. 暗褐色土：細粒状C軽石微量・塊状褐色土含有。 6. 黒褐色土・塊状ローム混入。
7. 黒褐色土：粒状C軽石混入・塊状褐色土含有。
8. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状褐色土微量・塊状焼土少量・塊状灰褐色粘質土少量。 9. 塊状灰褐色粘質土・塊状焼土含有。
10. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状IV層土含有・塊状褐色土混入・塊状ローム微量。 11. 塊状灰褐色粘質土・塊状焼土混入。
12. 灰褐色粘質土。 13. 暗褐色土：小塊状ローム混入・塊状褐色土混入。

**所見**：当住居跡は暖斜面部の末端で、ほぼ平坦になった部分で発見されている。住居跡の構造は、4本支柱・貯蔵穴を伴う構造である。柱間は2m弱、36cm尺では6単位が推定される。規模・形状では19号住の復元値と同規模である。掘方は竈前縁部分が最も高く西・南側が低く掘り込まれている。出土遺物は皆無で、覆土の大半は埋設されている。時期は19号住と同時期の6世紀中頃と推定される。

#### 第21号住居跡

**位置**：38-T-10・11/39-A-10・11。 **形状**：横長方形。 **規模**：(4.50m)×(3.40m)。 **主軸方位**：北-20度→東。 **基準辺**：不詳(東壁か)。 **竈規模**：全長1.46m×袖部幅1.10m×燃焼部幅0.62m。

**層序**：(基準線標高値108.10m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石多量。 2. 黒褐色土：粒状C軽石混入。 3. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状褐色土含有。
4. 暗褐色土：細粒状C軽石含有・塊状褐色土多量。 5. 暗褐色土：細粒状C軽石少量・塊状褐色土少量。
6. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状ローム少量。 7. 硬質粘質ローム土。 8. 暗褐色土：細粒状C軽石若干・塊状褐色土多量。
9. 黒褐色土：粒状C軽石多量・焼土粒微量。 10. 黒褐色土：rv含有・塊状暗茶褐色粘土含有。
11. 黒褐色土：細粒状C軽石少量・塊状暗茶褐色粘土・硬質粘質暗茶褐色粘土。 12. 黒褐色土：細粒状C軽石微量・焼土粒少量。
13. 暗褐色土：焼土粒含有。 14. 22号住居跡覆土。 15. 麗文土灰か。

**所見**：当住居跡は暖斜面部の末端で、ほぼ平坦になった部分で発見されている。住居跡は22号住を切り構築している。調査段階では平面精査を行ったものの、形状の把握は出来なかった。このため、22号住の形状を優先して土層断面位置の設定を行い調査した。このため、掲載図は土層断面から復元した状態である。このため、詳細に就いては不明である。出土遺物も土師器類である。しかし、この状況下覆土下層に傾く状態で鉄製鋤先40-00023が出土している。鋤先の先端側は既に研減が進んだ状態で緩やかな曲線を描いている。そして、この鋤先の砥石と考えられる輝石安山岩が竈右袖材に転用されている。住居跡の時期は、竈形状・出土遺物から概ね9世紀中頃と考えられる。

### 第22号住居跡

位置：38-T-10・11/39-A-10・11。 形状：正方形基調。 規模：5.70m×5.90m。 主軸方位：北-67度40分→東。 基準辺：北西壁。 竈規模：21号住居跡の破壊により詳細不詳。

層序：(基準線標高値108.10m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石混入・塊状褐色土少量。
2. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状褐色土混入。
3. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状ローム含有。
4. 黒褐色土：粒状C軽石含有・焼土粒少量・粒状ローム含・粒状炭化物含有。
5. 暗褐色土：粒状C軽石含有・塊状ローム含有・粒状ローム少量。
6. 暗褐色土：粒状C軽石少量・小塊状ローム少量。
7. 暗褐色土：細粒状C軽石微量・塊状白灰色粘質土含有。
8. 黒褐色土：細粒状C軽石微量・焼土粒少量(21号住居跡竈部方)。
9. 黒褐色土：細粒状C軽石若干・焼土粒少量・塊状焼土含有。
10. 塊状灰褐粘土。
11. 黒褐色土：細粒状C軽石若干・塊状ローム混入。
12. 黒褐色土：細粒状C軽石若干・塊状ローム混入・塊状焼土含有。
13. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状灰褐粘土少量・塊状焼土少量。
14. 黒褐色土：粒状C軽石混入・塊状褐色土含有。
15. 黒褐色土：細粒状C軽石微量・塊状褐色土混入。
16. 黒褐色土：細粒状C軽石微量・塊状ローム少量・粒状ローム含有。
17. 黒褐色土：細粒状C軽石微量・塊状ローム混入。

所見：当住居跡は暖斜面部の末端で、ほぼ平坦になった部分で21号住に切られて発見される。住居跡の構造は、4本支柱・貯蔵穴を併う構造である。柱間は2.5m強、36cm尺では7単位が推定される。掘方は住居跡の中央部が高く、四壁下側に向かい深く掘り込まれている。古墳時代の住居掘方の典型である。出土遺物はP<sub>1</sub>貯蔵穴で土師器環集類が中して出土している。また、覆土内では口縁直下に孔を穿つ須恵器泉瓦、長脚1段透かしの高坪片が出土している。住居跡の時期は6世紀前半頃と推定される。

### 第23号住居跡

位置：38-P・Q-14・15。 形状：矩形。 規模：3.16m×3.52m。 主軸方位：北-121度→東。 基準辺：北西壁。 竈規模：9号住に切られ消滅。

層序：(基準線標高値108.40m)

17. 黒褐色土：粒状C軽石含有。
18. 黒褐色土：粒状C軽石若干。
19. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状ローム含有・粒状ローム少量。
20. 黒褐色土：塊状ローム含有・粒状ローム混入。

所見：当住居跡は9号住に切られ竈周りを失っている。このため、住居跡の構造は不明な事が多い。出土遺物は大半が破片であった。この中で10-00072は形骸化した「コ」字状口縁土師器台付小形甕である。時期は、この土師器台付小形甕から推定すれば10世紀前半頃と考えられるが、9号住との新旧関係に矛盾が生ずる。層的には9号住より古期の9世紀代と考えられる。

### 第24号住居跡

位置：38-M・O-15・16。 形状：横長方形。 規模：2.90m×3.94m。 主軸方位：北-133度→南。 基準辺：北西・南西壁。 第2竈規模：全長1.12m×袖部幅1.50m×燃焼部幅0.70m。

層序：(基準線標高値108.50m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石混入。
2. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状褐色土少量。
3. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状褐色土含有。
4. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状褐色土含有・焼土粒微量。
5. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状褐色土含有・焼土粒含有。
6. 黒褐色土：細粒状C軽石少量・塊状灰褐色粘土少量。
7. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状灰褐色粘土多量。
8. 黒褐色土：細粒状C軽石微量・焼土粒若干。
9. 黒褐色土：粒状C軽石少量。
10. 黒褐色土：細粒状C軽石少量・塊状暗褐色土含有。
11. 暗褐色土：細粒状C軽石微量・塊状褐色土多量。
12. 暗褐色土：微粒状C軽石若干・塊状褐色土多量。
13. 暗褐色土：微粒状C軽石微量・塊状褐色土少量。
14. 灰褐粘土。
15. 黒褐色土：細粒状C軽石微量・塊状褐色土多量・焼土粒含有。
16. 黒褐色土：粒状C軽石完形・焼土粒含有。
17. 塊状灰褐粘土・焼土粒層。
18. 塊状焼土。
19. 暗褐色土：焼土粒含有。
20. 1近質。
21. 黒褐色土：細粒状C軽石少量。
22. 褐色粘質土主体。
23. 暗褐色土：褐色粘質土。
24. 黒褐色土：粒状C軽石褐色土。
25. 黒褐色土：塊状灰褐粘土多量。
26. 塊状焼土・塊状灰褐粘土の混土。
27. 暗褐色土：微粒状C軽石若干・細粒状焼土粒少量。



**所見：**当住居跡は暖斜面部の末端で、ほぼ平坦になった部分で1号溝に切られて発見される。住居跡は坑窓が二箇所で発見されている。第1竈は南隅部で、第2竈は南東壁中央で発見されている。第1竈は、住居存続中に廃棄され、同部分を修築住居の隅部に設え直している。第2竈は、2段階の状況が推定される。第2竈構築当初は、隅部を意識し、第1竈修築後の壁の崩壊を恐れてか屋外側に隅部を作り出す状態にしている。その後、第2竈の改築に伴い同部分を埋設し、改めて竈を構築している。この段階では右袖が、隅部を切り崩す状態になっている。恐らくこの状況から、隅部を埋設したものと推測される。調査段階で露呈できた竈は、コジマリとした作りである。出土遺物は土器器臺10-00243が第2竈内から出土している。また鉄器鋤先の土器器が覆土内から出土している。住居跡の時期は10世紀初頭前後と思われる。

#### 第25号住居跡

**位置：**39-B-12・13。 **形状：**横長方形。 **規模：**3.18m×3.84+ $\alpha$ m。 **主軸方位：**北-127度→東。 **基準辺：**南東壁。 **竈規模：**全長1.15m×袖部幅1.46m×燃焼部幅0.76m。

**層序：**(基準線標高値108.20m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石混入・塊状褐色土微少量。
2. 黒褐色土：粒状C軽石多量・塊状褐色土混入・塊状IV層土含有。
3. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状褐色土混入・塊状ローム微量。
4. 2同質。
5. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状褐色土多量。
6. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状ローム多量。
7. 黒褐色土：粒状C軽石少量。
8. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状褐色土少量。
9. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状褐色土混入・褐灰色塊状粘土少量・塊状塵土微量。
10. 褐灰色塊状粘土主体。
11. 10同質。
12. 黒褐色土：粒状C軽石若干・塵土粒少量・褐灰色塊状粘土少量。
13. 黒褐色土・褐灰色塊状粘土の混土。
14. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状ローム含有。
15. 塊状ローム主体・塊状暗褐色含有。
16. 黒褐色土・粒状C軽石微量・褐色軽石混入。

**所見：**当住居跡は暖斜面部の末端で19号住を切り構築されている。住居跡は南東壁中央に竈を備えている。

竈は「コ」の字の燃焼部に単脚の支脚を備えている。傍竈坑は南隅部でも南西壁下部分に備えている。位置では富田漆田遺跡の第VII段階の位置になっている。また、傍竈坑の深度は深く床面下-32cmほどに底面を設けている。掘方は北隅部側に向かう壁下で顕著で、東隅部では土坑状に掘り込まれたP<sub>2</sub>が出土している。出土遺物では土器器環10-00250、酸化焰焼成の須恵器環・塊10-00251~00253が出土し、鉄器では研滅により瘦せた鎌の破片が出土している。住居跡の時期は10世紀前半頃と考えられる。

#### 第27号住居跡

**位置：**39-B・C-13・14。 **形状：**横長方形か。 **規模：**3.06m×2.80+ $\alpha$ m。 **主軸方位：**北-114度→南。 **基準辺：**北東壁か。竈は17号住の破壊により消滅。

**層序：**(基準線標高値108.60m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石多量・粒状ローム多量・塊状褐色土含有。
2. 黒褐色土：粒状C軽石若干・粒状ローム多量・粗粒状ローム少量・塊状褐色土少量。
3. 黒褐色土：粒状C軽石微量・粒状ローム多量・小塊状ローム若干。
4. 黒褐色土・塊状ロームの混土。

**所見：**当住居跡は暖斜面部で17号住に完全なまでに重複している。調査段階では1軒の住居跡ではないか程度も断面の精査を行ったが、17号住の範囲までは極度に炭化物を含む覆土であるの対して、当該住居跡に認定した部分では、炭化物は一切含まれない状態であった。このことから、当該住居跡を認定した。形状等は17号住の重複により判然としない部分が多い。時期は概ね9世紀代と思われる。

#### 第29号住居跡

**位置：**38-Q・R-17・18。 **形状：**横長方形。 **規模：**2.60m×4.82m。 **主軸方位：**北-125度→南。 **基**

準辺：不詳。 竈規模：全長0.70m×袖部幅(1.50)m×燃烧部幅0.66m。

層序：(基準線標高値109.00m・108.60m)

1. 黒褐色土：細粒状C軽石若干・焼土粒含有・粒状炭化物少量。
2. 暗褐色土：粒状ローム少量・焼土粒混入。
3. 暗褐色土：焼土粒含有。

所見：当住居跡は暖斜面部が平坦気味になった部分に占地している。住居跡は、縄文遺構の確認トレンチを調査中に発見された。当初の確認精査段階でも住居跡の存在は疑われていたが、斜面部末端の複雑な土層堆積により無理な認定は控えた。このため、トレンチ調査の段階で確認された住居跡である。このため、住居跡はトレンチにより破壊してしまった部分がやや多い。住居跡は横長方形を呈し、長短辺の比率は16号住に類似している。竈は南隅部寄りに位置し、傍竈坑は未発見である。竈は縄文時代の礫器類を多く使用し、袖部分の補強に主に用いられている。また、左袖が屋内側に長めに延びている。燃烧空間は屋外側には張り出さず、奥壁までは短かい状態で立ち上がる。出土遺物は竈部分にのみ認められている。住居跡の時期は形状と遺物から10世紀前半頃と思われる。

### 第30号住居跡

位置：38-R・S-15・16。 形状：矩形。 規模：2.94m×3.12m。 主軸方位：北-129度→南。 基準辺：北東壁・南東壁か。 竈規模：全長1.11m×袖部幅1.60m×燃烧部幅0.55m。

層序：(基準線標高値108.60m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石含有。
2. 黒褐色土：粒状C軽石S・塊状褐色土斑状混。
3. 茶褐色土：細粒状C軽石微量・塊状褐色土斑状混。・塊状ローム含有。
4. 茶褐色土：粒状C軽石認められない。
5. 暗褐色土：塊状ローム斑状混。
6. 4同質。
7. 暗褐色土：粒状C軽石認められない・塊状ローム含有。
8. 黄褐色土：塊状ローム少量(主体)。
9. 黒褐色土：粒状C軽石混入・焼土粒微量。
10. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状焼土若干・焼土粒含有。
11. 暗褐色土：塊状灰褐粘質土少量・塊状焼土含有・焼土粒含有。
12. 暗褐色土：細粒状C軽石微量・塊状褐色土少量。
13. 暗褐色土：細粒状C軽石微量・塊状褐色土斑状混。
14. 灰褐粘質土。
15. 13同質。
16. 暗褐色土：細粒状C軽石微量。
17. 黒褐色土：細粒状C軽石少量。
18. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状ローム含有。

所見：当住居跡は暖斜面部が平坦気味になる部分の占地である。確認時の状況は29号住と同様である。住居跡は竈を南東壁の中央からやや南隅部に寄った部分に構築している。竈は左右の袖が屋内側に大きい。傍竈坑は南隅部直下でピット状で小規模である。また、北隅部直下でもピット状の掘り込み含繊維・発見されている。出土遺物は竈・東隅部側に寄った部分でやや集中する傾向で、床面から遊離した状況が多い。出土須恵器・埴輪は漆田産の製品が多く、羽釜類も漆田産と考えられる製品である。住居跡の時期は住居跡形状では9世紀中頃に推定されるが、出土遺物に漆田産が漆田産浮く含まれることから、長期に亘る住居の使用も考えられる。

漆田産の須恵器の年代観では、9世紀末～10世紀初頭頃である。

### 第31号住居跡

位置：38-S-16・17。 形状：横長方形。 規模：3.20m×4.06m。 主軸方位：北-129度→南。 基準辺：南西・北西壁か。 竈規模：全長1.00m×袖部幅1.66m×燃烧部幅0.14m。

層序：(基準線標高値108.60m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石少量。
2. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状褐色土斑状混。
3. 黒褐色土：微粒状C軽石微量。
4. 黒褐色土：粒状C軽石少量。
5. 暗褐色土：粒状C軽石微量・塊状褐色土斑状混・塊状ローム含有。
6. 茶褐色土：粒状C軽石認められない・塊状褐色土斑状混。
7. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状ローム少量。
8. 黒褐色土・塊状ローム・の混土。
9. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状浅黄褐色粘土混入。
10. 黒褐色土：細粒状C軽石微量・焼土粒少量。
11. 焼土粒・塊状焼土主体。
12. 黒褐色土：粒状C軽石微量・焼土粒少量・粒状炭化物混入。
13. 焼土層。

**所見：**当住居跡は暖斜面部が平坦気味になる部分の占地である。確認時の状況は29号住と同様である。住居跡は床面の起伏が顕著。竈は南東壁の中央部分に構築している。小規模気味な竈ではあるが、燃焼部の奥壁は短めで立ち上がり、燃焼部左右の壁は礎による補強がされている。底面下には顕著な焼土層と裏込めに塊状焼土を用いることから、掘換えが確認出来る。傍竈坑は南隅部に設けている。掘方は北東壁・南西壁下側が顕著で、北隅部周辺から北東壁直下で壁柱穴が7箇所で見えられている。また、中央周辺には土坑状の掘り込みが目立つが、特異な状況は確認出来なかった。時期は住居跡形状では9世紀を色濃く残し、竈は9世紀末葉、出土遺物は10世紀前半頃の特徴を示している。

### 第32号住居跡

**位置：**38-1・T-16・17。 **形状：**矩形。 **規模：**4.20m×(3.65)m。 **主軸方位：**北-125度→南。 **基準辺：**北東壁。 **竈規模：**全長1.16m×袖部幅0.8m×燃焼部幅0.45m。

層序：(基準線標高値109.40m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石混入。
2. 黒褐色土：粒状C軽石含有。
3. 黒褐色土：粒状C軽石少量。
4. 暗褐色土：粒状C軽石少量。
5. 黒褐色土：粒状C軽石若干・粒状灰化物含有。
6. 1近置。

**所見：**当住居跡は暖斜面部の中位程に占地している。当住居も確認時の状況は29号住と同様である。住居跡の平面形は梯形を呈しているが、南西側乃至北西壁側壁の掘削不足か、北隅部の過剰な掘り過ぎに原因している。また、東隅部に見られる礎は地山内の礎で、当時掘削時に露呈されたままで取り残してそのままの状態で使用している。竈は南東壁中央からやや南隅部に寄っている。傍竈坑は長方形にやや傾く形状で南西壁下側に寄った状態である。出土遺物は竈・傍竈坑周辺で出土が多い。土師器壺10-00303～00305は、頸部の成形形に棒状工具を多用している。須恵器壺10-00297には足高高台の傾向が見れている。また、鉄器では40-00036～00039が束ねられた状態で出土している。この4本の鉄器は、刀子3本・鎌1本で、恐らく布・皮等に包まれていたことが推定出来る。このほか、10-00040は、姿が刀を思わせるが重ねが薄いことから刀とは思えない。刃部の重ねが薄いことから、紙等の厚みの無い物を切っていたと考えられる。時期は10世紀前半頃が推定される。

### 第33号住居跡

**位置：**38-T-20/39-A-20。 **形状：**横長方形。 **規模：**2.86m×3.57m。 **主軸方位：**北-99度→南。 **基準辺：**西・北壁。 **竈規模：**全長0.86m×袖部幅0.74m×燃焼部幅0.50m。

層序：(基準線標高値109.80m)

1. 黒褐色土：粗粒状C軽石多量。
2. 黒褐色土：粒状C軽石混入。
3. 赤褐色土：粒状C軽石含有・塊状ローム多量・粗粒状ローム多量。
4. 粒状ローム多量。
5. 暗褐色土：微粒状粒状C軽石微量。
6. 塊状ローム主体・赤褐色土含有。
7. 黒褐色土：粒状C軽石混入。
8. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状褐色粘土含有。
9. 褐色粘質土。
10. 焼熟焼土。
11. 暗褐色土：焼土粒微量。
12. 暗褐色土：焼土粒多量・塊状焼土多量。
13. 暗褐色土：焼土粒微量。
14. 暗褐色土：焼土粒含有。
15. 灰・灰化物層。
16. 褐色粘質土層。

**所見：**当住居跡は暖斜面部中位部分で縄文時代の34号住を切っている。当住居も確認時の状況は29号住と同様である。住居跡は東壁側が曲線を描く状態である。竈は東壁中央からやや南東隅部に寄った位置で傍竈坑に接し、屋外側に突出する状態で構築されている。左右の袖は、殆ど見られず小瘤状の状態である。土遺物は竈・傍竈坑周辺で出土している。須恵器杯・瑠璃は孰れも酸化焙焼成である。住居跡の時期は10世紀前半頃と考えられる。

### 第34号住居跡

位置：49-E・F-4・5。形状：横長方形。規模：3.72m×4.24m。主軸方位：北-80度→東。基準辺：西・北壁。竈規模：全長1.62m×袖部幅1.14m×燃烧部幅0.54m。

層序：(基準線標高値110.90m)

1. 塊状IV層土。
2. 黄褐色土：塊状ローム主体・粒状C軽石若干。
3. 暗褐色土：塊状ロームS・粒状C軽石若干。
4. 暗褐色土：塊状ローム若干・粒状C軽石若干。
5. 茶褐色土：大塊状ローム塊状混・粒状ローム多量・粒状C軽石微量。
6. 黒褐色土：粒状C軽石少量・塊状ローム微量。
7. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状ローム少量。
8. 茶褐色土：粒状ローム多量・塊状ローム含有。
9. 茶褐色土：塊状ローム塊状混・粒状ローム混入。
10. 暗褐色土：焼土粒多量・塊状焼土少量粒状炭化物含有・粒状C軽石微量。
11. 茶褐色土：塊状ローム多量。
12. 暗褐色土：細粒状C軽石含有。
13. 暗褐色土：細粒状C軽石含有・塊状ローム含有。
14. 塊状暗褐色土の被熱土。
15. 暗褐色土：微粒状C軽石微量・塊状焼土混入・焼土粒混入。
16. 塊状焼土・焼土粒層。
17. 黒褐色土：粒状炭化物多量。

所見：当住居跡は台地上に占地している。住居の形状は隅丸を強く帯びている。顕著な掘方は認められないが、竈前面から中央部にかけて皿状に浅く認められる。竈の掘方は殆ど認められず、改築は無かったか有っても1回程度と考えられる。

### 第35号住居跡

位置：48-R・S-4・5。形状：楕円形。規模：5.60m×4.60m。主軸方位：北-105度→南。基準辺：なし。炉規模：長0.82m×幅0.9m。

層序：(基準線標高値111.00m)

1. IV層土。
2. 暗褐色土：白色軽石少量・黄褐色粒子含有。
3. 茶褐色土：白色軽石少量・粒状ローム含有。
4. 褐色土：白色軽石少量。

所見：当住居は暖斜面部中位部分に占地する。住居跡はトレンチ調査により断面で確認された。中央部周辺は、暗褐色土の堆積が認められるもの、壁に向いローム質に近い発色になる。この傾向は縄文時代の住居跡に共通する傾向である。床・壁とも明瞭な特徴は看取されなかった。また、床面精査を何度も実施したが、柱穴等の施設は未発見であった。

### 第36号住居跡

位置：48-S・T-2・3。形状：円形基調。規模：軸長5.00m・最大径5.40m。主軸方位：北-172度→東。基準辺：なし。炉規模：径0.75m×深度0.17m。

層序：(基準線標高値110.60m)

1. 暗褐色土。
2. 茶褐色土：白色軽石少量。
3. 濁褐色土：塊状濁褐色土・白色軽石含有。粒状ローム含有。
4. 茶褐色土。
5. 褐色土。
6. 濁褐色土・焼土粒微量。
7. 暗褐色土：粒状ローム若干・を微量。
8. 濁褐色土：塊状ローム若干・白色軽石少量。

所見：当住居は暖斜面部中位部分に占地する。住居跡はトレンチ調査により断面で確認された。立ち上がりは明確には看取されなかったが、覆土のやや濁った発色の褐色土が切れるところを立ち上がりとした。炉跡は部分的に礫が欠落するが、トレンチ調査に原因するものではなく、住居の崩壊遺構に抜き取られたと考えられる。

### 第37号住居跡

位置：48-Q・R-2・3。形状：隅丸五角形。規模：5.72m×5.10m。主軸方位：北-117度→南。基準辺：なし。炉規模：長0.64+ $\alpha$ m×幅0.74m。

層序：(基準線標高値110.40m)

1. 褐色土：塊状暗褐色土少量。 2. 暗褐色土：白色軽石少量・塊状褐色土少量。 3. 褐色土：塊状、暗褐色土含有・白色軽石少量。  
 4. 茶褐色土：白色軽石少量・塊状ローム含有・粒状ローム含有焼土粒微量。 5. 茶褐色土：塊状ローム少量。 6. Ⅷ層土。  
 7. Ⅷ層土：塊状ローム混入。 8. Ⅷ層土（ローム土）。 9. 3同質。 10. 茶褐色土：白色軽石少量・焼土粒少量・粒状炭化物微量。  
 11. 褐色土：焼土粒含有・粒状炭化物少量。

**所見**：当住居は暖斜面部中位部分に占地する。住居跡はトレンチ調査により断面で確認された。立ち上がりは明確には看取されなかったが、覆土のやや濁った発色の褐色土が切れるところを立ち上がりとした。炉跡は部分的に跡が欠落するが、トレンチ調査に原因するものではなく、住居の廃棄遺構に抜き取られたと考えられる。支柱穴を伴う。軸方向頂部側の柱穴は未発見であるが、住居形状にそぐう5本五角形の配置だと推定される。また、 $P_1 \cdot P_3$ は住居の中心方向に向い内傾した状態であった。上屋構造を支える物理的な処置であったと考えられる。

### 第38号住居跡

**位置**：38-P・Q-20/48-P・Q-1。 **形状**：隅丸胴張り正方形。 **規模**：4.70m×4.72m。 **主軸方位**：北-189度→南。 **基準辺**：なし。 **炉規模**：長0.57m×幅0.60m。

**層序**：(基準線標高値109.80m)

1. 暗褐色土：白色軽石少量・粒状ローム微量。 2. 茶褐色土：白色軽石少量・塊状ローム少量。 3. 褐色土：粒状ローム含有。  
 4・5. Ⅷ層土。 6. Ⅷ層土。 7. 暗褐色土：白色軽石少量・塊状褐色土含有・塊状ローム少量・焼土粒少量。  
 8. 暗褐色土：焼土粒少量・塊状褐色土含有。 9. 茶褐色土：焼土粒少量・粒状炭化物少量。

**所見**：当住居は暖斜面部中位部分に占地する。住居跡はトレンチ調査により断面で確認された。立ち上がりは明確には看取されなかったが、覆土のやや濁った発色の褐色土が切れるところを立ち上がりとした。炉跡は部分的に跡が欠落するが、トレンチ調査に原因するものではなく、住居の廃棄遺構に抜き取られたと考えられる。支柱穴を伴うが、深度の良好なピットは $P_2 \cdot P_4 \cdot P_7$ の3本である。この3本の配置からは、葦き降ろしの円錐形状の上屋構造が想定される。また、床面直上で出土している礫は敷石を推測させるが、配列・配置を早期させる状況は認められなかった。

### 第39号住居跡

**位置**：38-N・O-20/48-N・O-1。 **形状**：楕円形。 **規模**：5.72m×4.20m。 **主軸方位**：北-210度→南。 **基準辺**：なし。 **炉規模**：径0.98m。

**層序**：(基準線標高値109.30m)

1. 茶褐色土：塊状褐色土多量・白色軽石微量・塊状ローム少量・粒状ローム少量。  
 2. 暗褐色土：塊状褐色土斑状混入・白色軽石少量・塊状ローム若干・粒状ローム少量。  
 3. 茶褐色土：粗粒状粒状ローム混入。 4. 黄褐色土：塊状焼土含有。

**所見**：当住居は暖斜面部中位部分に占地する。住居跡はトレンチ調査により断面で確認された。斜面部の低地寄りに占地する。このために、覆土は当該期の住居跡の中では覆土の発色が最も暗く、暗褐色土の堆積も多かった点が他の住居跡とは大きく異なっている。

炉跡は軸よりやや東偏している。ほぼ中央南北に炉石を据えるが、1石しか発見できなかった。また、他の石の抜き取りが有ったのか、その確認を行ったが、具体的な状況は未確認であった。支柱穴は壁沿いに出土したピットの中の深度で判断されようが、顕著な差異も無く分明に限定することは困難であると考えられる。出土遺物は当該期の中でも比較的多いが、大半の遺物は中央に集中し、床面より避難するものが大半であった。

#### 第40号住居跡

位置：49-A-2・3。形状：横長方形。規模：3.60m×2.78m。主軸方位：北一度118→南。基準辺：北東・北西壁。竈規模：全長0.86m×袖部幅0.98m×燃焼部幅0.61m。

層序：(基準線標高値110.70m)

1. 暗褐色土：粒状C軽石含有。 2. 暗褐色土：粒状C軽石少量・粒状ローム含有・粒状炭化物含有。
3. 暗褐色土：細粒状C軽石少量・粒状ローム含有。 4. 暗褐色土：微粒状C軽石微量・粒状炭化物含有。
5. 暗褐色土：微粒状C軽石若干・粒状炭化物含有・塊状ローム含有。 6. 茶褐色土：粒状C軽石少量・塊状ローム含有。
7. 黒褐色土：細粒状C軽石少量・焼土粒少量。 8. 暗褐色土：粒状C軽石微量。
9. 褐色土：粒状炭化物含有・焼土粒含有・塊状ローム含有。 10. 褐色土：塊状ローム含有。 11. 茶褐色土：粒状炭化物含有。
12. 黄褐色土：塊状ローム少量。

所見：当住居は暖斜面部中位部分に占地する。住居跡の床面は平坦である。立ち上がりは、廃棄遺構の壁の崩壊を想起させるほど緩やかな状態であるが、覆土に壁の崩壊を示す様子は認められなかった。掘方では、浅い小規模の土坑状の掘り込みが認められた。また、当該期の住居跡では最も高所に占地している34号住居跡に形状の類似が認められる。

#### 第41号住居跡

位置：39-B-20。形状：不整形円形。規模：長軸4.58m×幅3.8+αm。主軸方位：北一度6→南。基準辺：なし。炉規模：長0.57m×幅0.54m×深度0.40m。

層序：(基準線標高値110.00m)

1. VI層土（暗褐色土層）に同質。 2. 黄茶褐色土：白色軽石少量。 3. 茶褐色土：粒状炭化物少量・塊状褐色土含有。
4. 暗褐色土：粒状炭化物含有・白色軽石少量・塊状褐色土粒状混。 5. 暗褐色土：粒状炭化物少量。
6. 茶褐色土：塊状褐色土含有。 7. 茶褐色土：塊状褐色土少量。 8. 褐色土：粒状ローム少量。

所見：当住居は暖斜面部中位部分に占地する。当住居跡は、33号住の調査段階で炉跡が壁面に露呈、これにより当跡の存在が明らかになった。平面形状は歪んだ状態だが、採算に亘る平面精査により決定した。また、立ち上がりは僅かなローム土が認められ、これにより壁認定を行った。炉跡は石囲炉で完存状態であった。炉の礫は、南・北・西は掘り込みに埋め込む状態のしっかりした据え方をしているが、東面は生活面上に置いた状態である。これは、炉内部の清掃を容易にするためと推測される。

#### 第42号住居跡

位置：48-K・L-1・2。形状：横長方形。規模：1.90m×3.50m。主軸方位：北-128度→南。基準辺：北西・北東壁。竈規模：全長1.06m×袖部幅1.04m×燃焼部幅0.56m。

層序：(基準線標高値109.00m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石混入・塊状ローム混入。 2. 黒褐色土：粒状C軽石混入。 3. 黒褐色土：粒状C軽石少量。
4. 暗褐色土：細粒状C軽石若干・塊状褐色土粒状混。 5. 暗褐色土：細粒状C軽石微量・塊状褐色土少量。
6. 浅黄褐色：被熱粘質土。 7. 暗褐色土：焼土粒少量。 8. 塊状焼土少量被熱粘質土。
9. 黒褐色土：塊状焼土含有・焼土粒少量・粒状炭化物混入。 10. 暗褐色土：粒状C軽石微量・粗粒状ローム。

所見：当住居跡は台地縁辺に占地している。住居跡は床・壁ともに地山、暗褐色土を使用しており、住居掘方は未発見であった。同様に竈も掘方は認められず、天井部の被覆粘土が被熱状態で発見されている。この竈以外の施設は未発見であった。また、床面下で発見されている5号土坑は、当住居の床面も当該部には殆ど窪み状態になっていないため、当住居の構築以前には埋没状態であったと考えられる。

## 第43号住居跡

位置：38-K・L-19。 形状：横長方形。 規模：2.22+ $\alpha$ m×3.74m。 主軸方位：北-約130度→南。

基準辺：北西・北東壁か。 竈：未発見。

層序：(基準線標高値108.40m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石混入。
2. 黒褐色土：粒状C軽石含有。
3. 黒褐色土：細粒状C軽石若干。
4. 暗褐色土：微粒状C軽石微量。

所見：当住居跡は台地縁辺に占地している。住居跡の東側半分程は道路・電柱支柱により調査不能であった。被覆土には、As-Bの下層(追分火砕流)が残存していた。調査区内でAs-Bが確認出来たのは当住居跡の土層断面だけであった。また、台地縁辺に構築された住居は、床面にローム土を用いず、暗褐色土層中に構築している。当該住居跡も床面は、暗褐色土で掘方は認められなかった。

## 第44号住居跡

位置：38-K-8-19。 形状：矩形。 規模：2.58m×3.00+ $\alpha$ m。 主軸方位：北-135度→東。 基準辺：

北東壁。 竈規模：全長1.28m×袖部幅1.04m×燃焼部幅0.50m。

層序：(基準線標高値108.40m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石含有。
2. 黒褐色土：粒状C軽石含有・粒状炭化物住居跡・焼土粒微量。
3. 黒褐色土：粒状C軽石少量。
4. 黒褐色土：粒状C軽石少量・焼土粒含有。
5. 黒褐色土：細粒状C軽石微量・粒状炭化物含有・焼土粒混入。
6. 暗褐色土：細粒状C軽石微量。

所見：当該住居跡も台地縁辺に構築する住居である。床面は暗褐色土を用い、掘方は認められなかった。竈も表土層の攪乱が部分的に達していたため、状態はあまり良好とはいえない状態であった。

## 第45号住居跡

位置：49-B・C-13・14。 形状：正方形基調。 規模：5.65m×5.84m。 主軸方位：北-78度→南。

基準辺：四壁。 竈規模：全長1.35m×袖部幅1.08+ $\alpha$ m×燃焼部幅0.42m。

層序：(基準線標高値111.70m)

1. 黒色土：粗粒状C軽石多量。
2. 黒色土：細粒状C軽石多量。
3. 黒色土：粒状C軽石・粗粒状ローム含有。
4. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状ローム塊状。 5. 塊状ローム主体・黒褐色土動房含有。
6. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状ローム含有。
7. 5同質。
8. 黒褐色土：粒状C軽石含有塊状ローム多量。
9. 黒色土：粒状C軽石少量・焼土粒少量。
10. 黒褐色土：細粒状C軽石含有。
11. 茶褐色土：粒状C軽石含有。
12. 茶褐色土：粒状C軽石含有。
13. 塊状黒褐色土・塊状ローム・粒状ロームの混土。
14. 黒褐色土：塊状ローム含有。
15. 黒褐色土：粒状C軽石含有。
16. 黒褐色土：粒状C軽石微量・塊状灰色シルト主体。
17. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状焼土多量・粗粒状焼土混入。
18. 黒褐色土：粒状C軽石含有・塊状焼土多量。
19. 灰色シルト。
20. 黄褐色灰色シルト。
21. 焼土化灰色シルト。

所見：当住居跡は確認段階でIV層土の残存としている部分と認識しているため、旧石器の試掘調査時に確認された。そのため、南側を破壊している。

住居跡は北壁と南壁の規模に40cm程の差異があり、平面形状が梯形を呈している。しかし、南壁が他の壁に比較して40cm長い造りになっているだけで、元来は5.70m前後の規模の正方形であったことが推測される。竈は器設部に壘2個体を据えた状態で発見され、燃焼部に転倒するか状態で小形壘が、焚口天井の補強に壘2個体を用いている。調査の断面観察所見では、廃棄以前に最低1回以上の改築が施された状況が看取されている。また、左袖は攪乱により袖の左半分を失っている。この左袖は、東壁の中央に当たっている。出土遺物は、上述の竈内のほかに、右袖の基部周辺に坏と胴部を欠損する壘が逆位で出土しており、P<sub>1</sub>(貯蔵穴)と東壁の間から、壘・小形壘・甔・須臾器坏蓋が出土している。この竈及び竈周辺以外では、北壁寄りで脚付きの短頭

壺が出土している。住居の掘方は、隅部で掘り込み含繊維、認められている。

住居の平面規格は主柱穴の配置が壁から4単位(尺)の位置に設定している。しかし、南北壁の規模の相違は、主柱穴の配置状態から、元来、16単位(尺)の構造で規格があったことが判断でき、上述の一辺5.70m前後の規模の規格であったことが窺知出来る。

#### 第46号住居跡

位置：49-K・L-15・16。形状：隅丸縦長方形。規模：4.00m×2.95m。主軸方位：北-28度→南。

基準辺：東壁。竈規模：全長0.75m×袖部幅0.80m×燃焼部幅0.43m。炉規模：全長0.83m×幅0.45m

層序：(基準線標高値111.50m)

1. 黒褐色土：粒状C軽石混入。
2. 黒褐色土：粒状C軽石含有。
3. 茶褐色土：微粒状C軽石少量。
4. 暗褐色土：粒状C軽石少量・塊状焼土若干・焼土粒含有。
5. 暗褐色土：粒状C軽石少量・小塊状ローム少量・焼土粒含有。
6. 茶褐色土：細粒状C軽石少量・焼土粒含有。
7. 暗褐色土：細粒状C軽石若干・粒状ローム少量。
8. 黒褐色土：粒状C軽石混入・焼土粒混入。
9. 被熱粘質土：(a：鈍黄橙・b：濁灰褐シルト)。
10. 茶褐色土：(被熱土)粒状C軽石混入・焼土粒混入。
11. 鈍黄橙被熱土：焼土粒含有(ソフトローム状)。
12. 濁灰褐シルト(やや被熱)。
13. 濁灰褐シルト。
14. 茶褐色土：濁灰褐シルト少量。
15. 被熱焼土。
16. 暗茶褐土：粒状C軽石少量・焼土粒少量。
17. 茶褐色土：塊状焼土微量・焼土粒少量。
18. 10同質。
19. 濁灰褐シルト。
20. 塊状ローム。
21. 黒褐色土：粒状C軽石混入・焼土粒混入。
22. 赤褐色：顕著な被熱層。
23. 赤褐色土：被熱層。

所見：当住居跡は台地稜線より西側斜面に占地する。主軸をほぼ南北に採る唯一の住居跡である。当住居跡の特徴は、炉と竈を併用することである。炉は、屋内中央に主軸方向に長軸を採る長楕円状を呈しているが、瓢形状にもとれ、2時期の重複とも思われる。断面では、北側の被熱層が厚く、移設を推測させる。竈は、屋外への掘り込みが認められない初期の様相で、馬蹄形状を呈している。支脚には、高坏の坏部を逆位にして据えている。

#### 第47号住居跡

位置：48-T・S-5・6。形状：楕円形か(詳細不分明)。規模：(4.88)m×(4.2)m。主軸方位：

北-115度?→南。基準辺：なし。炉規模：長0.54m×幅0.62m。

層序：(基準線標高値110.70m)

1. 茶褐色土：焼土粒少量・白色軽石若干。
2. 暗褐色土：粒状ローム含有・小塊状ローム含有。

所見：当住居跡はトレンチ調査の段階で確認された。トレンチ調査の段階では、住居周辺の上層に当たる部分でやや出土遺物が多かったため、途中で調査方針を変えた。しかし、トレンチ内はローム面露呈に掛かっていたことから床面の確認作業に主眼を置いた。図中に示した範囲は、やや濁った茶褐色土の範囲をもって住居跡の大凡の範囲とした。

#### 第48号住居跡

位置：49-D・F-7・8。形状：不整形。規模：4.48m×4.00m。主軸方位：北-14度→南。基準

辺：なし。炉：未発見。

層序：(基準線標高値111.60m)

1. 茶褐色土：白色軽石含有・粒状ローム少量。
2. 茶褐色土：粒状ローム含有小塊状ローム若干。

所見：当住居は台地上に占地する。トレンチ調査時に遺物の集中分布が認められたため、トレンチを拡張して地山面まで掘り下げ平面精査を行った。この結果、不整形形状の落ち込みが確認出来た。



## 第49号住居跡

位置：38-Q-15・16。 形状：矩形（横長方形）。 規模：2.50m×2.98m。 主軸方位：北-115度→南。  
基準辺：北西・北東壁。 竈規模：全長1.12m×袖部幅1.14m×燃焼部幅0.50m。

層序：（基準線標高値108.60m）

1. 黒褐色土：粒状C軽石含有。
2. 黒褐色土：粒状C軽石少量。
3. 黒褐色土：粒状C軽石混入・塊状ローム少量。
4. 黒褐色土：粒状C軽石含有。
5. 黒褐色土：細粒状C軽石散量。
6. 暗褐色土：粒状C軽石若干・塊状ローム少量。
7. 塊状ローム主体。
8. 黒褐色土：粒状C軽石含有。
9. 褐色粘質土。10. 褐色粘質土の焼熟。

所見：当住居は南暖斜面部の平坦気味になった縁辺部に位置する。住居跡はIV層土の遺構確認面では確認出来なかったため、縄文遺構の確認トレンチと平行してトレンチ確認調査に移行して確認された。トレンチで確認後は周辺をV層土面まで掘り下げ平面確認を実施して調査に至った。新旧関係では、当住居の北隅部が50号住居跡に切られている。住居は横幅がやや短い造りで矩形上を呈する。又、形状も比較的整っていて、四壁の下端は朝鮮走行している。

## 第50号住居跡

位置：38-Q-16・17。 形状：横長方形。 規模：2.90m×4.0m。 主軸方位：北-121度→南。 基準辺：  
北西・北東壁。 竈規模：全長1.00m×袖部幅1.30m×燃焼部幅1.00m。

層序：（基準線標高値108.70m）

1. 黒褐色土：粒状C軽石含有。
2. 黒褐色土：粒状C軽石少量。
3. 黒褐色土：粒状C軽石混入。
4. 黒褐色土：細粒状C軽石少量・粒状ローム含有。
5. 黒褐色土：細粒状C軽石少量。
6. 黒褐色土：粒状C軽石混入。
7. 茶褐色土：粒状C軽石含有焼土粒若干。
8. 塊状焼土主体・焼土粒混入。

所見：当住居は南暖斜面部の平坦気味になった縁辺部に位置する。IV層土の遺構確認面では確認出来なかったため、縄文遺構の確認トレンチと平行してトレンチ確認調査に移行して確認された。トレンチで確認後は周辺をV層土面まで掘り下げ平面確認を実施して調査に至った。新旧関係では、49号住居跡の北隅部を竈が切っている。

住居跡は比較的整った形状で、四壁の下端は直線走行している。竈は最終使用面の構造が全体に幅が広く大幅な改築が成されたことが窺知される。

## 第51号住居跡

位置：39-A・B-19・20。 形状：円形か。 規模：4.70m×4.50m。 主軸方位：北-59度→西。 基準  
辺：なし。 炉規模：全長0.85m×幅0.72m×深度0.2m。

層序：（基準線標高値108.90m）

1. 暗褐色土：白色軽石散量・焼土粒散量。
2. 茶褐色土：塊状褐色土少量・塊状焼土少量。
3. 茶褐色土：塊状ローム少量・焼土粒少量・塊状焼土若干。
4. 茶褐色土：塊状ローム少量・焼土粒少量。

所見：当住居跡は南側暖斜面部に占地する。住居跡は縄文時代の包含層を掘り下げ作業中に炉石を確認したこと  
で住居跡の認定を行った。確認後周辺の平面精査を実施したが、明確な形状は確認出来なかった。特に東側  
から南側は地形の傾斜に沿っているため、可能性のある範囲を推定した。柱穴は床面をやや下げて確認した。  
このため、図中の住居断面の床面は実際にはより高い位置にあたり、図より5cm程上位に当る。

## 第52号住居跡

位置：48-Q-1・2。 形状：楕円形。 規模：4.98m×(3.8)m。 主軸方位：北-1度→西。 基準辺：

なし。 炉規模：長0.8m×0.59m×深さ0.24m。

層序：(基準線標高値109.80m)

1. 暗褐色土：白色軽石少量・塊状褐色土混入・塊状ローム少量。
2. 暗褐色土：焼土粒微量・塊状褐色土混入。
3. 茶褐色土：焼土粒含有・塊状褐色土少量。
4. 茶褐色土：塊状ローム少量焼土粒少量。

所見：当住居跡は南側暖斜面部に占地する。住居跡は縄文時代の包含層・構造物確認を含めたトレンチ調査の段階でトレンチ断面で確認されている。当住居跡の場合は、断面に炉跡が確認されたことにより住居跡認定に至った。立ち上がりは低く、Ⅶ層土の内での僅かな差異による状態であった。

## 掘立柱建物跡

### 第1号掘立柱建物跡

位置：38-T-12・13/39-A・B-13。 形状：長方形・東西棟。 規模：6.30m（7尺/3間）×4.80m（8尺/2間）×40.32㎡。 主軸方位：北-112度50分→東。

層序：(基準線標高値108.20m)

覆土は全て黒褐色土。

- a. 粒状C軽石多量。
- b. 粒状C軽石多量・塊状ローム混入。
- c. 粒状C軽石多量・塊状ローム含有。
- d. 粒状C軽石多量・塊状ローム少量。
- e. 粒状C軽石混入。
- f. 粒状C軽石混入・塊状ローム混入。
- g. 粒状C軽石混入・塊状ローム含有。
- h. 粒状C軽石混入塊状ローム少量。
- i. 粒状C軽石含有。
- j. 粒状C軽石含有・塊状ローム混入。
- k. 粒状C軽石含有・塊状ローム含有。
- l. 粒状C軽石含有・塊状ローム少量。
- m. 粒状C軽石少量。
- n. 粒状C軽石少量・塊状ローム混入。
- o. 粒状C軽石少量・塊状ローム含有。
- p. 粒状C軽石少量・塊状ローム少量。
- q. 粒状C軽石微量。
- r. 粒状C軽石微量・塊状ローム混入。
- s. 粒状C軽石微量・塊状ローム含有。
- t. 粒状C軽石微量・塊状ローム少量。

## 土坑

### 第86号土坑

層序：(基準線標高値111.20m) 1. 黄茶褐色土：炭化粒含有。 2. 暗黄褐色土：粒状ローム少量。 3. 黄茶褐色土。

### 第94号土坑

層序：(基準線標高値111.80m) 1. 暗褐色土：軽石多量・炭化粒含有・塊状ローム含有・塊状褐色土斑状多量。

### 第294号土坑

層序：(基準線標高値111.80m) 1. 暗褐色土：炭化物少量・軽石含有・塊状褐色土斑状混入。

### 第301号土坑

層序：(基準線標高値111.80m)

1. 暗褐色土：塊状ローム主体。
2. 暗褐色土：炭化物多量・軽石混入。
3. 暗褐色土：塊状褐色土斑状混入。
4. 暗褐色土：塊状ローム多量。

### 第120号土坑

層序：(基準線標高値111.80m)

1. 暗褐色土：塊状ローム主体。
2. 暗褐色土：炭化粒多量・軽石混入。
3. 暗褐色土：炭化粒少量。
4. 暗褐色土：塊状褐色土斑状混入。
5. 暗褐色土：塊状ローム多量。

## 第305号土坑

層序：(基準線標高値112.00m) 1. 橙褐色土：塊状ローム混入。

## 第125号土坑

層序：(基準線標高値111.60m)

1. 黒色土：粒状C軽石含有。 2. 黒色土：粒状C軽石少量。 3. 茶褐色土：粒状C軽石含有・塊状ローム混入。  
4. 茶褐色土：粒状C軽石含有。 5. 暗褐色土：粒状C軽石微量・粒状ローム混入。

## 第126号土坑

層序：(基準線標高値111.70m)

1. 暗褐色土：塊状ローム混入。 2. 暗褐色土：軽石混入・炭化粒含有・塊状褐色土混入・塊状ローム少量。  
3. 暗褐色土：炭化粒少量・塊状褐色土含有・粒状ローム混入。

## 第144号土坑

層序：(基準線標高値111.40m)

1. 暗黄茶褐色土：粒状ローム多量・炭化粒少量。 2. 暗褐色土：塊状褐色土混入・塊状ローム少量・炭化粒含有・粘性あり。

## 第156号土坑・第157号土坑

層序：(基準線標高値111.20m) 1. 暗茶褐色土：暗い。 2. 暗茶褐色土：明るい・塊状ローム含有。

## 第186号土坑

層序：(基準線標高値111.40m)

1. 暗褐色土：炭化粒混入。 2. 暗褐色土：塊状褐色土塊状混入・炭化粒含有・軽石混入。  
3. 暗褐色土：塊状褐色土多量・炭化粒少量。 4. 暗褐色土：粘質。

## 第188号土坑

層序：(基準線標高値111.30m) 1. 暗黒茶褐色土：炭化粒含有・軽石混入。

## 第212号土坑

層序：(基準線標高値110.90m)

1. 濁った黒褐色土：As-B多量・塊状ローム少量。 2. As-B混入・塊状ローム多量・やや粘質。

## 第213A・第213B号土坑

層序：(基準線標高値110.60m)

1. 鈍い黒褐色土：As-B多量・塊状ローム混入。 2. 鈍い黒褐色土：As-B混入。  
3. 鈍い黒褐色土：As-B混入・塊状ローム混入・やや粘質。

## 第214号土坑

層序：(基準線標高値110.70m) 1. 暗褐色土：塊状V層土層・塊状ローム混入。

## 第215号土坑

層序：(基準線標高値110.60m) 1. 暗褐色土：塊状V層土層。

#### 第219号土坑

層序：(基準線標高値109.40m)

1. 粒状C軽石混入・IV塊状混入・塊状褐色土含有・塊状ローム含有。
2. 粒状C軽石微量・粒状ローム多量・塊状褐色土含有・黒色土塊状含有。

#### 第220 A・220 B号土坑

層序：(基準線標高値109.60m)

1. 粒状C軽石少量・塊状褐色土含有。
2. 粒状C軽石無し・暗褐色B混入・地上ソフトローム。

#### 第224号土坑

層序：(基準線標高値108.80m)

1. 粒状C軽石多量・IV塊状含有・塊状褐色土混入・炭化物微量。
2. 粒状C軽石少量・塊状褐色土少量・堆土粒微量。
3. 粒状C軽石微量・塊状褐色土混入・塊状ローム少量・塊状焼土混入。
4. 粒状C軽石微量・塊状ローム混入・塊状褐色土混入。
5. 粒状C軽石無し・塊状ローム多量。(壁 崩落土)

#### 第240号土坑

層序：(基準線標高値108.50m) 1. 粒状C軽石含有・塊状褐色土少量。

#### 第255号土坑

層序：(基準線標高値108.20m)

1. 粒状C軽石多量・塊状褐色土斑状。
2. 粒状C軽石多量・IV塊状含有。
3. 粒状C軽石含有・塊状ローム多量・IV塊状少量・塊状褐色土少量。
4. 粒状C軽石含有・塊状褐色土斑状。
5. 粒状C軽石含有。
6. 粒状C軽石少量・塊状褐色土斑状。
7. 粒状C軽石少量。
8. 粒状C軽石含有。
9. 粒状C軽石微量・塊状褐色土斑状。
10. 粒状C軽石無し・塊状ローム混入。

#### 第256号土坑

層序：(基準線標高値108.10m) 1. 粒状C軽石多量・塊状褐色土斑状微量。- 2. 粒状C軽石含有・塊状褐色土少量。

#### 第258号土坑

層序：(基準線標高値108.20m) 1. 粒状C軽石多量・塊状褐色土斑状微量。

#### 第260号土坑

層序：(基準線標高値108.20m) 1. 粒状C軽石多量・塊状褐色土斑状微量。

#### 第284号土坑

層序：(基準線標高値108.20m) 1. 粒状C軽石多量・塊状褐色土斑状微量。- 2. 粒状C軽石含有・塊状褐色土少量。

#### 第279 A・279 B号土坑

層序：(基準線標高値108.50m)

1. 粒状C軽石少量・塊状褐色土混入。
2. 粒状C軽石含有・塊状褐色土含有・塊状焼土微量。

#### 第282号土坑

層序：(基準線標高値108.50m)

1. 粒状C軽石混入・塊状褐色土混入・IV塊状含有。
2. 粒状C軽石微量・塊状褐色土含有・塊状ローム混入・粒状ローム混入・粘性あり。

## 第286号土坑

層序：(基準線標高値108.10m) 1. 粒状C軽石少量・塊状褐色土混入。

## 第12001号土坑

層序：(基準線標高値111.80m)

1. 暗褐色土：白色バミス含有。
2. 暗褐色土：白色バミス含有・カーボン含有。
3. 暗茶褐色土：白色バミス含有・塊状褐色土含有。

## 第12004号土坑

層序：(基準線標高値111.70m) 1. 茶褐色土：白色バミス含有・塊状褐色土多量。

## 第12005号土坑

層序：(基準線標高値111.70m)

1. 暗褐色土：白色バミス含有。
2. 暗茶褐色土：白色バミス含有・塊状褐色土含有・塊状ローム。

## 第12008号土坑

層序：(基準線標高値111.80m)

1. 暗褐色土：白色バミス含有。
2. 暗茶褐色土：白色バミス含有・塊状褐色土含有。
3. 茶褐色土：白色バミス含有・塊状褐色土多量。

## 第12009号土坑

層序：(基準線標高値111.80m)

1. 暗茶褐色土：白色バミス含有・塊状褐色土含有。
  2. 茶褐色土：白色バミス含有・塊状褐色土多量。
- 層序：(基準線標高値111.70m)

## 第12019号土坑

層序：(基準線標高値111.60m) 1. 暗褐色土：白色バミス含有。 2. 暗茶褐色土：白色バミス含有・塊状褐色土含有。

## 第12027号土坑

層序：(基準線標高値111.80m)

1. 暗褐色土：白色バミス含有。
2. 茶褐色土：白色バミス含有・塊状褐色土多量。

## 第12028号土坑

層序：(基準線標高値111.80m) 1. 暗茶褐色土：白色バミス含有・塊状褐色土含有。

## 第12045号土坑

層序：(基準線標高値110.70m)

1. 黒褐色土。
2. 黒褐色土：白色バミス。
3. 暗褐色土：白色バミス含有。
4. 暗褐色土。
5. 茶褐色土：塊状褐色土多量・塊状ローム多量斑状。
6. 茶褐色土：塊状褐色土多量。
7. 暗褐色土：塊状ローム主・暗褐色土塊状含有。
8. 茶褐色土。
9. 茶褐色土：塊状ローム多量。
10. 茶褐色土。

## 第12068号土坑

層序：(基準線標高値110.80m) 1. 暗褐色土：白色バミス少量。

#### 第12070号土坑

層序：(基準線標高値110.80m) 1. 暗褐色土：白色パミス含有。

#### 第12071号土坑

層序：(基準線標高値110.80m) 1. 暗褐色土：塊状ローム混入。

#### 第12092号土坑

層序：(基準線標高値112.10m)

1. 黒色土：塊状褐色土含有・白色パミス少量。
2. 黒色土。
3. 茶褐色土：塊状ローム多量・粒状ローム混入。
4. 暗褐色土：塊状ローム混入・粒状ローム混入。
5. 暗茶褐色土：塊状褐色土・塊状ローム混入。
6. 暗茶褐色土：塊状ローム混入。
7. 暗褐色土：白色パミス少量・塊状ローム少量。
8. 黄褐色土：塊状ローム混入。
9. 暗茶褐色土：塊状ローム多量。

#### 第12104号土坑

層序：(基準線標高値112.00m)

1. 黒色土：粒状C軽石混入。
2. 暗褐色土：粒状C軽石少量。
3. 茶褐色土：粒状C軽石少量・褐色塊状含有。
4. 褐色土：粒状C軽石微量・塊状ローム含有。

#### 第12165号土坑

層序：(基準線標高値110.10m) 1. 暗茶褐色土：塊状褐色土含有。

#### 第12166号土坑

層序：(基準線標高値110.10m)

1. 暗褐色土：塊状ローム混入・塊状褐色土混入。
2. 暗褐色土：塊状褐色土少量・塊状ローム少量。
3. 暗褐色土：塊状褐色土少量。
4. 暗茶褐色土：塊状褐色土少量。
5. 暗褐色土：塊状ローム多量・粒状ローム多量混入。
6. 暗茶褐色土：塊状褐色土混入・塊状ローム混入。

#### 第12167号土坑

層序：(基準線標高値110.10m) 1. 暗茶褐色土：塊状ローム混入・炭化物含有。

#### 第12168号土坑

層序：(基準線標高値110.10m) 1. 暗茶褐色土：塊状褐色土混入。

#### 第12169号土坑

層序：(基準線標高値110.20m) 1. 暗褐色土：塊状褐色土含有・塊状ローム少量。

#### 第12170号土坑

層序：(基準線標高値110.20m) 1. 暗褐色土：塊状褐色土含有。

#### 第12173号土坑

層序：(基準線標高値109.70m) 1. 暗褐色土：塊状ローム混入。

#### 第12174号土坑

層序：(基準線標高値108.40m) 1. 黒色土：粒状C軽石含有。

#### 第12176号土坑

層序：(基準線標高値108.80m)

1. 黒色土：粒状C軽石少量・塊状褐色土含有。 2. 黒色土：粒状C軽石少量。 3. 1. 黒色土：粒状C軽石若干・塊状ローム含有。

#### 第12177号土坑

層序：(基準線標高値108.80m)

1. 黒色土：粒状C軽石混入。 2. 黒色土：粒状C軽石含有・粒状ローム混入。 3. 1. 黒色土：粒状C軽石少量・塊状ローム少量。

#### 第12184号土坑

層序：(基準線標高値109.10m)

1. 暗褐色土：塊状褐色土斑状。 2. 茶褐色土：塊状褐色土混入。 3. 黒褐色土：塊状少量。  
4. 暗褐色土：塊状褐色土少量・塊状ローム少量。 5. 茶褐色土：塊状褐色土含有・塊状ローム少量。

#### 第12185号土坑

層序：(基準線標高値109.30m) 1. 暗褐色土：白色バミス含有・塊状褐色土含有。

#### 第12186号土坑

層序：(基準線標高値109.30m) 1. 暗褐色土：白色バミス含有。

#### 第310号土坑

層序：(基準線標高値110.10m)

1. 暗褐色土：塊状褐色土少量・白色バミス少量。 2. 暗褐色土：塊状褐色土微量。  
3. 暗褐色土：塊状褐色土斑状・白色バミス少量。 4・5. 茶褐色土：塊状褐色土混入・塊状ローム若干。  
6. 黄褐色土：塊状褐色土混入・塊状ローム主。 7. 暗褐色土：塊状褐色土・塊状ローム

## 富田下大日遺跡 諸元

富田下大日遺跡土坑一覧表(1)

土坑番号	調査面	位置		主軸方位	形状	規模			摘要
		区	グリッド			長	幅	深さ	
第1号土坑			48-K-2	北から64東	楕丸長方形	0.97	0.80	0.16	平安時代
第2号土坑			38-K-20	北から36東	円形	0.91	0.83	0.21	平安時代
第3号土坑			48-L-2	北から12西	円形	1.00	0.95	0.22	平安時代
第4号土坑			38-L-19	北から48東	円形	1.17	1.15	0.33	平安時代
第5号土坑			70-C-1						
第6号土坑			70-B-1						
第7号土坑			70-B-1						
第8号土坑			70-B-1						
第9号土坑			60-A-20						
第10号土坑			60-A-20						
第11号土坑			59-T-20						
第12号土坑			60-A-19						
第13号土坑			60-B-19						
第14号土坑			60-B-19						
第15号土坑			60-B-19						
第16号土坑			60-A-19						
第17号土坑			60-A-19						
第18号土坑			60-B-19						
第19号土坑			60-B-19						
第20号土坑			60-A-19						
第21号土坑			60-A-18						
第22号土坑			60-B-18						
第23号土坑			60-A-18						
第24号土坑			60-A-18						
第25号土坑			60-B-18						
第26号土坑			60-B-18						
第27号土坑			60-B-17						
第28号土坑			60-A-17						
第29号土坑			60-A-17						
第30号土坑			60-A-16						
第31号土坑			59-T-20						
第32号土坑			59-T-19						
第33号土坑			59-T-18	北から2東	楕円形	0.30	0.24	0.17	平安時代
第34号土坑			59-S-17		楕円形	0.20		0.8	平安時代
第35号土坑			59-S-18	北から45東	楕円形	0.30	0.20	0.15	平安時代
第36号土坑			59-S-18						
第37号土坑			59-S-18	北から70東	楕円形	0.24	0.16	0.15	平安時代
第38号土坑			59-S-18						
第39号土坑			59-S-18	北から0°	円形	0.28	0.26	0.15	縄文時代
第40号土坑			59-S-17						
第41号土坑			59-S-17						
第42号土坑			59-S-17	北から0°	円形	0.26	0.25	0.16	平安時代
第43号土坑			59-S-17	北から3西	楕円形	0.38	0.30	0.23	平安時代
第44号土坑			59-S-17	北から34西	不整形	0.53	0.33	0.28	平安時代
第45号土坑			59-T-17		不整形	0.25		0.24	平安時代
第46号土坑			59-T-16						
第47号土坑			59-T-16						
第48号土坑			59-S-17						
第49号土坑			59-S-16						
第50号土坑			59-T-16	北から48東	楕円形	0.56	0.43	0.20	平安時代
第51号土坑									欠番
第52号土坑			59-T-14						
第53号土坑			59-T-14						
第54号土坑			59-T-15						
第55号土坑			59-T-14						
第56号土坑			59-T-14						
第57号土坑			59-S-14						
第58号土坑			59-S-14						
第59号土坑			59-R-15						
第60号土坑			59-R-15						
第61号土坑			59-R-15						
第62号土坑			59-T-14						
第63号土坑			59-T-13						



富田下大日遺跡土坑一覧表(2)

土坑番号	調査箇所	位置		主軸方位	形状	規模			備 考
		区	グリッド			長	幅	深さ	
第64号土坑			59-T-13	北から70°東	楕円形	0.40	0.50	0.51	平安時代
第65号土坑			59-T-13	北から0°	円形	0.82	0.78	0.44	縄文時代
第66号土坑			59-S-13						
第67号土坑			59-R-13	北から62°東	楕円形	1.10	0.90	0.10	縄文時代
第68号土坑			59-T-13	北から0°	円形	φ50		0.15	縄文時代
第69号土坑			59-T-13						
第70号土坑			59-R-13	北から0°	円形	0.47	0.45	0.11	縄文時代
第71号土坑			59-R-13						
第72号土坑			59-R-13						
第73号土坑			59-S-12						
第74号土坑									
第75号土坑			59-S-12						
第76号土坑			59-S-11	北から44°西	楕円長方形	1.64	1.24	0.33	縄文時代
第77号土坑			59-S-11						
第78号土坑			59-R-11						
第79号土坑			59-R-11						
第80号土坑			59-Q-11						
第81号土坑			59-Q-12						
第82号土坑			59-Q-12						
第83号土坑			59-Q-11						
第84号土坑			59-Q-11						
第85号土坑			59-Q-11						
第86号土坑			59-P-12	北から0°	円形か	1.00	1.14	0.21	縄文時代
第87号土坑			59-S-10						
第88号土坑			59-R-11						
第89号土坑			59-Q-11						
第90号土坑			59-P-11	北から34°西	楕円形	0.98	0.94	0.16	縄文時代
第91号土坑			59-O-13						
第92号土坑			59-N-13						
第93号土坑			59-N-13						
第94号土坑			59-N-13	北から19°西	円形	1.26	1.11	0.42	縄文時代
第95号土坑			59-N-12						
第96号土坑			59-N-12						
第97号土坑			59-M-12						
第98号土坑			59-N-12						
第99号土坑			59-N-11	北から48°東	不整形	1.27	1.06	0.50	縄文時代
第100号土坑			59-L-10						
第101号土坑			59-L-10						
第102号土坑			59-M-9						
第103号土坑			59-K-10						
第104号土坑			59-K-9						
第105号土坑			-						
第106号土坑			59-K-9						
第107号土坑									欠番
第108号土坑			59-L-10						
第109号土坑			59-L-10						
第110号土坑			59-L-10						
第111号土坑			59-L-10						
第112号土坑			59-L-10						
第113号土坑			59-L-10						
第114号土坑			59-M-10						
第115号土坑			59-M-10						
第116号土坑			59-M-10						
第117号土坑			59-M-10						
第118号土坑			59-M-10						
第119号土坑			59-M-10						
第120号土坑			59-M-10	北から0°	楕円形	1.40	1.26	0.52	縄文時代
第121号土坑			59-M-9						
第122号土坑			59-M-10						
第123号土坑			59-M-10						
第124号土坑			59-N-10						
第125号土坑			59-N-10	北から48°東	不整形	0.70	0.58	0.10	縄文時代
第126号土坑			59-O-10						

## 富田下大日遺跡 諸元

富田下大日遺跡土坑一覧表(3)

土坑番号	調査面	位置		主軸方位	形状	規模			摘要	
		区	グリッド			長さ	幅	深さ		
第127号土坑			59-O-10							
第128号土坑			59-O-10							
第129号土坑			59-O-10	北から10°東	円形	0.36	0.30	0.21	縄文時代	
第130号土坑			59-P-10							
第131号土坑			59-P-10	北から26°東	楕円形	0.56	0.40	0.17	縄文時代	
第132号土坑			59-P-10	北から6°西	楕円形	0.46	0.38	0.64	平安時代	
第133号土坑			59-P-10	北から56°東	長方形	0.13	0.10	0.14	平安時代	
第134号土坑			59-P-10	北から0°	円形	φ0.46		0.12	縄文時代	
第135号土坑			59-P-10							
第136号土坑			59-P-10	北から37°東	楕円形	0.46	0.36	0.26	縄文時代	
第137号土坑			59-P-10	北から0°	円形	φ0.84		0.23	縄文時代	
第138号土坑			59-Q-10	北から80°西	円形	0.23	0.18	0.05	平安時代	
第139号土坑			59-Q-9	北から90°	円形	0.70	0.60	0.10	縄文時代	
第140号土坑			59-Q-10	北から87°東	円形	0.78	0.72	0.21	平安時代	
第141号土坑			59-Q-10							
第142号土坑			59-Q-10							
第143号土坑			59-P-10							
第144号土坑			59-Q-10	北から0°	円形	か	0.82	0.87	0.38	縄文時代
第145号土坑							0.27		0.28	平安時代
第146号土坑			59-Q-10	北から47°西	円形	0.64	0.62	0.22	縄文時代	
第147号土坑			59-Q-10	北から7°西	円形	0.26	0.22	0.11	平安時代	
第148号土坑			59-Q-10							
第149号土坑			59-Q-10	北から4°西	楕円形	0.50	0.40	0.22	縄文時代	
第150号土坑			59-Q-10							
第151号土坑			59-Q-10	北から62°東	円形	0.30	0.22	0.13	縄文時代	
第152号土坑			59-Q-10	北から0°	円形	0.20	0.18	0.29	縄文時代	
第153号土坑			59-R-10							
第154号土坑			59-Q-10							
第155号土坑			59-R-10							
第156号土坑			59-R-10	北から2.5°西	楕円形	か	0.98	0.66	0.13	縄文時代
第157号土坑			59-R-10	北から2.5°西	楕円形	1.01	0.64	0.30	縄文時代	
第158号土坑			59-R-9							
第159号土坑			59-S-10							
第160号土坑			59-S-10							
第161号土坑			59-S-10							
第162号土坑			59-S-10							
第163号土坑			59-S-10							
第164号土坑			59-S-10							
第165号土坑			59-S-10							
第166号土坑			59-R-9							
第167号土坑			59-O-10							
第168号土坑			59-O-10	北から90°	不整形	0.90	0.68	0.75	縄文時代	
第169号土坑			59-O-10							
第170号土坑			59-O-10							
第171号土坑			59-P-10							
第172号土坑			59-O-10							
第173号土坑			59-O-10							
第174号土坑			59-O-10							
第175号土坑			59-P-11	北から29°東	円形	0.84	0.72	0.07	縄文時代	
第176号土坑			59-R-8							
第177号土坑			59-R-7							
第178号土坑			59-Q-7							
第179号土坑			59-Q-7							
第180号土坑			59-Q-7							
第181号土坑			59-R-6							
第182号土坑			59-Q-6							
第183号土坑			59-Q-6							
第184号土坑			59-O-7	北から40°西	円形	0.98	0.96	0.19		
第185号土坑			59-O-6	北から82°東	楕円形	0.64	0.55	0.25		
第186号土坑			59-O-6	北から0°	不整形	1.28	1.30	0.41	縄文時代	
第187号土坑			59-N-6	北から61°東	円形	1.02	0.94	0.13	縄文時代	
第188号土坑			59-N-5	北から0°	円形	1.10	1.00	0.22	縄文時代	
第189号土坑			59-P-5	北から19°東	楕円形	0.58	0.42	0.17	縄文時代	

富田下大日遺跡土坑一覧表(4)

土坑番号	調査面	位置		主軸方位	形状	規模			備 考
		区	グリッド			長	幅	深さ	
第190号土坑		59	P-5	北から5°東	不 整 形	0.68	0.68	0.09	縄文時代
第191号土坑		59	Q-6	北から90°	不 整 形	1.06	0.90	0.35	縄文時代
第192号土坑		59	Q-5						
第193号土坑		59	P-3						
第194号土坑		59	0-1						
第195号土坑		49	M-20						
第196号土坑		49	L-20						
第197号土坑		49	L-20						
第198号土坑		49	N-16						
第199号土坑		49	F-19						
第200号土坑		49	F-19						
第201号土坑		49	G-18	北から0°	方 形 か	1.40	0.80	0.24	平安時代
第202号土坑		49	F-18						
第203号土坑		49	D-19						
第204号土坑		49	D-19						
第205号土坑		49	E-19						
第206号土坑		49	D-19						
第207号土坑		49	D-19						
第208号土坑		49	D-19						
第209号土坑		49	C-19						
第210号土坑		49	D-14						
第211号土坑		48	E-5						
第212号土坑		49	A-3	北から15°東	不 整 形	2.04	1.53	0.42	中世以降
第213号土坑A		49	B-2	北から10°東	楕 円 形	2.64	1.07	0.40	中世以降
第213号土坑B		49	B-2	北から10°東	円 形	1.90	1.84	0.62	縄文時代
第214号土坑		48	S-3	北から15°東	円 形	1.70	1.70	0.24	平安時代
第215号土坑		48	S-3	北から0°	不 整 形	1.30	1.16	0.14	平安時代
第216号土坑		48	S-1	北から15°西	円 形	0.85	0.68	0.18	平安時代
第217号土坑		39	R-20	北から77°東	楕 丸 長 方 形	1.10	0.86	0.38	平安時代
第218号土坑		48	N-6						
第219号土坑		38	R-20	北から81°西	楕 円 形	1.18	1.08	0.18	平安時代
第220号土坑A		38	R-20	北から81°西	楕 円 形	1.30	0.83	0.30	平安時代
第220号土坑B		38	R-20	北から7°西	楕 円 形 か	1.01+ $\epsilon$	1.30	0.10	縄文時代
第221号土坑		38	N-20	北から44°西	楕 丸 長 方 形	0.32	0.47	0.09	縄文時代
第222号土坑		38	O-19	北から25°西	円 形	0.84	0.76	0.16	平安時代
第223号土坑		38	M-20	北から48°東	円 形	0.30	0.26	0.10	平安時代
第224号土坑		38	M-19	北から56°東	円 形	1.02	0.92	0.30	平安時代
第225号土坑		38	M-19	北から0°	円 形	0.25	0.25	0.27	平安時代
第226号土坑		38	N-19	北から72°西	円 形	0.40	0.35	0.10	平安時代
第227号土坑		38	N-18	北から81.5°西	円 形	0.98	0.80	0.40	平安時代
第228号土坑		38	R-17	北から67°西	楕 円 形	1.15	0.94	0.35	平安時代
第229号土坑		38	S-17	北から19°東	楕 円 形	0.84	0.75	0.21	平安時代
第230号土坑		38	T-16						
第231号土坑		38	T-16			0.65		0.12	平安時代
第232号土坑		39	D-17						
第233号土坑		39	D-16	北から0°	円 形	0.31	0.41	0.29	平安時代
第234号土坑		39	D-16	北から15°東	楕 円 形	1.36	1.04	0.26	平安時代
第235号土坑		39	C-16	北から0°	円 形	0.82	0.82	0.26	平安時代
第236号土坑		39	B-16	北から16°西	楕 円 形	0.98	0.49	0.17	平安時代
第237号土坑		39	D-15	北から25°東	円 形	0.57	0.53	0.55	平安時代
第238号土坑		39	C-15	北から37°東	円 形	0.78	0.70	0.16	平安時代
第239号土坑		39	B-15	北から91°東	円 形	0.40	0.33	0.18	平安時代
第240号土坑		39	A-15	北から0°	円 形	0.72	0.72	0.11	平安時代
第241号土坑		39	A-15			0.26		0.12	平安時代
第242号土坑		39	A-15	北から87°西	楕 円 形	0.72	0.61	0.12	平安時代
第243号土坑		39	C-15	北から89°西	楕 丸 正 方 形	0.56	0.58	0.20	平安時代
第244号土坑		39	C-14	北から73.5°西	楕 円 形	0.68	0.50	0.21	平安時代
第245号土坑		39	B-14	北から59°東	円 形	0.24	0.26	0.25	平安時代
第246号土坑		39	B-15	北から60°西	円 形	1.03	0.92	0.15	平安時代
第247号土坑		39	B-14						平安時代
第248号土坑		39	B-14	北から11°西	円 形	0.70	0.54	0.15	平安時代
第249号土坑		39	A-15	北から54.5°西	円 形	0.41	0.32	0.19	平安時代
第250号土坑		39	A-14	北から63°西	円 形	1.22	1.04	0.26	平安時代

富田下大日遺跡土坑一覧表(5)

土坑番号	調査面	位置		主軸方位	形状	規模			備 考
		区	グリッド			長	幅	深さ	
第251号土坑			39-B-13	北から45.5°東	円形	0.28	0.25	0.16	平安時代
第252号土坑			39-B-13	北から50°東	楕円形	0.34	0.25	0.15	平安時代
第253号土坑			39-A-13	北から0°	楕円形	0.48	0.39	0.29	平安時代
第254号土坑			39-A-13	北から85.5°東	円形	0.39	0.35	0.11	平安時代
第255号土坑			39-B-11	北から0°	円形	3.30	3.30	1.20	平安時代
第256号土坑			39-A-11	北から56°東	楕円形	0.73	0.58	0.51	平安時代
第257号土坑			39-A-13	北から0°	円形	0.44	0.35	0.27	平安時代
第258号土坑			39-A-13	北から0°	円形	0.43	0.48	0.16	平安時代
第259号土坑			39-A-13	北から80°東	楕円形	0.65	0.58	0.50	平安時代
第260号土坑			39-A-13	北から0°	不整形	0.47	0.43	0.13	平安時代
第261号土坑			39-A-13	北から13°西	楕円形	1.00	0.42	0.12	平安時代
第262号土坑			39-A-13	北から13°西	楕円形	1.00	0.59	0.33	平安時代
第263号土坑			39-A-13	北から35°西	楕円形	0.55	0.48	0.31	平安時代
第264号土坑			39-A-12	北から78°西	円形	0.60	0.54	0.38	平安時代
第265号土坑			39-A-12	北から90°	円形	0.44	0.37	0.19	平安時代
第266号土坑			39-A-13	北から10°西	円形	0.46	0.42	0.18	平安時代
第267号土坑			39-A-13	北から0°	円形	0.52	0.57	0.28	平安時代
第268号土坑			39-A-13	北から68°東	隅丸長方形	0.51	0.38	0.12	平安時代
第269号土坑			39-A-13	北から65°東	楕円形	0.85	0.62	0.25	平安時代
第270号土坑			39-A-12	北から0°	円形	0.28	0.29	0.27	平安時代
第271号土坑			39-A-12	北から63°西	不整形	0.30	0.27	0.15	平安時代
第272号土坑			39-A-12	北から32°西	円形	0.42	0.33	0.18	平安時代
第273号土坑			39-A-12	北から64°東	不整形	0.55	0.44	0.15	平安時代
第274号土坑									
第275号土坑			38-R-12	北から35°西	不整形楕円形	0.48	0.32	0.27	平安時代
第276号土坑									
第277号土坑			38-R-14	北から8°東	楕円形	0.69	0.68	0.19	平安時代
第278号土坑			38-R-15	北から0°	円形	0.58	0.58	0.17	平安時代
第279号土坑A			38-R-15	北から56°西	不整形楕円形	0.66	0.72	0.21	平安時代
第279号土坑B			38-R-15	北から56°西	楕円形	0.78+α	0.79	0.19	平安時代
第280号土坑									
第281号土坑									
第282号土坑			38-P-17	北から63°東	円形	0.92	0.81	0.27	平安時代
第283号土坑			38-T-14	北から11°西	不整形	0.48	0.38	0.07	平安時代
第284号土坑			38-T-14	北から0°	円形	0.38	0.34	0.24	平安時代
第285号土坑			39-C-15	北から23°東	楕円形	1.02	0.90	0.17	平安時代
第286号土坑			38-S-12	北から34°東	楕円形	1.44	1.04	0.17	平安時代
第287号土坑			60-B-20	北から28°東	不整形楕円形	1.54	1.28	0.40	平安時代
第288号土坑			60-A-20	北から0°	円形	1.14	1.12	0.25	平安時代
第289号土坑			60-A-18	北から60°西	不整形	1.28	0.88	0.20	平安時代
第290号土坑			59-T-13	北から78°東	楕円形	0.60	0.46	0.21	平安時代
第291号土坑			59-S-13	北から76°東	円形	0.54	0.42	0.31	縄文時代
第292号土坑			59-R-11	北から0°	円形	0.82	0.80	0.20	縄文時代
第293号土坑			59-N-13	北から30°西	楕円形	0.79	0.74	0.20	縄文時代
第294号土坑			59-N-12	北から0°	円形	1.00+α	0.98+α	0.20	縄文時代
第295号土坑			59-O-11	北から39°西	円形	0.48	0.34	0.14	縄文時代
第296号土坑			59-N-11	北から0°	円形	0.60	0.30+α	0.14	縄文時代
第297号土坑			59-N-11	北から71°東	楕円形	0.70	0.60	0.27	縄文時代
第298号土坑			59-M-11	北から25°西	円形	0.92	0.82	0.25	縄文時代
第299号土坑			59-M-11	北から0°	円形	1.36	0.65	0.55	縄文時代
第300号土坑			59-N-11	北から0°	円形	φ0.80	0.80	0.20	縄文時代
第301号土坑			59-N-10	北から18°西	楕円形	1.10	0.88	0.70	縄文時代
第302号土坑			59-N-9	北から35°西	円形	0.92	0.88	0.50	縄文時代
第303号土坑			59-M-10	北から24°東	楕円形	0.66	0.48	0.19	縄文時代
第304号土坑			59-L-10	北から8°西	楕円形	0.48	0.36	0.50	縄文時代
第305号土坑			59-M-9	北から35°西	円形	0.60	0.53	0.17	縄文時代
第306号土坑			59-N-19	北から65°西	円形	0.98	1.19	0.34	縄文時代
第307号土坑			49-I-19	北から0°	隅丸方形	1.90	1.10+α	0.53	縄文時代
第308号土坑			49-E-13		楕円形	1.90	1.80	0.15	縄文時代
第309号土坑			49-F-12		円形	0.92	0.54+α	0.30	縄文時代
第310号土坑			48-Q-3	北から95°西	楕円形	1.72	2.22	0.97	縄文時代
第12001号土坑			59-M-3	北から0°	円形	1.24~1.10	1.24~1.10	0.80	縄文時代
第12002号土坑			59-L-4	北から0°	円形	0.40	0.37	0.31	縄文時代

富田下大日遺跡土坑一覧表(6)

土坑番号	調査面	位置		主軸方位	形状	規模			備要
		区	グリッド			長	幅	深さ	
第12003号土坑		59-L-3	北から55°西	楕円形	0.55	0.50	0.18	縄文時代	
第12004号土坑		59-K-2	北から75°東	楕円形	0.12	0.60	0.78	縄文時代	
第12005号土坑		59-K-2	北から91°東	円形	0.85	0.70	0.46	縄文時代	
第12006号土坑		49-K-20	北から43°東	楕円形	0.30	0.24	0.14	縄文時代	
第12007号土坑		59-J-4	北から2°東	円形	0.58	0.56	0.11	縄文時代	
第12008号土坑		59-J-3	北から54°東	円形	0.92	0.90	0.26	縄文時代	
第12009号土坑		59-J-3	北から0°	円形	0.92	0.89	0.45	縄文時代	
第12010号土坑		59-J-2	北から0°	円形	0.37	0.37	0.18	縄文時代	
第12011号土坑		59-J-2	北から81°東	楕円形	0.64	0.50	0.29	縄文時代	
第12012号土坑		59-J-2	北から37°西	円形	0.34	0.32	0.32	縄文時代	
第12013号土坑		49-I-19	北から50°東	楕円形	0.94	0.82	0.20	縄文時代	
第12014号土坑		49-I-18	北から20°東	不整形円形	0.80	0.50	0.29	縄文時代	
第12015号土坑		49-I-17	北から0°	圓丸方形	0.20	0.20	0.18	縄文時代	
第12016号土坑		59-H-1	北から70°東	楕円形	0.50	0.44	0.20	縄文時代	
第12017号土坑		49-H-11	北から30°東	円形	0.28	0.25	0.27	縄文時代	
第12018号土坑		49-H-11	北から50°西	楕円形	0.26	0.20	0.55	縄文時代	
第12019号土坑		49-G-19	北から83°東	楕円形	1.22	0.83	0.32	縄文時代	
第12020号土坑		49-G-17	北から90°	円形	0.54	0.46	0.15	縄文時代	
第12021号土坑		49-G-14	北から0°	不整形	0.53	0.43	0.07	縄文時代	
第12022号土坑		49-G-11	北から50°西	円形	0.36	0.38	0.20	縄文時代	
第12023号土坑									
第12024号土坑		59-F-1	北から0°	円形	0.50	0.50	0.20	縄文時代	
第12025号土坑		59-F-1	北から0°	楕円形	0.40	0.32	4.41	縄文時代	
第12026号土坑		49-F-20	北から25°西	不整形	1.00	0.78	0.49	縄文時代	
第12027号土坑		49-F-20	北から3°東	楕円形	1.72	1.25	0.46	縄文時代	
第12028号土坑		49-F-20	北から87°東	楕円形	0.93	0.70	0.19	縄文時代	
第12029号土坑		49-F-17	北から8°東	楕円形	1.20	0.80	0.28	縄文時代	
第12030号土坑									
第12031号土坑		49-F-17	北から62°西	円形	0.22	0.18	0.21	縄文時代	
第12032号土坑		49-F-16	北から7.5°東	円形基調	1.53	1.41	0.15	縄文時代	
第12033号土坑		49-F-12	北から0°	円形	0.30	0.30	0.24	縄文時代	
第12034号土坑		49-F-12	北から18°東	不整形	0.36	0.36	0.35	縄文時代	
第12035号土坑									
第12036号土坑		49-E-19	北から22°西	楕円形	0.58	0.42	0.33	縄文時代	
第12037号土坑		49-E-19	北から62°東	不整形	0.48	0.34	0.66	縄文時代	
第12038号土坑		49-E-18	北から48°西	不整形	0.80	0.70	0.26	縄文時代	
第12039号土坑		49-E-17	北から50°東	楕円形	1.00	0.88	0.32	縄文時代	
第12040号土坑		49-E-17	北から90°	不整形	2.30+α	1.50	0.22	縄文時代	
第12041号土坑		49-E-15	北から2°東	不整形	1.00	0.58	0.12	縄文時代	
第12042号土坑		49-E-14	北から44°東	不整形	0.76	0.53	0.36	縄文時代	
第12043号土坑		49-E-14	北から0°	円形	0.32	0.32	0.48	縄文時代	
第12044号土坑		49-E-11	北から0°	不整形	0.70	0.71	0.26	縄文時代	
第12045号土坑		49-E-8	北から35°東	不整形	2.13	1.4	1.02	縄文時代	
第12046号土坑		49-D-19	北から9°東	不整形	0.52	0.46	0.17	縄文時代	
第12047号土坑		49-D-19	北から78°西	楕円形	0.42	0.32	0.11	縄文時代	
第12048号土坑		49-D-19	北から68°東	不整形	2.14	0.50	0.23	縄文時代	
第12049号土坑		49-D-15	北から56°東	不整形	2.50	0.19	0.19	縄文時代	
第12050号土坑		49-D-13	北から27.5°東	不整形	0.77	0.69		縄文時代	
第12052号土坑		49-B-11	北から88°西	楕円形	0.72	0.48	0.26	縄文時代	
第12053号土坑		49-B-10	北から8°東	円形	0.29	0.30	0.51	縄文時代	
第12051号土坑		49-B-5	北から4°西	円形	0.30	0.28	0.11	縄文時代	
第12054号土坑		49-B-10	北から5°西	不整形	0.98	0.80	1.30	縄文時代	
第12055号土坑		49-B-9	北から0°	円形	0.32	0.30	0.24	縄文時代	
第12056号土坑		49-A-13	北から22.5°西	楕円形	0.68	0.58	0.68	縄文時代	
第12057号土坑		49-A-11	北から82°東	不整形	2.02	2.02	0.27	縄文時代	
第12058号土坑		49-A-11	北から1°西	不整形	0.53	0.38	0.25	縄文時代	
第12059号土坑		49-A-11	北から84°東	不整形楕円形		1.70	0.14	縄文時代	
第12060号土坑		49-A-11	北から86°西	不整形	1.08	1.48	0.28	縄文時代	
第12061号土坑		48-T-8	北から27°西	楕円形	0.36	0.30	0.23	縄文時代	
第12062号土坑		48-T-8	北から50°西	円形	0.20	0.16	0.32	縄文時代	
第12063号土坑		48-S-7	北から0°	不整形	0.34	0.28	0.30	縄文時代	
第12064号土坑								欠番	
第12065号土坑		48-T-12	北から22.5°東	不整形	4.86	0.47	0.55	縄文時代	

## 富田下大日遺跡 諸元

富田下大日遺跡土坑一覧表(7)

土坑番号	調査面	位置		主軸方位	形状	規模			調査
		区	グリッド			長さ	幅	深さ	
第1206号土坑		49-E-4	北から72'東	円形	1.08	1.08	0.12	平安時代	
第1206号土坑		49-E-4	北から10'西	楕円形	0.98	0.81	0.26	縄文時代	
第1206号土坑		49-D-4	北から90'	円形	1.39	1.23	0.14	縄文時代	
第12070号土坑		49-E-3	北から22'東	円形	1.26	1.20	0.05	縄文時代	
第12071号土坑		49-D-3	北から12'西	楕円形	1.57	1.30	0.06	縄文時代	
第12072号土坑		49-D-4	北から86'西	楕円形	0.93	0.81	0.12	縄文時代	
第12073号土坑		49-D-3	北から16'東	不整形	1.03	0.78	0.10	縄文時代	
第12074号土坑		49-D-3							
第12075号土坑		49-E-8	北から13'東	円形	1.45	1.39	0.33	平安時代	
第12076号土坑		48-R-2	北から0'	円形	0.69	0.70	0.17	縄文時代	
第12077号土坑		48-T-7	北から48'東	楕円形	0.58	0.50	0.10	縄文時代	
第12078号土坑		49-A-2	北から71'西	円形	0.83	0.75	0.51	平安時代	
第12079号土坑		49-A-2	北から31'東	不整形	1.23	0.70	0.49	平安時代	
第12080号土坑A		49-A-1	北から69'西	楕円形	0.79	0.83	0.22	平安時代	
第12080号土坑B		49-A-1	北から82'東	不整形	0.45	0.29	0.62	縄文時代	
第12081号土坑		38-S-16							
第12084号土坑		59-H-1	北から0'	円形	0.19	0.19	0.27	縄文時代	
第12085号土坑		59-H-1	北から8'西	楕円形	0.26	0.20		縄文時代	
第12087号土坑		59-F-1	北から48'東	円形	0.28	0.20	0.29	縄文時代	
第12088号土坑		40-F-18	北から42'西	不整形	0.70	0.52	0.30	縄文時代	
第12089号土坑		49-D-17	北から7'東	楕円形	0.44	0.24	0.21	縄文時代	
第12090号土坑		49-C-14	北から60'東	不整形	0.96	0.74	0.12	縄文時代	
第12091号土坑		49-F-11	北から0'	円形	0.19	0.22	0.27	縄文時代	
第12092号土坑		49-B-10	北から22'東	楕円形	3.00	2.14	1.30	縄文時代	
第12093号土坑		49-C-10	北から1'西	不整形	1.18	0.72	0.21	縄文時代	
第12094号土坑		48-T-7	北から0'	円形	0.64	0.38+α	0.16	縄文時代	
第12095号土坑		49-A-6	北から13'東	楕円形	0.48	0.30	0.19	縄文時代	
第12096号土坑		49-A-6	北から33'東	楕円形	0.40	0.32	0.38	縄文時代	
第12097号土坑		49-A-5	北から90'	不整形楕円形	0.74	0.44	0.19	縄文時代	
第12098号土坑		48-T-5	北から5'東	不整形	0.34	0.28	0.10	縄文時代	
第12099号土坑		48-T-5	北から21'東	楕円形	0.40	0.28	0.16	縄文時代	
第12100号土坑		48-S-4	北から12'東	円形	1.03	0.93	0.23	縄文時代	
第12101号土坑		48-T-10	北から8'西	不整形楕円形	2.66	1.88	1.24	縄文時代	
第12102号土坑		49-A-15	北から72'東	楕円形	0.61	0.53	0.27	平安時代	
第12103号土坑		49-A-15	北から84'西	不整形	0.61	0.52	0.30	縄文時代	
第12104号土坑		49-B-15	北から41'西	不整形	1.24	1.26	0.50	平安時代	
第12105号土坑		49-C-14	北から8'西	円形	1.24	1.10	0.40	平安時代	
第12108号土坑		48-T-1	北から14'西	不整形楕円形	1.95	1.28	1.90	縄文時代	
第12109号土坑		38-T-17	北から32'西	楕円形	0.60	0.54	0.39	縄文時代	
第12110号土坑		38-T-17	北から32'西	楕円形	0.62	0.41	0.22	縄文時代	
第12111号土坑		38-T-17	北から80'西	円形	0.28	0.25	0.18	縄文時代	
第12112号土坑		38-T-17	北から32'東	不整形楕円形	0.83	0.50	0.25	縄文時代	
第12113号土坑		38-T-17	北から77'西	円形	0.38	0.32	0.25	縄文時代	
第12114号土坑		38-T-17	北から88.5'西	円形	0.28	0.29	0.20	縄文時代	
第12115号土坑		38-T-17	北から88'西	円形	0.48	0.43	0.27	縄文時代	
第12116号土坑		38-S-17	北から2'東	楕円形	1.34	1.13	0.34	縄文時代	
第12117号土坑		38-T-17	北から8'東	不整形楕円形	1.10	0.65	0.38	縄文時代	
第12118号土坑		38-T-17	北から34'東	不整形	0.75	0.30	0.15	縄文時代	
第12119号土坑		38-T-16	北から1.5'東	不整形楕円形	1.78	0.98	0.48	縄文時代	
第12120号土坑		38-T-16	北から87'東	不整形	1.20	0.95	0.49	平安時代	
第12121号土坑		39-A-16	北から57'西	不整形楕円形	1.74+α	1.1+α	0.36+α	平安時代	
第12122号土坑		39-A-16							
第12123号土坑		39-A-16							
第12124号土坑		39-A-16	北から0'	不整形	0.28	0.29	0.31	平安時代	
第12125号土坑		39-A-16	北から43'西	楕円形	1.10	0.93	0.43	縄文時代	
第12126号土坑		39-A-16	北から32'東	円形基調	1.07	1.07	0.34	縄文時代	
第12127号土坑		39-B-15	北から36'東	不整形楕円形	1.41	1.17	0.37	縄文時代	
第12128号土坑		39-A-15	北から66'東	円形	1.48	1.32	0.55	平安時代	
第12129号土坑		38-S-17	北から19'東	円形	0.48	0.43	0.29	縄文時代	
第12130号土坑		38-S-17	北から81'西	楕円形	1.38	1.10	0.34	縄文時代	
第12131号土坑		38-S-17	北から73'西	円形	0.31	0.26	0.40	縄文時代	
第12132号土坑		38-P-18	北から34'東	隅丸正方形	1.37	1.26	0.39	縄文時代	
第12133号土坑		38-P-18	北から38'西	長方形	1.34	0.88	0.18	縄文時代	

富田下大日遺跡土坑一覧表(8)

土坑番号	調査面	位置		主軸方位	形状	規模			備 考
		区	グリッド			長	幅	深さ	
第12134号土坑		48-R-1	北から76東	不整形	0.41	0.28	0.38	縄文時代	
第12135号土坑		48-R-1	北から0°	不整形	0.34	0.25	0.54	縄文時代	
第12136号土坑		48-R-1	北から45西	円形	0.25	0.19	0.32	縄文時代	
第12137号土坑		48-R-1	北から87東	楕円形	0.82	0.78	0.33	縄文時代	
第12138号土坑		48-R-2	北から38西	不整形	0.38	0.34	0.25	縄文時代	
第12139号土坑		48-R-2	北から43東	不整形	0.27	0.28	0.18	縄文時代	
第12140号土坑		48-R-2	北から27西	楕円形	2.22	1.06	0.86	縄文時代	
第12141号土坑		39-C-19	北から15.5西	楕円長方形	3.08	1.71	1.47	縄文時代	
第12142号土坑		39-D-19	北から66西	不整形	1.72	0.66	0.34	縄文時代	
第12143号土坑		38-Q-19	北から85東	不整形	0.30	0.23	0.40	縄文時代	
第12144号土坑		38-Q-19		不整形なか	0.39+α	0.43	0.20	縄文時代	
第12145号土坑		38-P-19	北から17西	不整形円形	0.35	0.26	0.50	縄文時代	
第12146号土坑		38-P-19	北から37西	不整形	0.72	0.61	0.43	縄文時代	
第12147号土坑		38-P-19	北から0°	楕円形か	0.22+α	0.18	0.23	縄文時代	
第12148号土坑		39-E-20	北から0°	円形	0.26	0.20	0.15	縄文時代	
第12149号土坑		39-E-20	北から77.5東	円形	0.52	0.43	0.15	縄文時代	
第12150号土坑		39-E-20	北から0°	円形	0.56	0.56	0.27	縄文時代	
第12151号土坑		39-E-20	北から43西	楕円形	0.32	0.35	0.15	縄文時代	
第12152号土坑		39-E-20	北から0°	楕円形	0.27	0.24	0.19	縄文時代	
第12153号土坑		39-E-20	北から90°	円形	0.35	0.25	0.15	縄文時代	
第12154号土坑		38-T-19	北から0°	楕円形	0.32	0.32	0.52	縄文時代	
第12155号土坑		38-S-18	北から33西	不整形円形	0.98	0.68	0.38	縄文時代	
第12156号土坑		39-B-20	北から84西	楕円形	1.36	1.12	0.24	縄文時代	
第12157号土坑		39-B-20	北から6°西	楕円形	0.22	0.23	0.22	縄文時代	
第12158号土坑		39-B-20	北から88西	円形	0.19	0.18	0.17	縄文時代	
第12159号土坑		39-B-20	北から89西	不整形	0.21	0.22	0.41	縄文時代	
第12160号土坑		39-B-20	北から52西	不整形長方形	1.10	0.80	0.46	縄文時代	
第12161号土坑		39-B-20	北から75西	不整形	1.79	0.95	0.35	縄文時代	
第12162号土坑		48-Q-2	北から7°東	不整形	0.73	0.63	0.29	縄文時代	
第12163号土坑		48-Q-2	北から68東	不整形楕円形	0.86	0.39	0.18	縄文時代	
第12164号土坑A		48-N-3	北から36西	楕円形	2.25	1.21	0.78	縄文時代	
第12164号土坑B		48-T-3	北から38西	楕円形	0.63	0.66	0.32	縄文時代	
第12165号土坑A		48-O-4		楕円形か	1.67	0.92+α		縄文時代	
第12165号土坑B		48-S-2	北から0°	円形	0.30	0.30	0.10	縄文時代	
第12166号土坑		48-S-2	北から1°西	不整形楕円形	2.24	1.08	0.80	縄文時代	
第12167号土坑		48-S-2	北から0°	円形	0.94	0.92	0.39	縄文時代	
第12168号土坑		48-S-2	北から0°	不整形円形	0.39	0.30	0.20	縄文時代	
第12169号土坑		48-Q-3	北から0°	不整形	0.80	0.80	0.15	縄文時代	
第12170号土坑		48-Q-3	北から0°	円形	0.50	0.50	0.15	縄文時代	
第12171号土坑		48-N-4	北から9°東	不整形	0.97	0.70	0.33	縄文時代	
第12172号土坑		48-N-4	北から45西	不整形	0.76	0.60	0.16	縄文時代	
第12173号土坑		48-N-4	北から0°	不整形楕円形	0.68	0.68	0.16	縄文時代	
第12174号土坑		38-S-16	北から47西	楕円形	1.04	0.89	0.20	縄文時代	
第12175号土坑		38-S-13	北から40西	不整形楕円形	1.75	1.07	0.26	縄文時代	
第12176号土坑		38-R-17	北から114°東	不整形長方形	2.40	1.88	0.24	平安時代	
第12177号土坑		38-R-17	北から52西	不整形長方形	1.66	1.10	0.18	平安時代	
第12178号土坑		38-P-17	北から0°	円形	0.18	0.20	0.13	平安時代	
第12179号土坑		38-P-17	北から0°	円形	0.21	0.20	0.08	縄文時代	
第12180号土坑		38-P-17	北から0°	楕円形	0.27	0.29	0.40	縄文時代	
第12181号土坑		38-P-17	北から0°	不整形	0.20	0.22	0.17	平安時代	
第12182号土坑		38-P-17	北から3°東	不整形	0.34	0.32	0.39	平安時代	
第12183号土坑		38-P-18							
第12184号土坑A		39-C-18	北から17°東	不整形楕円形	2.42	1.00	0.73	縄文時代	
第12184号土坑B		39-P-17	北から24°東	楕円形	0.35	0.27		平安時代	
第12185号土坑		48-N-2	北から86°東	不整形	1.70	0.98	0.15	縄文時代	
第12186号土坑		48-N-2	北から80°東	不整形	1.40	1.20+α	0.06	縄文時代	

## 上武国道地域富田下大日遺跡

## 第3号溝状遺構出土遺物実測図

遺物番号 図取番号	遺物種類	出土層位 遺 存 層	深 度 目 (g)	構成・色調・粘土 (石炭材は付目録)	形状・技法等の特徴	備 考
10-00001	土師器 土師内 破片	Ⅰ(12.0)		黒・黒・黒黄褐色・長石・黒色鉱物 粒子	楕円形。器内面及び口縁部は黒褐色を施す。口縁部直下は 黒褐色を施す内側を施す。底面は黒褐色。	赤城産
10-00002	土師器 土師内 破片	Ⅰ(11.1)		黒・黒・黒・黒色鉱物粒子・長石・ 軽石・B生地上	楕円形。器内面及び口縁部は黒褐色を施す。口縁部直下は 黒褐色を施す内側を施す。底面は黒褐色。	東毛産
10-00003	土師器 土師内 破片	Ⅰ(17.2)		黒・黒・黒・黒黄褐色・黒色鉱物・黒 色鉱物粒子・β石英・石英・B生地上 か	楕円形。器内面直下は黒褐色の層あり。器内は2段に髹状工具 による横線が彫り込まれる。	東毛産
10-00004	土師器 土師内 破片	Ⅰ(20.2)		黒・黒・黒・黒色鉱物粒子・β石英・ 火山ガラス・B生地上	楕円形。器内面直下は黒褐色の層あり。器内は2段に髹状工具 による横線が彫り込まれる。	東毛産
10-00005	土師器 土師内 破片	層9.8		黒・黒・黒・黒色鉱物粒子・火 山ガラス・白色鉱物粒子・B生地上	楕円形。横線が器内面に彫り込まれる。丸縁を帯びた器部が 口縁部直下で最大径になり、口縁部に向かい縮む。	東毛産
10-00006	赤城産 土師内 破片	Ⅰ(14.2)		黒・黒・黒・黒・黒褐色・黒色鉱物 粒子・透明鉱物粒子・白色鉱物粒子	楕円形或球形片断。底面を欠損する。横線は彫り込まない。器 部に赤褐色「塗」が認められる。	黒巻 1 笠巻産か
10-00007	赤城産 土師内 1/2 破片	Ⅰ(14.5) 底(7.4) 高(1.2)		黒・黒・黒・黒褐色・黒色鉱物粒子 (内粘石)・透明鉱物粒子	楕円形或球形片断。高台は付け付合。横線は彫り込まない。直線 的に立ち上がる器部から口縁部は短く外反する。	溝田産
10-00008	赤城産 土師内 破片	高(8.0)		黒・黒・黒・黒黄褐色・黒色鉱物粒子・透 明鉱物粒子・白色鉱物粒子・B生地上	楕円形或球形片断。高台は付け付合。底面は厚い。	東毛産
10-00009	赤城産 土師内 破片	Ⅰ(12.2)		黒・黒・黒・黒・黒・黒褐色・黒色鉱物粒子・ B生地上	楕円形或球形片断。天井部には凹線彫りあり。外面に重ねた 底のこんせが認められる。	東毛産
10-00010	赤城産 土師内 破片	Ⅰ3.2		黒・黒・黒・黒褐色・白色鉱物粒子・ 白色鉱物粒子	楕円形或球形片断。天井部には凹線彫りあり。横線は彫り 込まない。器内面から取り付けない。皿の可能性も考慮される。内 面に白色粉が付着。	東毛産
10-00011	赤城産 土師内 破片	Ⅰ(14.0)		黒・黒・黒・黒色鉱物粒子・白色 鉱物粒子	楕円形或球形片断。下半部は黒褐色を施す。高台とも思わ れるが、横線は彫り込まない。高台の器部とも思われる。	東毛産
10-00012	赤城産 土師内 破片	底(11.0)		黒・黒・黒・黒黄褐色・黒色鉱物粒子・ 白色粒子・軽石・B生地上	楕円形或球形片断。内外面とも布文を施す。器内は、 黒褐色を施す。器部の横線は非常に細かい。	東毛産
10-00013	赤城産 土師内 破片	Ⅰ(11.4) 底(11.4)		黒・黒・黒・黒黄褐色・黒色鉱物粒子・ B生地上	楕円形或球形片断。器部の横線は非常に細かい。	東毛産
10-00014	赤城産 土師内 破片	層9.6		黒・黒・黒・黒褐色・白色鉱物粒子・ 透明鉱物粒子	楕円形或球形片断。直線状に彫り込まれる。直線状に彫り込まれる。直線状に彫り込まれる。 直線状に彫り込まれる。直線状に彫り込まれる。	東毛産か
10-00015	黒粘陶器 緑粘陶 破片	層9.4		黒・黒・黒・白・黄褐色微粒	楕円形或球形片断。内外面に黒褐色を施す。彫り方法はほぼ平 行。	京都か

## 低地部 As-B 被覆水面出土遺物実測図

遺物番号 図取番号	遺物種類	出土層位 遺 存 層	深 度 目 (g)	構成・色調・粘土 (石炭材は付目録)	形状・技法等の特徴	備 考
10-00016	土師器 土師内 破片	As-B下 破片	Ⅰ(20.4)	黒・黒・黒・黒黄褐色・黒色粒子・黒色 鉱物粒子・β石英・石灰・B生地上か	楕円形。器内面直下は黒褐色の層あり。器内は2段に髹状工具 による横線が彫り込まれる。	東毛産
10-00017	土師器 土師内 破片	As-B 破片	高(6.0)	黒・黒・黒・黒褐色・白色鉱物粒子・ 長石(多量)	楕円形或球形片断。高台は付け付合。内外面黒褐色に 施される。黒色土質。	東毛産

## 第3号住居跡出土遺物

遺物番号 図取番号	遺物種類	出土層位 遺 存 層	深 度 目 (g)	構成・色調・粘土 (石炭材は付目録)	形状・技法等の特徴	備 考
10-00018	縄文土器 赤城産 土師内 破片	層9.6		黒・黒・黒・黒褐色・β石英・軽石・B 生地上(粘土化褐色)	楕円形。Lr 器部の縦線が弱く彫り込まれる。	赤城山中
10-00019	縄文土器 赤城産 土師内 破片	層9.1		黒・黒・黒・黒褐色・透明鉱物粒子 (β石英か火山ガラス)・長石・軽石 ・B生地上(粘土化褐色)	楕円形。Lr 器部の縦線が弱く彫り込まれる。器内には部分的に 黒褐色を施す。器内には部分的に黒褐色を施す。器内には部分的に 黒褐色を施す。器内には部分的に黒褐色を施す。	赤城山中
10-00020	縄文土器 赤城産 土師内 破片	層9.9		黒・黒・黒・黒褐色・β石英・軽石・B 生地上(粘土化褐色)	楕円形。Lr 器部の縦線が弱く彫り込まれる。	赤城山中
10-00021	縄文土器 赤城産 土師内 破片	層9.9		黒・黒・黒・黒褐色・β石英・軽石・B 生地上(粘土化褐色)	楕円形。Lr 器部の縦線が弱く彫り込まれる。	赤城山中
10-00022	縄文土器 赤城産 土師内 破片	層9.7		黒・黒・黒・黒褐色・β石英・軽石・B 生地上(粘土化褐色)	楕円形。Lr 器部の縦線が弱く彫り込まれる。	赤城山中
10-00023	縄文土器 赤城産 土師内 破片	層9.8		黒・黒・黒・黒褐色・β石英・軽石・B 生地上(粘土化褐色)	楕円形。Lr 器部の縦線が弱く彫り込まれる。	赤城山中
10-00024	縄文土器 赤城産 土師内 破片	層9.9		黒・黒・黒・黒褐色・β石英・軽石・B 生地上(粘土化褐色)	楕円形。Lr 器部の縦線が弱く彫り込まれる。	赤城山中
20-00001	石製 磨石	完形	径22.25 幅18.35 厚5.52 重2.502	粗粒状火山岩	両面は磨石を加え、平に調整し磨きやすく加工している。	

## 第5号住居跡出土遺物(1)

遺物番号 図取番号	遺物種類	出土層位 遺 存 層	深 度 目 (g)	構成・色調・粘土 (石炭材は付目録)	形状・技法等の特徴	備 考
10-00025	土師器 小型 土師内 破片	Ⅰ(12.2) 高9.5 底(12.5)		黒・黒・黒・黒褐色・黒・黒・白 粘	器部の張りが高く、口縁部は外反する。器内は厚い。口縁 部には凹線が彫り込まれる。	
10-00026	土師器 土師内 破片	Ⅰ(14.8 高22.3 底21.6)		黒・黒・黒・黒褐色・黒・白粘・黒 粘砂	「 $\pi$ 」の字付口縁。器内は厚い。口縁部には凹線が彫り込まれる。器 内面は粘土色の磨石が埋め込まれる。	
10-00027	赤城産 土師内 破片	Ⅰ(14.4) 高3.3 底7.4		中・黄・明赤褐色・黒・赤粘・黒 粘	口縁部で強く外反する。器内は厚い。横線が凹線或球形、 付合。器内面に赤褐色「塗」が施される。	黒巻 2
10-00028	土師器 土師内 破片	層9.5 底(11.6)		黒・黒・黒・黒褐色・黒・赤粘・黒 粘	器内面。外面は器内面の黒褐色の磨石で磨かれ、内面は粘土 色の磨石が埋め込まれる。	
10-00029	黒粘陶器 土師内 1/2 破片	Ⅰ(14.5) 高3.9		黒・黒・黒・黒褐色・黒・赤粘・白 粘	器内面。外面は器内面の黒褐色の磨石で磨かれ、内面は粘土 色の磨石が埋め込まれる。	
10-00030	黒粘陶器 土師内 破片	層9.0		黒・黒・黒・黒褐色・黒・赤粘・白 粘	器内面。器内は厚い。器内は厚い。器内は厚い。器内は厚い。 器内は厚い。器内は厚い。器内は厚い。器内は厚い。	



## 第5号住居跡出土遺物(2)

遺物番号 図面番号	遺物種 類	出土層位 と存在 層	量 目 (cm) 目 (g)	構成・色調・胎土 (石素材は産地目録)	形状・技法等の特徴	備 考
10-00002 101	石磨 磨石	覆土内 2/1塊	高さ4.5 幅7.7 厚5.5 重109	粗粒輝石(安山岩)	表面磨を磨面として使用する。	
10-00003 101	石磨 磨石	覆土内 2/1塊	高さ7.4 幅5.3 厚5.1 重81	石炭四角片	表面磨と側面を磨面として使用する。	
10-00004 101	石磨 磨石	埋藏部 埋	高さ2.85 幅13.3 厚9.1 重2,486	粗粒輝石(安山岩)	表面を磨面として使用する。	
10-00005 101	石磨 磨石	左袖 埋	高さ22.49 幅19.40 厚7.85 重4,354	粗粒輝石(安山岩)	両面を磨面として使用する。表面中央に縦方向の凹みがある。	

## 第6号住居跡出土遺物

遺物番号 図面番号	遺物種 類	出土層位 と存在 層	量 目 (cm) 目 (g)	構成・色調・胎土 (石素材は産地目録)	形状・技法等の特徴	備 考
10-00031 101	土師器 土師	破片	底厚0.6	黒・灰・明赤・黒・透明灰物粒	底部分。器厚は薄い。内面底部に「×」の周りに放射状の筋文を施す。内面は直線的。	図書-3
10-00032 101	土師器 杯	覆土内 2/1塊	口径2.0 高さ3.5	黒・赤・灰・黒・黒灰・透灰	平底。口縁部に直線的に立ち上がる。器厚は薄い。口縁部は横線で、内面に施す。口縁部は「コ」の字状に縁。器厚は薄い。口唇部に沈み。口縁部は横線で、外面に指紋状の筋が認められる。	
10-00033 101	土師器 台付器	覆土内 破片	口径11.1 高さ4.9	黒・赤・黒・黒・黒灰・透灰	「コ」の字状に縁。器厚は薄い。口唇部に沈み。口縁部は横線で、外面に指紋状の筋が認められる。	
10-00034 101	土師器 壺	覆土内 破片	口径19.0 高さ6.9	黒・赤・黒・黒・黒灰・透灰	「コ」の字状に縁。器厚は薄い。口唇部外面に沈み。口縁部は横線で、外面に指紋状の筋が認められる。器厚は薄い。口唇部は横線で、外面に指紋状の筋が認められる。器厚は薄い。口唇部は横線で、外面に指紋状の筋が認められる。	
10-00035 101	土師器 壺	覆土内 破片	口径19.0 高さ7.0	黒・赤・明赤・黒・赤灰・黒灰・透灰	直線的に立ち上がり。口唇部は横かに外反する。器厚は薄い。縦線は凹線成形。底面は凹線成形。胎土は砂質。	
10-00036 101	土師器 壺	覆土内 2/4塊	口径2.8 高さ4.1 底厚3.8	黒・赤・灰・黒・黒灰・透灰	直線的に立ち上がり。口唇部は横かに外反する。器厚は薄い。縦線は凹線成形。底面は凹線成形。胎土は砂質。	
10-00037 101	土師器 杯	覆土内 2/3塊	口径2.3 高さ3.7	黒・赤・灰・黒・白灰・白灰・細砂	直線的に立ち上がり。口唇部は横かに外反する。器厚は薄い。縦線は凹線成形。胎土は砂質。	図書-4
10-00038 101	土師器 杯	覆土内 破片	高さ5.0 底(6.5)	黒・赤・灰・黒・黒灰・透灰・白灰	直線的に立ち上がり。口唇部は横かに外反する。器厚は薄い。縦線は凹線成形。胎土は砂質。	
10-00039 102	土師器 壺	覆土内 1/1塊	口径14.4 高さ5.7 底厚6.9	黒・赤・灰・黒・黒灰・透灰・白灰	直線的に立ち上がり。口唇部は横かに外反する。器厚は薄い。縦線は凹線成形。胎土は砂質。	
10-00040 102	土師器 杯	覆土内 1/1塊	口径11.8 高さ4.5	黒・赤・灰・黒・黒灰・透灰・白灰	直線的に立ち上がり。口唇部は横かに外反する。器厚は薄い。縦線は凹線成形。胎土は砂質。	
10-00040 101	土師器 壺	覆土内 破片	底厚0.2 厚0.7		表面は滑らか。自然石と認められる。	

## 第8号住居跡出土遺物

遺物番号 図面番号	遺物種 類	出土層位 と存在 層	量 目 (cm) 目 (g)	構成・色調・胎土 (石素材は産地目録)	形状・技法等の特徴	備 考
10-00041 102	土師器 杯	覆土内 破片	高さ1.3 底(5.4)	黒・赤・純黄・黒・赤灰・黒灰・透灰	底部分。底面はワザ状。外側面直り。内面は直線的で、直線的。	
10-00042 102	土師器 杯	覆土内 破片	高さ1.2 底(6.2)	中・赤・純黄・黒・赤灰	底部分。縦線は凹線成形。底面は凹線成形。	
10-00043 102	土師器 杯	覆土内 1/2塊	高さ4.5 底(5.5)	中・赤・黒・赤灰・黒灰・透灰・白灰	直線的に立ち上がり。口唇部は横かに外反する。器厚は薄い。縦線は凹線成形。胎土は砂質。	
10-00044 102	土師器 杯	覆土内 2/3塊	口径12.0 高さ4.6	中・赤・純黄・黒・赤灰・黒灰・透灰	器厚は厚く、丸みを帯びて立ち上がる。縦線は凹線成形。胎土は砂質。	
10-00045 102	土師器 杯	覆土内 破片	厚0.85	黒・赤・灰・黒・黒・白灰	直線的に立ち上がり。口唇部は横かに外反する。器厚は薄い。縦線は凹線成形。胎土は砂質。	
10-00046 102	土師器 杯	覆土内 破片	厚1.0	中・赤・純黄・黒・赤灰・黒灰・透灰	直線的に立ち上がり。口唇部は横かに外反する。器厚は薄い。縦線は凹線成形。胎土は砂質。	
10-00047 102	土師器 杯	覆土内 破片	口径14.0 高さ2.0	黒・赤・灰・白	直線的に立ち上がり。口唇部は横かに外反する。器厚は薄い。縦線は凹線成形。胎土は砂質。	
10-00048 102	土師器 杯	覆土内 破片	径5.7 底(6.9)	黒・赤・灰・黒・白灰	直線的に立ち上がり。口唇部は横かに外反する。器厚は薄い。縦線は凹線成形。胎土は砂質。	

## 第9号住居跡出土遺物(1)

遺物番号 図面番号	遺物種 類	出土層位 と存在 層	量 目 (cm) 目 (g)	構成・色調・胎土 (石素材は産地目録)	形状・技法等の特徴	備 考
10-00049 102	土師器 壺	覆土内 破片	高さ1.4	黒・赤・外側黒・黒・透灰	底部分。器厚は薄い。外側は直線的。	
10-00050 102	土師器 内埴	覆土内 2/4塊	口径2.3 高さ4.8 底(7.3)	黒・赤・純黄・黒・赤灰・透灰・砂	直線的に立ち上がり。口唇部は横かに外反する。器厚は薄い。縦線は凹線成形。胎土は砂質。	図書-5
10-00051 102	土師器 内埴	覆土内 2/4塊	口径1.9 高さ5.0 底(5.4)	黒・赤・純黄・黒・赤灰	直線的に立ち上がり。口唇部は横かに外反する。器厚は薄い。縦線は凹線成形。胎土は砂質。	
10-00052 102	土師器 内埴	覆土内 2/4塊	口径2.0 高さ4.9 底(5.3)	中・赤・純黄・黒・赤灰・透灰	直線的に立ち上がり。口唇部は横かに外反する。器厚は薄い。縦線は凹線成形。胎土は砂質。	
10-00053 102	土師器 内埴	覆土内 2/4塊	口径2.2 高さ4.2 底(6.5)	中・赤・純黄・黒・赤灰・透灰	直線的に立ち上がり。口唇部は横かに外反する。器厚は薄い。縦線は凹線成形。胎土は砂質。	
10-00054 102	土師器 内埴	覆土内 2/4塊	口径2.5 高さ6.1 底(8.3)	中・赤・純黄・黒・赤灰・透灰・白灰	直線的に立ち上がり。口唇部は横かに外反する。器厚は薄い。縦線は凹線成形。胎土は砂質。	
10-00055 102	土師器 内埴	覆土内 破片	高さ6.6	中・赤・純黄・黒・赤灰・透灰	直線的に立ち上がり。口唇部は横かに外反する。器厚は薄い。縦線は凹線成形。胎土は砂質。	
10-00056 102	土師器 内埴	覆土内 1/4塊	高さ0.0 底(5.5)	黒・赤・純黄・黒・赤灰・透灰	直線的に立ち上がり。口唇部は横かに外反する。器厚は薄い。縦線は凹線成形。胎土は砂質。	
10-00057 102	土師器 内埴	覆土内 破片	高さ6.3	中・赤・純黄・黒・赤灰・透灰	直線的に立ち上がり。口唇部は横かに外反する。器厚は薄い。縦線は凹線成形。胎土は砂質。	
10-00058 102	土師器 内埴	覆土内 破片	高さ2.2	黒・赤・純黄・黒・赤灰・透灰	直線的に立ち上がり。口唇部は横かに外反する。器厚は薄い。縦線は凹線成形。胎土は砂質。	

## 第9号住居跡出土遺物(2)

遺物番号 図説番号	遺物種 類	出土層位 通存	厚 目 (cm)	構成・色調・胎土 (石素材は厚目)	形状・技法等の特徴	備 考
10-00059 102	三足鍋	覆土内 破片	幅3.8	灰・赤・黄褐色・赤・角粒・白粒	胴部、胎土塊を千子で張り締りに成形。棒状工具で削り成形。直線状の脚部が認められる。10-00058・60と同一致状。	
10-00060 102	三足鍋	覆土内 破片	幅3.1	灰・赤・黄褐色・赤・角粒・白粒	胴部、胎土塊を千子で張り締りに成形。棒状工具で削り成形。直線状の脚部が認められる。10-00058・60と同一致状。	
10-00061	輪軸陶器 灰吹皿	覆土内 1/2塊	口116.3 高6.7 底5.5	黒・赤・灰白・胎灰セラーズ・硬・黒粒・白粒	直線的に立ち上がり、口部内面に成形が認められる。胎土は薄く均質。輪軸回転成形。付台台。内外面磨き。内部に並進溝が認められる。	
10-00062 103	輪軸陶器 灰吹皿	覆土内 2/3塊	口113.2 高7.9 底6.6	黒・赤・灰白・胎灰白・硬・黒粒・白粒	丸みを帯びて立ち上がり口部は僅かに外反。直線の並進溝が認められる。	
10-00063 103	輪軸陶器 灰吹皿	覆土内 破片	口116.4 高3.1	黒・赤・灰黄・胎灰黄・硬・黒粒	直線的に立ち上がり、胎土は薄く。輪軸回転成形。並進溝が認められる。	
10-00064 103	輪軸陶器 灰吹皿	覆土内 1/4塊	高1.6 底7.2	黒・赤・灰白・硬・赤粒・白粒	直線的に立ち上がり、胎土は薄く。輪軸回転成形。付台台。内面に並進溝が認められる。	
10-00065 103	輪軸陶器 灰吹皿	覆土内 破片	高2.3 底7.0	黒・赤・灰白・硬・黒粒	直線的に立ち上がり、胎土は薄く。輪軸回転成形。付台台。内面に並進溝が認められる。	
10-00066 102	土師器 土師器	覆土内 破片	口119.2 高5.3	灰・赤・黄褐色・赤・赤粒・砂粒	口縁部は直線的に立ち上がり、胎土は薄く。輪軸回転成形。付台台。内外面磨き。内部に並進溝が認められる。	
10-00067 102	土師器 土師器	覆土内 1/4塊	口120.4 高24.2	灰・赤・黄褐色・赤・赤粒・角閃石	中や丸みを帯びる。胎土は厚く。胴部内外面に並進溝と並進溝を有する。輪軸回転成形。磨き上げ。	
10-00068 102	土師器 土師器	覆土内 破片	高13.3 底18.4	灰・赤・黄褐色・赤・赤粒・砂粒	直線的に立ち上がり、胎土は薄く。輪軸回転成形。付台台。内外面磨き。内部に並進溝が認められる。	
10-00069 102	土師器 土師器	覆土内 破片	口129.8 高25.8	中・赤・黄褐色・赤・白粒・砂粒	口縁部は直線的に立ち上がり、胎土は薄く。輪軸回転成形。磨き上げ。	
10-00070 102	土師器 土師器	覆土内 破片	高6.6 底3.3	灰・赤・黄褐色・赤・黄褐色・砂粒	直線的に立ち上がり、胎土は薄く。輪軸回転成形。付台台。内外面磨き。内部に並進溝が認められる。	
10-00071 102	土師器 土師器	覆土内 破片	高5.6 底0.9	黒・赤・灰・硬・白粒・砂粒	直線的に立ち上がり、胎土は薄く。輪軸回転成形。付台台。内外面磨き。内部に並進溝が認められる。	
40-00081 103	赤土 赤土	覆土内 破片	径3.0 高0.7 厚0.3 重4	灰・赤・黄褐色・赤・黄褐色・砂粒	赤土の塊。胎土は薄く。輪軸回転成形。付台台。内外面磨き。内部に並進溝が認められる。	
20-00081 102	石製 石製	覆土内 破片	径13.6 幅0.7 厚4.2 重1.265	石灰質凝結岩	丸みを帯びた石製の器。胎土は薄く。輪軸回転成形。付台台。内外面磨き。内部に並進溝が認められる。	

## 第23号住居跡出土遺物

遺物番号 図説番号	遺物種 類	出土層位 通存	厚 目 (cm)	構成・色調・胎土 (石素材は厚目)	形状・技法等の特徴	備 考
10-00072 112	土師器 土師器	覆土内 破片	口112.0 高10.0	黒・赤・黄褐色・赤・赤粒・黒粒	直線的に立ち上がり、胎土は薄く。輪軸回転成形。付台台。内外面磨き。内部に並進溝が認められる。	
10-00073	土師器 土師器	覆土内 破片	口112.0 高2.8	中・赤・黄褐色・赤・赤粒・砂粒	直線的に立ち上がり、胎土は薄く。輪軸回転成形。付台台。内外面磨き。内部に並進溝が認められる。	
10-00074 112	土師器 土師器	覆土内 破片	高7.7 底6.3	黒・赤・黄褐色・赤・白粒	直線的に立ち上がり、胎土は薄く。輪軸回転成形。付台台。内外面磨き。内部に並進溝が認められる。	
10-00075 112	土師器 土師器	覆土内 破片	厚1.0	黒・赤・黄褐色・赤・白粒・砂粒	直線的に立ち上がり、胎土は薄く。輪軸回転成形。付台台。内外面磨き。内部に並進溝が認められる。	
10-00076	土師器 土師器	覆土内 破片	口118.0 高4.1	黒・赤・灰白・胎灰白・硬・黒粒・白粒	丸みを帯びて立ち上がり、口部は僅かに外反。直線の並進溝が認められる。	
40-00082 112	鉄片 鉄片	覆土内 破片	径5.4 幅0.9 厚1.1 重216		上側面に並進溝を有する。胎土は薄く。輪軸回転成形。付台台。内外面磨き。内部に並進溝が認められる。	

## 第10号住居跡出土遺物

遺物番号 図説番号	遺物種 類	出土層位 通存	厚 目 (cm)	構成・色調・胎土 (石素材は厚目)	形状・技法等の特徴	備 考
10-00077 103	土師器 土師器	覆土内 破片	口112.0 高3.3 底5.8	中・赤・灰黄・赤・白粒	直線的に立ち上がり、胎土は薄く。輪軸回転成形。付台台。内外面磨き。内部に並進溝が認められる。	
10-00078 103	土師器 土師器	覆土内 破片	口113.0 高2.9	黒・赤・灰・硬・白粒	直線的に立ち上がり、胎土は薄く。輪軸回転成形。付台台。内外面磨き。内部に並進溝が認められる。	
10-00079 103	土師器 土師器	覆土内 破片	口114.2 高5.7 底5.0	中・赤・黄褐色・赤・赤粒・砂粒	直線的に立ち上がり、胎土は薄く。輪軸回転成形。付台台。内外面磨き。内部に並進溝が認められる。	
10-00080 103	土師器 土師器	覆土内 破片	口114.5 高4.7 底7.0	中・赤・黄褐色・赤・赤粒・砂粒	直線的に立ち上がり、胎土は薄く。輪軸回転成形。付台台。内外面磨き。内部に並進溝が認められる。	
10-00081 103	土師器 土師器	覆土内 破片	高3.3 底7.2	黒・赤・黄褐色・赤・白粒・砂粒	直線的に立ち上がり、胎土は薄く。輪軸回転成形。付台台。内外面磨き。内部に並進溝が認められる。	

## 第11号住居跡出土遺物(1)

遺物番号 図説番号	遺物種 類	出土層位 通存	厚 目 (cm)	構成・色調・胎土 (石素材は厚目)	形状・技法等の特徴	備 考
10-00082 103	土師器 土師器	覆土内 破片	口113.4 高7.7	中・赤・黄褐色・赤・赤粒・黒粒・白粒	直線的に立ち上がり、胎土は薄く。輪軸回転成形。付台台。内外面磨き。内部に並進溝が認められる。	
10-00083 103	土師器 土師器	覆土内 破片	幅3.8	黒・赤・黄褐色・赤・角閃石・赤粒	直線的に立ち上がり、胎土は薄く。輪軸回転成形。付台台。内外面磨き。内部に並進溝が認められる。	
10-00084 103	土師器 土師器	覆土内 破片	口112.9 高4.9 底6.6	黒・赤・黄褐色・赤・赤粒・砂粒	直線的に立ち上がり、胎土は薄く。輪軸回転成形。付台台。内外面磨き。内部に並進溝が認められる。	
10-00085 103	土師器 土師器	覆土内 破片	口113.4 高5.6 底6.9	中・赤・黄褐色・赤・砂粒	直線的に立ち上がり、胎土は薄く。輪軸回転成形。付台台。内外面磨き。内部に並進溝が認められる。	
10-00086 103	土師器 土師器	覆土内 破片	口113.8 高4.5 底6.7	中・赤・黄褐色・赤・赤粒・黒粒	直線的に立ち上がり、胎土は薄く。輪軸回転成形。付台台。内外面磨き。内部に並進溝が認められる。	
10-00087 103	土師器 土師器	覆土内 破片	幅3.7 底7.6	中・赤・黄褐色・赤・赤粒・黒粒・白粒	直線的に立ち上がり、胎土は薄く。輪軸回転成形。付台台。内外面磨き。内部に並進溝が認められる。	

## 第11号住居跡出土遺物(2)

遺物番号 図説番号	遺物種 類	出土層位 遺存層	量目 (cm) (g)	焼成・色調・胎土 (石室材は度目録)	形状・技法等の特徴	調査
20-00088 202	石製品 白玉 瓦形	覆土内	幅0.9 厚0.3 孔径0.2		側面に磨製された痕跡有り。	
46-00083 103	鉄器 釘	河底 硬質	径12.3 幅0.4 厚0.3 重2		頭部のみが見残す。頭部は薄く大きい。錆化が顕著。	

## 第12号住居跡出土遺物

遺物番号 図説番号	遺物種 類	出土層位 遺存層	量目 (cm) (g)	焼成・色調・胎土 (石室材は度目録)	形状・技法等の特徴	調査
10-00088 103	土師器 手づね	覆土内 1/2焼	高3.3 底(3.4)	焼・赤・鈍黄緑・赤・赤灰・白灰・ 細砂粒	外面は指原筋が明確。内面は滑面。	
10-00089 202	須恵器 環	硬質 硬片	口116.0 高4.1	中・赤・黄灰・赤・赤灰・子角・ 砂粒	口縁部は丸みを帯びる。輪縁石は凹成整形。外面に焼成後の灰付。	
10-00090 104	土師器 環	覆土内 1/2焼	口119.0 高19.2 割線(19.6)	焼・赤・黄・赤・赤灰・黒灰・白灰・ 砂粒	口縁部は「コ」の字くずれ。頭部はやや厚い。口縁部は横溝で、内面筋は下半は胎土層の整合が不明瞭。	
10-00091 104	土師器 環	硬質硬 硬片	口120.7 高18.9	焼・赤・鈍黄緑・赤・赤灰・白灰・ 細砂粒	口縁部は「コ」の字くずれ。頭部はやや厚い。口縁部は横溝で、割線は胎土層の整合が不明瞭。	
10-00092 103	土師器 環	硬質硬 硬片	高7.8 底4.4	焼・赤・鈍黄緑・赤・赤灰・砂粒	両面筋。頭部は厚い。外面直筋未確認。	
10-00093 103	土師器 環	覆土内 2/4焼	口111.0 高4.3	焼・赤・鈍黄・赤・赤灰・黒灰・白 灰	底面から丸みを帯びて立ち上がる。底面の頭部厚い。輪縁石は凹成整形。底面は凹成未切り。	
10-00094 103	須恵器 環	硬質硬 2/4焼	口121.2 高3.9	焼・赤・鈍黄緑・赤・赤灰・黒灰・ 白灰	底面から丸みを帯びて立ち上がる。上縁は凹成。口縁部の頭部厚い。輪縁石は凹成整形。凹成未切り。	
10-00095 103	須恵器 環	覆土内 2/4焼	口12.5 高3.7	焼・赤・灰白・赤・赤灰・黒灰	底面から直線的に立ち上がる。底面の頭部厚く、口縁部下でびれる。輪縁石は凹成整形。底面は凹成未切り。	
10-00096 104	須恵器 環	覆土内 1/2焼	口111.0 高4.5	焼・赤・鈍黄緑・赤・赤灰・黒灰・ 白灰	直線的に立ち上がる。口縁部は外反する。輪縁石は凹成整形。付高付。輪縁自反。	
10-00097 104	須恵器 環	覆土内 一部欠損	口12.4 高4.9	焼・赤・鈍黄・赤・黒灰・透灰・白 灰	口縁部は僅かに外反する。底面の頭部厚い。輪縁石は凹成整形。付高付。	
10-00098 104	須恵器 環	2/4焼	口113.0 高4.6	中・赤・黄・赤・赤灰・白灰・細砂 粒	直線的に立ち上がる。口縁部は外反する。立ち上がり部分が角鋭い。輪縁石は凹成整形。付高付。	
10-00099 104	須恵器 環	2/4焼 ほぼ完成	口113.2 高5.1 高付径2.2	焼・赤・黄・赤・白灰・黒灰・白灰・ 粗砂粒	丸みを帯びて立ち上がり、口縁部は外反する。頭部厚い。輪縁石は凹成整形。付高付。	
10-0100 104	須恵器 環	覆土内 1/2焼	口113.2 高5.0 高付径2.2	焼・赤・鈍黄緑・赤・黒灰・白灰	直線的に立ち上がる。頭部は厚い。輪縁石は凹成整形。付高付。底面は凹成未切り。輪縁自反。	
10-0101 104	須恵器 環	硬質硬 2/4焼	口113.4 高5.3	焼・赤・鈍黄緑・赤・黒灰・赤灰・ 透灰・粗片	丸みを帯びて立ち上がり、口縁部は外反する。輪縁石は凹成整形。付高付。	
10-0102 104	須恵器 環	硬質硬 1/2焼	高5.4 底(7.3)	焼・赤・鈍黄・赤・黒灰・透灰・砂 粒	丸みを帯びて立ち上がり、口縁部は外反する。輪縁石は凹成整形。付高付。	
10-0103 104	須恵器 足高焼	覆土内 1/2焼	高4.4 底(6.0)	中・赤・黄灰・赤・赤灰・白灰	高付は直線的に開く。頭部は厚い。輪縁石は凹成整形。付高付。底面は凹成未切りは無で不明。	
10-0104 104	須恵器 別製	覆土内 硬片	厚9.6	焼・赤・黄灰・赤・白灰・黒灰・砂 粒	割線付。外面下半部筋有り。輪縁石は凹成整形のた型筋が不明。	
10-0105 104	須恵器 環	覆土内 硬片	厚1.1	赤・赤・灰・赤・白灰・粗砂粒	割線付。底付印の型筋。顔でをなす。当て具は青銅製文。	
10-0106 104	須恵器 環	覆土内 硬片	厚1.1	赤・赤・灰白・粗砂粒・赤・白灰	底面筋。頭部は厚い。小片のため底面の詳細は不明。輪縁石は凹成整形。内外面に発輪。	
10-0107 104	須恵器 環	覆土内 硬片	口115.0 高3.5	赤・赤・灰白・胎土白・赤・黒灰・ 白灰	直線的に開く。頭部は厚い。輪縁石は凹成整形。溝け付け。	
10-0108 104	須恵器 環	覆土内 1/2焼	口114.0 高4.2 底(7.1)	赤・赤・灰白・赤・黒灰・白灰	直線的に開く。頭部は厚い。輪縁石は凹成整形。付高付。溝け付け。内面筋に巻く焼き痕が認められ、磨製している。	
20-00009 105	石器 台石	覆土内 完成	長11.95 幅26.9 厚11.4 重10,800	粗粒輝石安山岩	表面面に溝状の痕跡があり、砥石としても使用されていたと考えられる。	
20-00010 105	石器 磨石	左側 完成	長31.65 幅19.35 厚11.30 重7,022	粗粒輝石安山岩	縦糸が表面面に、おむかっている。	
20-00011 105	石器 磨石	覆土内 完成	長12.00 幅10.50 厚3.35 重668	粗粒輝石安山岩	表面面を磨面として使用する。溝線に磨打痕。	
20-00012 104	石器 磨石	覆土内 完成	長16.65 幅8.65 厚5.1 重1,112	粗粒輝石安山岩	表面面と上下面面を磨面として使用する。	
20-00013 105	石器 磨石	覆土内 1/2焼	長12.6 幅9.6 厚5.2 重860	粗粒輝石安山岩	表面面を磨面として使用する。	
40-00014 104	鉄器 釘	12号覆土内 完成	径12.1 幅7.5 厚2.5 重19		下半部が「J」字状に曲がり、先端は「J」の字状に曲がっている。頭部は錆化が顕著。	
40-00015 104	須恵器 部分欠損	厚径5.5 幅5.0 厚0.2 重22			三角状に断面をなす。上面筋は縦に磨びると思われるが欠損する。錆化が顕著。	
40-00016 104	鉄押	12号覆土内 完成	長5.0 幅1.1 厚2.9 重78		硬片であるが、全体やはり小ぶりの鉄押と思われる。全体に若干磁力を呼ぶ(磁力3)。	
40-00017 104	鉄押	12号覆土内 完成	長6.3 幅0.6 厚3.3 重166		鉄押では小ぶり。全体に若干磁力を呼ぶ(磁力5)。	
40-00018 104	鉄押	12号覆土内 完成	径7.1 幅0.3 厚3.3 重123		鉄押では小ぶり。頭部左から中央にかけて薄部分的に磁力を呼ぶ(磁力3)。	
40-00019 104	鉄押	12号覆土内 完成	径9.5 幅0.8 厚3.7 重135		鉄押では小ぶり。頭部左から中央にかけて薄部分的に磁力を呼ぶ(磁力4)。	
40-00020 104	鉄押	覆土内 完成	長11.8 幅7.3 厚2.8 重32		やや長い。頭部右側が部分的に磁力を呼ぶ(磁力3)。	

## 第13号住居跡出土遺物(1)

遺物番号 図説番号	遺物種 類	出土層位 遺存層	量目 (cm) (g)	焼成・色調・胎土 (石室材は度目録)	形状・技法等の特徴	調査
10-01010 105	土師器 環	覆土内 1/2焼	口116.0 高4.3	焼・赤・黄・赤・白灰・子角	直線的に立ち上がる。頭部は厚い。口縁部は横溝で、外面は直線形、口縁下に凹成筋が認められる。	



## 第15号住居跡出土遺物(1)

遺物番号 図録番号	遺物種 名	出土層位 遺存名	度量 目 [cm] [g]	構成・色調・胎土 (石製材は黒目註)	形状・技法等の特徴	備考
19-00140 197	土師器 甕	覆土内 5/4区	□123.2 高14.30	胎・黒・鈍黄・黒・赤鉄・黒鉄・白 鉄	胴部は中や丸みを帯び、口縁部は外反する。器厚は厚い、口縁部は横溝で、内面は縦溝を施す。高直状の胴部、内外面に焼成時の焦痕が認められる。流注欠損。	
19-00141 197	土師器 甕	覆土内 1/2区	□123.7 高27.7 胴径21.4 底8.1	胎・黒・鈍黄・黒・赤鉄・黒鉄・白 鉄	胴部は丸みを帯び、口縁部は外反する。器厚は下半がやや薄い、口縁部は横溝で。	
19-00142 197	土師器 甕	覆土内 破片	□116.80 高6.7	胎・黒・鈍黄・黒・赤鉄・黒鉄・白 鉄	口縁部は大きく外反する。器厚は厚い、口縁部は横溝で、胴部内面は縦溝の付いた流注欠損。	
19-00143 197	土師器 甕	破片	□118.00 高6.3	胎・黒・橙・黒・赤鉄・白鉄	口縁部は大きく外反する。器厚は厚い、口縁部は横溝で、胴部内面は縦溝。	
19-00144 197	土師器 小型甕	覆土内 破片	□114.00 高10.3 胴径15.2	胎・黒・鈍黄・黒・赤鉄・黒鉄・白 鉄	胴部の丸みは強く、口縁部は大きく外反する。器厚は均質、口縁部は横溝で、胴部外面上半は流注の付いた流注欠損。	
19-00145 197	土師器 甕	覆土内 2/3区	□115.0 高23.5 胴径18.4 底5.8	胎・黒・鈍黄・黒・赤鉄・黒鉄・白 鉄	胴部中央に最大径を帯び、口縁部は外反する。器厚は厚く均質、口縁部は横溝で、胴部内面には小石が嵌り付き、「V」字の痕跡を認める。	
19-00146 198	土師器 鉢	覆土内 鉢底完形	□118.4 高36.4 胴径26.1 底5.1	胎・黒・鈍黄・黒・赤鉄・黒鉄・白 鉄	胴部の丸みは強く、口縁部は大きく外反する。器厚は厚い、口縁部は横溝で、砂鉄を多く含む器底はざらつく。外面に焼成時の焦痕が認められる。	
19-00147 198	土師器 甕	覆土内 2/3区	□116.20 高37.9 胴径126.2	胎・黒・明赤・黒・白鉄・砂鉄	丸身型。胴部中央に最大径を帯び、口縁部は外反する。器厚は厚い、口縁部は横溝で、砂鉄を多く含む、器底はざらつく。	
19-00148 197	土師器 甕	覆土内 1/4区	高19.5 底(9.5)	中・赤・黄・緑・黒・黒鉄・黒鉄・白 鉄	中や丸みを帯びて立ち上がる。器厚は厚い、内面は粘土質の接合が明瞭。底部は未焼成。器底は厚い。	
19-00149 197	土師器 甕	覆土内 破片	□117.40 高8.8	胎・黒・鈍黄・黒・赤鉄	口縁部は直線的に開く。器厚は均質、口縁部は横溝で、胴部外表面は縦溝の付いた流注欠損。内面は磨らぬ。	
19-00150 197	土師器 甕	覆土内 破片	□118.00 高7.4	胎・黒・鈍黄・黒・赤鉄・黒鉄・白 鉄	口縁部は外反する。器厚は厚い、口縁部は横溝で。	
19-00151 197	土師器 甕	覆土内 1/4区	高12.5 底8.0	胎・黒・鈍黄・黒・赤鉄・黒鉄・白 鉄	丸みを帯びる。器厚は厚い、器底は木葉状が認められる。器底はざらつく。	
19-00152 197	土師器 台付甕	覆土内 破片	高4.3 底11.2	胎・黒・鈍黄・黒・赤鉄・黒鉄・白 鉄	有底。器厚は非常に薄い、底部は横溝で、胴部内面は縦溝を施す。角状石を多く含む。	
19-00153 197	土師器 甕	破片	厚5.5	胎・黒・橙・黒・赤鉄・黒鉄	底部片。器厚は厚い、小片のため器形の詳細は不明、内面は磨らぬ。	器底-9
19-00154 197	煎茶器 茶碗	覆土内 破片	高3.6 底(9.1)	胎・赤・灰・緑・黒鉄・白 鉄	縁部片。器厚は均質。四方底。横溝は凹成成形。	
19-00016 197	石製品 石製	縦断面	長1.5 幅1.1	内面石灰土質	扁平片。	
19-00017 198	石製 砥石	覆土内 破片	長17.85 幅17.15 厚6.2	黒粘板石灰土質	砥石として使用された部分は黄鉄鉱にへこんでいる。	

## 第16号住居跡出土遺物

遺物番号 図録番号	遺物種 名	出土層位 遺存名	度量 目 [cm] [g]	構成・色調・胎土 (石製材は黒目註)	形状・技法等の特徴	備考
19-00155 198	煎茶器 茶碗	覆土内 破片	高2.0	胎・赤・灰・赤・黒鉄	口縁部破片。横溝で成形。扁平のため、器形は不明。外面に磨らぬ。	器底-10
19-00156 198	土師器 杯	覆土内 1/4区	□110.40 高3.3 底(7.6)	胎・黒・鈍黄・黒・赤鉄	屈曲して立ち上がる。底部は流注欠損、口縁部・内面は横溝で成形。	
19-00157 198	土師器 甕	覆土内 破片	高6.6 底3.2	中・赤・鈍黄・黒・赤鉄・白鉄・砂 鉄	「コ」の字状の底。底部は流注欠損。	
19-00158 198	煎茶器 茶碗	覆土内 1/4区	□112.40 高3.3 底(6.5)	中・赤・鈍黄・黒・赤鉄・黒鉄・白 鉄	直線的に開いて立ち上がる。器厚は厚い、口縁部は薄く、横溝は凹成成形、器底は凹成成形、内外面に流注欠損を認める。	器底-11・12
19-00159 198	煎茶器 茶碗	覆土内 破片	□114.70 高3.7 底(7.6)	胎・黒・鈍黄・黒・赤鉄	直線的に開いて立ち上がる。器厚は厚い、横溝は凹成成形、器底は凹成成形。	
19-00160 198	煎茶器 茶碗	覆土内 1/4区	高2.2 底(5.6)	胎・赤・灰・緑・白鉄・黒鉄・白 鉄	直線的に大きく開く。底部の器厚は厚く、高直状に突出する。横溝は凹成成形、器底は凹成成形。	
19-00161 198	煎茶器 茶碗	覆土内 1/2区	高3.1 底(7.0)	中・赤・黄・緑・黒・赤鉄・黒鉄・白 鉄	直線的に開く。器厚は厚い、横溝は凹成成形、器底は凹成成形。	
19-00162 198	煎茶器 茶碗	覆土内 破片	高3.8 底径(13.8)	胎・赤・灰・緑・白鉄・黒鉄・白 鉄	流注片。器厚は厚い、体部外表面は凹成成形、横溝は凹成成形、厚直状。	
19-00163 198	煎茶器 茶碗	覆土内 破片	厚6.5	胎・赤・灰・緑・白鉄・砂鉄	胴部片。厚直状。平行開口で、出ては具は黄鉄鉱。粘土はきめの粗い。	
19-00164 198	粘土塊	覆土内 破片	高3.3 幅7.1 厚2.7	胎・黒・橙・黒・赤鉄・白鉄	長さ2～3mmのスチットの嵌り込みあり。粘土はもろい。	
19-00165 198	動物歯肉 片(猪歯肉)	覆土内 破片	□111.00 高1.9	胎・赤・灰・白 鉄・黒鉄・白鉄	口縁部片。器厚は非常に薄い、内外面に流注欠損。	
19-00018 198	石製	覆土内 破片	長17.5 幅14.8 厚4.5 重1,007		厚直状の残らない破片。	

## 第17号住居跡出土遺物(1)

遺物番号 図録番号	遺物種 名	出土層位 遺存名	度量 目 [cm] [g]	構成・色調・胎土 (石製材は黒目註)	形状・技法等の特徴	備考
19-00166 199	土師器 甕	焚口 1/2区	□117.4 高24.1 胴径21.1 底4.2	胎・赤・黄・緑・黒・赤鉄・黒鉄・白 鉄	「コ」の字状の口縁。器厚は厚く均質、口縁部は横溝で、内面の底部近くは網目状の流注欠損で、外面胴部中央に砂鉄の付着物。	
19-00167 199	土師器 甕	横断面	□117.40 高6.4	胎・黒・橙・黒・赤鉄・黒鉄・白 鉄	「コ」の字状の口縁。器厚は厚い、口縁部は横溝で、胴部内面は網目状の流注欠損。	
19-00168 199	土師器 甕	横断面	□119.40 高10.3	胎・赤・鈍黄・黒・赤鉄・黒鉄・白 鉄	「コ」の字状の口縁。器厚は厚い、口縁部は横溝で、胴部内面は網目状の流注欠損。	
19-00169 199	煎茶器 茶碗	覆土内 破片	□113.00 高1.1	胎・赤・灰・緑・白鉄・黒鉄	口縁部片。横溝は凹成成形。	

第17号住居跡出土遺物(2)

遺物番号 図号	遺物種 類	出土層位 層 序	厚 度 目 (cm)	質 量 目 (g)	構成・色調・胎土 (石室材は付目録)	形状・技法等の特徴	備 考
45-00170 109	須磨器 環	層土内 破片	□(12.6)	高3.6	泥・灰・灰・硬・白灰・黒粒	丸みを帯びて立ち上がり、口縁部は僅かに外反する。胎厚は薄い。輪轡石印成成形。	
45-00171 109	須磨器 環	層 1/2残	□(15.5)	高4.7	中・泥・黒粒・赤・赤粒・透灰・砂 粒・砂粒	高筒的に立つ。胎厚は口縁部でやや厚くなる。横轡石 輪轡石印成成形。	
45-00172 109	須磨器 蓋	層土内 破片	高1.7		泥・密・灰・硬・白灰	胎厚は厚い。天井部外縁は凹状隆起し、輪轡石印成成形。 外面に塗灰。	
45-00173 109	須磨器 蓋	層土内 1/2残	高4.2 底5.8		中・泥・鈍黄・硬・黒粒・透灰・白 粒・砂粒	真鍮的に立ち上がる。輪轡石印成成形。付高台。口縁部 は厚い。	
45-00174 109	須磨器 フツ管	層土内 破片	高3.7 底(7.7)		泥・密・鈍黄・硬・赤粒・白灰・透 灰・砂粒	高筒的に僅かに外傾して立ち上がる。胎厚は厚い。輪轡石 印成成形。凹縁(内面)。底面は凹状隆起。	
45-00175 109	須磨器 羽釜	層土内 破片	□(20.0)	高8.9	中・泥・鈍黄・赤・赤粒・黒粒・ 白灰・透灰	口縁部は内傾する。胎厚は均質。口縁部に透灰を持つ。 輪轡石印成成形。凹縁(内面)。	
45-00176 109	須磨器 鉢 鉢蓋(使用)	層土内 完整	径1.1 厚1.2		泥・灰・灰黄・赤・白灰・透灰・黒 粒・白粒	粗面磨地胎成採用。内面を研磨して調整。	
45-00177 109	須磨器 蓋	層土内 破片	厚9.9		泥・密・灰白・赤・黒粒・白粒	割製片。胎厚は厚い。平行印。当て具痕は僅か消し。	
45-00178 109	須磨器 蓋	層土内 破片	厚9.6		泥・密・褐色・硬・黒粒・白粒	割製片。平行印。当て具痕は丁寧に消している。	
45-00179 109	須磨器 蓋	層土内 破片	厚9.55		泥・密・黒黄・硬・白粒	割製片。輪轡石印成成形。石黄粒多く含む。	
45-00180 109	須磨器 蓋	層土内 破片	厚1.1		泥・密・灰・硬・白粒	割製片。胎厚は厚い。平行印。当て具痕は僅か消し、外 面は自然磨地胎。大股の石黄粒散在。	
45-00181 109	須磨器 蓋	層土内 破片	高3.3		泥・密・灰・硬・細砂粒	底面片。胎厚は厚い。外面は凹状隆起。輪轡石印成成形。	
45-00182 109	須磨陶器 反輪轡	層土内 1/2残	□(13.2)	高5.1 底(6.3)	泥・密・灰白・輪状白・硬・黒粒・ 白粒	真鍮的に立ち上がる。胎厚は薄い。輪轡石印成成形。付 高台。内外面磨地。内面磨地磨きよく、灰用粒と 混む。磨地有り。内面に重ね焼きが認められる。	
45-00183 109	須磨陶器 反輪轡	層 1/4残	□(16.1)	高5.0 底(7.8)	泥・密・灰白 輪状白・硬・黒粒・白粒	真鍮的に立ち上がる。胎厚は薄い。輪轡石印成成形。付 高台。内外面磨地。内面磨地磨きよく、灰用粒と 混む。磨地有り。内面に重ね焼きが認められる。	
45-00184 109	須磨陶器 反輪轡	層土内 破片	□(16.0)	高3.4	泥・密・灰白・輪状白・赤・黒粒・ 白粒	僅かに立ち上がり、口縁部は外反する。胎厚は薄く、口縁部は 丸みを帯びて立ち上がる。胎厚は薄く、口縁部は丸みを帯び、 輪轡石印成成形。塗灰跡付。	
45-00185 109	須磨陶器 反輪轡	層土内 破片	□(15.0)	高2.9	泥・密・灰白 輪状白・硬・黒粒・白粒	真鍮的に立つ。胎厚は外反する。胎厚は薄く、口縁部は 丸みを帯びて立ち上がる。胎厚は薄く、口縁部は丸みを帯び、 輪轡石印成成形。内面に自然磨地。	
45-00186 109	須磨陶器 反輪轡	層土内 2/4残	高2.9 底7.7		泥・密・灰白・輪状白・硬・黒粒・ 白粒	丸みを帯びて立ち上がる。胎厚は薄い。輪轡石印成成形。 付高台。内外面磨地。内面磨地磨きよく、灰用粒と混 む。外面に自然磨地。	
45-00187 109	須磨陶器 反輪轡	層土内 破片	高1.2 底(6.4)		泥・密・灰白・硬・黒粒・白粒	底面片。胎厚は厚い。輪轡石印成成形。付高台。内面に 重ね焼きが認められる。	
45-00188 109	須磨陶器 反輪轡	層土内 破片	高2.4 底(7.6)		泥・密・灰白・硬・黒粒・白粒	底面片。胎厚は厚く均質。輪轡石印成成形。付高台。 内面に自然磨地。	
39-00019 109	石製品 磁石	層土内 完整	高2.3 幅3.3 厚1.8		凝灰岩	使用は四角。側面に刃割が見える。中央部がやや薄し。	
39-00020 109	石製品 磁石	層土内 完整	高18.4 幅4.4 厚2.8		凝灰岩	使用は四角。中央部がやや薄し。	
20-00021 110	石磨 明き石	層土内 1/2残	径7.6 幅7.9 厚9.6 重330		粗粒凝灰岩山打	土面に磨行痕が集中している。	
45-00015 110	鉄器 釘	層土内 部分欠損	径9.9 長60.6 厚9.6 重21			尖端を欠損する。全体に磨化が時に顕著。断面は特に磨著 である。磨化状態が不均等に磨化している。	
45-00016 110	鉄器 釘	床面直上 部分欠損	残長10.5 幅0.7 厚9.8 重20			細部を調査する欠損により尖っている。全体に均等に磨 化している。磨化が顕著。	
45-00017 110	鉄器 釘か	層土内 破片	残長11.5 幅0.9 厚9.9 重43			円筒の欠損は古い。磨化が顕著。断面は正方形状を呈する。 調査後の欠損が大きい。輪轡の部分部分であるが、磨片化して いる。良好な状態を固定化した。	
45-00018 110	鉄器 納線並か	17仕置内 破片	残長37.9 幅0.5 厚9.6 重58			調査後の欠損が大きい。輪轡の部分部分であるが、磨片化して いる。良好な状態を固定化した。	
45-00019 110	鉄器 納線並か	層土内 破片	残長25.7 幅0.5 厚9.5 重35			調査後の欠損が大きい。磨化が顕著。断面は正方形状を呈 する。	
45-00020 110	鉄器 有鉄線釘	床直前 完整	長19.3 身幅3.9 厚 1.5 刃部8.8 重147			鋭部は叩き製して鋼に焼いている。刀部は直方。磨化が 顕著。	
45-00021 110	鉄器 鐵尺か	17仕置土 完整	通高6.8 幅3.5 厚7			分割を伴う割。鉄の1単位は4.0mm。鉄は9個が確認出来 る。一部調査時の欠損で磨化している。	

第18号住居跡出土遺物

遺物番号 図号	遺物種 類	出土層位 層 序	厚 度 目 (cm)	質 量 目 (g)	構成・色調・胎土 (石室材は付目録)	形状・技法等の特徴	備 考
45-00189 110	土師器 土師杯	層土内 破片	□(17.5)	高5.8	黄・密・鈍赤・硬・白微	「コ」の字状口縁。胎厚は厚い。外面は凹縁りはササ状。 口縁部は磨地成形。一部に自然磨地認められる。	
45-00190 110	土師器 土師杯	層土内 破片	径2.9		黄・密・硬・赤・肉肉石	口縁部片。口縁部は僅かに外反する。胎厚は厚い。内面に 磨地。	器蓋-13
45-00191 110	土師器 土師杯	層土内 破片	□(14.0)	高2.1	泥・密・灰・硬・軽い白粒・細砂 粒	口縁部破片。鋭く外反する。胎厚は薄い。輪轡石印成成形 部。	
45-00192 110	土師器 土師杯	層土内 破片	高1.7		中・密・黄・赤・白粒・細砂粒	口縁部破片。鋭く外反する。輪轡石印成成形。破片のため、 胎厚は不明。	
45-00193 110	須磨器 杯	層土内 破片	高1.3 底(6.9)		泥・密・灰・硬・黒粒・白粒・砂粒	底面片。底部中心の胎厚は薄い。輪轡石印成成形。底面 は凹状隆起。	

## 第19号住居跡出土遺物

遺物番号 図説番号	遺物種類	出土層位 層 序	厚 目 (cm) 高 (g)	構成・色調・胎土 (石素材は灰目録)	形状・技法等の特徴	備 考
10-00194 110	土師器 覆土内 破片	覆土内 破片	口12.0 高3.5	黒・赤・黄・黒・黒砂粒	縁部は、口縁部は内気味。外面に縁を付す。底面は直筒形。口縁部は縁部で整形。	
10-00195 110	土師器 覆土内 破片	覆土内 破片	口14.0 高3.2	黒・赤・黄・赤・黒砂粒	口縁部は外気味。外面に縁を付す。底面は直筒形。口縁部は縁部で整形。	
10-00196 110	土師器 覆土内 破片	覆土内 破片	口14.3 高2.8	黒・赤・黄・黒・黒・白粒	口縁部は外気味。内面に滑り、黒色顔料を施す。底面は直筒形。口縁部は縁部で整形。	
10-00197 110	須恵器 覆土内 破片	覆土内 破片	高2.7	黒・赤・灰・赤・黒粒・白粒	口縁部片。内面気味。器厚は薄い。輪軸右回転成型。器底は厚いか。	
10-00199 110	須恵器 覆土内 破片	覆土内 破片	高2.6	黒・赤・灰・赤・白粒	口縁部片。輪軸右回転成型。胎土は粗く、ダマダマしている。	
10-00201 110	須恵器 覆土内 破片	覆土内 破片	高4.1	黒・赤・灰・赤・白粒・黒砂粒	須恵器片。輪軸右回転成型。二条の絞線で区画しその間に表状文を施す。	
10-00202 110	須恵器 覆土内 破片	覆土内 破片	厚0.6	黒・赤・黄・黒・赤・白粒・白粒・砂粒	須恵器片。厚は薄い。平行印を付す。当て具文字。外面に自然釉付着。	
10-00204 110	須恵器 覆土内 破片	覆土内 破片	高0.7	黒・赤・灰・白・輪軸白・赤・黒粒・白粒	須恵器片。丸みを帯びた器底は平気味。輪軸右回転。外面は土半の絞線で下半が右回転の同心線入り。外面直線入り。	

## 第27号住居跡出土遺物

遺物番号 図説番号	遺物種類	出土層位 層 序	厚 目 (cm) 高 (g)	構成・色調・胎土 (石素材は灰目録)	形状・技法等の特徴	備 考
10-00198	須恵器 覆土内 破片	覆土内 破片	高3.0	黒・赤・黄・赤・赤粒・砂粒	天井部片。器厚はやや厚い。外面は右回転成形。輪軸右回転成型。底は丸味。	
10-00200	須恵器 覆土内 破片	覆土内 破片	高1.9	中・赤・黄・赤・赤・白粒・黒砂粒	口縁部片。輪軸右回転成型。	
10-00203	須恵器 覆土内 破片	覆土内 破片	口13.0 高3.0	黒・赤・灰・白・輪軸黄・赤・黒粒・白粒	口縁部片。輪軸右回転成型。内外面直線。縁はほとんど直線している。	
10-00205	土師器 覆土内 破片	覆土内 破片	厚0.5	黒・赤・黄・赤・赤・赤粒・赤粒・赤角	須恵器片。器厚は薄い。破片のため器形の詳細は不明。	
10-00206 113	土師器 覆土内 破片	覆土内 破片	厚0.45	黒・赤・黄・赤・赤・赤粒・黒粒・赤粒	須恵器片。器厚は薄い。内外面とも無文。外面に保形。破片のため器形の詳細は不明。	
40-00022 113	鉄器 覆土内 部分欠損	覆土内 部分欠損	残長1.1 幅0.6 厚0.4 重7		土師器は胎土を思わせるが、刃先はやや曲がっている。錆化が顕著。	

## 第20号住居跡出土遺物

遺物番号 図説番号	遺物種類	出土層位 層 序	厚 目 (cm) 高 (g)	構成・色調・胎土 (石素材は灰目録)	形状・技法等の特徴	備 考
10-00207 110	土師器 覆土内 破片	覆土内 破片	口12.0 高3.1	黒・赤・黄・赤・赤粒	口縁部は外気味。外面に縁を付す。底面は直筒形。口縁部は縁部で整形。	
10-00208 110	土師器 覆土内 破片	覆土内 破片	高2.3 高3.2	黒・赤・黄・赤・赤・白粒・黒砂粒	器厚は厚い。外面直線は非直線。	
10-00209 110	土師器 覆土内 破片	覆土内 破片	口18.0 高12.4	黒・赤・黄・赤・赤粒・白粒・赤角	口縁部は外気味。胴部外面は細い縦線入り。内面は焼成色の強い面がみられる。	
10-00210 110	土師器 覆土内 破片	覆土内 破片	高2.6 高5.6	黒・赤・黄・赤・赤砂粒	直筒片。器厚は厚い。直筒外面に木葉文が認められる。	
10-00222	石函 覆土内	覆土内	高22.3 幅17.5 厚5.7 重176	粗粒輝石安山岩	焼結のため、赤色化している。	

## 第21号住居跡出土遺物

遺物番号 図説番号	遺物種類	出土層位 層 序	厚 目 (cm) 高 (g)	構成・色調・胎土 (石素材は灰目録)	形状・技法等の特徴	備 考
10-00211 111	土師器 小付蓋 破片	覆土内 破片	口11.0 高5.2	黒・赤・黄・赤	「コ」の字に輪。口唇部に絞線を付す。器厚は薄い。口縁部は縁部で整形。	
10-00212	土師器 覆土内 破片	覆土内 破片	厚0.6	黒・赤・黄・赤・赤粒	直筒片。器厚はやや厚い。内面に敷付た印文を施す。縦線。器底を多量に含む。	
10-00213	土師器 覆土内 破片	覆土内 破片	高0.9	黒・赤・黄・赤・赤	直筒片。器厚はやや厚い。内面に黒色顔料・縦線を施す。器底を多量に含む。	
10-00214 111	須恵器 覆土内 破片	覆土内 破片	高4.8	黒・赤・灰・赤	口縁部片。器厚はやや厚い。輪軸右回転成型。内面に黒色。	表書-14
10-00215 111	須恵器 覆土内 破片	覆土内 破片	高4.1 高0.80	中・赤・黄・赤・赤・赤粒・赤角	直筒片に属。底部中央の器厚は薄い。輪軸右回転成型。付着。内外面に黒色。外面は「若」。内面は「若」。	表書-15・16
10-00216	須恵器 覆土内 破片	覆土内 破片	口16.8 高1.9	中・赤・黄・赤・赤・白粒・黒砂粒	口縁部片。大きく開き。器厚は薄い。輪軸右回転成型。	
10-00217	須恵器 覆土内 破片	覆土内 破片	高2.6	黒・赤・灰・白・輪軸黄・赤・赤粒・白粒	外反する。器厚は非常に厚い。内外面に自然釉付着。	
10-00218	須恵器 覆土内 破片	覆土内 破片	厚0.9	黒・赤・灰・白・赤・黒粒・白粒	須恵器片。器厚は薄い。平行印。当て具は黄褐色。	
10-00219	須恵器 覆土内 破片	覆土内 破片	口13.2 高1.6	黒・赤・灰・白 胎土オリーブ・赤	器厚はやや厚い。内面に研磨を施す。内外面直線。	
10-00220	須恵器 覆土内 破片	覆土内 破片	高1.9	黒・赤・灰・白・輪軸白・赤・黒粒・白粒	口縁部片。器厚は薄い。小片のため器形の詳細は不明。輪軸右回転成型。	
10-00221	須恵器 覆土内 破片	覆土内 破片	厚0.7	黒・赤・灰・白・輪軸オリーブ・赤・白粒・黒粒	直筒片。器厚は薄い。小片のため器形の詳細は不明。輪軸右回転成型。外面直線。	
10-00222	須恵器 覆土内 破片	覆土内 破片	高1.7 高0.6	黒・赤・灰・白・輪軸白・赤・黒粒・白粒	直筒片。輪軸右回転成型。付着。内外面直線。高台に重ねねばりか認められる。	
10-00223 111	須恵器 覆土内	覆土内	長42.35 幅19.95 厚13.1 重9.400	粗粒輝石安山岩	側面に直線入りされる。焼結のため割線が著しい。	
40-00023 111	鉄器 覆土内 部分欠損	覆土内 部分欠損	長25.0 幅19.8 厚1.8 重354		部分欠損は調査後遺構の穴。同じ正面左側片減り状態に思われる。使い込みの痕跡と考えられる。	

## 第22号住居跡出土遺物

遺物番号 図録番号	遺物種類	出土部位 遺存位置	寸法 目 (cm)	重量 目 (g)	構成・色調・粘土 (石製材は母目録)	形状・技法等の特徴	調査
10-00223 111	土師器 平づくね	甕土内 3/4焼	□(5.6)	高6.3	中・灰・浅黄・黒・黒灰・白灰	底かに丸みを帯びて直立する。器厚は厚い。胎で調整。	
10-00224 111	土師器 平	甕土内 1/2焼	□(11.8)	高7.4	黒・灰・明赤・緑・赤粒・黒灰・透灰・白粒・粗砂粒	丸底。口縁部は外反し。口唇部で先細りする。口縁部は横線で、内面に無刻文の筋が認められる。	
10-00225 111	土師器 平	貯蔵穴内 ほぼ完成形	□(13.4)	高5.3	黒・密・明赤・緑・赤粒・黒灰・透灰	丸底。口縁部は外反し。口唇部は横線で、内面に無刻文の筋が認められる。	
10-00226 111	土師器 平	甕土内 ほぼ完成形	□(11.6)	高4.8	黒・灰・緑・赤粒・赤粒・赤角	丸底。口縁部は直立する。器厚は中厚く、先細りする。甕土部に強い横線を持つ。口縁部は横線で、重ね焼きによる黒色。器面は滑らかな。	
10-00227 112	土師器 平	貯蔵穴内 完成形	□(11.8)	高5.2	黒・密・赤・緑・赤粒・赤角	丸底。口縁部は直立する。器厚は中厚く、先細りする。甕土部に強い横線を持つ。器厚はほぼ均質。口縁部は横線で、重ね焼きによる黒色。器面は滑らかな。	
10-00228 112	土師器 平	甕土内 6/5	□(8.4)	高4.8	中・密・鈍黄・緑・赤・黒灰・白灰	丸底。口縁部は直立する。器厚は中厚く、先細りする。内面に強い横線を持つ。口縁部は横線で、内面に無刻文の筋が認められる。	
10-00229 112	土師器 平	貯蔵穴内 ほぼ完成形	□(12.1)	高6.0	黒・密・鈍黄・緑・赤	丸底。口縁部は直立する。器厚は中厚く、先細りする。外周部に重ね焼きによる黒色。器面は滑らかな。	
10-00230 112	土師器 平	甕土内 ほぼ完成形	□(12.1)	高8.2	黒・灰・鈍黄・緑・赤・黒灰・透灰・白粒	丸底。口縁部は直立する。器厚は厚い。口縁部は横線で、器面は横線を施す。	
10-00231 112	土師器 平	甕土内 1/2焼	□(11.4)	高5.0	黒・灰・鈍黄・赤・赤粒・黒灰・透灰	丸底。口縁部は直立する。器厚は中厚く、先細りする。口縁部は横線で、内面に無刻文の筋が認められる。	
10-00232 112	土師器 平	甕土内 3/4焼	□(12.0)	高5.4	黒・密・緑・赤・赤粒	丸底。口縁部は直立する。器厚は厚い。口縁部は横線で、外周部に重ね焼きによる黒色。器面は滑らかな。	
10-00233 112	土師器 平	貯蔵穴内 3/4焼	□(12.1)	高5.2	黒・密・明赤・緑・赤粒・赤角	丸底。口縁部は直立する。器厚は中厚く、先細りする。口唇部は横線で、器厚は均質。	
10-00234 112	土師器 平	甕土内 1/2焼	□(14.0)	高3.5	黒・灰・鈍黄・緑・赤・白灰	口縁部は短くやや外傾。器厚は均質。内外面に横線を施す。外周部中央部に重ね焼き時の黒色。内面は白色を呈す。	
10-00235 112	土師器 高杯	甕土内 ほぼ完成形	□(12.6)	高10.8 底(9.8)	黒・密・緑・赤・赤粒	口縁部は僅かに外反する。器厚は外反して薄く、口縁部の器厚は厚い。口縁部は横線は横線で、器面は滑らかな。	
10-00236 112	土師器 高杯	甕土内 1/2焼	高6.7	底(6.6)	黒・密・鈍黄・緑・黒灰・透灰	器厚は外反して薄く。器厚は厚く、先細りする。外周は研削が施される。内面は粘土の層が認められる。	
10-00237 112	土師器 杯	甕土内 1/2焼	高7.7	底(6.5)	黒・赤・緑・赤・白灰	平底。内周部に縦筋を施す。外周部に無刻文を施す。	
10-00238 112	土師器 高杯	甕土内 完成形	高2.6	底(4.2)	黒・密・鈍黄・緑・赤・赤角・粗砂粒	底面片。器厚は厚い。外周部は未調整。	
10-00239 112	新石器 はさく	貯蔵穴2 破片	□(8.0)	高2.9	黒・密・灰・緑・白灰・粗砂粒	口縁部片。口唇部は横線のみ。器厚は厚い。輪軸右回転成形。下部に穿孔。	
10-00240 112	新石器 高杯	甕土内 破片	高4.2		黒・密・灰・緑・白灰・粗砂粒	器厚片。直線的に開く。器厚は厚い。兵器一致の方向で、底に一条の浅線を施す。外周部に無刻文を施す。	

## 第24号住居跡出土遺物

遺物番号 図録番号	遺物種類	出土部位 遺存位置	寸法 目 (cm)	重量 目 (g)	構成・色調・粘土 (石製材は母目録)	形状・技法等の特徴	調査
10-00241 112	土師器 杯	甕土内 破片	□(13.6)	高3.7	黒・灰・鈍黄・緑・赤・白灰	平底。直線的に立ち上がる。器厚は均質。口縁部横線で、	
10-00242 112	土師器 内環	甕土内 1/4焼	□(14.2)	高4.0	中・灰・浅黄・緑・赤・黒灰・粗砂	やや丸みを帯びて立ち上がる。口縁部は横線で、内面は黒色処理と研削を施す。器厚を多く含む。	
10-00243 112	土師器 壺	甕土内 破片	□(19.6)	高11.4 胴径(11.7)	黒・密・赤・緑・赤粒・黒灰	口縁部は「コ」の字くずれ。器厚は口縁部でやや厚い。口縁部は横線で、内面筋部は筋目付の横線で、	
10-00244 112	土師器 壺	甕土内 1/2焼	□(19.2)	高14.5 胴径(12.2)	黒・密・鈍黄・緑・赤粒・白灰	外周部中央部に重ね焼き時の黒色。内面は白色を呈す。口縁部は横線で、粘土層の結合が明確。	
10-00245 112	新石器 足高台	甕土内 1/2焼	高5.0	底径(8.8)	中・密・鈍黄・赤・赤粒	直線的に立ち上がる。器厚は厚い。輪軸右回転成形。付高台。内面に重ね焼きによる黒色を認められる。	
10-00246 112	新石器 高台付壺	甕土内 1/4焼	高2.4	底(6.5)	中・密・鈍黄・赤・白灰	底面片。器厚は厚い。輪軸右回転成形。付高台。	
10-00247 112	新石器 灰物	甕土内 破片	□(15.1)	高4.2 底(7.2)	黒・密・灰・赤・白灰・赤・黒灰・白粒	直線的に立ち上がる。器厚は厚い。輪軸右回転成形。付高台。内外面とも磨り。	
10-00248 112	土師器 壺	甕土内 2/4焼	高2.4	底(6.6)	黒・密・鈍黄・緑・赤・黒灰・白粒・粗砂	底面片。器厚は厚い。内面に研削を施す。付高台。	
10-00249 113	新石器 壺	甕土内 破片	高2.7		黒・密・灰・赤・透灰・白粒・粗砂	胴部片。器厚は厚い。胴底の平行印が、当て具は背割状文。地成後に穿孔を施す。	
40-00024 113	新石器 大型磨石	甕土内 破片	残長20.6	幅3.9 厚0.5	重115	欠損状態で残存されている。残存状況からかなり大形の磨石と考えられる。	

## 第25号住居跡出土遺物

遺物番号 図録番号	遺物種類	出土部位 遺存位置	寸法 目 (cm)	重量 目 (g)	構成・色調・粘土 (石製材は母目録)	形状・技法等の特徴	調査
10-00250 112	土師器 平	甕土内 ほぼ完成形	□(12.6)	高4.3	黒・密・鈍黄・赤・赤粒・黒灰・白粒	平底。やや丸みを帯びて立ち上がる。器厚は厚い。口縁部は横線で、内面に無刻文の筋が認められる。	
10-00251 112	新石器 平	甕土内 1/3焼	□(12.6)	高3.8 底(2.2)	中・密・鈍黄・赤・赤粒・白粒・粗砂	直線的に立ち上がり。口縁部で強く外反し器厚は厚い。輪軸右回転成形。甕土部に強い横線を持つ。内面に無刻文の筋が認められる。	
10-00252 112	新石器 平	甕土内 1/2焼	□(12.6)	高3.5	中・密・灰・白・白灰・粗砂	直線的に立ち上がり。口唇部で先細りする。輪軸右回転成形。甕土部に強い横線を持つ。重ね焼きによる黒色。器面は滑らかな。	
10-00253 113	新石器 壺	甕土内 1/2焼	□(15.8)	高7.0 底(7.5)	黒・密・灰・白・白灰・黒灰・粗砂	直線的に立ち上がり。口唇部で強く外反する。輪軸右回転成形。付高台。器厚外周に厚い。	
10-00254 112	新石器 灰物	甕土内 破片	高3.3		黒・密・灰・白・白灰・赤・黒灰・白粒	胴部片。器厚は中厚い。輪軸右回転成形。外周部も磨り。	
40-00025 113	新石器 破片	甕土内 破片	残長1.1	幅1.7 厚0.3	重19	平直り状態で研削。刃先は厚く尖る。刃部は直線的だが、転用も考慮される。	



## 第29号住居跡出土遺物

遺物番号 図録番号	遺物種 目	出土層位 層	出土位置 座	量目 目 (cm) 目 (g)	構成・色調・粘土 (石素財は量目欄)	形状・技法等の特徴	調査
10-00255 114	土師器 杯	覆土内 2/4焼	117.5 高4.2 幅7.9		黒・赤・黄褐色・黒・赤鉄・黒鉄・ 砂鉄	平底、流線的に立ち上がる。器厚がやや薄く均質。口縁部 下半に工具による痕跡を施す。	
10-00256 113	土師器 杯	覆土内 焼片	□(20.2) 高5.8		黒・赤・黄褐色・黒・白鉄	口縁部は、「コ」の字状口縁。粘土層の結合痕が明瞭。	
10-00257 114	土師器 土師碗	覆土内 1/4焼	118.4 高20.8 幅20.3		黒・赤・黄褐色・黒・赤鉄・赤鉄・ 黒鉄・白鉄	口縁部は「コ」の字くずれ。器厚は厚い。内面は器腹での 凹みがある。	
10-00258 114	土師器 土師碗	覆土内 焼片	114.9 高5.1 幅5.8		中・赤・灰・赤・白鉄・白鉄	直線的に立ち上がり、口縁部は外反する。焼成は脆。輪 轡石回転成形製。付高台。	
10-00259 114	土師器 土師碗	覆土内 焼片	高3.3		黒・赤・黄褐色・黒・赤鉄・赤鉄	器厚は厚い。内面に熟状焼痕を施す。	
10-00260 113	土師器 土師碗	覆土内 焼片	108.5 高4.2		黒・赤・黄褐色・黒・赤鉄・黒鉄・ 砂鉄	黒・赤・黄褐色・黒・赤鉄・黒鉄・ 砂鉄	
10-00264 113	土師器 土師碗	覆土内 4/5焼	123.0 幅16.4 幅15.5 高2.567		粗粒輝石安山岩	扁平が顕著。多数の磨面が認められる。	
10-00265 114	土師器 土師碗	覆土内 1/2焼	123.65 幅18.35 幅9.9 高3.049			表面に凹部に磨打痕が認められる。	

## 第30号住居跡出土遺物

遺物番号 図録番号	遺物種 目	出土層位 層	出土位置 座	量目 目 (cm) 目 (g)	構成・色調・粘土 (石素財は量目欄)	形状・技法等の特徴	調査
10-00261 114	土師器 内土師碗	覆土内 焼片	□(14.4) 高4.3		黒・赤・黄褐色・黒・赤鉄・黒鉄	やや流線して立ち上がる。器厚はほぼ均質。内面に黒色粘 土層方向の細かい磨面を施す。付高台。	
10-00262 114	土師器 土師碗	覆土内 1/2焼	111.2 高3.6		中・赤・黄褐色・黒・黒鉄	直線的に立ち上がり、口縁部の器厚は厚くなる。輪轡石回 転成形製。底部は凹み切入り。	
10-00263 114	土師器 土師碗	覆土内 2/3焼	111.6 高3.8 幅5.6		中・赤・黄褐色・黒・黒鉄	丸みを帯びて立ち上がり、口縁部は厚い。輪轡石回転成形製。 底部は凹み切入り。	
10-00264 114	土師器 土師碗	覆土内 1/2焼	□(12.0) 高3.6 幅4.4		中・赤・灰・白・赤・黒鉄・砂鉄	直線的に立ち上がる。器厚は厚い。輪轡石回転成形製。底 部は凹み切入り。内外面に磨き跡の磨面が認められる。	
10-00265 114	土師器 土師碗	覆土内 焼片	112.4 高4.1 幅6.2		黒・赤・灰・白・赤・黒鉄・砂鉄	丸みを帯びて立ち上がり口縁部で外反。輪轡石回転成形製。 底部は凹み切入り。立ち上がり口縁部で外反。器厚は厚い。輪 轡石回転成形製。付高台。内面に黒色粘土層方向の細かい 磨面を施す。	調査 17
10-00266 114	土師器 土師碗	覆土内 一部欠損	112.4 高4.0 幅5.2		中・赤・黄褐色・黒・赤鉄・黒鉄	直線的に立ち上がり、口縁部で外反する。器厚は厚い。輪 轡石回転成形製。底部は凹み切入り。	
10-00267 114	土師器 土師碗	覆土内 3/4	□(11.7) 幅3.4		黒・赤・黄褐色・黒色粘粘土・透 明状物微粒子・白色粘粘土	輪轡石回転成形製。底部は凹み切入り。器内面は布巻状の厚 い磨面。底部2層目の輪轡石が認められる。	調査 18
10-00268 114	土師器 土師碗	覆土内 1/2焼	□(13.5) 高5.0 幅7.0		中・赤・灰・白・赤・黒鉄・砂鉄	口縁部は厚く外反する。輪轡石回転成形製。付高台。磨 き跡の磨面が認められる。外側に凹みと器内面に磨面。	調査 18・19
10-00269 114	土師器 土師碗	覆土内 1/2焼	□(12.3) 高4.6 幅7.3		中・赤・黄褐色・黒・白鉄	丸みを帯びて立ち上がり口縁部で外反。器厚は厚い。輪 轡石回転成形製。付高台。内面に黒色粘土層方向の細かい 磨面を施す。	
10-00270 114	土師器 土師碗	覆土内 2/4焼	113.6 高5.3 幅7.5		中・赤・黄褐色・黒・赤鉄・黒鉄・ 白鉄	流線的に立ち上がり、口縁部は外反する。器厚は厚い。輪 轡石回転成形製。付高台。器面に磨き跡。	
10-00271 114	土師器 土師碗	覆土内 1/2焼	□(14.3) 高4.6 幅16.2		黒・赤・灰・白・赤・白鉄・砂鉄	口縁部は厚く外反する。輪轡石回転成形製。付高台。	
10-00272 114	土師器 土師碗	覆土内 一部欠損	113.9 高5.4 幅7.5		中・赤・黄褐色・黒・赤鉄・黒鉄・白 鉄	丸みを帯びて立ち上がり、口縁部で外反する。器厚は 厚い。輪轡石回転成形製。付高台。外面に磨き跡の磨 面。凹み跡も多く見られる。	
10-00273 114	土師器 土師碗	覆土内 焼片	□(15.6) 幅(7.6) 幅5.7		黒・赤・黄褐色・透明状物微粒子・ 黒鉄	輪轡石回転成形製。高台は付高台。器内面は布巻状の厚 い磨面。凹み跡も付高台。器内面は布巻状の厚い磨 面。凹み跡も付高台。	調査 18
10-00274 114	土師器 土師碗	覆土内 焼片	115.6 高7.0 幅8.3		黒・赤・黄褐色・黒・赤鉄・黒鉄・ 赤鉄・白鉄	口縁部が厚く外反する。輪轡石回転成形製。付高台。	
10-00275 114	土師器 土師碗	覆土内 焼片	125.5 高5.8		黒・赤・黄褐色・黒・赤鉄・白鉄	直線的に立ち上がり。輪轡石回転成形製。付高台。内面に 熟成後の磨面を「上」。	
10-00276 114	土師器 土師碗	覆土内 焼片	□(17.4) 高15.3		中・赤・黄褐色・黒・赤鉄	胴部の張り強い。器下から器用。磨面付付け。	
10-00277 114	土師器 土師碗	覆土内 焼片	□(18.6) 脚部(21.4) 脚部(20.8)		黒・赤・黄褐色・黒鉄長石・黒 色粘粘土・黒色粘粘土	総作り後輪轡石回転成形製。磨面は付高台。胴部は磨面付 の磨面を施す。	調査 18
10-00278 114	土師器 土師碗	覆土内 焼片	□(20.2) 脚部(23.5)		黒・赤・黄褐色・黒鉄長石・黒 色粘粘土・黒色粘粘土	総作り後輪轡石回転成形製。磨面は付高台。胴部は磨面付 の磨面を施す。	調査 18
10-00279 114	土師器 土師碗	覆土内 焼片	高15.5 幅(6.2)		中・赤・黄褐色・黒・白鉄・黒鉄・ 砂鉄	やや丸みを帯びて立ち上がり。器厚は厚い。胴部は磨面付 は磨面方向の磨面。底部磨面も付高台。	
10-00280 114	土師器 土師碗	覆土内 1/2焼	□(12.4) 高3.0 幅(7.0)		黒・赤・黄褐色・黒鉄・赤鉄・中 赤	丸みを帯びて立ち上がり、口縁部は厚く外反する。器厚は 厚い。輪轡石回転成形製。付高台。内外面に磨面を施す。 下部磨面1方を欠損する。器中下部の部分的に磁力を呼ぶ 能力(力2)。	
40-00026 114	鉄片	覆土内 1/2焼	幅6.3+α 幅9.4 厚4.2 重29.9			断面は小物状物を呈する。中央部付近が磁力をやや強め に呼ぶ(能力3)。	
40-00027 114	鉄片	覆土内 焼片	幅6.0 幅9.4 厚5.7 重36.1			断面を呈する。全体的に磁力は少ない(能力5)。	
40-00028 114	鉄片	覆土内 焼片	幅12.5 幅15.6 厚7.7 重1,091				
20-00025 113	石器 石片	覆土内 1/2焼	幅21.0 幅19.3 厚3.9 重3,817		粗粒輝石安山岩	表面の中央には磨打痕が集中して認められる。	

## 第31号住居跡出土遺物(1)

遺物番号 図録番号	遺物種 目	出土層位 層	出土位置 座	量目 目 (cm) 目 (g)	構成・色調・粘土 (石素財は量目欄)	形状・技法等の特徴	調査
10-00281 114	土師器 土師碗	覆土内 焼片	幅9.4		黒・赤・黄褐色・黒・赤鉄・黒鉄	小片のため器形の詳細は不明。外面に磨面。	調査 20
10-00282 114	土師器 土師碗	覆土内 焼片	幅9.4		中・赤・黄褐色・黒・黒鉄・白鉄	小片のため器形の詳細は不明。外面に磨面。	調査 21
10-00283 113	土師器 土師碗	覆土内 2/3焼	□(12.2) 高4.3 幅(5.2)		黒・赤・黄褐色・黒・赤鉄・黒鉄	平底、口縁部は直線的に厚く。器厚の器厚は口縁部上 半に流線型。下半は直線的型。器内面は黒色粘粘土。	

第31号住居跡出土遺物(2)

遺物番号 (図録番号)	遺物種類	出土層位 層分	度量目 (cm) (g)	構成・色調・粘土 (土質は便宜記述)	形状・技法等の特徴	備 考
10-00284 115	土師器 埴	覆土内 部分穴	口115.7 高3.9	灰・赤・黄褐色・硬・赤粒・黒粒・ 砂粒	やや丸みを帯びて立ち上がり、大きく開く。底面の厚さは厚い。口縁部は横線で、内面は縦線を施す。高台は欠損。	
10-00285 115	土師器 小壺	覆土内 破片	高4.9	灰・赤・黄褐色・硬・黒粒・透灰・ 白粒	口縁部は外反する。器厚は均齊。口縁部は横線で、体部内面は縦線の装飾で、	
10-00286 115	土師器 壺	覆土 1/4層	口119.0 高14.4 胴径12.2	灰・赤・黄褐色・硬・赤粒・黒粒・白 粒・砂粒	「コ」の字状に横。胴部は横。口唇部は欠損を伴つ。器厚は厚い。口縁部は横線で、粘土は厚肉混合の。	
10-00287 115	土師器 壺	覆土内 破片	高8.6 底5.9	灰・赤・黄褐色・硬・赤粒・黒粒・透 灰・砂粒	底面は丸みを帯びる。底面の厚さは厚い。外面に縦方向	
10-00288 115	灰土器 杯	覆土内 2/3層	口113.6 高4.0	黒・赤・灰白・灰・白粒・粗砂粒	丸みを帯び、口縁部は外反する。器厚は均齊。縦線が回転成 造形。破片。	
10-00289 115	灰土器 壺	覆石壁 2/3層	口113.0 高4.9 底5.1	中・赤・灰黄・赤・赤粒・白粒・白 粒・砂粒	高筒的に立ち上がる。器厚は厚い。縦線が回転成造形。付 高台。底面はさざつ。	
10-00290	灰土器 壺	覆土内 破片		黒・赤・灰・硬・白粒	割片片。器厚はやや厚い。平行印が、当てはまらぬ。	
10-00291	灰土器 灰土器	覆土内 破片	口112.0 高2.8	黒・赤・灰白・粉灰白・硬・黒粒・白 粒	高筒的に立ち上がり、口唇部外面に横線を伴つ。器厚は薄 い。縦線が回転成造形。横ひねり。	
10-00292	灰土器 灰土器	覆土内 破片	口112.0 高2.1	黒・赤・灰白・粉灰白・硬・黒粒・白 粒	高筒的に開き、口唇部で僅かに外反する。器厚は厚い。縦 線が回転成造形。横ひねり。	
10-00293	灰土器 灰土器	覆土内 破片	口116.0 高1.9	黒・赤・灰白・粉灰白・赤・黒粒・ 白粒	高筒的に開き、口唇部で僅かに外反する。器厚は厚い。縦 線が回転成造形。横ひねり。	
10-00294 115	灰土器 灰土器	覆土内 1/2層	口114.7 高2.9 底16.8	黒・赤・灰黄・粉灰白・硬・黒粒・ 白粒	縦線が回転成造形。付高台。内外面同様に、土を施す。破 片が認められる。器厚が厚く、内面の厚さが厚い。	
10-00017 115	石製品 砥石	覆土内 1/2層	長17.0 幅6.0 厚1.0~2.6	扇灰岩	使用は既述。よく使用して、土に色が付いている。	
10-00018 115	石製品 砥石	覆土内 1/2層	長14.5 幅6.6 厚1.0	扇灰岩	使用は既述。土層はやや厚い。刃端が見られる。	
10-00019 115	鉄器 鉄片	跡9.9 幅4.8 跡3.3 重300			3つの腕から成っている。上面左側の腕をよぶ(腕力4)。	
10-00030 115	銅片	覆土内 部分穴	跡9.9 幅4.8 跡3.1		二層の鏡形。引い通着方有り。底面は鏡形が中央が最も 突出している。	

第32号住居跡出土遺物(1)

遺物番号 (図録番号)	遺物種類	出土層位 層分	度量目 (cm) (g)	構成・色調・粘土 (土質は便宜記述)	形状・技法等の特徴	備 考
10-00295 115	灰土器 杯	覆土内 1/2層	口111.3 高3.3 底5.7	中・赤・黄褐色・硬・黒粒・透灰・ 白粒	直線的に立ち上がり、口唇部はやや厚い。縦線が回転成造形。底 面が凹み切り。断面がさざつ。外面に横線を施す。高台は欠損。	
10-00296 115	灰土器 壺	覆土内 1/2層	口114.0 高4.8 底17.3	中・赤・黄褐色・硬・黒粒・透灰・ 白粒	丸みを帯びて立ち上がり口唇部が僅かに外反。器厚は均齊。縦 線が回転成造形。付高台。腹中央部には赤を施す。	
10-00297 115	灰土器 高台	覆土内 3/4層	口114.3 高4.0 底9.4	中・赤・黄褐色・硬・黒粒・白粒	直線的に立ち上がる。器厚は均齊。縦線が回転成造形。付 高台。高台は高く、「ハ」の字に開く。	
10-00298 115	灰土器 壺	覆土内 1/2層	口115.2 高6.2 底7.6	中・赤・黄褐色・硬・白粒・砂粒	僅かに丸みを帯びて立ち上がり、口唇部で僅かに外反する。器 厚は厚い。縦線が回転成造形。付高台。器厚は均齊。底面は 凹み切り。	
10-00299 115	灰土器 壺	覆土内 1/4層	高3.3 底7.5	中・赤・黄褐色・硬・赤粒・黒粒・ 白粒	器厚はやや厚い。縦線が回転成造形。付高台。高台は「ハ」 の字に開く。	
10-00300	灰土器 壺	覆土内 破片	高4.7	黒・赤・暗灰黄・赤・白粒・粗砂粒	割片片。器厚は厚い。縦線が回転成造形。三方厚。	
10-00301 114	灰土器 壺	覆土内 破片	口118.0 高10.4	黒・赤・灰黄・赤・白粒・砂粒	胴部は丸みを帯び、口縁部は外反する。器厚は厚い。口縁部は横 線で、外面に縦線を施す。内面は縦線を施す。高台は欠損。	
10-00302 114	土師器 土師器	覆土内 1/3層	口120.8 高19.7 胴径11.0	灰・赤・黄褐色・硬・赤粒・白粒	胴部は丸みを帯び、口縁部は外反する。器厚は厚い。口縁部は横 線で、外面に縦線を施す。内面は縦線を施す。高台は欠損。	
10-00303 115	土師器 壺	覆土内 1/4層	口120.1 高19.3 胴径23.5	中・赤・黄褐色・硬・赤粒・砂粒	「コ」の字状に横。胴部は赤。口唇部は横線を伴つ。器厚は 厚い。口縁部は厚肉混合の。	
10-00304 116	土師器 壺	覆土 破片	口121.1 高13.9 胴径23.0	灰・赤・黄褐色・黒粒・白粒・砂粒	口縁部は「コ」の字に開く。器厚は厚い。口縁部は横線で、 外面は縦線を施す。内面は縦線を施す。高台は欠損。	
10-00305 116	土師器 壺	覆土内 破片	口121.5 高14.8 胴径24.5	中・赤・黄褐色・硬・赤粒・黒粒・ 白粒・粗砂粒	口縁部は「コ」の字に開く。器厚は厚い。口縁部は横線で、 外面は縦線を施す。内面は縦線を施す。高台は欠損。	
10-00306 115	灰土器 灰土器	左地 4/3層	口12.3 高4.1 底6.7	黒・赤・灰白・粉灰白・硬・黒粒・白 粒	丸みを帯びて立ち上がる。底面の厚さは厚い。縦線が回転成 造形。付高台。器厚は均齊。内面に横線を施す。高台は欠損。	
10-00307 115	灰土器 灰土器	覆土内 1/4層	口12.8 高3.1	黒・赤・灰・粉灰白・硬・白粒・黒 粒	丸みを帯びて立ち上がる。器厚はやや厚い。縦線が回転成 造形。横ひねり。	
10-00308 115	灰土器 灰土器	覆土内 1/2層	口125.9 高5.4 底5.4	黒・赤・灰白・粉灰白・硬・黒粒・ 白粒	丸みを帯びて立ち上がり、口唇部で僅かに外反する。器厚 は厚い。縦線が回転成造形。付高台。体部下半は回転成 造形。横ひねり。内面に横線を施す。高台は欠損。	
10-00309 115	灰土器 灰土器	覆土内 1/2層	口15.2 高1.5	黒・赤・灰白・粉灰白・硬・黒粒・ 白粒	直線的に大きく開く中位の字に開く。器厚はやや厚い。縦 線が回転成造形。横ひねり。底面は凹み。口縁部は大きく	
40-00031 116	鉄器 鉄片	覆土 部分穴	残長6.4 身幅3.0	黒鋼(厚0.7)刃厚0.4/厚0.5/厚0.3	有葉尖型。鈍化が顕著。片側に縦線が認められる。	
40-00032 116	鉄器 刀子	覆土内 部分穴	残長7.5 身幅1.1	黒鋼(厚0.2)刃厚0.3	切先部。葉尖部を欠損する。刃端は鋭利。刀子と茎の境 が不明確。刃端部に溝が認められる。	
40-00033 116	鉄器 刀子	覆土内 部分穴	残長12.0 身幅1.2	黒鋼(厚0.2)刃厚0.3	切先部。葉尖部を欠損する。刃端は鋭利。刀子と茎の境 が不明確。刃端部に溝が認められる。	
40-00034 116	鉄器 刀子	覆土内 部分穴	残長13.3 身幅1.1	黒鋼(厚0.2)刃厚0.3/葉長6.5	切先部。葉尖部を欠損する。刃端は鋭利。刀子と茎の境 が不明確。刃端部に溝が認められる。葉尖は欠損。	
40-00035 116	鉄器 刀子	覆土内 部分穴	残長4.5 身幅1.6 厚0.3 重55		全体に小孔状を呈する。全体に磁気力ややや厚い(磁気力5)。	

## 第32号住居跡出土遺物(2)

遺物番号 図説番号	遺物種 部 類	出土層位 通 存 存	度 目 (cm) 目 (g)	構成・色調・粘土 (石灰材は灰目録)	形状・技法等の特徴	備 考
49-00006 116	鉄器 刀子	層土内 部分欠損	残長17.3 身幅1.1	黒鉄0.8/黒厚0.25/身厚0.3/身長5.6	切先部は鋼接の欠損。刀身に鋼張りがおぼろげながら認められる。基は比較的に厚い。断面20.2。	
49-00007 116	鉄器 刀子	層土内 部分欠損	残長18.2 身幅1.2	黒鉄1.6/黒厚0.25/身厚0.35/身長5.4	切先部は鋼接の欠損。刀身に鋼張りがおぼろげながら認められる。基は厚い。刀身に鋼張り部分が認められる。	
49-00008 116	鉄器 刺剣	層土内 部分欠損	残長15.1 刃部長5.3	身幅1.3/身厚0.3/黒鉄0.5/黒厚0.4	貫の中央部を欠損する。刃部は鋼張り認められる。基は鉄で包んでいる。	
49-00009 116	鉄器 刀子	層土内 部分欠損	残長8.7 身幅1.1	黒鉄0.8/黒厚0.25/身厚0.3/身長7.3	刀身部は鋼接の欠損。研削により、刃部はまんべんが不明瞭。	
49-00010 116	大刀ノコ	層土内	残長13.0 身幅2.5	黒鉄0.2以下/黒厚0.2/身長7.6	刀身部は鋼接の欠損。重ねは非常に薄く特殊な例題。基には目録が認められる。	

## 第33号住居跡出土遺物

遺物番号 図説番号	遺物種 部 類	出土層位 通 存 存	度 目 (cm) 目 (g)	構成・色調・粘土 (石灰材は灰目録)	形状・技法等の特徴	備 考
10-00310 116	須臾器 杯	右輪 3/4残	口11.4 高3.7 口6.1	中・紫・鈍黄褐色・赤・赤鉄・黒鉄・洗炭・砂鉄	直線的に立ち上がり。器厚は薄い。輪縁は凹輪成形。底面は凹形糸切り。内面底部の輪縁目録。	
10-00311 116	須臾器 杯	層土内 一部欠損	口12.1 高4.2 口6.3	中・紫・鈍黄褐色・赤・赤鉄・黒鉄	直線的に立ち上がる。輪縁は凹輪成形。底面は凹形糸切り。内面底部の輪縁目録。	
10-00312 116	土師器 壺	層土内 1/2残	口22.3 高19.5	紫・黒・鈍黄褐色・赤・赤鉄・黒鉄・白鉄	「フ」の字状口縁。外面の肩取りはツツラク。内面は粘土粒の層が厚い。	
10-00313 116	須臾器 杯	右輪 完全形	口11.1 高3.1 口5.7	中・紫・鈍黄褐色・赤・赤鉄・黒鉄・洗炭・白鉄	直線的に立ち上がる。器厚は薄い。輪縁は凹輪成形。底面は凹形糸切り。内面底部の輪縁目録。	
10-00314 116	須臾器 壺	層土内 ほぼ完全形	口14.3 高6.8 底径8.5	中・紫・鈍黄褐色・赤・赤鉄・白鉄・砂鉄	直線的に立ち上がる。高台は高く、「フ」の字に開く。輪縁は凹輪成形。付置台。断面はざらつく。	

## 第34号住居跡出土遺物

遺物番号 図説番号	遺物種 部 類	出土層位 通 存 存	度 目 (cm) 目 (g)	構成・色調・粘土 (石灰材は灰目録)	形状・技法等の特徴	備 考
10-00315 116	須臾器 杯	左輪 3/4残	口12.1 高4.1 口6.1	中・紫・鈍黄褐色・赤・赤鉄・白鉄・白鉄	直線的に立ち上がり口縁部の器厚は薄い。輪縁は凹輪成形。底面は凹形糸切り。外面底部に黒色を認める。断面はざらつく。台首を多量。	
10-00316 116	須臾器 杯	層土内 1/3残	口13.3 高3.7 底径8.0	紫・赤・灰白・赤・赤鉄・白鉄・白鉄	丸みを帯びて立ち上がり、口縁部で強く外反する。器厚は薄い。輪縁は凹輪成形。底面は凹形糸切り。外面に僅かの目録。	
10-00317 116	土師器 壺	層土内 1/2残	口28.0 高20.7	紫・黒・赤・赤・赤鉄・白鉄	「フ」の字状口縁。肩部は多い。器厚は薄い。口縁部は輪縁で、粘土粒の層が厚い。	
49-00041 116	鉄器 切刃	24号住居2 部分欠損	口5.5 輪径10.7 輪幅0.5 厚3.7		輪縁は凹形。切刃部は鋼接の通り上がり認められる。輪縁は断面正方形をしている。	

## 第35号住居跡出土遺物

遺物番号 図説番号	遺物種 部 類	出土層位 通 存 存	度 目 (cm) 目 (g)	構成・色調・粘土 (石灰材は灰目録)	形状・技法等の特徴	備 考
10-00318 117	縄文土器 浅鉢	層土内 破片	厚1.1	紫・赤・洗炭褐色・白鉄・黒鉄	口縁部に凹輪の浅い残痕を認める。地文は条線縦方向に施文する。	
10-00319 117	縄文土器 深鉢	層土内 破片	厚0.9	紫・赤・鈍鉄・白鉄・黒鉄	胴部下半の破片。地文は條線縦の条線を縦方向に施文する。	
10-00320 117	縄文土器 深鉢	層土内 破片	厚0.9	紫・赤・赤・白鉄・黒鉄	口縁部には2本1組の比較的で、洗炭文施文する。地文は無数の1の縦文を施文する。	
10-00321 117	縄文土器 深鉢	層土内 破片	厚0.9	紫・赤・鈍黄褐色・白鉄・黒鉄	キャリパー形深鉢の胴部のくびれ部分。地文は條線縦の条線を縦方向に施文する。	
10-00322 117	縄文土器 深鉢	層土内 1/2残	口(28.0)	口縁部は条線とそれに沿った縦筋の残痕で文様が施文される。		
10-00323 117	石器 凹石	層土内 完全形	長11.5 幅8.6 厚4.7 重270.4	石灰質緑褐色	表面に浅い凹部が1つあり、表面部に彫り痕が認められる。表面・凹部を磨面として使用する。	
10-00324 117	石器 凹石	中内 4/5残	長28.4 幅24.0 厚7.2 重7,741	細粒輝石安山岩	表面は上下両端方向にゆるやかに傾斜する。表面には複数の凹部と彫り痕が認められる。	
10-00325 117	石器 凹石	中内 4/5残	長32.8 幅19.8 厚9.5 重3,200	細粒輝石安山岩	傾斜して、中央が深くおり窪みだり部認められない。縁と表面に凹部と彫り痕が認められる。	
10-00326 117	石器 凹石	中内 完全形	長19.9 幅19.1 厚9.4 重3,310.9	細粒輝石安山岩	表面部に複数の凹部が認められる。また彫り痕も表面部に認められる。	

## 第36号住居跡出土遺物(1)

遺物番号 図説番号	遺物種 部 類	出土層位 通 存 存	度 目 (cm) 目 (g)	構成・色調・粘土 (石灰材は灰目録)	形状・技法等の特徴	備 考
10-00327 118	縄文土器 深鉢	層土内 破片	厚1.0	紫・赤・鈍鉄・白鉄・黒鉄	平縁の口縁部に凹輪文を施文する吉井山(山腹)の土器で、地文は半彫刻の縦文を施文する。	
10-00328 118	縄文土器 浅鉢	層土内 破片	厚0.9	紫・赤・洗炭褐色・白鉄・黒鉄	口縁部には2本1組の比較的で、洗炭文施文する。地文は無数の1の縦文を施文する。	
10-00329 118	縄文土器 深鉢	層土内 破片	厚2.4	紫・赤・明褐色・白鉄・黒鉄・砂鉄・小礫	キャリパー形深鉢。胴部には洗炭による條線文が施文される。口縁部は條線を施文する。	
10-00330 118	縄文土器 深鉢	層土内 2/3残	口(22.6) 厚1.0	紫・赤・赤・白鉄・白鉄・黒鉄	平縁の口縁部に凹輪文を施文する吉井山(山腹)の土器で、地文は半彫刻の縦文を施文する。	
10-00331 118	縄文土器 深鉢	層土内 1/4残	厚0.9	紫・赤・赤・白鉄・洗炭・黒鉄	キャリパー形深鉢。胴部には洗炭による條線文が施文される。口縁部は條線を施文する。	
10-00033 118	打製石器 突石	完全形	長16.6 幅5.9 厚1.4 重15.6	灰色頁岩	横長の大型片を加工したもので、基部先端に輪縁が残る。断面は最小幅にとどめている。	
10-00034 118	打製石器 打製石	層土内 1/2残	長10.7 幅5.4 厚1.6 重118.8	細粒輝石安山岩	基部と刃部の両端を欠損するもので、表面に輪縁を残す。風化が著しい。	

## 第36号住居跡出土遺物(2)

遺物番号 出土番号	遺物種別 形状	出土層位 遺存 層	量 目 (cm) 目 (g)	構成・色調・粘土 (石素材は産地別)	形状・技法等の特徴	備 考
20-0005 118	打製石 片	現土内 底	長7.49 幅6.15 厚1.55 重76.1	黒色頁岩	素材となる割片の周縁に、簡単な調整を加えたのみで使用しているものである。	
20-0006 118	石器 台石	現土内	長20.85 幅19.4 厚15.5 重4,600	粗粒輝石安山岩	表面には磨痕、縦打痕、凹部が認められる。	
20-0007 118	石器 台石	伊内 底	長31.7 幅19.1 厚13.2 重10,800	粗粒輝石安山岩	表面には磨痕が認められる。裏面は凹部として使用している。	

## 第37号住居跡出土遺物

遺物番号 出土番号	遺物種別 形状	出土層位 遺存 層	量 目 (cm) 目 (g)	構成・色調・粘土 (石素材は産地別)	形状・技法等の特徴	備 考
10-0028 119	縄文土器 鉢	現土内 破片	厚0.9	黒・紫・黄緑・白紋・黒紋	口縁部の破片で、断面部分である。	
10-0029 119	縄文土器 鉢	現土内 破片	厚1.1	黒・紫・黄緑・白紋・黒紋	胴部には波線によって縁部の整形文が施される。	
10-0030 119	縄文土器 鉢	現土内 破片	厚0.8	黒・紫・黄緑・白紋・黒紋	波状文口縁で、2本1組の磨消状縁文で透し字状に胴部に施文する。	
10-0031 119	縄文土器 鉢	現土内 破片	厚1.0	黒・紫・黄緑・白紋・黒紋	波状口縁で、波線を追って口縁部を区画する。波線下には縦文に区画された磨消文を施文する。	
10-0032 119	縄文土器 鉢	現土内 破片	厚1.3	黒・紫・黄緑・白紋・黒紋・砂紋・透紋	波状口縁で、2本1組の磨消状縁文で透し字状に胴部に施文する。	
10-0033 119	縄文土器 鉢	現土内 破片	厚1.1	黒・紫・黄緑・白紋・黒紋	口縁部の破片で、地文は条線がくだけて施される。	
10-0034 119	縄文土器 鉢	現土内 破片	厚1.0	黒・紫・黄緑・白紋・黒紋	波線を胴部に垂下させる。地文は条線である。	
10-0035 119	縄文土器 鉢	現土内 破片	厚1.3	黒・紫・黄・白紋・黒紋・砂紋	縁部の磨消する部分で、口縁部には条線によって文様が施される。	
10-0036 119	縄文土器 鉢	現土内 破片	厚0.9	黒・紫・黄・白紋・黒紋・砂紋	胴部の破片で波線に近い条線が地文として施文されている。	
10-0037 119	縄文土器 鉢	現土内 破片	厚1.3	黒・紫・黄緑・白紋・黒紋・砂紋	胴部の破片で2本1組の磨消状縁で、磨消文を複数施文する。	
10-0038 119	縄文土器 鉢	現土内 破片	厚1.4	黒・紫・黄緑	底部の破片。	
10-0039 119	縄文土器 鉢	現土内 破片	口(15.5)	黒・紫・黄緑・白紋・小磯	平縁で腹文の口縁部で、波線を胴部との区画に追う。胴部は厚縁の腹文の地文のみ施文する。	
10-0040 120	縄文土器 鉢	現土内 1/2割	口(50.2)	黒・紫・明赤褐色・白紋・黒紋3mm 小磯・砂紋	口縁部は磨消した横行区画から縁部を垂下させる文様を4単位施文する。胴部文様は縦線1本の横字文の3本1組の磨消文を8単位施文する。	
10-0041 119	縄文土器 鉢	現土内 1/2割	口(28.0)	黒・紫 (全体に黄緑)・黄緑・白紋・ 黒紋・砂紋・小石	口縁部には横行の区画の先端に磨消きをつけた文様を4単位施文する。胴部文様は縦線1本の横字文の3本1組の磨消文を8単位施文する。	
10-0042 119	縄文土器 鉢	現土内 1/2割	口(26.0) 底(3.0)	黒・紫・黄緑	口縁部には横行の区画の先端に磨消きをつけた文様を4単位施文する。胴部には2本1組の波線が8単位の施文される。	
10-0043 119	縄文土器 鉢	現土内 破片	口(35.6)	黒・紫・黄・白紋・黒紋・3～5mm 小磯	口縁部は磨消した磨消きを4単位施文し、縦線の波線である。	
10-0044 119	縄文土器 鉢	現土内 破片	厚1.4	黒・紫・黄緑・白紋・白紋・砂紋	キャリパー形縁部の口縁部の破片で、2本1組の縁部を施文している。地文は条線を曲線的に縦方向に施文する。	
10-0045 119	縄文土器 鉢	現土内 破片	厚0.7	黒・紫・黄緑・白紋・黒紋	胴部の破片。地文は条線を曲線的に縦方向に施文する。	
10-0046 119	縄文土器 鉢	現土内 破片	厚1.2	黒・紫・黒褐色・白紋・白紋	胴部の無文部分の破片である。	
10-0047 119	縄文土器 鉢	現土内 破片	厚1.4	黒・紫・黒褐色・白紋・黒紋	縁部状の条線を地文とする。	
20-0008 120	石器 石錐	現土内 底	長3.35 幅1.9 厚0.3 重1.7	黒色頁岩	無尖平根三角錐状。	
20-0009 120	石器 石錐	現土内 底	長8.4 幅4.9 厚2.2 重73.4	黒色頁岩	素材となる割片の鋭い縁部部分をそのまま使用したもので、刃こぼれ状の痕跡が認められる。	
20-0040 120	石器 石錐	現土内 底	長5.7 幅4.8 厚1.9 重74.7	黒色頁岩	素材となる割片の鋭い縁部部分をそのまま使用したもので、刃こぼれ状の痕跡が認められる。	
20-0041 120	石器 打製石 片	現土内 底	長13.4 幅5.1 厚1.25 重139.7	粗粒輝石安山岩	縁部の磨消を欠損するもので、断面は最大幅を持つ。刃部は直方である。	
20-0042 120	石器 磨石	現土内 底	長5.8 幅4.4 厚4.8 重180.0	粗粒輝石安山岩	縁部に近いもので全体を磨面として使用している。	
20-0043 120	石器 石錐	現土内 底	長15.5 幅11.7 厚9.8 重1,819	粗粒輝石安山岩	縁付きのもので、裏面には磨痕が認められる。縦打痕が認められる。	
20-0044 120	石器 磨石	伊内 底	長28.95 幅19.45 厚14.60 重1,300	かこう岩	表面部を磨面として使用している。	

## 第38号住居跡出土遺物(1)

遺物番号 出土番号	遺物種別 形状	出土層位 遺存 層	量 目 (cm) 目 (g)	構成・色調・粘土 (石素材は産地別)	形状・技法等の特徴	備 考
10-0048 121	縄文土器 鉢	現土内 破片	厚1.2	黒・紫・黄緑・白紋・黒紋	波状口縁で横・縦文部を波線を追って作り出す。胴部には透し字文を施文する。	
10-0049 121	縄文土器 鉢	現土内 破片	厚1.1	黒・紫・黄緑・白紋・黒紋	波状口縁で磨消文、透し字文の磨消文を波線で施文する。	
10-0050 121	縄文土器 鉢	現土内 破片	厚0.7	黒・紫・黄緑・白紋・赤紋・黒紋	胴部下平の破片で、間を磨り削り2本1組の波線を垂下させる。	
10-0051 121	縄文土器 鉢	現土内 破片	厚0.8	黒・紫・黄緑・黒紋・黒紋	胴部の破片で、地文は無磨消の縄文を施文する。	
10-0052 120	縄文土器 鉢	現土内 破片	口(26.6)	黒・紫・黄緑・白紋・小磯 (径2mm)・黒紋	波状口縁で4単位と垂下する。口縁部の文様は横行区画と波線下で磨消文を入れ字状に4単位施文する。	

## 第38号住居跡出土遺物①

遺物番号 図説番号	遺物種類 器名	出土層位 保存度	数量 目 (g)	構成・色調・粘土 (石素材は産地別)	形状・技法等の特徴	調査
10-00053 121	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.1	黒・赤・浅黄褐色・白粒・黒粒・黒底	胴部に2本1組の穴跡を出土させる。比喩図は磨り消さない。地文は華草文の縄文を施す。	
10-00054 121	縄文土器 浅鉢	覆土内 破片	厚1.2	黒・赤・浅黄褐色・白粒・黒底	胴上部で屈曲するもので、上部は縁部を区画し内側に縄文を施す。下部は地文を施す。	
10-00055 120	縄文土器 深鉢	覆土内 1/4残	厚1.0	黒・赤・浅黄褐色・白粒・黒底	胴部と胴上平の1部残存。地文は1と1の縄を合わせさらにそれを磨り合わせた磨り合せ磨り文を施す。	
10-00056 121	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.5	黒・赤・浅黄褐色・赤粒・黒底・白粒	地文のみ施す。地文は赤線を縦方向に施す。	
10-00057 121	縄文土器 浅鉢	覆土内 破片	厚1.1	黒・赤・浅黄褐色・白粒・黒底	口縁は外側に黒文となる。胴部とは縁部で区画する。縁部の区画は磨り消される。	
10-00058 121	縄文土器 浅鉢	覆土内 破片	厚1.4	黒・赤・浅黄褐色・赤粒・黒底・白粒	胴部下平の破片。7+9を一単位とする赤線文を縦位に施す。黒文の一単位幅は広い。	
10-00059 121	縄文土器 浅鉢	覆土内 破片	厚1.1	黒・赤・浅黄褐色・白粒・黒底	胴部下平の破片。7+9を一単位とする赤線文を縦位に施す。	
10-00060 121	石函	覆土内 完整	長4.5 幅6.7 厚1.05 重29.5	黒色頁岩	割内の鋭い縁辺に使用によるものと考えられる。刃こぼれ状の破跡が認められる。	
10-00066 120	石函	覆土内 打製石片	長13.55 幅5.1 厚2.2 重139.2	灰色安山岩	右側縁の1部欠損。全体的に箱型なつくり。	
10-00067 120	石函	覆土内 完整	長18.0 幅10.5 厚2.25 重201.2	細粒輝石安山岩	刀部は最大幅を持つもので、表面に原厚面を残す。	
10-00068 120	石函	覆土内 打製石片	長5.9 幅3.8 厚1.6 重66.4	黒色頁岩	刀部のみが残存。	
10-00049 120	石函	覆土内 1/4残	長20.7 幅16.7 厚9.3 重321.2	粗粒輝石安山岩	縁付きの破片で、中央付近は使用のための磨り消が著かっている。表面は深い凹みを複数作り出す。	
10-00050 120	石函	覆土内 完整	長5.9 幅9.1 厚3.2 重256.1	粗粒輝石安山岩	表面面は側面に磨面をもつ。	
10-00051 121	石函	覆土内 1/2残	長25.5 幅15.7 厚11.1 重458.7	粗粒輝石安山岩	表面の平らな部分に凹部が複数認められる。表面は平らに磨られ、凹部を複数作り出す。	
10-00052 121	石函	覆土内 完整	長26.15 幅23.30 厚14.20 重618	粗粒輝石安山岩	表面には複数の凹部に磨り消が認められる。表面にはまばらに凹部が認められる。	
10-00053 121	石函	覆土内 完整	長33.1 幅27.8 厚16.2 重516.00	粗粒輝石安山岩	表面面に凹部に磨り消が認められる。	
10-00054 121	石函	覆土内 完整	長34.0 幅29.05 厚28.20 重833.00	粗粒輝石安山岩	表面の破損されていない部分に、磨り消として使用された部分が残る。	

## 第39号住居跡出土遺物①

遺物番号 図説番号	遺物種類 器名	出土層位 保存度	数量 目 (g)	構成・色調・粘土 (石素材は産地別)	形状・技法等の特徴	調査
10-00361	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.8	黒・赤・浅黄褐色・白粒・黒粒・黒底	平縁の口縁部で、口縁部からやや丸みを帯び、直線的に底部に至る縁部は口縁部とは縁部と縁部によって文様が施される。	
10-00364	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.5	黒・赤・浅黄褐色・白粒・黒粒・黒底	口縁部の破片で、縁部が湾曲して区画文を縁部と区画文を施す。	
10-00365	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.9	黒・赤・浅黄褐色・白粒・黒粒・黒底・赤粒	口縁部の破片で、縁部が湾曲して区画文を縁部と区画文を施す。	
10-00366	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.6	黒・赤・浅黄褐色・白粒・黒粒・黒底・赤粒	口縁部の破片で、縁部が湾曲して区画文を縁部と区画文を施す。胴部には2本1組の比喩を垂下させる。	
10-00367 122	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.2	黒・赤・赤・白粒・黒粒・砂粒・3〜5mm 大小小	口縁部の破片に列点文を施す。	
10-00368 122	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.2	黒・赤・灰褐色・白粒・黒底・砂粒	口縁部は無文で、区画によって区画し、区画内には列点を施す。	
10-00369 122	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.0	黒・赤・灰褐色・白粒・黒粒・黒底	口縁部は無文で、区画によって区画する。	
10-00370	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚2.0	黒・赤・黄褐色・白粒・黒底・2〜3 mm大小	口縁部が直立し、頸部を作り出している。	
10-00371 122	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚9.8	黒・赤・黄褐色・白粒・黒底・小	胴上部に区画文を施す。	
10-00372 122	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.1	黒・赤・浅黄褐色・白粒・黒底	胴上部に区画文を施す。10-00375と同一個体	
10-00373 122	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.2	黒・赤・浅黄褐色・白粒・黒底・黒底・砂粒・小	口縁部から胴部にかけて直線的にいたる彫部で、縁部によって胴部に文様を施す。	
10-00374	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.2	黒・赤・赤・白粒・黒粒・砂粒・3 〜5mm大小	ごく浅いなり状の比喩で文様を施す。	
10-00375	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚9.7	黒・赤・黄褐色・白粒・黒底・黒底	小部のもので、胴部が丸みを帯びる。	
10-00376	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.2	黒・赤・浅黄褐色・白粒・黒底・黒底・砂粒	胴部の破片で、ごく浅いなり状の2本1組の比喩文を垂下させる。	
10-00378 122	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.2	黒・赤・黄褐色・白粒・黒底・黒底	胴部の破片で、ごく浅いなり状の2本1組の比喩文を垂下させる。	
10-00379 123	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.5	黒・赤・黄褐色・白粒・黒底・黒底・砂粒	胴部の破片で、2本1組と3本1組の縄を磨り削り比喩を施す。	
10-00380 122	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	口(40.0)	黒・赤・黄褐色・白粒・黒底・黒底	口縁部は縁部のみなり状の比喩で、両側部を磨り削りに巻き文様を入れ子状に施す。	

富田下大日遺跡 諸元

第39号住居跡出土遺物(1)

遺物番号 図説番号	遺物種類 器種	出土部位 遺存層	度量 目 (cm) 量目 (g)	焼成・色調・胎土 (石室材は度目計)	形状・技法等の特徴	備 考
10-00381 121	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	口18.0	黒・赤・黄褐色・白灰・黒灰・砂粒	口縁部に4箇所小突起を持つ。口縁部内縁は小突起下に溝を配し、その間に斜内形の区画を施す。	
10-00382 122	縄文土器 深鉢	覆土内 2/3残	厚1.4	黒・白灰・赤褐色・黒灰	口縁と底部は欠損する。胴部には2本1組の沈線文を並下させる。地味は半周位の区画を施す。	
10-00383 121	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	口16.6	黒・赤・黄褐色	胴状口縁で1線に揃って沈線文を施す。底部部分で溝をきき文を施す。胴上部には波状沈線文を施す。	
10-00384 122	縄文土器 深鉢	覆土内 底部破片	厚9.8 底4.9	黒・赤・黄褐色・白灰・黒灰・砂粒	胴下部からの破片。胴部には3本1組の沈線文を並下させる。	
10-00385 122	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	底6.6	黒・赤・黄・白灰・黒灰・砂粒	底部と胴下部の破片。地味は半周位の区画を施す。	
10-00386 122	縄文土器 高直筒	覆土内 破片	厚1.2	黒・赤・黄褐色・白灰・黒灰・黒灰	口縁が大きく凹出し、段をつけ胴部にいる。胴部には帯状の垂線文を施すに施す。	
20-00055 122	石器 磨石	覆土内 完整	縦7.5 幅1.1 厚2.1 重106.0	褐色頁岩	上下両方向から調整を行っている。表面に厚磨面を残す。	
20-00056 122	石器 打製石片	覆土内 完整	長11.3 幅4.15 厚1.4 重43.3	褐色頁岩	表面に大きく厚磨面を残す一方で、使用に磨面が認められる。	
20-00057 122	石器 磨石	覆土内 完整	縦6.75 幅4.05 厚2.05 重90.6	輝緑石	板状のもので、表面を磨面として使用している。	
20-00058 122	石器 凹石	覆土内 部分欠損	長11.35 幅6.35 厚4.7 重45.0	粗粒輝石安山岩	裏面に2箇所凹部を持つ。両面に粗打痕があり、裏面は磨面として使用される。	
20-00059 122	石器 凹石	覆土内 完整	縦6.5 幅3.6 厚14.3 重24,000	粗粒輝石安山岩	表面に凹部を持つ。大量のもので右台として使用されていたとも考えられる。	
20-00060 122	石器 石盤	覆土内 破片	長30.9 幅1.85 厚9.9 重1,315.2	緑色片岩	磨熟のため細かく砕けている。裏面は割れしている。棒状であるが、加工の痕跡は不明。	

第40号住居跡出土遺物

遺物番号 図説番号	遺物種類 器種	出土部位 遺存層	度量 目 (cm) 量目 (g)	焼成・色調・胎土 (石室材は度目計)	形状・技法等の特徴	備 考
10-00267 123	土器 手づかひ	覆土内 完整	口3.8 厚3.2	黒・赤・黄・赤・黄・白灰・黒砂粒	丸底。磨面は厚い。磨面が全面に認められる。	
10-00288 121	土器 環	覆土内 破片	口12.0 高さ9.0・底 (7.3)	黒・赤・黄・赤・白灰	丸みを帯びて立ち上がり、口縁部は直立する。口縁部は横溝で。	
10-00289 123	土器 小型壺	覆土内 破片	口14.8 高さ3.2	黒・赤・黒灰・黄・白灰	口縁部片。外反する。磨面は厚い。先鋭する。横溝で磨面。	
10-00290 121	土器 壺	石塊 破片	口22.0 高さ4.6	黒・赤・灰・黄・白灰	口縁部片。磨面はやや厚い。横溝で磨面。	
10-00291 121	土器 壺	覆土内 破片	高さ2.2 底(7.6)	中・粗・黄褐色・白灰・黒灰・細砂粒	磨面は黄褐色で磨く。胴部は薄い。表面外面は未磨面。粘土層の整合が不明。	
10-00292 121	土器 足高台	覆土内 破片	高さ6.2 底(9.7)	中・赤・黄褐色・白灰・白灰・細砂粒	高台。「ハ」の字に開く。	
10-00293 121	土器 壺	覆土内 破片	口16.8 高さ3.4	中・赤・黄褐色・黄・白灰	直線的に開く。磨面は厚い。磨面は右側面が磨面。	
40-00042 123	鉄器 鏃	覆土内 部分欠損	長66.2 幅3.9 重40.2 重12		有基平三角形復状。左側尖を欠損。裏面基部から基部を欠損している。	
40-00043 123	鉄器 鏃	40号住居土 内破片	長13.8 幅2.9 厚1.5 重8.0		側面尖が上端部の破片。直線部分が通常に長いことから、引射口の幅より遥かに大きい個体である。	
40-00044 123	鉄器 鏃	40号住居土 内破片	長4.6 幅4.6 厚2.7 重39		最も小さい鉄鏃大きさに見える。全体に硬力は少ない(硬力弱)。	

第41号住居跡出土遺物(1)

遺物番号 図説番号	遺物種類 器種	出土部位 遺存層	度量 目 (cm) 量目 (g)	焼成・色調・胎土 (石室材は度目計)	形状・技法等の特徴	備 考
10-00294 123	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.2	黒・赤・黄褐色・白灰・黒灰・黒灰	平縁の口縁部の破片。波状沈線区画文を施す。	
10-00295 123	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚16.16	黒・赤・黄褐色・白灰・黒灰・黒灰	平縁の口縁部の破片。波状沈線区画文を施す。	
10-00296 123	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.4	黒・赤・黄褐色・白灰・黒灰・黒灰	平縁の口縁部の破片。波状沈線区画文を施す。	
10-00297 123	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚11.96	黒・赤・黄褐色・白灰・黒灰	平縁の口縁部の破片。波状沈線区画文を施す。	
10-00298 123	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚11.24	黒・赤・黄褐色・白灰・黒灰・黒灰	平縁の口縁部の破片。波状沈線区画文を施す。	
10-00299 123	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.4	黒・赤・黄褐色・白灰・黒灰	波状口縁部の破片。胴部には沈線によって並下字文を施す。	
10-00300 123	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.2	黒・赤・黄褐色・白灰・黒灰・砂粒	波状口縁部の破片。口縁部は沈線を通して区画し、胴部には沈線によって文様を施す。	
10-00401 123	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.3	黒・赤・黄褐色・白灰・黒灰・黒灰	波状口縁部の破片。胴部と沈線によって文様を施す。	
10-00402 123	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.7	黒・赤・黄褐色・白灰・黒灰・2~3mm大小	胴部と沈線によって区画文が施され、区画内は垂線文を施す。	
10-00403 123	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚18.85	黒・赤・黄褐色・白灰・黒灰・黒灰・砂粒・2~3mm大小	胴部の破片で、口縁部は磨面と沈線によって斜内区画文が施される。	
10-00404 123	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚16.92	黒・赤・黄褐色・白灰・黒灰・黒灰・赤灰・2~3mm大小	波状口縁部の破片。胴部は磨面と沈線によって並下字文を施す。	
10-00405 123	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚16.49	黒・赤・黄褐色・白灰・黒灰・黒灰	胴部の破片で、口縁部は磨面と沈線によって文様が施され、胴部は磨面が広い2本1組の沈線文を施す。	
10-00406 123	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚15.58	黒・赤・黄褐色・白灰・黒灰・砂粒・2~3mm大小	2本1組の沈線文を磨り消す沈線を下下させる。地味は垂線文を施す。	

## 第41号住居跡出土遺物(2)

遺物番号 図説番号	遺物類 名称	出土層位 遺存層	量目 (cm) 目 (g)	構成・色調・胎土 (石室材は量目欄)	形状・技法等の特徴	備考
10-00107 123	縄文土器 土師 厚板	層土内	厚14.50	黒・赤・黒炭・白粒・黒粒・黒灰3 ～2mm大小	2本1組の器を割り浅く窪みを窪下させる。地文は糸織を 施文する。	
10-00108 124	縄文土器 土師 厚板	層土内 一部欠損	137.5 底9.0	黒・赤・黒炭・白粒・黒粒・黒炭・ 砂粒・1～2mm大小	底部から側面にかけて内縁。口縁部に1単位の紋状文を 施文。胴部には縦字文や横字文を施文する。地文は糸織 を施文。	
10-00109 125	縄文土器 土師 厚板	層土内	121(11.5)	黒・赤・明黄褐色・砂粒・白粒・黒 粒	4単位の横状口縁で割下半は欠損する。口縁部には縦帯が 施文する。3日月状の区画文を4単位施文する。	
10-00110 124	縄文土器 土師 厚板	層土内 2/3残	厚9.9	黒・赤・黒	割く口縁部から側面までくびれ。中央丸みをもって底部に いたる。胴部には縦字文や横字文を施文する。地文は糸織 部は糸織。胴部は原厚1.1の縄文を施文する。	
20-00061	石器 打製石器	表土 ほぼ正方形	長4.3 幅3.5 厚0.6 重7.8	黒色頁岩	つまみ部を作り出すもので、刃部の先端を欠損する。	
20-00062 124	打製石器 形部	表土	長6.95 幅5.4 厚2.75 重11.2	黒色頁岩	刃部を欠損する。表面に原磨面が大きく残る。	
20-00063 124	打製石器	層土内 1/2残	長7.4 幅3.8 厚1.75 重5.5	黒色頁岩	基部のみが残存するもので、表面に原磨面が残る。	
20-00064 124	打製石器	表土 一部欠損	長12.6 幅4.8 厚1.7 重16.3	黒色頁岩	刃部は丸角で、左側縁部は浅く内磨する。刃部に磨面が 認められる。	
20-00065 124	打製石器	層土内 2/3残	長7.7 幅4.45 厚1.6 重5.6	黒色頁岩	刃部に最大幅を持つもので、側縁部は直線的に開く。	
20-00066 124	打製石器	表土	長7.9 幅3.15 厚1.7 重4.8	粗粒輝石安山岩	表面に原磨面を残すもので、刃部は欠損する。	
20-00067 124	打製石器	表土 2/3残	長9.0 幅3.35 厚1.8 重5.7	黒色頁岩	刃部に最大幅を持つもので、刃部先端、左側縁部を欠損す る。	
20-00068 124	打製石器	表土 2/3残	長7.35 幅4.8 厚1.4 重12.5	灰色安山岩	刃部に最大幅を持つもので、側縁部は直線的に開く。磨面 の割差あり。	
20-00069 124	打製石器	層土内 1/2残	長9.0 幅3.2 厚1.5 重27.4	実交武岩	定角式のもので、丁寧に磨面がなされている。磨面の割差 は著しい。	
20-00070 124	打製石器	表土	長7.5 幅7.9	粗粒輝石安山岩	表面部に複数の凹部を持つ。側縁と表面には縦打痕が認め られる。左側縁部を磨面としても使用されている。	
20-00071 124	打製石器	表土 2/3残	長4.55 幅7.35 厚3.8 重31.4	粗粒輝石安山岩	表面部を磨面として使用している。	
20-00072 124	打製石器	表土	長10.75 幅6.8 厚1.1 重42.6	実交武岩	表面部と側部を磨面として使用している。	
20-00073 124	打製石器	層土内 2/3残	長16.0 幅12.1 厚6.55 重1,008.9	粗粒輝石安山岩	表面部と側部を磨面として使用している。側縁の一部に 斜打痕が認められる。	
20-00074 124	打製石器	層土内 一部欠損	長21.60 幅18.85 厚12.65 重3,346	粗粒輝石安山岩	表面部、側面に多量の凹部を持つ。	
20-00075 124	打製石器	層土内 2/3残	長15.4 幅19.45 厚9.7 重3,227.7	粗粒輝石安山岩	縁部や凹部が多くみられる。	

## 第42号住居跡出土遺物

遺物番号 図説番号	遺物類 名称	出土層位 遺存層	量目 (cm) 目 (g)	構成・色調・胎土 (石室材は量目欄)	形状・技法等の特徴	備考
10-00111 125	須恵器 埴	焼地部 完形	131.5 高5.6 底6.5	中・赤・黄褐色・赤・赤粒・白微	丸みを帯びて立ち上がる。立ち上がりから口縁部まで厚さ は均質。側縁部は直線的に開く。付高。高台は外反する。重 量感がある。	

## 第44号住居跡出土遺物

遺物番号 図説番号	遺物類 名称	出土層位 遺存層	量目 (cm) 目 (g)	構成・色調・胎土 (石室材は量目欄)	形状・技法等の特徴	備考
10-00112 125	土師器 厚板	層土内 1/4残	13(12.6) 高4.1	黒・赤・明赤褐色・赤粒・黒炭・白微	丸みを帯びて立ち上がり、口縁部は浅く外反する。磨面は 滑い。体部外面に磨面。	器書-22
10-00113 125	須恵器 埴	層土内 1/3残	13(14.7) 高4.7 底5.5	中・赤・黄褐色・赤・白微・細砂粒	体部下部に磨面を持つ。口縁部は外反する。磨面は滑い。側 縁部は直線的に開く。付高。	

## 第43号住居跡出土遺物

遺物番号 図説番号	遺物類 名称	出土層位 遺存層	量目 (cm) 目 (g)	構成・色調・胎土 (石室材は量目欄)	形状・技法等の特徴	備考
10-00114 125	土師器 土師 厚板	層土内 1/2残	131.7 高16.0	黒・赤・黄褐色・焼地部部分磨面・赤・ 赤粒・黒炭・黒炭	胴部は1本残存し側部は直立。磨面は浅く外反する。胴部は丸 くで磨面。接合部にはカキヤリが認められ外面に磨面が付着。 調査後フラック状に割れている。全体に若干力質を呼ぶ(磁 力?)	
10-00115 125	土師器 土師 厚板	43号住 層土内	高13.0 幅13.9 厚9.2 重2,001			

## 第45号住居跡出土遺物(1)

遺物番号 図説番号	遺物類 名称	出土層位 遺存層	量目 (cm) 目 (g)	構成・色調・胎土 (石室材は量目欄)	形状・技法等の特徴	備考
10-00116 125	土師器 土師 厚板	層土内 1/4残	13(12.6) 高4.1	黒・赤・明赤褐色・赤粒・黒炭・白微	丸みを帯びて立ち上がり、口縁部は浅く外反する。磨面は 滑い。体部外面に磨面。	器書-22
10-00117 125	土師器 土師 厚板	層土内 1/4残	13(14.7) 高4.7 底5.5	中・赤・黄褐色・赤・白微・細砂粒	体部下部に磨面を持つ。口縁部は外反する。磨面は滑い。側 縁部は直線的に開く。付高。	
10-00118 125	土師器 土師 厚板	層土内 1/4残	13(14.1) 高5.2	黒・赤・明赤褐色・赤粒・黒炭・白微	丸みを帯びて立ち上がり、口縁部は浅く外反する。磨面は 滑い。体部外面に磨面。	器書-22
10-00119 125	土師器 土師 厚板	層土内 1/4残	13(14.1) 高5.2	黒・赤・明赤褐色・赤粒・黒炭・白微	丸みを帯びて立ち上がり、口縁部は浅く外反する。磨面は 滑い。体部外面に磨面。	器書-22
10-00120 125	土師器 土師 厚板	層土内 1/4残	13(14.1) 高5.2	黒・赤・明赤褐色・赤粒・黒炭・白微	丸みを帯びて立ち上がり、口縁部は浅く外反する。磨面は 滑い。体部外面に磨面。	器書-22

第45号住居跡出土遺物(2)

遺物番号 図録番号	遺物種 類	出土層位 層	厚さ 目(mm)	直径 目(mm)	焼成・色調・胎土 (石炭灰は灰目値)	形状・技法等の特徴	備 考
10-00421 125	土師器 心形埴輪	Ⅲ5内 底5.8	115.0	幅17.2	焼・赤・純黄砂・赤・黒灰・透灰・ 粗粒砂・粗粒砂	割部の丸みは鋭く、口縁部は外反する。器厚は厚くはばり厚。口縁部は横溝で、表面外面に横溝を施す。	
10-00422 125	土師器 壺	Ⅲ5内 2/3残	114.2	高15.3	焼・赤・純黄砂・赤・黒灰・透灰・ 砂粒・粗粒砂	割部の丸みは鋭く、口縁部は外反する。器厚は厚く、口縁部は横溝で、	
10-00423 125	土師器 壺	Ⅲ5内 2/3残	117.0	高21.4 底7.4 胴径16.6	焼・赤・純黄砂・赤・黒灰・透灰・ 白粒	割部は中や丸みを帯び、口縁部は外反する。器厚は厚く、口縁部は横溝で、表面外面は横溝を施す。	
10-00424 125	土師器 壺	Ⅲ5内 4/5残	118.9	高15.7 胴径22.0 底5.0	焼・赤・粗粒黄・赤・黒砂・白粒	割部中に最大径を持ち、口縁部は外反する。器厚は厚く、口縁部は横溝で、表面外面に粘土が付着。	
10-00425 125	土師器 壺	Ⅲ4内	116.5	高7.6	焼・赤・透灰・赤・黒灰・透灰・白粒・ 粗粒砂	口縁部は外反する。器厚は厚く、口縁部上平は溝い。	
10-00426 126	土師器 壺	Ⅲ5内 4/5残	高29. 胴径21.7 底7.0		焼・赤・黄褐色・赤・砂粒・白粒	割部中に最大径を持つ。底部の器厚は厚く、割部上平は溝い。表面外面に横溝が認められる。	
10-00427 126	土師器 壺	Ⅲ5内 ほぼ完成	122.4 胴径29.8 底7.4	高33.5	焼・赤・砂・赤・赤砂・岩片・砂粒	割部は球形、口縁部は外反し、下位に厚を持つ。器厚は厚くはばり厚。口縁部は横溝で、表面外面は丁字状彫り。内面は厚減し、さくく、割部中に横溝を施す。	
10-00428 127	土師器 壺	Ⅲ5内 4/5残	119.1 胴径19.7	高29.8	焼・赤・純砂・赤・黒灰・粗粒砂	割部に最大径を持つ。口縁部は外反し横溝で、器厚は厚く、割部は内外面に黒毛目を施す。器部下平に横溝が認められる。	
10-00429 127	土師器 壺	ほぼ完成	124.2 胴径29.0	高28.8	焼・赤・粗・砂・黒灰	割部の丸みは鋭く口縁部は外反し横溝で、器厚は厚く均厚で、内外面に丁字状彫りを施す。外面に黒毛が認められる。	
10-00430 125	須恵器 壺	Ⅲ5内 1/2残	115.1	高5.9	滑・赤・灰・硬	丸みを帯び、天井部と口縁部の間に横溝を持つ。口縁部に横溝を持ち、天井部の器厚は非常に厚い。横溝は凹状彫り、天井部は凹状彫り。	
10-0076 125	石器 石錐	Ⅲ5内 完形	長14.75 幅6.8 厚4.8 重812		ひら岩	器底風化のため、割落している。	
10-0077 125	石器 石錐	Ⅲ5内 完形	長14.79 幅7.30 厚4.75 重705		ひら岩	表面裏と右側面に平削面が認められる。	

第46号住居跡出土遺物

遺物番号 図録番号	遺物種 類	出土層位 層	厚さ 目(mm)	直径 目(mm)	焼成・色調・胎土 (石炭灰は灰目値)	形状・技法等の特徴	備 考
10-00431 127	土師器 心形埴輪	Ⅲ5内 底	110.4	高4.0	焼・赤・粗・硬	口縁部はやや平削して立ち上がる。器厚は薄く、内面に横溝を持つ。器底は横溝で、	
10-00432 127	土師器 坪	Ⅲ5内 破片	112.0	高4.9	焼・赤・純黄砂・赤・黒灰・透灰・ 砂粒	器底は丸みを帯び、口縁部は外反する。器底は横溝で、口縁部は横溝で、	
10-00433 127	土師器 壺	Ⅲ5内 破片	118.0	高15.2	焼・赤・純黄・赤・黒灰	口縁部は大きく外反する。口縁部は横溝で、	
10-00434 127	土師器 壺	Ⅲ5内 破片	高1.1 胴径(10.0)		焼・赤・粗・赤・硬	器底は外反して開く。外部の器厚は厚い。胎土は粉っぽく、	
10-00435 127	土師器 壺	Ⅲ5内 破片	112.9	高3.6	焼・赤・明赤砂・赤・黒灰・透灰・ 粗粒砂	外反し、口縁部外面は横溝をもつ。外面は縦方向の細かい横溝を施す。	
10-00436 127	土師器 壺	Ⅲ5内 破片	高7.8 胴径3.2		焼・赤・純黄砂・赤・黒灰・透灰・ 粗粒砂	器厚は均質。孔は大きい。底部外部には横溝あり、内面は横溝で、	

第47号住居跡出土遺物(1)

遺物番号 図録番号	遺物種 類	出土層位 層	厚さ 目(mm)	直径 目(mm)	焼成・色調・胎土 (石炭灰は灰目値)	形状・技法等の特徴	備 考
10-00437 127	土師器 土師鉢	Ⅲ5内	120.0	底5.0	焼・赤・明赤砂・白粒・黒灰・白粒	口縁部に4単位位の横溝を施す。文様部は横溝を施す。割部は2本1組の割り筋を施す。口縁部は2本1組の割り筋を施す。	
10-00438 127	土師器 土師鉢	Ⅲ5内 破片	厚12.52		焼・赤・純黄砂・白粒・黒灰・黒灰・ 1→2mm小穴	割部口縁部の破片で、浅溝によって割部区画を施す。	
10-00439 127	土師器 土師鉢	Ⅲ5内 破片	厚16.49		焼・赤・純黄砂・白粒・黒灰・黒灰・ 1→2mm小穴	口縁部の破片で、浅溝と浅溝によって文様を施す。	
10-00440 127	土師器 土師鉢	Ⅲ5内 破片	厚16.62		焼・赤・純黄砂・白粒・白粒・黒灰・ 2→3mm小穴	口縁部の破片で、浅溝と浅溝によって文様を施す。	
10-00441 127	土師器 土師鉢	Ⅲ5内 破片	厚9.10		焼・赤・黄砂・白粒・黒灰・砂粒	割部のくびれ部分の破片で、浅溝によって文様が施される。	
10-00442 127	土師器 土師鉢	Ⅲ5内 破片	厚8.03		焼・赤・明黄砂・白粒・黒灰・黒灰・ 砂粒	底面に横溝の条線を施している。	
10-00443 127	土師器 土師鉢	Ⅲ5内 破片	厚13.34		焼・赤・純黄砂・白粒・黒灰・黒灰・ 2mm小穴	割部によって浅溝が施される。	
10-00444 127	土師器 土師鉢	Ⅲ5内 破片	厚14.66		焼・赤・透灰・白粒・黒灰・黒灰	割部の破片で、3本1組の割り筋を施す。	
10-00445 127	土師器 土師鉢	Ⅲ5内 破片	厚14.25		焼・赤・純黄砂・白粒・黒灰・透灰・ 砂粒	割部の破片で、2本1組の割り筋を施す。	
10-00078 128	打製石器 磨盤	Ⅲ5内 完形	径13.6 幅10.6 厚1.0 重29.8		黒色頁岩	割部の鋭い縁をそのまま利用していたものと考えられる。	
10-00079 128	石器 磨盤	Ⅲ5内 完形	径5.9 幅6.8 厚1.35 重59.0		黒色頁岩	割部の鋭い縁をそのまま利用していたものと考えられる。また、外縁部は白粒土とも利用していたと考えられる。	
10-00080 128	石器 打製石片	Ⅲ5内 1/2残	長4.35 幅4.05 厚1.3 重30.2		浅黄頁岩	縦溝した刃部を有しており、くさびなどに転用していたと考えられる。	
10-00081 128	石器 打製石片	Ⅲ5内 4/5残	長11.8 幅4.65 厚3.7 重80.7		黒色頁岩	刃部に最大径を持つもので、表面は割削が美しい。	
10-00082 128	石器 打製石片	Ⅲ5内 1/2残	長6.65 幅4.6 厚2.25 重74.5		黒色頁岩	基部の破片である。	
10-00083 128	石器 磨石	Ⅲ5内 完形	長5.3 幅1.7 厚2.4 重94.0		粗粒砂岩山岩	内厚なもの、表面裏と右側面を磨削として使用している。	
10-00084 128	石器 磨石	Ⅲ5内 完形	長6.05 幅0.45 厚3.35 重143.0		粗粒砂岩山岩	内厚なもの、表面裏を磨削として使用している。	
10-00085 128	石器 磨石	Ⅲ5内 完形	長13.6 幅8.0 厚3.9 重689.2		粗粒砂岩山岩	板状のものを、表面裏を磨削として使用。両面中央部には最打痕が認められる。	



## 第47号住居跡出土遺物(2)

遺物番号 図録番号	遺物種 類	出土層位 と存在 状況	度量 目(cm) (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は裏目録)	形状・技法等の特徴	備 考
10-0006 128	石器 磨石	覆土内 埋込	長21.65 幅14.75 厚11.3 重4,282	粗粒輝石安山岩	内厚なもので、表面面に1層厚さ7mm程度の凹みがある。また表面は磨面としても使用している。	
10-0007	石器 磨石	覆土内 埋込	長16.6 幅15.25 厚9.3 重2,380.7	石高尾岩	表面に2層厚の凹みがある。裏面は磨面としても使用されている。	

## 第48号住居跡出土遺物

遺物番号 図録番号	遺物種 類	出土層位 と存在 状況	度量 目(cm) (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は裏目録)	形状・技法等の特徴	備 考
10-0044 128	織文土器 漆鉢	4/5残	口11.6	焼・並・橙・黒粒・黒灰・黒鉄	口縁部は黄銅瓦文(目土の彫)を施す。胴部は0段条糸を施す。	
10-0047 128	織文土器 漆鉢	破片	厚1.2	焼・並・鈍黄・黄銅瓦文・白粒・黒鉄	尖頭上の底面の破片で、地文は0段条糸の織文を施している。	
10-0048 129	織文土器 漆鉢	破片	厚0.9	焼・並・橙・白粒・黒粒・黒灰・透鉄	胴部の破片で、地文は0段条糸の織文を施している。	
10-0049 128	織文土器 漆鉢	破片	厚1.5	焼・並・橙・白粒・黒粒・黒鉄・透鉄	尖頭上の底面の破片で、地文は0段条糸の織文を施している。	
10-0049 128	織文土器 漆鉢	破片	厚1.1	焼・並・鈍黄・白粒・黒鉄・透鉄	胴部の破片で、地文は0段条糸の織文を施している。	
10-0049 128	織文土器 漆鉢	破片	厚1.3	焼・並・橙・白粒・黒粒	胴部の破片で、地文は0段条糸の織文を施している。	
10-0049 128	織文土器 漆鉢	破片	厚0.9	焼・並・鈍黄・白粒・黒鉄・1mm小粒	胴部の破片で、地文は0段条糸の織文を施している。	
10-0049 128	織文土器 漆鉢	破片	厚1.0	焼・並・鈍黄・白粒・黒鉄・黒灰・透鉄	胴部の破片で、地文は0段条糸の織文を施している。	
10-0049 128	織文土器 漆鉢	破片	厚1.0	焼・並・鈍黄・白粒・黒鉄	胴部の破片で、地文は0段条糸の織文を施している。	
10-0049 128	織文土器 漆鉢	破片	厚1.2	焼・並・鈍黄・白粒・白粒・黒鉄	胴部の破片で、地文は0段条糸の織文を施している。	
10-0049 128	織文土器 漆鉢	破片	厚1.0	焼・並・鈍黄・白粒・黒鉄・黒灰・1mm小粒	胴部の破片で、地文は0段条糸の織文を施している。	
10-0058 128	石器 磨石	覆土内 埋込	長4.1 幅2.4 厚0.75 重0.3	黒色頁岩	無定形平面的内式	
10-0059 129	石器 磨石	覆土内 埋込	長2.0 幅2.7 厚0.5 重2.3	片頁頁岩	裏面に大きく1次割製面を残すもので、加工は最小限である。	
10-0060 128	石器 磨石	覆土内 埋込	長6.4 幅3.1 厚0.75 重13.9	黒色頁岩	側面の鋭い縁部をそのまま利用して使用したものである。	
10-0061 129	石器 磨石	覆土内 埋込	長2.6 幅4.8 厚0.65 重1.4	片頁頁岩	裏面に大きく1次割製面を残すもので、加工は最小限である。	
10-0062 128	石器 磨石	覆土内 埋込	長5.4 幅5.4 厚1.7 重5.8	黒色頁岩	裏面に大きく1次割製面を残すもので、加工は最小限である。	
10-0063 128	石器 磨石	覆土内 埋込	長5.5 幅3.85 厚1.5 重5.4	黒色頁岩	側面の鋭い縁部をそのまま利用して使用したものである。	
10-0064 128	石器 磨石	覆土内 埋込	長7.2 幅4.7 厚3.5 重116.4	黒色頁岩	裏面は原磨面を大きく残すもので、ごく少量を利用する、いわゆる磨石である。	
10-0065 128	石器 磨石	覆土内 埋込	長8.9 幅6.35 厚2.2 重39.8	黒色頁岩	裏面に大きく1次割製面を残すもので、ごく少量を利用する、いわゆる磨石である。	
10-0066 128	石器 磨石	覆土内 埋込	長11.9 幅6.5 厚1.9 重179.4	黒色頁岩	裏面は原磨面を加工しないで、そのまま残すもので、いわゆる磨石である。	
10-0067 128	石器 磨石	覆土内 埋込	長10.8 幅7.6 厚4.05 重331.1	黒色頁岩	両面に原磨面を残すもので、磨を加工するいわゆる磨石である。	
10-0068 129	石器 磨石	覆土内 埋込	長10.5 幅5.35 厚4.1 重310.4	片頁頁岩	裏裏面と側面、下端面を磨面として使用している。	
10-0069 128	石器 磨石	覆土内 埋込	長12.3 幅8.35 厚5.9 重303.8	粗粒輝石安山岩	裏裏面と側面を使用しているもので、表面には磨痕が認められる。	
10-0070 129	石器 磨石	覆土内 埋込	長8.25 幅10.55 厚5.8 重464.9	粗粒輝石安山岩	内厚なもので、裏裏面と側面が使用されている。側面は面取りされたもので、ごく一部が残存する。裏面に1層厚の凹みがある。	
10-0071 129	石器 磨石	覆土内 埋込	長9.65 幅10.05 厚9.15 重714.7	粗粒輝石安山岩	面取りされたもので、ごく一部が残存する。裏面に1層厚の凹みがある。	

## 第49号住居跡出土遺物(1)

遺物番号 図録番号	遺物種 類	出土層位 と存在 状況	度量 目(cm) (g)	焼成・色調・胎土 (石素材は裏目録)	形状・技法等の特徴	備 考
10-0048 129	煎茶器 杯	覆土内 埋込	口12.3 高3.8 重6.4	中・並・灰黄・並・白粒・黒鉄	丸みを帯びて立ち上がり口縁部は外反し器厚は厚い。輪縁は凹輪成形形、底部は凹輪赤切り。外面に磨面/内、焼成時の黒点を確認。	番書-23
10-0049 129	煎茶器 杯	覆土内 埋込	口11.8 高4.1 重(6.1)	中・並・鈍黄・並・赤粒・粗砂鉄	直線的に立ち上がり口縁部は厚めに外反。器厚は非常に厚い。輪縁は凹輪成形形、口縁部は凹輪赤切り。内外面に磨面/内、口縁部は凹輪赤切り。輪縁は凹輪成形形、底部は凹輪赤切り。外面に磨面/内、焼成時の黒点が認められる。	番書-24・25
10-0049 129	煎茶器 杯	覆土内 埋込	口11.9 高3.5 重6.6	中・並・灰白・並・白粒	側面に丸みを帯びて立ち上がり口縁部は外反し器厚は厚く均質。輪縁は凹輪成形形、底部は凹輪赤切り。外面に磨面/内、口縁部は凹輪赤切り。輪縁は凹輪成形形、底部は凹輪赤切り。外面に磨面/内、焼成時の黒点を確認。	番書-26
10-0049 129	煎茶器 杯	覆土内 埋込	口12.6 高4.4 重6.8	中・並・灰黄・並・白粒・粗砂鉄	側面に丸みを帯びて立ち上がり口縁部は外反し器厚は厚く均質。輪縁は凹輪成形形、底部は凹輪赤切り。外面に磨面/内、口縁部は凹輪赤切り。輪縁は凹輪成形形、底部は凹輪赤切り。外面に磨面/内、焼成時の黒点を確認。	番書-27
10-0049 129	煎茶器 杯	覆土内 埋込	口11.6 高3.3 重4.1	中・並・鈍黄・並・赤粒・粗砂鉄	直線的に立ち上がり、口縁部は僅かに外反する。器厚は厚い。輪縁は凹輪成形形、底部は凹輪赤切り。	
10-0049 129	煎茶器 杯	覆土内 埋込	口11.8 高3.5 重6.3	中・並・鈍黄・並・赤粒・白粒・粗砂鉄	直線的に立ち上がり、口縁部は僅かに外反する。器厚は厚い。輪縁は凹輪成形形、底部は凹輪赤切り。	
10-0049 129	煎茶器 杯	覆土内 埋込	口13.7 高5.5 重7.4	中・並・鈍黄・並・赤粒・粗砂鉄	直線的に立ち上がり、口縁部は外反する。器厚は厚い。輪縁は凹輪成形形、口縁部は凹輪赤切り。	

第49号住居跡出土遺物(2)

遺物番号 図録番号	遺物名 種別	出土層位 存在層	高さ 目 (cm) 目 (g)	構成・色調・粘土 (石素材は度目録)	形状・技法等の特徴	備考
10-0046 129	煎茶器 壺	覆土内 底(7.1)	11(17.5) 底(7.1) 高4.5	中・赤・黄褐色・赤・白微	直線的に立ち上がり、口縁部は外反する。底部の厚厚は薄い。轆轤石臼成形。付台高。外面に磨光。	備考-28
10-0046 129	煎茶器 壺	覆土内 ほぼ完成	11(17.5) 高4.6 底(7.7)	中・赤・黄褐色・赤・赤微・白微	直線的に立ち上がり、口縁部は内反する。底部の厚厚は薄い。轆轤石臼成形。付台高。重い。	
10-0046 129	煎茶器 壺	覆土内 底部完成	高3.1 底6.7	中・赤・黄褐色・赤・赤微	直線的に立ち上がる。底部の厚厚は薄い。轆轤石臼成形。付台高。断面中心は赤色を帯びる。	
10-0046 129	煎茶器 壺	覆土内 底(5.6)	高3.7 底(5.6)	黄・赤・灰白・赤・白微・細砂粒	丸みを帯びて立ち上がる。厚厚はほぼ均質。轆轤石臼成形。付台高。断面は赤色を帯びる。	
10-0046 129	煎茶器 壺	覆土内 破片	高2.5 底(6.9)	黄・赤・黄褐色・赤・シ・細砂粒	底面が、厚厚は薄い。内面に赤色地帯・黄褐色を帯びる。轆轤石臼成形。付台高。	
10-0047 129	土師器 羽釜	覆土内 破片	口(20.4) 高10.8	中・赤・黄褐色・赤・白微・細砂粒	内側する。厚厚は厚く均質。付台、外面は段状の段取り状。腹面の厚厚を帯びる。内面は粘土粒の層が厚い。	
10-0047 129	土師器 羽釜	覆土内 破片	口(13.8) 高3.3	黄・赤・灰白・赤・赤微・赤微・白微	腹面に丸みを帯びる。厚厚は薄い。轆轤石臼成形。底は厚い。	
10-0047 129	土師器 羽釜	覆土内 破片	口(17.8) 高4.0	黄・赤・灰白・赤・赤微・白微	腹面に丸みを帯びる。厚厚は薄い。轆轤石臼成形。下半は凹面状。底は厚い。	

第50号住居跡出土遺物

遺物番号 図録番号	遺物名 種別	出土層位 存在層	高さ 目 (cm) 目 (g)	構成・色調・粘土 (石素材は度目録)	形状・技法等の特徴	備考
10-0047 129	煎茶器 壺	覆土内 底(5.4)	口(19.2) 高3.9	黄・赤・黄褐色・赤・細砂粒	丸みを帯びて立ち上がり、口縁部は厚厚が薄く外反する。轆轤石臼成形。断面は凹面状。	
10-0047 129	煎茶器 壺	覆土内 破片	高3.3	中・赤・黄褐色・赤・赤微・白微・細砂粒	口縁部外反する。轆轤石臼成形。外面に磨光。	備考-29
10-0047 129	煎茶器 壺	覆土内 破片	高1.9 底(6.8)	中・赤・黄褐色・赤・白微	底面が、厚厚は薄い。轆轤石臼成形。付台高。	
10-0047 129	煎茶器 壺	覆土内 破片	口(12.6) 高2.4	黄・赤・黄褐色・赤・白微・細砂粒	口縁部外反する。厚厚は厚く均質。断面は凹面状。腹は厚い。	
10-0047 129	土師器 羽釜	覆土内 破片	口(12.6) 高2.4	黄・赤・灰白・赤・赤微・赤微・白微	丸みを帯びて立ち上がる。厚厚は薄い。轆轤石臼成形。底は厚い。	
10-0047 129	土師器 羽釜	覆土内 破片	高1.3 底(6.7)	黄・赤・灰白・赤・赤微・赤微・白微	断面が、厚厚は厚く均質。断面は凹面状。付台高。内外面に磨光あり。厚厚が薄い。轆轤石臼成形。	
10-0047 129	土師器 羽釜	覆土内 1/4残	高3.6 底(6.8)	黄・赤・灰白・赤・赤微・赤微・白微	丸みを帯びて立ち上がる。厚厚は薄い。轆轤石臼成形。付台高。外面は凹面状。	
70-0010 129	石製品 磁石	覆土内 1/2残	長5.6 幅2.7	緑灰岩	よく使用して、割れ口付近は磨滅している。	
40-0004 129	鉄釘	不明 埋蔵文庫	長さ5.5 幅0.5 厚0.5 重9		頭部を欠損する。全体に錆が附着。尖端部は丸みを帯びる様な状態。	

第51号住居跡出土遺物(1)

遺物番号 図録番号	遺物名 種別	出土層位 存在層	高さ 目 (cm) 目 (g)	構成・色調・粘土 (石素材は度目録)	形状・技法等の特徴	備考
10-0048 130	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚2.1	黄・赤・黄褐色・白微・黒灰・1~3mm大小	口縁部の破片。口縁部は隆起によって文様を施す。	
10-0048 130	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.5	黄・赤・黄褐色・白微・黒灰・黄微	口縁部の破片。口縁部は隆起によって文様を施す。	
10-0048 130	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.9	黄・赤・黄褐色・白微・黒灰・黒灰・1~3mm大小	波状口縁部の破片で、断面が三角形状となる隆起帯によって、文様を施されている。	
10-0048 130	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.0	黄・赤・黄褐色・白微・黒灰・黒灰・透藍・2mm大小	波状口縁部の破片で、断面が三角形状となる隆起帯によって、文様を施されている。	
10-0048 130	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.1	黄・赤・黄褐色・白微・黒灰・2~3mm大小	波状口縁部の破片で、断面が三角形状となる隆起帯によって、文様を施されている。	
10-0048 130	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚0.9	黄・赤・黄褐色・白微・黒灰・1~3mm大小	口縁部の破片で、口縁部に文様を施す。その下には磨削状文様によって、波状文様を施している。	
10-0048 130	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.2	黄・赤・黄褐色・白微・黒灰・黒灰・透藍	口縁部の破片。口縁部に文様帯はなく、胴部に波状によって、磨削文様を施す。	
10-0048 130	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚0.9	黄・赤・黄褐色・白微・黒灰・黒灰	口縁部の破片で、口縁部に文様帯はなく、胴部に波状によって、磨削文様を施す。	
10-0048 130	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.3	黄・赤・黄褐色・白微・黒灰・黒灰	口縁部の破片で、口縁部に文様帯を施す。胴部には逆U字文を施す。	
10-0048 130	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚0.9	黄・赤・黄褐色・白微・黒灰・黒灰	口縁部の破片で、口縁部に文様帯を施す。胴部には逆U字文を施す。	
10-0048 130	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.1	黄・赤・黄褐色・白微・黒灰・透藍	口縁部の破片で、口縁部に波状帯を施す。胴部には逆U字文を施す。	
10-0048 130	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚0.9	黄・赤・黄褐色・白微・黒灰・黒灰・透藍	文様を波状によって施す。	
10-0048 130	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚3.5	黄・赤・黄褐色・白微・黒灰・黒灰	口縁部の波状部分の突起である。	
10-0048 130	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.9	黄・赤・黄褐色・白微・黒灰・赤微・1~3mm大小	波状口縁部の破片で、断面が三角形状となる隆起帯によって、文様を施す。	
10-0048 130	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.8	黄・赤・黄褐色・白微・黒灰・黒灰・透藍・1~2mm大小	波状口縁部の破片で、断面が三角形状となる隆起帯によって、文様を施す。	
10-0048 130	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.4	黄・赤・黄褐色・白微・黒灰・黒灰・透藍	波状口縁部の破片で、断面が三角形状となる隆起帯によって、文様を施す。	
10-0048 130	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚0.9	黄・赤・黄褐色・白微・黒灰・黒灰・透藍	胴部の破片で、2本1組の間を繋ぎ出す文様を施す。	
10-0048 130	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.3	黄・赤・黄褐色・白微・黒灰・透藍・2mm大小	文様を波状によって施す。	
10-0048 130	縄文土器 深鉢	覆土内 破片	厚1.2	黄・赤・黄褐色・白微・黒灰・透藍・1~2mm大小	胴部に波状の間を繋ぎ出す文様を施す。	

## 第51号住居跡出土遺物(2)

遺物番号 図面番号	遺物種類 類別	出土層位 層位	発見 層位 (m)	重量 (g)	構成・色調・粘土 (石素材は定計済)	形状・技法等の特徴	備考
10-00499 130	織文土甌	覆土内 破片	厚1.1		灰・黒・浅黄緑・白粒・黒粒・黒底・透灰・1~2mm大小小	文様を比較によって復元する。	
10-00500	織文土甌	覆土内 破片	厚1.1		灰・黒・黄緑・白粒・黒粒・黒底・透灰・1~2mm大小小	傷跡等によって文様を復元する。	
10-00501 130	織文土甌	覆土内 破片	厚1.1		灰・黒・浅黄緑・白粒・黒粒・黒底・透灰・1~2mm大小小	割部(のびれ部分)の破片で、比較によって文様を復元する。	
10-00502 130	織文土甌	覆土内 破片	厚1.0		灰・黒・明赤褐色・黒粒・黒底・透灰・1~3mm大小	口縁部内部分の正面に冠状把手を施し、他は破状で小さい。化粧区画内に1片を施す。	
10-00503 130	織文土甌	覆土内 破片	厚1.9	口13.0	灰・黒・明赤褐色・砂粒・黒底・白粒・黒・黒底・白粒・黒粒・黒底・透灰・1~3mm大小小	1片の破片で口縁部に縁に幅広の破片で帯状の区画を4単位施す。他は2片9枚の縁の1片の破片を施している。	
10-00504 130	織文土甌	覆土内 破片	厚1.7		灰・黒・黄緑・白粒・黒粒・黒底・透灰・1~3mm大小小	割部の破片で、3本1組の間に割り溝を施し文様を並べている。	
10-00505 130	織文土甌	覆土内 破片	厚1.3		灰・黒・黄緑・白粒・黒粒・黒底・透灰・1~3mm大小小	文様を比較によって復元する。	
10-00506	織文土甌	覆土内 破片	厚0.9		灰・黒・浅黄緑・白粒・黒粒・黒底	状況不明の破片で、断面が三角形となる傷跡等によって、文様が復元されている。	
10-00507	織文土甌	覆土内 破片	厚1.6		灰・黒・黄緑・白粒・透灰	状況不明の破片で、断面が三角形となる傷跡等によって、文様が復元されている。	
10-00508 130	織文土甌	覆土内 破片	厚0.9		灰・黒・浅黄緑・白粒・黒粒・黒底	傷跡等によって文様を復元する。	
10-00509	織文土甌	覆土内 破片	厚1.1		灰・黒・黄・白粒・黒粒・黒底・透灰・2~3mm大小小	割部の破片で、断面が三角形となる傷跡等を施している。	
10-00510	織文土甌	覆土内 破片	厚1.3		灰・黒・黄緑・白粒・黒粒・黒底	門扉用点文を施している。	
10-00511	織文土甌	覆土内 破片	厚1.1		灰・黒・黄・白粒・黒粒・黒底	意部の破片で、断面がL字の織文を施している。	
10-00512	織文土甌	覆土内 破片	厚2.0		灰・黒・黄緑・白粒・黒粒・黒底・透灰・1~2mm大小小	台部分の破片である。	
10-00513 130	織文土甌	覆土内 破片	厚1.9	口13.0	灰・黒・黄緑・白粒・黒粒・黒底	縁文の1線部を割製した後書によって区画。割部の文様の立軸と口縁部との距離の差の部分は状況に粘土を施す。	
10-00514 130	織文土甌	覆土内 破片	厚0.9		灰・黒・黄緑・白粒・黒粒	縁文の口縁部を割製して区画する。地文は赤線である。	
10-00515	織文土甌	覆土内 破片	厚0.9		灰・黒・浅黄緑・白粒・黒粒・透灰	口縁部の破片で、地文は傷跡状の赤線を施す。	
10-00516	織文土甌	覆土内 破片	厚2.9		灰・黒・黄緑・白粒・黒粒・黒底・透灰・1~2mm大小小	把手の破片である。	
10-00517 130	織文土甌	覆土内 破片	厚1.5		灰・黒・黄緑・白粒・黒粒・黒底・透灰	意部に近い破片で、51-33と同一体と考えられる。	
10-00103 131	石甌	覆土内 完形	長4.35 厚1.0	重13.7	黒色安山岩	先端部に近いが、石甌とした。無蓋平塚三角形式	
10-00104 131	打製石甌	覆土内 完形	長5.0 厚1.7	重38.6	浅黄頁岩	製作途中と考えられるもので、表面の一部に粗磨面を残す。	
10-00105	石甌	覆土内 完形	長6.60 厚1.50	重27.9	粗粒輝石安山岩	基部の小残存するもので、調整は悪い。中央付近に磨面が残る。	
10-00106	石甌	覆土内 完形	長4.5 厚0.9	重15.85	黒色頁岩	素材となる割材の形状を利用したもので、表面にも粗磨面を残さない。	
10-00107 131	石甌	覆土内 完形	長3.5 厚1.25	重17.4	黒色頁岩	わずかにたつきみ部分を作り出している。両面ともに粗磨面を残さない。	
10-00108 131	石甌	覆土内 完形	長3.9 厚1.05	重11.4	黒色頁岩	両面ともに粗磨面を残さない。刃部は丁寧に作り出されている。	
10-00109 131	石甌	覆土内 完形	長10.05 厚1.45	重40.00	黒色頁岩	側縁部が平行するもので、基部と刃部の一部を破損する。刃部には磨面が認められる。	
10-00110 131	石甌	覆土内 完形	長9.0 厚2.0	重44.6	黒色頁岩	刃部に最大幅を持つもので、刃部と基部を破損する。	
10-00111	石甌	覆土内 完形	長9.0 厚2.5	重51.0	黒色頁岩	刃部に最大幅を持つものと考えられ、表面には粗磨面が残る。	
10-00112 131	石甌	覆土内 完形	長6.7 厚1.5	重23.4	輝石	破状のもので、側縁は丁寧に作り出されている。	
10-00113 131	石甌	覆土内 完形	長6.40 厚1.70	重33.75	実質安山岩	破状のもので、表面部と左側面を磨面として使用している。	
10-00114	石甌	覆土内 完形	長6.80 厚1.9	重41.30	実質安山岩	側面が三角形状となるもので、表面部を磨面して使用している。	
10-00115	石甌	覆土内 完形	長10.9 厚2.9	重102.5	粗粒輝石安山岩	表面部と同側面、上下端面を磨面として使用している。	
10-00116 131	石甌	覆土内 完形	長10.45 厚3.35	重46.40	砂岩	表面部と左側面を磨面として使用している。	
10-00117 131	石甌	覆土内 完形	長11.60 厚4.15	重77.30	実質安山岩	破状が三角形状となるもので、表面部と下側面を磨面して使用している。	
10-00118 131	石甌	覆土内 完形	長15.45 厚6.85	重133.30	粗粒輝石	破状のもので、側面が三角形状となるものである。表面部を磨面として使用している。	
10-00119 131	石甌	覆土内 完形	長13.8 厚3.35	重63.96	実質玄武岩	破状のもので表面部と右側面に主に磨面が認められる。磨石としても使用されている。	
10-00120 131	石甌	覆土内 完形	長13.0 厚3.65	重64.75	粗粒輝石安山岩	破状のもので表面部と右側面に主に磨面が認められる。磨石としても使用されている。	
10-00121 131	石甌	覆土内 完形	長11.45 厚3.65	重61.35	粗粒輝石安山岩	破状のもので、表面部と右側面に主に磨面が認められる。磨石としても使用されている。	
10-00122 131	石甌	覆土内 完形	長13.0 厚3.65	重64.75	粗粒輝石安山岩	破状のもので、表面部と右側面に主に磨面が認められる。磨石としても使用されている。	
10-00123	石甌	覆土内 完形	長13.0 厚3.7	重68.35	粗粒輝石安山岩	不定形のもので、側面は取り除かれている。	

富田下大日遺跡 諸元

第51号住居跡出土遺物(3)

遺物番号 図録番号	遺物種別 形態	出土層位 遺存層	量目 目 (cm) 重 (g)	構成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	調査
20-09124	石製 磨石	層土内 完形	縦1.6 幅1.75 厚3.2 重181.4	粗粒輝石火山岩	不定形のもので、両面を磨面として使用している。両面には縦方向の溝が認められる。	
20-09125	石製 磨石	層土内 完形	縦15.25 幅10.30 厚3.4 重751.8	粗粒輝石火山岩	板状で不定形のもので、表面と両側面を磨面として使用している。	
20-09126	石製 石皿	層土内 完形	縦17.70 幅19.85 厚5.90 重3729.1	粗粒輝石火山岩	緑なしのもので、磨打痕が認められる。	
20-09127	石製 石皿	層土内 1/2破	縦11.60 幅10.85 厚7.2 重65.8	粗粒輝石火山岩	緑なしの石皿の一部と考えられる。	
20-09128	石製 石鉢	層土内 破片	縦7.75 幅5.65 厚2.55 重370.1	緑色片岩	20-09130と同一個体と考えられる。	
20-09129	石製 石鉢	層土内 破片	縦8.3 幅12.2 厚7.7 重797.0	デイスライト	大型の石鉢の一部と考えられる。	
20-09130	石製 石鉢	層土内 破片	縦11.0 幅7.25 厚2.55 重466.8	緑色片岩	細かく磨砕されたものと考えられる。	

第52号住居跡出土遺物

遺物番号 図録番号	遺物種別 形態	出土層位 遺存層	量目 目 (cm) 重 (g)	構成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	調査
10-09518 131	縄文土器 土師	層土内 破片	厚1.0	灰・赤・黄・白粒・黒粒・黒炭	口縁部に内側の隅点を施入している。	
10-09519 131	縄文土器 土師	層土内 破片	厚1.3	灰・赤・黄・白粒・黒粒・黒炭・ 透炭・赤粒	口縁部の破片で、沈線文を並らしている。	
10-09520 131	縄文土器 土師	層土内 破片	厚1.2	灰・赤・黄・白粒・黒粒・黒炭・ 透炭	隆帯によって施される。	
10-09521 131	縄文土器 土師	層土内 破片	厚1.2	灰・赤・黄・白粒・黒粒・黒炭	胴上部の破片で、隆帯を施入する。	
10-09522 131	縄文土器 土師	層土内 破片	厚1.5	灰・赤・黄・白粒・黒粒・黒炭・ 透炭・赤粒・3～4mm大小礫	腹部から胴下部の破片で、胴部に内線を磨り滑り沈線文を施入する。	
10-09523 131	縄文土器 土師	層土内 1/2破	厚1.2	灰・赤・黄・白粒・黒粒・黒炭	文様は胴部に逆子字状に沈線を施入する。腹部は粗く地文は条線状で、施入されていない部分も多い。	
10-09524 131	縄文土器 土師	層土内 破片	厚1.0	灰・赤・黄・白粒・黒粒・黒炭・ 透炭	胴部に沈線文を施入する。	
10-09525 131	縄文土器 土師	層土内 破片	厚1.1	灰・赤・黄・白粒・黒粒・黒炭	胴部のくびれ部の破片で、内側に厚帯状の縄文を施入する。	
10-09526 131	縄文土器 土師	層土内 破片	厚1.1	灰・赤・黄・白粒・黒粒・黒炭・ 透炭	地文は条線である。	
10-09527 131	縄文土器 土師	層土内 破片	厚1.2	灰・赤・黄・白粒・黒粒・黒炭	地文は条線である。	
10-09528 131	縄文土器 土師	層土内 破片	厚1.2	灰・赤・黄・白粒・黒粒・黒炭	地文は条線である。	

1号竪立出土遺物

遺物番号 図録番号	遺物種別 形態	出土層位 遺存層	量目 目 (cm) 重 (g)	構成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	調査
10-09529 132	須恵系 土師	層土内 破片	高さ2.2	黒・赤・灰・赤・白粒・透炭	天井部は丸形の内縁を磨り滑り施す。磨打痕が認められる。	

第1号古墳出土遺物(1)

遺物番号 図録番号	遺物種別 形態	出土層位 遺存層	量目 目 (cm) 重 (g)	構成・色調・胎土 (石素材は度目値)	形状・技法等の特徴	調査
10-09530 132	手取 破片	埴岡内 破片	□(11.3)	赤・黄・赤・黄・黒・黒色炭物粒子 (角粒状)・β石炭	下部には隆帯で成形。口縁部は横帯で成形。内面は無で成形。この境の境は滑い。	赤毛皮
10-09531 132	土師 破片	層土内 破片	□(13.7) 高さ3.8	灰・赤・黄・赤・砂粒	口縁部は外反する。器厚は均質。口縁部は横帯で、表面には隆帯が認められる。	赤毛皮
10-09532 132	土師 破片	埴岡内 破片	□(13.3)	赤・黄・赤・黄・黒・黒色炭物粒子 (角粒状)・β石炭	製作時、器内面及び口縁部は横帯でも成形するが、内面には隆帯でも成形が留められる。口縁部直下に外縁を有す。内面は黒色に染まる。	赤毛皮
10-09533 132	土師 破片	埴岡内 破片	□(12.0)	赤・黄・赤・黒・黒色炭物粒子白色 炭物粒子・炭物炭粒	製作時、器内面は横帯で成形。外縁は隆帯で成形。口縁部直下に外縁を有す。	赤毛皮
10-09534 132	土師 破片	埴岡内 破片	縦(12.0)	赤・黄・赤・黒・透明炭物粒子・黒色炭 物粒子・炭物炭粒	製作時、器内面は横帯で成形。外縁は隆帯で成形。口縁部直下に外縁を有す。	赤毛皮
10-09534 132	土師 破片	34-D-19 破片	□(11.0) 高さ2.2	灰・赤・黄・赤・角閃石	製作時、器内面は横帯で成形。外縁は隆帯で成形。口縁部直下に外縁を有す。	赤毛皮
10-09535 132	土師 破片	埴岡内 破片	□(12.0) 高さ2.7	灰・赤・黄・赤・砂粒	製作時、器内面は横帯で成形。外縁は隆帯で成形。口縁部直下に外縁を有す。	赤毛皮
10-09536 132	土師 破片	埴岡内 破片	□(13.0) 高さ1.8	灰・赤・黄・赤・砂粒	口縁部は短く、僅かに内傾する。器厚はやや厚い。口縁部は横帯で成形。	赤毛皮
10-09537 132	土師 破片	埴岡内 破片	□(18.0) 高さ5.2	灰・赤・黄・赤・白粒・細砂粒	ゆるく外反する。器厚は均質。口縁部は横帯で、表面は磨り滑り施す。	破片
10-09538 132	土師 破片	埴岡内 破片	高さ12.8 幅14.3	灰・赤・黄・赤・白粒・細砂粒	杯部・胴部上、胴部は「ハ」の字に同じ杯部外縁に横帯を有す。器厚は均質。器底は滑らか。杯部内面に横帯状の列線が認められる。	破片
10-09539 132	須恵系 土師	埴岡内39-D-19 1/3	□(14.0) 高さ1.7	黒・赤・灰・黒・黒炭・細砂粒	口縁部は外反する。器厚は器底で厚く、口縁部で薄く。磨打痕が認められる。天井部は凹線状で成形。	
10-09540 132	須恵系 土師	埴岡内・黄 土層 破片	縦11.1 高さ(11.0)	黒・赤・灰・赤・白粒	胴部上。「ハ」の字に大きく開く。口縁部は直立し尖る。器厚は均質。磨打痕が認められる。	
10-09541 132	須恵系 土師	埴岡内 破片	高さ2.2 幅(12.2)	黒・赤・黄・赤・砂粒	胴部上。「ハ」の字に開く。口縁部は直立し尖る。器厚は均質。磨打痕が認められる。器底は凹線状で成形。器底の器厚が認められる。	
10-09542 132	須恵系 土師	埴岡内 破片	高さ9.6	黒・赤・灰・赤・砂粒	外縁は丸く杯部外縁は「ハ」の字に開く。器厚はやや厚い。器底の器厚は均質。磨打痕が認められる。杯部外縁に同じ目線を有す。	